

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第696集

やまぐちこまごめ
山口駒込 I 遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査

2019

国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所
(公財)岩手県文化振興事業団

山口駒込 I 遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査

序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、三陸沿岸道路建設に関連して平成27・28年度に発掘調査を行った山口駒込I遺跡の調査結果をまとめたものです。

今回の調査によって縄文時代～中世の竪穴建物や土坑などの遺構が検出され、その周辺からは生活に使われた土器などの遺物が見つかりました。これらの結果から、当時、この地に集落があり、そこで暮らしていた人々の様子の一端が明らかになりました。

本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査並びに報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所、宮古市教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成31年3月

公益財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 菅野洋樹

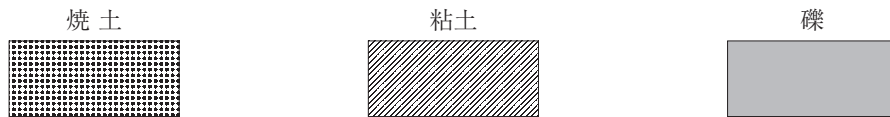
例 言

1. 本報告書は岩手県宮古市山口2丁目217ほかに所在する山口駒込Ⅰ遺跡の発掘調査の結果を収録したものである。
2. 本遺跡の調査は、三陸沿岸道路建設事業に関わる事前の緊急発掘調査である。調査は岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課と国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所との協議を経て、(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが委託を受け、受託事業として実施した。
3. 本遺跡の調査成果は、すでに『平成27・28年度発掘調査報告書』(岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第661集・676集)・『平成28年度発掘調査報告書』(同第676集)において発表しているが、内容については本書が優先する。
4. 岩手県遺跡登録台帳に登録されている遺跡番号と遺跡略号は次の通りである。
遺跡番号 L G 23-2244/遺跡略号 Y K I-15・16
5. 野外調査の面積・期間・担当者は次の通りである。
調査期間 平成27年7月16日～平成27年12月11日
平成28年4月7日～平成28年5月13日
平成28年12月6日～平成28年12月16日
調査面積 平成27年度 3,656㎡
平成28年度 353㎡
担当者
平成27年度 溜 浩二郎・阿部勝則・菊池貴広・濱田 宏・須原 拓・佐藤 剛・立花雄太郎・川村 均・白戸このみ・澤目雄大・佐藤直紀・野中裕貴・河村美佳
平成28年度 溜 浩二郎・立花雄太郎・佐々木昭太・川村 英
6. 室内整理の期間・担当者は次の通りである。
整理期間 平成27年12月1日～平成28年3月31日
平成28年11月1日～平成29年3月31日
平成29年4月1日～平成30年3月31日
担当者 平成27年度 立花雄太郎
平成28年度 溜 浩二郎・川村 英
平成29年度 溜 浩二郎
7. 遺物の鑑定は次の機関に依頼した。
骨の同定：パリノ・サーヴェイ株式会社
放射性炭素年代(AMS測定)：(株)加速器分析研究所
火山灰分析：火山灰考古学研究所
石材鑑定：花崗岩研究会
8. 基準点測量は有限会社スカイ測量設計に委託した。
9. 本報告書の編集については、第Ⅰ章「調査に至る経過」は国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所に原稿を依頼し、執筆していただいたものである。第Ⅱ～Ⅵは溜が編集・執筆したが、「第Ⅳ章 調査内容」の事実記載については各遺構の調査担当者が記録したデータを元に溜・立花が執筆・編集した。
10. 本遺跡の調査で得られた一切の資料、出土遺物・撮影写真・遺構実測図・遺物実測図などは岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

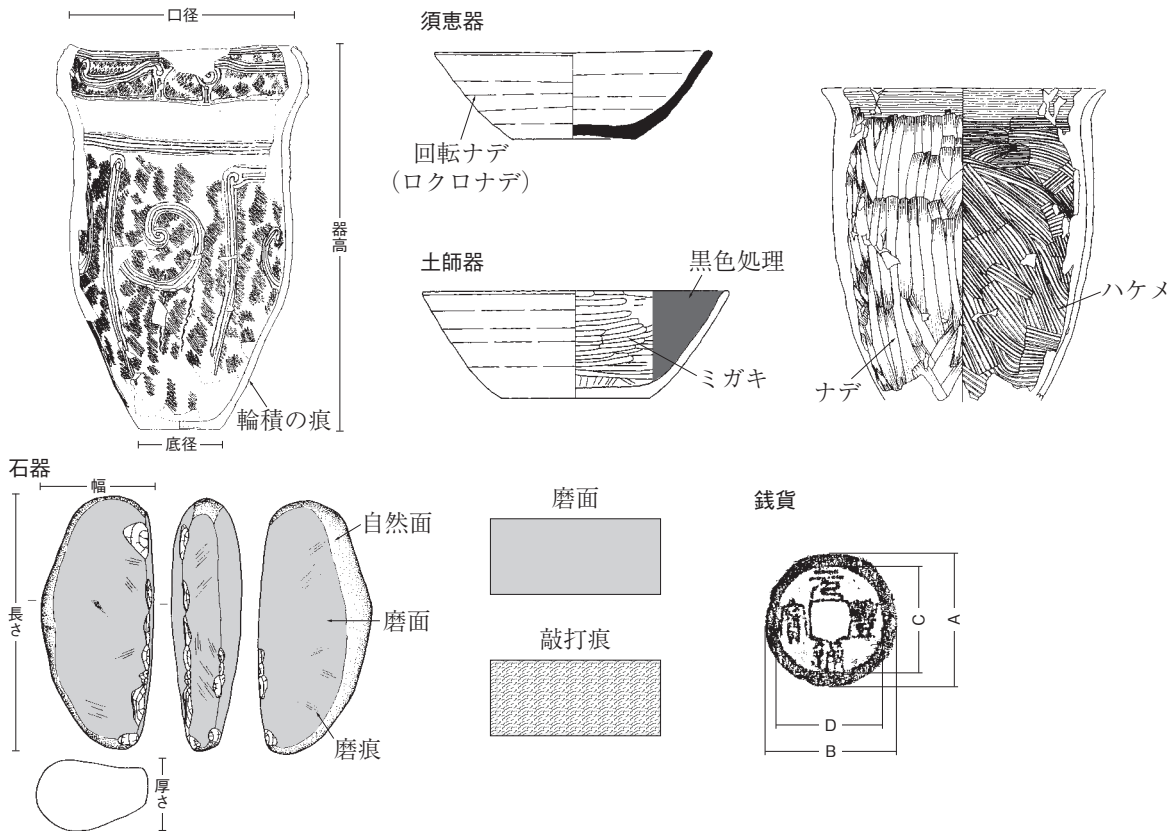
凡 例

- 1 遺構実測図の縮尺は各遺構の規模により異なるため、各図版にスケールおよび縮尺を付した。
- 2 基本土層にはローマ数字、各遺構の堆積層にはアラビア数字を使用した。
- 3 土層の色調観察は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』を使用した。
- 4 遺物の実測図の掲載縮尺は土器1/3・1/4、礫石器1/3~1/5、剥片石器2/3・1/2、鉄製品1/2、陶磁器1/3、銭貨1/1、鉄滓1/4を原則とし、各図版にスケールを付した。
- 5 遺構の網掛処理および遺物の技法・表現は下図のとおりで、遺構内の土器はPと表記した。
- 6 第7~14表の計測値における表記については () が推定値、< > が残存値を表している。
- 6 今回の調査では遺構種別ごとに竪穴建物→S I、土坑→S Kなどの略号を使用した。属性の変更や欠番(不掲載)になったものが多かったため、整理段階で新たな名称をつけた。なお、S I→竪穴建物は従来の「竪穴住居跡・竪穴状遺構」であるが、新版の『発掘調査のてびき』(文化庁文化財部記念物課2010)に従い「竪穴建物」の名称を使用した。

〔遺構〕



〔遺物〕



目 次

I	調査に至る経過	1
II	立地と環境	
1	地理的環境	1
2	歴史的環境	5
	(1) 宮古市の遺跡	5
	(2) 周辺の遺跡	5
III	野外調査と室内整理	
1	野外調査	10
	(1) 野外調査の経緯と経過	10
	(2) グリッドの設定	10
	(3) 基準点の設定	10
	(4) 調査方法と記録	12
2	室内整理の手順と方法	12
	(1) 作業経過	12
	(2) 遺物の整理	12
	(3) 掲載図	12
	(4) 写真の整理	12
IV	出土遺物の分類	
1	土器	13
2	石器	14
V	調査内容	
1	概要	19
2	基本層序	19
3	検出遺構と出土遺物	19
	(1) 竪穴建物	21
	(2) 掘立柱建物跡	44
	(3) 炉跡	44
	(4) 焼土遺構	47
	(5) 焼成遺構	50
	(6) 土坑	50
	(7) 陥し穴状遺構	72
	(8) 土器埋設遺構	76
	(9) 墓壙	76
	(10) 溝跡	77
	(11) 柱穴状土坑	77

(12) 遺構外出土遺物	165
--------------------	-----

VI 調査のまとめ

1 調査の概要	304
2 各時代の遺構と遺物	304
(1) 縄文時代	304
(2) 古 代	309
(3) 中 世	309
(4) 近 世	310
3 総 括	310

附編 自然科学分析

1 骨 同 定	311
2 放射性炭素年代（AMS測定）	314
3 火山灰分析	318

報告書抄録	503
-------------	-----

表 目 次

第1表 周辺遺跡一覧	8	第10表 石製品観察表	299
第2表 遺構一覧	20	第11表 土製品観察表	299
第3表 竪穴建物内柱穴一覧	160	第12表 鉄製品観察表	301
第4表 土坑一覧	162	第13表 銭貨観察表	301
第5表 柱穴状土坑一覧	163	第14表 陶磁器観察表	301
第6表 陥し穴状遺構一覧	164	第15表 縄文土器重量表	302
第7表 縄文土器観察表	273	第16表 古代土器重量表	303
第8表 土師器・須恵器観察表	291	第17表 竪穴建物の新旧関係	304
第9表 石器観察表	292		

図 版 目 次

第1図 遺跡位置図	2	第12図 4号竪穴建物1	82
第2図 地形分類図	3	第13図 4号竪穴建物2	83
第3図 遺跡周辺の地形と調査範囲	4	第14図 5号竪穴建物1	84
第4図 周辺の遺跡分布図	7	第15図 5号竪穴建物2	85
第5図 グリッド配置図	11	第16図 6・7号竪穴建物	86
第6図 遺構配置図	17・18	第17図 8・9号竪穴建物1	87
第7図 基本土層	19	第18図 8・9号竪穴建物2	88
第8図 1号竪穴建物	78	第19図 10・11号竪穴建物1	89
第9図 2号竪穴建物1	79	第20図 10・11号竪穴建物2	90
第10図 2号竪穴建物2、3号竪穴建物1	80	第21図 12号竪穴建物1	91
第11図 3号竪穴建物2	81	第22図 12号竪穴建物2	92

第23図	13・14号竪穴建物	93	第69図	30～33号土坑	139
第24図	15号竪穴建物	94	第70図	34～37号土坑	140
第25図	16号竪穴建物	95	第71図	38・39号土坑	141
第26図	17号竪穴建物 1	96	第72図	40・41号土坑	142
第27図	17号竪穴建物 2、18号竪穴建物	97	第73図	42～44号土坑	143
第28図	19号竪穴建物	98	第74図	45～47号土坑	144
第29図	20号竪穴建物 1	99	第75図	48～50号土坑	145
第30図	20号竪穴建物 2	100	第76図	51～53号土坑	146
第31図	21号竪穴建物	101	第77図	54～57号土坑	147
第32図	22号竪穴建物	102	第78図	58～62号土坑	148
第33図	23号竪穴建物	103	第79図	63～66号土坑	149
第34図	24～26号竪穴建物	104	第80図	1～4号陥し穴状遺構	150
第35図	27号竪穴建物	105	第81図	5～7号陥し穴状遺構	151
第36図	28号竪穴建物 1	106	第82図	8・9号陥し穴状遺構	152
第37図	28号竪穴建物 2	107	第83図	1・2号土器埋設遺構	153
第38図	28号竪穴建物 3	108	第84図	1号墓壙、1号溝跡	154
第39図	29号竪穴建物	109	第85図	柱穴状土坑分布図 1	155
第40図	30号竪穴建物	110	第86図	柱穴状土坑分布図 2	156
第41図	31号竪穴建物 1	111	第87図	柱穴状土坑分布図 3	157
第42図	31号竪穴建物 2	112	第88図	柱穴状土坑分布図 4	158
第43図	32号竪穴建物 1	113	第89図	柱穴状土坑分布図 5	159
第44図	32号竪穴建物 2、33号竪穴建物 1	114	第90図	遺構内出土遺物 1	171
第45図	33号竪穴建物 2	115	第91図	遺構内出土遺物 2	172
第46図	34号竪穴建物 1	116	第92図	遺構内出土遺物 3	173
第47図	34号竪穴建物 2、35号竪穴建物 1	117	第93図	遺構内出土遺物 4	174
第48図	35号竪穴建物 2	118	第94図	遺構内出土遺物 5	175
第49図	36号竪穴建物 1	119	第95図	遺構内出土遺物 6	176
第50図	36号竪穴建物 2	120	第96図	遺構内出土遺物 7	177
第51図	36号竪穴建物 3、37号竪穴建物	121	第97図	遺構内出土遺物 8	178
第52図	38号竪穴建物、39号竪穴建物	122	第98図	遺構内出土遺物 9	179
第53図	40号竪穴建物	123	第99図	遺構内出土遺物10	180
第54図	1号掘立柱建物跡	124	第100図	遺構内出土遺物11	181
第55図	1～3号炉	125	第101図	遺構内出土遺物12	182
第56図	4～6号炉	126	第102図	遺構内出土遺物13	183
第57図	7～10号炉	127	第103図	遺構内出土遺物14	184
第58図	1～4号焼土	128	第104図	遺構内出土遺物15	185
第59図	5～8号焼土	129	第105図	遺構内出土遺物16	186
第60図	9～12号焼土、1号焼成遺構	130	第106図	遺構内出土遺物17	187
第61図	1～4号土坑	131	第107図	遺構内出土遺物18	188
第62図	5～8号土坑	132	第108図	遺構内出土遺物19	189
第63図	9～12号土坑	133	第109図	遺構内出土遺物20	190
第64図	13～16号土坑	134	第110図	遺構内出土遺物21	191
第65図	17～19号土坑	135	第111図	遺構内出土遺物22	192
第66図	20～23号土坑	136	第112図	遺構内出土遺物23	193
第67図	24～26号土坑	137	第113図	遺構内出土遺物24	194
第68図	27～29号土坑	138	第114図	遺構内出土遺物25	195

第115図	遺構内出土遺物26	196	第156図	遺構外出土遺物6 (縄文土器6)	237
第116図	遺構内出土遺物27	197	第157図	遺構外出土遺物7 (縄文土器7)	238
第117図	遺構内出土遺物28	198	第158図	遺構外出土遺物8 (縄文土器8)	239
第118図	遺構内出土遺物29	199	第159図	遺構外出土遺物9 (縄文土器9)	240
第119図	遺構内出土遺物30	200	第160図	遺構外出土遺物10 (縄文土器10)	241
第120図	遺構内出土遺物31	201	第161図	遺構外出土遺物11 (縄文土器11)	242
第121図	遺構内出土遺物32	202	第162図	遺構外出土遺物12 (縄文土器12)	243
第122図	遺構内出土遺物33	203	第163図	遺構外出土遺物13 (縄文土器13)	244
第123図	遺構内出土遺物34	204	第164図	遺構外出土遺物14 (縄文土器14)	245
第124図	遺構内出土遺物35	205	第165図	遺構外出土遺物15 (縄文土器15)	246
第125図	遺構内出土遺物36	206	第166図	遺構外出土遺物16 (縄文土器16)	247
第126図	遺構内出土遺物37	207	第167図	遺構外出土遺物17 (縄文土器17)	248
第127図	遺構内出土遺物38	208	第168図	遺構外出土遺物18 (縄文土器18)	249
第128図	遺構内出土遺物39	209	第169図	遺構外出土遺物19 (縄文土器19)	250
第129図	遺構内出土遺物40	210	第170図	遺構外出土遺物20 (縄文土器20)	251
第130図	遺構内出土遺物41	211	第171図	遺構外出土遺物21 (縄文土器21)	252
第131図	遺構内出土遺物42	212	第172図	遺構外出土遺物22 (縄文土器22)	253
第132図	遺構内出土遺物43	213	第173図	遺構外出土遺物23 (石器1)	254
第133図	遺構内出土遺物44	214	第174図	遺構外出土遺物24 (石器2)	255
第134図	遺構内出土遺物45	215	第175図	遺構外出土遺物25 (石器3)	256
第135図	遺構内出土遺物46	216	第176図	遺構外出土遺物26 (石器4)	257
第136図	遺構内出土遺物47	217	第177図	遺構外出土遺物27 (石器5)	258
第137図	遺構内出土遺物48	218	第178図	遺構外出土遺物28 (石器6)	259
第138図	遺構内出土遺物49	219	第179図	遺構外出土遺物29 (石器7)	260
第139図	遺構内出土遺物50	220	第180図	遺構外出土遺物30 (石器8)	261
第140図	遺構内出土遺物51	221	第181図	遺構外出土遺物31 (石器9)	262
第141図	遺構内出土遺物52	222	第182図	遺構外出土遺物32 (石器10)	263
第142図	遺構内出土遺物53	223	第183図	遺構外出土遺物33 (石器11)	264
第143図	遺構内出土遺物54	224	第184図	遺構外出土遺物34 (石器12)	265
第144図	遺構内出土遺物55	225	第185図	遺構外出土遺物35 (石器13)	266
第145図	遺構内出土遺物56	226	第186図	遺構外出土遺物36 (石器14)	267
第146図	遺構内出土遺物57	227	第187図	遺構外出土遺物37 (石器15)	268
第147図	遺構内出土遺物58	228	第188図	遺構外出土遺物38 (石器16、石製品)	269
第148図	遺構内出土遺物59	229	第189図	遺構外出土遺物39 (土製品1)	270
第149図	遺構内出土遺物60	230	第190図	遺構外出土遺物40 (土製品2、 鉄製品1)	271
第150図	遺構内出土遺物61	231	第191図	遺構外出土遺物41 (鉄製品2、銭貨、 須恵器、陶磁器)	272
第151図	遺構外出土遺物1 (縄文土器1)	232	第192図	時期別の遺構分布図	305
第152図	遺構外出土遺物2 (縄文土器2)	233	第193図	主な縄文土器1 (遺構内)	307
第153図	遺構外出土遺物3 (縄文土器3)	234	第194図	主な縄文土器2 (遺構内)	308
第154図	遺構外出土遺物4 (縄文土器4)	235			
第155図	遺構外出土遺物5 (縄文土器5)	236			

写真図版目次

写真図版1	航空写真	327	写真図版3	調査区2	329
写真図版2	調査前風景、調査区1	328	写真図版4	調査区3、基本土層	330

写真图版 5	1号竖穴建物 1	331	写真图版51	28号竖穴建物 4	377
写真图版 6	1号竖穴建物 2	332	写真图版52	28号竖穴建物 5	378
写真图版 7	2号竖穴建物 1、5号竖穴建物 1	333	写真图版53	29号竖穴建物 1	379
写真图版 8	2号竖穴建物 2	334	写真图版54	29号竖穴建物 2	380
写真图版 9	3号竖穴建物 1	335	写真图版55	30号竖穴建物 1	381
写真图版10	3号竖穴建物 2	336	写真图版56	30号竖穴建物 2	382
写真图版11	4号竖穴建物 1	337	写真图版57	31号竖穴建物 1	383
写真图版12	4号竖穴建物 2	338	写真图版58	31号竖穴建物 2	384
写真图版13	5号竖穴建物 2	339	写真图版59	31号竖穴建物 3	385
写真图版14	5号竖穴建物 3	340	写真图版60	32号竖穴建物 1	386
写真图版15	6号竖穴建物 1	341	写真图版61	32号竖穴建物 2	387
写真图版16	6号竖穴建物 2	342	写真图版62	32号竖穴建物 3	388
写真图版17	7号竖穴建物	343	写真图版63	33号竖穴建物 1	389
写真图版18	8号竖穴建物、9号竖穴建物 1	344	写真图版64	33号竖穴建物 2	390
写真图版19	9号竖穴建物 2	345	写真图版65	34号竖穴建物	391
写真图版20	10号竖穴建物 1、11号竖穴建物 1	346	写真图版66	35号竖穴建物 1、36号竖穴建物 1	392
写真图版21	10号竖穴建物 2	347	写真图版67	35号竖穴建物 2	393
写真图版22	10号竖穴建物 3、11号竖穴建物 2	348	写真图版68	36号竖穴建物 2	394
写真图版23	12号竖穴建物 1	349	写真图版69	36号竖穴建物 3	395
写真图版24	12号竖穴建物 2	350	写真图版70	36号竖穴建物 4	396
写真图版25	13号竖穴建物	351	写真图版71	37号竖穴建物	397
写真图版26	14号竖穴建物	352	写真图版72	38号竖穴建物	398
写真图版27	15号竖穴建物	353	写真图版73	39号竖穴建物	399
写真图版28	16号竖穴建物 1、17号竖穴建物 1	354	写真图版74	40号竖穴建物 1	400
写真图版29	16号竖穴建物 2	355	写真图版75	40号竖穴建物 2	401
写真图版30	16号竖穴建物 3、17号竖穴建物 2	356	写真图版76	1号掘立柱建物跡	402
写真图版31	17号竖穴建物 3	357	写真图版77	1·2号炉	403
写真图版32	18号竖穴建物	358	写真图版78	2~4号炉	404
写真图版33	19号竖穴建物	359	写真图版79	5·6号炉	405
写真图版34	20号竖穴建物	360	写真图版80	6~8号炉	406
写真图版35	21号竖穴建物 1	361	写真图版81	8·9号炉	407
写真图版36	21号竖穴建物 2	362	写真图版82	10号炉	408
写真图版37	22号竖穴建物 1	363	写真图版83	1~4号烧土	409
写真图版38	22号竖穴建物 2	364	写真图版84	5~8号烧土	410
写真图版39	22号竖穴建物 3	365	写真图版85	9~12号烧土	411
写真图版40	23号竖穴建物 1	366	写真图版86	1号烧成遺構、1~3号土坑	412
写真图版41	23号竖穴建物 2	367	写真图版87	4~8号土坑	413
写真图版42	23号竖穴建物 3	368	写真图版88	9·11·12·14号土坑	414
写真图版43	24号竖穴建物	369	写真图版89	10·13·15·16号土坑	415
写真图版44	25号竖穴建物	370	写真图版90	17~20号土坑	416
写真图版45	26号竖穴建物	371	写真图版91	21~24号土坑	417
写真图版46	27号竖穴建物 1	372	写真图版92	25~30号土坑	418
写真图版47	27号竖穴建物 2	373	写真图版93	31~34·36号土坑	419
写真图版48	28号竖穴建物 1	374	写真图版94	35·37~39号土坑	420
写真图版49	28号竖穴建物 2	375	写真图版95	40~43号土坑	421
写真图版50	28号竖穴建物 3	376	写真图版96	44~47号土坑	422

写真図版97	48~51号土坑	423	写真図版138	遺構内出土遺物33	464
写真図版98	52~55号土坑	424	写真図版139	遺構内出土遺物34	465
写真図版99	56~59号土坑	425	写真図版140	遺構内出土遺物35	466
写真図版100	60~63号土坑	426	写真図版141	遺構内出土遺物36	467
写真図版101	64~66号土坑、1号陥し穴状遺構	427	写真図版142	遺構内出土遺物37	468
写真図版102	2~5号陥し穴状遺構	428	写真図版143	遺構内出土遺物38	469
写真図版103	5~9号陥し穴状遺構	429	写真図版144	遺構内出土遺物39	470
写真図版104	1・2号土器埋設遺構	430	写真図版145	遺構内出土遺物40	471
写真図版105	1号墓壙、1号溝跡、調査区東端、 作業風景	431	写真図版146	遺構内出土遺物41	472
写真図版106	遺構内出土遺物1	432	写真図版147	遺構外出土遺物1(縄文土器1)	473
写真図版107	遺構内出土遺物2	433	写真図版148	遺構外出土遺物2(縄文土器2)	474
写真図版108	遺構内出土遺物3	434	写真図版149	遺構外出土遺物3(縄文土器3)	475
写真図版109	遺構内出土遺物4	435	写真図版150	遺構外出土遺物4(縄文土器4)	476
写真図版110	遺構内出土遺物5	436	写真図版151	遺構外出土遺物5(縄文土器5)	477
写真図版111	遺構内出土遺物6	437	写真図版152	遺構外出土遺物6(縄文土器6)	478
写真図版112	遺構内出土遺物7	438	写真図版153	遺構外出土遺物7(縄文土器7)	479
写真図版113	遺構内出土遺物8	439	写真図版154	遺構外出土遺物8(縄文土器8)	480
写真図版114	遺構内出土遺物9	440	写真図版155	遺構外出土遺物9(縄文土器9)	481
写真図版115	遺構内出土遺物10	441	写真図版156	遺構外出土遺物10(縄文土器10)	482
写真図版116	遺構内出土遺物11	442	写真図版157	遺構外出土遺物11(縄文土器11)	483
写真図版117	遺構内出土遺物12	443	写真図版158	遺構外出土遺物12(縄文土器12)	484
写真図版118	遺構内出土遺物13	444	写真図版159	遺構外出土遺物13(縄文土器13)	485
写真図版119	遺構内出土遺物14	445	写真図版160	遺構外出土遺物14(縄文土器14)	486
写真図版120	遺構内出土遺物15	446	写真図版161	遺構外出土遺物15(縄文土器15)	487
写真図版121	遺構内出土遺物16	447	写真図版162	遺構外出土遺物16(縄文土器16)	488
写真図版122	遺構内出土遺物17	448	写真図版163	遺構外出土遺物17(石器1)	489
写真図版123	遺構内出土遺物18	449	写真図版164	遺構外出土遺物18(石器2)	490
写真図版124	遺構内出土遺物19	450	写真図版165	遺構外出土遺物19(石器3)	491
写真図版125	遺構内出土遺物20	451	写真図版166	遺構外出土遺物20(石器4)	492
写真図版126	遺構内出土遺物21	452	写真図版167	遺構外出土遺物21(石器5)	493
写真図版127	遺構内出土遺物22	453	写真図版168	遺構外出土遺物22(石器6)	494
写真図版128	遺構内出土遺物23	454	写真図版169	遺構外出土遺物23(石器7)	495
写真図版129	遺構内出土遺物24	455	写真図版170	遺構外出土遺物24(石器8)	496
写真図版130	遺構内出土遺物25	456	写真図版171	遺構外出土遺物25(石器9)	497
写真図版131	遺構内出土遺物26	457	写真図版172	遺構外出土遺物26(石器10)	498
写真図版132	遺構内出土遺物27	458	写真図版173	遺構外出土遺物27(石器11、 石製品)	499
写真図版133	遺構内出土遺物28	459	写真図版174	遺構外出土遺物28(土製品1)	500
写真図版134	遺構内出土遺物29	460	写真図版175	遺構外出土遺物29(土製品2)	501
写真図版135	遺構内出土遺物30	461	写真図版176	遺構外出土遺物30(土製品3、 鉄製品、銭貨、須恵器、陶磁器)	502
写真図版136	遺構内出土遺物31	462			
写真図版137	遺構内出土遺物32	463			

I 調査に至る経過

山口駒込 I 遺跡は、一般国道45号三陸沿岸道路事業（宮古～田老）の事業区画内に存在することから発掘調査を実施することとなったものである。

三陸沿岸道路は、宮城、岩手、青森の各県の太平洋沿岸を結ぶ延長359kmの自動車専用道路で、東日本大震災からの早期復興に向けたリーディングプロジェクトとして、平成23年度にこれまで事業化されていた区間も含め、全線事業化された復興道路である。

当該遺跡に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、平成26年4月9日付け国東整陸一調第3号により、三陸国道事務所長から岩手県教育委員会生涯学習文化課長あてに試掘調査を依頼し、平成26年4月15日～17日にわたり試掘調査を行い、平成26年5月27日付け教生第368号により、工事に先立って発掘調査が必要と回答がなされたものである。

その結果を踏まえて、岩手県教育委員会と協議を行い、平成27年4月10日付けで公益財団法人岩手県文化振興事業団と委託契約を締結し、発掘調査を実施することとなった。

(国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所)

II 立地と環境

1 地理的環境

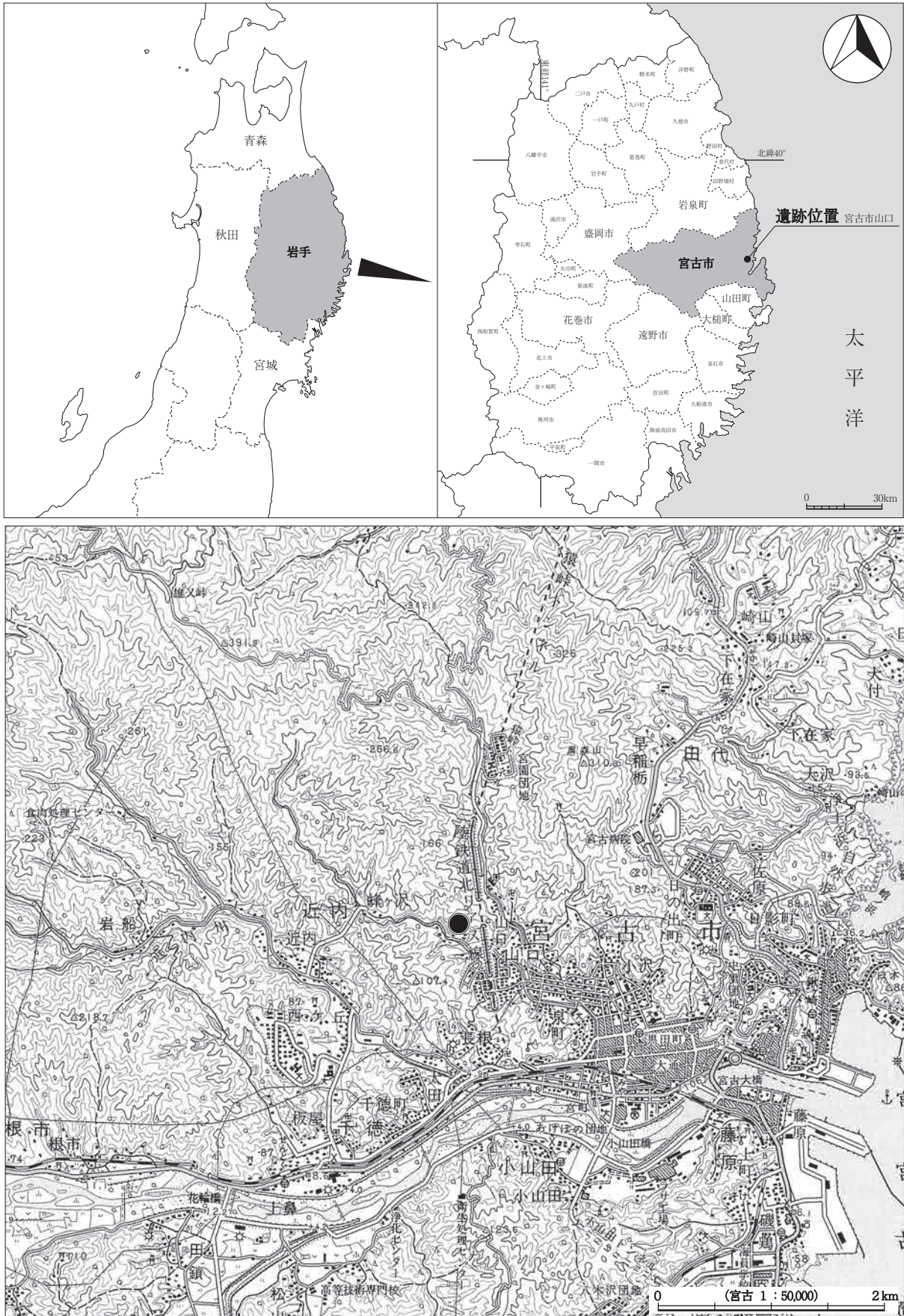
山口駒込 I 遺跡は、岩手県宮古市山口2丁目217ほか、北緯39度39分4秒、東経141度55分53秒付近の地点に位置し、国土地理院発行の5万分の1地形図「宮古」NJ-54-13-3（盛岡3号）の図幅に含まれる。

宮古市は、岩手県の最東端に位置し、北側で下閉伊郡岩泉町、西側で盛岡市・花巻市、南側で遠野市・下閉伊郡山田町・上閉伊郡大槌町とそれぞれ接し、また東側は太平洋に面している。現在の宮古市は、平成17年6月に下閉伊郡田老町・同新里村、平成22年1月に下閉伊郡川井村と合併し、人口56,080人（平成27年12月1日現在）、面積1,259.89km²内で東には三陸海岸、西には早池峰山をはじめとした北上山地の山々を有する広大な市となっている。

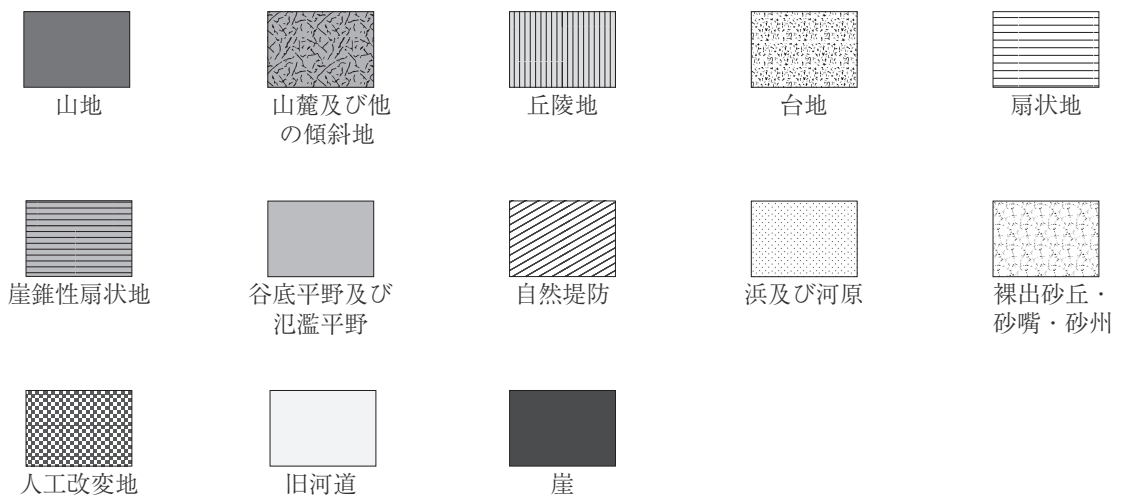
宮古市の地形は、北上山地東縁から続く山地が大きな割合を占め、市内を東流する閉伊川などの河川が形成する谷状地形に低地や台地が作られる。地質は、宮古花崗岩の通称で知られている、中生代白亜紀前期の磁鉄鉱系列のトーナル岩～花崗閃緑岩で占められている岩体が見られる。一方、東部の重茂半島では様相が異なり、大浦花崗岩として知られている、花崗閃緑岩や花崗岩で占められる中生代白亜紀前期の岩体が見られ、両者は宮古湾近辺で境界を接している。

遺跡が所在する宮古市山口地区は、市内中心部を流れる閉伊川及びその支流である山口川、近内川沿いに数多くの遺跡が存在する。北上山地から東へ向けて延びる黒森山山地、その裾野に広がる千徳丘陵、そのさらに裾野に閉伊川低地と呼ばれる谷底・氾濫平野が広がる地形となっている。

当遺跡は、千徳丘陵が山口川の支流蜂ヶ沢によって開析された谷底平野、蜂ヶ沢左岸に位置し、標高19～27mの丘陵南側の裾野に立地する。現況は畑地で、調査区内の一部に風化花崗岩が見られ、調査区の両端に沢が流れていた痕跡が確認された。



第1図 遺跡位置図



第2図 地形分類図



第3図 遺跡周辺の地形と調査範囲

2 歴史的環境

(1) 宮古市の遺跡

宮古市内には、平成27年度現在、岩手県教育委員会が作成した『岩手県遺跡情報検索システム（宮古市地方振興局平成30年3月31日現在）』により、682遺跡が登録され、このうち全体の約20%が複数の時代にまたがる複合遺跡である。時代別にみると複合遺跡も含め、最も遺跡数が多いのは縄文時代で全体の約7割にあたる。以下、奈良・平安時代、中世、弥生時代、近世の順となっている。

縄文時代の遺跡では早期の磯鶏蝦夷森貝塚、中期の国指定史跡崎山貝塚遺跡、後期～晩期では墓壇から人骨が出土した近内中村遺跡などがある。

奈良～平安時代の遺跡は縄文時代に次ぐ遺跡数が確認され、奈良時代を中心とした津軽石大森遺跡、平安時代を中心とする島田Ⅱ遺跡、荷竹日向Ⅰ遺跡など大規模な集落遺跡がある。特に、集落遺跡においては鉄生産関連の遺構を伴う例が多く、地形的にも丘陵地などの斜面に隣接した場所に遺跡が多く見つかっている。

中世の遺跡は城館跡が多く、鎌倉時代末期以降、当地方で勢力を伸ばした豪族の閉伊氏と関係のあるものがほとんどで、閉伊川の北側には河北閉伊氏の本城である千徳城をはじめ、近内館、山口館などがあり、南側には河南閉伊氏の本城といわれる田鎖館をはじめ、長沢川に沿って花輪館、長沢館などがある。他では田鎖館の対岸に位置する場所に出雲地方から移り住んだ白根氏が築いたといわれる松山館があり、当埋蔵文化財センターで平成24年に一部が調査されている。

(2) 周辺の遺跡

今回調査した山口駒込Ⅰ遺跡(29)は、宮古市中心街から北西約1.8kmに位置し、閉伊川の支流である山口川西側の丘陵上に所在する。宮古市中心部を流れる閉伊川とその支流である山口川、近内川沿いには数多くの遺跡が存在し、支流沿いの標高が高い山地・丘陵地には縄文時代の遺跡や古代の遺跡が数多く確認され、閉伊川沿い及び下流域では縄文時代の貝塚や中世の城館跡が多数立地している。第4図に記した周辺遺跡を時代別にみると、複合遺跡を含めて縄文時代72遺跡、弥生時代9遺跡、奈良・平安時代68遺跡、中世19遺跡、近世5遺跡で、宮古市全体の時代別遺跡数の割合とほぼ同様の様相になっている。縄文時代の遺跡では、国指定史跡になっている崎山貝塚と宮古市指定史跡の磯鶏蝦夷森貝塚(98)が代表的な遺跡であり、崎山貝塚は、縄文時代前期～後期前葉にかけて営まれていた集落跡と貝層及び低湿地帯までがセットであり保存状態が良好な遺跡として周知され、磯鶏蝦夷森貝塚では、動物の骨や角・骨角器、埋葬された人骨などが見つかっている。山口地区周辺では、高根遺跡(15)、小平Ⅰ遺跡(14)、黒森マギ沢遺跡(17)、赤畑遺跡(27)、小沢貝塚(70)、上村貝塚(95)など多くの遺跡が確認されている。本遺跡から約700m北側の山地帯の緩斜面上に立地している高根遺跡では、平成元年・4年に宮古市教育委員会により調査が行われ、100基以上の土壙やフラスコ状土壙、竪穴住居が確認されており、住居域と貯蔵施設群、集石を伴う土壙群という集落構造を呈している。高根遺跡から川を挟んだ対岸に位置する小平Ⅰ遺跡では、平成8・9年に当埋蔵文化財センターが調査を行い、縄文時代中期の竪穴住居跡20棟が確認されている。山口駒込Ⅰ遺跡から約1.4km西側に位置する近内中村遺跡では、竪穴住居をはじめ、多量の縄文土器や人骨などが出土している。今回調査した山口駒込Ⅰ遺跡では、縄文時代中期の遺物包含層やフラスコ状土坑、竪穴住居とそれに伴う石囲炉が多数見つかっており、当該期から集落を営んでいたことが分かっている。

弥生時代の遺跡では、佐原Ⅱ遺跡(39)、隠里Ⅷ遺跡(101)、木戸井内Ⅲ遺跡(82)などがある。佐原Ⅱ遺跡では、前期初頭の竪穴住居が2棟、上村貝塚では前期の集落が確認され、隠里Ⅷ遺跡、木戸井内Ⅲ遺跡では後期の遺物が出土している。当該期の遺跡数は少なく、遺物散布地として知られているものが殆どで、集落跡は小規模なものが確認されているのみである。

奈良・平安時代では遺跡数が増え、多くの集落が営まれるようになる。奈良時代の遺跡では、長根Ⅰ遺跡(66)、木戸井内Ⅴ遺跡(78)などがあり、長根Ⅰ遺跡では群集墳が調査され、古墳の中から蕨手刀や直刀などの鉄製武器類や和同開珎が出土している。木戸井内Ⅴ遺跡では、竪穴住居が確認され集落を営んでいたことが分かっている。平安時代になると、鉄生産関連遺構が多くの遺跡で確認されるようになる。近年の発掘調査により、9世紀以降に宮古市域において鉄生産が本格的に始まったと考えられている。本遺跡周辺では、隠里Ⅲ遺跡(105)、島田Ⅱ遺跡(122)、青猿Ⅰ遺跡(51)などで検出されている。島田Ⅱ遺跡では鉄生産関連遺構が多く確認されており、製鉄、精錬、鍛練の各工程を読み取ることができる遺構と工房跡など内容が充実している。また、青猿Ⅰ遺跡では竪穴住居、製鉄炉が確認され、隠里Ⅲ遺跡では竪穴住居とともに鍛冶工房含む住居状遺構、炭窯、火葬関連施設などが発見されており、鉄生産も含めて集落を営んでいたことが分かっている。その他にも、遺構は確認されていないが鉄生産が行われていたと想定される遺物や鉄滓などが多くの遺跡で出土している。

中世は城館跡が多く確認・調査されている。宮古市域において広範囲に点在し、約61箇所もの城館跡が確認されている。山口地区周辺には山口館(31)をはじめ近内館(24)、近内大館(47)、笠間館(69)、千徳城遺跡群(75)が所在し、閉伊川を挟んだ南側の丘陵地には小山田館(83)、小山田Ⅲ遺跡(91)、八木沢新館(118)、八木沢古館(121)、磯鷄館山(125)など数十か所の城館跡が点在している。近年の発掘調査により、前代から引き続き、鉄生産に関連する遺構・遺物が認められる遺跡も多く確認され、平成15・16年に当埋蔵文化財センターが発掘調査をした山口館跡では、鍛冶工房や製鉄関連遺構が確認され、城館であるとともに鉄生産も行っていたと考えられ、周辺地域のこれまでの城館調査では類例を見ない貴重な資料である。また、平成8・9年の調査では、平安時代の竪穴住居から密教仏具3点(三鈷鏡・錫杖頭・鐘鈴)が出土するなど、この場所が複数の時代にまたがり利用されていたことが分かっている。その他に、千徳城・千徳古城・堀合館の中世の城館跡と縄文～平安時代の集落跡で構成される複合遺跡の千徳城遺跡群では、中世後期の砂鉄製錬炉及び鍛冶炉と考えられる遺構を検出している。

近世では、黒森町Ⅰ遺跡(32)があり、江戸時代中～末期の墓壇跡や掘立柱建物跡、鑄造炉が検出され、多量の陶磁器類が出土している。

引用・参考文献

岩手県企画開発室(北上山系開発) 1976 「北上山系開発地域 土地分類基本調査 宮古」
宮古市教育委員会

1992『高根遺跡』宮古市埋蔵文化財調査報告書第33集

1995『磯鷄館山遺跡』宮古市埋蔵文化財調査報告書第43集

財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

1999『小平Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第299集

1999『山口館跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第310集

2004『島田Ⅱ遺跡第2～4次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第450集

2006『山口館跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第486集

2014『松山館跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第625集



第4図 周辺の遺跡分布図

第1表 周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	種別	時代	遺構・遺物	備考
1	黒石沢	散布地	縄文・古代	縄文土器(前・中・後期)、須恵器	
2	馬子舞 I	散布地	縄文・中世	縄文土器(中期)、陶器、山茶碗	
3	早稲栃森	散布地	縄文	縄文土器(早・前・中期)	
4	早稲栃Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器(中・後期)、竪穴住居跡	
5	早稲栃Ⅳ	散布地			
6	大石	散布地	縄文	縄文土器	00年一部試掘
7	蜂ヶ沢Ⅳ	散布地			
8	蜂ヶ沢Ⅲ	散布地			
9	蜂ヶ沢Ⅱ	散布地			
10	蜂ヶ沢Ⅰ	集落跡	縄文・古代	縄文土器(前・後期)、土師器、鉄滓、竪穴住居跡、	
11	牛沢	散布地	縄文	縄文土器(中・後期)	
12	小平Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器	
13	小平Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器	
14	小平Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器(中期)、石器	96年一部調査
15	高根	土墳墓群	縄文	縄文土器(中期)、墓壇、土墳	88・91年一部調査
16	黒森山	寺院跡		勾玉	
17	黒森マギ沢	散布地	縄文	縄文土器(早期)	
18	黒森	散布地			
19	南沢Ⅰ	散布地			
20	早稲栃Ⅴ	散布地	縄文		
21	早稲栃Ⅵ	散布地	縄文	縄文土器(中期)	86年一部調査
22	寒風	集落跡	縄文・古代	竪穴住居跡、土壇	86年一部調査
23	近内中村	集落跡	縄文・弥生・古代	縄文土器、土師器、須恵器	94年～一部調査継続中
24	近内館	城館跡	中世	主郭、物見台、二重空堀、腰郭、土師器、鉄滓など	92・93年、一部発掘調査
25	近内跡場	散布地			
26	赤畑東	集落跡	縄文・近世・中世	縄文土器、鉄滓、中世の竪穴住居跡	赤畑を分割
27	赤畑	集落跡	縄文・近世	縄文土器(早・中期)、竪穴	88・89・95年一部調査
28	山口駒込Ⅱ	集落跡		鉄滓	
29	山口駒込Ⅰ	集落跡	縄文・奈良	縄文土器、土師器、須恵器	
30	天神山	散布地	縄文・古代・弥生	縄文土器、土師器、須恵器、弥生土器	94年一部調査
31	山口館(館山)	城館跡	中世・古代	主郭、副郭、二の郭、三の郭、空堀、土師器	94・95年一部調査、99年～一部調査継続中
32	黒森Ⅰ	屋敷跡・鑄造遺跡	近世	陶磁器、鑄造炉、墓壇	89年一部試掘 1991年一部調査
33	拝殿ヶ沢	散布地	縄文・古代	縄文土器、土師器、須恵器、鉄滓	
34	拝殿峠	集落跡	縄文	縄文土器(後期)	84年一部試掘
35	小沢Ⅴ神籠石	散布地・祭祀跡	縄文・古代	縄文土器(晩期)、土師器、土偶	
36	小沢Ⅳ人形鼻	散布地	縄文・古代	縄文土器、土師器、須恵器	
37	小沢Ⅲ石倉平	散布地	縄文	縄文土器(中・後期)	
38	小沢Ⅵ	集落跡	縄文	縄文土器(中期)	試掘調査(2007年度)にて発見。2008年度本調査実施(市道改良工事関係)
39	佐原Ⅱ	散布地	縄文・奈良・平安・近世	縄文土器(前期・中期・後期)、石器、土師器、鉄滓、陶磁器	試掘調査(2008年度)にて発見。(市道改良工事)
40	佐原	集落跡	縄文	縄文土器	
41	日の出町Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器(早・前・中期)、竪穴住居跡・土坑・炉跡	98年一部調査
42	日の出町Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器(中期)、羽口	
43	日の出町Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器	
44	沢田Ⅰ	散布地	古代	土師器	
45	沢田Ⅱ	散布地			
46	近内白石Ⅰ	製鉄跡		鉄滓、羽口	
47	近内大館	城館跡	中世	主郭、腰郭、物見	
48	近内白石Ⅱ	散布地	縄文・古代	縄文土器(後期)、土師器、須恵器	
49	近内寺本Ⅰ	散布地	縄文・古代	縄文土器、土師器、須恵器	
50	近内寺本Ⅱ	散布地	古代	土師器	
51	青猿Ⅰ	集落跡・製鉄跡	縄文・平安	Tピット、製鉄炉、竪穴住居跡	87・89・90年一部調査
52	延所	散布地	縄文	縄文土器	
53	青猿Ⅲ	散布地	縄文・古代	縄文土器(中期)、土師器	84年一部調査
54	青猿Ⅱ	集落跡	弥生・平安	弥生土器、土師器、竪穴住居跡	
55	狐崎	集落跡	縄文・奈良・平安	縄文土器、土師器、鉄滓、竪穴住居跡	85・89年一部調査
56	泉町狐崎Ⅱ	集落跡	縄文・奈良・平安	縄文土器、土師器、竪穴住居跡	81・88年一部調査
57	泉町狐崎Ⅲ	散布地			
58	泉町狐崎Ⅰ	散布地	古代	土師器	
59	鴨崎Ⅰ	集落跡	古代	土師器	
60	鴨崎Ⅱ	散布地	古代	土師器、須恵器	
61	長根Ⅴ	散布地			
62	長根Ⅳ	散布地			
63	長根Ⅲ	散布地	古代	土師器	

番号	遺跡名	種別	時代	遺構・遺物	備考
64	長根寺Ⅰ	集落跡			
65	長根寺Ⅱ	散布地	縄文・古代	縄文土器、土師器	
66	長根Ⅰ	群集墳	弥生～中世	古墳、蕨手刀、直刀、和同開珎、玉類	89年一部調査「長根古墳群」
67	長根Ⅱ	散布地	古代	土師器	
68	長根寺Ⅲ	散布地			
69	笠間館	城館跡	中世	郭、腰郭、砦	
70	小沢貝塚	貝塚	縄文	縄文土器、貝層	
71	小沢Ⅱ大上	散布地	縄文	縄文土器	98年一部調査
72	黒田館	城館跡	中世	主郭、二の郭、三の郭、空堀	
73	神田沢	散布地	縄文・古代	縄文土器(中期)、土師器、竪穴住居跡、土坑	
74	板屋Ⅱ	散布地			
75	千徳城遺跡群	城館跡	奈良・平安・中世	主郭、二の郭、三の郭、砦、空堀、千徳城、堀合館	87・89・90年一部調査
76	横山	集落跡・貝塚	古代	土師器、須恵器、鉄滓	
77	岩ヶ沢	散布地	縄文・古代	縄文土器、土師器、須恵器	
78	木戸井内Ⅴ	集落跡	奈良	竪穴住居跡、土師器	2012年度試掘調査(三陸沿岸道路)にて発見
79	木戸井内	散布地	縄文	竪穴住居跡	84年一部試掘
80	木戸井内Ⅵ	散布地	縄文	陥し穴	2013年度試掘調査(宮古西道路)にて発見
81	木戸井内Ⅱ	散布地	古代	古代木炭窯	
82	木戸井内Ⅲ	散布地	古代・弥生	弥生土器、土師器	99年一部調査
83	小山田館	城館跡	中世	郭、主郭、二重空堀	
84	小山田Ⅰ	散布地	古代	土師器、鉄滓	
85	藤原上町Ⅰ	散布地	縄文・古代	縄文土器(前期)、須恵器	72年一部調査
86	藤原上町Ⅱ	集落跡	奈良	竪穴住居跡	
87	藤原上町Ⅲ	散布地	縄文・古代	縄文土器、土師器	
88	磯鶏石崎	散布地	縄文・古代	縄文土器、土師器	
89	早坂	貝塚	縄文・弥生・古代	縄文土器、土師器、須恵器、貝層	
90	小沢田	貝塚	縄文・古代	縄文土器、土師器、須恵器、貝層	
91	小山田Ⅲ	城館跡	中世	物見、腰郭	
92	小山田Ⅱ	散布地	古代	土師器、竪穴住居跡	99年一部調査
93	上村Ⅳ	散布地	縄文・古代	縄文土器(中期)、土師器	
94	上村Ⅱ	散布地	縄文・古代	縄文土器(中期)、土師器	
95	上村貝塚	集落跡・貝塚	縄文～平安	竪穴住居跡、貝層	88年一部調査
96	磯鶏竹洞Ⅰ	集落跡	平安・古代	平安土器(中期)、土師器	
97	上村Ⅲ	散布地	縄文・古代	縄文土器(中期)、土師器	
98	磯鶏蝦夷森貝塚	貝塚	縄文・古代	縄文土器、土師器、人骨、骨角器	
99	松山下谷地	散布地	縄文・古代	縄文土器、土師器、須恵器、鉄滓	
100	松山大地田沢	集落跡	古代	竪穴住居跡	
101	隠里Ⅷ	散布地	縄文	縄文土器	90年発見
102	隠里Ⅰ	集落跡	縄文・古代	縄文土器、須恵器、鉄滓	
103	隠里Ⅱ	集落跡	縄文・古代	縄文土器、土師器、鉄滓	
104	木戸井内Ⅳ	集落跡	古代・縄文	土師器、須恵器、古代竪穴住居跡	99年一部試掘、00年・01年一部調査
105	隠里Ⅲ	集落跡	縄文・古代	縄文土器、土師器、須恵器	
106	隠里Ⅳ	散布地	縄文・古代	縄文土器、土師器、須恵器、鉄滓、羽口	
107	隠里Ⅴ	散布地	古代	土師器、鉄滓	
108	隠里Ⅵ	散布地	古代	土師器、鉄滓、羽口	
109	隠里Ⅶ	散布地			
110	七所沢Ⅰ	散布地	古代	土師器	
111	七所沢Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器	
112	八木沢守ノ越Ⅳ	散布地	縄文・古代・弥生	縄文土器、土師器、弥生土器	99年一部調査
113	猿楽峠	散布地	古代・縄文	土師器、縄文石器	99年一部調査
114	八木沢守ノ越Ⅲ	散布地	縄文・古代	縄文土器、土師器	
115	八木沢守ノ越Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器	
116	八木沢Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器	
117	八木沢守ノ越Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器	
118	八木沢新館	城館跡	中世・近世	主郭、二の郭、三の郭、腰郭、砦、空堀	
119	八木沢Ⅲ	生産遺跡	古代	鉄滓	
120	八木沢Ⅰ白山下	散布地	縄文	縄文土器(中期)	
121	八木沢古館	城館跡	中世	主郭、二の郭、副郭、砦	
122	鳥田Ⅱ	集落跡	古代	土師器、須恵器	97年新規
123	鳥田Ⅰ	集落跡	平安	竪穴住居跡、溝、自然遺物	84・85年一部調査
124	磯鶏中谷地	散布地	古代	土師器、須恵器	
125	磯鶏館山	集落跡・城館跡	縄文～中世	竪穴住居跡、製鉄、貝層、建物跡	84～87・89年一部調査
126	仏沢Ⅰ	散布地	古代	土師器	
127	仏沢Ⅱ	集落跡	縄文・平安	縄文土器、土師器、竪穴住居跡、鉄滓	89・90年一部調査

Ⅲ 野外調査と室内整理

1 野 外 調 査

(1) 野外調査の経緯と経過

平成27年度調査

- 7月1日 調査開始。重機による表土除去を開始。
- 7月13日 人力による遺構検出作業を開始した。
- 7月16日 基準点設置業務委託。
- 8月19日 調査区東側の追加調査部分を重機により表土除去を開始。
- 9月4日 追加調査部分を人力による遺構検出作業を開始。
- 11月25日 航空写真撮影実施。
- 12月4日 終了確認。
- 12月11日 調査終了。撤収作業。

平成28年度調査

- 4月7日 調査開始。
- 5月10日 終了確認。
- 5月13日 調査終了（昨年度からの継続分）。撤収作業。
- 12月6日 調査再開（東側水路の追加調査分）
- 12月15日 終了確認。
- 12月16日 調査終了。撤収作業。

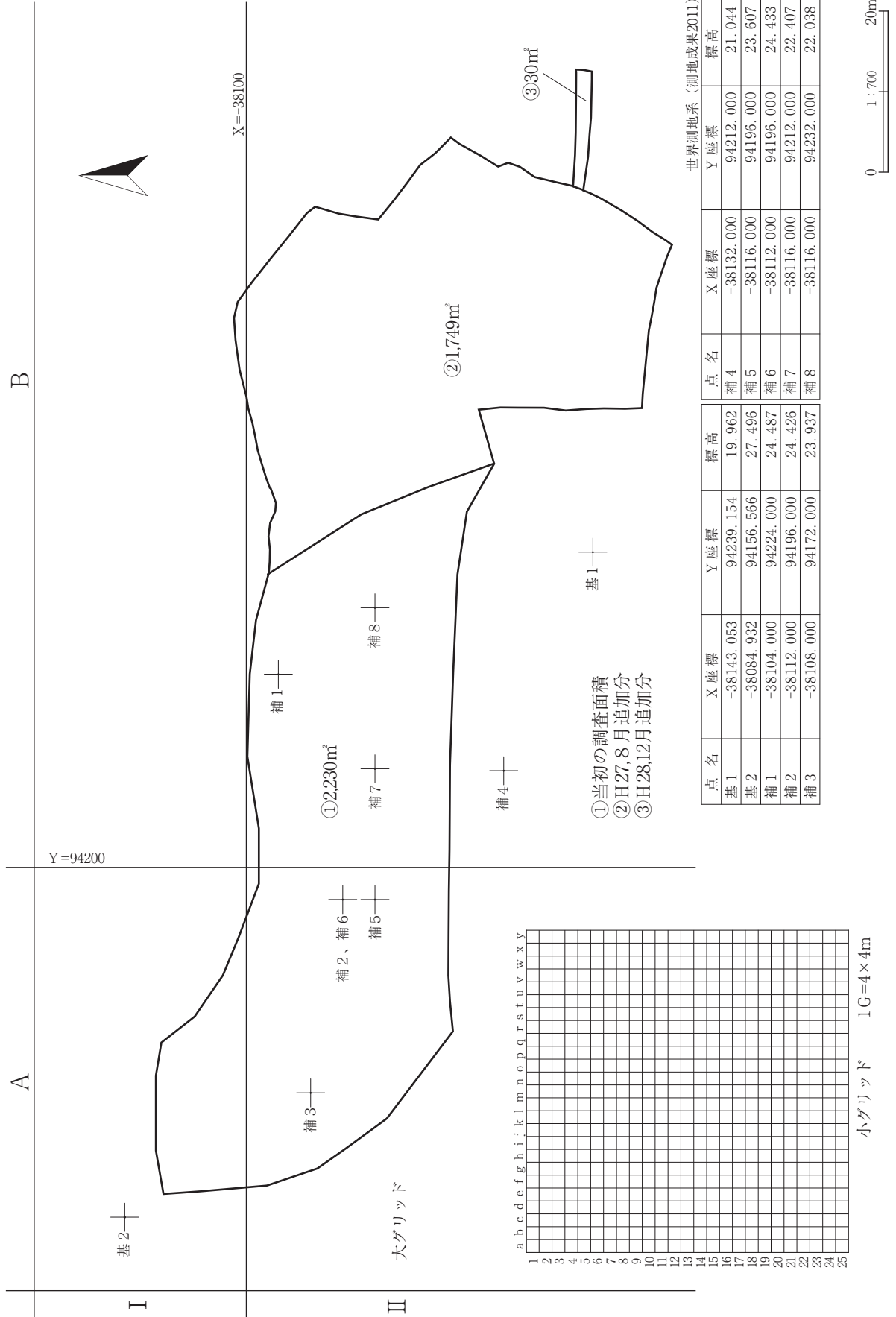
（*終了確認は委託者・岩手県教育委員会・埋文センターの3者による）

(2) グリッドの設定

平面直角座標第X系の $X = -38,000$ 、 $Y = 94,100$ を原点として、 $100 \times 100\text{m}$ の大グリッドを設定し、これを25等分し、 $4 \times 4\text{m}$ の小グリッドとした。大グリッドの呼称は原点を起点に南方向にⅠ、Ⅱ、Ⅲ・・とローマ数字をあて、西から東方向へはA、B、C・・とアルファベット大文字をあてて設定した。小グリッドの呼称は北から南方向へ1～25のアラビア数字、西から東方向へa～yのアルファベット小文字をあて、これらの組み合わせで小グリッドを表し「ⅠA1a」のように呼称した。

(3) 基準点の設定

遺構の実測に利用するため、調査区内外に3級基準点および補助点の打設を委託し、これをもとに調査を行った。座標値は世界測地系によるもので、成果値は第5図内の表のとおりである。



第5図 グリッド配置図

(4) 調査方法と記録

遺跡の調査に先立って、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課による事前の試掘調査が実施されている。この試掘により調査対象区内の土層堆積状況や遺構検出レベルがおおよそ把握されていたため、それを踏まえた上で、重機による表土除去を実施した。その後は人力による遺構検出を行った。

調査で検出された遺構は以下の手順で調査を進めた。竪穴建物は4分法、土坑類は2分法で精査を行い、溝は適宜に土層確認用の断面ベルトを残し、埋土の堆積状況の確認を行いながら掘り下げた。柱穴状土坑については検出時に柱痕を確認し、平面図作成（株式会社CUBICの遺構実測支援システムによる）後、セクションベルトを設け、断面確認→完掘の順で作業を行った。

調査記録用にデジタル一眼レフカメラ（Canon EOS 6DおよびCanon EOS 5DMARK II）の2台、モノクローム6×4.5cm版カメラ（Mamiya 645 AFDⅢ）2台を使用した。撮影にあたって、整理時の混乱を防ぐため撮影内容を記入した撮影カードを対象遺構撮影前に撮影している。その他、地形測量および調査終了時に併せてセスナ機による航空写真撮影を実施した。

2 室内整理の手順と方法

(1) 作業経過

各遺跡の室内整理期間は前述の例言のとおりで、整理作業は遺物の接合・復原・実測図作成・図面合成・原稿執筆・各種観察表の作成等の作業を実施した。

(2) 遺物の整理

洗浄した遺物は注記作業→重量計測→接合・復原の順に作業を行い、その過程で本書に掲載する遺物を抽出し、それらの実測図を作成し、トレースを行った。

(3) 掲載図

遺物実測図の掲載縮尺は土器・礫石器・陶磁器1/3、土製品・石製品・鉄製品・剥片石器1/2、錢貨1/1を原則とするが、土器・礫石器は大きさに応じて1/3～1/6、剥片石器のうち石鏃のみ2/3とした。

遺構図面は、野外調査で作成した実測原図を点検の上で第二原図（修正済図）を作成した。掲載した図の縮尺は、規模により異なるものもことから各図版毎にスケールを付した。

(4) 写真の整理

掲載している遺物写真は、当センター写真技師によりデジタルカメラで撮影した。撮影はRAWモードで撮影し、印刷段階でJPEGに変換している。

IV 出土遺物の分類

本遺跡から土器、石器、土製品、石製品、鉄製品、銭貨、陶磁器、骨が出土した。このうち出土量の多い土器は時期や形態、石器の一部は形態による分類を以下のとおり行い、以後本文・表中における定義はこれに従って記載している。

1 土 器

土器は縄文時代早期～平安時代のものが大コンテナで約190箱分、総量2,487,777.6g出土した。このうち古代の土器は14,309.0gである。縄文土器の出土量のうち3/4が遺構外からの出土で、その大半が調査区東側のⅡ層（遺物包含層）からであるが、Ⅱ層は中間層（Ⅱ b）の十和田中掘テフラを挟んで上層（Ⅱ a）の中期中葉大木8式期と下層（Ⅱ c）の縄文時代前期の3層に分かれていることが遺物取り上げ後に判明したため、包含層から取り上げた土器には時期幅が存在する。遺構内出土土器として取り上げた土器には複数の遺構が重複しているため他遺構から混入した土器片が多く含まれている。よって出土土器の時期や土器型式の分類にあたっては層位や遺構別の出土状況よりも土器自体の形態や文様の特徴によって判断することを優先し、時期を第Ⅰ～Ⅴ群とし、これらの中での小分類は1類、2類…として表記した。

第Ⅰ群土器

縄文時代早期の土器で2点のみ出土した。貝殻復縁文と沈線文による組み合わせで早期中葉の寺の沢式期の土器に該当する。

第Ⅱ群土器

縄文時代前期の土器群で中期について出土量が多い。各土器型式ごとに4分類した。

第Ⅱ群1類

前期前葉～中葉に位置づけられる大木2 a～2 b式に比定される土器群である。口縁部文様帯に横位の結節回転、胴部文様は斜行縄文、組紐回転文、結節回転文、節のないS字状連鎖沈文などが施文される。

第Ⅱ群2類

前期中葉に位置づけられる大木3式に比定される土器片で細い沈線による弧状文が施文されている。

第Ⅱ群3類

前期中葉～後葉に位置づけられる大木4式に比定される土器群で細い粘土紐による円文・小波状文・梯子状を口縁部や口唇頂部に貼付している。口縁部は大きく外傾する。

第Ⅱ群4類

前期後葉に位置づけられる大木5式に比定される土器群で口縁部に沈線文や刺突文、指頭押圧文を伴う幅広の隆帯を鋸歯状に貼付するものや口唇に沿って貼付されるもの。胴部の縄文は単軸絡条体第1類、単軸絡条体第5類が多く施文されている。

第Ⅲ群土器

縄文時代中期の土器群で出土量が最も多い。土器型式は大木7 b式～8 b式、円筒上層式d式・e式等が出土している。

第Ⅲ群1類

中期前葉に位置づけられる大木7 b式に比定される土器群で口縁部に原体押圧文が施文されるもので浅鉢、深鉢の各1点が出土している。器形から帰属の時期と判断したが、破片の一部のため後続する大木8 a式 of 古段階に含まれる可能性もある。

第Ⅲ群2類

中期中葉に位置づけられる大木8 a式に比定される土器群の中で形態が大木7 b式と異なり、口縁部を中心に縄文原体押圧文で文様が描かれたものを同型式の古段階とした。器種は深鉢と浅鉢である。深鉢の形態にはキャリパー形と長胴形の2種がある。深鉢の原体押圧文による文様は口縁部と胴上部のみなのに対し、浅鉢は胴部中段付近まで描かれている。

第Ⅲ群3類

中期中葉に位置づけられる大木8 a式に比定される土器群のうち形態が古段階と類似するが、文様が原体押圧文から沈線や隆帯で描かれる土器群で同型式の新段階とした。

第Ⅲ群4類

中期中葉に位置づけられる大木8 b式に比定される土器群で文様に隆沈線による渦巻文や有棘文が施文される土器群である。

第Ⅲ群5類

中期中葉に位置づけられる円筒土器上層d式に比定される土器群で1点出土した。三角形の文様が原体押圧を伴う隆帯貼付によって施文されている。(608)

第Ⅲ群6類

中期中葉に位置づけられる円筒土器上層e式に比定される土器群で2点出土した。三角形の文様が隆沈線により施文されている。口縁端部には波状の隆帯を貼付している。(609・610)

第Ⅲ群7類

形状から後期後葉に位置づけられる土器で粗製の深鉢土器1点が出土した(307)。

第Ⅳ群土器

縄文時代晩期の土器で底部破片1点が出土した。(663)

第Ⅴ群土器

奈良～平安時代の土器(土師器・須恵器)を本群とした。主に30～36号堅穴建物内から出土した。器種は坏と甕で、坏はロクロ使用の有無で大きく2分される。ロクロ成形の坏の底部切り離し技法はいずれも回転糸切りによるもので、器面調整は内外面ロクロナデのものと内面にミガキと黒色処理が施されているものがある。甕は土師器甕が非ロクロ使用で、須恵器甕は整形にロクロを使用している。

2 石 器

大コンテナで15箱分が出土した。礫石器が大半を占める。

石鏃

茎の有無と基部の形状で分類し、細分した。

- 茎部 I類・・・無茎
- II類・・・有茎
- 基部 A類・・・凹基
- B類・・・平基
- C類・・・円基

石匙

摘み部をもち、幅広の刃部が作出されたもので 1点出土した。刃部の向きにより、3分類した。

- I類・・・刃部が縦方向に付くもの。
- II類・・・刃部が横方向に付くもの。
- III類・・・刃部が斜方向に付くもの。

石錐

二次加工により片側先端に錐状の端部が作出されたもの。摘み部の有無と端部の長さで以下のとおり分類した。

- 摘み部 I類・・・摘み部を有するもの。
- II類・・・摘み部がないもの。
- 端部 A類・・・錐状の端部が長いもの。
- B類・・・錐状の端部が短いもの。

不定形石器

剥片石器のうち定形化した形状をもたず、縁辺部に二次加工による刃部をもつ。掲載したのはすべて刃部の角度が60°未満の削器（スクレイパー）である。

石核

石器の原材で、剥片石器作成の行程で剥片を剥がし、残存したもの。

磨製石斧

原石を剥離や敲打によって整形した後、研磨により仕上げられた石斧を磨製石斧とした。形状や大きさなどに差異が見られるが欠損品も多いため分類は行っていない。

磨石類

研磨痕跡が確認できた礫石器で95点出土した。敲打痕跡の確認できるものも含まれるため「磨石類」とした。平面形状→研磨痕跡→研磨痕以外の使用痕跡により群→類→種を設定した。

平面形状

- I群：円形に近い形状を呈する。長辺と短辺の比率は1.5未満である。
- II群：楕円形の形状を呈する。長辺と短辺の比率は1.5以上～2.0未満の間である。
- III群：長楕円形で細長い棒状の形状を呈する。長辺と短辺の比率は2.0以上を測る。

2 石器

Ⅳ群：平面形状は半円状を呈する。Ⅱ・Ⅲ類に類する形状と推測されるが、側面の研磨により、大きく形状が変わっているもの。

Ⅴ群：側面片側の自然面に角を1つ有することにより平面形状が三角形状ないし、不整な四角形を呈するもの。

Ⅵ群：平面形が（隅丸の）四角形を呈するもの。

Ⅶ群：上面と下面の研磨により平面形状が多角形を呈するもの。

研磨痕跡

A類：表面のみ磨石が確認できるもの

B類：表面と裏面の両面に磨面が確認できるもの

C類：側面片側に磨面が認められるもの

D類：側面両側に磨面が認められるもの

E類：上面と下面に磨石が確認できるもの

研磨痕以外の使用痕跡

1種：研磨痕以外の調整がないもの

2種：研磨以外に敲打痕・凹痕が認められるもの。

3種：研磨以外に剝離が認められるもの。

4種：研磨以外に剝離と敲打痕・凹痕が認められるもの。

半円状扁平打製石器

外縁を全周打ち欠き、縁辺の片側が直線状、反対側が半円状に整形されたもの。磨石のⅣ群と類似した形態で直線状の縁辺に磨面はない。

石皿

扁平な礫石器で板状の形状を呈し、表裏両面に磨痕が認められるもの。

I類 自然礫をそのまま使用したもの。

Ⅱ類 楕円形、長方形に成形したもの。縁辺部を縁状に加工した痕跡が認められるものもある。

台石

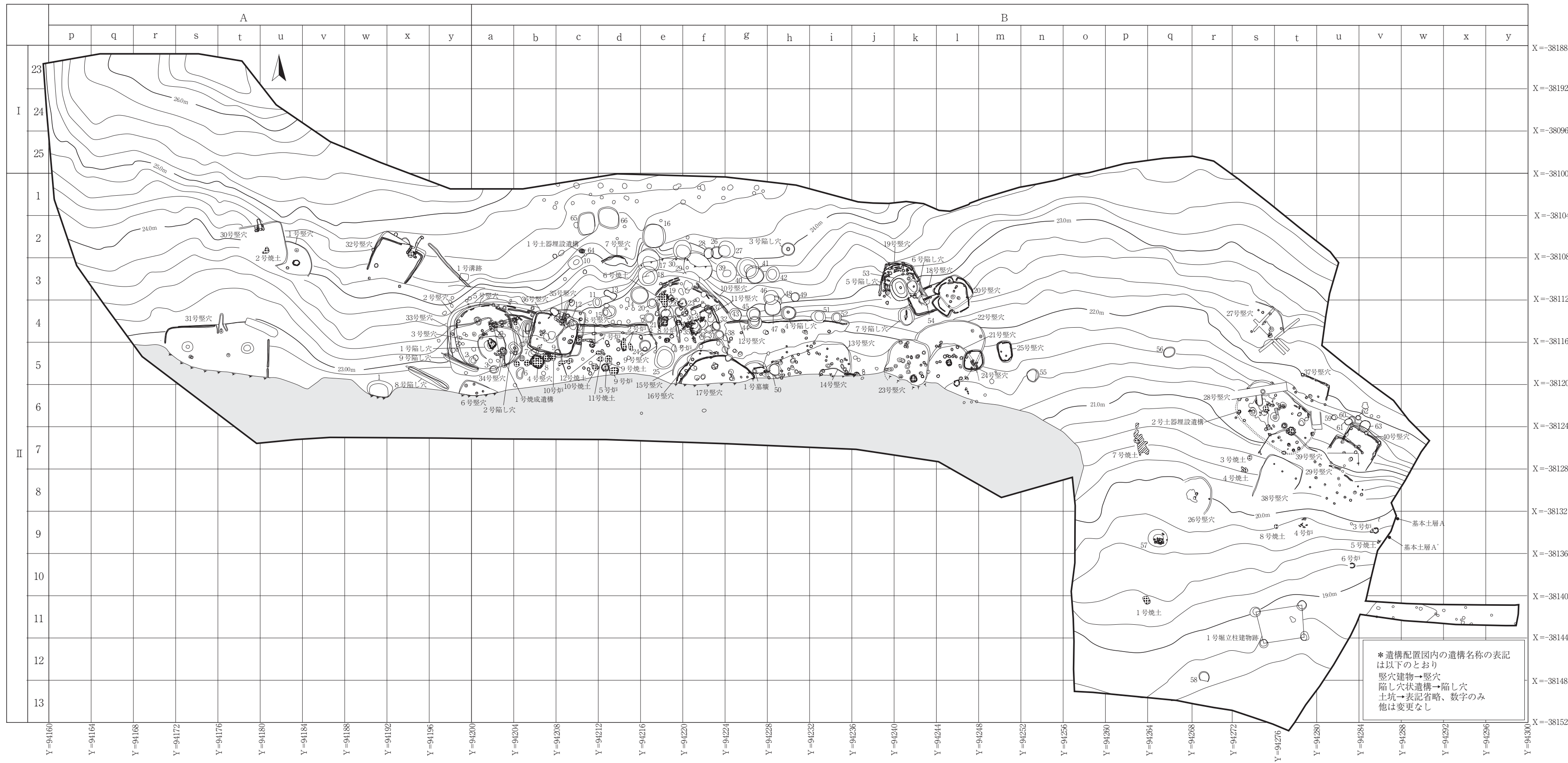
厚みのある自然礫をそのまま使用したもので表面の一部に平坦な面をもち磨痕が確認できるもの。

石棒・石刀・石剣

細長い棒状の形状を呈するもので、石棒・石刀・石剣の一部が出土している。断面形状から円形～楕円形のを石棒、それ以外のを石刀・石剣とした。

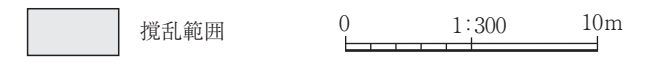
砥石

形態は一定ではなく、表面に研磨によるものと推測される溝状の痕跡が認められるものと大型で石斧などの礫石器を成形し、研磨するために使用されたと推測されるものが出土した。



* 遺構配置図内の遺構名称の表記は以下のとおり
 堅穴建物→堅穴
 陥し穴状遺構→陥し穴
 土坑→表記省略、数字のみ
 他は変更なし

第6図 遺構配置図



V 調査内容

1 概要

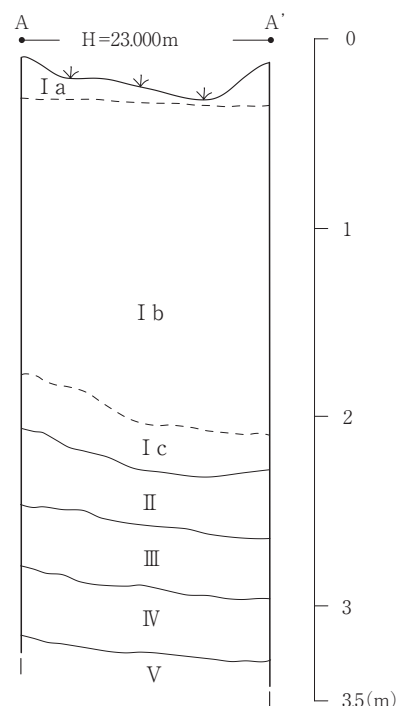
遺跡は岩手県宮古市山口2丁目217ほかには所在し、千徳丘陵が山口川の支流蜂ヶ沢によって開析された谷底平野の丘陵南側に位置し、裾野の斜面上に立地する。標高は19～27mで調査前の現況は畑地である。

調査対象面積は平成27年度3,656㎡、平成28年度353㎡の合計4,009㎡で東西に延びる調査区である。検出遺構は竪穴建物40棟、掘立柱建物跡1棟、炉跡10基、焼土遺構12基、焼成遺構1基、土坑66基、土器埋設遺構2基、溝跡1条、墓壙1基、陥し穴状遺構9基、柱穴状土坑174個である。出土遺物は土器、石器、土製品、石製品、鉄製品、銭貨、陶磁器、骨である。

2 基本層序

堆積状況の良い調査区東側のⅡB9vグリッドにある壁面に土層観察のためのトレンチを設置し、記録した。地形は北側が高く、南側が低い斜面地でⅠ層が表土および造成による盛土、Ⅱ層以下が遺構検出面である。調査区東側では南北に延びる旧沢跡が確認され、この周辺ではⅡ層がさらに3層に細分可能で、中層(Ⅱb)に十和田中振テフラが混入する。

- I 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性・しまり中 表土および造成による盛土により3層に分層
- II 10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中 径2～3mmの小礫3%含む 場所により中層に十和田中振テフラが堆積し、これを挟んで3層に分層する。
- III 10YR2/2 黒褐色砂質シルト 粘性なし しまり中 径2～3mmの小礫3%含む
- IV 10YR2/1 褐色シルト 粘性弱 しまり中 径2～3mmの小礫3%含む
- V 10YR4/6 褐色シルト 粘性なし しまり強 地山



第7図 基本土層

3 検出遺構と出土遺物

今回の調査では遺構種別ごとに竪穴建物→S I、土坑→S Kなどの略号を使用したが、属性の変更や欠番(不掲載)になったものが多かったため、整理段階で新たな名称をつけた。また、調査にあたった主担当者名を第2表に記した。

第2表 遺構一覧

報告書記載	調査時	担当	報告書記載	調査時	担当	報告書記載	調査時	担当
1号竪穴建物	SI07	立花	8号炉	SL20	澤目	33号土坑	SK78	溜
2号竪穴建物	SI31	立花	9号炉	SL21	澤目	34号土坑	SK77	溜
3号竪穴建物	SI48	立花	10号炉	SL26	立花	35号土坑	SK66	溜
4号竪穴建物	SI35	立花	1号焼土	SL01	河村	36号土坑	SK86	溜
5号竪穴建物	SI21	立花	2号焼土	SL02	立花	37号土坑	SK70	溜
6号竪穴建物	SI29	立花	3号焼土	SL03	菊池	38号土坑	SK69	溜
7号竪穴建物	SI47	河村	4号焼土	SL04	菊池	39号土坑	SK17	河村
8号竪穴建物	SI30	河村	5号焼土	SL10	菊池	40号土坑	SK08	河村
9号竪穴建物	SI36	河村	6号焼土	SL12	河村	41号土坑	SK05	河村
10号竪穴建物	SI15	溜	7号焼土	SL14	阿部	42号土坑	SK16	河村
11号竪穴建物	SI14	溜	8号焼土	SL16	菊池	43号土坑	SK19	立花
12号竪穴建物	SI32	佐藤	9号焼土	SL18	澤目	44号土坑	SK23	立花
13号竪穴建物	SI27	須原	10号焼土	SL22	澤目	45号土坑	SK14	立花
14号竪穴建物	SI41	須原	11号焼土	SL23	澤目	46号土坑	SK27	立花
15号竪穴建物	SI38	佐藤	12号焼土	SL24	澤目	47号土坑	SK20	立花
16号竪穴建物	SI22	河村	1号焼成遺構	SK75	立花	48号土坑	SK35	立花
17号竪穴建物	SI09	河村	1号土坑	SK06	立花	49号土坑	SK29	立花
18号竪穴建物	SI37	須原	2号土坑	SK72	立花	50号土坑	SK36	須原
19号竪穴建物	SI25	須原	3号土坑	SK74	立花	51号土坑	SK22	立花
20号竪穴建物	SI28	須原	4号土坑	SK42	立花	52号土坑	SK18	立花
21号竪穴建物	SI10	川村(均)	5号土坑	SK42	立花	53号土坑	SK09	河村
22号竪穴建物	SI12	川村(均)	6号土坑	SK80	立花	54号土坑	SK28	須原
23号竪穴建物	SI24	須原	7号土坑	SK81	立花	55号土坑	SK37	濱田
24号竪穴建物	SI42	濱田	8号土坑	SK82	立花	56号土坑	SK59	濱田
25号竪穴建物	SI33	濱田	9号土坑	SK84	立花	57号土坑	SK24	阿部
26号竪穴建物	SI45	菊池	10号土坑	SK07	河村	58号土坑	SK25	阿部
27号竪穴建物	SI39	川村(均)	11号土坑	SK40	河村	59号土坑	SK46	菊池
28号竪穴建物	SI13	阿部	12号土坑	SK55	河村	60号土坑	SK45	菊池
29号竪穴建物	SI46	菊池	13号土坑	SK39	河村	61号土坑	SK44、SX04	菊池
30号竪穴建物	SI05	立花	14号土坑	SK41	河村	62号土坑	SK47	菊池
31号竪穴建物	SI03	立花	15号土坑	SK38	河村	63号土坑	SK43	菊池
32号竪穴建物	SI01	立花	16号土坑	SK57	佐藤	64号土坑	SX01	立花
33号竪穴建物	SI02	溜	17号土坑	SK62	溜	65号土坑	SK03	立花
34号竪穴建物	SI11	溜	18号土坑	SK50	河村	66号土坑	SK01	立花
35号竪穴建物	SI04	溜	19号土坑	SK76	溜	1号陥し穴状遺構	SK85	立花
36号竪穴建物	SI06	溜	20号土坑	SK61	澤目	2号陥し穴状遺構	SK71	立花
37号竪穴建物	SI18	阿部	21号土坑	SK53	河村	3号陥し穴状遺構	SK02	立花
38号竪穴建物	SI19	阿部	22号土坑	SK67	溜	4号陥し穴状遺構	SK21	立花
39号竪穴建物	SI43	菊池	23号土坑	SK68	溜	5号陥し穴状遺構	SK09	河村
40号竪穴建物	SI17	阿部	24号土坑	SK13	溜	6号陥し穴状遺構	SK09	河村
1号掘立柱建物跡	SK30・31・33・34	菊池	25号土坑	SK11	立花	7号陥し穴状遺構	SK26	須原
1号炉	SL06	河村	26号土坑	SK54	佐藤	8号陥し穴状遺構	SKT01	立花
2号炉	SL07	河村	27号土坑	SK52	佐藤	9号陥し穴状遺構	SKT02	立花
3号炉	SL08	菊池	28号土坑	SK49	佐藤	1号土器埋設遺構	SX01	河村
4号炉	SL09	菊池	29号土坑	SK48	佐藤	2号土器埋設遺構	SX03	白戸
5号炉	SL11	河村	30号土坑	SK60	佐藤	1号墓壇	SX02	立花
6号炉	SL13	菊池	31号土坑	SK79	溜	1号溝跡	SD01	立花
7号炉	SL19	澤目	32号土坑	SK73	溜			

(1) 竪穴建物

今回の調査で40棟の竪穴建物を検出した。時期別では縄文の竪穴建物は29棟（1～29号竪穴建物）、古代が7棟（30～36号竪穴建物）、中世が4棟（37～40号竪穴建物）である。

位置的には西端と東側の沢跡の影響を受ける地点を除く全体に縄文時代の竪穴建物が検出されているのに対し、古代の竪穴建物は中央より西側、中世は東側と偏りがみられる。

1号竪穴建物（第8図、写真図版5・6）

<位置・検出状況・重複関係> 調査区北西側のII A 2 u グリッド付近に位置する。表土除去後のII層で検出した。遺構の西側は30号竪穴建物に切られ、南側は削平のため壁が失われている。重複関係は30号竪穴建物より古い時期の遺構である。

<平面形・規模> 一部のみの検出のため規模は不明、平面形は円・楕円形と推測される。床面までの深さは最も残存する北壁で7cmと浅い。

<堆積土> 埋土は自然堆積を呈し、黒褐色シルトを主体とする。

<壁・床面> 壁は急角度で外傾して立ち上がる。床面は緩い凹凸があり、斜面下方の南側に向かって緩く傾斜している。貼床はない。床面に炉1基と柱穴2個を検出した。

<炉> 炉は石囲炉で遺構の中央よりやや東側と推測される位置で検出した。形状は楕円状で東西方向に長軸をもつ。規模は65×54cm、炉の内面に焼土はなく、炭化物粒のみ確認した。炉石には扁平な形状の礫を使用しているが、大きさは不揃いである。いずれも掘方に差し込んで固定され、全周している。

<柱穴> 2個検出した。規模はP1が開口部径36×31cm、深さ46cm、P2が開口部径28×26cm、深さ29cmを測る。

<遺物> 土器は縄文土器5673.8g、古代土器40.6gが出土し、うち縄文土器4点（1～4）を図化・掲載した。いずれも深鉢の口縁部破片である。1は口唇部が隆帯により肥厚している。2・3は波状口縁で3は渦巻状の隆帯による突起を伴う。4は貼付隆帯による梯子状・小波状の文様である。時期は1～3が中期中葉、4は前期中葉である。5は石皿で炉石に転用されたものである。

<時期> 出土遺物から縄文時代中期中葉の大木8 a 式新段階期と考えられる。

2号竪穴建物（第9・10図、写真図版7・8）

<位置・検出状況・重複関係> 調査区中央部、II A 4 y 他複数グリッドに跨がって位置する。攪乱の黒色土除去後のV層で検出した。3・5・33・35・36号竪穴建物、4・5号土坑と重複し、3・5・33・35・36号竪穴建物より古く、4・5号土坑より新しい。また南に隣接する4号竪穴建物とも重複する可能性があるが、新旧関係は不明である。

<平面形・規模> 重複の影響で遺構の大半が失われているため平面形は判然としないが、残存部より長方形ないし楕円形であった可能性が高いと推測する。規模は東西8.05m、南北4.55mの残存値で、深さは最も残存する北壁検出面から床面まで80cmを測る。

<堆積土> 埋土も大半が消失しているが、残存部分は黒褐～暗褐色シルトを主体とした堆積である。

<壁・床面> 壁は外傾～外反して立ち上がる。残存する床面は平坦で、北壁際の床面に幅8～19cmの溝が3条並んで巡っている。また床面で炉1基、柱穴状土坑3個、北壁面付近で柱穴状土坑2個をそれぞれ検出した。

<炉> 地床炉と考えられる焼土1基を検出した。焼成面の形状は円形で、規模は35×32cm、焼土の層厚は最大で6cmを測る。

<柱穴> 北壁面と床面から5個検出した。規模は開口部径30～36cm、深さは22～63cmである。P2・4・5は床面から垂直に掘り込まれているが、P1・3は壁面から北に向かって傾斜している。P1とP4、P3とP5がそれぞれ近い位置にあることから、P4・5が支柱穴でP1・3がそれを支える柱穴であったと考えられる。

<遺物> 土器は出土しておらず、石器1点のみ出土した。6は磨石類で半円状の形状を呈し、片側側面に磨面をもつ。石材に流紋岩を使用している。

<時期> 時期を特定しうる遺物が出土していないため詳細は不明であるが、他遺構との重複関係から縄文時代中期中葉の大木8b式期以前に属する。

3号竪穴建物（第10・11図、写真図版9・10）

<位置・検出状況・重複関係> 調査区中央部、ⅡB4a他複数グリッドに跨がって位置する。5号竪穴建物精査中に床面のV層で検出した。南西壁の一部が削平され、失われている。2・5・33・34号竪穴建物、1号焼成遺構、1・2号陥し穴状遺構と重複し、5・33・34号竪穴建物より古く、2号竪穴建物、1号焼成遺構、1・2号陥し穴状遺構より新しい。また位置的に4号竪穴建物と重複するが、4号竪穴建物の壁面が確認できなかったため、新旧関係は不明である。

<平面形・規模> 平面形は円形を呈する。規模は東－西壁間で3.99m、北－南壁間で3.81m、深さは最も残存する東壁上部から床面まで24cmを測る。

<堆積土> 埋土は暗褐色シルトを主体とした自然堆積を呈し、上位に黒色シルト、下位ににぶい黄褐色シルトが堆積する。

<壁・床面> 壁は外傾して立ち上がる。床面は細かい凹凸はあるがほぼ平坦である。床面で炉1基を検出した。

<炉> 床面の北西側の壁寄りの位置に石囲炉1基を検出した。形状は北西方向に長軸をもつ台形状で、規模は96×71cmを測る。覆土は暗褐色シルトが主体であるが、部分的に黒褐色シルトや褐色シルトが混じる。1号陥し穴状遺構の堆積土の上に構築されている影響で使用面は東から西に向かって傾斜して下っている。炉の内面に明赤褐色焼土が17×16cmの範囲で広がり、焼土の厚さは4cmを測る。西側の炉石には掘方が確認でき、炉石よりも一回り大きく掘り込んで礫を設置している。対して東側の炉石には掘方は見られず、床面に直接差し込んでいたようである。

<柱穴> 検出していない。

<遺物> 土器は縄文土器5323.9gが出土し、4点（7～10）を図化・掲載した。いずれも深鉢の破片で7・9が口縁部、8が胴部、10が底部破片で、9と10は同一個体と考えられる。7は口縁部が無文帯で胴部との間に隆帯が施されている。8は隆沈線による渦巻文が施されている。時期はいずれも中期中葉に属する。

<時期> 出土遺物から縄文時代中期中葉の大木8a式新段階期～8b式期と考えられる。

4号竪穴建物（第12・13図、写真図版11・12）

<位置・検出状況・重複関係> 調査区中央部、ⅡB5bグリッドに位置し、Ⅱ層（Ⅱb層上面）で検出した。3・5・35・36号竪穴建物、10号炉、7号土坑と重複し、5・35・36号竪穴建物より古く、10号炉、7号土坑より新しい。3号竪穴建物との新旧関係は不明である。このほか2号竪穴建物と重

複する可能性があるが新旧関係は不明である。

〈平面形・規模〉 壁面がなく床面での検出のため平面形・規模共に不明である。

〈堆積土〉 埋土は自然堆積で10層に分層する。黒褐～暗褐色シルトを主体とするが、壁面が確認できなかったため、一部は斜面上方からの流れ込みによる堆積の可能性がある。

〈壁・床面〉 壁は検出されていない。他遺構との重複や斜面の崩落で失われたと考えられる。床面は平坦で、炉の南側が一段低くなっている。

〈炉〉 石囲炉1基を検出した。形状は方形で規模は132×114cmである。覆土は暗褐色シルトが主体の自然堆積を呈する。炉内のほぼ全面に焼土の広がりを確認し、この上面を使用面と判断した。焼土の規模は97×91cmで、層厚は最大11cmを測る。竪穴の床面と使用面との間に段差は見受けられない。炉石に掘方は確認できず、床面に直接礫を差し込んで炉を構築していたと考えられる。

〈焼土〉 炉の西側に3基連なるようにして検出した。形状は3基共に円形で、規模は径52～60cm、焼土の層厚は11～17cmを測る。

〈柱穴〉 検出していない。

〈遺物〉 土器は縄文土器3734.8gが出土した。4点(11～14)を図化・掲載した。13が炉の埋土からで他は竪穴埋土からの出土である。器種は12が器台で他はいずれも深鉢の破片である。文様は13が口縁部に2段の縦位方向の短沈線、14が隆沈線による渦巻文が描かれている。

〈時期〉 出土遺物や重複する5号竪穴建物との関係から縄文時代中期中葉の大木8 a 式新段階～8 b 式期と推測される。

5号竪穴建物(第14・15図、写真図版7・13・14)

〈位置・検出状況・重複関係〉 調査区中央部、II A 4 y 他複数グリッドに跨がって位置し、攪乱の黒色土除去後のV層で検出した。遺構の南端部は斜面の崩落により失われている。2～4・33・34号竪穴建物、2・3号土坑、9号陥し穴状遺構と重複し、2～4号竪穴建物、2・3号土坑より新しく、33・34号竪穴建物より古い。9号陥し穴状遺構との新旧関係は不明である。

〈平面形・規模〉 平面形は円形基調で、規模は北-南壁間で6.13m、東-西壁間で5.68m、深さは最も残存する北壁上部から床面まで54cmを測る。

〈堆積土〉 埋土は自然堆積を呈する。黒～黒褐色シルトを主体とし、壁際～床面直上にかけて暗褐色シルトが堆積する。全体に礫粒が含まれる。

〈壁・床面〉 壁は西壁のみ内湾気味で、それ以外は外傾して立ち上がる。床面は細かい凹凸はあるがほぼ平坦である。東壁北側から北壁際にかけての床面に、幅8～17cmの溝が巡らされている。また柱穴状土坑11個も床面北半で検出した。

〈炉〉 検出していない。

〈柱穴〉 壁面と床面から11個検出した。規模はP 6以外の10個は開口部径19～42cm、深さは15～67cmを測る。P 6は径80×60cm、深さ70cmと他よりも規模が大きい。

〈遺物〉 土器は縄文土器70142.1g、古代土器58.4gが出土し、このうち縄文土器20点(15～34)を図化・掲載した。16・18が床面、それ以外は埋土中から出土した。器種はいずれも鉢類で沈線・隆沈線、隆帯による渦巻文が口縁～胴部に描かれたもの(15・17・18・20～23、25、27・29・30・32・34)が多く、渦巻文に有棘文が伴うものもある(22)。また、器体外面に橋状の把手が付くもの(28・29・33)があり、33は口縁～胴部の破片であるが32と同一個体の可能性が高く、樽型の形状を呈する深鉢である。時期は大木8 b 式を主体とする。石器は7点(37～43)を図化・掲載した。この内、剥片石

器1点、礫石器4点でいずれも埋土中からの出土である。器種は37がスクレイパー、38～41が磨石類、42は石皿、43は台石である。他に混入物と考えられる銭貨1点(44)が出土した。一部を欠くが銭名は永楽通寶と判読できる。

<時期> 出土遺物から縄文時代中期中葉の大木8b式期であると判断した。

6号竪穴建物(第16図、写真図版15・16)

<位置・検出状況・重複関係> 調査区中央のII A 5 y他複数グリッドに跨がって位置し、Ⅲ層で検出した。南側の大半が攪乱により失われている。重複する遺構はない。

<平面形・規模> 遺構の大半が削平されているが、平面形は残存部より方形基調であったと推定する。規模は北西-南東間で2.27m、北東-南西間で1.35mの残存値、深さは最も残存する北西壁上部から床面まで60cmを測る。

<堆積土> 埋土は自然堆積を呈し、上～中位はにぶい黄褐色シルトが混じる黒褐色シルト、下位は黄褐色シルトが混じる暗褐色シルトが主体となる。

<壁・床面> 壁は垂直に近い角度で外傾して立ち上がる。床面は南に向かって緩く傾斜して下る。床面から柱穴状土坑4個を検出した。

<炉> 検出していない。

<柱穴> 4個検出した。規模は径18～30cm、深さは14～52cmを測る。配置に規則性は見られない。

<遺物> 土器は縄文土器818gが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。掲載したのは土製品1点である。45は三角罫形土製品で埋土中から出土した。断面形は三角形を呈し、外側面に沈線による横位のS字状文ないし、渦巻状の文様が描かれている。また、下部～底面の一部にかけて貫通孔がある。

<時期> 出土遺物から縄文時代中期中葉と考えられる。

7号竪穴建物(第16図、写真図版17)

<位置・検出状況・重複関係> 調査区中央の北側、II B 2 dを中心に複数グリッドに跨がって位置し、表土下のV層で検出した。遺構南側の大半が現代の造成工事の影響で失われており、北側壁面の一部のみ検出した。重複する遺構はない。

<平面形・規模> 遺構の大半が失われていたため規模は不明、平面形は残存部より円形または楕円形であったと推定する。最も残存する北壁側で検出面から床面までの深さは14cmを測る。

<堆積土> 攪乱の影響で残存状況は悪いが、埋土は自然堆積を呈し、にぶい黄褐色シルト混じりの暗褐色シルトを主体とする。

<壁・床面> 壁は外傾して立ち上がる。床面は南に向かって緩く傾斜するがほぼ平坦で、壁面に沿って幅5～22cmの溝が巡っている。他に焼成痕跡や柱穴などの付随施設は検出していない。

<遺物> なし。

<時期> 出土遺物がないため、詳細は不明であるが、検出状況から縄文時代の遺構と考えられる。

8号竪穴建物(第17・18図、写真図版18)

<位置・検出状況・重複関係> 調査区中央よりやや西側のII B 4 dを中心に複数グリッドに跨がって位置し、攪乱下のV層で検出した。遺構南側の大半が重複や削平などにより失われている。9・35・36号竪穴建物、2・5・7・9号炉、9～12号焼土、24・25号土坑と重複関係にあり、いずれも

本遺構よりも新しい。

〈平面形・規模〉 遺構の南半が消失するため、平面形状は不明であるが規模は東西約9m、南北3.90mの残存値である。検出面から床面までの深さは5cmを測る。

〈堆積土〉 9号竪穴建物との重複により、埋土の残存状況は悪いが暗褐色シルトを主体とする堆積である。

〈壁・床面〉 壁は外傾して立ち上がり、床面はほぼ平坦である。壁面に沿って幅11～22cmの溝が巡っている。炉などの焼成痕跡は見つかっていない。柱穴は重複する9号竪穴建物検出のものが本遺構に伴う可能性があるが明確ではない。

〈遺物〉 土器は縄文土器10873.1gが出土し、8点(46～53)を図化・掲載した。いずれも埋土中からの出土で深鉢の破片である。46・47は前期の土器で文様は46は沈線による円文、47は細い粘土紐が小波状に貼付されている。48～53は中期中葉の土器で50は口縁部に原体押圧文が施文されている。52は樽形の形状をした深鉢胴部破片で隆帯による区画帯と渦巻文が描かれた大木8b式のものである。他は文様や器形の特徴から大木8a式の新段階に属すると考えられる。石器は5点(54～58)を図化・掲載した。いずれも埋土中からの出土で器種は54～56が磨石類で56は側面が平坦に近い形状となっている。57・58は石棒で両端を欠く。石材には54・55が花崗岩、56・58が砂岩、57がデイサイトが使用されている。

〈時期〉 重複する9号竪穴建物に関連した縄文時代中期中葉の遺物が多く混入しているが、検出状況や前期の土器が出土していることから縄文時代前期の可能性が高いと考えられる。

9号竪穴建物 (第17・18図、写真図版18・19)

〈位置・検出状況・重複関係〉 調査区中央よりやや西側のⅡB5dを中心に複数グリッドに跨がって位置し、攪乱下のV層で検出した。遺構南側の大半が重複や削平などにより失われ、検出したのは北側壁面と柱穴のみである。8・35・36号竪穴建物、2・5・7・9号炉、9～12号焼土、24・25号土坑と重複関係にあり、8号竪穴建物のみ本遺構より古い。

〈平面形・規模〉 遺構の南半が消失するため、平面形状および規模は不明であるが、残存する壁面の長さは東西9.18mを測る。検出面から床面までの深さは22cmを測る。

〈堆積土〉 黒褐色シルトブロックを含む暗褐色シルトを主体とする堆積である。

〈壁・床面〉 壁は外傾して立ち上がり、床面は平坦であるが緩い凹凸がある。壁面に沿って幅11～22cmの溝が巡っている。炉などの焼成痕跡は見つかっていない。

〈柱穴〉 22個検出した。重複する8号竪穴建物に伴うものがある可能性もあるが、調査時に判別はできなかった。

〈遺物〉 土器は縄文土器3078.7gが出土し、1点(59)のみ図化・掲載した。59は埋土からの出土で深鉢の胴部破片で文様は隆沈線による円文が施文されている。石器は2点(60・61)を図化・掲載した。60は磨製石斧で刃部を欠く。61は石皿で縁辺部を打ち欠いて成形している。石材は60が凝灰岩砂岩、61が流紋岩を使用している。

〈時期〉 出土遺物から縄文時代中期中葉の大木8b式期頃に属すると考えられる。

10号竪穴建物 (第19・20図、写真図版20～22)

〈位置・検出状況・重複関係〉 調査区中央のⅡB3fグリッド付近に位置する。後世の造成による盛土を除去した後にV層で検出した。11号竪穴建物と重複関係にあり、これよりも古い時期の遺構で

ある。断面観察で切り合いを確認した。これ以外では11号竪穴建物との重複は明確ではなく、11号竪穴建物の壁際に構築されていると考えられる溝を検出したことにより重複関係を把握したものである。遺構南側の大半が重複によって失われ、11号竪穴建物以外に12・15号竪穴建物によって切られている。また、西側に隣接する9号竪穴建物とは位置的な要素から重複関係にあると考えられるが、確認はできなかった。これ以外では1・8号炉、6号焼土と重複関係にあり、これらよりも古い。19・23号土坑は床面で検出したことから、本遺構に属する可能性もある。38・43号土坑については位置的な要素から重複する可能性が考えられるが重複関係は不明である。

<平面形・規模> 残存箇所から平面形は楕円形で、残存状況から南北に長い形状と推測される。規模は東西間・南北間ともに6.40mの残存値で、床面までの深さは60cmを測る。

<堆積土> 埋土は自然堆積を呈し、暗褐色シルトが堆積する。

<壁・床面> 壁は外傾して立ち上がるが、下位に対し、上～中位は傾斜が緩く立ち上がっていることから壁の上部は崩落した可能性が高い。床面は緩い凹凸があるがおよそ平坦で貼床はない。また、壁面に沿って幅10～26cmの溝が2～3条平行して巡っていることから、複数回の建て替えが行われたと考えられる。柱穴は調査時に2基検出し、これ以外にも複数の柱穴や土坑を床面上で検出したが、本遺構との関係や重複関係を把握できなかったため、これらは単独の遺構として扱い別途掲載した。

<炉> 2基検出した。1号炉は遺構中央付近に設置され、これに伴う炉石を6個検出した。このうち5個は土坑状に掘り込まれた窪みの縁に沿って立てかけた状態で置かれていた。焼成範囲は土坑状の窪みの底面とほぼ一致する70×66cmの範囲に広がっている。埋土1層に赤褐色焼土粒と炭化物がブロック状に混入している。2号炉は西側壁面近くの床面で検出した。形状は長方形を呈し、規模は93×60cm、内面に被熱痕跡の明褐色焼土が広がっている。焼土の厚さは8cmほどである。炉石は一部を欠き全周には至らないが扁平な形状の石材を横向きに立て、これを地面に差し込んで設置している。

<土坑類> 床面北側および西側の壁溝を切っている柱穴を2個検出した。これ以外にも重複による新旧関係が明確でない土坑4基（19・23・38・43号土坑）と柱穴30個以上があり、これらの中には本遺構に帰属するものも含まれている可能性がある。

<遺物> 土器は縄文土器26644.1gが出土し、7点（62～68）を図化・掲載した。64・65・68が床面からの出土である。器種は63が器台で、他は深鉢である。深鉢の形状は62が樽形、64・65がキャリパー形、68が長胴形を呈する。文様は隆帯による渦巻文が口縁部や胴部に描かれたもの（62・64）、口縁部に波状の沈線文を施されたもの（65）など中期中葉の大木8 a 式の新段階のものが主体に出土している。石器は5点（69～73）を図化・掲載した。71・73が床面からの出土で、器種は69がスクレイパー、70が磨製石斧、71が磨石類、72が石皿、73が砥石である。石材には69が玉随、70が細粒閃緑岩、71が流紋岩、72が安山岩、73は砂岩を使用している。

<時期> 出土遺物の特徴から縄文時代中期中葉の大木8 a 式新段階期に該当すると考える。

11号竪穴建物（第19・20図、写真図版20・22）

<位置・検出状況・重複関係> 調査区中央のⅡB 4 f グリッド付近に位置する。後世の造成による盛土を除去した後にV層で検出した。10・12・15～17号竪穴建物と重複関係にあり、10号竪穴建物よりも新しく、12・15～17号竪穴建物よりも古い時期の遺構である。遺構南側が12・15号竪穴建物との重複によって失われている。また、西側に隣接する9号竪穴建物とは位置的な要素から重複関係にあると考えるが、調査では重複関係を確認できなかった。これ以外では8号炉、23・31～38土坑と重複関係にあり、8号炉よりも古く、23・31～38号土坑よりも新しい。他に床面で11個の柱穴を検出した

が、新旧関係については他の遺構との重複のため判別できなかった。

<平面形・規模> 遺構の大半が壁溝によるものであるため規模は不明である。残存箇所から平面形は方形状であったと推測される。規模は短軸側の壁溝間で4.26mを測る。断面観察による北壁検出面から床面までの深さは64cmを測る。

<堆積土> 埋土は自然堆積を呈し、暗褐色シルトを主体とする。

<壁・床面> 断面観察で確認できた北壁は外傾して立ち上がるが、下位に対し、上～中位は傾斜が緩く立ち上がっていることから壁の上部は崩落した可能性が高い。床面は緩い凹凸があるがおよそ平坦である。柱穴11個を床面上で検出したが、本遺構との関係や重複関係を把握できなかったため、単独の遺構として別途掲載した。

<土坑> 本遺構に帰属するものは検出されなかった。

<壁溝> 床面に幅16～23cmの溝が途切れながら方形状に巡っている。

<その他の付属施設> 床面北東隅の壁溝上に配石状の遺構を検出した。礫7個から成り、うち6個が原位置を留め、5個は東西方向へ連なった状態で配置され、長さ1.24cmを測る。さらに東端の礫には南側方向へ向けられた礫1個が続いており、形状から炉の可能性も考えられるが、周辺に焼成痕跡である焼土や炭化物が確認できなかったため遺構の性格については不明とした。

<遺物> 土器は縄文土器100313.2gが出土し、21点(74～94)を図化・掲載した。79・83・86・89・90が床面からの出土である。器種は94が器台、他は全て鉢類で81が鉢、82が浅鉢、他は深鉢である。深鉢の形状は75・77がキャリパー形で口縁部に隆帯による渦巻文が施文されている。他は長胴形で口縁が波状のもの(74・78～80、87～91・93)、と平坦なもの(75～77・84・85・92)があり、口縁部の文様帯は隆帯による渦巻文が描かれるものと無文のものに大きく分かれる。土器の時期は中期中葉の大木8 a式新段階のものを主体に出土しているが、これよりも新しい大木8 b式期のものも混在している(80・81・88)。土製品は埋土中から3点(95～97)出土している。95は耳栓形土製品で上部から側面に抜ける孔を有する。96は斧形土製品の欠損品で細い沈線による文様が両面に描かれている。97は円盤状土製品で約1/2が欠損している。石器は8点(98～105)を図化・掲載した。器種は98が石鏃、99が磨製石斧で刃部側の半分が欠損している。100～104は磨石類で103の先端部に敲打痕が認められる。105は床面から出土した石皿で、扁平な自然礫をそのまま使用し、両面に磨痕が認められる。石材には98が頁岩、99が蛇紋岩、100・103が流紋岩、他は安山岩が使用されている。

<時期> 床面から出土した遺物の特徴と重複関係から10号竪穴建物よりは新しく、縄文時代中期中葉の大木8 a式新段階期に該当すると考える。

12号竪穴建物(第21・22図、写真図版23・24)

<位置・検出状況・重複関係> 調査区中央のⅡB4hグリッドを含む複数グリッドに跨がって位置する。後世の造成による盛土を除去した後、V層で検出した。13号竪穴建物、4号陥し穴状遺構、43～45・51・52号土坑と重複関係にあり、いずれの遺構よりも古い。また、位置的な要素から10・11・15・17号竪穴建物と重複関係にある可能性があるが、明確な切り合いは確認できなかった。

<平面形・規模> 検出したのが、北壁の一部と壁溝のみであるため全体の形状は不明、ただし規模は検出した壁面の長さで東西方向に11.58m、南北は床面で3.64mを測るので、大型住居であると推測する。検出面から床面までの深さは22cmを測る。

<堆積土> 埋土は自然堆積を呈し、にぶい黄褐色シルトを主体とする。

<壁・床面> 壁は緩く外傾して立ち上がる。床面は平坦であるが、南側に向かって緩く傾斜して下っ

ている。壁と平行し、幅5～13cmの溝を検出した。

＜柱穴＞ 床面で11個検出した。このうちP 1～5・8は支柱穴と推測する。P 1～5は北壁面に沿う位置で一直線上に配置される。またP 8はP 5と一対をなす。他の支柱穴は13号竪穴建物に壊されているが、P 8の東側にも柱穴が並んでいた可能性が高い。

＜遺物＞ 土器は縄文土器122.9gが出土し、1点を図化・掲載した。106は深鉢の口縁部破片で柱穴内（P 7）から出土した。文様は隆沈線による波状文で中期中葉の大木8 a 式新段階のものである。

＜時期＞ 出土遺物は縄文時代中期中葉頃のものであるが、遺構の形状から、本遺構は縄文時代前期の大型住居の可能性が高い。したがって縄文時代前期前葉の大木2 a～2 b 式期の範疇と考えられる。

13号竪穴建物（第23図、写真図版25）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区中央のⅡB 5 h グリッド付近に位置する。後世の造成による盛土を除去した後、Ⅱ層で検出した。12・14号竪穴建物、50号土坑、1号墓壙と重複関係にあり、14号竪穴建物、50号土坑、1号墓壙よりも古く、12号竪穴建物より新しい。斜面下方の遺構南側は後世の造成により削平され、失われている。

＜平面形・規模＞ 検出できたのは北壁側の一部であるため形状は不明であるが、不整な円形ないし楕円形であったと推測する。規模は検出した範囲で東西8.36m、南北3.10m、検出面から床面までの深さは北壁付近で28cmを測る。

＜堆積土＞ 埋土は自然堆積を呈し、黒褐色～暗褐色シルトを主体とする。

＜壁・床面＞ 壁は緩く外傾して立ち上がり、床面は平坦であるが、南側に向かって緩く傾斜して下っている。床面に柱穴41個を検出した。他に炉や壁溝などは検出されなかった。

＜柱穴＞ 床面で41個検出した。検出できた範囲は狭いが、柱穴は割と多い。北壁に沿って柱穴が巡るので、これらのうちP 8、12、16、19、21、29が支柱穴の可能性が高い。またその周辺には他の柱穴も分布しており、数回にわたり建て替えを行った可能性があることが窺える。

＜遺物＞ 土器は縄文土器18923.9g、古代土器3.3gが出土し、縄文土器8点（107～113）を図化・掲載した。いずれも埋土からの出土で器種は深鉢である。形状は111・112がキャリパー形で111の口縁部には隆沈線による渦巻文が施文されている。109・113は波状口縁で口縁部に隆帯による渦巻文が施文されている。土器の時期は中期中葉に大木8 a 式新段階のものを主体に出土しているが、107・111はこれよりも新しい時期に属するものと考えられる。石器は14点（114～127）を図化・掲載した。いずれも埋土中からの出土で器種は114が石鏃、115～124が磨石類、125が砥石、126は台石、127は石刀類である。このうち125は研磨痕とみられる細い溝が数条認められ、石材に凝灰岩が使用されているが、124も石質が類似することから、研磨を目的に使用するものであった可能性がある。

＜時期＞ 出土遺物の特徴から縄文時代中期中葉、土器形式では大木8 a 式新段階期～8 b 式期に該当する時期に属すると考えられる。

14号竪穴建物（第23図、写真図版26）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区中央のⅡB 5 i グリッド付近に位置する。後世の造成による盛土を除去した後、Ⅱ層で検出した。13号竪穴建物と重複関係にあり、これよりも新しい。斜面下方の遺構南側は後世の造成により削平され失われている。

＜平面形・規模＞ 検出できたのは北壁側の一部のため、全体の形状は不明、規模は検出した範囲で東西3.88m、南北0.73m、検出面から床面までの深さは全体に11cm前後である。

＜堆積土＞ 埋土は自然堆積を呈し、黄褐色シルトブロックを含む暗褐色粘土質シルトを主体とする。
 ＜壁・床面＞ 壁は緩く外傾して立ち上がり、床面は緩い凹凸があり、斜面に沿って緩く傾斜して南側に下っている。床面に柱穴3個と壁に沿って溝を一部検出した。炉や焼土等の焼成痕跡は検出されなかった。

＜柱穴＞ 床面で3個検出した。いずれも壁際に位置し、規模は開口部径22～32cm、検出面からの深さは18～23cmである。

＜壁溝＞ 北壁の東側の床面で長さ1.10m、幅7～11cmの溝を検出した。

＜遺物＞ 土器は縄文土器466.7gが出土したが小片のため図化・掲載には至らなかった。

＜時期＞ 重複する13号竪穴建物との関係から縄文時代中期中葉の大木8 a 式新段階期～8 b 式期以降と考えられる。

15号竪穴建物（第24図、写真図版27）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区中央のⅡB5 f グリッド付近に位置する。後世の造成による盛土を除去した後、11号竪穴建物の床面精査段階で検出したが、断面観察により本遺構のほうが新しい時期であることを確認した。遺構南側は16・17号竪穴建物に切られて失われている。

＜平面形・規模＞ 検出できたのは北側の壁面であるが、形状はやや歪であり、判然としない。規模は検出範囲で北東－南西間5.56m、北西－南東間1.75m、検出面から床面までの深さは北壁付近で52cmを測る。

＜堆積土＞ 埋土は自然堆積を呈し、暗褐色シルトを主体とする。

＜壁・床面＞ 壁は急角度で外傾して立ち上がる。床面は凹凸があるが、検出範囲では傾斜していない。床面に炉1基を検出した。他に柱穴や壁溝などは検出されなかった。

＜炉＞ 床面南東の16号竪穴建物との境界付近で石囲炉を検出した。炉石は北側に2個、東側に1個検出したが、西～南側は16号竪穴建物との重複によって失われた可能性が高い。長軸方向の礫は扁平な角礫を横向きに立て、これを地面に差し込んで設置している。内面に33×15cmの範囲で炭化物が広がり、一部に明赤褐色焼土を含む。南側は炉石同様、重複する16号竪穴建物により削平され失われている。

＜遺物＞ 土器は縄文土器5069.1gが出土し、うち2点（128・129）を図化・掲載した。いずれも埋土から出土した深鉢の破片で、沈線により文様が描かれている。時期は128が中期中葉の大木8 a 式新段階、129が大木8 b 式と考えられる。他に土製品と石器を各1点図化・掲載した。130は円盤状土製品、131は磨石類で半円状の形状を呈し、片側側面に磨面が認められる。

＜時期＞ 重複する11・17号竪穴建物との関係や出土遺物の特徴から縄文時代中期中葉の大木8 a 式新段階～大木8 b 式期に属すると考えられる。

16号竪穴建物（第25図、写真図版28～30）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区中央のⅡB5 f グリッド付近に位置する。後世の造成による盛土を除去した後、17号竪穴建物の精査段階で検出した。断面観察による切り合いで本遺構のほうが古い時期であることを確認した。遺構の北側は15号竪穴建物と重複し、これを切る。

＜平面形・規模＞ 検出できたのは北東側の壁面のみで、やや歪であるが、全体の形状は円形と推測される。規模は検出範囲で北東－南西間4.47m、北西－南東間0.76m、検出面から床面までの深さは北壁付近で52cmを測る。

＜堆積土＞ 埋土は自然堆積を呈し、黒褐色シルトの単層である。

＜壁・床面＞ 壁は崩落により凹凸はあるが、外傾して立ち上がり、床面は平坦である。床面で柱穴9個を検出した。他に炉や焼土等の焼成痕跡、壁溝などは検出されなかった。

＜遺物＞ なし。

＜時期＞ 出土遺物がないため詳細は明らかではないが、重複する15・17号竪穴建物との関係から縄文時代中期中葉の大木8 a 式新段階～大木8 b 式の時期に属すると考えられる。

17号竪穴建物（第26図、写真図版28・30・31）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区中央のⅡB5fグリッド付近に位置する。南側の造成による盛土を除去した後、Ⅱ層で検出した。遺構の北側は15・16号竪穴建物と重複し、これよりも新しい。東側は1号墓壙と重複し、これよりも古い。

＜平面形・規模＞ 検出できたのは北側の壁面のみで、形状は円形と推測される。規模は検出範囲で東－西壁間7.23m、北壁－床面南端間2.60m、検出面から床面までの深さは64cmを測る。

＜堆積土＞ 埋土は自然堆積を呈し、上位は黒褐色シルトと暗褐色シルト、中位はにぶい黄褐色シルト、下位は黒褐色シルトを主体とする層から成る。

＜壁・床面＞ 壁は外傾して立ち上がり、床面は平坦である。付属施設として柱穴9個、また、壁面に沿って幅6～15cmの溝が巡っている。炉や焼土等の焼成痕跡は検出されなかった。

＜遺物＞ 土器は縄文土器26244.1g、古代土器304.1gが出土し、10点を図化・掲載した。いずれも埋土から出土した深鉢の破片で134・136・138は口縁部に突起を有し、134・136は円孔を伴う。口縁～胴部の文様は隆沈線・沈線によるもので、139は口縁に刻目を伴う隆帯が貼付されている。時期はいずれも縄文時代中期中葉で138が大木8 a 式新段階、137を除くその他は大木8 b 式である。

＜時期＞ 出土遺物から中期中葉の大木8 b 式期に属すると考えられる。

18号竪穴建物（第27図、写真図版32）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区中央より東側のⅡB3kグリッド付近に位置する。表土除去後、Ⅴ層で検出した。ほぼ床面のみの検出である。53・54号土坑、6号陥し穴状遺構、19・20号竪穴建物と重複関係にあり、これらに遺構の一部を切られている。

＜平面形・規模＞ 平面形は長方形を呈し、規模は検出範囲で長軸方向3.45m、短軸方向2.41mを測る。

＜堆積土＞ 床面での検出のため埋土はない。

＜壁・床面＞ 残存する壁はわずかに床面との比高差を確認できる程度である。床面は平坦で褐色粘土質シルトとにぶい黄褐色シルトの混合土により、貼床が施されている。付属施設として柱穴2個と壁際に沿って床面に幅12～18cmの溝が巡っている。炉や焼土等の焼成痕跡は検出されなかった。

＜柱穴＞ 床面で2個検出した。P1は壁溝上に位置し、開口部径24cm、検出面からの深さは24cmを測る。P2は開口部径12×10cmと杭程度の規模である。

＜遺物＞ 土器は縄文土器9.9gとわずかで図化・掲載には至らなかった。

＜時期＞ 重複する20号竪穴建物との関連から縄文時代前期初頭から前葉の範疇に属すると考えられる。

19号竪穴建物（第28図、写真図版33）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区中央より東側のⅡB3kグリッド付近に位置する。表土除去

後、V層で検出した。18号竪穴建物、5・6号陥し穴状遺構、53・54号土坑と重複関係にあり、18号竪穴建物は本遺構より古い、それ以外はいずれも本遺構よりも新しく、本遺構の一部を切っている。

〈平面形・規模〉 検出できた範囲から平面形は胴張りの長方形と推測され、また形状や付属施設の在り方から大型住居の可能性が高い。規模は検出範囲で長軸方向4.35m、短軸方向3.48mを測る。

〈堆積土〉 自然堆積を呈し、上位は褐色シルト、中～下位は黄橙色シルト混じりの暗褐色シルトを主体とする。

〈壁・床面〉 壁は外傾して立ち上がり、床面は緩い凹凸があり、斜面下方側にやや傾斜して下っている。床面の一部に明黄褐色シルト混じりのにぶい黄褐色シルトにより貼床が施されている。床面施設として柱穴43個と壁溝を複数検出した。炉や焼土等の焼成痕跡は検出されなかった。

〈柱穴〉 床面で43個検出した。このうちP5・13・20・21とP24・35・41はそれぞれ直線上に並んでおり、支柱穴の可能性が高い。またその線上にはP5・19やP26など、他の柱穴も並んでおり建て替えの際に柱穴も追加あるいは付け替えたことが窺える。

〈壁溝〉 壁面に沿ってほぼ全周し、2～5重に巡っている。この点から本遺構は少なくとも2回以上は建て替えが行われたと推測する。

〈遺物〉 土器は縄文土器165.9gが出土し、1点を図化・掲載した。149は刺突を伴う扁平で幅広の貼付隆帯が施された口縁部破片である。他には石器1点が出土した。150は石皿でいずれも埋土から出土した。

〈時期〉 出土遺物は少ないが、出土した土器の特徴から縄文時代前期後葉の大木5式期と判断した。

20号竪穴建物（第29・30図、写真図版34）

〈位置・検出状況・重複関係〉 調査区中央より東側のⅡB31グリッド付近に位置する。表土除去後、Ⅱ層で検出した。後述する通り、2箇所ベルトで土層断面による確認と床面に異なる方向に延びる壁溝があることから、本遺構は主軸方向を変えながら3回の建て替えが行われていることが分かった。ただし、遺構埋土を掘り下げる段階では、そのことに気付かず、全ての時期の埋土を掘り下げている。他に18号竪穴建物と重複関係にあり、これより新しい。なお本遺構の建て替えに関しては、1期→2期→3期→4期の順に新しくなる。そしてその際には古い遺構を壊すのではなく、わずかに埋めて、床面を構築し直した後に建て替えを行っている。そのため新しい時期になるにつれ、床面が高くなる傾向が見受けられた。なお第30図には各期の平面形を示した。

〈平面形・規模〉 全体の平面形は多角形を呈し、全体の規模は北東-南西間3.92m、北西-南東間3.46mを測る。1期は不整な正方形を呈し、規模は2.95×3.05mを測る。深さは5cmのみ確認したが、床面の高さ自体は、4期中最も低い。2期は3期にほとんど壊されており、一部のみ残存する。残存部の規模は2.25×1.00m、深さ23cmを測る。3期はやや歪な正方形を呈し、規模は3.20×3.00m、深さは23cmを測る。床面の高さは2期の床面とほぼ同じである。4期は確認する前に掘り下げてしまったため、不明であるが、残存する範囲から不整な長方形ないし正方形を呈し、規模は3.00×2.35mであろうと推測する。また深さは断面から41cmである。

〈堆積土〉 1～4層は自然堆積土（崩落土）で、本遺構上部を削平する。また4層は4期の埋土全てであり、したがって4期は自然堆積土の流入によって埋没したものと推測する。

5層は3期、6・10層は2期で暗～黒褐色シルトを主体とし、単層である。7～9、11層は1期の埋土であるが、2、3期の貼床であり、厳密には1期に伴う埋土とは言えない。

〈壁・床面〉 明黄褐色シルト（地山）面を床面と判断した。1～4期とも、ほぼ平坦である。断面

で確認したところ、2～4期は1期の床面上に明黄褐色シルトを埋めて貼床としている。壁は2～4期でそれぞれ一部のみ確認できた。いずれも直立気味である。炉や焼土等の焼成痕跡は検出されなかった。

＜柱穴＞ 12個確認した。時期は1期が9個、2期はなし（不明）、3期は1個、4期は2個と推測する。最も多い1期では床面中央からその周辺に分布する傾向が見て取れる。

＜壁溝＞ 複数の溝を検出した。正方形に巡る溝とそのプランの北西・北東・南西隅にコの字形に付随するような形で溝を検出した。床面標高が同じことから建て替えによる削平で溝の一部が失われているという可能性は低い。

＜遺物＞ 土器は縄文土器3894.0gが出土し、4点（151～154）を図化・掲載した。いずれも埋土から出土した深鉢の破片で、151は中期中葉に属するもので頸部に刺突を伴う隆帯が貼付されている。152～154は前期の土器で152は胴部に横位の結節縄文が施文されており、大木2 a式から2 b式の範疇である。154は口縁および口縁頂部に粘土紐が貼付されており、大木5式に比定される。

＜時期＞ 重複関係にある18号竪穴建物よりも新しいことと出土した土器のうち152・154から、縄文時代前期前葉（大木2 a式期）から前期後葉（大木5式期）の範疇の時期と考えられる。

21号竪穴建物（第31図、写真図版35・36）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区中央よりやや東側のⅡB51グリッドに位置する。表土下のⅢ層上面で検出した。22～24号竪穴建物と重複関係にあり、22号竪穴建物より新しく、23・24号竪穴建物よりも古い。

＜平面形・規模＞ 残存する壁はやや直線状であるが、平面形は楕円形基調と推測される。遺構の一部の検出のため規模は不明であるが、北西壁から床面南東で検出した焼土まで5.42mを測る。検出面から床面までの深さは15cmを測る。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、黒褐色シルトを主体とする。

＜壁・床面＞ 壁は緩やかに立ち上がり、床面はほぼ平坦である。

＜炉＞ 長さ28cmを最大とする角礫を含む10個余りの礫を方形状に配した石囲炉で、炉石を掘方に設置後、埋め戻して固定したものである。南西側の炉石の一部が抜き取られ、失われている。規模は57×56cmで内面に明赤褐色焼土粒が少量確認できるが、焼成痕跡は弱い。

＜柱穴＞ 床面で10個検出した。配列からP3、6、8、9が主柱穴の可能性が高い。また床面の南側では柱穴自体が確認できなかった（削平によるものか）。本来はこの範囲にも柱穴が存在し、上記の柱穴とともに主柱穴を構成したものと推測する。

＜焼土＞ 床面に点在する焼土のうちやや大きめのもの3箇所を焼土として記録した（焼土1～3）。いずれも断ち割ったところ明赤褐色焼土がブロック状に混入しており、現地性のものとは認められなかった。

＜遺物＞ 土器は縄文土器5018.9gが出土し、3点（155～157）を図化・掲載した。いずれも深鉢の破片で埋土から出土した。155は胴部破片で細い小波状の隆帯が縦位に施されている。156は口縁部破片で口唇と頸部に隆帯が貼付されている。157も口縁部破片で口唇に原体押圧を伴う波状の隆帯が貼付されている。石器は1点を図化・掲載した。158は磨石類の欠損品で炉石として使用されていた。

＜時期＞ 炉跡の形状と出土遺物、他遺構との重複関係から、縄文時代中期中葉の大木8 a式新段階期に属すると考えられる。

22号竪穴建物（第32図、写真図版37～39）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区中央よりやや東側のⅡB51グリッド付近に位置し、Ⅲ層上面で検出した。21・24号竪穴建物と重複し、これらに切られる。

＜平面形・規模＞ 平面形は楕円形状と推測され、規模は東－西壁間6.45m、北壁－床面南端間5.48m、検出面から床面までの深さは最大で36cmを測る。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、黒色～黒褐色シルトを主体とする。

＜壁・床面＞ 壁は北壁側が僅かに残る。床面はほぼ平坦で、斜面下方側に緩く傾斜して下っている。床面で柱穴8個、炉跡1基を検出した。壁溝はない。

＜炉＞ 遺構の中央よりやや南側と推測される床面で検出した。長さ8～22cmの礫9個を長方形に配した石囲炉で、炉石は掘方に設置後、埋め戻して固定したものである。規模は55×50cmで内面の34×25cmの範囲に明赤褐色焼土粒を伴う焼成痕跡が広がっている。

＜柱穴＞ 床面で8個検出した。配置に規則性はみられず、どれが支柱穴かは不明である。

＜焼土＞ 炉跡の南東側に隣接して検出した。明赤褐色焼土が33×20cmの範囲に広がっている。焼土の厚さは3cmを測る。

＜遺物＞ 土器は縄文土器21312.0gが出土し、10点（159～168）を図化・掲載した。いずれも深鉢の破片で遺構内柱穴から出土した。口縁部の文様は沈線文、隆帯で胴部文様は縄文のみのものと沈線文が施されているものがある。時期はいずれも中期中葉である。土製品は2点（169・170）を図化・掲載した。いずれも円盤状土製品で成形のため周縁を打ち欠いたため多角形の形状を呈する。石器は10点（171～180）を図化・掲載した。器種は171・172が石鏃、173～176が磨石類で174は敲打痕が認められる。177は自然礫を使用した台石で片面に磨痕が認められる。178～180は石皿で178・179は扁平な自然礫をそのまま使用したもので両面に磨痕が認められる。180は自然礫を縁を打ち欠いて成形し、片面の平坦面を使用したものである。

＜時期＞ 出土遺物と他遺構との重複関係から縄文時代中期中葉の大木8 a 式新段階期と考える。

23号竪穴建物（第33図、写真図版40～42）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区中央よりやや東側のⅡB5kグリッド付近に位置し、Ⅲ層上面で検出した。21・22号竪穴建物と重複し、これらを切る。遺構南側は後世の造成により削平され失われている。

＜平面形・規模＞ 平面形は長方形または楕円形と推測され、規模は長軸側の北壁－床面南端間3.94m、短軸側の東－西壁間3.88m、検出面から床面までの深さは最大で26cmを測る。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、黒褐色シルトを主体とする。

＜壁・床面＞ 壁は外傾して立ち上がり、床面はほぼ平坦である。床面で柱穴24個、炉跡1基を検出した。壁溝はない。

＜炉＞ 遺構の中央よりやや南東側と推測される床面で検出した。長さ12～23cmの礫14個五角形状に配した石囲炉で、炉石は掘方に設置後、埋め戻して固定したものである。規模は66×61cmで内面の39×37cmの範囲に明赤褐色焼土粒を伴う焼成痕跡が広がっている。

＜柱穴＞ 床面で24個検出した。壁際に巡る柱穴のうち比較的大きいP1、2、4、6、8、10は支柱穴の可能性が高い。またその内側に分布するP3、7も支柱穴の可能性があり、したがって本遺構は建て替えが1回以上行われたことが窺える。

＜遺物＞ 土器は縄文土器6689.7gが出土し、5点（181～185）を図化・掲載した。いずれも埋土か

らの出土である。181～184は深鉢の破片で181は口縁部で隆帯による橋状把手が付く。182～184は沈線によって文様が施文されている。185は浅鉢で口唇が貼付された隆帯により肥厚している。他に石器1点を掲載した。186は石皿で扁平な形状をした自然礫をそのまま使用したもので両面に磨痕が認められる。

〈時期〉 出土遺物や他遺構との重複関係から縄文時代中期中葉の大木8 a式新段階以降に属すると考えられる。

24号竪穴建物（第34図、写真図版43）

〈位置・検出状況・重複関係〉 調査区中央よりやや東側のⅡB51グリッド付近に位置し、21・22号竪穴建物の床面（第Ⅳ層面）で検出した。

〈平面形・規模〉 平面形は不整な楕円状を呈し、規模は2.35×2.04m、検出面から床面までの深さは最大23cmを測る。

〈堆積土〉 自然堆積を呈し、黒褐色シルトを主体とするが、一部に黒色シルト層と暗褐色シルト層が堆積する。

〈壁・床面〉 壁は外傾して立ち上がり、床面は平坦である。また、床面施設として柱穴8個、壁溝を検出した。炉や焼土などの焼成痕跡は検出されなかった。

〈柱穴〉 8個検出した。P1・3・4・5・8が壁溝を切っている。配置に規則性はみられず、どれが主柱穴かは不明である。

〈壁溝〉 幅5～11cm、深さ5cmほどの溝が壁際に沿って床面を全周している。

〈遺物〉 土器は縄文土器398.8gが出土し、1点を図化・掲載した。187は深鉢の破片で口縁部は無文で胴部との境界はなく、無文帯の下には横位の結節回転による斜行縄文が施文されている。

〈時期〉 出土遺物は縄文時代前期のものも含まれるが、他遺構との重複関係から縄文時代中期中葉の大木8 a式新段階期以降と考えられる。

25号竪穴建物（第34図、写真図版44）

〈位置・検出状況・重複関係〉 調査区中央よりやや東側のⅡB5mグリッド付近に位置する。重複する遺構はない。

〈平面形・規模〉 平面形は楕円形～隅丸長形状を呈し、規模は2.08×1.37m、検出面から床面までの深さは27cmを測る。

〈堆積土〉 炭化物を含む黒褐色シルトの単層である。

〈壁・床面〉 壁は外傾して立ち上がり、床面は平坦である。また、床面施設として柱穴4個と壁溝を検出した。

〈柱穴〉 4個を検出した。配置に規則性はみられず、どれが主柱穴かは不明である。

〈壁溝〉 壁際に沿った床面において、ほぼ全周する溝を検出した。規模は幅6～17cm、深さは6cmを測る。

〈遺物〉 土器は縄文土器143.5gが出土し、2点を図化・掲載した。188・189は深鉢の口縁部破片で埋土から出土した。いずれも口縁部に横位の結節回転文が施文されており、大木2 a～2 b式の範疇と推測する。

〈時期〉 出土遺物から、縄文時代前期前葉～中葉（大木2 a～2 b式期）と考えられる。

26号竪穴建物（第34図、写真図版45）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区南東側のⅡB8rグリッド付近に位置し、Ⅴ層で検出した。遺構の南西側半分は、旧河道の影響により壁面は削平され、失われている。当初、上面にあたるⅡc層で大木4式及び大木5式に相当する土器が多量に出土したことから遺構に伴うものと想定し、検出を試みたが、Ⅱc～Ⅲ層中で確認することはできず、最終的にⅤ層面での検出となった。重複している遺構はない。

＜平面形・規模＞ 遺構の一部が削平され失われているが、円形ないし楕円形を呈するものと推測される。規模は検出した最長径で3.58m、検出面から床面までの深さは9cmを測る。

＜堆積土＞ 褐灰色粘土質シルトの単層である。

＜壁・床面＞ 壁面は緩やかに外傾する。Ⅴ層を床面とし、ほぼ平坦で固く締まる。約5～8cmの厚さで床面中央部に貼床が施されている。また、床面施設として柱穴3個を検出した。他に壁溝や炉・焼土等の焼成痕跡は検出されなかった。

＜柱穴＞ 3個検出された。P1・2は貼床内、P3は床面東側で検出された。柱穴の埋土はいずれも竪穴建物の埋土と類似する。

＜遺物＞ 土器は縄文土器354.5gが出土し、2点を図化・掲載した。190・191は深鉢の口縁部破片で埋土下位で出土した。190は無文で口縁頂部に小突起が付いている。191は口縁部に横位の結節回転文が展開している。

＜時期＞ 出土遺物から、縄文時代前期と考えられる。

27号竪穴建物（第35図、写真図版46・47）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区東側のⅡB4sグリッド付近に位置する。Ⅱ層中に土器片が集中して出土したために遺構の存在を想定して掘り下げたところ、石囲炉を検出した。検出したのは遺構の北東側の壁面と床面の一部で、大半は削平により失われている。重複する遺構はない。

＜平面形・規模＞ 遺構の一部のみの検出のため詳細は不明であるが、残存状況から円形基調と推測される。規模は検出した部分で径3.40m以上、検出面から床面までの深さは6cmを測る。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、黒色シルトを主体とする。

＜壁・床面＞ 壁面の残存状況は悪いが外傾して立ち上がる。床面は凹凸があり、斜面下方に向かって緩く傾斜して下っている。貼床は施されていない。床面施設として柱穴5個と炉・焼土等の焼成痕跡は検出されなかった。

＜炉＞ 遺構の中央よりやや南東側と推測される床面で石囲炉1基を検出した。炉石は北・西側の2個のみで他は失われている。炉の内面35×29cmの範囲に暗赤褐色焼土を伴う焼成痕跡が広がっている。

＜柱穴＞ 5個検出した。埋土は竪穴建物の埋土と類似する。

＜遺物＞ 土器は縄文土器2872.0gが出土し、3点（192～194）を図化・掲載した。192・193の一部が床面から出土している。192は長胴形の深鉢で口唇部が隆帯の貼付により肥厚している。193・194はキャリパー形の形態を呈し、口縁部に沈線による文様が描かれている。

＜時期＞ 出土遺物から、縄文時代中期中葉の大木8a式新段階期と考えられる。

28号竪穴建物（第36～38図、写真図版48～52）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区東側のⅡB6sグリッド付近に位置し、Ⅱ層で検出した。斜面下方側にあたる南側の壁面は検出できなかった。29・34号竪穴建物と重複関係にあり、これよりも

新しい時期に属する。

＜平面形・規模＞ 南側の壁面が失われているが、残存状況や床面施設の配置から形状は隅丸長方形基調と推測される。規模は検出した部分で長軸側7.74m、短軸側4.93m、検出面から床面までの深さは最大で34cmを測る。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、上～中位は黒褐色シルト、下位は黒色シルトを主体とする。

＜壁・床面＞ 検出した北側の壁面は垂直気味に立ち上がる。床面はやや凹凸があり、斜面下方に向かって緩く傾斜して下っている。貼床は施されていない。床面施設として石囲炉2基、地床炉1基、埋甕1基、埋設土器遺構1基、柱穴25個を検出した。また、壁面の一部に溝を3条検出したが、34～50cmと短い。

＜炉＞ 遺構の長軸中心線上で3基検出した。埋甕が中央に設置され、ここから南西壁と北西壁との中間距離にそれぞれ石囲炉1と石囲炉2が構築されている。

炉1（石囲炉） 形状は方形を呈する。規模は85×78cm、炉石に大きさ16～45cmの礫9個を使用している。炉の内面は58×57cmの範囲に明赤褐色焼土を伴う焼成痕跡が広がっている。焼土の層厚は6cmを測る。

炉2（石囲炉） 調査時のトレンチにより、遺構の大半が失われており、大きさ8～16cmの炉石4個のみの検出である。焼成痕跡は削平のため確認していない。

炉3（地床炉） 遺構中央の埋甕と炉2との間に位置する。明赤褐色焼土が62～50cmの範囲に不整な形状で広がっている。焼土の層厚は4cmを測る。

＜柱穴＞ 25個検出した。配列から主柱穴はP1～6と考えられる。

＜壁溝＞ 北東壁際の床面で3条検出した。規模は長さ39～55cm、幅10～12cm、深さ2～3cmと短い。これ以外の場所で溝の痕跡は確認できなかった。

＜遺物＞ 土器は縄文土器85881.0gが出土し、23点（195～217）を図化・掲載した。器種は深鉢（195～214）と浅鉢（215～217）で大半が遺構内柱穴および埋土から出土している。198は床面下に倒立した状態で埋設された埋甕である。いずれも時期は中期中葉の大木8 a式新段階期に属するもので、長胴形のもものは口縁部が無文のもの（197～201）は側面に突起が付き、口縁部にS字状の隆帯を横位に貼付しているもの（199・200）、胴部上半が沈線文で区画されているもの（198・201）がある。210～214は口縁部が大きく波状になった形態のもので、波頂部が突起状に発達し、突起に円孔を伴うもの（210・211）、隆帯を貼付されたもの（214）があり、波頂部が口縁部文様帯で区画されたり（210・212）、文様の起点となっている（209・211・213）。207は樽形の深鉢で口縁部に把手が4単位で付いている。石器は15点（218～232）を図化・掲載した。218～220は石鏃で基部はいずれも無茎で218・219は凹形、220は平坦な形状を呈する。221は石錐で石鏃からの転用品の可能性が考えられる。222はスクレイパーで片面に刃部をもつ。218～222の石材には頁岩が使用されている。223～225は磨製石斧、226～229は磨石で227は両側面、228・229は側面片側に磨面が認められる。230～232は石皿で230は石材に安山岩が使用されている。231・232は自然礫の流紋岩を使用したもので231は両面、232は片面に磨痕が認められる。

＜時期＞ 出土遺物から、縄文時代中期中葉の大木8 a式新段階期と考えられる。

29号竪穴建物（第39図、写真図版53・54）

＜調査経過＞ 遺物包含層掘り下げ時に焼土塊・炭化材をII c層中で検出し、焼土塊・炭化材が認められる面を床面と想定して、精査を行った。壁面と埋土が似通っていることから、明瞭に壁面を確認

することが出来なかった。そのためベルトの土層観察と焼土塊・炭化材の有無・柱穴等の配置から、遺構の形状及び規模を把握した。

〈位置・検出状況・重複関係〉 調査区東側のⅡB8tを含む複数グリッドに跨がって位置し、Ⅳ層で検出した。28号竪穴建物と重複し、これよりも古い遺構である。

〈平面形・規模〉 遺物包含層掘り下げ時に壁面・壁溝等を削平しているため、形状及び規模の詳細は不明であるが、附属する柱穴等の配置から長軸が約11.5m、短軸が約3.5m程度の規模と推定される。

〈堆積土〉 9層に細分した。黒～黒褐色シルトを主体とし、下位の5・6層には炭化材・炭化物が多く含まれている。7層は床面である。

〈壁・床面〉 壁面は、直立ぎみに外傾する。Ⅱc層面を床面とし、ほぼ平坦で固く締まる。検出面から床面の深さは約36～40cmを測る。床面北東部で幅は約10～20cm、深さ約8～10cmの溝を検出した。

〈柱穴〉 床面および周辺から36個検出した。床面の大半は削平のため失われており、柱穴においてもその推定範囲内に含まれている可能性のあるものをすべて抽出したもので、本遺構に伴わない柱穴が含まれている可能性もある。埋土は暗褐色シルトを柱穴痕跡とし、地山起源の明黄褐色シルトを掘方として確認できたものが半数以上占める。

〈遺物〉 土器は縄文土器7744.8gが出土し、8点(233～240)を凶化・掲載した。器種は235が壺形、他は深鉢で、すべて埋土からの出土である。233は外面の文様が無文で口唇部が平縁である。形状や胎土に繊維を含むことから縄文前期中葉の大木2a式期頃の時期と推測される。235～238は細い粘土紐を格子目状、小波状に貼付したもので深鉢の口縁部が開く形状を呈する。239・240はおそらく同一個体と考えられるものであるが、口唇頂部に円形の突起を有し、突起の外縁を含めた口唇頂部に連続した刺突文を施している。これらの時期は前期後葉の大木4～5式に該当する。石器は4点(241～244)を凶化・掲載した。器種は241・242が石鎌、243が石匙、244が石錐でいずれも石材には頁岩が使用されている。他に石製品が1点出土した。245は珓状耳飾りで半分が欠損している。

〈時期〉 検出面及び出土遺物から縄文時代前期と考えられる。

30号竪穴建物（第40図、写真図版55・56）

〈位置・検出状況・重複関係〉 調査区西側の、ⅡA2t他複数グリッドに跨がり、Ⅱ層上面で検出した。遺構の西側から南側にかけては、斜面の崩落で失われている。1号竪穴建物・2号焼土と重複し、2号焼土より古く、1号竪穴建物より新しい。

〈平面形・規模〉 西壁全面と南壁の一部は失われているが、平面形は方形である。規模は南－北壁間で4.17m、東－西壁間で3.95mの残存値である。深さは最も残存する東壁上部から床面まで約9cmを測る。

〈堆積土〉 埋土は全体に黒褐～暗褐色シルトを主体とした堆積で、上位ににぶい黄褐色シルトが混じる。

〈壁・床面〉 壁は外傾して立ち上がる。床面は若干の凹凸があるがほぼ平坦である。床面全域に貼床が施されている。

〈カマド〉 カマドは1基、北壁中央に設置されている。煙道部は掘り込み式の構造で、軸方向はN-16°-Wを向く。煙道部の規模は長さ56cm、幅34cmで煙出部に向かって緩やかに傾斜して上のように掘り込まれている。カマド本体の規模は幅85cm、壁面から袖先端までの長さは63cmで天井は崩落し袖部のみが残存する。袖は芯材に礫を据え、黄褐色シルト混じりの黒褐色シルトで覆って構築されている。袖先端部は平行に開き、袖先端部間の距離は55cmを測る。焼成面は煙道部の延長線上に位置し、

焼土範囲は24×21cmで、焼土の層厚は最大5cmである。

＜柱穴＞ 検出していない。

＜遺物＞ 土器は縄文土器2149.6g、古代土器892.6gが出土し、6点（246～250・253）を掲載した。246～250は土師器で246～248は坏、249・250は甕で246～248は床面、249の一部はカマドの袖土内から出土した。いずれも成形にロクロは使用されていない。246は外面中位に段を有し、底部は丸底である。器面調整は内外面にミガキが施され、内面は黒色処理が施されている。247・248は外面に明瞭な段はなく、底部も平底である。器面調整は外面ナデ、内面ミガキが施され、内面は黒色処理が施されている。249・250は器面調整は内外面ナデで外面が縦方向、内面が横方向に調整が施されている。249の底部には木葉痕が確認できる。253は周辺の遺構から混入したと考えられる縄文土器で深鉢の口縁部破片である。石器は磨石類が2点（251・252）出土した。

＜時期＞ 出土した遺物から奈良時代の遺構と考えられ、8世紀中葉～後葉頃と推測する。

31号竪穴建物（第41・42図、写真図版57～59）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区西端のII A 4 s 他複数グリッドに跨がって位置し、II層で検出した。遺構の上層は削平を受ける。また南側も調査区南側の攪乱の影響で失われている。重複する遺構はない。

＜平面形・規模＞ 平面形は方形基調であると推定する。規模は東－西壁間9.93mを測り、北壁－床面南端間4.37mの残存値である。深さは最も残存する北壁上部から床面まで6cmを測る。

＜堆積土＞ 埋土は削平を受け大半が消失しており、床面付近に暗褐色シルトが混じる黒褐色シルトが残るのみである。上層の黒色シルトは本遺構の埋土ではない。

＜壁・床面＞ 壁は北壁の一部のみ残存し、外傾して立ち上がる。床面は平坦で、全域に貼床が施してある。床面から柱穴状土坑5個を確認した。また、一部の壁に沿って幅11～18cmの溝を検出した。

＜カマド＞ カマドは1基、北壁中央部に設置されている。煙道部は掘り込み式の構造で、軸方向はN－2°－Eでほぼ真北を向く。煙道部の規模は長さ103cm、幅40cmで煙出部に向かって水平に掘り込まれている。カマド本体の規模は101cm、壁面から袖先端までは85cmで天井は崩落し、袖部のみが残存する。カマド構築土は黄褐色シルトと黒褐色シルトの混合土で、袖部に芯材は確認できなかったが、覆土に礫が混じることから、これらを芯材として使用していた可能性もある。袖先端部は「ハ」の字状に開き、先端部間の距離は89cmを測る。焼成面は煙道部の延長線上に位置し、焼土範囲は41×31cmで、焼土の層厚は最大4cmである。

＜柱穴＞ 床面から5個検出した。規模はP1が径104cm、P2が径117cmとかなり大規模である。P3～5は径26～33cmである。P1・2が対となるような配置になっており、両者が支柱穴であったと考えられる。

＜遺物＞ 土器は縄文土器9642.6g、古代土器395.8gが出土し、4点（254～257）を掲載した。254・255は土師器甕の破片で、いずれも成形にロクロは使用されていない。器面調整は254の口縁部外面にハケメ、胴部にミガキ、内面は頸部にハケメの痕跡があるが、大半がナデによる調整である。255は外面ミガキ、内面ナデによる。256・257は縄文土器の深鉢破片でいずれも沈線による文様が展開している。土製品は円盤状土製品1点が出土している。石器は2点出土した。259は石鏃、260はスクレイパーで外縁全周に刃部を作出している。土師器甕以外は縄文時代の遺物で遺構外からの混入によるものである。

＜時期＞ 出土遺物の特徴から8世紀代と考えられる。

32号竪穴建物（第43・44図、写真図版60～62）

<位置・検出状況・重複関係> 調査区西側のⅡA 2 w他複数グリッドに跨がって位置し、表土下のV層で検出した。遺構の南西側が削平を受けて失われている。重複する遺構はない。

<平面形・規模> 平面形は方形で、規模は北西－南東壁間で4.58mを測り、北東－南西壁間で4.08mの残存値である。深さは最も残存する北東壁上部から床面まで45cmを測る。

<堆積土> 埋土は自然堆積を呈し、黒褐色シルトを主体とする。全体に褐色シルト、黄褐色シルト、炭化物が混じる。

<壁・底面> 壁は外傾して立ち上がる。北側に張り出しの構造が見られ、立て替えが行われた可能性がある。床面は平坦で、カマド以外のほぼ全ての壁際に沿って幅15～22cmの溝が巡らされている。床面の全域に貼床が施されている。床面から柱穴状土坑5個を確認した。

<カマド> カマドは1基、北東壁東寄りに構築されている。煙道部は刳り抜き式の構造で、軸方向はN-30°-Eを向く。煙道部は床面からほぼ水平に掘削され、1.23mのところで煙出部に接続する。高さは壁面側で14cm、煙出部で15cmである。幅は壁面で12cm、煙出部で17cmだが、壁面から93cmの地点で最大幅20cmを測り、壁面から広がり煙出部に向かって狭まる。構造から煙出部→煙道部の順に掘削されたと考えられる。煙出部の開口部径は34×24cm、底面までの深さは43cmでほぼ垂直に掘り込まれている。カマド本体の規模は幅91cm、壁面から袖先端部までの距離は87cmで天井部は崩落し、袖部のみが残存している。袖は芯材に礫を据え、これを黒褐色シルトで覆って構築されている。両袖はほぼ平行に開き、先端部間距離は71cmを測る。焼成面は煙道部の延長線上に位置し、焼土範囲は66×48cmで楕円形に広がる。焼土の層厚は最大7cmである。

<柱穴> 5個検出した。規模は23～40cm、深さは19～63cmである。P5のみ底面が開口部より広がっている。

<遺物> 土器は縄文土器286.0g、古代土器865.2gが出土し、古代土器2点（261・262）を凶化・掲載した。いずれも土師器で261は坏の口縁部破片で壁溝埋土から出土した。成形はロクロ使用で器面調整は内面にミガキが施されている。262は甕でカマドの崩落土から主に出土した。器面調整は口縁部が内外面ヨコナデ、胴部は内外面ハケメが施されている。

<時期> 出土した遺物から9世紀後半～10世紀前半頃と考えられる。

33号竪穴建物（第44・45図、写真図版63・64）

<位置・検出状況・重複関係> 調査区中央よりやや西側のⅡB 4 aグリッド付近に位置する。後世の造成による盛土を除去した後に検出した。34号竪穴建物と重複関係にあり、これよりも古い遺構であるが、調査段階で34号竪穴建物よりも先に掘り下げたことにより、34号竪穴建物のカマド以外は壁・床面の一部を掘削してしまった可能性がある。またその他の重複遺構としては1号焼成遺構、1・2号陥し穴状遺構などを検出した。

<平面形・規模> 残存箇所から平面形は方形と推測され、規模は東－西壁間で4.46m、深さは床面まで21cmを測る。

<堆積土> 埋土は自然堆積を呈し、黒～黒褐色シルトを主体とする。

<壁・床面> 壁は外傾して立ち上がる。床面は残存する部分では平坦で、貼床が施されているが、34号竪穴建物に切られていることに加え、同遺構の貼床と類似するため判別が難しい状況であった。また、壁溝や柱穴等の附属施設は検出されなかった。

<カマド> カマドは1基、東壁の北東隅付近に構築され、煙道部の構造は刳り抜き式で軸方向はN

-75°-Eを向く。煙道入口側から緩く傾斜して下り、1.92mのところでは煙出部と接続するが、その手前には旧煙出部の底面と考えられる掘り込みがあり、底面の中心は煙道部よりも9cmほど低い。検出した煙道は幅24~36cmで煙道入口側が広い。カマド本体は天井部分が崩落し、袖部のみが残存する。それ以外はカマド構築材に使用されたと考えられる長さ10~43cmの礫と明黄褐色シルト混じりの黒褐色シルトが明赤褐色焼土とともに崩落した状態で検出された。焼成面は煙道部の延長線上に位置し、長さ35cm、幅43cmの範囲に広がっている。焼土の層厚は最大で3cmを測る。

<遺物> 土器は縄文土器5028.6g、古代土器631.6gが出土し、このうち古代の土器4点(263~266)を図化・掲載した。263は土師器坏、264は須恵器坏でロクロによる成形である。器面調整は263が内面にミガキが施されている。265は土師器甕でカマドの袖土から出土した。器面調整は口縁部が内外面ヨコナデ、胴部は外面ナデ、内面はナデのあとにミガキが施されている。266は須恵器甕の胴部破片で外面の胴下半に叩き目痕が認められる。石器は1点出土した。267は磨石で表裏両面に磨痕が認められる。

<時期> 出土した遺物から9世紀後半~10世紀前半頃と考えられる。

34号竪穴建物(第46・47図、写真図版65)

<位置・検出状況・重複関係> 調査区中央よりやや西側のⅡB4aグリッド付近に位置する。後世の造成による盛土を除去した後、33号竪穴建物の精査中にカマドの一部を検出した。位置的に33号竪穴建物の壁面に近い場所にあったことから当初は同遺構に附属するカマドと考えたが、精査を進めていく段階で検出したカマドの設置された壁面が33号竪穴建物の壁面と重複関係にあることが判明した。従ってカマド周辺以外の壁・床面の一部は先行して行った33号竪穴建物の調査時に掘削してしまった可能性がある。またその他の重複遺構としては本遺構よりも古い時期に属する1号焼成遺構、1・2号陥し穴状遺構などを検出した。

<平面形・規模> カマド周辺の一部のみの検出のため全体の規模は不明である。検出面から床面までの深さは29cmを測る。

<堆積土> 埋土は自然堆積を呈し、黒褐色シルトを主体とする。床面付近に貼床土と考えられる明黄褐色シルトと黒褐色シルトの混合土が一部に堆積している。

<壁・床面> 断面観察により北壁が外傾して立ち上がるのを確認した。床面には緩い凹凸があり、壁溝や柱穴等の附属施設は検出されなかった。

<カマド> カマドは1基、東壁に構築されている。煙道部の構造は削平のため不明で軸方向はほぼ真東を向く。煙出部はカマド本体から69cmの位置にあり、規模は開口部径45×43cm、深さは10cmを測り、残存状況から煙道部より低い。カマド本体は天井を含む上部が削平され、袖部とカマド構築材に使用したと考えられる長さ12~35cmの礫が周辺に散在していた。焼成面はカマド袖部先端から西側に46×37cmの範囲で明赤褐色焼土が広がっている。焼土の層厚は最大で3cmを測る。

<遺物> 土器は縄文土器567.6g、古代土器245.7gが出土し、このうち古代の土器2点(268・269)を図化・掲載した。268は土師器坏、269は須恵器坏でカマド付近からの出土である。いずれもロクロによる成形で、器面調整は内外面ロクロナデによる。他に鉄製品1点が貼床から出土した。270は鉄鏃で茎部は欠損しているが鏃身から短頸鏃と考えられる。

<時期> 出土した遺物から9世紀後半~10世紀前半頃と考えられる。

35号竪穴建物（第48・49図、写真図版66・67）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区中央よりやや西側のⅡB4cグリッド付近に位置し、36号竪穴建物下で検出された。カマドを含む遺構東側以外はこれよりも新しい36号竪穴建物、カマドの煙道部先端は攪乱によってそれぞれ切られ、失われている。

＜平面形・規模＞ 残存箇所から平面形は方形と推測され、規模は北-南壁間で4.28m、深さは東壁上部から床面までで35cmを測る。

＜堆積土＞ 埋土は自然堆積を呈し、上～中位は黒色シルト、下位は黒褐色シルトを主体とする。層中に明黄褐色焼土粒と炭化物粒が少量混入している。

＜壁・床面＞ 壁は外傾して立ち上がる。床面は残存する部分では平坦に近く貼床が施されている。また床面北側に柱穴状土坑3個を確認した。

＜カマド＞ カマドは1基、東壁中央よりやや南側に構築されている。煙出部の構造は煙道下部～底面の一部しか残存しないため不明、軸方向はS-86°-Eを向く。煙道入口側から緩く傾斜して下り、1.28mのところの後世の攪乱により失われている。検出した煙道は幅20～32cmで煙道入口側が狭い。カマド本体は天井部分は崩落し、袖部のみが残存するが、先端は36号竪穴建物構築時に壊されている。袖は芯材に10～22cmの礫を据え、これを暗褐色シルトと明黄褐色シルトの混合土で覆って構築されていたと考えられる。焼成面は煙道部の延長線上に位置し、袖同様西側が36号竪穴建物により失われている。焼土の層厚は最大で4cmを測る。

＜柱穴＞ 3個確認した。規模は開口部径が25～34cm、深さ6～42cmを測る。

＜遺物＞ 土器は縄文土器4017.2g、古代土器1682.2gが出土し、このうち古代の土器4点（271～274）を図化・掲載した。いずれも土師器甕で272が貼床、他はカマドからの出土である。いずれもロクロ非使用による成形で、器面調整は内外面ナデによるものである。

＜時期＞ 出土した遺物と36号竪穴建物との重複関係から9世紀後半～10世紀前半頃と考えられる。

36号竪穴建物（第49～51図、写真図版66・68～70）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区中央よりやや西側のⅡB4bグリッド付近に位置し、攪乱下のⅡ層で検出したが、斜面上方の北側に構築されたカマドの一部はV層、それ以外は重複する35号竪穴建物を切って構築されていることを確認した。他に12号土坑と重複し、これよりも新しい。

＜平面形・規模＞ 平面形は方形で規模は北東-南西壁間で4.17m、北西-南東壁間で4.50m、深さは最も残存する北西壁上部から床面で68cmを測る。

＜堆積土＞ 埋土は自然堆積を呈し、黒褐色シルトを主体とし、層中にぶい黄褐色シルト粒と炭化物粒が少量混入している。

＜壁・床面＞ 壁は外傾して立ち上がる。床面は緩い凹凸はあるが、平坦に近い。カマドを除く全ての壁際に沿って幅10～17cmの溝が巡らされ、北西側床面以外には貼床が施されている。また床面で土坑2基と柱穴状土坑5個を確認した。

＜カマド＞ カマドは1基、斜面上位の北東壁中央よりやや東側に構築されている。煙出部は剥き式の構造で軸方向はN-24°-Eを向く。煙道入口側から約12°の傾斜で下り、1.2mのところ煙出部に接続する。規模は高さ32～43cm、幅21～32cmで煙道入口側が最も幅が狭く、高さも低い。煙出部の規模は開口部径61×45cm、底部径31×26cm、底面までの深さは99cmで開口部からやや西側に傾いて掘削されている。カマド本体の天井部分は崩落し、袖部のみが残存している。壁面から袖先端までの長さは右袖114cm、左袖66cmの残存値である。袖は芯材に13～35cmの礫を据え、これを黒褐色シル

ト混じり黄褐色シルトで覆って構築されていたと考えられる。焼成面は煙道部の延長線上に位置し、最大径62×45cmの範囲に広がり、焼土の層厚は4～10cmを測る。

<土坑> 2基検出した。形状はいずれも楕円形を呈し、規模は土坑1が開口部径81×70cm、深さ21cm、土坑2が開口部径87×65cm、深さは68cmを測り、竪穴壁面を掘り込んで構築されている。

<柱穴> 5個確認した。柱痕跡は確認されていない。

<遺物> 土器は縄文土器5118.4g、古代土器7191.1gが出土し、古代土器9点(275～283)、縄文土器2点(286・287)を図化・掲載した。275・276は土師器坏でいずれもロクロ使用による成形で、器面調整は内面ミガキで黒色処理が施されている。底部の切り離し技法は275が回転糸切、276は切り離し後の再調整により不明である。277～282は土師器甕で床面およびカマド周辺から出土している。いずれも成形にロクロは使用されておらず、器面調整は外面ナデ、内面ハケメで277のみ内面ナデによる。口縁部の断面形状はいずれも「く」の字状に開いている。283は須恵器甕の口縁部破片である。286・287は周辺遺構からの混入による縄文土器の深鉢の口縁部破片で、文様は渦巻文が施文されている。土器以外では鉄製品2点(284・285)、石器4点(288～291)、土製品1点(292)が出土した。284は鉄鏃で茎部は欠損しているが鏃身から短頸鏃と考えられる。285は手鎌で埋土から出土した。288・289は石核、290は石皿、291は石棒の先端部、292は斧形土製品である。鉄製品以外は縄文土器同様周辺遺構からの混入と考えられる。

<時期> 35号竪穴建物との重複関係と出土遺物と特徴から10世紀前半頃と考えられる。

37号竪穴建物 (第51図、写真図版71)

<位置・検出状況・重複関係> 調査区東端のⅡB6tグリッド付近に位置し、造成による盛土除去後、V層で検出した。上面は削平されており、壁溝と柱穴のみの検出である。重複している遺構はないが、位置的な要素から28号竪穴建物と重複関係にある可能性がある。出土遺物などから本遺構の方が新しい時期のものである。

<平面形・規模> 壁は検出されていないが、壁溝の状況から形状は方形状を呈すると推測される。規模は不明である。

<堆積土> 埋土はない。

<壁・床面> 壁は削平のため失われ、床面はおおよそ平坦である。床面施設として柱穴10個と壁溝を検出した。

<柱穴> 10個検出した。P1・2・6が壁溝を切り、P1～6が規則的な配列を呈する。規模は開口部径が18～36cm、深さ4～74cmを測る。柱痕跡は確認されていない。

<壁溝> 東西方向に2.45m、東端から南側に向かって1.37m延びる溝を検出した。幅は11～14cm、深さは12cmを測る。

<遺物> P1の埋土中から銭貨1点(293)が出土した。銭名は判読不能である。

<時期> 周辺の類似する遺構との関係から中世と推定される。

38号竪穴建物 (第52図、写真図版72)

<位置・検出状況・重複関係> 調査区東端のⅡB8tグリッド付近に位置し、造成による盛土除去後、Ⅱ層で検出した。斜面下方の南側の壁面は削平され失われていた。重複している遺構はないが、位置的な要素から29号竪穴建物と重複関係にある可能性がある。出土遺物などから本遺構の方が新しい時期のものである。

＜平面形・規模＞ 検出状況から平面形は長方形を呈し、規模は北西－南東壁間3.84m、北東壁－床面南西端間4.30m、検出面から床面までの深さは34cmを測る。

＜堆積土＞ 自然堆積を呈し、黒褐色シルトを主体とする。

＜壁・床面＞ 壁面は垂直気味に立ち上がり、床面は緩い凹凸があるがおおよそ平坦である。柱穴や壁溝などの床面施設はない。

＜遺物＞ 2点を図化・掲載した。294は中国産の青磁稜花皿の口縁部破片、295は深鉢の口縁部破片で刺突を伴う鋸歯状の貼付隆帯を口縁および口唇頂部に施されており、縄文時代前期後葉の大木5式の特徴をもつ。縄文土器は遺構内から4123.1gが出土した。

＜時期＞ 出土遺物から15世紀末葉以降と考えられる。

39号竪穴建物（第52図、写真図版73）

＜位置・検出状況・重複関係＞ II B 7 u グリッドに位置し、40号竪穴建物の床面で検出した。遺構の南東側は調査時のトレンチにより削平され、失われている。

＜平面形・規模＞ 遺構の一部の検出であるが状況から方形状を呈するものと推定される。規模は壁溝残存値で北西－南東間3.16m、北東－南西間1.46m、検出面から床面までの深さは約5cmと浅い。

＜堆積土＞ 黒褐色シルトの単層である。

＜壁・床面＞ 壁面は、直立ぎみに外傾する。地山のV層を床面とし、ほぼ平坦で固く締まる。貼床は施されていない。壁面に沿って幅約10～20cm、深さ約7～10cmの溝を検出した。

＜柱穴＞ 8個検出した。P 1～6は壁面沿いに配列し、規模は開口部径13～31cm、深さ18～43cmを測る。柱痕跡は確認されていない。

＜遺物＞ 石器2点（296・297）が出土した。いずれも磨石類で側面の片方が使用による磨痕により、扁平になっている。

＜時期＞ 検出状況や他遺構との関係から中世の可能性が考えられる。

40号竪穴建物（第53図、写真図版74・75）

＜位置・検出状況・重複関係＞ II B 7 v グリッドに位置し、V層で検出した。遺構の南側は削平のため失われている。63号土坑と重複関係にあり、これよりも新しい。他に39号竪穴建物と重複関係にあるが、新旧関係は不明である。

＜平面形・規模＞ 遺構の一部の検出であるが方形状を呈するものと推定される。規模は北西－南東壁間3.46m、北東壁－南西床面間3.13mの残存値で検出面から床面までの深さは28cmを測る。

＜堆積土＞ 黒褐色シルトを主体とする堆積である。

＜壁・床面＞ 壁面は外傾して立ち上がり、床面は平坦である。床面施設として柱穴13個と壁面に沿って溝を検出した。

＜柱穴＞ 13個検出した。壁際と長軸の中心線上に配列されている。規模は主柱穴が開口部径30cm前後の大きさである。

＜壁溝＞ 壁面に沿って幅は12～34cm、深さは6cmを測る。

＜遺物＞ 土器は縄文土器161.5g、古代土器11.2gが出土したが、小片のため図化・掲載は行っていない。

＜時期＞ 検出状況や他遺構との関係から中世の可能性が考えられる。

(2) 掘立柱建物跡

1号掘立柱建物跡（第54図、写真図版76）

<位置・検出状況・重複関係> 調査区南東のⅡB11sグリッドを含む複数のグリッドに跨がって位置し、Ⅱc層で検出した。重複する遺構はない。

<平面形・規模> P1～4の柱穴4個で構成される。平面形は台形で規模は南北3.05m、東西は北側がP1－P2間で4.40m、南側がP3－P4間で3.86mである。各柱穴の規模は、P1が開口部径98×89cm、底面径63×60cm、深さ84cm、柱痕径46cm、P4が開口部径80×60cm、底面径61×60cm、深さ84cm、柱痕径42cm、P2が開口部径90×84cm、底面径76×72cm、深さ64cm、柱痕跡径43cm、P3が開口部径82×80cm、底面径58×50cm、深さ63cm、柱痕径39cmを測る。

<堆積土> 4個の柱穴には、柱痕跡・掘方が認められる。柱痕跡は黒褐色シルトを主体とし、掘方は地山起源の黄褐色シルトを主体とする。

<遺物> 土器は縄文土器が612.4g出土し、3点（298～300）を図化・掲載した。いずれも深鉢の口縁部破片で298は横位に結節回転が施されたもので前期前葉、299は口唇頂部に突起が付き、口縁部の文様帯に原体圧痕文が施された中期中葉の大木8a式古段階、300は隆帯による渦巻文と有棘文から中期中葉の大木8b式にそれぞれ属する。

<時期> 検出状況と出土遺物から縄文時代前期～中期の可能性が考えられる。

(3) 炉跡

焼成痕跡が石組によって囲まれているもので10基検出した。本来は竪穴建物に伴って使用されていた可能性があるが、後世の造成工事による削平や重複などにより、他の遺構との関係性が不明であったものを単独の遺構として調査・掲載した。

1号炉（第55図、写真図版77）

<位置・検出状況・重複関係> 調査区中央のⅡB4eグリッドに位置する。表土下の造成盛土を除去後に重複する9号竪穴建物の上面で検出した。重複関係は9号竪穴建物より新しい遺構である。

<平面形・規模> 長さ約11～18cmの角礫7個を使用して石組を構成している。炉石は楕円状に配置されるが南東側の礫が一部失われている。規模は約54×48cmを測る。石の抜き取り痕は（掘方痕跡）は、認められなかった。

<焼成面> 焼成面は石組の内面に隣接して検出され、約35×30cmの範囲に褐色焼土の広がりを確認した。焼成は良好ではない。

<埋設土器> 炉の焼成面中央から深鉢（173）が埋設した状態で出土した。胴～底部の破片のみで口縁部はない。

<遺物> 土器は縄文土器920.3gが出土し、2点を図化・掲載した。301・302はいずれも深鉢で301は胴～底部破片で炉に埋設されていたものである。胴部に3本一組の沈線文による文様が描かれている。302は口縁上部に刻みを伴う隆帯、その下に平行する沈線文が横位に展開する。時期はいずれも中期中葉に属する。石器は3点出土した。303・304はいずれも無茎の石鏃で303は基部の一部が欠損している。305は石匙で刃部が縦方向に付いている。石器の石材にはいずれも頁岩が使用されている。

<時期> 出土遺物の年代観から縄文時代中期中葉の大木8a式新段階期～8b式期頃に属する。

2号炉（第55図、写真図版77・78）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区中央よりやや西側のⅡB5dグリッドに位置する。表土下の造成盛土を除去後に重複する8・9号竪穴建物の上面で検出した。重複関係は8・9号竪穴建物より新しい遺構である。

＜平面形・規模＞ 長さ約12～34cmの角礫7個を使用して石組を構成している。炉石は楕円状に配置され、北側の一部と東側の礫は失われている。規模は南北方向に118cmを測り、炉石の一部に抜き取り痕が（掘方痕跡）が認められる。

＜焼成面＞ 焼成面は石組の内面で検出され、約102×42cmの範囲に赤褐色焼土の広がりを確認した。焼土の厚さは最大で10cmを測る。また、他に東側に隣接して褐色焼土の広がりを検出した。規模は78×38cmで楕円状の形状を呈する。焼土の厚さは4cmを測る。位置的に石組の範囲外にあたる。

＜遺物＞ 土器は縄文土器305.2gが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。

＜時期＞ 検出面から縄文時代中期中葉頃と推測される。

3号炉（第55図、写真図版78）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区南東のⅡB9vグリッドに位置し、Ⅱ層の遺物包含層を掘り下げている際に検出した。竪穴建物に伴うものと想定し、炉周辺の検出とベルトの土層観察を行ったが、壁・床面を確認することができなかったため単独の遺構と判断して掲載した。

＜平面形・規模＞ 長さ約20～26cmの扁平な礫5個を使用した石囲炉で、石組の形状は西側の炉石の一部を欠くためC字状の形状を呈する。規模は約56×50cmを測る。石の抜き取り痕（掘方痕跡）は認められなかった。

＜焼成面＞ 焼成面は石組の西側に隣接して検出され、約40×30cmの範囲で暗褐色焼土の広がりを確認した。焼成は良好ではない。

＜遺物＞ なし。

＜時期＞ 検出状況や周辺の出土遺物から、縄文時代中期中葉頃と考えられる。

4号炉（第56図、写真図版78）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区南東のⅡB9tグリッドに位置し、Ⅱ層で検出した。重複する遺構はない。

＜平面形・規模＞ 炉を構成していたと推測される大小10個の礫が92×82cmの範囲に散乱した状態で検出された。検出状況から北側の2個と南側の2個が原位置を留めているものと考えられ、この間の距離は76cmを測る。石の抜き取り痕（掘方痕跡）は認められなかった。

＜焼成面＞ 炉内面および周辺に焼土・炭化物等の焼成痕跡は認められなかった。

＜遺物＞ なし。

＜時期＞ 検出状況や周辺の出土遺物から、縄文時代中期中葉頃と考えられる。

5号炉（第56図、写真図版79）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区中央の南側縁部に近いⅡB5dグリッドに位置し、表土下の造成盛土を除去後に重複する9号竪穴建物の上面で検出した。重複関係は9号竪穴建物より新しい遺構である。

＜平面形・規模＞ 長さ約16～30cmの角礫9個を使用して石組を構成している。炉石は円形に配置さ

れ、全周する。規模は76×74cmで炉石の一部に抜き取り痕（掘方痕跡）が認められる。

＜焼成面＞ 焼成面は石組内面で検出され、約47×43cmの範囲に赤褐色焼土の広がりを確認した。焼土の厚さは最大で4cmを測る。

＜遺物＞ 土器は縄文土器141.8gが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。

＜時期＞ 検出状況や9号竪穴建物との重複関係から縄文時代中期中葉以降に属する。

6号炉（第56図、写真図版79・80）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区南東のⅡB10uグリッドに位置し、Ⅱ層で検出した。重複関係はない。

＜平面形・規模＞ 長さ約12～20cmの扁平な礫6個を使用した石囲炉で炉石はC字状に配置され、西側の礫は失われている。炉の規模は51×46cmである。炉石の抜き取り痕（掘方痕跡）はない。

＜焼成面＞ 炉の内面及び周辺に焼土はなく、微量の炭化物が認められた。

＜遺物＞ なし。

＜時期＞ 検出状況および周辺の出土遺物から、縄文時代中期中葉に属すると推測する。

7号炉（第57図、写真図版80）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区西側のⅡB5cグリッドに位置する。表土下の造成盛土を除去後に重複する8・9号竪穴建物の上面で検出した。重複関係は8・9号竪穴建物より新しい遺構である。

＜平面形・規模＞ 長さ約9～25cmの角礫6個を使用し、楕円状に配置された石囲炉であるが、北西側の炉石は失われている。規模は57×52cmで長軸方向はN-45°-Wを向く。炉石の一部に抜き取り痕（掘方痕跡）が認められる。

＜焼成面＞ 焼成面は石組の内面で検出され、約38×30cmの範囲に焼土粒混じりの炭化物層が広がっている。

＜遺物＞ なし。

＜時期＞ 検出状況と9号竪穴建物との重複関係から縄文時代中期中葉以降に属する。

8号炉（第57図、写真図版80・81）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区西側のⅡB4eグリッドに位置する。表土下の造成盛土を除去後の11号竪穴建物精査中に検出した。重複関係は11号竪穴建物より新しい遺構である。

＜平面形・規模＞ 長さ約10～21cmの礫9個を使用して楕円状に配置された石囲炉であるが、南東側の炉石は失われている。規模は62×46cmで長軸方向はN-32°-Wを向く。炉石の抜き取り痕（掘方痕跡）はない。

＜焼成面＞ 焼成面は石組内面で検出され、約30×28cmの範囲に暗赤褐色焼土が広がっている。焼土の層厚は4cmを測る。

＜遺物＞ なし。

＜時期＞ 重複する11号竪穴建物よりも新しいことから縄文時代中期中葉の大木8a式新段階期以降に属する。

9号炉（第57図、写真図版81）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区西側のⅡB5dグリッドに位置する。表土下の造成盛土を除去後に重複する9号竪穴建物の上面で検出した。重複関係は9号竪穴建物より新しい遺構である。

＜平面形・規模＞ 焼成痕跡から円～楕円形の形状を呈すると推測される石囲炉で、長さ約15～18cmの礫4個のみ原位置を留め、焼成面の外縁に沿って配置されているが、大半の炉石は失われている。焼成面から推測される長軸方向はほぼ東西を向く。炉石の抜き取り痕（掘方痕跡）はない。

＜焼成面＞ 焼成面は石組内面で検出され、78×70cmの範囲に暗褐色～暗赤褐色焼土が広がっている。焼土の層厚は12cmを測る。

＜遺物＞ なし。

＜時期＞ 検出状況と9号竪穴建物との重複関係から縄文時代中期中葉以降に属する。

10号炉（第57図、写真図版82）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区中央よりやや西側のⅡB5bグリッドに位置する。4号竪穴建物の炉に隣接し、これの下面で検出した。重複関係は4号竪穴建物より古い遺構である。

＜平面形・規模＞ 炉に使用されたと推測される長さ29cm・47cmの礫2個がL字状に組まれた状態で検出した。形状・規模は不明である。焼成面は東西方向に広がっている。一部に炉石の抜き取り痕（掘方痕跡）が認められる。

＜焼成面＞ 焼成面は石組を覆うように赤褐色焼土が150×70cmの範囲に楕円状に広がっている。焼土の層厚は11cmを測る。

＜遺物＞ 土器は縄文土器1124.6gが出土し、2点（306・307）を図化・掲載した。いずれも深鉢の胴部破片で307は焼土から出土した。文様は306が縦位に小波状文、307が渦巻文、有棘文がそれぞれ沈線により描かれている。

＜時期＞ 出土遺物から縄文時代中期中葉の大木8a式新段階期に属すると推測する。

（4）焼土遺構

焼成痕跡のうち石組がなく、他の遺構との関係性が不明であったものを単独の遺構として調査・掲載した。12基検出した。

1号焼土（第58図、写真図版83）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区南東のⅡB11pグリッド付近に位置する。Ⅱa層の遺物包含層の掘り下げ中に検出した。重複する遺構はない。

＜平面形・規模＞ 形状はやや歪な楕円形を呈し、規模は長軸81cm、短軸53cmである。

＜焼成面＞ 現地性焼土で全体に暗褐色を呈する。焼土底面は凹凸があり、斜面下方の南側に向かって緩く傾斜して下る。焼土の層厚は6cmを測る。

＜遺物＞ 土器は縄文土器18.3gが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。

＜時期＞ 遺構の検出面から縄文時代中期中葉以前と考えられるが、時期を特定しうる遺物がないため詳細は不明である。

2号焼土（第58図、写真図版83）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区南東のⅡA2tグリッドに位置する。30号竪穴建物と重複関

係にあり、これよりも新しい遺構である。

＜平面形・規模＞ 不整な形状で、規模は南北方向57cm、東西方向67cmである。

＜焼土＞ 現地性焼土で全体に褐色を呈する。焼土底面は平坦で焼土の厚さは3cmを測る。

＜遺物＞ なし。

＜時期＞ 30号竪穴建物と重複関係にあり、これよりも新しいことから奈良時代以降と考えられるが出土遺物がないため詳細は不明である。

3号焼土（第58図、写真図版83）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区東側のⅡB7sグリッドに位置し、Ⅱ層で検出した。重複する遺構はない。

＜平面形・規模＞ 形状はやや歪んだ楕円形を呈し、規模は50×40cmである。

＜焼土＞ 現地性の焼土で全体に赤褐色を呈する。焼土底面中央が深くなり、焼土の厚さは4cmを測る。焼土の焼成は良好で焼土上面に炭化物粒・炭化材を多量に含む黒褐色シルトが堆積している。

＜遺物＞ なし。

＜時期＞ 検出面および周辺遺構との関連から中世の遺構の可能性が考えられる。

4号焼土（第58図、写真図版83）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区東側のⅡB8sグリッドに位置し、Ⅱ層で検出した。重複する遺構はない。

＜平面形・規模＞ 不整な形状を呈し、規模は長軸72cm、短軸55cmである。

＜焼土＞ 現地性焼土で全体に明赤褐色を呈し、上面に炭化物を含む黒褐色シルトが堆積する。焼土底面は凹凸で、焼土の層厚は3cmを測る。

＜遺物＞ なし。

＜時期＞ 検出面および周辺遺構との関連から中世の遺構の可能性が考えられる。

5号焼土（第59図、写真図版84）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区東端のⅡB9vグリッドに位置し、Ⅱ層で検出した。焼土は大小4箇所に分かれて点在し、一部は調査区外へと延びている。重複する遺構はない。

＜平面形・規模＞ 不整な形状を呈し、全体に径26cmの範囲に焼土が広がっている。

＜焼土＞ にぶい赤褐色焼土が斑に混入していることから、二次堆積と考えられる。焼土の厚さは最大4cmを測る。

＜遺物＞ なし。

＜時期＞ 検出状況および周辺の出土遺物から、縄文時代中期中葉の遺構と考えられる。

6号焼土（第59図、写真図版84）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区中央のⅡB3eグリッドに位置し、10号竪穴建物の精査中に検出した。10号竪穴建物よりも新しい遺構である。

＜平面形・規模＞ 形状は歪んだ楕円形を呈し、規模は長軸70cm、短軸41cmである。

＜焼土＞ 赤褐色焼土とにぶい黄褐色シルトによる互層で、焼土の厚さは3～8cmを測る。

＜遺物＞ 土器は縄文土器260.3gが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。

<時期> 重複関係にある10号竪穴建物よりも新しい遺構であることから縄文時代中期中葉の大木8a式新段階期以降に属すると考えられる。

7号焼土（第59図、写真図版84）

<位置・検出状況・重複関係> 調査区東側のⅡB7pグリッドに位置する。焼土は東側に広がる白色粘土層上で検出した。白色粘土層の検出はⅡ層である。

<平面形・規模> 形状は歪んだ楕円形を呈し、規模は長軸50cm、短軸45cmである。

<焼土> 現地性焼土でにぶい赤褐色を呈する。焼土の厚さは4cmを測る。

<遺物> 土器は縄文土器3.1gが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。

<時期> 出土遺物がないことから詳細は不明であるが、検出状況から縄文時代の遺構と考えられる。

8号焼土（第59図、写真図版84）

<位置・検出状況・重複関係> 調査区南東のⅡB9tグリッドに位置し、Ⅱc層で検出した。重複する遺構はない。

<平面形・規模> 形状は楕円形を呈し、規模は41×34cmである。

<焼土> 焼土は明赤褐色を呈するが、層中に黒褐色シルトブロックを多く含むことから二次堆積によるものである可能性がある。焼土の厚さは3～6cmを測り、焼土底面は凹凸である。

<遺物> なし。

<時期> 検出面から縄文時代前期に属する遺構と考えられる。

9号焼土（第60図、写真図版85）

<位置・検出状況・重複関係> 調査区中央より西側のⅡB5dグリッドに位置し、表土下の造成盛土を除去後に重複する9号竪穴建物の上面で検出した。重複関係は9号竪穴建物より新しい。

<平面形・規模> 形状は楕円形を呈し、規模は74×64cmである。

<焼土> 現地性焼土で焼土は赤褐色を呈する。焼土底面中央部は挿鉢状に中央部が深くなっている。焼土の厚さは最大15cmを測る。

<遺物> 土器は縄文土器94.9gが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。

<時期> 9号竪穴建物との重複関係から縄文時代中期中葉以降に属すると考えられる。

10号焼土（第60図、写真図版85）

<位置・検出状況・重複関係> 調査区中央より西側のⅡB5cグリッドに位置し、表土下の造成盛土を除去後に重複する9号竪穴建物の上面で検出した。重複関係は9号竪穴建物より新しい。

<平面形・規模> 形状は歪んだ楕円形を呈し、規模は71×60cmである。

<焼土> 現地性焼土で焼土は赤褐色～明赤褐色を呈する。焼土底面は凹凸があり、焼土の厚さは最大6cmを測る。

<遺物> 土器は縄文土器37.7gが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。

<時期> 9号竪穴建物との重複関係から縄文時代中期中葉の大木8a式新段階期以降に属する。

11号焼土（第60図、写真図版85）

<位置・検出状況・重複関係> 調査区中央より西側のⅡB5dグリッドに位置し、表土下の造成盛

土を除去後、重複する9号竪穴建物の上面で検出した。重複関係は9号竪穴建物より新しい。

〈平面形・規模〉 形状は歪んだ楕円形を呈し、規模は長軸60cm、短軸46cmである。

〈焼土〉 現地性焼土で焼土は赤褐色を呈する。焼土底面は中央部が深く、緩い凹凸があり、焼土の厚さは最大で5cmを測る。

〈遺物〉 土器は縄文土器103.8gが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。

〈時期〉 9号竪穴建物との重複関係から縄文時代中期中葉の大木8 a 式新段階期以降に属する。

12号焼土（第60図、写真図版85）

〈位置・検出状況・重複関係〉 調査区中央より西側のⅡB5cグリッドに位置し、表土下の造成盛土を除去後、重複する9号竪穴建物の上面で検出した。重複関係は9号竪穴建物より新しい。

〈平面形・規模〉 形状は歪んだ楕円形を呈し、規模は長軸46×38cmである。

〈焼土〉 現地性焼土で焼土はにぶい赤褐色を呈する。焼土底面は緩い凹凸があるが、概ね平坦で、焼土の厚さは4cmを測る。

〈遺物〉 なし。

〈時期〉 9号竪穴建物との重複関係から縄文時代中期中葉の大木8 a 式新段階期以降に属する。

（5）焼成遺構

土坑状に掘り込まれ、底面に焼成痕跡のある遺構を焼成遺構とした。1基のみ検出した。

1号焼成遺構（第60図、写真図版86）

〈位置・検出状況・重複関係〉 調査区中央よりやや西側のⅡB5aグリッドに位置し、3号竪穴建物の床面下で検出した。3・5・33・34号竪穴建物と重複関係にあり、これらより古い。

〈平面形・規模〉 平面形は楕円形を呈し、規模は開口部径79×60cm、底部径65×50cm、検出面から底面までの深さは12cmを測る。

〈堆積土〉 埋土はにぶい黄褐色シルトの単層である。

〈焼成面〉 土坑底面の北側で26×24cmの範囲に焼成痕跡を検出した。焼土は赤褐色を呈し、厚さ5cmを測る。

〈壁・底面〉 壁面は外傾して立ち上がり、底面は西側壁面に向かって緩く傾斜しているが概ね平坦である。

〈遺物〉 土器は縄文土器16.1gが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。

〈時期〉 出土遺物が少ないことから詳細は不明であるが、他遺構との重複関係から縄文時代中期中葉の大木8 a 式新段階期以前に属する。

（6）土坑

調査区全体で66基検出した。時期は65・66号土坑が近世、他は縄文時代に属すると考えられる。

1号土坑（第61図、写真図版86）

〈位置・検出状況・重複関係〉 調査区西側の平坦地、ⅡA5wグリッド他に跨がって位置している。検出面はⅢ層で、遺構南側は造成による削平の影響で失われている。重複する遺構はない。

〈平面形・規模〉 遺構の南側が失われているが、形状は楕円形であったと推定する。規模は開口部

径240×152cm、底部径165×122cmの残存値である。検出面から底面までの深さは34cmを測る。

＜堆積土＞ 埋土は自然堆積で黒褐色シルトを主体とする。中～下位の東壁際に壁崩落土の暗褐色シルト、黄褐色シルトが堆積する。

＜壁・底面＞ 断面形状は皿状を呈し、底面はほぼ平坦である。壁面は外傾して立ち上がる。

＜遺物＞ 土器は縄文土器6751.2gが出土し、2点（308・309）を図化・掲載した。いずれも深鉢で口縁が波状を呈し、文様構成は308が口縁部無文、胴部に沈線文、309は縄文のみである。

＜時期＞ 出土遺物から縄文時代中期中葉～後葉頃と推測する。

2号土坑（第61図、写真図版86）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区中央より西側のⅡA5y・ⅡB5aグリッドに跨がって位置している。検出面はV層で、5号竪穴建物・P34と重複し、これよりも古い。

＜平面形・規模＞ 北東部をP34に壊されているが、形状は円形を呈する。規模は開口部径73×55cm、底部径50×43cm、検出面から底面までの深さは60cmを測る。

＜堆積土＞ 埋土は大きく3つに分かれる。上位は暗褐色シルトを主体とし、中位は暗褐色シルト、にぶい黄褐色シルト、黄褐色シルトの混合土、下位は黒褐色シルト、黄褐色シルトにぶい黄褐色シルトが堆積する。堆積状況から人為堆積であると判断した。

＜壁・底面＞ 壁は、西壁が74°の角度で外傾して立ち上がる。東壁は、底面から中段までは外傾して立ち上がり、中段から開口部まではほぼ垂直に立ち上がる。底面は若干丸みをおびる。

＜遺物＞ 土器は縄文土器132.8gが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。

＜時期＞ 出土遺物が少ないことから詳細は不明であるが、他遺構との重複関係から縄文時代中期中葉の大木8b式期以前に属する。

3号土坑（第61図、写真図版86）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区中央部より西側のⅡB5aグリッドに位置している。検出面はV層で、5号竪穴建物と重複しこれより古い。

＜平面形・規模＞ 形状はやや歪んだ円～楕円形を呈する。規模は開口部径82×71cm、底部径57×56cm、検出面から底面までの深さは27cmを測る。

＜堆積土＞ 埋土は自然堆積を呈し、上～中位は暗褐色シルト、下位は黒褐色シルトの堆積である。

＜壁・底面＞ 壁は急角度で外傾して立ち上がり、底面は平坦ではなく中央部がやや窪む形状である。

＜遺物＞ なし。

＜時期＞ 出土遺物が少ないことから詳細は不明であるが、他遺構との重複関係から縄文時代中期中葉の大木8b式期以前に属する。

4号土坑（第61図、写真図版87）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区中央部西側、ⅡB4bグリッドに位置する。2号竪穴建物の精査中に床面から検出した。2・35・36号竪穴建物、5号土坑と重複しこれらよりも古い。また本遺構の南側に位置する4号竪穴建物とも重複していた可能性がある。

＜平面形・規模＞ 形状は歪んだ円形に近い形状を呈する。規模は開口部径163×135cm、底部径81×66cm、検出面から底面までの深さは119cmを測る。

＜堆積土＞ 埋土は5層に分かれる。上位は黄褐色シルトを主体とし、中位は褐色シルト、下位は黄

褐色資質シルトと明黄褐色シルトが堆積する。また2層と4層には、暗褐色シルトが層状に含まれる。堆積状況から5号土坑構築の際に埋め戻された人為堆積と考えられ、

〈壁・底面〉 壁は外傾して立ち上がるが、西壁のみ中段が外側に膨らむ。底面は東側がやや高まるが平坦である。

〈遺物〉 なし。

〈時期〉 出土遺物が少ないことから詳細は不明であるが、他遺構との重複関係から縄文時代中期中葉の大木8b式期以前に属する。

5号土坑（第62図、写真図版87）

〈位置・検出状況・重複関係〉 調査区中央より西側のⅡB4bグリッドに位置し、2号竪穴建物の精査中に床面から検出した。2・35・36号竪穴建物、4号土坑と重複し、2・34・35号竪穴建物より古く、4号土坑より新しい。また本遺構の南側に位置する4号竪穴建物とも重複していた可能性がある。

〈平面形・規模〉 形状は開口部が歪んだ円形、底部が長楕円～方形を呈する。規模は開口部径167×156cm、底部径102×43cm、検出面から底面までの深さは149cmを測る。

〈堆積土〉 埋土は自然堆積を呈し、全体に暗褐色シルトを主体とした堆積である。

〈壁・底面〉 壁は底面～中段にかけて直立気味に立ち上がり、上段から開口部にかけて外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

〈遺物〉 土器は縄文土器1216.6gが出土し、1点を図化・掲載した。310は深鉢の胴部破片で隆帯が施されている。石器は2点（311・312）出土した。311は石匙、312は磨製石斧で基部が欠損している。石材には311が頁岩、312が蛇紋岩が使用されている。

〈時期〉 出土遺物から縄文時代中期中葉に属する。

6号土坑（第62図、写真図版87）

〈位置・検出状況・重複関係〉 調査区中央より西側のⅡB5bグリッドに位置し、V層で検出した。4号竪穴建物と重複すると考えられるが、新旧関係は不明である。

〈平面形・規模〉 形状は歪んだ楕円形を呈し、規模は開口部径114×66cm、底部径94×43cm、検出面から底面までの深さは38cmを測る。

〈堆積土〉 埋土は自然堆積を呈し、全体に暗褐色シルトを主体とした堆積で、底面直上に黄褐色シルトを含む黒褐色シルトが堆積する。

〈壁・底面〉 壁は外傾ないし外反して立ち上がる。底面は中央部がやや窪む形状である。

〈遺物〉 土器は縄文土器130.0gが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。石器は1点出土した。313は磨石類で楕円形の石材の片側側面を使用面としている。

〈時期〉 検出状況から縄文時代中期中葉以前に属する。

7号土坑（第62図、写真図版87）

〈位置・検出状況・重複関係〉 調査区中央より西側のⅡB5bグリッドに位置し、V層で検出した。4・35・36号竪穴建物と重複し、これらよりも古い。

〈平面形・規模〉 開口部の形状は楕円形、底部の形状は円形を呈し、規模は開口部径97×62cm、底部径51×48cm、検出面から底面までの深さは70cmを測る。

〈堆積土〉 埋土は自然堆積で9層に分かれる。上位は暗褐色シルトを主体とし、下位は暗褐色粘土

質シルトを主体とする。また、上～中位にかけて粒状の炭化物が混入する。

＜壁・底面＞ 壁は、底面から直立気味に立ち上がった後、中段から開口部にかけて内湾気味に立ち上がる西壁に対し、東壁は急角度で外傾して立ち上がる。

＜遺物＞ 土器は縄文土器322.5gが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。

＜時期＞ 4号竪穴建物との重複関係から縄文時代中期中葉以前に属する。

8号土坑（第62図、写真図版87）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区中央より西側のⅡB5bグリッドに位置し、V層で検出した。4・35・36号竪穴建物と重複し、これらより古い。

＜平面形・規模＞ 形状は円形を呈する。規模は開口部径80×80cm、底部径71×69cm、検出面から底面までの深さは24cmを測る。

＜堆積土＞ 埋土は自然堆積で5層に分かれる。上位は黄褐色シルトを含む褐～暗褐色シルト、下位は暗褐色砂質シルト、暗褐色粘土質シルトを主体とする。

＜壁・底面＞ 壁は底面から垂直に近い角度で外傾して立ち上がり、底面は凸凹している。

＜遺物＞ 土器は縄文土器78.6gが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。

＜時期＞ 4号竪穴建物との重複関係から縄文時代中期中葉以前に属する。

9号土坑（第63図、写真図版88）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区中央より西側のⅡB5b・5cグリッドに跨がって位置し、V層で検出した。8・35・36号竪穴建物と重複し、これらより古い。

＜平面形・規模＞ 形状は円形を呈し、規模は開口部径56×52cm、底部径42×38cm、検出面から底面までの深さは22cmを測る。

＜堆積土＞ 埋土は自然堆積で、全体に暗褐色シルトを主体とする。中～下層の南壁際に黒褐色粘土質シルトが堆積している。

＜壁・底面＞ 南壁は外傾、北壁は垂直に近い角度で立ち上がり、底面は緩い凹凸があるがおおよそ平坦である。

＜遺物＞ なし。

＜時期＞ 8号竪穴建物との重複関係から縄文時代前期に属すると推測する。

10号土坑（第63図、写真図版89）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区中央より西側のⅡB2c・3cグリッドに跨がって位置し、表土下のV層で検出した。重複する遺構はない。

＜平面形・規模＞ 開口部形状は方形気味の楕円形、底部形状は楕円形を呈する。規模は開口部径137×106cm、底部径58×41cm、検出面から底面までの深さは80cmを測る。

＜堆積土＞ 埋土は自然堆積で、上～中位にかけては暗褐色シルトを主体とし、下位に灰黄褐色シルトが堆積する。中位には、にぶい黄褐色シルトブロックが混じる。

＜壁・底面＞ 壁は北西壁が外反気味、南東壁が外傾して立ち上がり、どちらも上部～開口部にかけて大きく開く。底面は若干の凹凸があるが、おおよそ平坦である。

＜遺物＞ なし。

＜時期＞ 出土遺物がなく、重複する遺構もないため詳細は不明である。

11号土坑（第63図、写真図版88）

〈位置・検出状況・重複関係〉 調査区中央より西側のⅡB3c他複数グリッドに跨がって位置し、36号竪穴建物の貼床除去後のV層で検出した。35・36号竪穴建物と重複し、これらより古い。

〈平面形・規模〉 形状は楕円形で、規模は開口部径94×80cm、底部径63×38cm、検出面から底面までの深さは60cmを測る。

〈堆積土〉 埋土は自然堆積で、上位は黒褐～暗褐色シルト、中～下位は褐色シルトを主体とした堆積である。上～中位にかけて炭化物が含まれる。

〈壁・底面〉 断面形は播鉢状で、底面は中央部が窪んでいる。

〈遺物〉 土器は縄文土器が1524.1g出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。

〈時期〉 出土遺物から縄文時代に属するが詳細は不明である。

12号土坑（第63図、写真図版88）

〈位置・検出状況・重複関係〉 調査区中央より西側のⅡB4cグリッドに位置し、Ⅱ層で検出した。35・36号竪穴建物と重複し、これよりも古い。

〈平面形・規模〉 遺構の南側を36号竪穴建物P1及びカマドに切られているが、形状はやや歪んだ円形であったと考えられる。規模は開口部径83×58cmの残存長、底部径58×49cmである。検出面から底面までの深さは54cmを測る。

〈堆積土〉 埋土は、上位の大半を36号竪穴建物のカマドに削平されているが、北壁際に黒褐色シルトが堆積している。中位は黒褐～暗褐色シルト、下位は黒褐色シルトとにぶい黄褐色シルトの堆積である。堆積状況から自然堆積と考えられる。

〈壁・底面〉 壁は外反して立ち上がる。底面はおおよそ平坦である。

〈遺物〉 なし。

〈時期〉 出土遺物がないため、詳細は不明であるが、検出状況から縄文時代の可能性が考えられる。

13号土坑（第64図、写真図版89）

〈位置・検出状況・重複関係〉 調査区中央付近のⅡB3dグリッドに位置する。V層で検出した。重複する遺構はない。

〈平面形・規模〉 形状は歪んだ楕円形を呈し、規模は開口部径122×67cm、底部径127×56cm、検出面から底面までの深さは43cmを測る。

〈堆積土〉 埋土は7層に分かれる自然堆積で、にぶい黄褐色シルトを主体とし、中位に暗褐色シルト、下位の西壁際に黄褐色シルトが堆積する。また全体に炭化物、中～下位にかけて黒褐色シルトと褐色シルトのブロックが混じる。

〈壁・底面〉 壁面は北西壁がオーバーハングし、南東壁がほぼ垂直に立ち上がる。底面の西側は平坦だが東側には凹凸がある。また西側と北側の一部が開口部よりも広がっている。

〈遺物〉 土器は縄文土器228.8gが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。

〈時期〉 出土遺物から縄文時代の遺構であるが、詳細は不明である。

14号土坑（第64図、写真図版88）

〈位置・検出状況・重複関係〉 調査区中央付近のⅡB3d他複数グリッドに位置する。V層で検出した。重複する遺構はない

＜平面形・規模＞ 形状は円形を呈し、規模は開口部径152×142cm、底部径169×165cm、検出面から底面までの深さは53cmを測る。

＜堆積土＞ 埋土は自然堆積を呈する。上位は黒褐～暗褐色シルト、下位はにぶい黄褐色シルトが堆積する。全体に炭化物と小礫が含まれる。

＜壁・底面＞ 壁は内傾して立ち上がり、底面は緩い凹凸はあるが、ほぼ平坦である。

＜遺物＞ 土器は縄文土器1599.3gが出土し、2点（314・315）を図化・掲載した。314・315はいずれも深鉢の破片で口縁部に沈線による文様が施されている。石器は1点出土した。316は磨石類で両面に磨痕、また両面と片側端部に敲打痕が認められる。

＜時期＞ 出土遺物から縄文時代中期中葉の大木8 a 式新段階期である。

15号土坑（第64図、写真図版89）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区中央付近のⅡB 4 d グリッドに位置し、V層で検出した。P 76と重複しこれよりも古い。

＜平面形・規模＞ 形状は楕円形を呈し、規模は開口部径133×117cm、底部径50×40cm、検出面から底面までの深さは39cmを測る。

＜堆積土＞ 埋土は6層に分かれる。上位は暗褐色シルトとにぶい黄褐色シルト、中位は暗褐色シルト、下位は褐色シルトと黒褐色粘土質シルトが堆積する。全体に炭化物、上位に黄褐色粘土質シルトのブロック、中位に赤褐色の焼土ブロックが混じる。堆積状況から人為堆積と考えられる。

＜壁・底面＞ 壁面は西壁が内湾、東壁が外反ないし、直立気味の階段状に立ち上がる。底面は平坦である。

＜遺物＞ 土器は縄文土器194.9g出土し、1点を図化・掲載した。317は深鉢の口縁部破片で波状口縁を呈する。隆帯による渦巻文が施文されている。

＜時期＞ 出土遺物から縄文時代中期中葉、大木8 a 式新段階期である。

16号土坑（第64図、写真図版89）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区中央北側の平坦地、ⅡB 2 e グリッドに位置する。表土下のV層で検出した。重複する遺構はない。

＜平面形・規模＞ 形状は方形気味の楕円形で、規模は開口部径223×198cm、底部径217×206cm、検出面から底面までの深さは65cmを測る。

＜堆積土＞ 埋土は8層に分かれる。上～中位にかけて、暗褐色シルト、黄褐色シルト、明黄褐色シルト、黄橙色シルト、にぶい黄橙色シルトが混在し、下位は風化花崗岩粒混じりの明黄褐色シルトが堆積する。堆積状況から自然堆積と考えられるが、風倒木の可能性もある。

＜壁・底面＞ 東壁は内傾、西壁は外反気味にオーバーハングして立ち上がる。若干の凹凸は見られるが、底面はおおむね平坦である。

＜遺物＞ 土器は縄文土器917.5g出土し、1点を図化・掲載した。318は深鉢の口縁部破片で沈線により区画され円文、波状文が施文されている。

＜時期＞ 出土遺物から縄文時代中期中葉、大木8 a 式新段階期である。

17号土坑（第65図、写真図版90）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区中央のⅡB 3 e 他複数グリッドに跨がって位置し、表土下の

V層で検出した。18号土坑と重複し、これよりも古い。

〈平面形・規模〉 重複する18号土坑により底面の一部が消失するが、平面形は歪んだ楕円形の形状で、規模は開口部径139×119cmを測り、底部径219×(158)cmの残存長である。検出面から底面までの深さは91cmを測る。

〈堆積土〉 埋土は5層に分かれる。2層のにぶい黄橙色砂が大半を占め、上位はにぶい黄褐色砂質シルト、下位はにぶい黄褐色砂、暗褐色シルト、にぶい黄褐色シルトが堆積する。堆積状況から斜面崩落土の流れ込みによる自然堆積と考えられる。

〈壁・底面〉 南壁の一部が18号土坑により消失するが、断面形状はフラスコ形である。底面は南側が低くなっている。

〈遺物〉 なし。

〈時期〉 18号土坑との重複関係から縄文時代中期中葉以前の遺構である。

18号土坑（第65図、写真図版90）

〈位置・検出状況・重複関係〉 調査区中央のⅡB3d・3eグリッドに跨がって位置し、V層で検出した。17号土坑と重複し、これより新しい。

〈平面形・規模〉 形状は円形を呈し、規模は開口部径117×115cm、底部径184×175cm、検出面から底面までの深さは110cmを測る。

〈堆積土〉 埋土は8層に分かれ、北側の上～中位の大半ににぶい黄褐色砂質シルトが堆積するが、全体に上位は灰黄褐色シルトと黒褐色シルト、中位は暗褐色シルト、にぶい黄褐色シルト、黒色シルト、下位は暗褐色シルトとにぶい黄褐色粘土質シルトが堆積する。状況から、斜面崩落土の流れ込みによる堆積と考えられる。

〈壁・底面〉 断面形状は、壁が内傾して立ち上がるフラスコ形で、底面は南側がやや低くなっている。

〈遺物〉 土器は縄文土器9371.1gが出土し、12点（319～330）を図化・掲載した。器種は319～327・330が深鉢、328が浅鉢、329が小型鉢（ミニチュア）である。深鉢は321が波状口縁で、他は平縁である。口縁部の上下に隆帯を巡らせて胴部と区画し（320～327・330）、そこに隆帯による渦巻文（321・323）、波状文（320）、区画文（324・325）が施文されている。326・327は胴部に渦巻文が施文されている。

〈時期〉 出土遺物から縄文時代中期中葉、大木8a式新段階～大木8b式期である。

19号土坑（第65図、写真図版90）

〈位置・検出状況・重複関係〉 調査区中央のⅡB3e・4eグリッドに跨がって位置する。10号竪穴建物の床面のV層で検出した。10号竪穴建物と重複し、これより古い。

〈平面形・規模〉 平面形は不整な形状で、規模は開口部径76×63cm、底部径65×51cm、検出面から底面までの深さは43cmを測る。

〈堆積土〉 埋土は暗褐色シルトを主体とし、上位には褐色シルト、下位には明黄褐色シルトが混在する。堆積状況から人為堆積と考えられる。

〈壁・底面〉 壁は外傾ないし直立気味に立ち上がる。底面は東側が一段低くなる。

〈遺物〉 土器は縄文時代135.0gが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。

〈時期〉 重複する10号竪穴建物との関係から縄文時代中期中葉以前である。

20号土坑（第66図、写真図版90）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区中央のⅡB3e・4eグリッドに跨がって位置し、V層で検出した。P133と重複し、これよりも古い。

＜平面形・規模＞ 遺構の東側がP133との重複で失われているが、形状は円形基調と推定できる。規模は開口部径64×54cmの残存長である。底部径は90×87cm、検出面から底面までの深さは78cmを測る。

＜堆積土＞ 埋土は自然堆積を呈し、上位は暗褐色シルト、中位は褐色シルトを主体とし、下位に褐色シルトと黒褐色砂質シルトが堆積する。

＜壁・底面＞ 西壁は内傾して立ち上がり、開口部付近で外傾し広がる。東壁は残存していない。底面は約6°の傾斜で東に向かって下る。

＜遺物＞ なし。

＜時期＞ 出土遺物がないことから詳細は不明であるが、検出状況から縄文時代の遺構と考えられる。

21号土坑（第66図、写真図版91）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区中央のⅡB4eグリッドに位置する。検出面はV層である。P102と重複し、これよりも新しい。

＜平面形・規模＞ 形状は円形を呈し、規模は開口部径91×88cmで、底部径69×67cm、開口部から底面までの深さは37cmを測る。

＜堆積土＞ 埋土は4層に分かれ、上位は黒褐色シルト、中位はにぶい黄褐色シルト、下位は黒褐色シルトと暗褐色シルトが堆積する。全体に褐色シルトブロックと炭化物が混じる。堆積状況より人為堆積と考えられる。

＜壁・底面＞ 壁は外傾ないし外反して立ち上がる。底面は平坦である。

＜遺物＞ なし。

＜時期＞ 出土遺物がないことから詳細は不明であるが、検出状況から縄文時代の遺構と考えられる。

22号土坑（第66図、写真図版91）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区中央のⅡB4eグリッドに位置し、V層で検出した。本遺構の検出面より上層にP49が存在するが、直接の重複はない。遺構の南側は攪乱によって消失する。

＜平面形・規模＞ 形状は円形を呈し、規模は開口部径103×95cm、底部径143×136cm、検出面から底面までの深さは67cmを測る。

＜堆積土＞ 埋土は暗褐色シルトを主体とした自然堆積である。

＜壁・底面＞ 壁面は、北壁が内傾して立ち上がり、南壁は攪乱の影響で残存しない。底面は平坦である。

＜遺物＞ 土器は縄文土器2539gが出土し、2点（331・332）を図化・掲載した。深鉢の胴部破片で沈線文が施されている。

＜時期＞ 出土遺物から縄文時代中期中葉、大木8a式新段階期である。

23号土坑（第66図、写真図版91）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区中央のⅡB4e・4fグリッドに跨がって位置する。10・11号竪穴建物の床面のV層から検出した。10・11号竪穴建物と重複し、これよりも古い。

<平面形・規模> 形状は歪んだ楕円形で、規模は開口部径124×105cm、底部径107×85cm、検出面から底面までの深さは32cmを測る。

<堆積土> 埋土は自然堆積を呈し、暗褐～褐色シルトを主体とする。

<壁・底面> 壁は80°の角度で外傾して立ち上がり、底面は平坦である。また底面から径30cm前後のピットを3基検出したが、配置などに規則性が見られないことから、逆茂木などではないと判断した。

<遺物> なし。

<時期> 10・11号竪穴建物との重複関係から縄文時代中期中葉、大木8 a 式新段階期以前の遺構である。

24号土坑（第67図、写真図版91）

<位置・検出状況・重複関係> 調査区中央のⅡB5 e 他複数グリッドに跨がって位置し、Ⅲ層で検出した。重複する遺構はない。

<平面形・規模> 形状は円形で、規模は開口部径107×105cm、底部径92×91cm、検出面から底面までの深さは23cmを測る。

<堆積土> 埋土は3層に分かれ、上位は明赤褐色焼土が混じる黒色シルト、下位は黒色シルトが混じる黒褐色シルトが主体である。堆積状況から人為堆積と考えられる。

<壁・底面> 断面形状は皿状を呈し、壁は外反して立ち上がり、底面は平坦である。

<遺物> 土器は縄文土器395.4gが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。

<時期> 検出状況から縄文時代中期中葉頃の遺構と推測する。

25号土坑（第67図、写真図版92）

<位置・検出状況・重複関係> 調査区中央のⅡB5 e グリッドに位置する。検出面はⅢ層である。重複する遺構はない。

<平面形・規模> 形状は楕円形で、規模は開口部径218×179cm、底部径167×139cm、検出面から底面までの深さは62cmを測る。

<堆積土> 埋土は自然堆積を呈する。上位は黒色シルトを主体とし、中～下位は黒褐色粘土質シルトを主体とする。中位には暗褐色粘土質シルトブロック、下位の壁際に黄褐色粘土質シルトブロックがそれぞれ混じる。

<壁・底面> 壁は内湾気味に立ち上がる。底面は凹凸があり平坦ではない。

<遺物> 土器は縄文土器1252.4gが出土し、2点（333・334）を図化・掲載した。いずれも深鉢の口縁部破片で333は口縁部無文で胴部に隆沈線による渦巻文が施されている。334は口縁部が隆帯による無文帯で円孔を伴う。石器は2点出土した。335は石鏃、336は石棒か石剣の一部でどちらも石材には頁岩が使用されている。

<時期> 出土遺物から縄文時代中期中葉に属する。

26号土坑（第67図、写真図版92）

<位置・検出状況・重複関係> 調査区中央北側の平坦地、ⅡB2 f・3 f グリッドに跨がって位置し、表土下のⅤ層で検出した。27・28号土坑と重複し、これらよりも古い。

<平面形・規模> 遺構の東側を27号土坑、西側を28号土坑により消失するが、形状は円形基調と推定できる。規模は開口部径112×61cm、底部径106×74cmの残存長である。検出面から底面までの深さ

は43cmを測る。

<堆積土> 埋土は黒褐色シルトを主体とし、全体に炭化物と風化花崗岩粒が含まれる。

<壁・底面> 東壁と西壁は27・28号土坑との重複の影響で残存しない。南壁は内傾、北壁は直立気味に立ち上がる。底面は中央部が若干窪むが、ほぼ平坦である。また底面の南側は開口部よりも広がる。

<遺物> 土器は縄文土器2149.8gが出土し、4点(337~340)を図化・掲載した。いずれも深鉢の口縁部破片で337・338・340の形状はキャリパー形を呈し、口縁部に沈線(337)、隆帯(338)、隆沈線(340)により文様が施されている。339は隆帯を伴う突起が付いている。石器1点出土した。341は無茎の石鏃で石材には頁岩が使用されている。

<時期> 出土遺物から縄文時代中期中葉、大木8a式新段階期である。

27号土坑(第68図、写真図版92)

<位置・検出状況・重複関係> 調査区中央北側の平坦地、II B 2 f・2 gグリッドに跨って位置し、表土下のV層で検出した。26号土坑と重複し、これより新しい。

<平面形・規模> 形状は円状で、規模は開口部径104×103cm、底部径160×156cm、検出面から底面までの深さは75cmを測る。

<堆積土> 埋土は9層に分かれ、暗褐~褐色シルトを主体とした堆積に、黒褐色シルトや黄褐色シルトが混在する。全体に風化花崗岩粒・炭化物などが混じる。

<壁・底面> 断面形状はフラスコ形で、壁は内傾して立ち上がり、西壁は開口部付近で外側に開く。底面は開口部よりも広がり、中央がやや窪む。

<遺物> 土器は縄文土器4159.0gが出土し、5点(342~346)を図化・掲載した。器種はいずれも深鉢で343・344・346がキャリパー形の形状を呈し、口縁部には344・346が沈線・隆沈線による波状文、343は小波状に細い隆帯が貼付されている。342の口縁頂部に隆帯による突起が付いている。345は口縁の頂部に突起、口縁部には隆帯による橋状把手が付し、口縁~胴部にかけて原体押圧文が施されている。石器は1点出土した。347は扁平な自然礫を使用した石皿で両面に磨痕が認められる。石材には流紋岩を使用している。

<時期> 出土遺物から縄文時代中期中葉、大木8a式新段階期である。

28号土坑(第68図、写真図版92)

<位置・検出状況・重複関係> 調査区中央北側の平坦地、II B 2 fグリッドに位置し、表土下のV層で検出した。26・29号土坑と重複し、26号土坑より新しく、29号土坑より古い。

<平面形・規模> 形状は楕円気味の円形基調で、規模は開口部径92×80cm、底部径107×91cm、検出面から底面までの深さは28cmを測る。

<堆積土> 埋土は3層に分かれ、暗褐色シルトが主体となる自然堆積を呈する。

<壁・底面> 壁は底面付近で外反気味に立ち上がってから、内傾して開口部につながる。底面は平坦である。

<遺物> 土器は縄文土器505.0gが出土し、2点(348・349)を図化・掲載した。348は浅鉢で口縁部に横位の沈線文が2本と波状の沈線文が巡っている。349は深鉢の口縁部で原体押圧文を伴う隆帯が貼付されている。

<時期> 出土遺物から縄文時代中期中葉、大木8a式期である。

29号土坑（第68図、写真図版92）

〈位置・検出状況・重複関係〉 調査区中央北側の平坦地、ⅡB 2 f・3 fグリッドに跨がって位置し、表土下のV層で検出した。遺構の南側は攪乱により消失している。28・30号土坑と重複し、28号土坑より新しく、30号土坑より古い。また位置的に10号竪穴建物とも重複関係にあると考えられるが、攪乱の影響により明確な新旧関係は不明である。

〈平面形・規模〉 遺構の南側が失われているが、形状は楕円形基調と考えられる。規模は開口部径292×(214)cm、底部径283×224cmの残存長である。検出面から底面までの深さは47cmを測る。

〈堆積土〉 埋土は2層に分かれ、上位に暗褐色シルト、下位に褐色シルトが堆積する。全体に風化花崗岩粒、炭化物、焼土粒が混じる。

〈壁・底面〉 壁は垂直に近い角度で内傾して立ち上がり、底面は平坦である。

〈遺物〉 土器は縄文土器389.9gが出土し、2点(350・351)を図化・掲載した。いずれも深鉢の口縁部破片で350は前期前葉、351は中期中葉に比定される。

〈時期〉 重複する遺構との関係から縄文時代中期中葉と推測する。

30号土坑（第69図、写真図版92）

〈位置・検出状況・重複関係〉 調査区中央北側の平坦地、ⅡB 2 e・2 fグリッドに跨がって位置し、表土下のV層で検出した。29号土坑と重複し、これより新しい。

〈平面形・規模〉 形状は歪んだ円形を呈し、規模は開口部径134×120cm、底部径185×169cm、検出面から底面までの深さは81cmを測る。

〈堆積土〉 埋土は10層に分かれ、上～中位にかけては褐～暗褐色シルト、下位は黄褐色シルトを主体とした堆積である。全体に風化花崗岩粒、上～中位にかけて焼土粒、炭化物粒、黄褐色ロームブロックが混じる。堆積状況から人為堆積であると考えられる。

〈壁・底面〉 断面形状はフラスコ型で、壁は内湾気味に立ち上がり、底面は平坦である。

〈遺物〉 土器は縄文土器474.5g出土し、1点を図化・掲載した。352は深鉢の口縁部破片で隆帯による区画内に沈線により楕円状の文様が描かれている。

〈時期〉 出土遺物から縄文時代中期中葉、大木8 a式新段階期に属する。

31号土坑（第69図、写真図版93）

〈位置・検出状況・重複関係〉 調査区中央のⅡB 4 fグリッドに位置し、11号竪穴建物床面のV層で検出した。11号竪穴建物、32・33号土坑と重複し、これらより古い。

〈平面形・規模〉 32・33号土坑との重複によって大半が消失するが、形状は円形基調であったと推定する。規模は開口部径64×14cm、底部径52×14cmの残存長である。検出面から底面までの深さは41cmを測る。

〈堆積土〉 埋土は明黄褐色シルトを含むにぶい黄褐色シルトの単層である。

〈壁・底面〉 壁は、南壁が外反、北壁が内湾気味に立ち上がる。底面はほぼ平坦である。

〈遺物〉 なし。

〈時期〉 重複する11号竪穴建物との関係から縄文時代中期中葉、大木8 a式新段階期以前に属する。

32号土坑（第69図、写真図版93）

〈位置・検出状況・重複関係〉 調査区中央のⅡB 4 fグリッドに位置する。11号竪穴建物床面のV

層から検出した。11号竪穴建物、31号土坑と重複し、11号竪穴建物より古く、31号土坑より新しい。
 <平面形・規模> 形状は楕円形で、規模は開口部径88×73cm、底部径74×59cm、検出面から底面までの深さは50cmを測る。

<堆積土> 埋土は人為堆積で、明黄褐色シルトを含む暗褐色シルトが主体である。上位に黒～黒褐色シルトが堆積する。

<壁・底面> 壁は垂直に立ち上がる。底面は段差があり、南側が一段低い。

<遺物> 土器は縄文土器4069.3gが出土し、2点(353・354)を図化・掲載した。いずれも深鉢の口縁部破片で353は口縁部が隆帯による無文帯、胴部は3条の沈線文が2段巡る。354は波状口縁で隆帯による無文帯で頂部は渦巻状になっている。

<時期> 重複する遺構との関係から縄文時代中期中葉、大木8 a式新段階期以前に属する。

33号土坑 (第69図、写真図版93)

<位置・検出状況・重複関係> 調査区中央のⅡB4fグリッドに位置し、11号竪穴建物床面のV層から検出した。11号竪穴建物、31・34号土坑と重複し、11号竪穴建物、34号土坑より古く、31号土坑より新しい。

<平面形・規模> 遺構の西側は34号土坑との重複で消失しているが、形状は歪んだ円形で、規模は開口部径81×72cm、底部径55×47cm、検出面から底面までの深さは43cmを測る。

<堆積土> 埋土は6層に分けられる。上位は黄～明黄褐色シルトが混じる褐色シルト、中～下位は黄褐色シルトを主体とする層が堆積する。中位には暗褐色シルトブロックが筋状に混じる。

<壁・底面> 壁は急角度で外傾して立ち上がり、底面は平坦である。

<遺物> 土器は縄文土器20.3gが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。

<時期> 重複する遺構との関係から縄文時代中期中葉、大木8 a式新段階期以前に属する。

34号土坑 (第70図、写真図版93)

<位置・検出状況・重複関係> 調査区中央のⅡB4fグリッドに位置し、11号竪穴建物床面のV層で検出した。11号竪穴建物、33・35・36号土坑と重複し、11号竪穴建物、35・36号土坑より古く、33号土坑より新しい。

<平面形・規模> 遺構の西側が35・36号土坑との重複で消失するが、形状は歪んだ楕円形基調と考えられる。規模は開口部径109×69cmの残存長であり、底部径74×59cm、検出面から底面までの深さは35cmを測る。

<堆積土> 埋土は褐色シルトを主体とし、上位に暗褐色シルト、下位に黄褐色シルトが堆積する。全体に褐～黄褐色シルトが混じる。

<壁・底面> 壁は南東壁が外傾、北西壁が外反～内湾して立ち上がる。底面はほぼ平坦である。

<遺物> 土器は縄文土器674.6gが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。

<時期> 重複する遺構との関係から縄文時代中期中葉、大木8 a式新段階期以前に属する。

35号土坑 (第70図、写真図版94)

<位置・検出状況・重複関係> 調査区中央のⅡB4fグリッドに位置し、11号竪穴建物床面のV層で検出した。11号竪穴建物、34・36号土坑と重複し、11号竪穴建物、36号土坑より古く、34号土坑より新しい。

〈平面形・規模〉 36号土坑との重複で遺構の北西側が失われているが、形状は楕円形基調であると推定する。規模は開口部径111×49cm、底部径97×43cmの残存長で、検出面から底面までの深さは52cmを測る。

〈堆積土〉 埋土の大半が重複の影響で消失する。残存部は2層に分かれ、上層は暗褐色シルト、下層は灰黄褐色シルトが堆積する。

〈壁・底面〉 北東側の壁は失われている。南東側は垂直に立ち上がり、中段で一旦窄まり開口部付近で開く。残存部より底面は平坦であったと考えられる。

〈遺物〉 土器は縄文土器5399.9gが出土し、3点(355～357)を図化・掲載した。355・356は床面から出土した深鉢の破片で胴部は沈線文、357は単軸絡条体第5類により文様が施されている。石器は1点出土した。358は磨石類で片側の側面に磨痕が認められる。

〈時期〉 重複する遺構との関係から縄文時代中期中葉、大木8 a式新段階期以前に属する。

36号土坑 (第70図、写真図版93)

〈位置・検出状況・重複関係〉 調査区中央のⅡB4fグリッドに位置し、11号竪穴建物床面のV層で検出した。11号竪穴建物、35号土坑と重複し、11号竪穴建物より古く、35号土坑より新しい。

〈平面形・規模〉 形状は歪んだ円形基調で、規模は開口部径110×106cm、底部径84×79cm、検出面から底面までの深さは66cmを測る。

〈堆積土〉 埋土は自然堆積で9層に分かれる。このうち1層の黒褐色シルトと2層の明赤褐色焼土は、本遺構より新しい11号竪穴建物に関わるものである。3層以下は自然堆積を呈し、暗褐色シルトを主体とする。

〈壁・底面〉 壁は南東壁が外傾～内湾気味に立ち上がる。北東壁は内湾して立ち上がるが、開口部付近で内傾する。底面は平坦である。

〈遺物〉 土器は縄文土器22.0gが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。

〈時期〉 重複する遺構との関係から縄文時代中期中葉、大木8 a式新段階期以前に属する。

37号土坑 (第70図、写真図版94)

〈位置・検出状況・重複関係〉 調査区中央のⅡB4fグリッドに位置し、11号竪穴建物床面のV層で検出した。11号竪穴建物と重複し、これより古い。

〈平面形・規模〉 形状は楕円形で、規模は開口部径84×69cm、底部径70×54cm、検出面から底面までの深さは81cmを測る。

〈堆積土〉 埋土は大きく二つ、暗褐色シルト主体の1～3層と、灰黄褐色シルト主体の4層に分かれる。全体に明黄褐色シルト、1～3層に炭化物が混じる。堆積状況から人為堆積と考えられる。

〈壁・底面〉 壁は西壁が外反気味、東壁が内湾気味にそれぞれ立ち上がる。底面は平坦ではなく、中央部が最も深くなる浅皿形の形状である。

〈遺物〉 土器は縄文土器1097.3gが出土した。小片のため図化・掲載には至らなかった。

〈時期〉 重複する11号竪穴建物との関係から縄文時代中期中葉、大木8 a式新段階期以前に属する。

38号土坑 (第71図、写真図版94)

〈位置・検出状況・重複関係〉 調査区中央のⅡB4fグリッドに位置し、11号竪穴建物床面のV層で検出した。11号竪穴建物と重複し、これより古い。また15号竪穴建物とも重複関係にあるが、新旧

関係は不明である。

<平面形・規模> 形状は円形で、規模は開口部径87×87cm、底部径67×61cm、検出面から底面までの深さは89cmを測る。

<堆積土> 埋土は5層に分けられ、暗褐色シルトを主体とし、壁際に黒褐色シルト、褐色シルトが堆積する。1層に明黄褐色シルト、1・2・5層に炭化物が混じる。堆積状況から人為堆積であると考えられるが、1～3層を柱痕、4・5層を掘方と捉えると柱穴である可能性も考えられる。

<壁・底面> 壁は内湾～外反して立ち上がる南壁に対して、北壁は底面付近が若干広がる内傾～直立気味に立ち上がる。底面はわずかに北側に向かって下るが、ほぼ平坦である。

<遺物> 土器は縄文土器7840.2gが出土し、7点(359～366)を図化・掲載した。いずれも深鉢の口縁部破片で359は隆沈線により渦巻文と有棘文が施されている。時期は中期中葉、大木8b式期である。360～365は口縁部に隆帯を貼付し、無文となるもの(361・362)、刺突文(365)や刻目文(363・364)を伴うものがあり、胴部は沈線により文様が施されているものがある(362・365)。360は口縁部にS字状の隆帯、胴部は細い隆帯により文様が構成される。時期は中期中葉、大木8a式新段階期である。366は前期後葉に属し、粘土紐状の細い隆帯が口唇上部に貼付されている。石器は1点出土した。367は磨石類で片側の側面に磨痕が認められる。

<時期> 出土遺物と11号竪穴建物との重複関係から縄文時代中期中葉、大木8a式新段階期に属する。

39号土坑 (第71図、写真図版94)

<位置・検出状況・重複関係> 調査区中央北側のⅡB3f・3gグリッドに跨がって位置する。表土下のV層で検出した。重複する遺構はない。

<平面形・規模> 形状は開口部が楕円形、底部が円形である。規模は開口部径78×63cm、底部径200×186cm、検出面から底面までの深さは153cmを測る。

<堆積土> 埋土は11層に分かれ、上～中位にかけてにぶい黄褐～褐色シルトが主体となり、下位には暗褐色シルトが堆積する。全体に黄褐色粘土質シルトのブロックが混入する。また中位と底面付近に炭化物が混じる。堆積状況から人為堆積の可能性が考えられる。

<壁・底面> 断面形状はフラスコ形で、壁は内傾して立ち上がるが、北壁の開口部付近は崩落している。底面は傾斜があり、中央部がやや深くなる。

<遺物> 土器は縄文土器3813.3gが出土し、6点(368～373)を図化・掲載した。いずれも深鉢の口縁部破片で368～371は隆帯の貼付により文様が施文されている。373は口縁に突起を有し、372とともに原体押圧文によって文様が施されている。石器は1点出土した。374は縦型の石匙で片側に刃部をもつ。

<時期> 出土遺物から縄文時代中期中葉である。大木8a式期に属する。

40号土坑 (第72図、写真図版95)

<位置・検出状況・重複関係> 調査区中央北側のⅡB3gグリッドに位置する。表土下のV層で検出した。41号土坑と重複し、これより古い。

<平面形・規模> 41号土坑との重複により、遺構の南東側が消失するが、形状は円形基調と推定できる。規模は開口部径80×49cmの残存長、底部径207×199cm、検出面から底面までの深さは179cmを測る。

<堆積土> 埋土は13層に分かれ、上位はにぶい黄褐色シルト、中位は暗褐色シルトを主体とし、下位はにぶい黄褐色シルトと褐色シルトの互層である。全体に炭化物が混じる。

<壁・底面> 断面形状はフラスコ型で、壁は内傾して立ち上がり、開口部付近で内湾気味に開く。底面は中央部が最も深くなる浅皿形の形状である。

<遺物> 土器は縄文土器909.6gが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。

<時期> 重複する41号土坑との関係から縄文時代中期中葉、大木8 a 式新段階期以前である。

41号土坑（第72図、写真図版95）

<位置・検出状況・重複関係> 調査区中央北側のⅡB 3 g グリッドに位置し、表土下のV層で検出した。40号土坑と重複し、これより新しい。

<平面形・規模> 形状は歪んだ円形を呈し、規模は開口部148×146cm、底部171×159cm、検出面から底面までの深さは69cmを測る。

<堆積土> 埋土は8層に分かれ、全体に黒～黒褐色シルトを主体とし、中～下位にかけて黄褐色粘土質シルト、褐色シルトが混在する。また暗褐色シルトブロックが全体に混じることから人為堆積の可能性が考えられる。

<壁・底面> 断面形状はフラスコ型で、壁は底面から外傾して立ち上がり、途中から内傾して開口部に接続する。底面は西側に向かって緩く傾斜して下る。

<遺物> 土器は縄文土器6155.4g、古代土器19.5gが出土し、5点（375～379）を図化・掲載した。いずれも深鉢の口縁部破片である。375は波状口縁の突起部分で、円孔と隆帯を伴う。他は376・378が沈線、377・379が隆帯により文様が施文されている。石器は1点出土した。380は無茎の石鏃で石材には頁岩が使用されている。

<時期> 出土遺物から縄文時代中期中葉、大木8 a 式新段階期に属する。

42号土坑（第73図、写真図版95）

<位置・検出状況・重複関係> 調査区中央北側のⅡB 3 g・3 h グリッドに跨がって位置し、表土下のV層で検出した。遺構上部は風倒木によって失われている。これ以外で重複する遺構はない。

<平面形・規模> 形状は歪んだ円形で、規模は開口部径96×85cm、底部径138×128cm、検出面から底面までの深さは71cmを測る。

<堆積土> 埋土の上位は風倒木によって消失する。残存する中位以下は自然堆積を呈し、全体に炭化物が混じる。

<壁・底面> 断面形状はフラスコ形で、壁は内傾して立ち上がるが、北壁のみやや外反気味に底面から立ち上がる。底面は中央が最も深くなる浅皿形の形状を呈する。

<遺物> 土器は縄文土器3069.4gが出土し、5点（381～385）を図化・掲載した。いずれも深鉢の口縁部破片で、文様構成は口縁部が隆帯、胴部が沈線文（381・382）で主に構成されている。

<時期> 出土遺物から縄文時代中期中葉、大木8 a 式新段階期に属する。

43号土坑（第73図、写真図版95）

<位置・検出状況・重複関係> 調査区中央のⅡB 4 g グリッドに位置し、攪乱土除去後のV層で検出した。10号竪穴建物と重複し、これより古い。また南側に隣接する12号竪穴建物とも重複する可能性がある。

＜平面形・規模＞ 遺構の西側が10号竪穴建物との重複により消失するが、形状は円形であったと推定できる。また底面は開口部よりも広がっていたと考えられる。規模は開口部径102×98cmの残存値、底部径122×115cm、検出面から底面までの深さは82cmを測る。

＜堆積土＞ 埋土は自然堆積を呈し、11層に分かれる。暗褐色シルトを主体とした堆積だが、東壁際に褐色シルト、にぶい黄褐色シルト、黄褐色砂質シルトが堆積することから、壁が崩落していると考えられる。

＜壁・底面＞ 壁面は、西壁の大半を10号竪穴建物に削平されるが、残存する底面付近は外反して立ち上がる。東壁は底面から外反して立ち上がり、壁崩落を起因とする凸凹を伴って上り、開口部付近で内傾する。底面は東に向かって下がる。

＜遺物＞ 土器は縄文土器542.2gが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。

＜時期＞ 10号竪穴建物との重複関係により縄文時代中期中葉、大木8 a 式新段階期以前に属する。

44号土坑（第73図、写真図版96）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区中央のⅡB4 gグリッドに位置し、攪乱土除去後のV層で検出した。12号竪穴建物、45号土坑と重複し、12号竪穴建物より新しく、45号土坑より古い。

＜平面形・規模＞ 遺構の北側が45号土坑により破壊されているが、形状は円形基調と推定できる。規模は開口部が132×103cmの残存長、底部径77×77cm、検出面から底面までの深さは154cmを測る。

＜堆積土＞ 埋土は自然堆積を呈し、9層に分かれる。全体に暗褐色シルトを主体とし、にぶい黄褐色シルト、褐色シルト、黄褐色シルトが混在する。

＜壁・底面＞ 壁は底面から外反して立ち上がる。東壁は壁中段より上部が崩落の影響により開口部に向かって広がった形状となっている。底面は浅皿型で、中央部が最も深くなる。

＜遺物＞ なし。

＜時期＞ 45号土坑との重複関係により縄文時代中期中葉、大木8 a 式新段階期以前に属する。

45号土坑（第74図、写真図版96）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区中央のⅡB4 gグリッドに位置し、攪乱土除去後にV層で検出した。44号土坑と重複し、これより新しい。

＜平面形・規模＞ 形状は歪んだ円形を呈し、規模は開口部径133×128cm、底部径97×94cm、検出面から底面までの深さは斜面上方で106cmを測る。

＜堆積土＞ 埋土は12層に分かれる。上半部は暗褐色シルトを主体とした堆積で、黒褐色シルト、褐色シルト、黄褐色シルトが混在する。下半部は黒褐色シルトと明黄褐色砂質シルトを主体とした堆積に、暗褐色シルト、褐色シルト、黄褐色シルト、黄橙色砂が混在する。

＜壁・底面＞ 断面形状はフラスコ気味のピーカー形で、壁は外反気味にオーバーハングしながら内傾して立ち上がり、中段～開口部にかけて外傾して開く。底面には段差があり、東側が約10cm高い。

＜遺物＞ 土器は縄文土器1103.9gが出土し、2点（386・387）を図化・掲載した。いずれもキャリパー形の形状を呈する深鉢の口縁部破片で、隆帯により胴部との境界を区画し、口縁部に沈線による波状文が施文されている。石器は2点（388・389）出土した。388は石錐、389は石棒類の一部である。

＜時期＞ 出土遺物から縄文時代中期中葉、大木8 a 式新段階期に属する。

46号土坑（第74図、写真図版96）

〈位置・検出状況・重複関係〉 調査区中央のⅡB3g他複数グリッドに跨がって位置する。攪乱の黒色土除去後にV層で検出した。47・48号土坑と重複し、これらより新しい。

〈平面形・規模〉 形状は開口部が楕円形、底部が円形を呈し、規模は開口部径92×72cm、底部径139×133cm、開口部から底部までの深さ70cmを測る。

〈堆積土〉 埋土は自然堆積を呈し、暗褐～褐色シルトを主体とする。東壁際に褐色シルトと明黄褐色シルトの混合土が堆積するが、これは小規模な壁の崩落によるものと考えられる。

〈壁・底面〉 断面形状はフラスコ形で、壁は内傾して立ち上がる。底面は細かな凹凸があるがほぼ平坦である。

〈遺物〉 土器は縄文土器3272.1gが出土し、1点を図化・掲載した。390はキャリパー形の形状を呈する深鉢の口縁部破片で隆沈線による渦巻文が施文されている。

〈時期〉 出土遺物から縄文時代中期中葉、大木8b式期に属する。

47号土坑（第74図、写真図版96）

〈位置・検出状況・重複関係〉 調査区中央のⅡB4g・4hグリッドに跨がって位置する。攪乱の黒色土除去後にV層で検出した。46・48号土坑と重複し、46号土坑より古く、48号土坑より新しい。

〈平面形・規模〉 遺構の北側が46号土坑によって消失するが、形状は円形を呈する。規模は開口部径150×144cm、底部径145×145cm、検出面から底面までの深さは74cmを測る。

〈堆積土〉 埋土は9層に分かれ、上半部にはにぶい黄褐色シルトと褐色シルトが堆積し、下半部は暗褐色シルトを主体とし、褐色シルト、明黄褐色シルトが混じる。

〈壁・底面〉 壁は東壁が内湾、西壁が外傾～外反して立ち上がる。底面は東側がわずかに低いが、ほぼ平坦である。

〈遺物〉 土器は縄文土器4147.7gが出土し、6点（391～396）を図化・掲載した。器種はいずれも深鉢で391～395はキャリパー形の形状を呈し、口縁部の文様は391が細い隆帯による波状文、392は渦巻文、393は沈線による波状文が描かれている。395の口縁は隆帯による無文帯で胴部は縄文のみである。

〈時期〉 出土遺物から縄文時代中期中葉、大木8a式新段階期に属する。

48号土坑（第75図、写真図版97）

〈位置・検出状況・重複関係〉 調査区中央のⅡB3h・4hグリッドに跨がって位置する。攪乱の黒色土除去後のV層で検出した。46・47号土坑と重複し、これらより古い。

〈平面形・規模〉 46・47号土坑との重複により遺構の大半が消失しているため形状は定かではないが、残存部分より円形ないし、楕円形基調であったと考えられる。規模は開口部径92cm、底部径67cmの残存値、検出面から底面までの深さは37cmを測る。

〈堆積土〉 埋土は暗褐色シルトを主体とした自然堆積を呈し、中位の壁際に明黄褐色砂質シルト・褐色シルト・暗褐色シルトの混合土層、底面直上に褐色シルトがそれぞれ堆積する。

〈壁・底面〉 断面形状は擂鉢形であったと考えられる。壁は南東壁が外反して立ち上がり、北西壁は残存しない。

〈遺物〉 なし。

〈時期〉 重複する遺構との関係から縄文時代中期中葉以前の遺構である。

49号土坑（第75図、写真図版97）

<位置・検出状況・重複関係> 調査区中央のⅡB3h・4hグリッドに跨がって位置し、表土下のV層で検出した。重複する遺構はない。

<平面形・規模> 形状は円形を呈する。東側の底面は開口部よりも広がる。規模は開口部径83×74cm、底部径81×79cm、開口部から底面までの深さは78cmを測る。

<堆積土> 埋土は自然堆積を呈し、上位に黒褐色シルト、中位に暗褐色シルト、下位に褐色シルトが堆積する

<壁・底面> 壁は東壁が内傾～直立気味に、西壁はほぼ垂直にそれぞれ立ち上がる。底面は縁辺部にと比べて中央部がマウンド状にやや盛り上がる形状である。

<遺物> 土器は出土しておらず、石器1点が出土した。397は磨石類で表裏両面と片側側面に磨痕が認められる。石材には玢岩が使用されている。

<時期> 時期を特定しうる遺物がないため詳細は不明であるが、周辺遺構との関係から縄文時代と推測する。

50号土坑（第75図、写真図版97）

<位置・検出状況・重複関係> 調査区中央のⅡB5hグリッドに位置する。13号竪穴建物床面での検出で、これよりも新しい。

<平面形・規模> 形状は方形に近い楕円形を呈し、規模は開口部径99×89cm、底部径128×120cm、検出面から床面までの深さは70cmを測る。

<堆積土> 埋土は11層に分かれ、上半部は黒褐～暗褐色シルト、下半部は黄褐～明黄褐色シルトが主体となる。また底面直上には灰黄褐色細砂が堆積する。堆積状況から人為堆積と考えられる。

<壁・底面> 壁は東壁がオーバーハングしながら内傾して立ち上がる。対して西壁は崩落の影響により外傾・内傾を繰り返しながら立ち上がる。底面は若干の凹凸があるがほぼ平坦である。

<遺物> 土器は縄文土器1031.6gが出土し、4点（398～401）を図化・掲載した。いずれも深鉢の口縁部破片で398・399はキャリパー形の形状を呈し、口縁部に隆沈線による渦巻文、401は原体押圧文が施文されている。

<時期> 出土遺物と13号竪穴建物との重複関係から縄文時代中期中葉、大木8b式期に属すると考えられる。

51号土坑（第76図、写真図版97）

<位置・検出状況・重複関係> 調査区中央のⅡB4iグリッドに位置し、表土下のV層で検出した。12号竪穴建物と重複し、これより新しい。

<平面形・規模> 形状は楕円に近い円形を呈する。規模は開口部径137×118cm、底部径87×80cm、検出面から底面までの深さは106cmを測る。

<堆積土> 埋土は自然堆積を呈する。暗褐色シルトを主体とするが、下位には黒褐色シルト・黄褐色砂質シルトが堆積する。

<壁・底面> 壁は垂直に近い角度で外傾して立ち上がる。西壁のみ壁面中段から開口部にかけて外反気味に開く。底面は東側がやや高いが平坦に近い。

<遺物> なし。

<時期> 12号竪穴建物との重複関係から縄文時代前期以降である。

52号土坑（第76図、写真図版98）

〈位置・検出状況・重複関係〉 調査区中央のⅡB 4 i グリッドに位置する。表土下のV層で検出した。12号竪穴建物と重複し、これより新しい。

〈平面形・規模〉 形状は円形を呈し、規模は開口部径96×92cm、底部径73×65cm、検出面から底面までの深さは53cmを測る。

〈堆積土〉 埋土は暗褐色シルトの自然堆積である。上位よりも下位の色味が濃い。

〈壁・底面〉 壁は外反して立ち上がり、底面はほぼ平坦である。

〈遺物〉 なし。

〈時期〉 12号竪穴建物との重複関係から縄文時代前期以降である。

53号土坑（第76図、写真図版98）

〈位置・検出状況・重複関係〉 調査区中央東側のⅡB 3 j・3 k グリッドに跨がって位置する。Ⅲ層下の19号竪穴建物の埋土を切る円形のプランを検出した。19号竪穴建物、5・6号陥し穴状遺構と重複し、これらよりも新しい。

〈平面形・規模〉 形状は開口部が円形、底面が楕円形を呈する。規模は開口部径254×235cm、底部径118×77cm、検出面から床面までの深さは91cmを測る。

〈堆積土〉 埋土は自然堆積を呈し、4層に分かれる。2層のにぶい黄褐色シルトが大半を占め、全体に炭化物が混じる。

〈壁・底面〉 壁は外反～外傾して立ち上がる。底面・壁面共に凹凸があり平坦にはならない。

〈遺物〉 土器は縄文土器26733.5gが出土し、11点（402～415）を図化・掲載した。いずれも器種は深鉢である。幅のある隆帯を口唇頂部～口縁上部に貼付し、隆帯には指頭押圧（408・412）や刺突文（409・413・415）、沈線文（410）が施文される。また412・414の口縁波頂部には円形の突起が付く。胴部の縄文は単軸絡条体第1類と第5類が多く施文される。

〈時期〉 出土遺物から縄文時代前期後葉、大木5式期に属する。

54号土坑（第77図、写真図版98）

〈位置・検出状況・重複関係〉 調査区中央東側のⅡB 3 k・4 k グリッドに跨がって位置する。18号竪穴建物を検出した段階で、床面に本遺構の暗褐色シルトのプランを検出した。18号竪穴建物と重複し、この貼床を切っているため本遺構が新しい。

〈平面形・規模〉 形状は不整な楕円形基調で、規模は開口部径112×87cm、底部径71×70cm、検出面から床面までの深さは116cmを測る。

〈堆積土〉 埋土は5層に分かれる自然堆積で、上半部は黒褐～暗褐色シルトを主体とし黄褐色シルトのブロック、壁際に暗褐色シルトのブロックが混じる。下半部は黄褐色シルトが堆積し、下位ほど色調が明るくなる。全体に礫・炭化物が混じる。

〈壁・底面〉 壁は外反して立ち上がり、底面は平坦である。

〈遺物〉 土器は縄文土器34.6gが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。石器が2点（416・417）出土した。416は石錐、417はスクレイパーで石材にはいずれも頁岩が使用されている。

〈時期〉 重複する遺構との関連から縄文時代前期以降に属する。

55号土坑（第77図、写真図版98）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区東側のⅡB5nグリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。重複する遺構はない。

＜平面形・規模＞ 形状は歪んだ円形で、規模は開口部径122×117cm、底部径106×88cm、検出面から床面までの深さは25cmを測る。

＜堆積土＞ 埋土は黒色シルトを主体とした自然堆積で、底面直上に暗褐色シルトが堆積する。全体に礫粒が混じる。

＜壁・底面＞ 壁は外傾～直立気味に立ち上がる。底面は段差があり東側が約9cm高い。また中央部が最も深くなるように窪む。

＜遺物＞ 土器は縄文土器829.0gが出土し、1点を図化・掲載した。418は深鉢の口縁部破片で原体押圧文を伴う隆帯が波状に貼付されている。胴部の文様は沈線文が描かれてる。

＜時期＞ 出土遺物から縄文時代中期中葉、大木8a式新段階期に属する。

56号土坑（第77図、写真図版99）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区東側のⅡB5qグリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。重複する遺構はない。

＜平面形・規模＞ 形状は楕円形を呈する。規模は開口部径117×96cm、底部径103×77cm、検出面から底面までの深さは46cmを測る。

＜堆積土＞ 埋土は上位に暗褐色シルト、下位に黒色シルトが堆積する自然堆積である。

＜壁・底面＞ 壁は外傾～外反して立ち上がるが、北壁の一部がややオーバーハングする。底面は南側がやや窪む。

＜遺物＞ なし。

＜時期＞ 出土遺物はないが、検出状況から縄文時代前期の可能性が考えられる。

57号土坑（第77図、写真図版99）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区東側のⅡB9qグリッドに位置し、Ⅱ層で検出した。重複する遺構はない。

＜平面形・規模＞ 形状は円形を呈する。規模は開口部径186×165cm、底部径94×80cm、検出面から底面までの深さは42cmを測る。

＜堆積土＞ 埋土は黒褐色シルトを主体とし、上層から下層に下がるにつれて、色調は明るくなる。検出面に多量の礫が見られた。

＜壁・底面＞ 断面形状は皿形で、壁は緩く外傾して立ち上がる。底面は、礫が多く含まれるため凹凸している。

＜遺物＞ 土器は縄文土器は1496.1gが出土し、2点（420・421）を図化・掲載した。いずれも小片であるが深鉢の口縁部破片で420は原体押圧文、421は隆帯により文様が描かれている。石器は1点出土した。422は半円状扁平打製石器で外縁を全周打ち欠き、縁辺の片側が直線状、反対側が半円状に整形されたもの。磨痕は認められない。

＜時期＞ 出土遺物から縄文時代中期中葉である。

58号土坑（第78図、写真図版99）

〈位置・検出状況・重複関係〉 調査区南東端のⅡB12rグリッドに位置し、Ⅱ層で検出した。遺構の南端部は、検出段階での削平により失われている。重複する遺構はない。

〈平面形・規模〉 遺構の南端部は消失するが、形状は円形基調で、規模は開口部径101×86cm、底部径88×77cm、検出面から底面までの深さは6cmを測る。

〈堆積土〉 埋土は黒褐色シルトの自然堆積で、全体に礫粒・炭化物が混じる。

〈壁・底面〉 壁は外傾～外反して立ち上がり、底面は平坦である。

〈遺物〉 土器は縄文土器13.9gが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。

〈時期〉 時期を特定しうる遺物がないため詳細は不明であるが、縄文時代前期～中期に属する可能性が考えられる。

59号土坑（第78図、写真図版99）

〈位置・検出状況・重複関係〉 調査区東端のⅡB6uグリッドに位置し、Ⅴ層で検出した。重複する遺構はない。

〈平面形・規模〉 形状は円形を呈する。規模は開口部径55×53cm、底部径37×35cm、検出面から床面までの深さは62cmである。

〈堆積土〉 自然堆積を呈し、黒褐色シルトを主体とする。上層に地山の褐色シルトが混じる。

〈壁・底面〉 壁は垂直に立ち上がる南西壁と、急角度で外傾する北東壁に分かれる。底面はほぼ平坦である。

〈遺物〉 なし。

〈時期〉 検出状況から縄文時代の遺構と考えられるが、出土遺物がないため、詳細は不明である。

60号土坑（第78図、写真図版100）

〈位置・検出状況・重複関係〉 調査区東端のⅡB6uグリッドに位置し、Ⅴ層で検出した。61号土坑と重複し、これより古い。

〈平面形・規模〉 西側を61号土坑に切られるが、形状は楕円形で、規模は開口部径71×33cm、底部径53×23cmの残存値で、検出面から底面までの深さは42cmを測る。

〈堆積土〉 埋土は上位に褐色シルト、下位に暗褐色シルトが堆積する。大半が61号土坑との重複で失われているが、自然堆積の可能性が高い。

〈壁・底面〉 壁は内湾して立ち上がり、底面は平坦である。

〈遺物〉 なし。

〈時期〉 重複する61号土坑よりも古いことから縄文時代中期中葉の大木8a式新段階期以前と考える。

61号土坑（第78図、写真図版100）

〈位置・検出状況・重複関係〉 調査区東端のⅡB6uグリッドに位置し、Ⅴ層で検出した。60号土坑と重複し、これより新しい。

〈平面形・規模〉 平面形状は楕円形を呈し、規模は開口部径67×54cm、底部径74×59cm、検出面から底面までの深さは43cmを測る。

〈堆積土〉 埋土は黒褐色シルトと暗褐色シルトを主体とするが、中位に明黄褐色シルトがブロック

で混入している。

＜壁・底面＞ 壁は底面付近がオーバーハングし、これ以外は垂直気味な立ち上がりである。底面は中央付近が深くなっている。

＜遺物＞ 土器は縄文土器2110.7gが出土し、3点（423～425）を図化・掲載した。いずれも深鉢の口縁～胴部破片で423・424は底面、425は埋土上位から出土した。423・424は口縁に隆帯、胴部に沈線文が施されている。425は口縁が4単位の波状で頂部に隆帯による渦巻文、口縁部に隆沈線による渦巻文が施文されている。

＜時期＞ 出土した土器から縄文時代中期中葉の大木8 a 式新段階期と考える。

62号土坑（第78図、写真図版100）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区東端のⅡB 6 u・6 vグリッドに跨がって位置し、V層で検出した。重複する遺構はない。

＜平面形・規模＞ 平面形状は円形を呈し、規模は開口部径47×44cm、底部径41×35cm、検出面から底面までの深さは28cmを測る。

＜堆積土＞ 埋土は黒褐色シルトの単層である。

＜壁・底面＞ 壁は西壁の底面付近がオーバーハングしているが、これ以外では垂直気味に立ち上がる。底面に凹凸はないが、斜面下方の南側に向かって傾斜して下っている。

＜遺物＞ なし。

＜時期＞ 出土した遺物はないが、検出状況から周辺で検出した土坑と同様、縄文時代中期中葉の大木8 a 式新段階期と考える。

63号土坑（第79図、写真図版100）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区東端部、ⅡB 6 v・7 vグリッドに跨がって位置し、V層で検出した。40号竪穴建物と重複し、これよりも古い。

＜平面形・規模＞ 遺構の一部が重複のため失われているが、平面形状は楕円形を呈すると推測される。規模は開口部径88cm、底部径111×96cm、検出面から底面までの深さは35cmを測る。

＜堆積土＞ 埋土は上位が暗褐色シルト、中位が黄褐色シルトを含む灰黄褐色シルト、下位が黒褐色シルトで暗褐色シルトと黄褐色シルトが混じる。混合土が多いことから人為的な堆積と考えられる。

＜壁・底面＞ 壁は底面付近がオーバーハングし、これ以外は外傾して立ち上がる。底面は緩い凸凹があり、斜面下方の南側が低くなっている。

＜遺物＞ 土器は縄文土器1023.2gが出土し、3点（426～428）を図化・掲載した。器種はいずれも深鉢で426は胴～底部の破片で無文で外面の一部が被熱により黒く変色している。427は胴部破片で沈線により施文されている。428は口縁部破片で細い隆帯が貼付されている。石器は2点（429・430）出土した。いずれも磨石類で430は表裏両面と片側側面に磨面をもつ。

＜時期＞ 出土遺物から縄文時代中期中葉に属する。

64号土坑（第79図、写真図版101）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区中央北側のⅡB 2 cグリッドに位置し、1号土器埋設遺構の下から検出した。よって1号土器埋設遺構よりも古い。

＜平面形・規模＞ 遺構の西側上面が重複により失われているが、残存状況から平面形状は楕円形を

呈すると推測される。規模は開口部の残存値径76cm、底部径76×57cm、検出面から底面までの深さは63cmを測る。

<堆積土> 埋土は上～中位が暗褐色シルト、下位がにぶい黄褐色シルトを主体とする。

<壁・底面> 壁は垂直気味に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。

<遺物> 土器は縄文土器44.5gが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。

<時期> 重複遺構との関係から縄文時代中期中葉の大木8 a 式新段階期以前である。

65号土坑（第79図、写真図版101）

<位置・検出状況・重複関係> 調査区中央北側のⅡB 1 c・2 cグリッドに跨がって位置し、表土除去後、V層で検出した。重複する遺構はない。

<平面形・規模> 平面形状は長方形を呈し、規模は開口部径204×165cm、底部径193×151cm、検出面から底面までの深さは13cmを測る。

<堆積土> 埋土はにぶい黄褐色シルトの単層である。

<壁・底面> 壁は外傾して立ち上がり、底面は平坦である。

<遺物> 鉄製品3点（431～433）が出土した。いずれも埋土中より出土したもので432・433はそれぞれ片側先端を欠くが針、431は把手金具の可能性が考えられる。

<時期> 出土遺物からと検出状況が66号土坑と類似することから近世と考えられる。

66号土坑（第79図、写真図版101）

<位置・検出状況・重複関係> 調査区中央北側のⅡB 1 d・2 dグリッドに跨がって位置し、表土除去後、V層で検出した。重複する遺構はない。

<平面形・規模> 平面形状は歪んだ楕円形を呈し、規模は開口部径283×201cm、底部径214×177cm、検出面から底面までの深さは22cmを測る。

<堆積土> 埋土は上位の一部に暗褐色シルトが堆積するが、大半が褐色シルトを主体とする。

<壁・底面> 壁は外傾して立ち上がる。底面は凹凸があり、中央付近が深くなっている。

<遺物> 土器は縄文土器669.3gが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。近世の陶磁器2点（434・435）と鉄製品1点（436）が出土した。434は肥前産の磁器碗で見込みに二重圏線、高台上に2条の圏線が施されている。435は瀬戸・美濃産の緑釉菊花皿の破片、436は先端が屈曲しているが刀子である。

<時期> 出土遺物から近世の遺構である。

（7）陥し穴状遺構

1号陥し穴状遺構（第80図、写真図版101）

<位置・検出状況・重複関係> 調査区中央のⅡB 4 a・5 aグリッドに跨がって位置し、3号竪穴建物の精査中に床面のV層で検出した。3号竪穴建物と重複し、これより古い。

<平面形・規模> 形状は楕円形で、規模は開口部径104×90cm、底部径59×44cm、検出面から底面までの深さは64cmを測る。

<堆積土> 埋土は10層に分かれ、上位は暗褐色シルト、下位は黒褐色シルトを主体とする。また上位には本遺構より新しい3号竪穴建物の炉に関連する暗褐色シルト、明褐色焼土、炭化物などが混入する。堆積状況から3号竪穴建物構築の際に埋められた人為堆積であると考えられる。

＜壁・底面＞ 断面形状はV～U字状を呈し、壁は外反して立ち上がる。底面は平坦ではなく中央が窪む。底面から径16×14cmの小ピット1基を検出した。

＜遺物＞ 土器は縄文土器227.4gが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。

＜時期＞ 重複する3号竪穴建物との関係から縄文時代中期中葉以前の遺構である。

2号陥し穴状遺構（第80図、写真図版102）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区中央のⅡB5a・5bグリッドに跨がって位置し、3号竪穴建物の精査中に床面のV層で検出した。3号竪穴建物、P56と重複し、これより古い。

＜平面形・規模＞ 平面形は楕円形で長方形に近い形状を呈し、規模は開口部径128×87cm、底部径86×51cm、検出面から底面までの深さは88cmを測る。

＜堆積土＞ 埋土は暗褐色シルトを主体とし、褐色シルト、にぶい黄褐色シルト、黄褐色シルトが混在する。またにぶい黄褐色シルトブロックが混じる。状況から3号竪穴建物構築の際に埋められた人為堆積であると考えられる。

＜壁・底面＞ 断面形状はU字状で、壁は外反～外傾して立ち上がる。底面は平坦ではなく、中央部が最も深く、若干の窪みがある。底面から径28×23cmの小ピット1基を検出した。

＜遺物＞ 土器は縄文土器1318.0gが出土し、1点を図化・掲載した。437は深鉢の口縁～胴部破片で沈線による渦巻文、有棘文が施文されている。石器は1点出土した。438は磨石類で表裏両面に磨痕が認められる。これらは重複する3号竪穴建物から混入した可能性が高い

＜時期＞ 重複する3号竪穴建物との関係から縄文時代中期中葉以前の遺構である。

3号陥し穴状遺構（第80図、写真図版102）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区中央のⅡB2hグリッドに位置し、表土下のV層で検出した。重複する遺構はない

＜平面形・規模＞ 形状は円形で、規模は開口部径125×120cm、底部径114×107cm、検出面から底面までの深さは42cmを測る。

＜堆積土＞ 埋土は自然堆積を呈する。上～中位に暗褐色シルト、にぶい黄褐色シルト、壁面と下位に褐色シルト、暗褐色シルトが堆積する。

＜壁・底面＞ 断面形状はビーカー形で、壁は垂直に近い角度で立ち上がる。底面は平坦で、中央に径35×31cmのピット1基を検出した。

＜時期＞ 検出状況から縄文時代の遺構と推測するが、出土遺物がなく、重複する遺構がないことから詳細は不明である。

4号陥し穴状遺構（第80図、写真図版102）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区中央のⅡB4hグリッドに位置し、表土下のV層で検出した。12号竪穴建物と重複するが新旧関係は不明である。

＜平面形・規模＞ 形状はやや歪んだ円形で、規模は開口部径131×124cm、底部径114×107cm、検出面から底面までの深さは128cmを測る。

＜堆積土＞ 埋土は自然堆積を呈する。上位は暗褐色シルトを主体とし、中～下位はにぶい黄褐色シルトブロック混じりの黄褐色シルト、暗褐色シルト、明黄褐色シルト、最下層に褐色シルト、にぶい黄褐色シルト、暗褐色シルトの混合土が堆積する。

〈壁・底面〉 断面形状はビーカー形で、壁は垂直に近い角度で外傾して立ち上がる。底面は若干の凹凸があるがほぼ平坦である。底面の中央部付近で径26×24cmの小ピット1基を検出した。

〈遺物〉 土器は縄文土器98.7gが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。

〈時期〉 検出状況から縄文時代の遺構と推測する。

5号陥し穴状遺構（第81図、写真図版102）

〈位置・検出状況・重複関係〉 調査区中央のⅡB3j・3kグリッドに跨がって位置する。53号土坑の精査中に底面で検出した。19号竪穴建物、53号土坑、6号陥し穴状遺構と重複し、53号土坑、6号陥し穴状遺構より古く、19号竪穴建物より新しい。

〈平面形・規模〉 形状は楕円形を呈し、規模は開口部径193×141cmの残存値、底部径185×129cm、残存する壁の最上部から底面までの深さは45cmを測る。

〈堆積土〉 埋土は53号土坑との重複によってその大半が失われ、下位のにぶい黄褐色シルトのみが残存する。明黄褐色粘土質シルトブロックと炭化物が混じる。

〈壁・底面〉 断面形状はビーカー形で壁は直立気味に立ち上がる。底面は平坦である。底面中央部で径26×20cmの小ピット1基を検出した。

〈時期〉 重複する遺構との関係から縄文時代前期後葉、大木5式期に属する。

6号陥し穴状遺構（第81図、写真図版103）

〈位置・検出状況・重複関係〉 調査区中央のⅡB3kグリッドに位置する。53号土坑の精査中に底面で検出した。19号竪穴建物・53号土坑・5号陥し穴状遺構と重複し、53号土坑より古く、19号竪穴建物・5号陥し穴状遺構より新しい。

〈平面形・規模〉 平面形は歪な形状で、規模は開口部径146×124cmの残存値、底部径は109×101cm、検出面から底面までの深さは81cmを測る。

〈堆積土〉 南西側の埋土の一部が53号土坑によって消失する。残存部は3層に分かれ、上位に褐色シルト、中位に暗褐色シルト、下位に黄褐色シルトが堆積する。全体に炭化物、中～下位のにぶい黄褐色シルトブロックが混じる。

〈壁・底面〉 断面形状はU字形に近いビーカー形を呈すると考えられる。壁は外傾ないし外反して立ち上がる。底面は南西側がやや低いがおおよそ平坦である。底面中央部に径17×14cmのピット1基を検出した。

〈時期〉 重複する遺構との関係から縄文時代前期後葉、大木5式期に属する。

7号陥し穴状遺構（第81図、写真図版103）

〈位置・検出状況・重複関係〉 調査区中央のⅡB4kグリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。重複する遺構はない。

〈平面形・規模〉 形状は歪んだ楕円状を呈し、規模は開口部径173×151cm、底部径152×109cm、検出面から底面までの深さは74cmを測る。

〈堆積土〉 人為堆積で埋土は6層に分かれる。全体に黒褐～暗褐色シルトを主体とする堆積で、黄褐～明黄褐色シルトと炭化物粒が混入し、上位には明赤褐色焼土粒が混じる。

〈壁・底面〉 東壁が内湾気味、西壁が直立～外反して立ち上がる。底面中央にピット1基と溝1条を検出した。規模はピットが径31×27cm、溝が幅14cmである。

＜遺物＞ 土器は縄文土器1214.5gが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。石器は1点出土した。439は磨石類で表裏両面と片側面に磨痕が認められる。石材には北上産地の閃緑岩が使用されている。

＜時期＞ 検出状況から縄文時代前期と推測する。

8号陥し穴状遺構（第82図、写真図版103）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区中央のⅡA5x他複数グリッドに跨がって位置し、Ⅲ層からⅤ層へ切り替わる地点で検出した。重複する遺構はない。

＜平面形・規模＞ 平面形は溝状の細長い形状を呈し、軸方向はN-63°-Wを向く。規模は開口部径425×70cm、底部径449×5cm、検出面から底面までの深さは154cmを測る。

＜堆積土＞ 埋土は自然堆積を呈し、上～中位は黒褐色シルトを主体とし、下位は底から、にぶい黄褐色シルト、灰黄褐色シルト、黄褐色シルトの順で堆積している。

＜壁・底面＞ 断面形状はV字形を呈し、北西側に傾斜して上がり、両端部がオーバーハングする。底面は中央が最も狭くなっている。

＜遺物＞ 土器は縄文土器4149.4gが出土し、2点（440・441）を図化・掲載した。いずれも深鉢の口縁～胴部上位の破片で、440は口縁部に隆帯による円文、441は口縁部が無文、胴部に隆沈線による渦巻文が施文されている。掲載した遺物も含め、周辺遺構からの混入物と推測される。

＜時期＞ 検出状況および出土遺物から縄文時代中期中葉以前と考えられる。

9号陥し穴状遺構（第82図、写真図版103）

＜位置・検出状況・重複関係＞ 調査区中央のⅡA5y・ⅡB5aグリッドに跨がって位置し、Ⅲ層からⅤ層へと切り替わる地点で検出した。5・33号竪穴建物と重複し、33号竪穴建物よりも古い。5号竪穴建物との新旧関係は不明であるが、出土遺物から本遺構が古いと考えられる。

＜平面形・規模＞ 平面形は溝状の細長い形状を呈し、幅が狭く北東側の開口部がやや弓なりにカーブする。軸方向はN-67°-Wを向く。規模は開口部径353×44cm、底部径383×3cm、検出面から底面までの深さは132cmを測る。

＜堆積土＞ 埋土は自然堆積を呈し、上層は暗褐色シルト、褐色シルトが主体となり、明黄褐色シルト・明黄褐色砂質シルトが混じる。下層はにぶい黄褐色シルトが堆積する。

＜壁・底面＞ 断面形状はY字に近いV字形で、底面は平坦である。両端がオーバーハングしている。

＜遺物＞ 土器は縄文土器1584.8gが出土したが、小片のため図化・掲載には至らなかった。

＜時期＞ 検出状況および出土遺物から縄文時代中期中葉以前と考えられる。

(8) 土器埋設遺構

1号土器埋設遺構（第83図、写真図版104）

<位置・検出状況・重複関係> 調査区中央北側のⅡB2cグリッドに位置し、表土下のV層で検出した。64号土坑と重複関係にあり、これよりも新しい。遺構周辺から土器片が多く出土し、柱穴状土坑も多いことから竪穴建物に伴ったものである可能性が高いが、削平により遺構の共伴関係が不明なため、単独の遺構として扱った。

<平面形・規模> 土坑状の掘方の平面形状はやや歪んだ円形で、規模は開口部径43×41cm、底部径36×30cm、土器検出面から底面までの深さは56cmを測る。

<堆積土> 埋土は褐色シルトでにぶい黄褐色シルトがブロックで混入している。

<壁・底面> 壁は垂直に立ち上がり、底面は中心が深くなっている。

<埋設土器> 深鉢（442）が土坑の中心に伏せた状態で埋設されていた。検出面側の底部は欠損している。キャリパー形の形状で胴部は細長い。波状口縁で文様は隆沈線による渦巻文、有棘文、胴部文様は複節斜縄文である。また、周辺から443～445が出土している。443は剥落しているが、口縁端部に隆帯による突起が付き、隆沈線による渦巻文、有棘文が施文される。444も同様に口縁部に隆沈線、445は胴部に沈線により渦巻文がそれぞれ施文されている。

<時期> 442の器形と文様構成から縄文時代中期中葉の大木8a式新段階～8b式期と考えられる。

2号土器埋設遺構（第83図、写真図版104）

<位置・検出状況・重複関係> 調査区東側のⅡB6sグリッドに位置し、28号竪穴建物の床面で検出したことから28号竪穴建物よりも古い。

<平面形・規模> 径44×32cmの範囲で土器を検出した。

<堆積土> 土器は黒色シルト中で出土した。掘方は不明である。

<埋設土器> 深鉢（446）の口縁部が正位の状態では埋設され、その南側から底部破片が出土した。土器は28号竪穴建物床面よりも低い位置に設置されていた。器形は長胴形を呈し、胴下半は欠損している。口縁部は隆帯により無文で、胴部文様はRL縄文が縦位に施文されている。

<時期> 縄文時代中期中葉の大木8a式新段階期と考えられる。

(9) 墓 壙

1号墓壙（第84図、写真図版105）

<位置・検出状況・重複関係> 調査区中央のⅡB5gグリッドに位置し、Ⅲ層で検出した。13・17号竪穴建物と重複している。調査の都合により17号竪穴建物の方を先に着手したため、遺構の西側が消失するが、本遺構の方が新しい。また南側は現代の造成工事による影響で失われている。

<平面形・規模> 平面形は円形ないし、楕円形基調であったと推定する。規模は開口部径159×109cm、底部径123×93cmの残存値をそれぞれ測る。検出面から底面までの深さは19cmを測る。

<堆積土> 埋土は黒～黒褐色シルトを主体とし、中～下位にかけて黄褐色シルト、暗褐色シルトが混じることから人為堆積と考えられる。

<壁・底面> 壁は外傾して立ち上がる。底面は若干の凹凸が見られるがほぼ平坦である。底面から柱穴状土坑1個を検出した。規模は径45×40cmである。

<遺物> 底面から獣骨が出土した。同定によりウシの骨であることが判明した。出土した部位は四

肢骨と顎骨で重複する部位がみられないことから1個体であったとみられる。他に石器1点が出土した。447は磨石類で表裏両面と片側側面に磨痕と一部に敲打痕が認められる。

〈時期〉 遺構内から出土した骨を放射性炭素年代測定を行ったところ14世紀という結果を得た。

(10) 溝 跡

1号溝跡 (第84図、写真図版105)

〈位置・検出状況・重複関係〉 調査区中央のⅡA 2 y・3 yグリッドに跨がって位置し、地山のV層で検出した。造成による削平の影響で南東端が失われている。重複する遺構はないが、32号竪穴建物が西側に隣接している。

〈規模〉 検出長5.59m、幅20～32cm、深さ24cmを測る。

〈堆積土〉 上位に黒褐色シルト、下位ににぶい黄褐色シルトが堆積する。全体に礫粒、上位ににぶい黄褐色シルトが混じる。

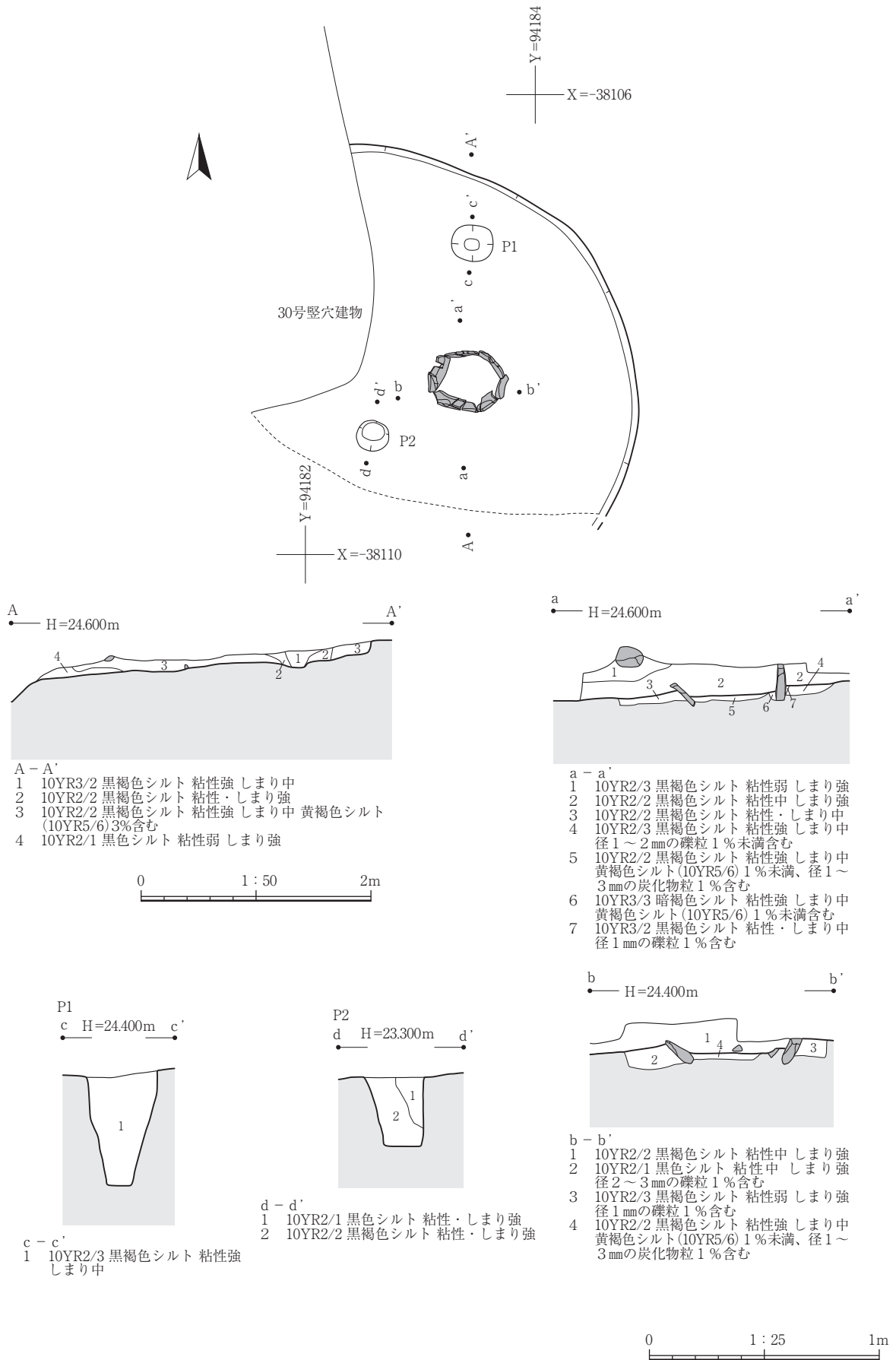
〈壁・底面〉 断面形状はU字状で、底面幅は9～16cmと狭い。

〈遺物〉 埋土から縄文土器79.5gが出土したが、小片のため図化・掲載は行っていない。

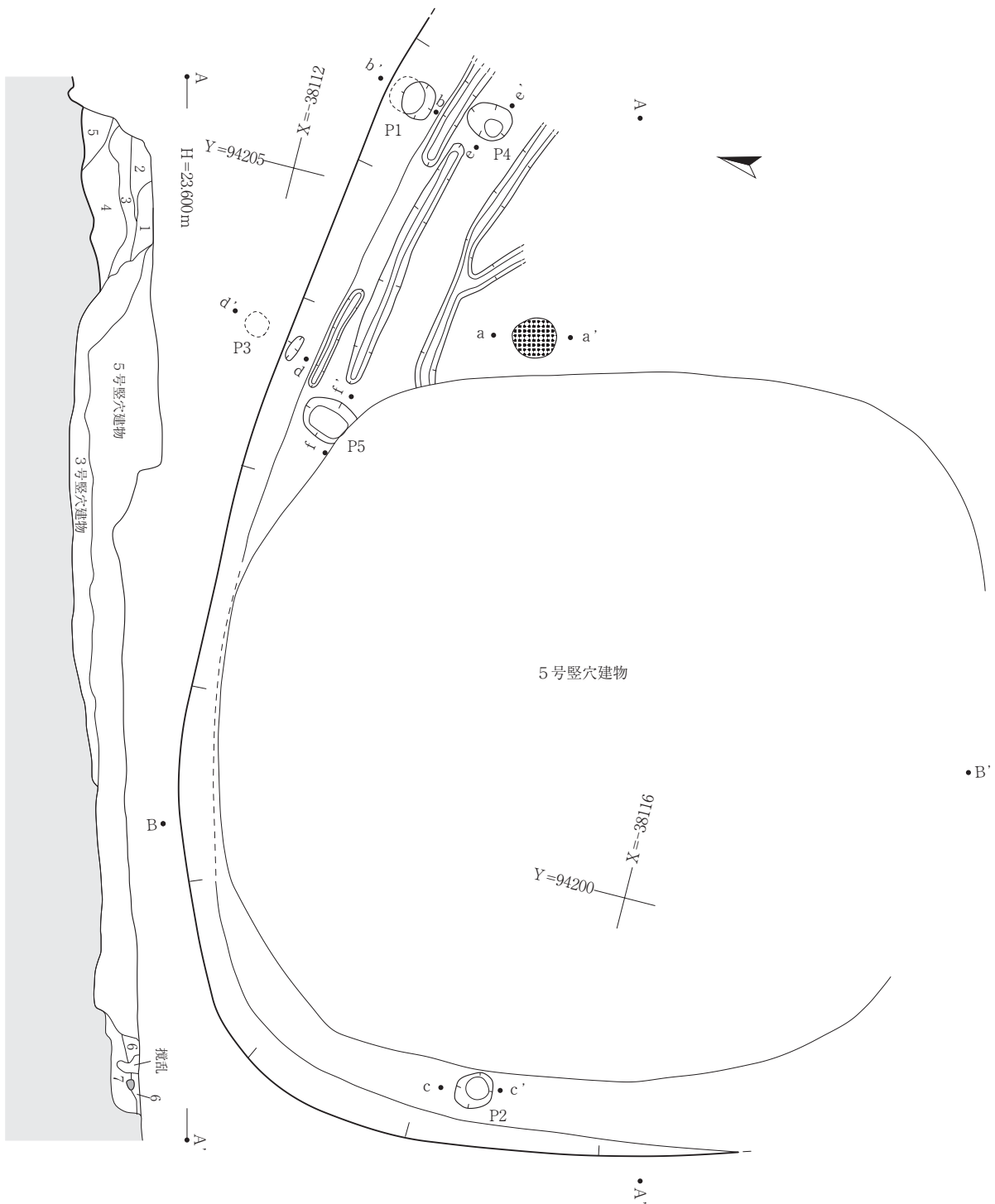
〈時期〉 混入と考えられる縄文土器が出土したが、検出状況から古代の遺構と考えられる。

(11) 柱穴状土坑 (図版 85～89)

調査区全体で174個検出した。大半が竪穴建物をはじめとする縄文時代の遺構の内外に集中して検出されていることから、これらに伴うものが大半であると考えられる。縄文以外では出土遺物からP 4・11・12は古代以降、P 3は中世と判断した。また調査区中央部北端に位置し、東西に列を成しているP 13-P 11-P 10-P 7、P 8-P 25-P 5、P 26-P 4-P 3がそれぞれ建物を構成している可能性があることから、P 7・10・13が古代以降、P 4・26が中世に属すると考えられる。規模等の詳細は第5表のとおりである。遺物はP 3が掘方埋土から銭貨2点が出土した。銭名は『永楽通寶』である。P 4・11・12からは鉄製品が各1点出土している。450・451は火打鉄、452は農耕具の一部と考えられ、側面が袋状を呈し、柄を取り付けて使用されたと推測される。縄文土器はP 74から1点出土した。455は深鉢の胴部破片で隆沈線による区画と渦巻文が施文されている。石器はP 54・76・115から磨石類が各1点ずつ(454・456・457)、P 129から磨製石斧が1点出土している(458)。



第8図 1号竖穴建物



A-A'

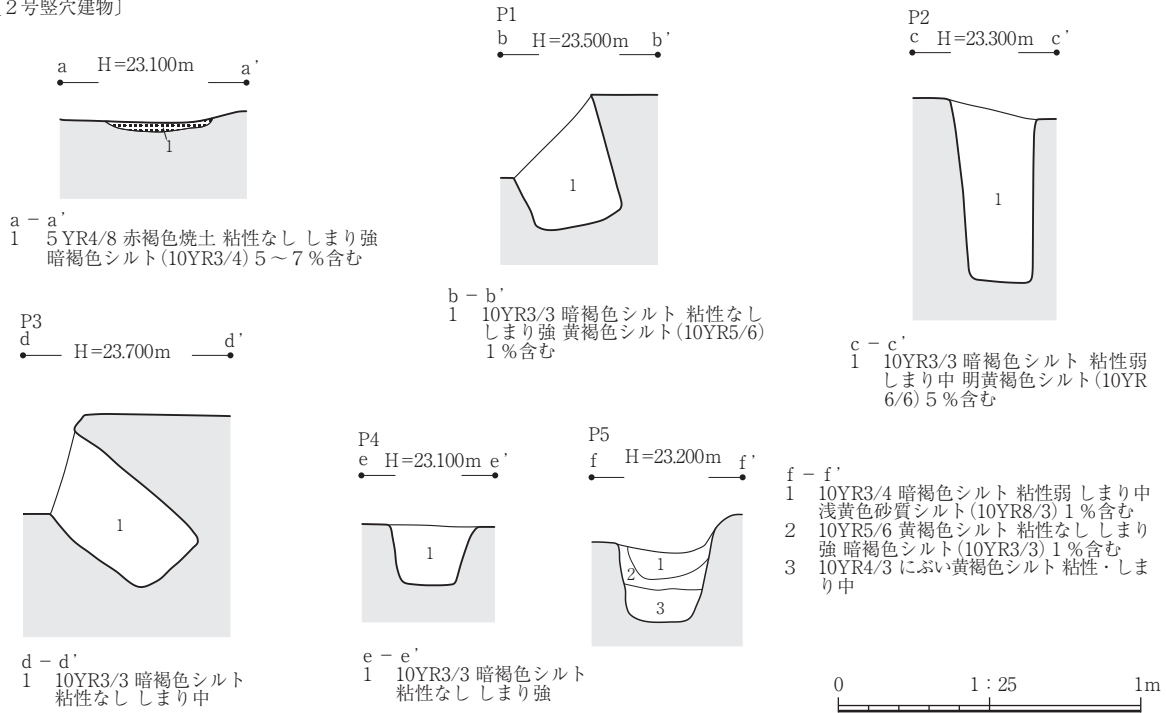
- 1 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり強 黒褐色シルト(10YR2/2) 3%、径1mmの礫粒1%含む
- 2 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり強 黒色シルト(10YR2/1) 2%、径2~3mmの礫粒1%含む
- 3 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり強 径1mmの炭化物粒1%、径1~2mmの礫粒1%含む
- 4 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性なし しまり強 黄褐色シルト(10YR5/6) 3~5%、径2~3mmの炭化物粒1%、径1mmの礫粒1%含む
- 5 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり強 径1~2mmの炭化物粒1%、径1~2mmの礫粒10%含む
- 6 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 暗褐色シルト(10YR3/3) 3%含む
- 7 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり強 褐色シルト(10YR4/4) 10%含む

0 1 : 50 2m

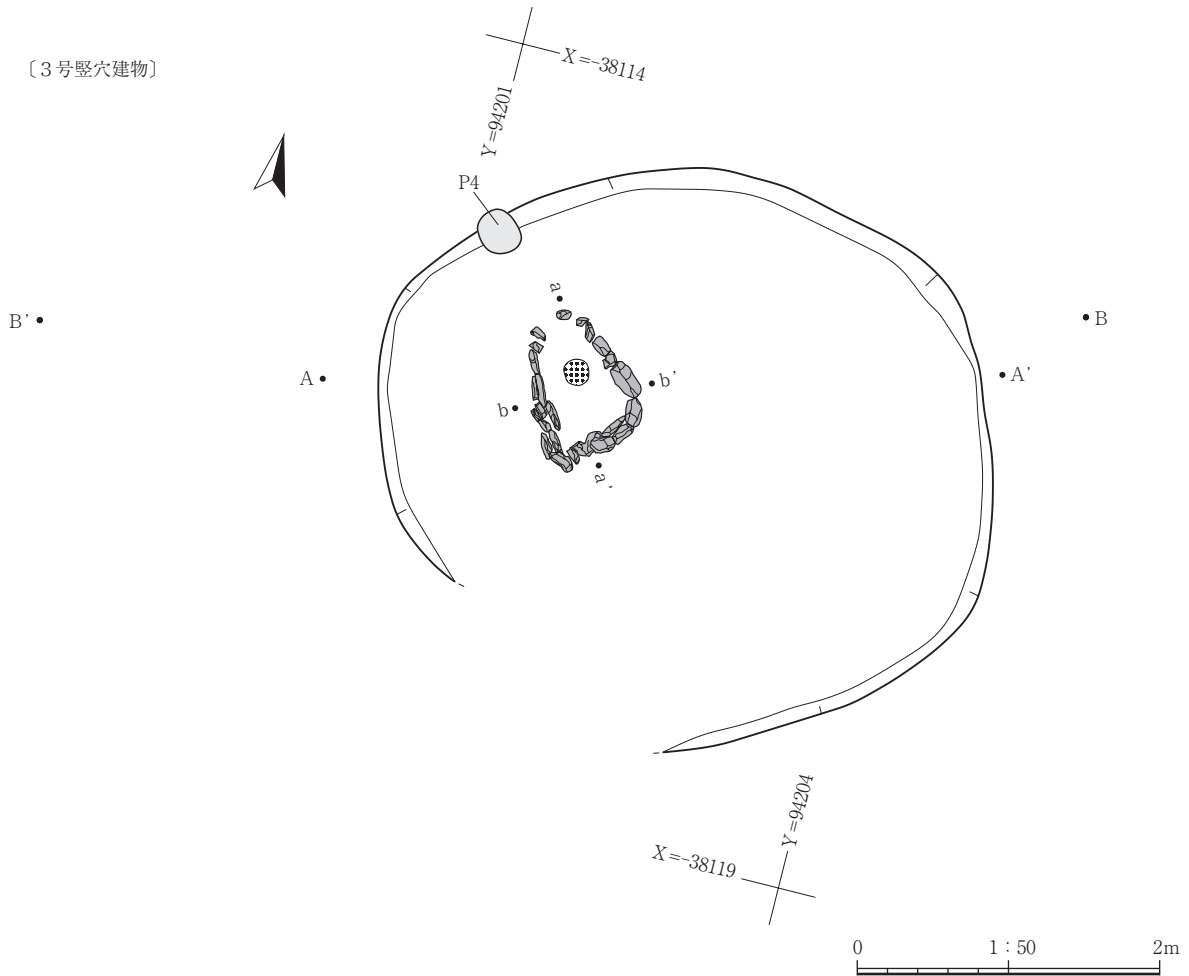
第9図 2号竖穴建物1

3 検出遺構と出土遺物

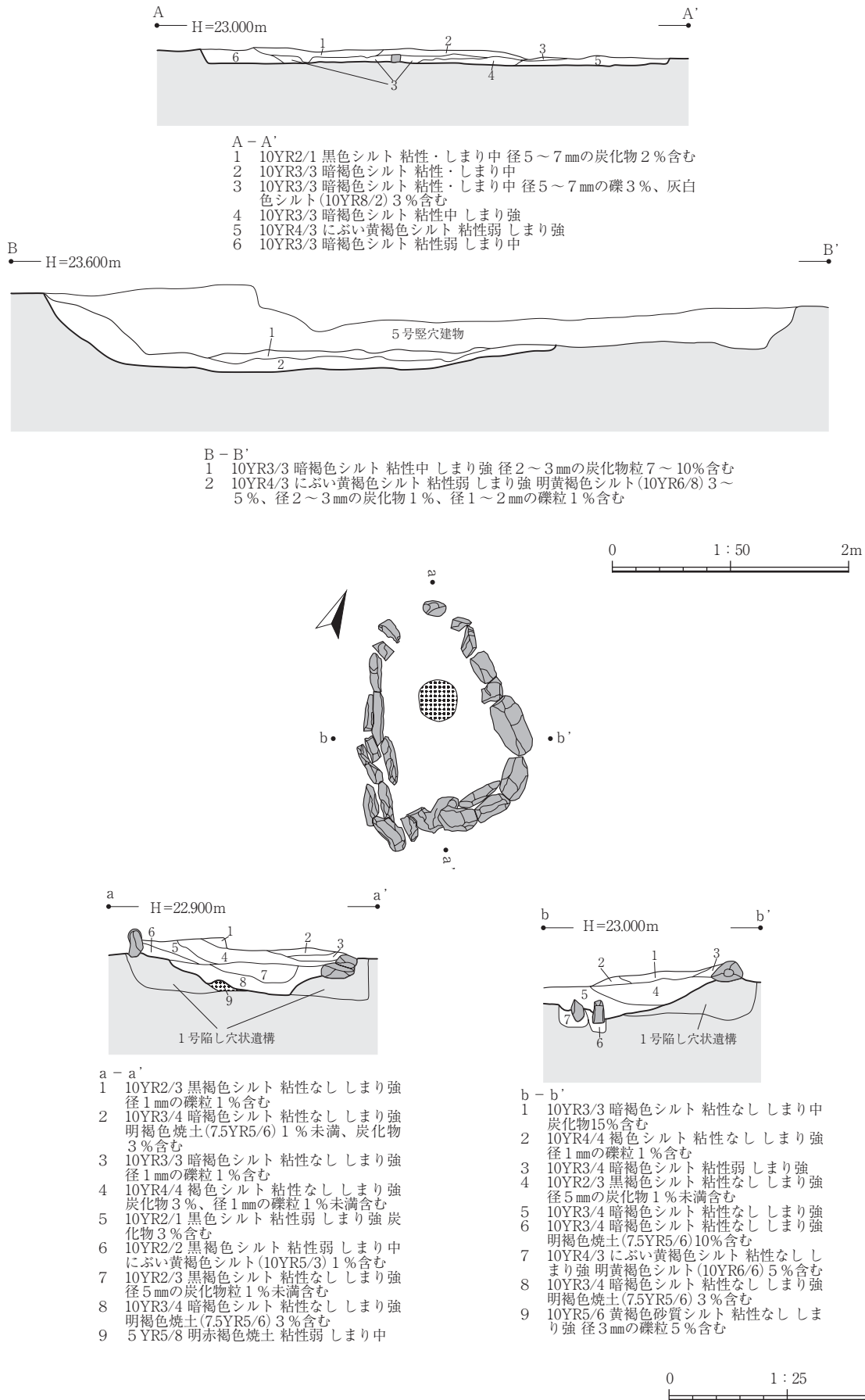
〔2号竖穴建物〕



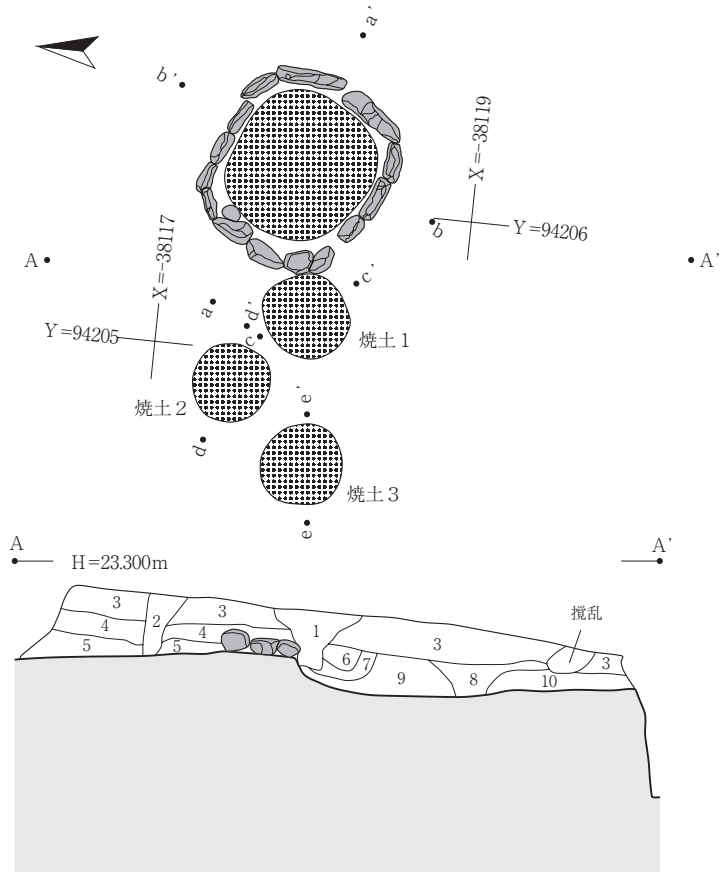
〔3号竖穴建物〕



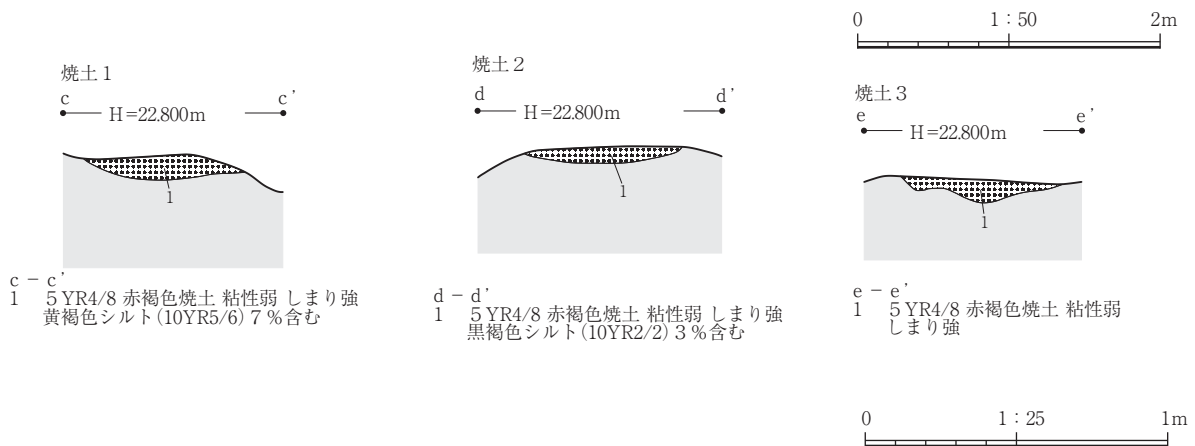
第10図 2号竖穴建物2、3号竖穴建物1



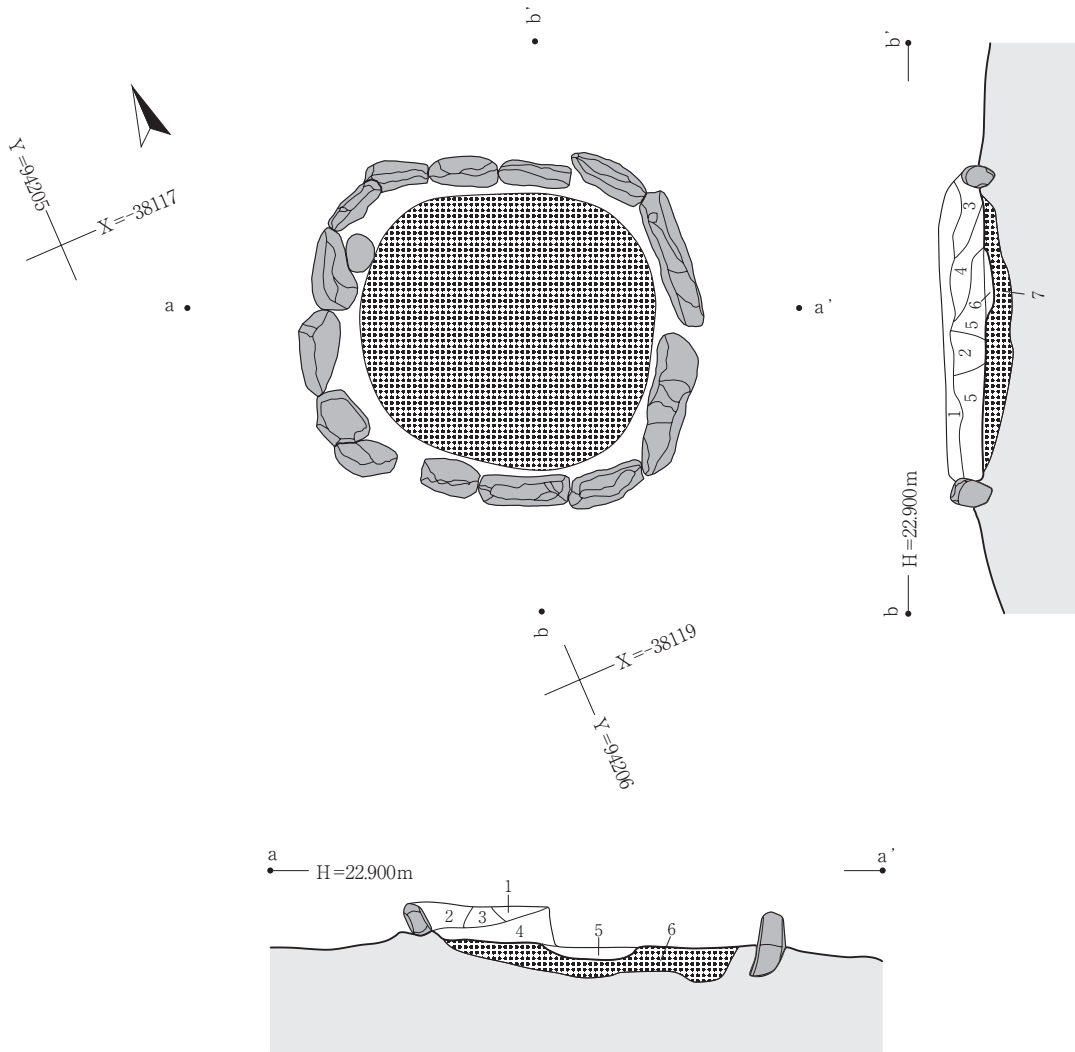
第11図 3号竖穴建物2



- A-A'
- 1 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 黒色シルト(10YR2/1)10～15%含む
 - 2 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 黒色シルト(10YR2/1)5%含む
 - 3 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり強 黒褐色シルト(10YR2/2)3～5%、径2～3mmの礫粒3%含む
 - 4 10YR4/3 黄褐色シルト 粘性弱 しまり強 径2～3mmの礫粒1%含む
 - 5 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性中 しまり強 径1～2mmの炭化物粒1%含む
 - 6 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性弱 しまり強 径1mmの礫粒1%、径1mmの炭化物粒1%含む
 - 7 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性弱 しまり強 黄褐色シルト(10YR5/6)3%、径2～3mmの礫粒3%含む
 - 8 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり中 黒褐色シルト(10YR2/2)7%、灰白色砂(10YR8/2)3%含む
 - 9 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり強 径2～3mmの礫粒2～3%含む
 - 10 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 黒色シルト(10YR2/1)7～10%、火山灰3%含む



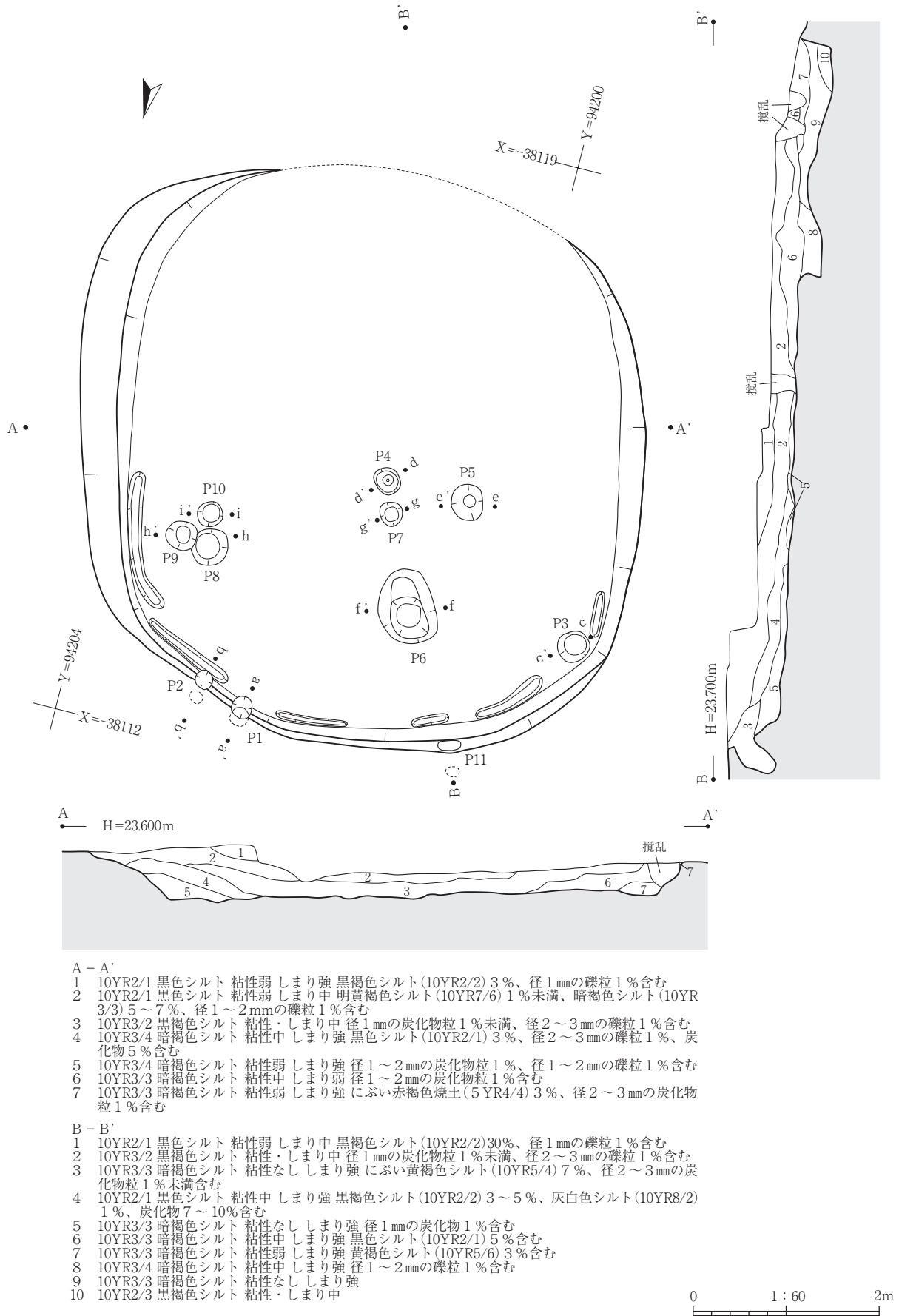
第12図 4号竪穴建物1



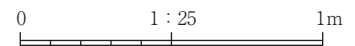
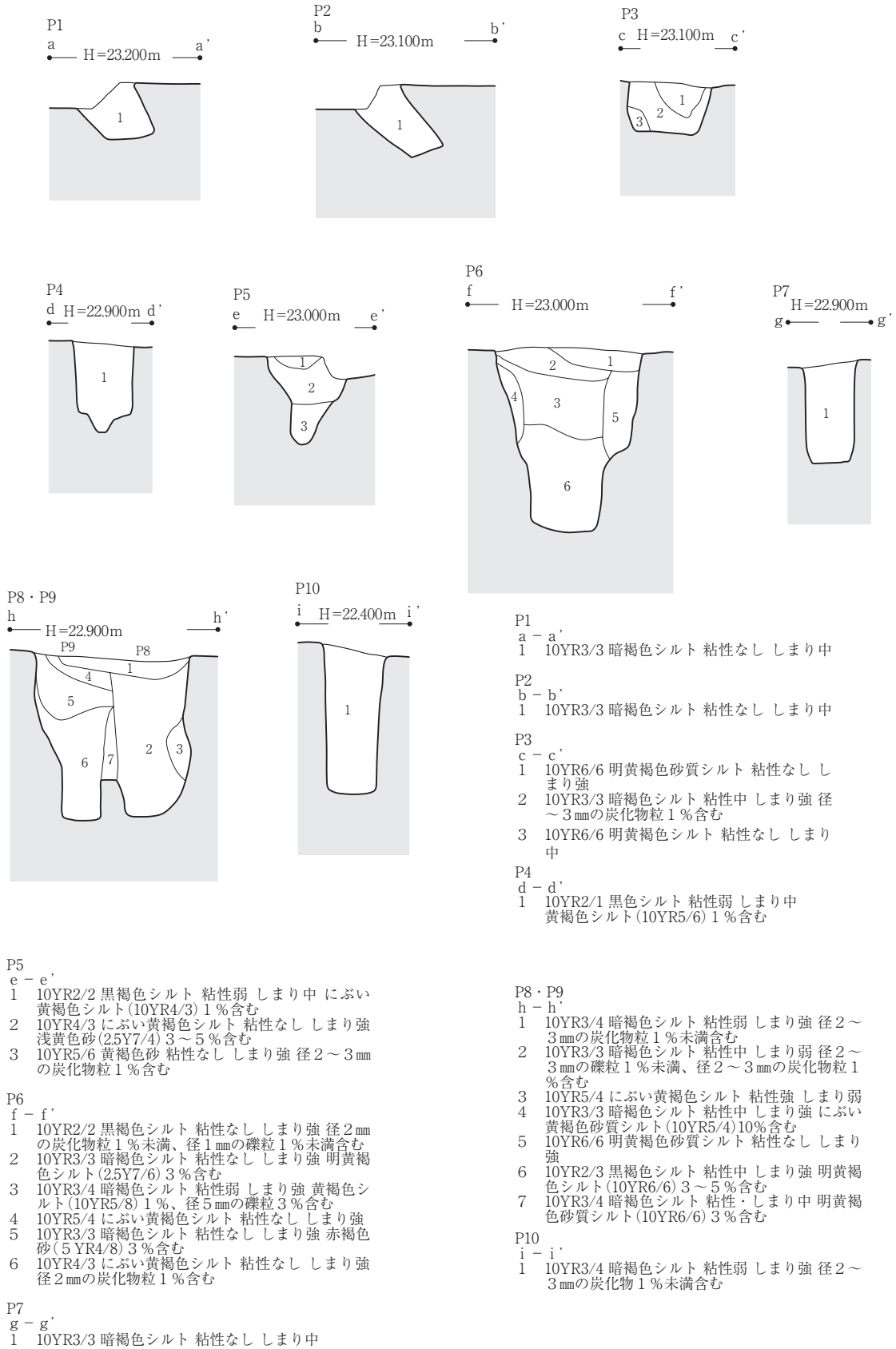
- a - a'
- 1 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なししまり弱
 - 2 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中 径1mmの礫粒1%含む
 - 3 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なししまり中
 - 4 7.5YR4/4 褐色シルト 粘性・しまり中 暗褐色シルト(10YR3/4) 5%含む
 - 5 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性弱 しまり強 褐色焼土(7.5YR4/6) 2%含む
 - 6 5YR4/8 赤褐色焼土 粘性なししまり強 径5mmの炭化物粒1%、褐色焼土(7.5YR4/4) 5%含む
- b - b'
- 1 10YR4/3 におい黄褐色シルト 粘性なししまり強
 - 2 10YR4/3 におい黄褐色シルト 粘性弱しまり強
 - 3 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中 褐色焼土(7.5YR4/6) 3~5%、径1mmの炭化物粒1%未満含む
 - 4 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なししまり強 径1~2mmの礫粒1%、径2~3mmの炭化物粒1%未満含む
 - 5 7.5YR4/6 褐色シルト 粘性・しまり中 径1~2mmの炭化物粒1%未満含む
 - 6 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性弱 しまり強 褐色焼土(7.5YR4/6) 2%含む
 - 7 5YR4/8 赤褐色焼土 粘性なししまり強 褐色焼土(7.5YR4/4) 5%、径5mmの炭化物粒1%含む

0 1 : 25 1m

第13図 4号竪穴建物2



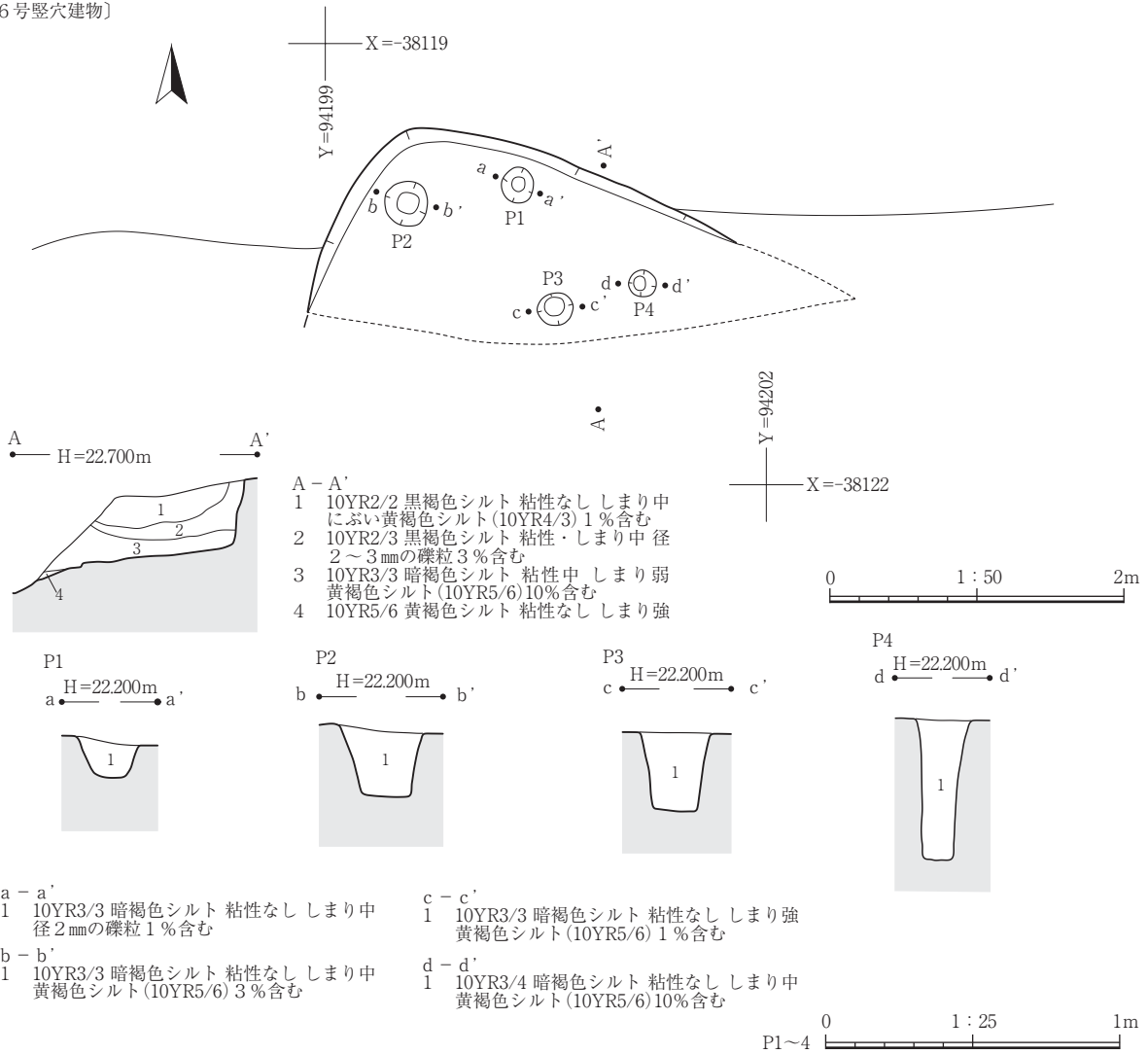
第14図 5号竪穴建物1



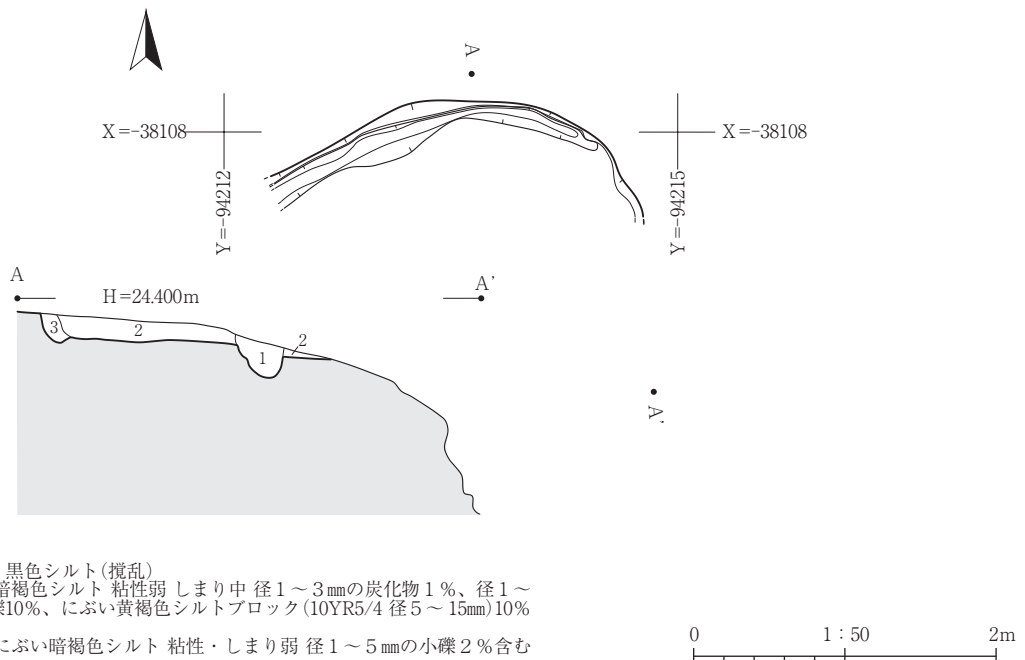
第15図 5号竖穴建物2

3 検出遺構と出土遺物

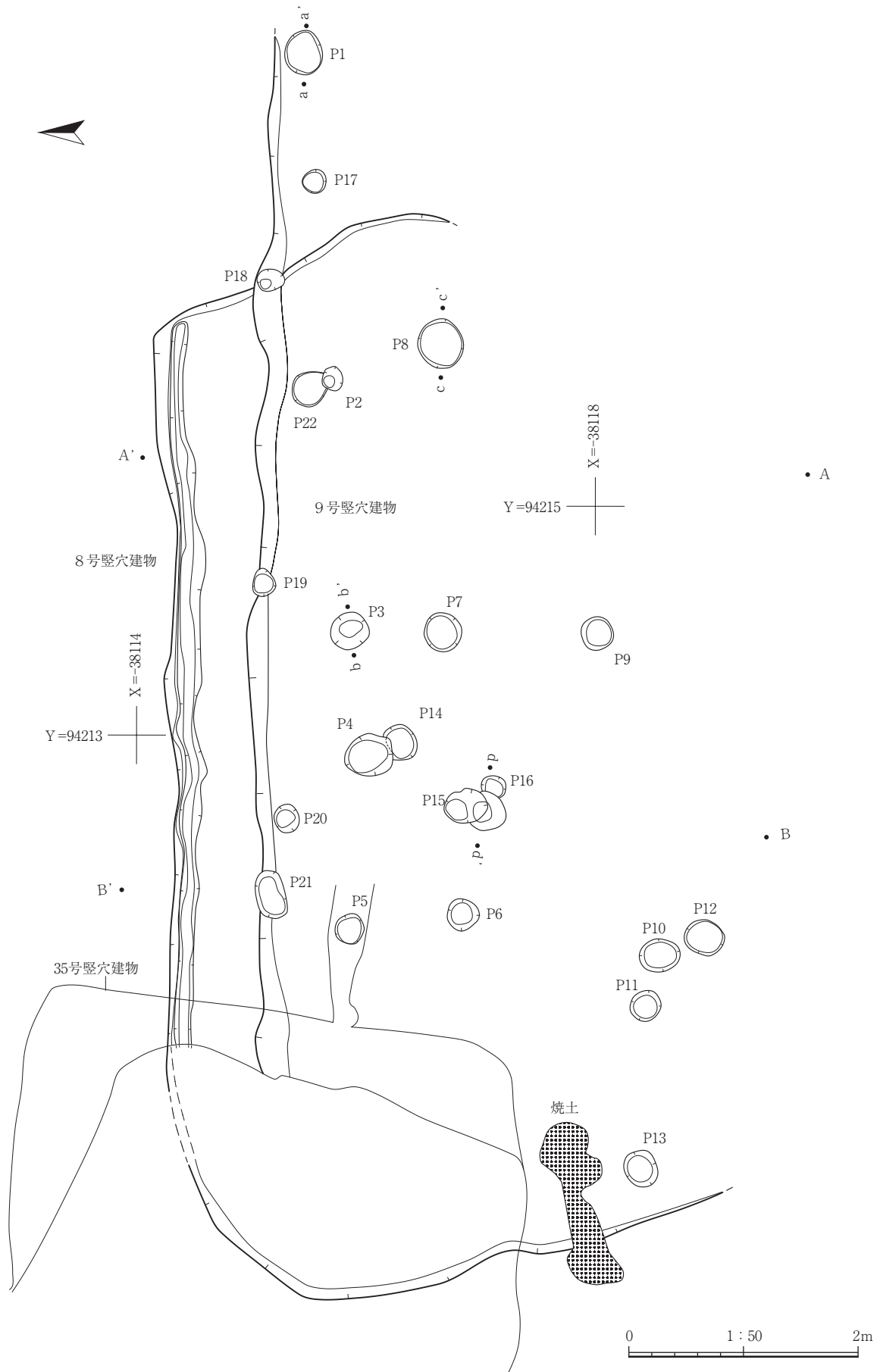
〔6号竪穴建物〕



〔7号竪穴建物〕

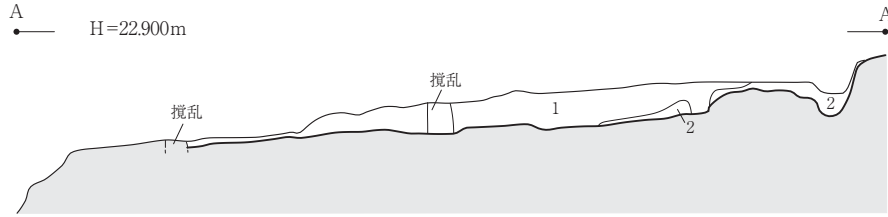


第16図 6・7号竪穴建物

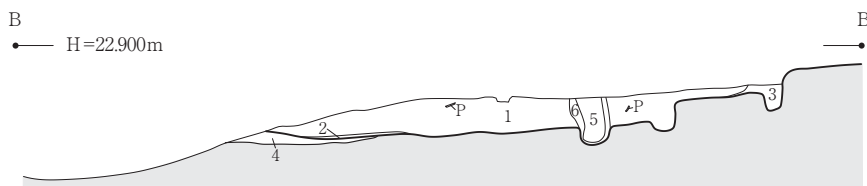


第17図 8・9号竖穴建物 1

3 検出遺構と出土遺物

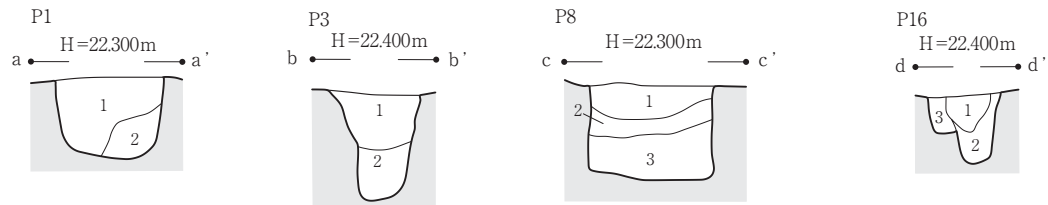


- A - A'
- 1 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 径2～5mmの炭化物5%、径1～10mmの小礫10%、黒褐色シルトブロック(10YR2/2 径20～50mm)5%含む
- 2 10YR4/3 におい黄褐色シルト 粘性・しまり中 径1～2mmの炭化物1%、径2～5mmの小礫5%、黒褐色シルトブロック(10YR2/2 径20～50mm)5%含む



- B - B'
- 1 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 径2～5mmの炭化物5%、径1～10mmの小礫10%、黒褐色シルトブロック(10YR2/2 径20～50mm)5%含む
- 2 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性・しまり中 径2～5mmの炭化物5%、径1～10mmの小礫20%含む
- 3 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 径2～5mmの炭化物5%、径1～10mmの小礫10%、黒褐色シルトブロック(10YR2/2 径20～50mm)5%含む
- 4 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性中 しまり弱 径2～5mmの炭化物3%含む
- 5 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 径2～5mmの炭化物2%、径1～5mmの小礫7%含む
- 6 10YR4/3 におい黄褐色シルト 粘性・しまり弱 径1～3mmの炭化物2%、径1～7mmの小礫10%含む

* 4は8号竪穴建物埋土、5・6はP21の埋土

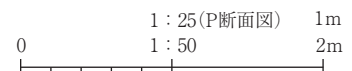


- P1 a - a'
- 1 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 径2～3mmの炭化物2%、におい黄褐色シルトブロック(10YR4/3 径10～20mm)10%含む
- 2 10YR4/4 褐色シルト 粘性・しまり弱

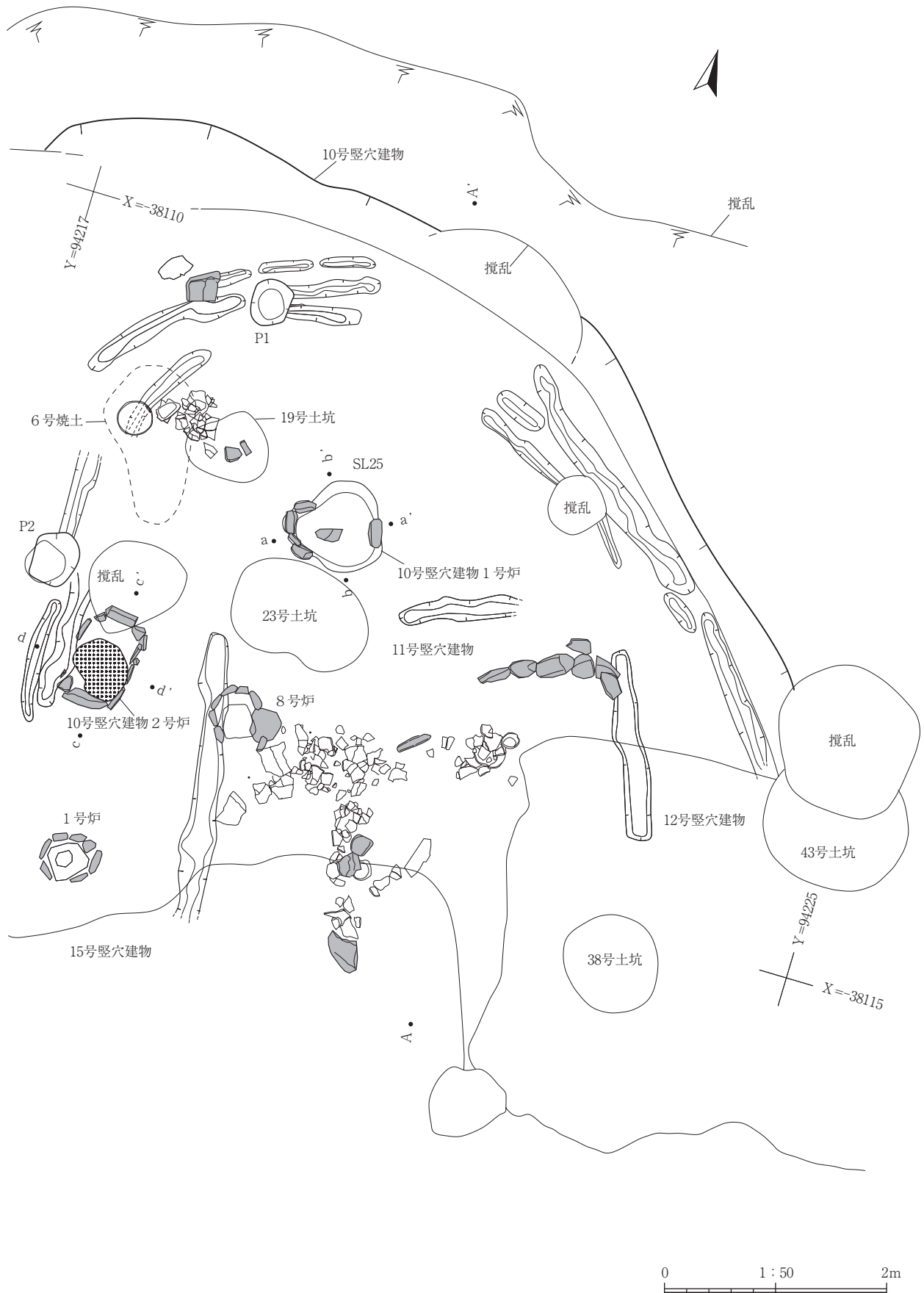
- P3 b - b'
- 1 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 径1～3mmの炭化物2%、径1～3mmの小礫5%含む
- 2 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 におい黄褐色シルトブロック(10YR5/4 径5～20mm)3%含む

- P8 c - c'
- 1 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 径1～2mmの小礫2%含む
- 2 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱
- 3 10YR4/3 におい黄褐色シルト 粘性・しまり弱 径1～3mmの炭化物2%、におい黄褐色シルトブロック(10YR5/4 径5～20mm)3%含む

- P16 d - d'
- 1 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり弱 径2～5mmの炭化物2%、におい黄褐色シルトブロック(10YR4/3 径2～10mm)3%含む
- 2 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり弱
- 3 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 におい黄褐色シルトブロック(10YR4/3 径2～10mm)5%含む

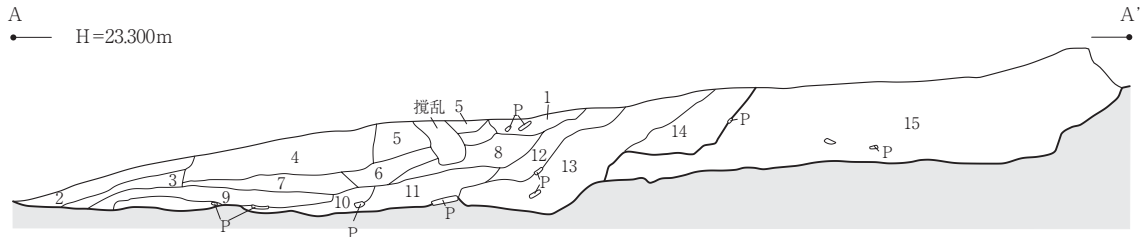


第18図 8・9号竪穴建物2



第19图 10・11号竖穴建物 1

3 検出遺構と出土遺物



10号竪穴建物

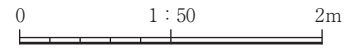
A-A'

15 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり中 径10～20mmの炭化物1～2%含む

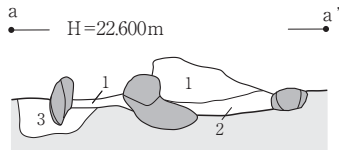
11号竪穴建物

A-A'

- 1 10YR2/1 黒色シルト70%、10YR5/4 にぶい黄褐色シルト30%の混合土層 粘性弱 しまり中
- 2 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり中
- 3 10YR3/2 黒色シルト 粘性・しまり中
- 4 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性弱 しまり中 径5～7mmの炭化物1%含む
- 5 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中 径8mmの炭化物1%含む
- 6 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまり中 土器片多く含む
- 7 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中
- 8 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中 径2～3mmの礫2%含む
- 9 10YR3/3 暗褐色シルト60%、10YR6/6 明黄褐色シルト40%の混合土層 粘性・しまり中
- 10 10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまり中 炭化物3%含む
- 11 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性強 しまり中 明黄褐色シルト(10YR7/6) 2～3%、径10mmの炭化物1%含む
- 12 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性強 しまり中 明黄褐色シルト(10YR7/6) 2～3%、径4～7mmの炭化物1%含む
- 13 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり中 径5mmの炭化物1%未満含む
- 14 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR7/6) 3～5%、径10～15mmの炭化物1%含む



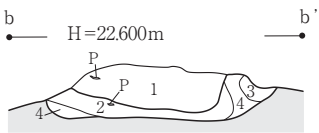
10号竪穴建物-1号炉



a-a'

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性強 しまり中 径1～2mmの炭化物粒2～3%、赤褐色焼土粒(5YR4/8 径1～2mm) 2～5%含む
- 2 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性強 しまり中 赤褐色焼土粒(10YR5/6 径1～2mm) 2～3%含む
- 3 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中 にぶい黄褐色シルト(10YR5/4) 3～5%含む 炉石の掘方

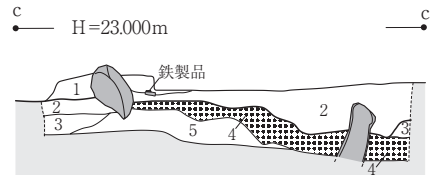
10号竪穴建物-1号炉



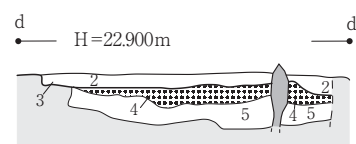
b-b'

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性強 しまり中 径1～2mmの炭化物粒2～3%、赤褐色焼土粒(5YR4/8 径1～2mm) 2～5%含む
- 2 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性強 しまり中 赤褐色焼土粒(10YR5/6 径1～2mm) 2～3%含む
- 3 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり中 黄褐色シルト粒(10YR5/6 径1～2mm) 1～2%含む
- 4 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり中 褐色シルト(10YR4/4 径2～5mm) 10～15%含む

10号竪穴建物-2号炉

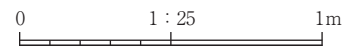


10号竪穴建物-2号炉

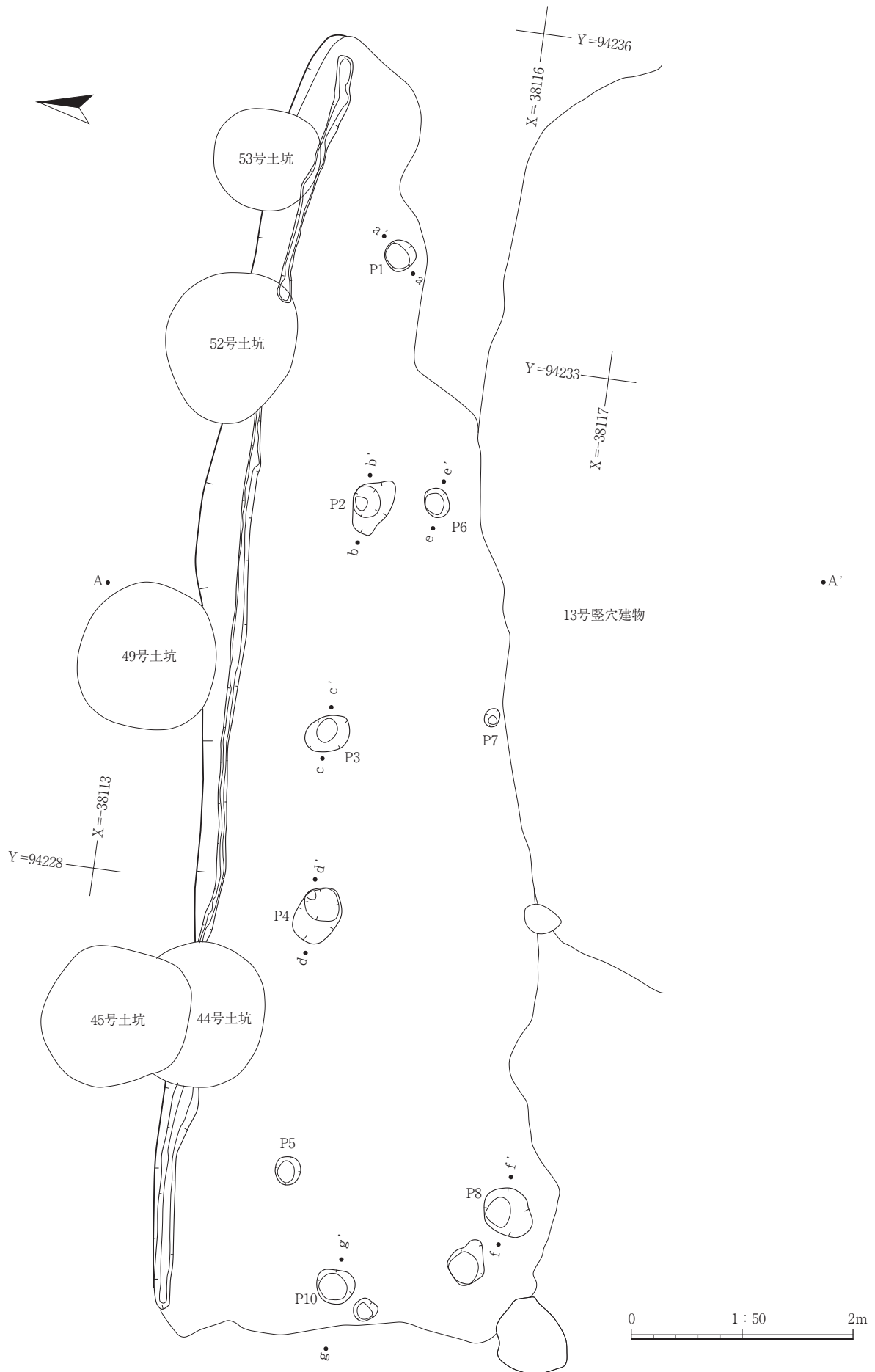


c-c', d-d'

- 1 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 径2～3mmの炭化物2%、径1～3mmの小礫5%含む
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性・しまり弱 径2～3mmの炭化物2%、径1～4mmの小礫5%含む
- 3 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 2～5mmの炭化物2%含む
- 4 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性弱 しまり中 径2～3mmの炭化物3%、明褐色シルト(7.5YR5/6 径5～100mm 焼土ブロック)50%含む
- 5 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 径2～5mmの炭化物5%含む

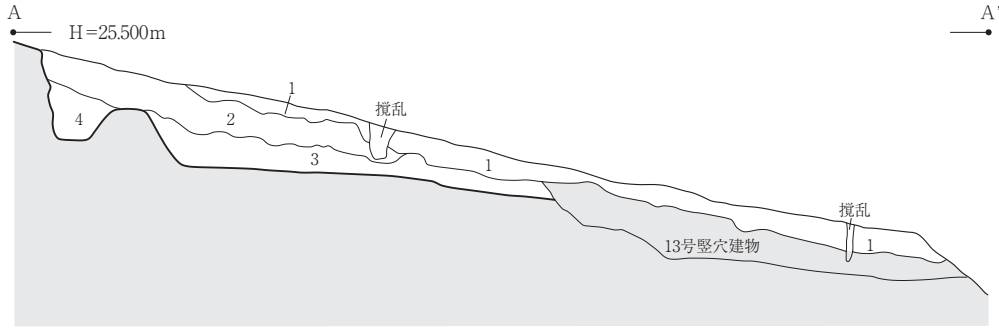


第20図 10・11号竪穴建物2



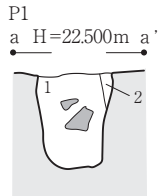
第21図 12号竖穴建物 1

3 検出遺構と出土遺物



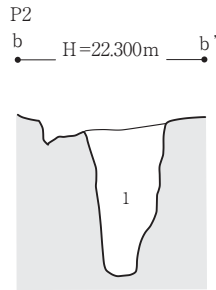
A - A'

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり強 径1mmの炭化物1%未満、明黄褐色シルトブロック(10YR6/8 径5mm) 5%、径2mmの礫20%含む(自然堆積層)
- 2 10YR4/4 褐色シルト 粘性・しまり中 径1mmの炭化物1%未満、黄褐色シルトブロック(10YR5/8 径10~30mm) 20%、浅黄褐色風化花崗岩ブロック(10YR8/4 径30~60mm)層南端に20%偏在(自然堆積層)
- 3 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性弱 しまり強 径1mmの炭化物1%未満、径2~5mmの礫20%含む(遺構埋土)
- 4 10YR4/6 褐色シルト 粘性弱 しまり強 径1mmの炭化物1%未満、黄褐色シルトブロック(10YR5/8 径10mm) 5%、径2mmの礫20%含む



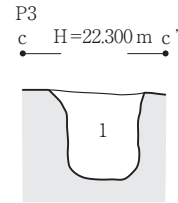
a - a'

- 1 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 径1~2mmの炭化物1%、径30~50mmの礫2%含む
- 2 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 径1~2mmの炭化物1%含む



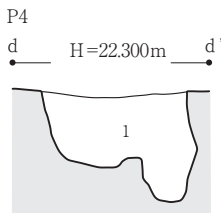
b - b'

- 1 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまり中 径1mm未満の風化花崗岩粒1%未満、径3cm前後のロームブロック15%含む



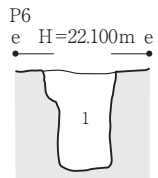
c - c'

- 1 10YR4/4 褐色シルト 粘性・しまり弱 黄褐色シルトブロック(10YR5/6 径2~10mm) 3%、径1~3mmの小礫10%含む



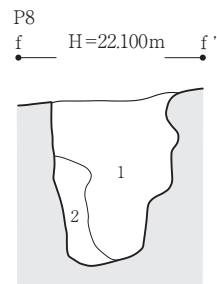
d - d'

- 1 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 径1cm未満の風化花崗岩粒1%未満、径1cm前後の炭化物1%未満、径3cm未満のロームブロック3%未満含む



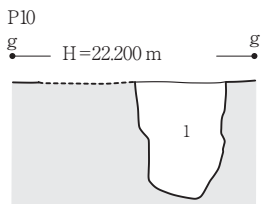
e - e'

- 1 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり中 径1mm未満の風化花崗岩粒・炭化物・焼土粒を各1%含む



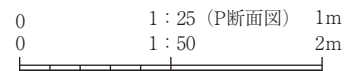
f - f'

- 1 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 径1cm前後の風化花崗岩粒1%、土器片2%、径1cm前後の炭化物1%混入
- 2 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 径1cm前後の風化花崗岩粒1%、径1cm前後の炭化物1%、黄褐色土ロームブロック(10YR5/8)40%混入



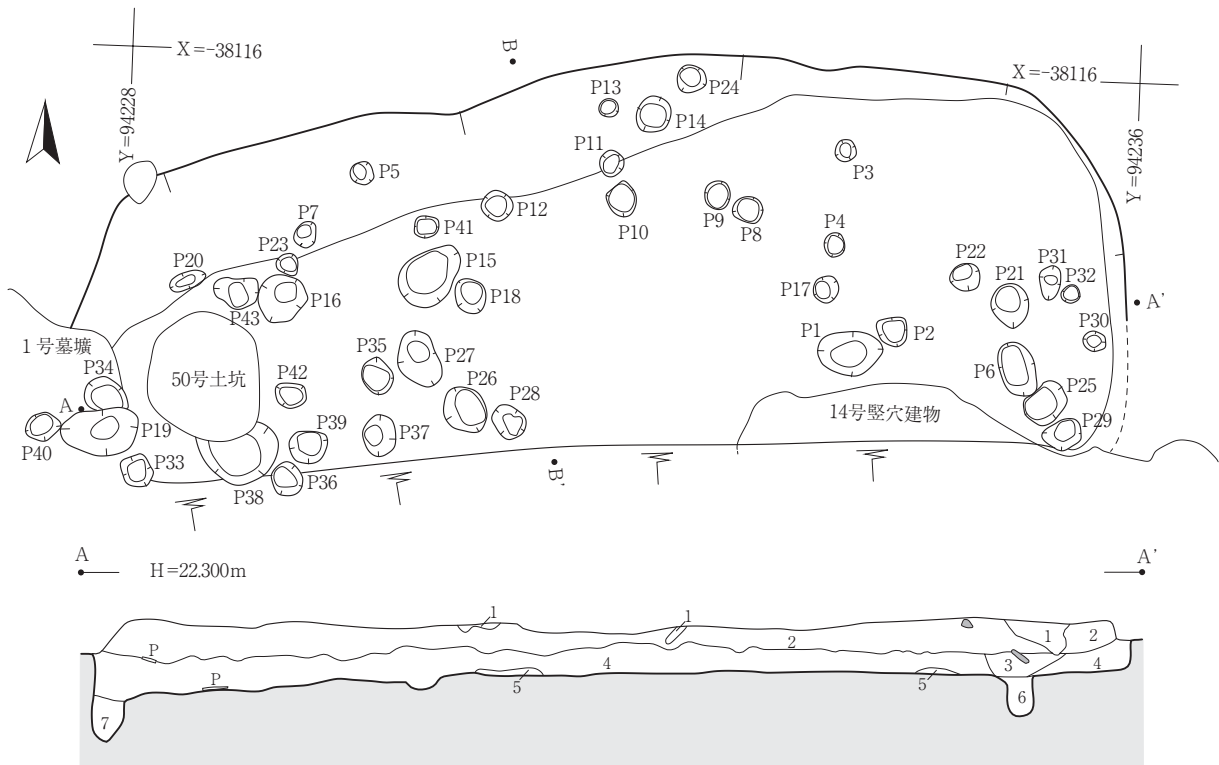
g - g'

- 1 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり中 径1cm前後の風化花崗岩粒2%、径1mm未満の炭化物1%含む

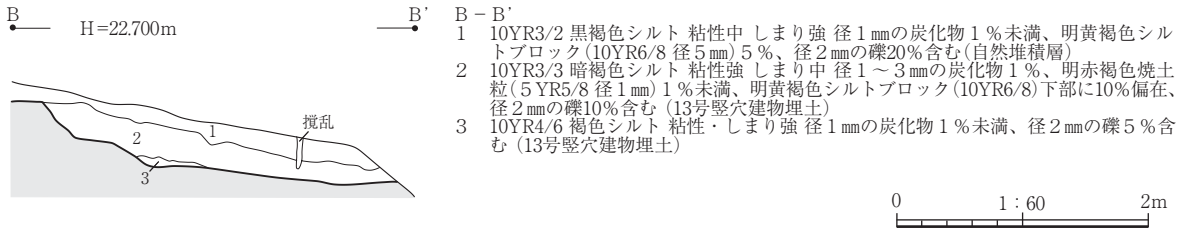


第22図 12号竪穴建物2

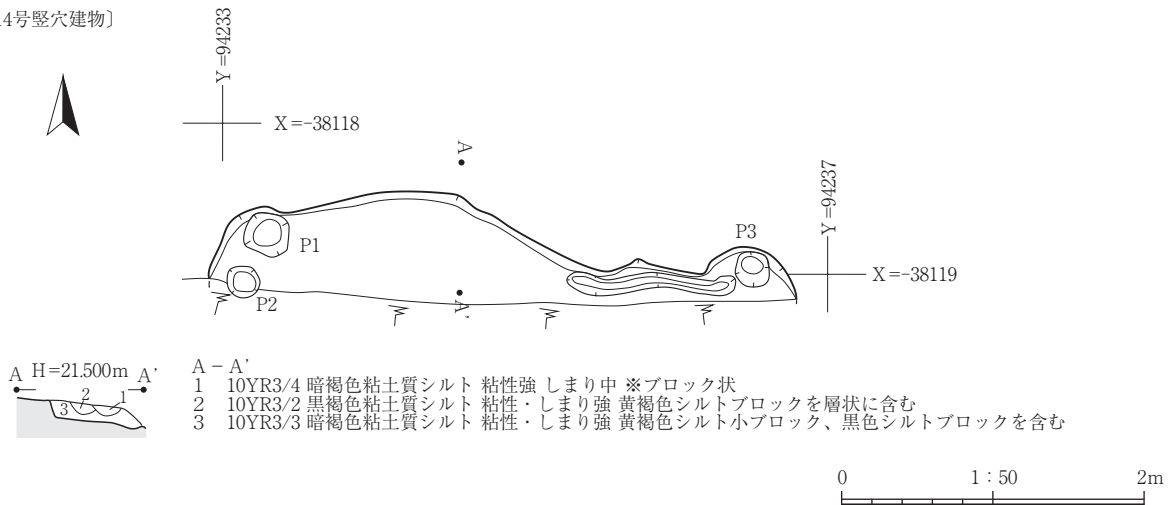
[13号竪穴建物]



- A - A'
- 1 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性・しまり強 径2~5mmの炭化物1%、径2mmの礫10%含む
 - 2 10YR4/2 灰黄褐色シルト 粘性・しまり中 径2mmの炭化物1%、明赤褐色焼土粒(5YR5/8 径2mm)1%、径2mmの礫10%含む
 - 3 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり強 径2mmの炭化物1%未満、明黄褐色シルトブロック(10YR7/6 径5~10mm)20%含む
 - 4 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまり強 径2~5mmの炭化物1%、明赤褐色焼土粒(5YR5/8 径1mm)3~5%、径2mmの礫10%含む
 - 5 10YR5/8 黄褐色シルト 粘性・しまり強 径2mmの炭化物1%未満、黒褐色シルトブロック(10YR3/2 径10~30mm)20%含む
 - 6 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性中 しまりなし 径2mmの炭化物1%、明黄褐色シルトブロック(10YR7/6 径10mm)10%含む
 - 7 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性強 しまり中 径2mmの炭化物1%、明黄褐色シルトブロック(10YR7/6 径10mm)5%含む

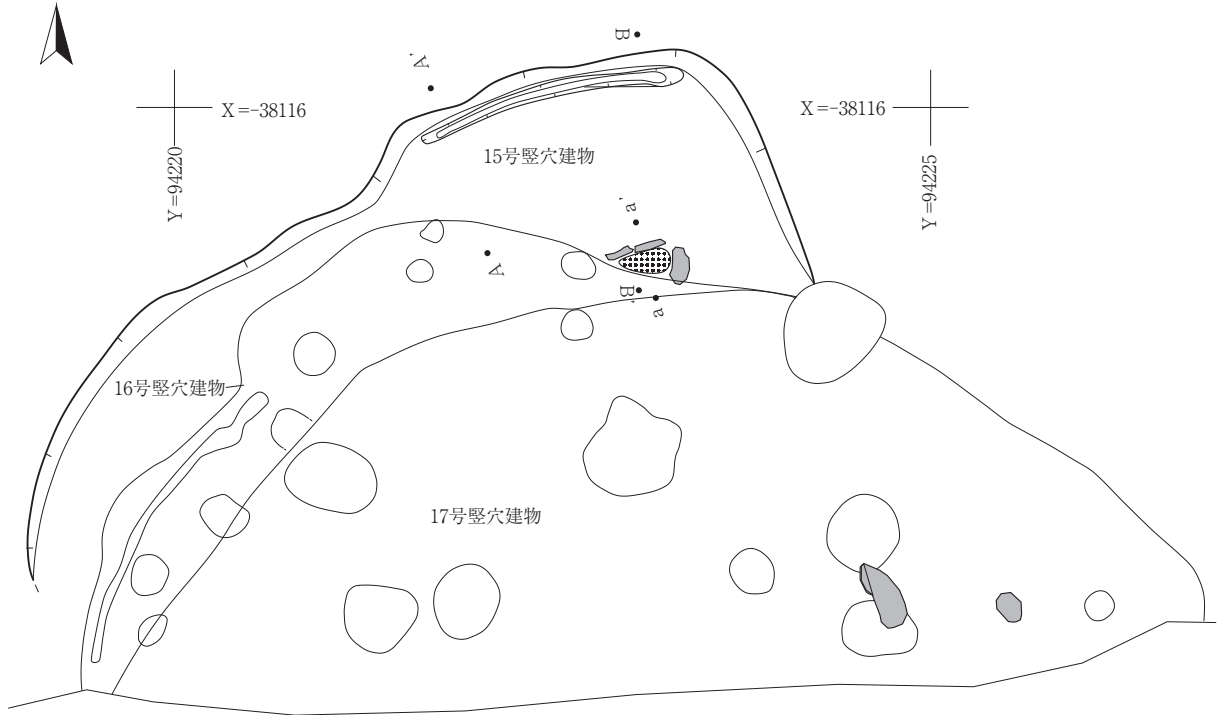


[14号竪穴建物]

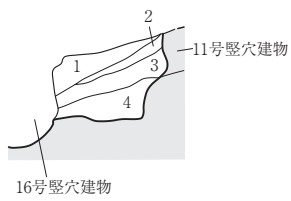


第23図 13・14号竪穴建物

3 検出遺構と出土遺物



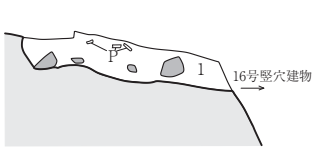
A — H=22.600m — A'



A - A'

- 1 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中
- 2 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり中
- 3 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6) 1~2% 含む
- 4 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり中 径1cmの炭化物1%未満含む

B — H=22.700m — B'

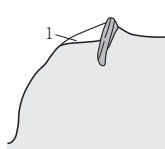


B - B'

- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性・しまり弱 径2~7mmの炭化物5%、黒褐色シルト(10YR3/2 径20~50mm)ブロックで10%、径1~10mmの小礫30%含む

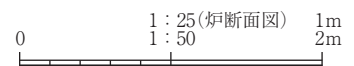
炉

a — H=21.900m — a'

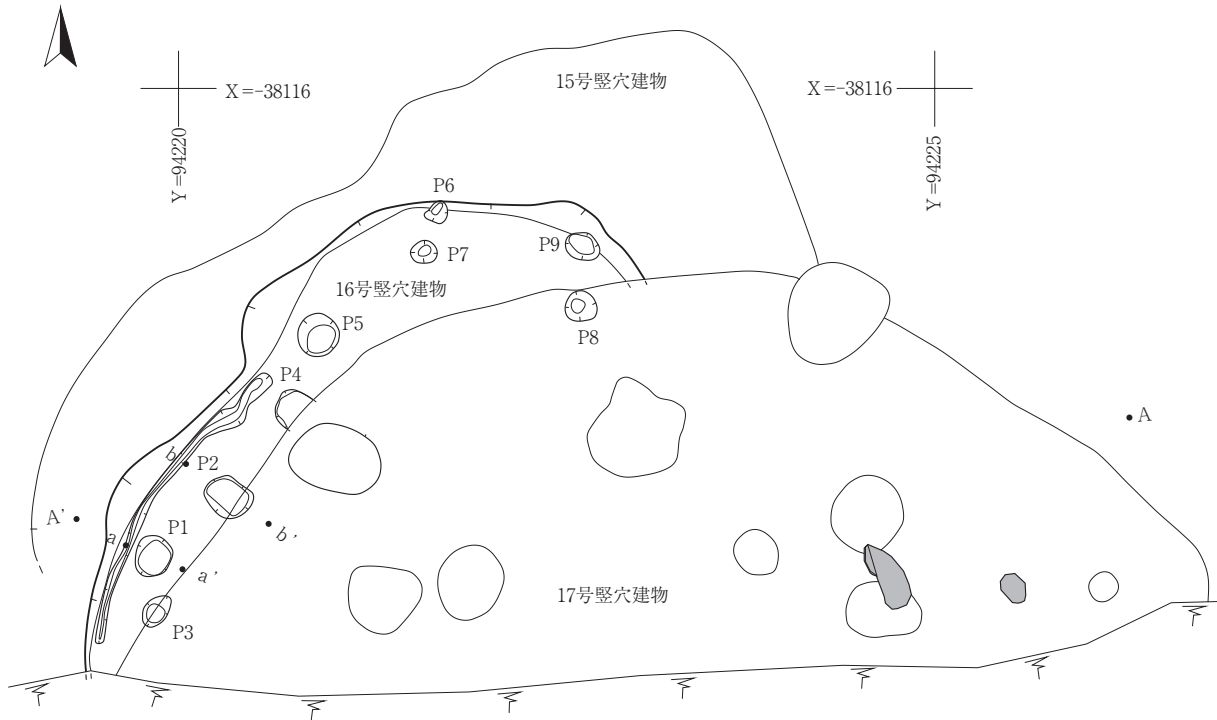


a - a'

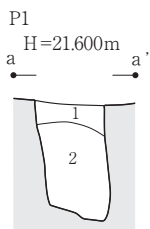
- 1 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまり中 下層に炭化物5~7%、明赤褐色焼土(5YR5/6)を1%含む



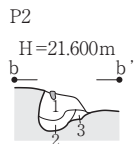
第24図 15号竪穴建物



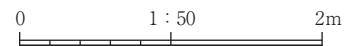
A - A'
1 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり中



P1
a - a'
1 10YR4/4 褐色シルト 粘性・しまり弱 径2~3mmの炭化物1%、
黄褐色シルトブロック(10YR5/6 径2~30mm)60%含む
2 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 径2~3mmの炭化物1%
含む

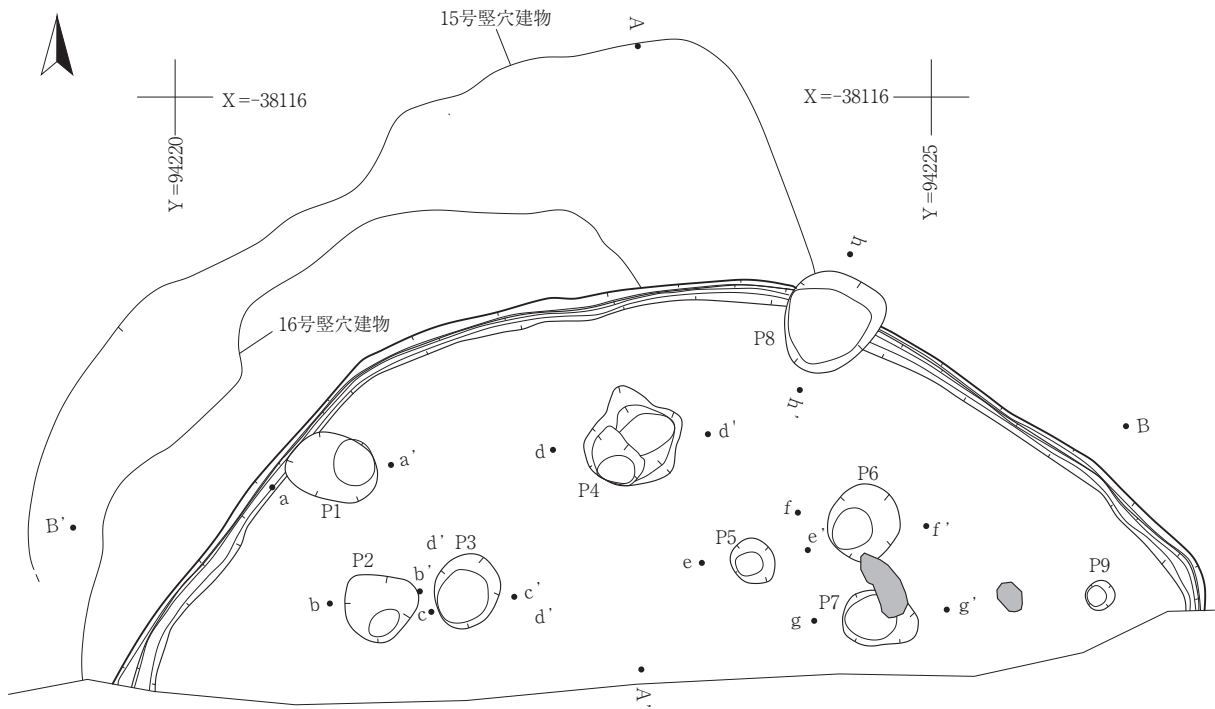


P2
b - b'
1 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 径2~5mmの炭化物3%、
黄褐色シルトブロック(10YR5/6 径2~7mm)5%含む
2 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 しまり弱 径2~15mmの炭化物2%、
黄褐色シルトブロック(10YR5/6 径2~4mm)3%含む
3 10YR4/3 におい黄褐色シルト 粘性・しまり弱 径1~2mmの炭化
物1%含む

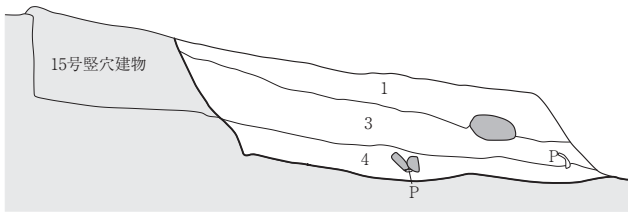


第25図 16号竖穴建物

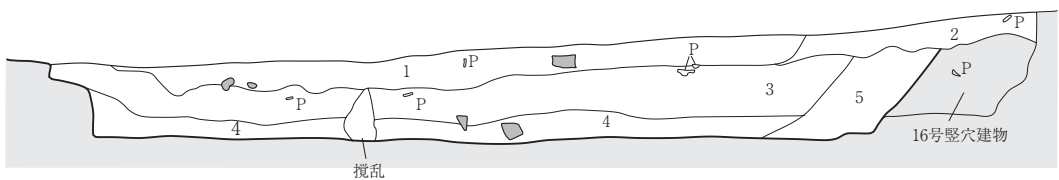
3 検出遺構と出土遺物



A — H=22.600m — A'



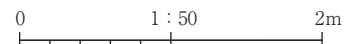
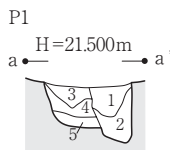
B — H=22.400m — B'



A-A', B-B'

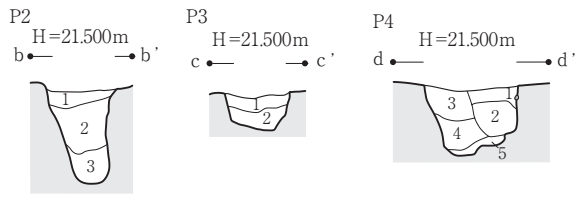
- 1 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 径2～5mmの炭化物3%、径2～10mmの礫10%含む
- 2 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 径2～5mmの炭化物3%、径2～10mmの礫10%含む
- 3 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性・しまり弱 径2～10mmの炭化物5%、径2～10mmの礫20%、褐色焼土(7.5YR4/6)混入 黄褐色シルトブロック(10YR5/6 径3～20mm)5%含む
- 4 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 径2～5mmの炭化物5%、径2～5mmの礫10%、黄褐色シルトブロック(10YR5/6 径5～30mm)含む
- 5 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり中(壁崩落により16号竪穴建物の埋土が混入したもの)

- P1
- a - a'
- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性・しまり弱 径3～5mmの炭化物2%含む
 - 2 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性中 しまり弱 径2～5mmの炭化物2%、黄褐色シルトブロック(10YR5/6 径2～5mm)10%含む(地山ブロック)
 - 3 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 径2～3mmの炭化物2%、黄褐色シルトブロック(10YR5/6 径2～20mm)10%含む
 - 4 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性・しまり弱 黄褐色シルトブロック(10YR5/6 径2～10mm)20%含む
 - 5 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性中 しまり弱 径2～20mmの炭化物2%、黄褐色シルトブロック(10YR5/6 径2～10mm)7%含む

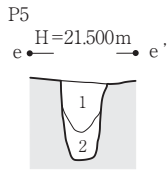


第26図 17号竪穴建物 1

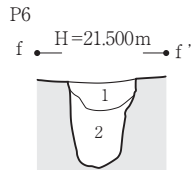
[17号竖穴建物]



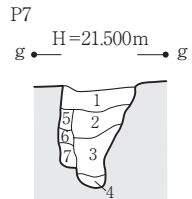
- P2
b - b'
- 10YR4/3 におい黄褐色シルト粘性・しまり弱 径2～5mmの炭化物3%、黄褐色シルトブロック(10YR5/6 径2～20mm)10%含む
 - 10YR3/3 暗褐色シルト粘性・しまり弱 径2～5mmの炭化物3%、黄褐色シルトブロック(10YR5/6 径3～30mm)5%含む
 - 10YR3/3 暗褐色シルト粘性・しまり弱 黄褐色シルトブロック(10YR5/6 径2～5mm)2%含む



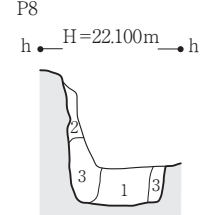
- P5
e - e'
- 10YR4/3 におい黄褐色シルト粘性・しまり弱 径2～5mmの炭化物2%、黄褐色シルトブロック(10YR5/6 径2～10mm)5%含む
 - 10YR3/3 暗褐色シルト粘性・しまり弱 径2～5mmの炭化物5%、黄褐色シルトブロック(10YR5/6 径2～5mm)3%含む



- P6
f - f'
- 10YR4/3 におい黄褐色シルト粘性・しまり弱 径2～5mmの炭化物3%、黄褐色シルトブロック(10YR5/6 径2～20mm)10%含む
 - 10YR3/3 暗褐色シルト粘性・しまり弱 径2～5mmの炭化物1%、黄褐色シルトブロック(10YR5/6 径2～10mm)3%含む

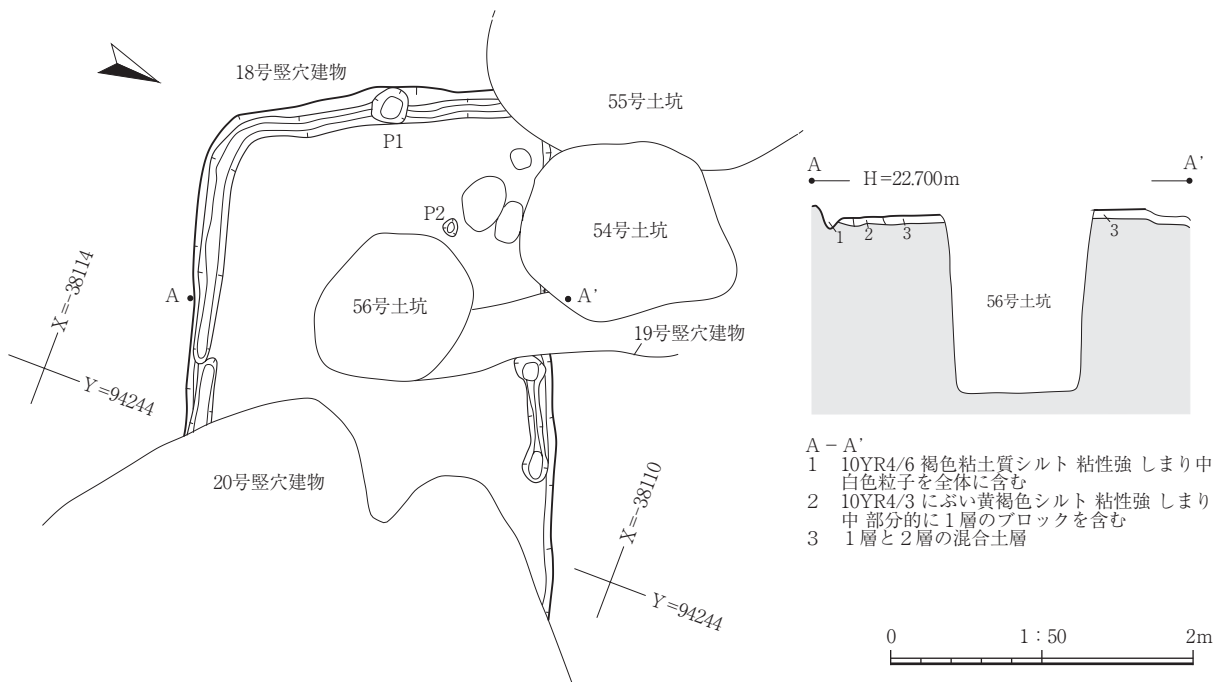


- P7
g - g'
- 10YR4/3 におい黄褐色シルト粘性・しまり弱 径2～5mmの炭化物2%、黄褐色シルトブロック(10YR5/6 径10～50mm)10%含む
 - 10YR3/3 暗褐色シルト粘性・しまり弱 径2～3mmの炭化物5%、黄褐色シルトブロック(10YR5/6 径2～10mm)10%含む
 - 10YR3/4 暗褐色シルト粘性中しまり弱 径2～5mmの炭化物2%、黄褐色シルトブロック(10YR5/6 径2～20mm)7%含む
 - 2.5Y5/3 黄褐色砂質シルト粘性・しまり弱
 - 10YR5/6 黄褐色シルト粘性・しまり弱 径2～5mmの炭化物2%、黄褐色シルトブロック(10YR5/6 径2～50mm)80%含む
 - 10YR3/4 暗褐色シルト粘性中しまり弱
 - 10YR4/4 褐色シルト粘性中しまり弱 黄褐色シルトブロック(10YR5/6 径10～30mm)60%含む



- P8
h - h'
- 10YR4/3 におい黄褐色シルト粘性・しまり弱 径2～10mmの炭化物3%、におい黄褐色シルトブロック(10YR5/4 径10～15mm)40%含む
 - 10YR4/2 灰黄褐色シルト粘性・しまり弱 径2～5mmの炭化物1%、におい黄褐色シルトブロック(10YR5/4 径2～10mm)3%含む
 - 10YR4/2 灰黄褐色シルト粘性・しまり弱 径2～5mmの炭化物1%、におい黄褐色シルトブロック(10YR4/3 径100～200mm)20%、におい黄褐色シルトブロック(10YR5/4 径2～100mm)含む

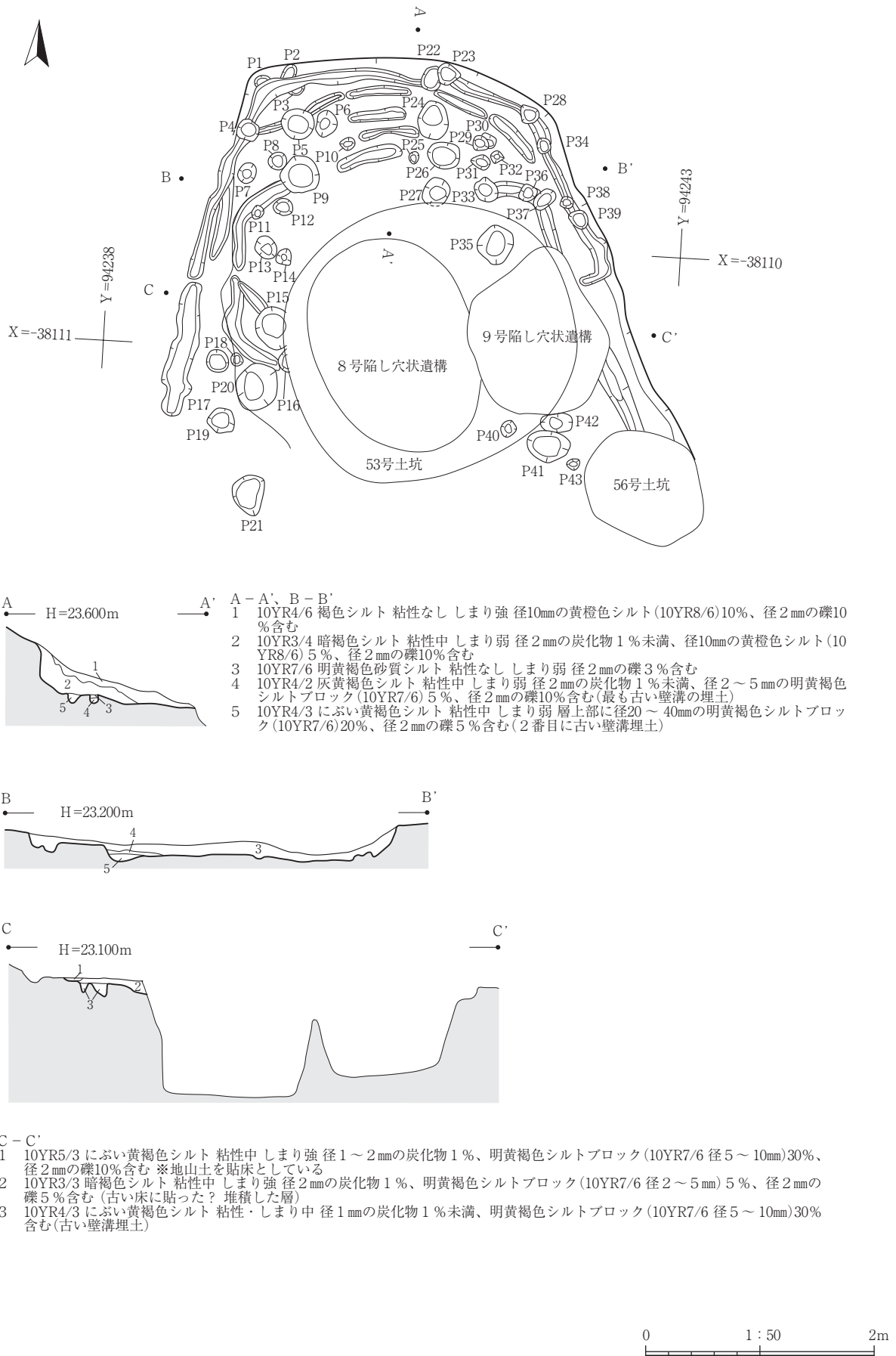
[18号竖穴建物]



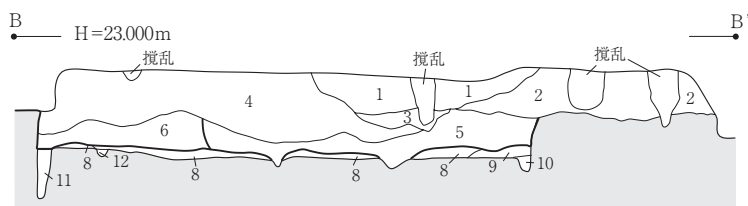
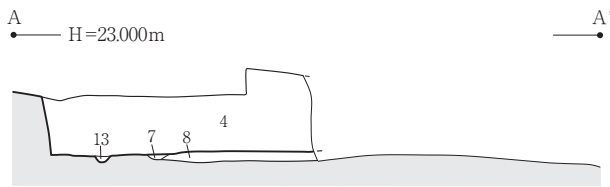
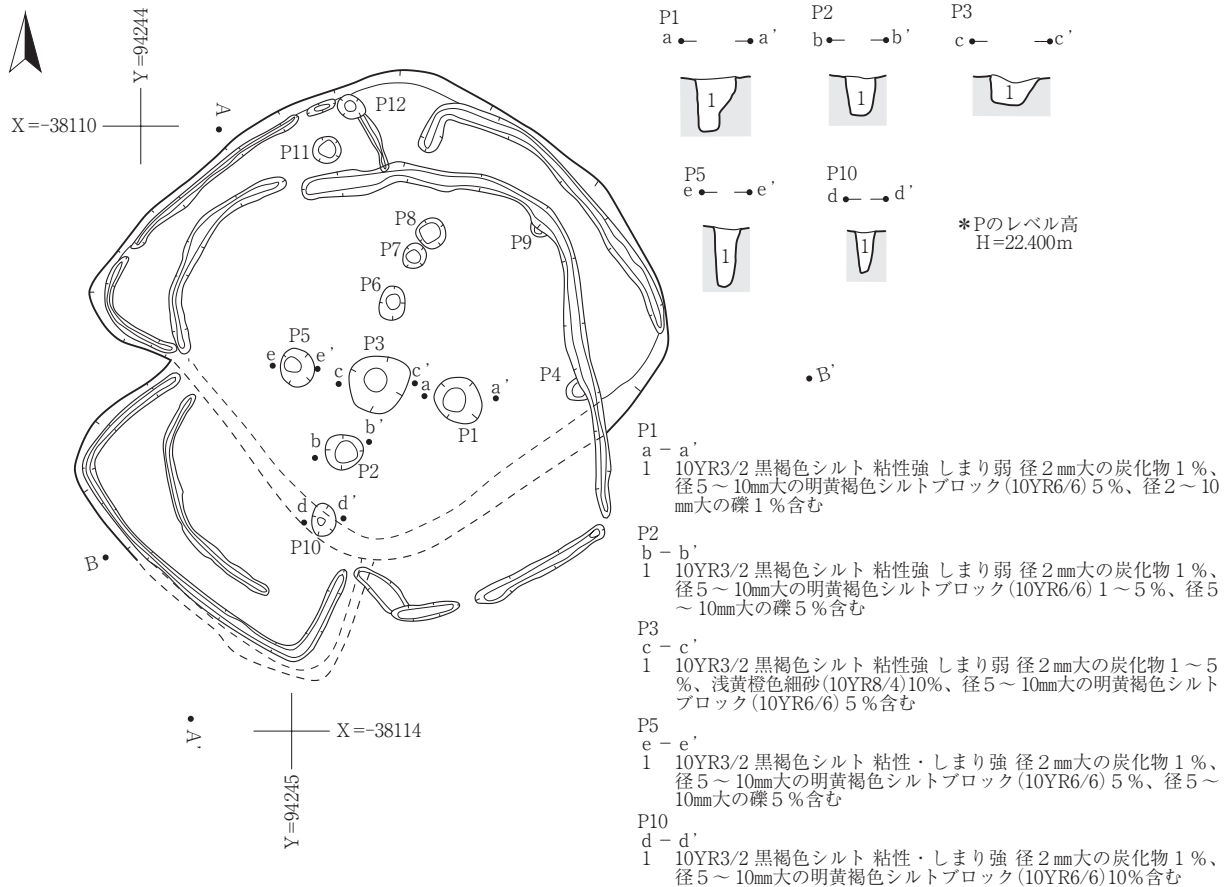
- A - A'
- 10YR4/6 褐色粘土質シルト粘性強しまり中 白色粒子を全体に含む
 - 10YR4/3 におい黄褐色シルト粘性強しまり中 部分的に1層のブロックを含む
 - 1層と2層の混合土層

第27図 17号竖穴建物2、18号竖穴建物

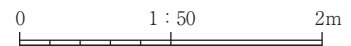
3 検出遺構と出土遺物



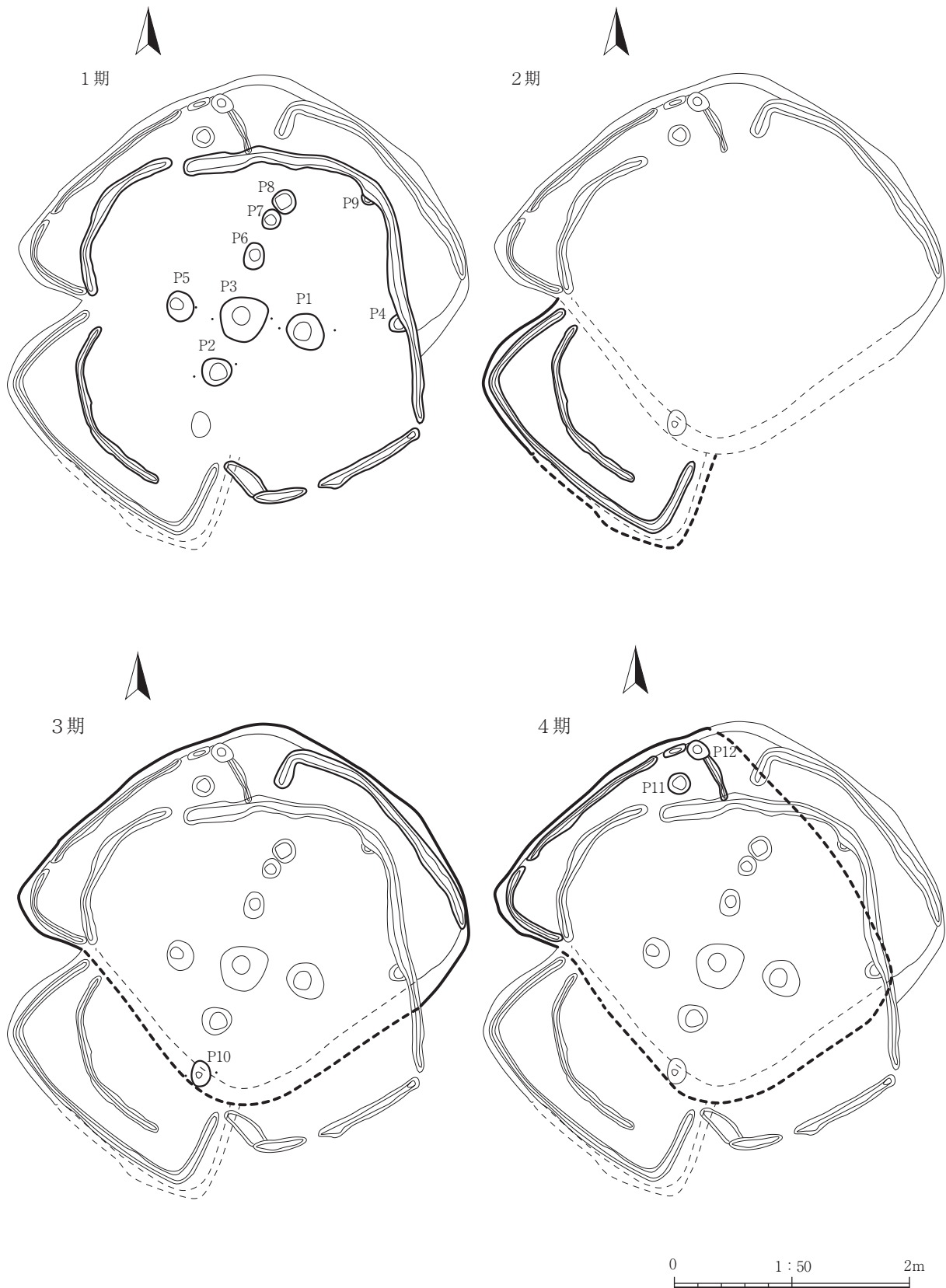
第28図 19号竪穴建物



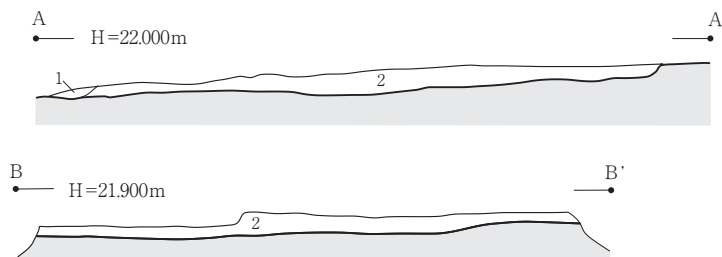
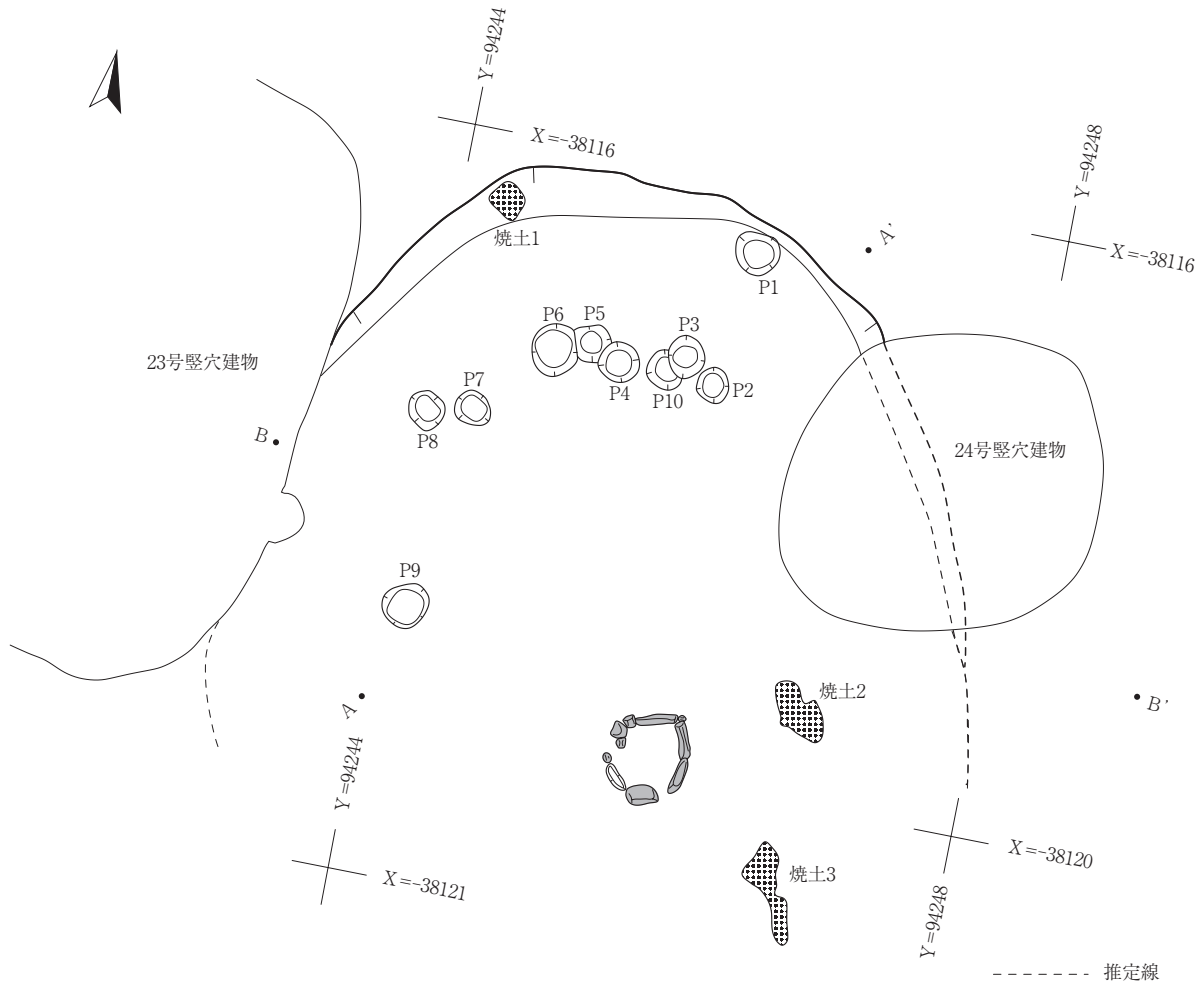
- A-A', B-B'
- 1 10YR4/3 ぶい黄褐色シルト 粘性弱 しまり強 径2~5mmの炭化物5%、暗褐色シルト(10YR3/3)30%、径2mmの礫20%含む(自然堆積土)
 - 2 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり強 径2mmの炭化物1%未満、径2mmの礫5%含む(自然堆積土)
 - 3 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性強 しまり中 暗褐色シルトブロック(10YR3/3 径10~30mm)30%、径2mmの礫5%含む
 - 4 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中 径2~5mmの炭化物1%、明黄褐色シルトブロック(10YR6/8 径5~10mm)、径2~5mmの礫20%含む
 - 5 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性強 しまり中 径2~5mmの炭化物1%、径2mmの礫10%含む
 - 6 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性強 しまり中
 - 7 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 径1mmの炭化物1%、明黄褐色シルトブロック(10YR6/8 径5mm)10%含む
 - 8 10YR7/6 明黄褐色シルト 粘性なし しまり強 黒褐色シルトブロック(10YR3/2 層上下に20%偏在し、径2~5mmの礫5%含む(貼床)
 - 9 10YR4/4 褐色シルト 粘性・しまり強 黒褐色シルトブロック(10YR3/2 径10~30mm)30%、径2mmの礫5%含む
 - 10 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 しまり弱 径2mmの炭化物1%未満、明黄褐色シルトブロック(10YR7/6 径5mm)5%含む(壁溝埋土)
 - 11 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまりなし 径2mmの炭化物1%未満含む(壁溝埋土)
 - 12 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 径1mmの炭化物1%、明黄褐色シルトブロック(10YR7/6)10%含む(壁溝埋土)
 - 13 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり弱 径2mmの炭化物2~5%、明黄褐色シルトブロック(10YR6/8 径5mm)20%含む(壁溝埋土)



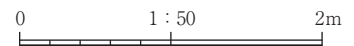
第29図 20号竪穴建物1



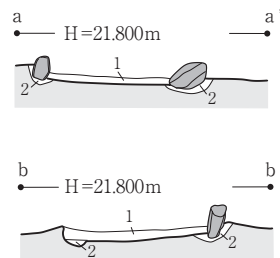
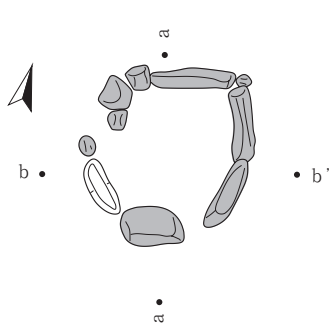
第30図 20号竪穴建物2



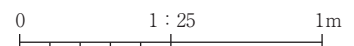
A-A', B-B'
 1 10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり弱 径2~3mmの礫1%混入
 2 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 径2~3mmの礫2~3%、
 明赤褐色焼土ブロック(5YR5/6)上層に混入 ※21号竪穴建物の埋土



[炉跡]

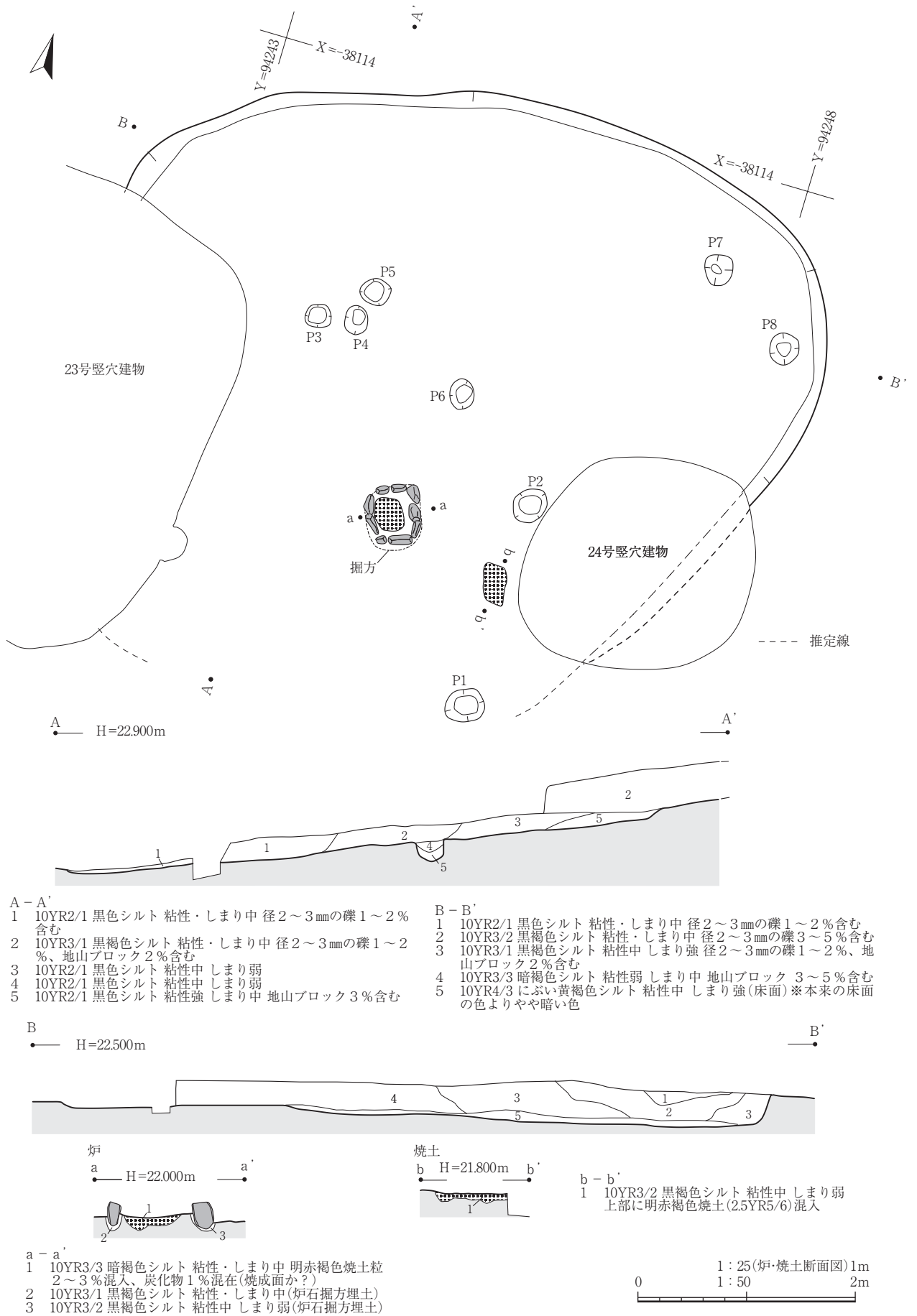


a-a', b-b'
 1 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 明赤褐色焼土粒(5YR5/6)2%混入
 2 10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり弱 (炉石掘方の埋土か?)

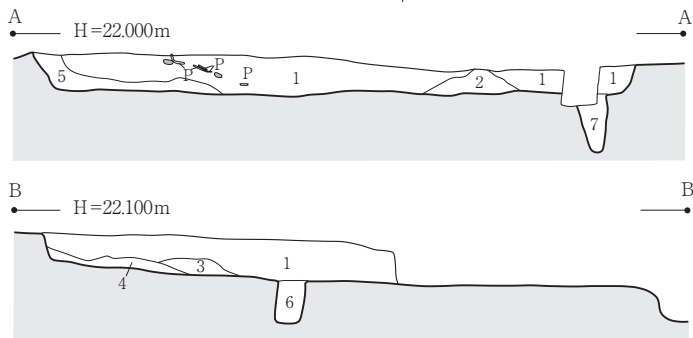
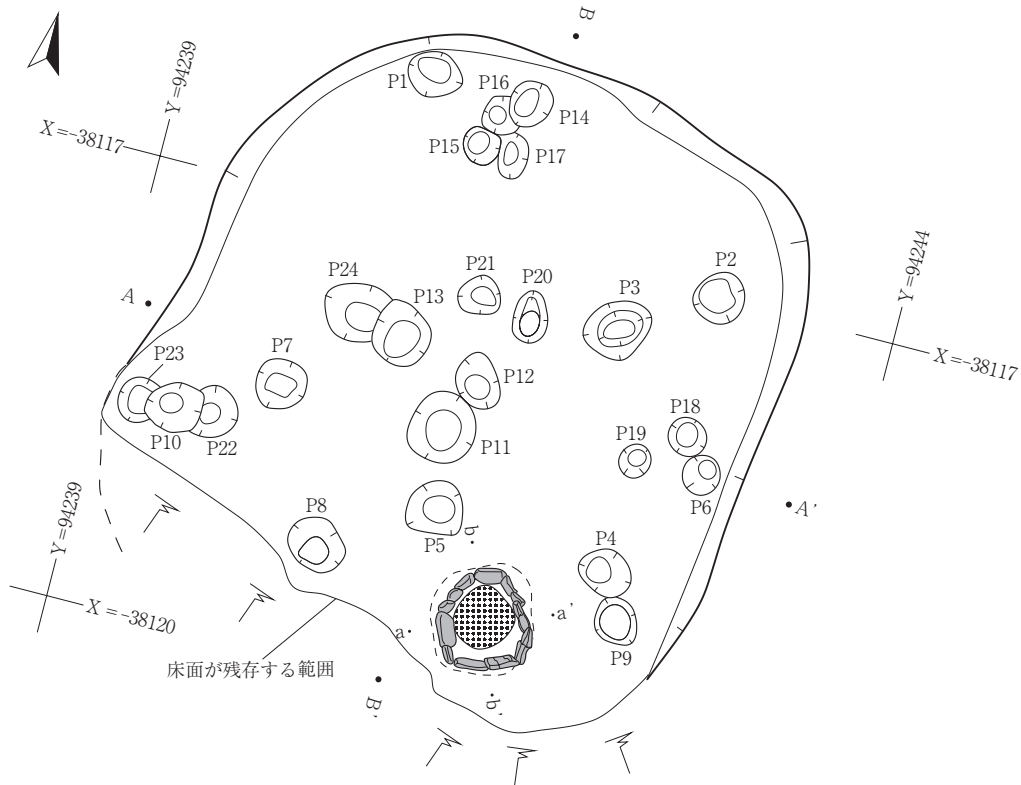


第31図 21号竪穴建物

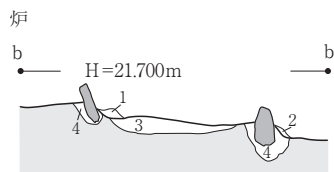
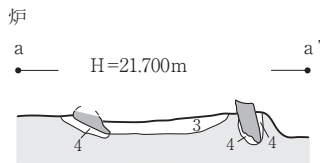
3 検出遺構と出土遺物



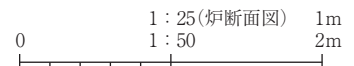
第32図 22号竪穴建物



- A-A', B-B'
- 1 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 径2mmの炭化物1~3%、明赤褐色焼土粒(5 YR5/8 径2~5mm) 1%、径2~5mmの礫10%含む
 - 2 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまり中 径1~2mmの炭化物1%未満、明赤褐色焼土粒(5 YR5/8 径1mm) 1%未満、径2mmの礫7%含む
 - 3 10YR4/4 褐色シルト 粘性・しまり強 径2mmの炭化物1%未満、明赤褐色焼土粒(5 YR5/8 径1mm) 1%未満、径2mmの礫5%含む
 - 4 10YR4/4 褐色シルト 粘性・しまり強 径2mmの炭化物1%、明黄褐色シルトブロック(10YR6/6 径10~30mm)30%、径2~5mmの礫5%含む
 - 5 10YR4/4 褐色シルト 粘性・しまり弱 径2mmの炭化物1%未満、明赤褐色焼土粒(5 YR5/8 径2mm) 1~3%、明黄褐色シルトブロック(10YR6/6 径2~5mm) 7~10%含む
 - 6 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 径2mmの炭化物1%、明黄褐色シルトブロック(10YR6/6 径1~2mm) 5%含む(P21埋土)
 - 7 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 径2mmの炭化物1%、明赤褐色焼土粒(5 YR5/8 径1~2mm) 5%、明黄褐色シルトブロック(10YR6/6 径5~10mm)30%含む



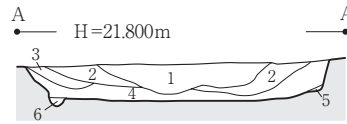
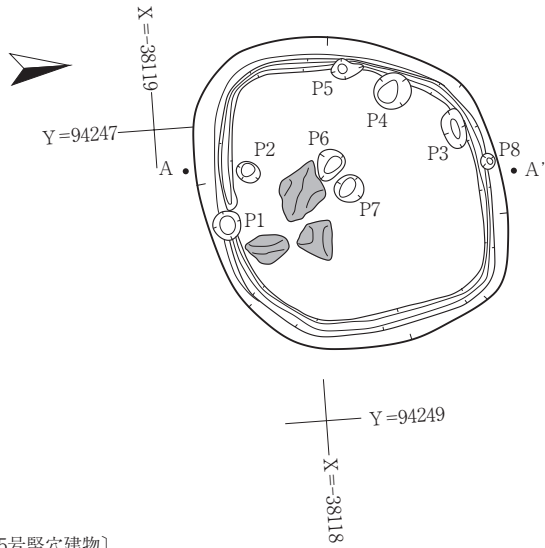
- a-a', b-b'
- 1 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なし しまり中 明赤褐色焼土粒(5 YR5/8 径1mm) 1%、径2mmの礫2%含む (炉内埋土)
 - 2 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性強 しまり弱 径1mmの炭化物1%未満、径1mmの礫3%含む (炉周辺埋土)
 - 3 7.5YR4/3 褐色シルト 粘性強 しまり中 径2~5mmの炭化物3%、明赤褐色焼土粒(5 YR5/8 径2~5mm) 1%含む ※層上面が炉の使用面。斑状に被熱によりにぶい赤褐色(5 YR4/4)に変色
 - 4 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 明赤褐色焼土粒(5 YR5/8 径1mm) 1%未満、径1mmの礫3%含む (炉石掘方埋土)



第33図 23号竪穴建物

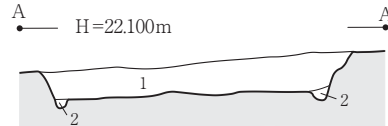
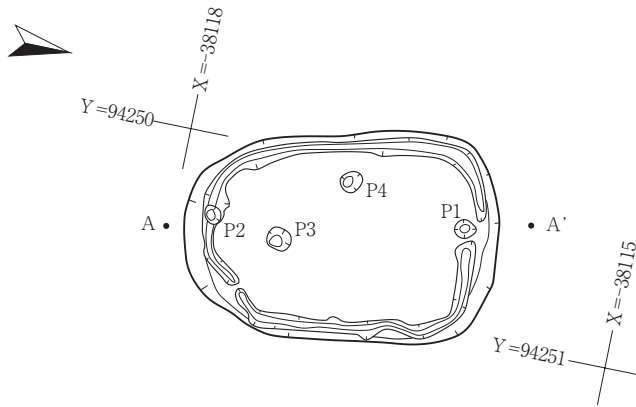
3 検出遺構と出土遺物

[24号竪穴建物]



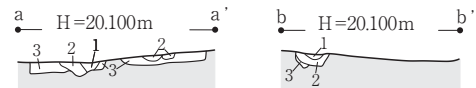
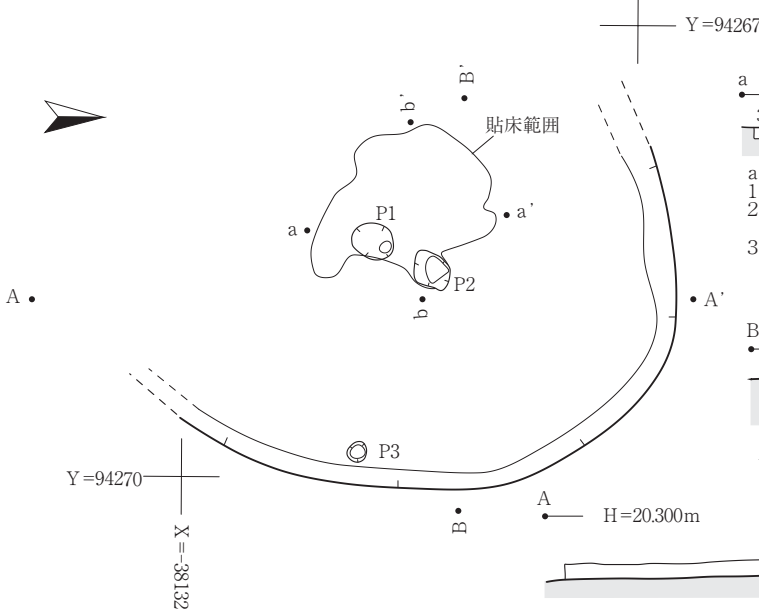
- A - A'
- 1 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 焼土粒をまだらに含む
 - 2 10YR2/1 黒色シルト 粘性強 しまり中 1層より黒味を帯び、黄褐色土粒をまばらに含む
 - 3 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり中 黄褐色土粒をまだらに含む
 - 4 10YR2/3 黒褐色粘土質シルト 粘性・しまり強 黄褐色土粒をごくまだらに含む
 - 5 10YR4/4 褐色シルト 粘性強 しまり中(壁溝の埋土)
 - 6 10YR3/4 暗褐色粘土質シルト 粘性強 しまり中

[25号竪穴建物]



- A - A'
- 1 10YR3/2 黒褐色砂質シルト 粘性・しまり中 風化花崗岩粒、径5mm前後の炭化物粒を全体に含む
 - 2 10YR2/2 黒褐色砂質シルト 粘性・しまり中 壁溝の覆土で黒味を帯びる

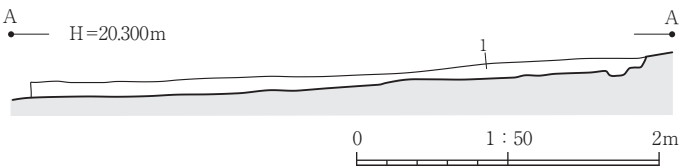
[26号竪穴建物]



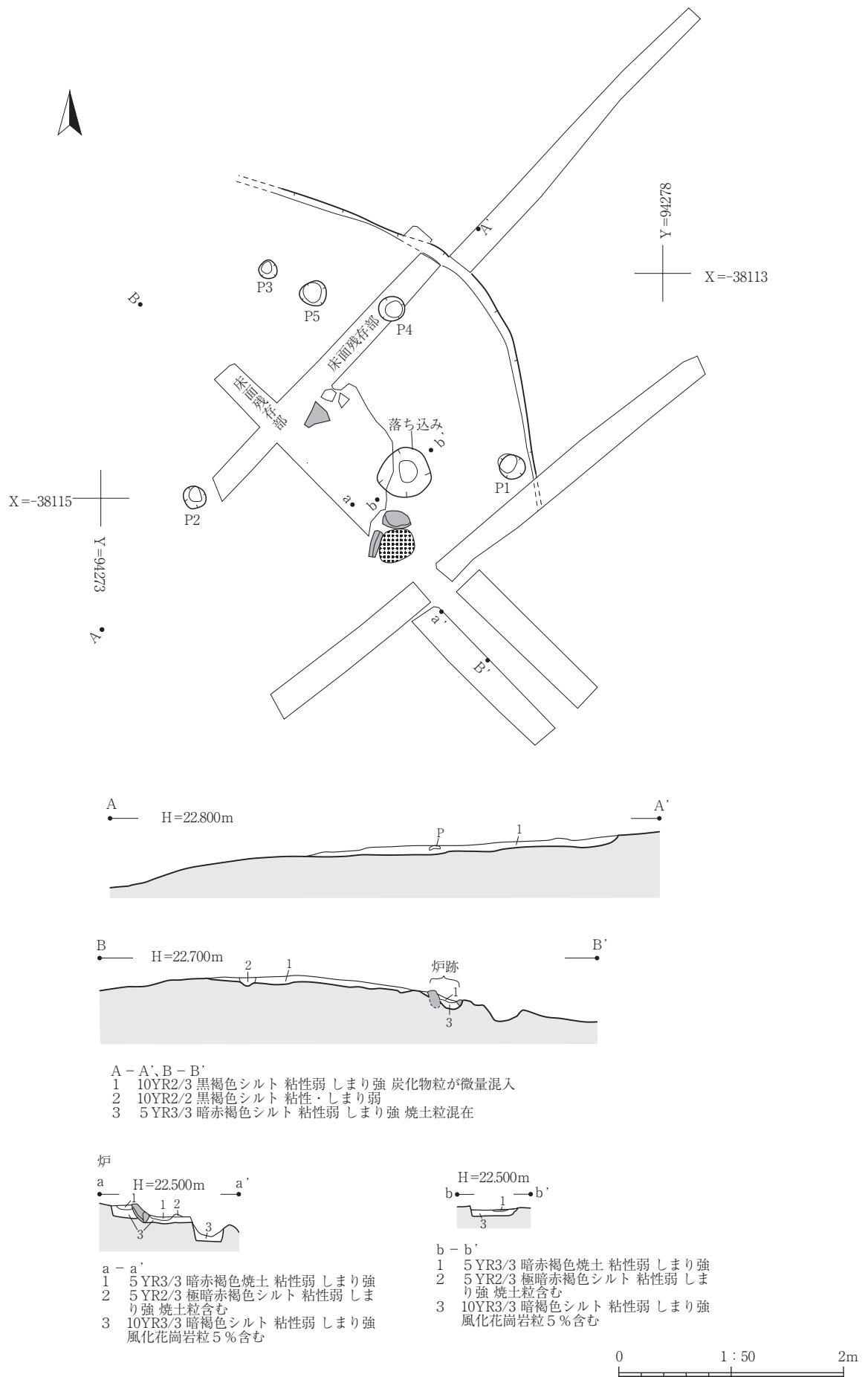
- a - a', b - b'
- 1 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト 粘性・しまり強
 - 2 10YR4/6 褐色粘土質シルト 粘性・しまり強 褐色シルト(10YR4/4)50%混入
 - 3 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト 粘性・しまり強 褐色シルト(10YR4/4)20%含む



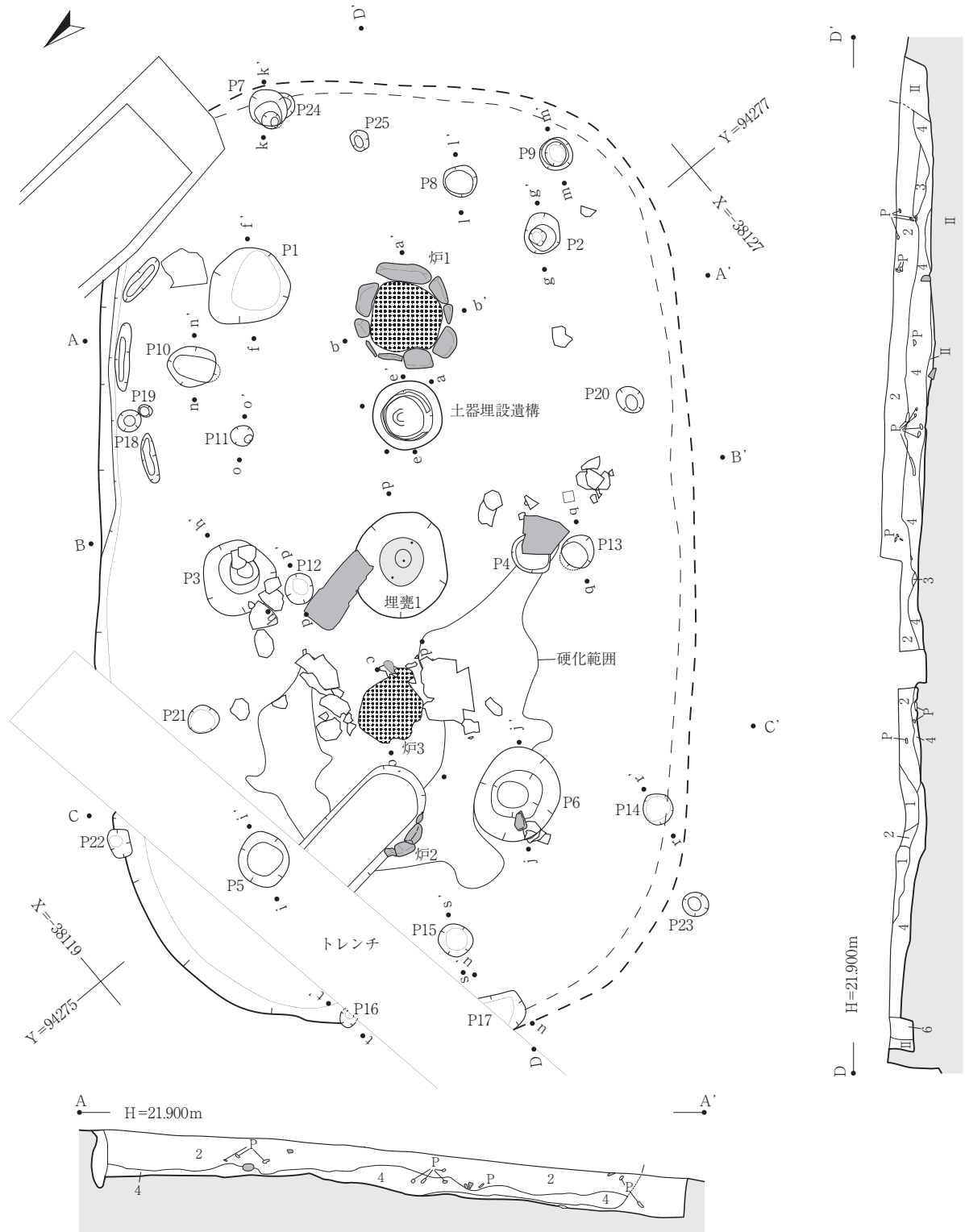
- A - A', B - B'
- 1 10YR4/1 褐色粘土質シルト 粘性強 しまり弱



第34図 24~26号竪穴建物



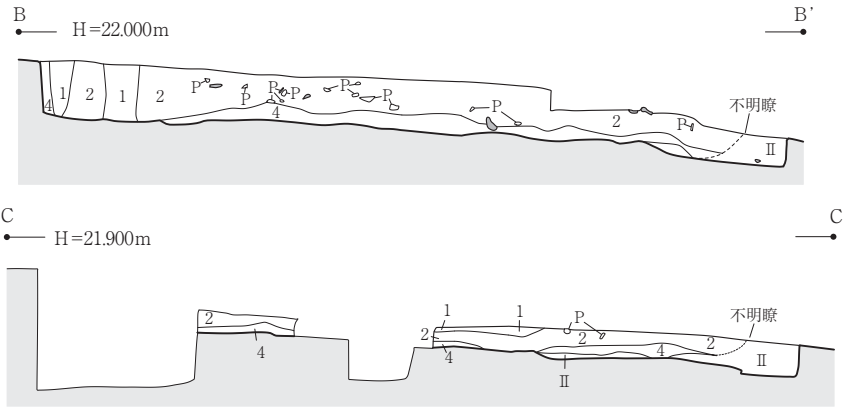
第35図 27号竪穴建物



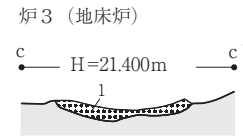
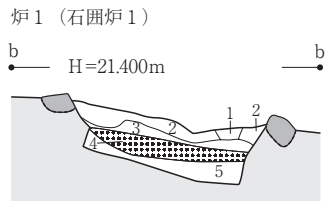
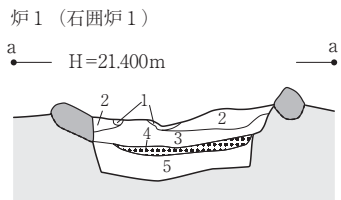
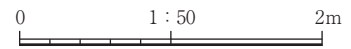
- A - A', B - B', D - D'
- 1 5YR5/8 明赤褐色シルト(焼土)粘性なししまり中 黒色シルト(10YR2/1)20%、径1~5mmの炭化物3%含む
 - 2 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なししまり中 黒色シルト(10YR2/1)10%、径1~3mmの風化花崗岩粒10%、径1~10mmの炭化物2%、土器片多量に含む
 - 3 7.5YR6/8 橙色シルト(焼土)粘性弱しまり中 黒色シルト(10YR1.7/1)40%、径1~2mmの風化花崗岩粒1%含む
 - 4 10YR1.7/1 黒色シルト 粘性なししまり中 赤褐色焼土粒(2.5YR4/8 径1~3mm)3%、径1~2mmの風化花崗岩粒10%、橙色焼土粒(7.5YR6/8 径1~6mm)1%含む
 - 5 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なししまり中 褐色シルトブロック(10YR4/6)5%含む
 - 6 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なししまり強 径1~2mmの風化花崗岩粒5%含む

0 1:50 2m

第36図 28号竪穴建物1

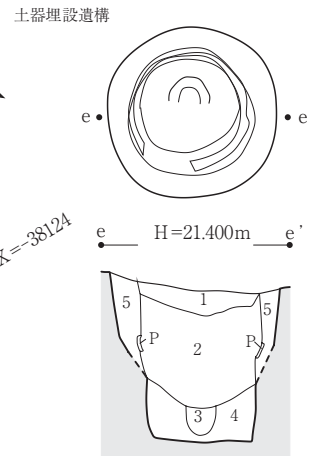
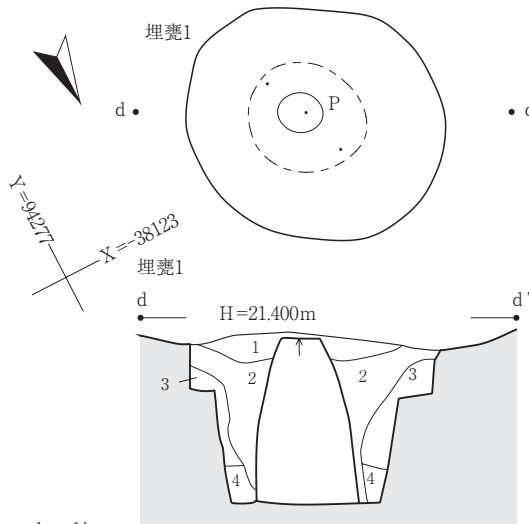


- C - C'
- 1 5 YR5/8 明赤褐色シルト(焼土) 粘性なし しまり中 黒色シルト(10YR2/1)20%、径1~5mmの炭化物3%含む
 - 2 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 黒色シルト(10YR2/1)10%、径1~3mmの風化花崗岩粒10%、径1~10mmの炭化物2%、土器片多量に含む
 - 3 7.5YR6/8 橙色シルト(焼土) 粘性弱 しまり中 黒色シルト(10YR1.7/1)40%、径1~2mmの風化花崗岩粒1%含む
 - 4 10YR1.7/1 黒色シルト 粘性なし しまり中 赤褐色焼土粒(2.5YR4/8 径1~3mm)3%、径1~2mmの風化花崗岩粒10%、橙色焼土粒(7.5YR6/8 径1~6mm)1%含む



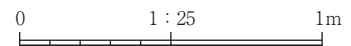
- a - a', b - b'
- 1 7.5YR6/8 橙色シルト(焼土) 粘性・しまり弱
 - 2 10YR1.7/1 黒色シルト 粘性・しまり弱 赤褐色焼土粒(5 YR4/8 径1mm)1%、径1~2mmの風化花崗岩粒1%含む
 - 3 5 YR4/8 赤褐色シルト(焼土) 粘性・しまり弱 径1mmの炭化物1%、径1~2mmの風化花崗岩粒1%含む
 - 4 2.5YR5/8 明赤褐色シルト(焼土) 粘性弱 しまり中 径1~10mmの炭化物5%含む
 - 5 7.5YR5/4 におい褐色シルト 粘性弱 しまり中 径1~2mmの風化花崗岩粒1%含む

- c - c'
- 1 2.5YR5/8 明赤褐色焼土 粘性弱 しまり中 におい赤褐色シルト(5 YR4/3)5%、径1~3mmの炭化物3%含む



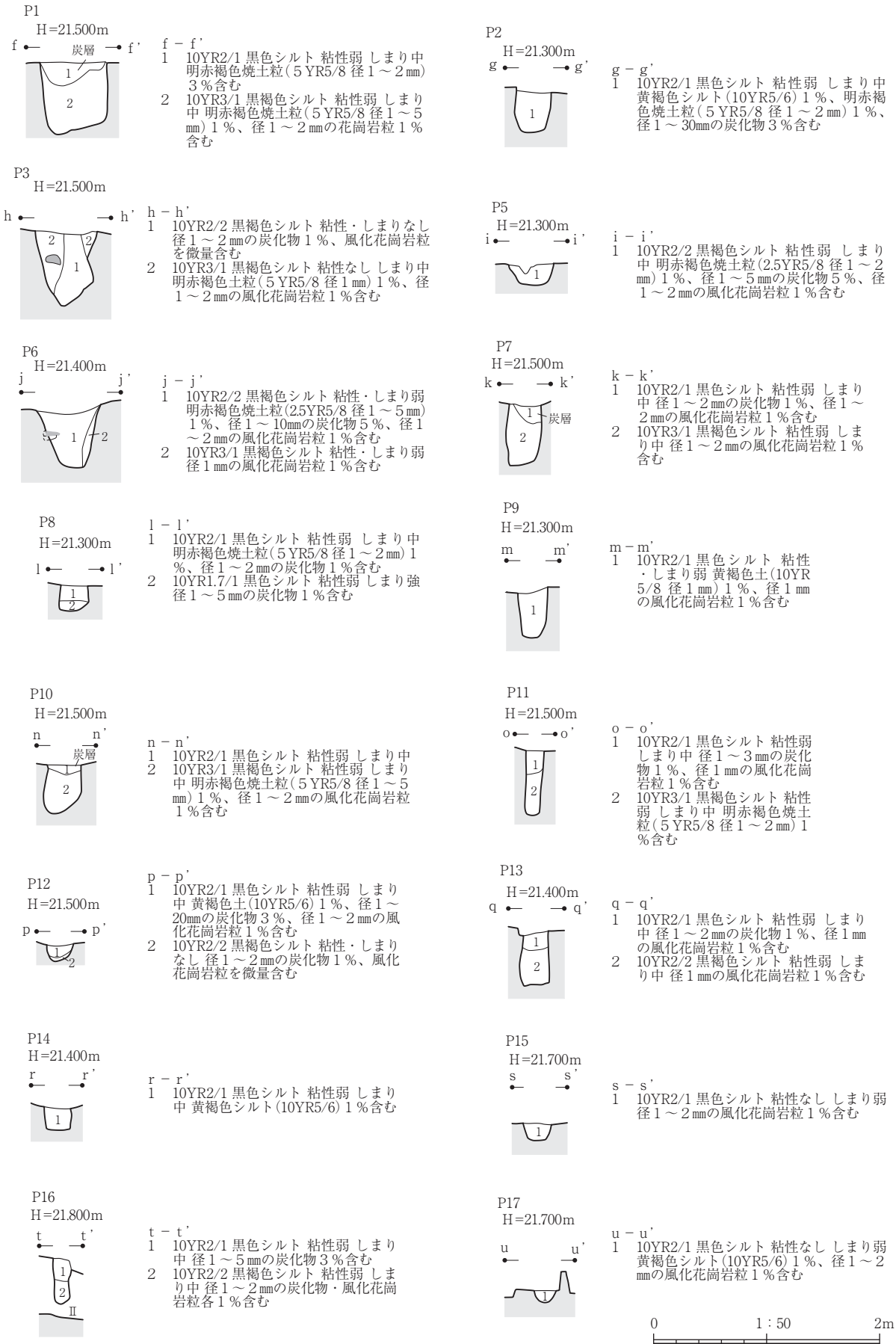
- d - d'
- 1 10YR1.7/1 黒色シルト 粘性・しまり弱 黒褐色シルト(10YR2/3)3%、黄褐色シルト粒(10YR5/8 径1~2mm)1%、径1~12mmの炭化物10%、径1~2mmの風化花崗岩粒1%含む 炭層
 - 2 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 明黄褐色シルト(10YR6/8)1%、明赤褐色焼土粒(2.5YR5/8 径1~2mm)1%、径1~5mmの炭化物1%、径1~3mmの風化花崗岩粒1%含む 炭層
 - 3 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり強 黄褐色シルト粒(10YR5/8 径1~2mm)1%、径1~2mmの風化花崗岩粒1%含む 炭層(掘りすぎ)
 - 4 10YR4/6 褐色シルト 粘性なし しまり強 径1~5mmの炭化物1%、径1~2mmの風化花崗岩粒1%(掘りすぎ)

- e - e'
- 1 10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり弱 橙色シルト粒(7.5YR6/8 径1~10mm)1%、径1~15mmの炭化物3%、径1~2mmの風化花崗岩粒1%含む
 - 2 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 明赤褐色焼土粒(5 YR5/8 径1~2mm)1%、径1~2mmの風化花崗岩粒1%含む
 - 3 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまりなし 明黄褐色シルト粒(10YR5/8 径1mm)1%含む
 - 4 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり強 径1~2mmの風化花崗岩粒1%含む 炭層 掘りすぎか
 - 5 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 明赤褐色焼土粒(2.5YR5/8 径1~2mm)1%、径1~2mmの風化花崗岩粒1%含む 炭層(掘りすぎか?)

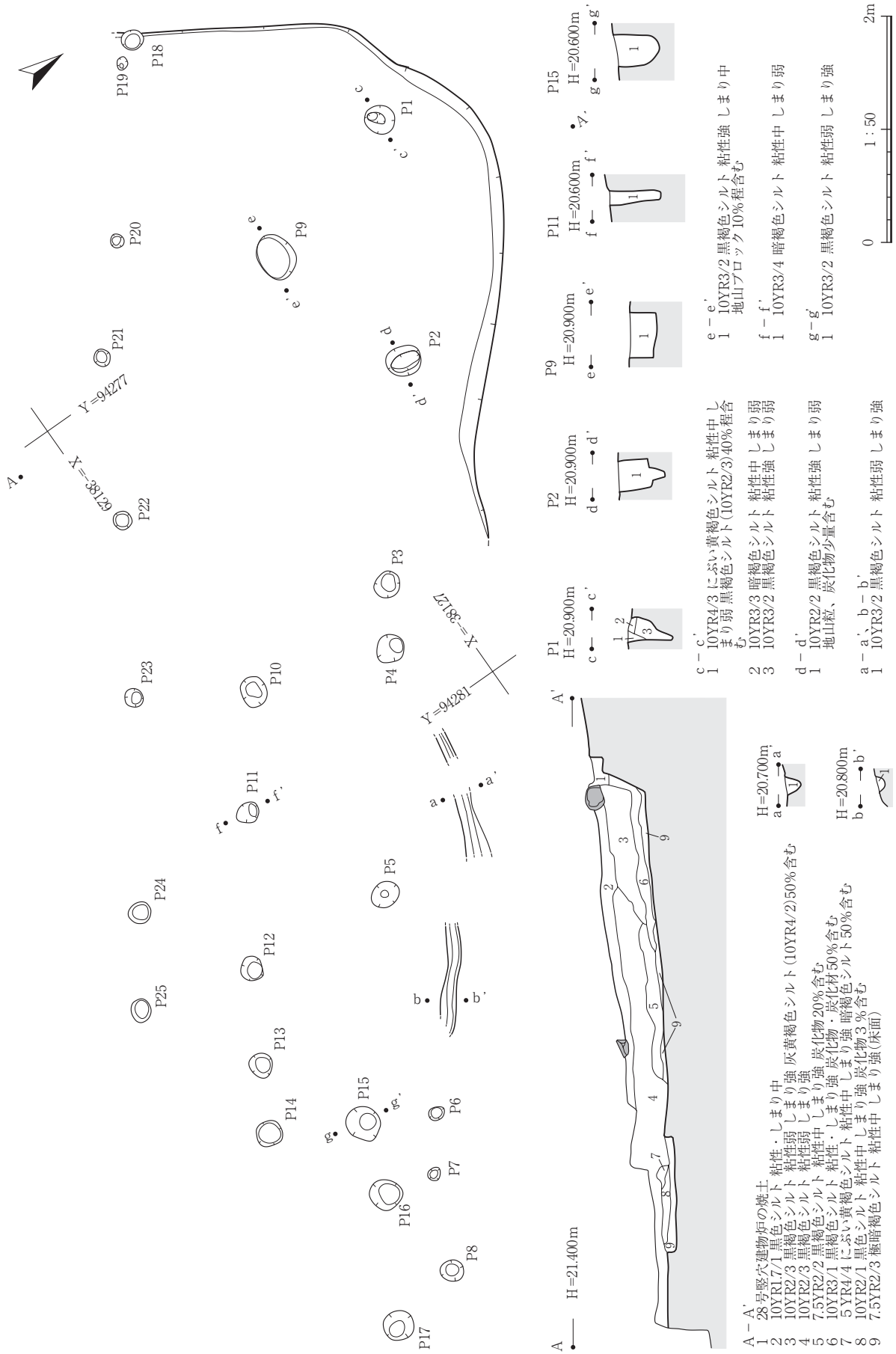


第37図 28号竪穴建物2

3 検出遺構と出土遺物



第38図 28号竪穴建物3



第39図 29号竪穴建物

A-A' H=20.700m
 a a
 H=20.800m
 b b

A'-A'
 1 28号竪穴建物跡の焼土
 2 10YR1/1 黒色シルト 粘性・しまり中
 3 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性弱 しまり強
 4 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性弱 しまり強
 5 7.5YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり強
 6 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性・しまり強
 7 5YR4/4 にぶい黄褐色シルト 粘性中 しまり強
 8 10YR2/1 黒色シルト 粘性中 しまり強
 9 7.5YR2/3 極暗褐色シルト 粘性中 しまり強 (床面)

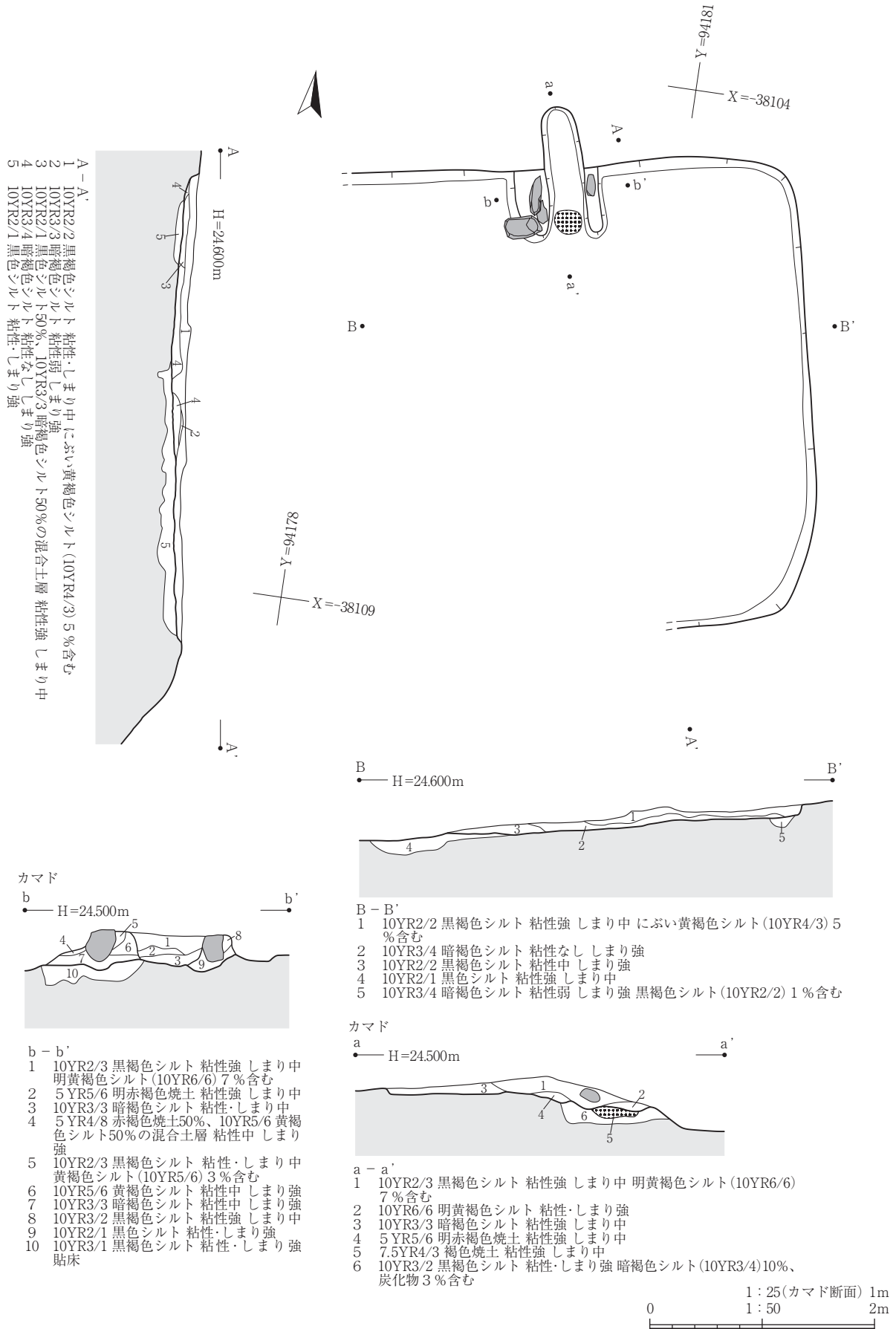
P1 H=20.900m
 c c
 1 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性中 しまり弱
 2 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性中 しまり弱
 3 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性強 しまり弱
 d-d'
 1 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性強 しまり弱
 地山粒、炭化物少量含む
 a-a', b-b'
 1 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり強

P2 H=20.900m
 d d
 1 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性中 しまり弱
 2 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性中 しまり弱
 3 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性強 しまり弱
 d-d'
 1 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性強 しまり弱
 地山粒、炭化物少量含む
 a-a', b-b'
 1 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり強

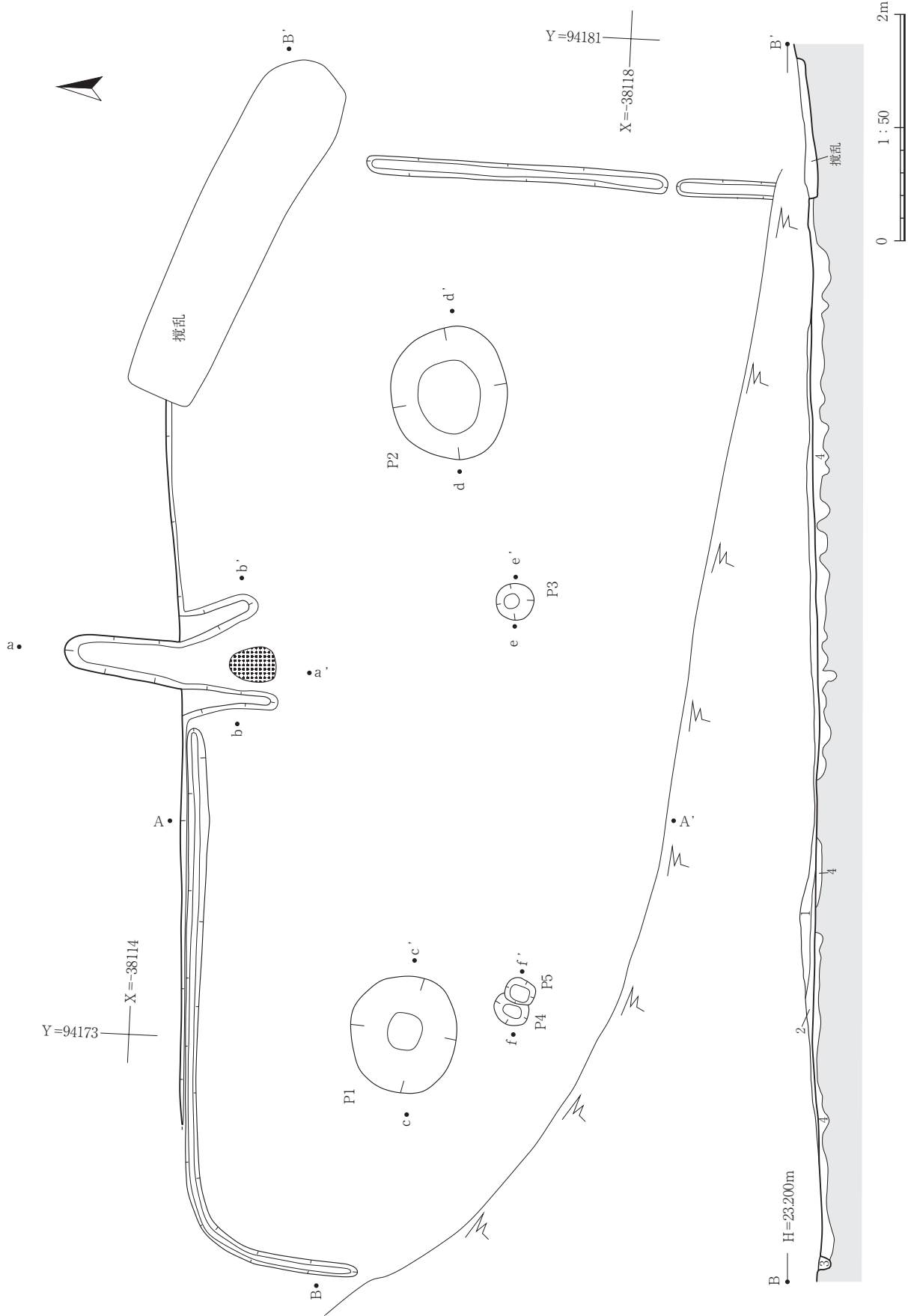
P9 H=20.900m
 e e
 1 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性強 しまり中
 地山ブロック10%程含む
 f-f'
 1 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 しまり弱
 g-g'
 1 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり強

P11 H=20.600m
 f f
 1 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性強 しまり中
 地山ブロック10%程含む
 g-g'
 1 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 しまり弱

P15 H=20.600m
 g g
 1 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性強 しまり中
 地山ブロック10%程含む
 h-h'
 1 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 しまり弱



第40図 30号竪穴建物

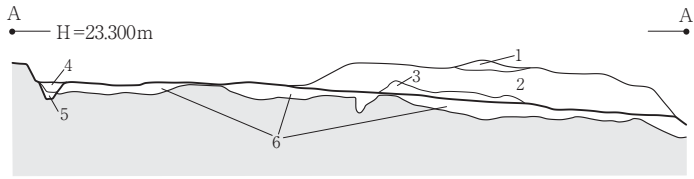


第41図 31号竖穴建物 1

3 検出遺構と出土遺物

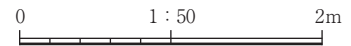
B - B'

- 1 10YR2/1 黒色シルト 粘性強 しまり中
- 2 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性中 しまり強 暗褐色シルト(10YR3/3) 5~7%含む
- 3 10YR2/1 黒色シルト 粘性強 しまり中 暗褐色シルト(10YR3/3) 3~5%含む(壁溝)
- 4 10YR2/1 黒色シルト 50%、10YR3/3 暗褐色砂質シルト 50%の混合土層 粘性中 しまり強(貼床)



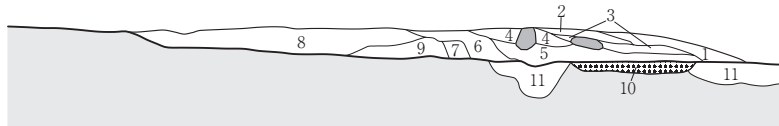
A - A'

- 1 10YR2/1 黒色シルト 60%、10YR3/3 暗褐色シルト 40%の混合土層 粘性なし しまり強(盛土)
- 2 10YR2/1 黒色シルト 粘性強 しまり中
- 3 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性中 しまり強 暗褐色シルト(10YR3/3) 5~7%含む
- 4 10YR2/1 黒色シルト 粘性強 しまり中 暗褐色シルト(10YR3/3) 3~5%含む(壁溝)
- 5 10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性弱 しまり強(壁溝)
- 6 10YR2/1 黒色シルト 50%、10YR3/3 暗褐色砂質シルト 50%の混合土層 粘性弱 しまり強(貼床)



カマド

a - a' H=23.200m



a - a'

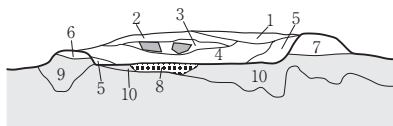
- 1 10YR2/1 黒色シルト 粘性強 しまり中 赤褐色焼土(5 YR4/8) 1%未満、炭化物 1%未満含む
- 2 5 YR4/8 赤褐色焼土 粘性弱 しまり強 黒褐色シルト(10YR2/2) 5~7%、炭化物 1%未満含む
- 3 炭化物層 赤褐色焼土(5 YR4/8) 3%含む
- 4 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性弱 しまり強 赤褐色焼土(5 YR4/8) 1%未満、炭化物 3%含む
- 5 10YR2/3 黒褐色シルト 60%、5 YR5/8 明赤褐色焼土 40%の混合土層 粘性強 しまり中
- 6 5 YR3/6 暗赤褐色焼土 粘性・しまり強 暗褐色シルト(10YR3/3) 3~5%含む
- 7 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり強 赤褐色焼土(5 YR4/8) 5%含む
- 8 10YR2/2 黒褐色シルト 60%、5 YR4/8 赤褐色焼土 30%、10YR5/6 黄褐色シルト 10%の混合土層 粘性・しまり強
- 9 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり強 赤褐色焼土(5 YR4/8) 15%含む
- 10 5 YR3/6 暗赤褐色焼土 粘性弱 しまり強
- 11 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり強(貼床)

b - b'

- 1 10YR2/1 黒色シルト 粘性強 しまり中 赤褐色焼土(5 YR4/8) 1%未満、炭化物 1%未満含む
- 2 5 YR4/8 赤褐色焼土 粘性弱 しまり強 黒褐色シルト(10YR2/2) 5~7%、炭化物 1%未満含む
- 3 炭化物層 赤褐色焼土(5 YR4/8) 3%含む
- 4 10YR2/3 黒褐色シルト 60%、5 YR5/8 明赤褐色焼土 40%の混合土層 粘性強 しまり中
- 5 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性強 しまり中
- 6 10YR5/6 黄褐色シルト 50%、10YR2/3 黒褐色シルト 50%の混合土層 粘性・しまり強
- 7 10YR2/2 黒褐色シルト 60%、10YR5/6 黄褐色シルト 40%の混合土層 粘性弱 しまり強
- 8 5 YR3/6 暗赤褐色焼土 粘性弱 しまり強
- 9 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり強 暗褐色シルト(10YR3/3) 10%含む
- 10 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり強

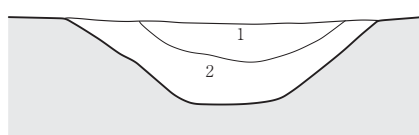
カマド

b - b' H=23.200m



P1

c - c' H=23.000m

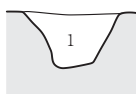


c - c'

- 1 10YR2/1 黒色シルト 粘性強 しまり中
- 2 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性強 しまり中

P3

e - e' H=23.000m

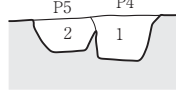


e - e'

- 1 10YR2/1 黒色シルト 粘性強 しまり中

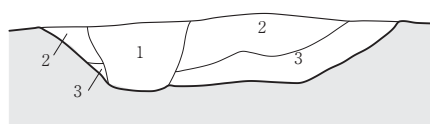
P4・P5

f - f' H=23.000m



P2

d - d' H=23.000m

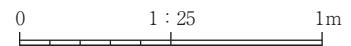


d - d'

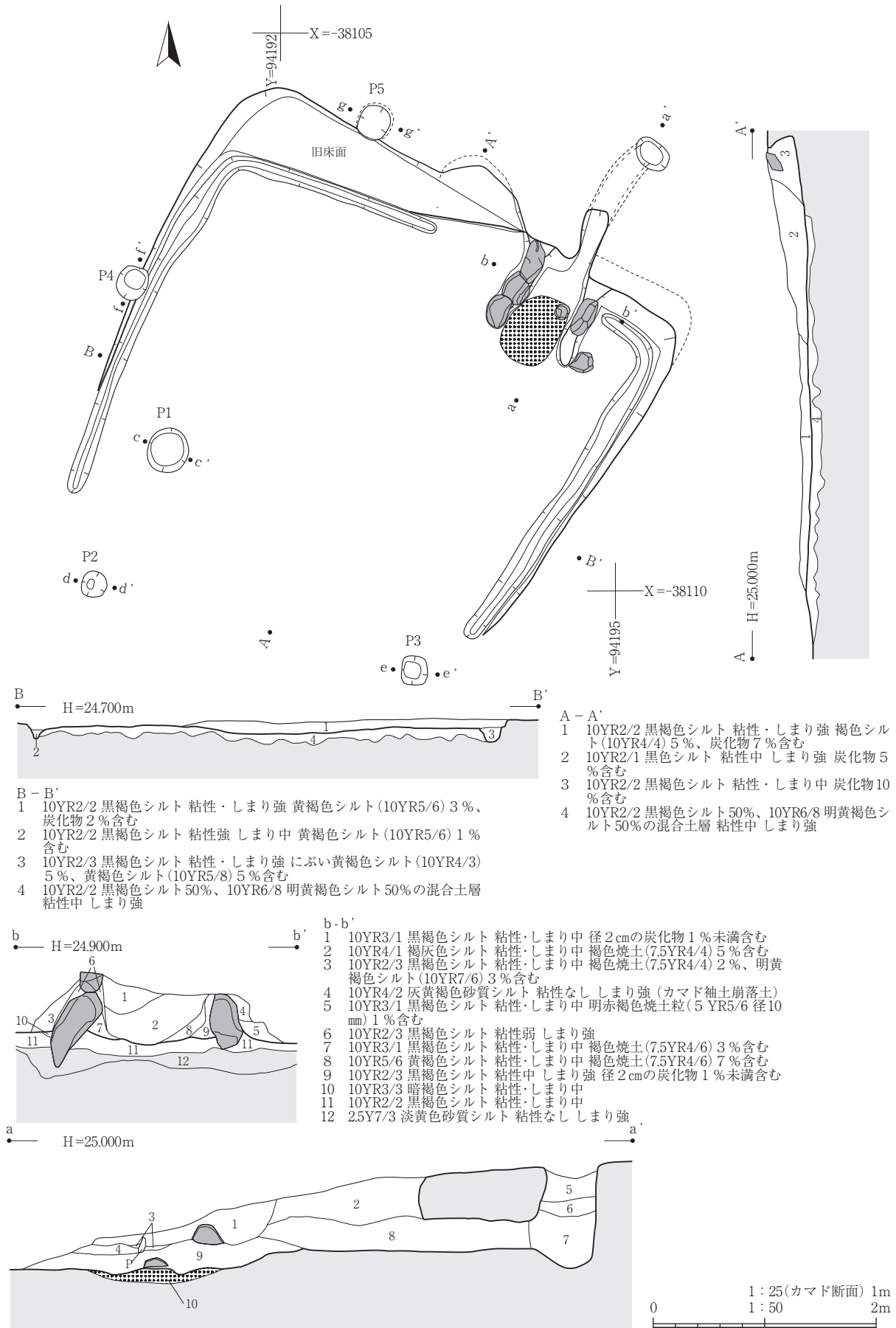
- 1 10YR2/1 黒色シルト 粘性強 しまり中 暗褐色シルト(10YR3/3) 3~5%含む
- 2 10YR2/1 黒色シルト 粘性強 しまり中
- 3 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性強 しまり中

f - f'

- P4 1 10YR2/1 黒色シルト 粘性強 しまり中 黒褐色シルト(10YR2/2) 2%含む
- P5 2 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性強 しまり中 黒褐色シルト(10YR2/2) 1%含む



第42図 31号竪穴建物 2

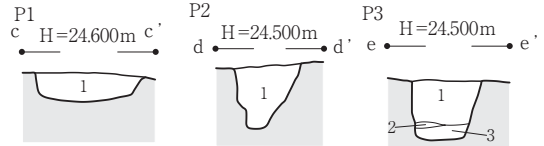


第43図 32号竪穴建物1

3 検出遺構と出土遺物

[32号竪穴建物]

- a-a'
- 1 10YR4/1 褐灰色シルト 粘性・しまり中 褐色焼土(7.5YR4/4) 5%含む
 - 2 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性なし しまり強 褐色シルト(10YR4/4)20%、
にぶい赤褐色焼土(5 YR4/4) 3~5%含む 煙道・カマド崩落土
 - 3 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性・しまり中 にぶい赤褐色焼土粒(5 YR4/4)
径10mmの炭化物1~2%含む
 - 4 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性・しまり中 炭化物5~7%含む
 - 5 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 粘性・しまり強 酸化鉄5%含む
 - 6 10YR4/4 褐色シルト 粘性強 しまり中
 - 7 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト 粘性・しまり中
 - 8 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性・しまり中
 - 9 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性強 しまり弱 赤褐色焼土(5 YR4/8) 5%、
炭化物5%含む
 - 10 10YR4/8 赤褐色焼土 粘性強 しまり中

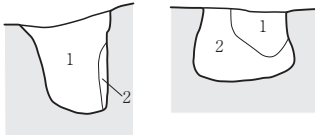


P1
c-c'
1 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性・しまり強

P2
d-d'
1 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり強

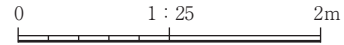
P3
e-e'
1 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり強
2 10YR4/6 褐色シルト 粘性弱 しまり強
3 10YR4/4 褐色シルト 粘性中 しまり強

P4
f H=24.800m f' g H=25.000m g'

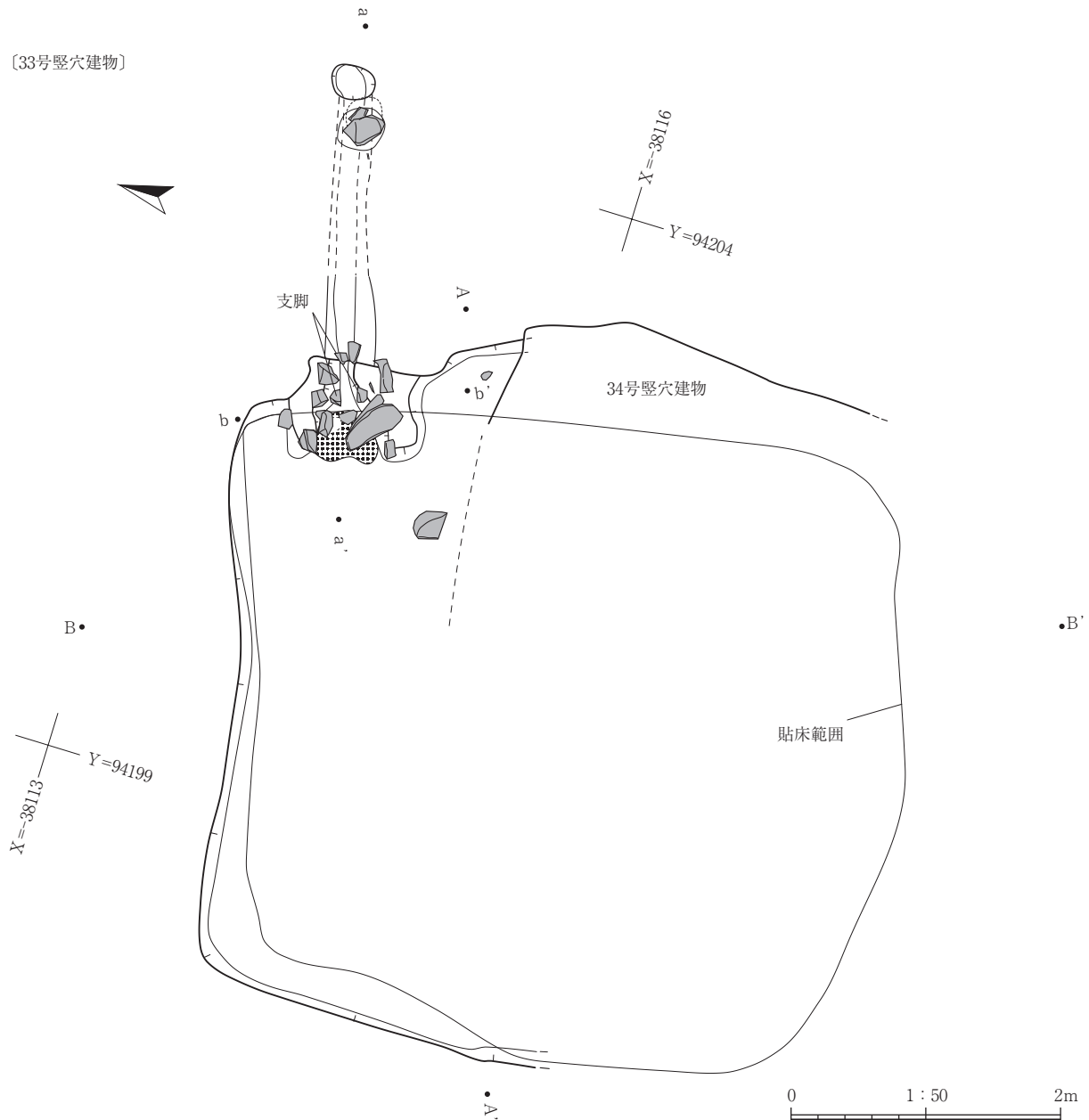


P4
f-f'
1 10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中
2 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり中
黄褐色シルト(10YR5/6) 1%含む

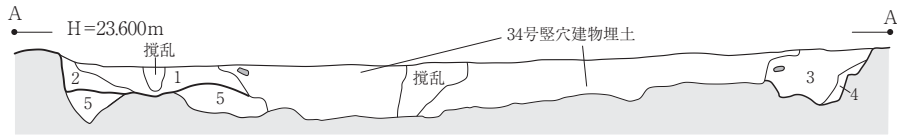
P5
g-g'
1 10YR3/4 暗褐色シルト60%、10YR4/6 褐色
シルト40%の混合土層 粘性・しまり強
2 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまり中 赤
褐色焼土(5 YR4/8) 1%、径2mmの炭化物1
%未満含む



[33号竪穴建物]

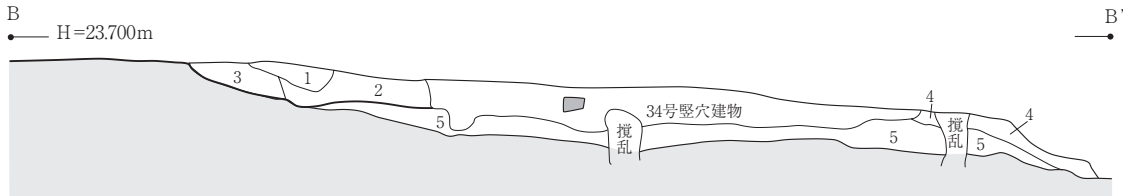


第44図 32号竪穴建物2、33号竪穴建物1



A - A'

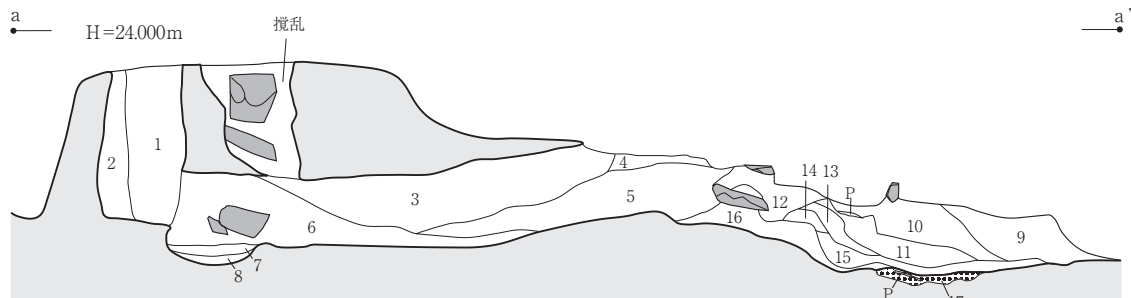
- 1 10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり中 径5~7mmの炭化物1%含む
- 2 10YR2/1 黒色シルト70%、10YR5/4 におい黄褐色シルト30%の混合土層 粘性なし しまり中
- 3 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 径5~7mmの炭化物1%未満含む
- 4 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 黒色シルト(10YR2/1)15~20%含む
- 5 10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまり中 明黄褐色シルト粒(10YR7/6 径5mm)1%含む(貼床)



B - B'

- 1 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中
- 2 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 径10mmの炭化物1%未満含む
- 3 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 径5~7mmの炭化物1%未満含む
- 4 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 黄褐色シルト粒(10YR8/6 径3~5mm)2%含む
- 5 10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまり中 炭化物5%含む

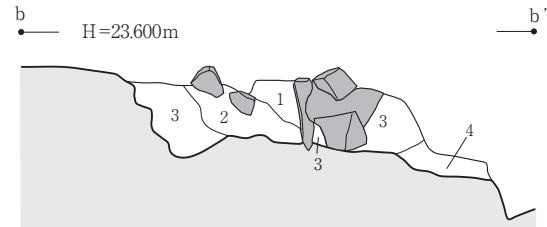
カマド



a - a'

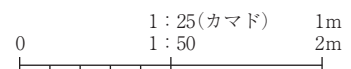
- 1 10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまりなし におい黄褐色砂(10YR4/3)30~40%ブロックで含む
- 2 10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまり中
- 3 10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまり中
- 4 5YR5/6 明赤褐色焼土70%、10YR2/1 黒色シルト20%、10YR6/6 明黄褐色シルト10%の混合土層 粘性弱 しまり中
- 5 5YR5/6 明赤褐色焼土60%、10YR2/1 黒色シルト40%の混合土層 粘性・しまり中
- 6 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 褐色焼土(7.5YR4/3)5~7%含む
- 7 10YR5/4 におい黄褐色シルト 粘性・しまり中 黒褐色シルト(10YR2/2)10%含む
- 8 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 炭化物(黒色シルト化 10YR2/1)7~10%含む
- 9 10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり中(竖穴埋土)
- 10 10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6)3%、明赤褐色焼土粒(5YR5/6 径3~5mm)1~2%含む
- 11 10YR2/1 黒色シルト70%、10YR6/6 明黄褐色シルト20%、5YR5/6 明赤褐色焼土10%の混合土層 粘性・しまり中(カマド崩落土)
- 12 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 褐色焼土(7.5YR4/6)5%、明黄褐色シルト(10YR7/6)2~3%含む
- 13 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 褐色焼土(7.5YR4/6)1%、明黄褐色シルト(10YR7/6)7~10%含む
- 14 5YR5/8 明赤褐色焼土 粘性中 しまり強 黒褐色シルト(10YR2/2)10%含む
- 15 10YR4/4 褐色シルト 粘性・しまり中 におい黄褐色シルト(10YR6/4)20%、明赤褐色焼土(5YR5/8)1~2%含む
- 16 7.5YR2/2 黒褐色焼土 粘性弱 しまり中
- 17 5YR5/8 明赤褐色焼土 粘性弱 しまり中

カマド



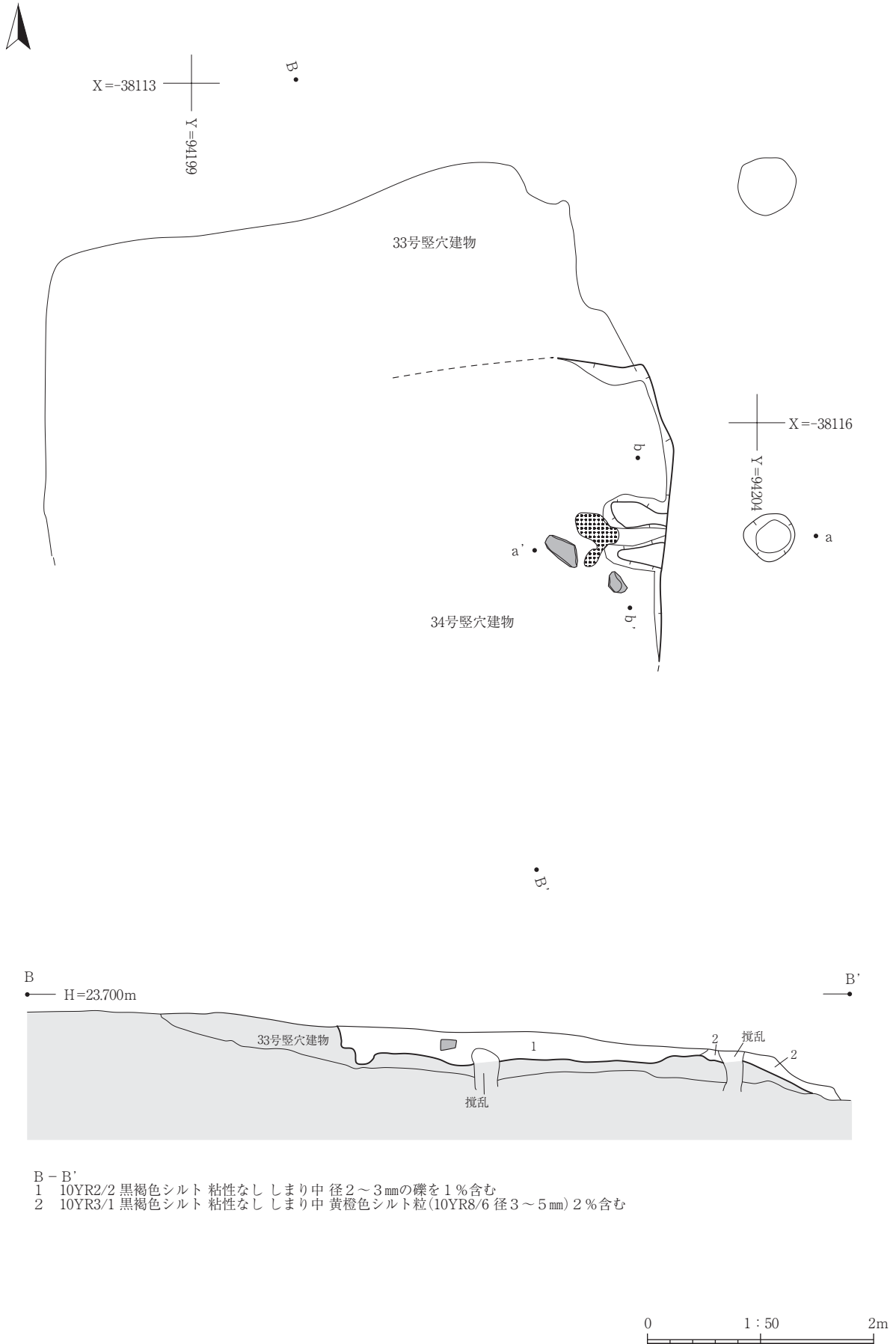
b - b'

- 1 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性・しまり中 明赤褐色焼土(5YR5/6)5%含む(カマド埋土)
- 2 5YR5/6 明赤褐色焼土 粘性・しまり中 黒褐色シルト(10YR3/1)5~7%含む(崩落土)
- 3 10YR4/6 褐色シルト 粘性なし しまり強(袖土)
- 4 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 径3~5mmの礫3~5%含む(貼床)



第45図 33号竖穴建物2

3 検出遺構と出土遺物



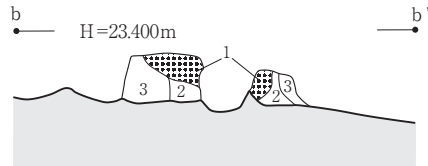
第46図 34号竪穴建物 1

〔34号竪穴建物〕 カマド

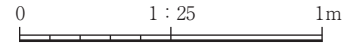


- a - a'
- 1 7.5YR5/6 明褐色焼土 粘性なし しまり中
 - 2 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 明赤褐色焼土(5 YR5/6) 1%、明褐色焼土(7.5YR5/6) 2%ブロックで含む
 - 3 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中
 - 4 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 明黄褐色シルト(10YR7/6) 1~2%含む
 - 5 5 YR5/6 明赤褐色焼土 粘性なし しまり強 黒褐色シルト(10YR3/1) 10~15%含む
 - 6 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 橙色焼土(7.5YR6/8)ブロックで5~7%含む
 - 7 10YR2/2 黒褐色シルト70%、10YR6/4 におい黄橙色焼土20%、7.5YR6/8 橙色焼土10%の混合土層 粘性なし しまり中
 - 8 5 YR5/8 明赤褐色焼土 粘性弱 しまり中

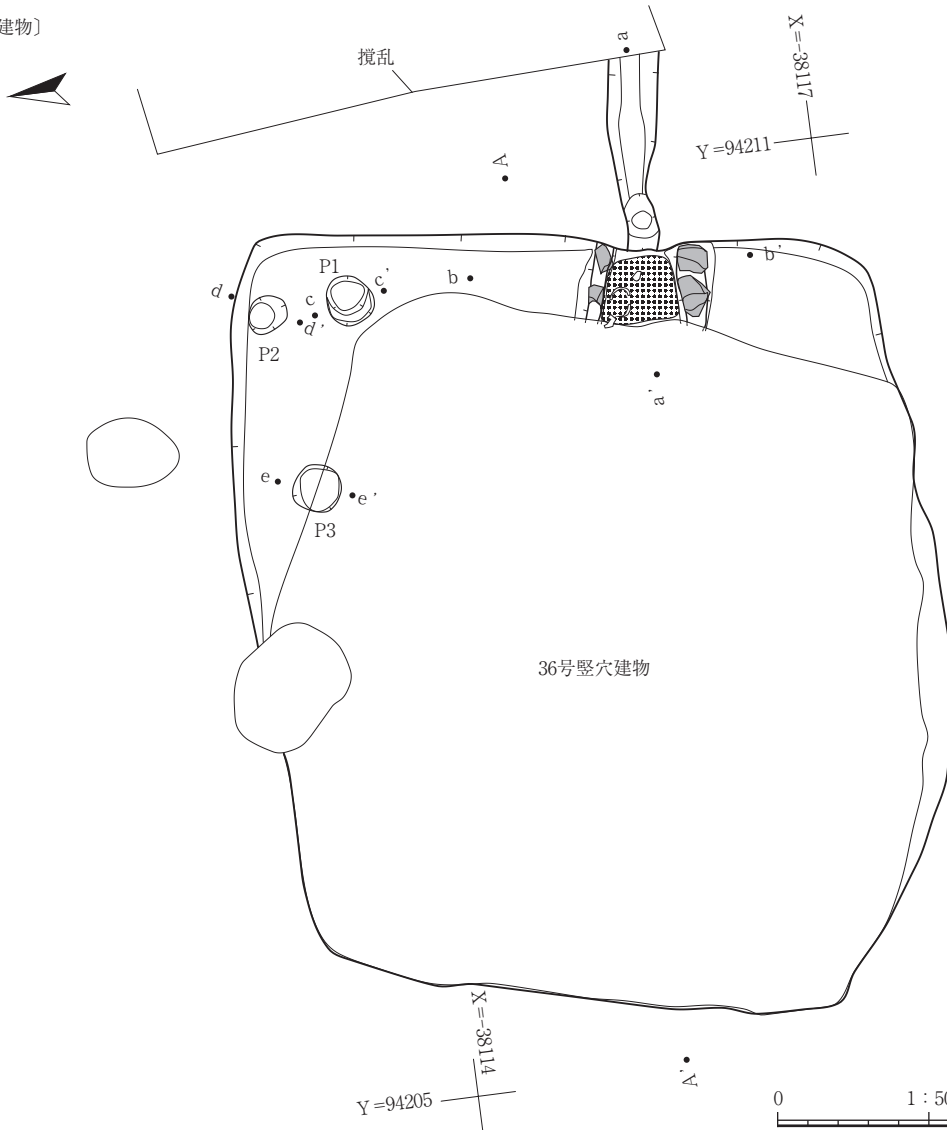
カマド



- b - b'
- 1 7.5YR7/6 橙色焼土 粘性なし しまり強
 - 2 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり中 橙色焼土(7.5YR7/6) 3%含む
 - 3 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 におい黄橙色シルト(10YR7/4) 1~2%含む

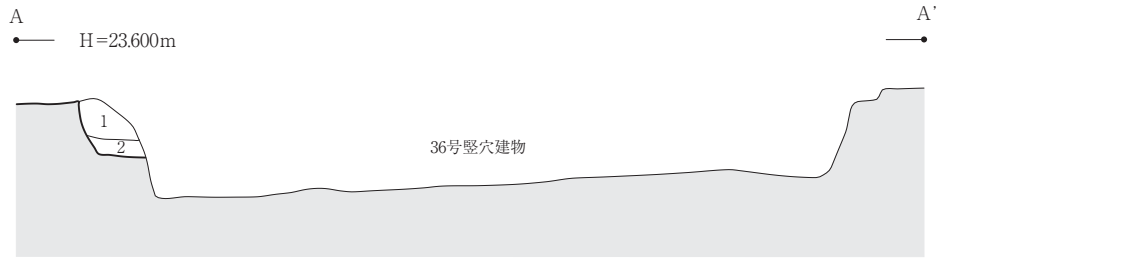


〔35号竪穴建物〕



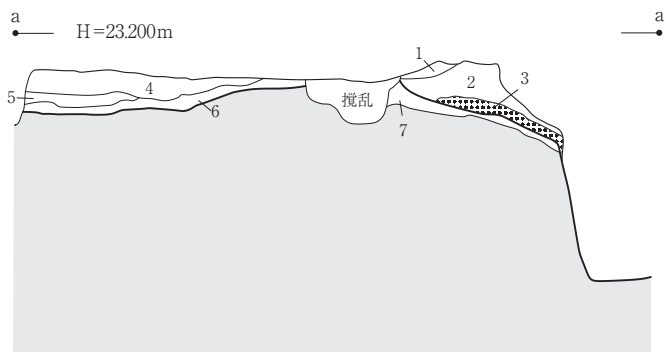
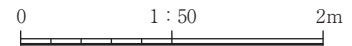
第47図 34号竪穴建物2、35号竪穴建物1

3 検出遺構と出土遺物



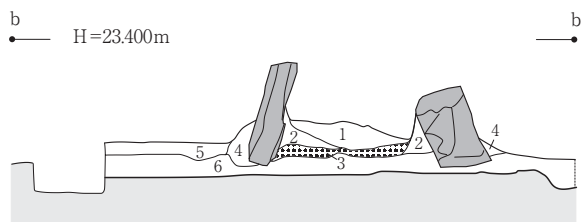
A - A'

- 1 10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまり中 径10mmの炭化物1~2%、明褐色焼土粒(7.5YR5/6 径2~3mm) 1%未満含む
 2 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり強 黒褐色シルト(10YR3/1)10%含む



a - a'

- 1 10YR2/1 黒色シルト 粘性中 しまり弱 明赤褐色焼土ブロック(5 YR5/6 径2~20mm)20%含む
 2 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 にぶい黄褐色粘土質シルトブロック(10YR5/4 径10~20mm)10%、赤褐色焼土ブロック(5 YR5/6 径5~10mm)10%含む
 3 5 YR4/8 赤褐色焼土 粘性なし しまり中(焼成面)
 4 10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり弱 径2~5mmの炭化物2%、にぶい黄褐色粘土質シルトブロック(10 YR5/4 径5~20mm)2%、明赤褐色焼土ブロック(5 YR5/6 径2~30mm)20%含む
 5 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱
 6 10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり弱
 7 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり中(貼床?)

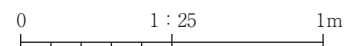


b - b'

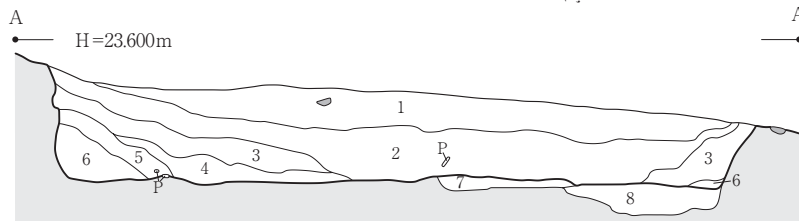
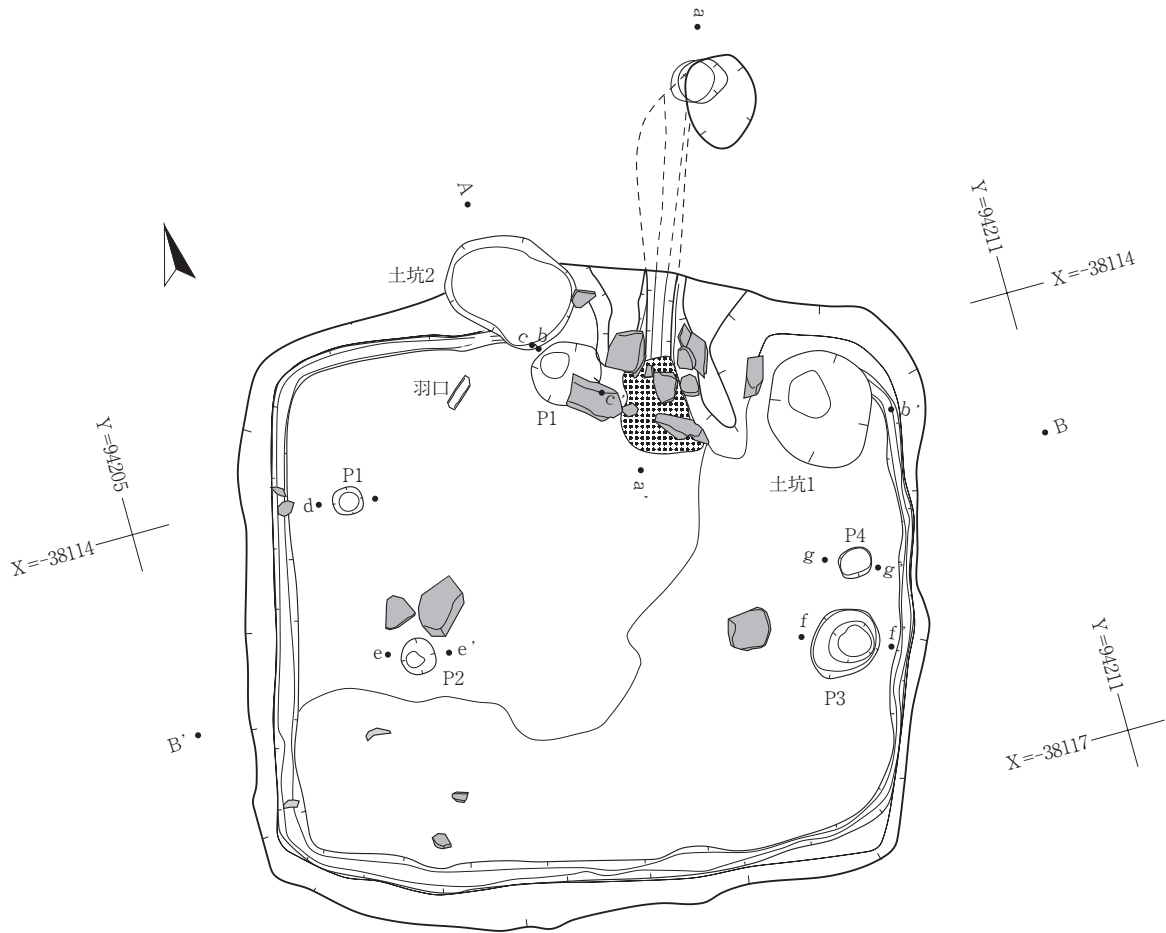
H=23,400m

b - b'

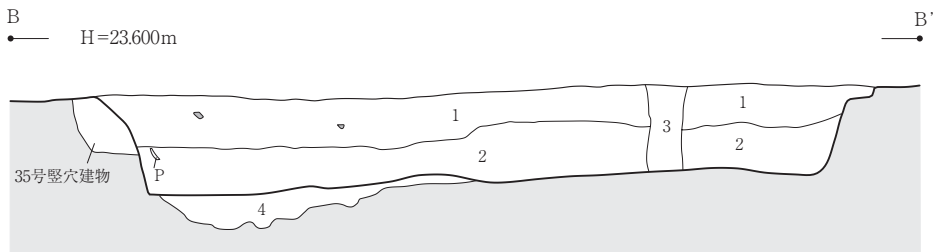
- 1 10YR2/1 黒色シルト 粘性中 しまり弱 明赤褐色焼土ブロック(5 YR5/6 径2~20mm)20%含む
 2 5 YR4/6 赤褐色焼土 粘性弱 しまり中 暗褐色シルト(10YR3/3)20~30%含む
 3 5 YR4/8 赤褐色焼土 粘性なし しまり中 黄褐色焼土(10YR5/6)10~15%含む(還元色)
 4 10YR3/4 暗褐色シルト60%、10YR6/6 明黄褐色シルト40%の混合土層 粘性弱 しまり中(袖土)
 5 5 YR4/6 赤褐色焼土 粘性弱 しまり中 暗褐色シルト(10YR3/3)20%含む
 6 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 にぶい黄褐色粘土質シルトブロック(10YR5/4 径10~20mm)10%、明赤褐色焼土ブロック(5 YR5/6 径5~10mm)10%含む



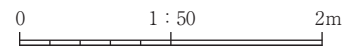
第48図 35号竖穴建物2



- A - A'
- 1 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 におい黄褐色シルト(10YR5/4) 2%含む
 - 2 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 におい黄褐色シルト粒(10YR5/4 径10mm)の炭化物 1%混入
 - 3 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 におい黄褐色シルト(10YR5/4) 1~2%含む
 - 4 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 におい黄褐色シルト(10YR5/4) 1%未満含む
 - 5 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 におい黄褐色シルト(10YR5/4) 50%含む
 - 6 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 におい黄褐色シルト(10YR5/4) 5%、黄褐色シルト粒(10YR 5/6 径2~3mm) 1%含む
 - 7 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性中 しまり強(貼床?)
 - 8 10YR4/2 灰黄褐色シルト50%、10YR6/6 明黄褐色粘土質シルト50%の混合土層 粘性弱 しまり強(貼床)

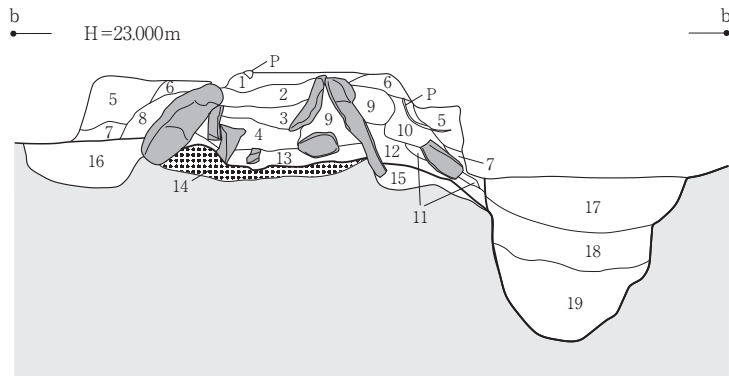
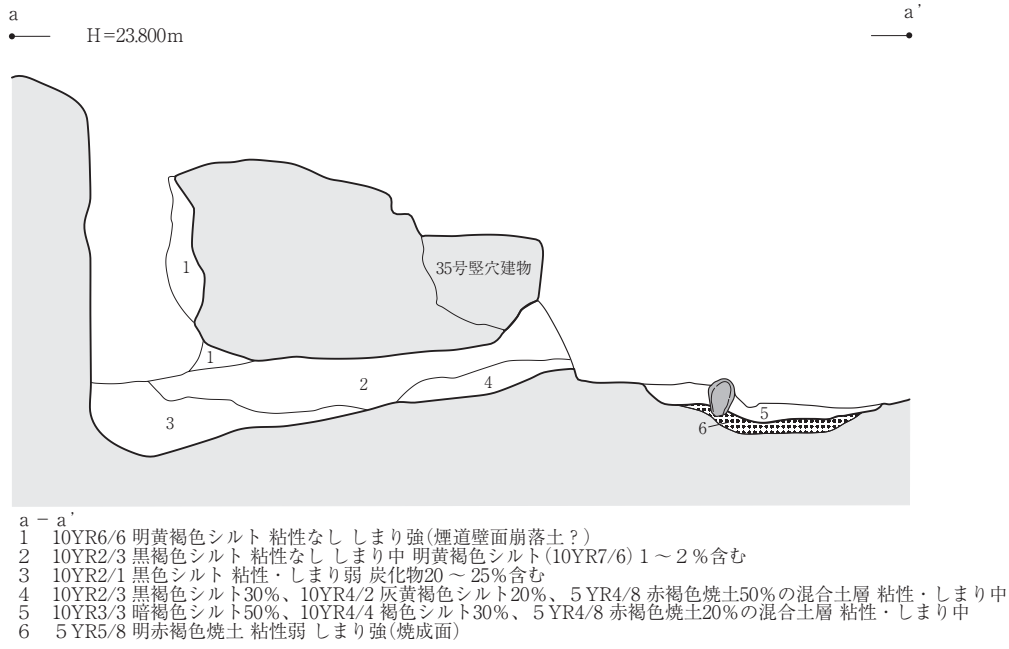


- B - B'
- 1 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 におい黄褐色シルト(10YR5/4) 2%含む
 - 2 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 におい黄褐色シルト粒(10YR5/4 径10mm)の炭化物 1%混入
 - 3 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR7/6) 3%含む(P3埋土)
 - 4 10YR4/2 灰黄褐色シルト50%、10YR6/6 明黄褐色粘土質シルト50%の混合土層 粘性弱 しまり強

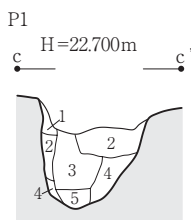


第49図 36号竪穴建物 1

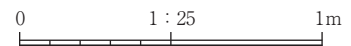
3 検出遺構と出土遺物



- b - b'
- 1 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 明黄褐色シルト粒(10YR6/6 径2~5mm) 3% 含む
 - 2 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 明黄褐色シルト粒(10YR6/6 径2~5mm) 5%、暗褐色焼土(7.5 YR4/6) 3% をブロックで含む
 - 3 10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまり中
 - 4 10YR2/1 黒色シルト 粘性中 しまり弱 明黄褐色シルト粒(10YR6/6 径2~5mm) ブロックで5~7% 含む
 - 5 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6 径3~5mm) 2% 含む
 - 6 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6 径3~5mm) 5% 含む
 - 7 10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまり中
 - 8 10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中 径5~7mmの炭化物 1% 未満含む
 - 9 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 明黄褐色シルト(10YR6/6 径2mm) 1% 含む
 - 10 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性・しまり中 黒褐色シルト(10YR2/3) 5~7% 混じる
 - 11 10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまり中
 - 12 10YR3/3 暗褐色シルト50%、10YR4/6 褐色シルト50%の混合土層 粘性・しまり中(P1埋土)
 - 13 7.5YR4/6 褐色焼土 粘性中 しまりなし 径3~5mmの骨片 2% 含む
 - 14 5 YR4/8 赤褐色焼土 粘性・しまり中
 - 15 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト粒(10YR6/6 径2~5mm) 1% 含む(竪穴貼床)
 - 16 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり中 黄褐色シルト(10YR5/6) 20% 含む(竪穴貼床)
 - 17 10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6 径5~10mm) 2~3% 含む
 - 18 10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6) ブロックで2%、褐色焼土(7.5YR4/4) 1% 含む
 - 19 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6) ブロックで1~2% 含む
- * 17~19は土坑1埋土

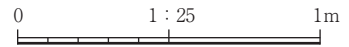
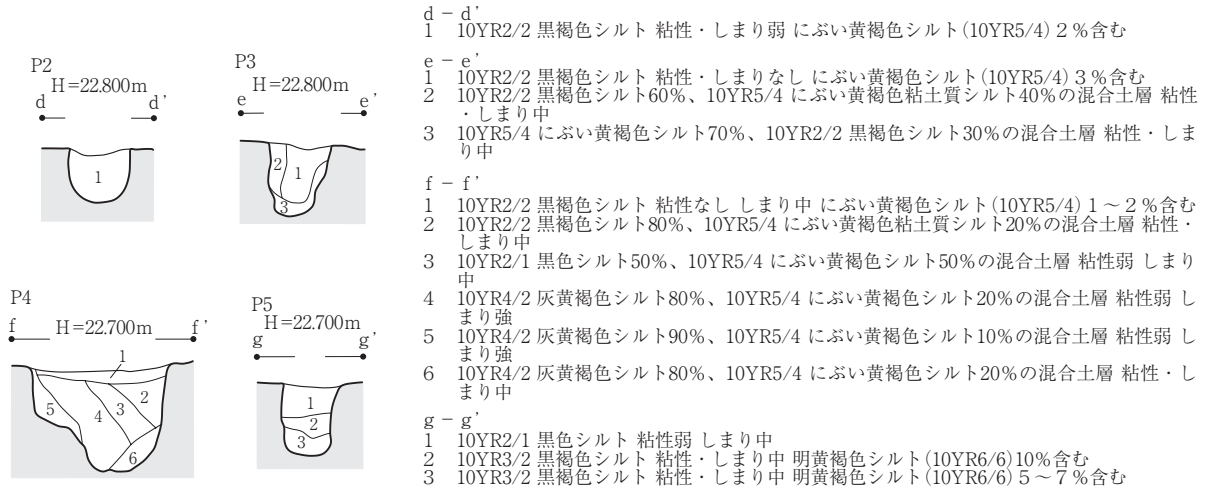


- c - c'
- 1 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6) 1~2% 含む
 - 2 10YR5/4 黄褐色粘土質シルト80%、10YR3/1 黒褐色シルト20%の混合土層 粘性中 しまり強
 - 3 10YR3/1 黒褐色シルト90%、10YR5/4 黄褐色粘土質シルト10%の混合土層 粘性中 しまり強
 - 4 10YR5/4 黄褐色粘土質シルト 粘性中 しまり強 黒褐色シルト(10YR3/1) 10% 含む
 - 5 10YR5/4 黄褐色シルト 粘性・しまり中 黒褐色シルト(10YR3/1) 15~20% 含む

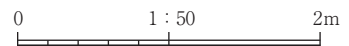
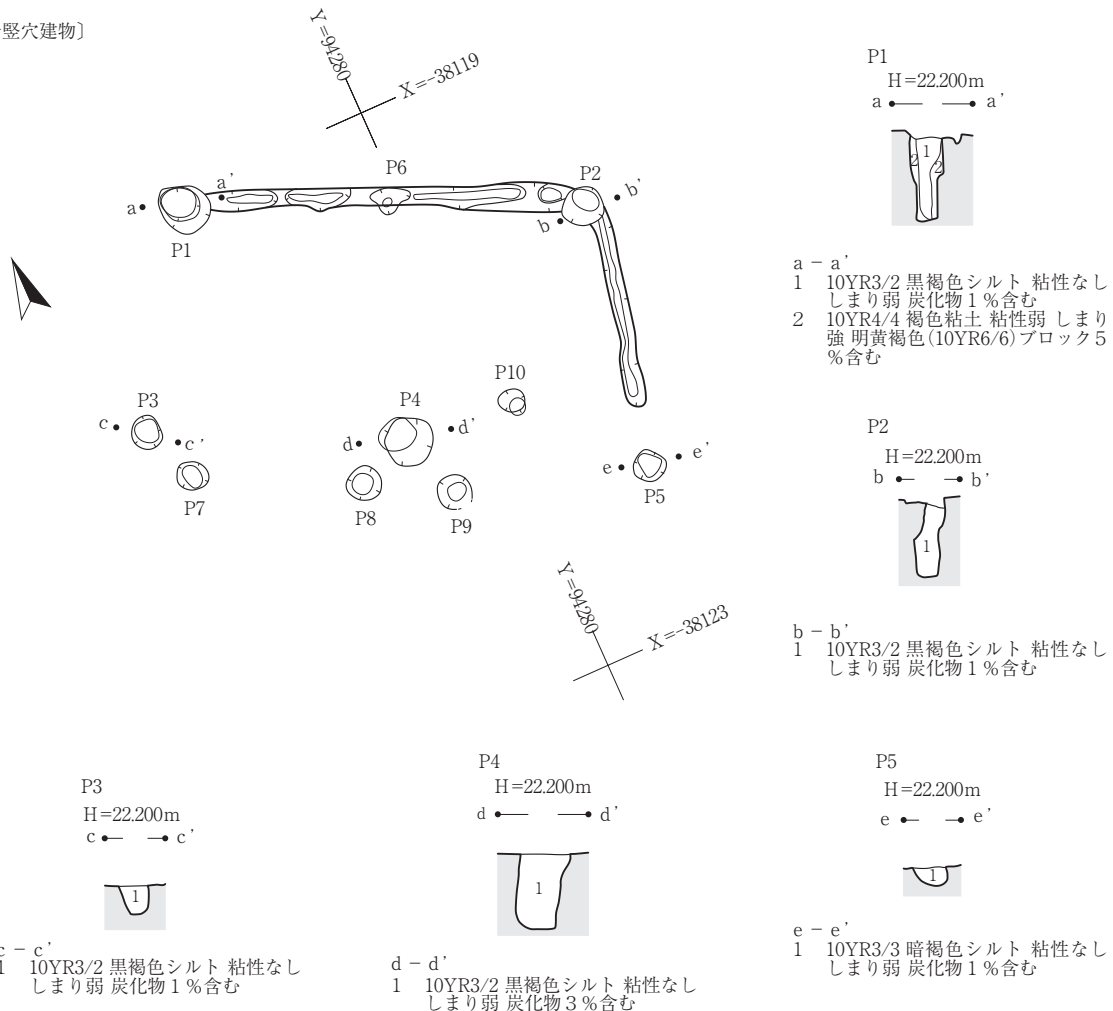


第50図 36号竪穴建物2

[36号竖穴建物]



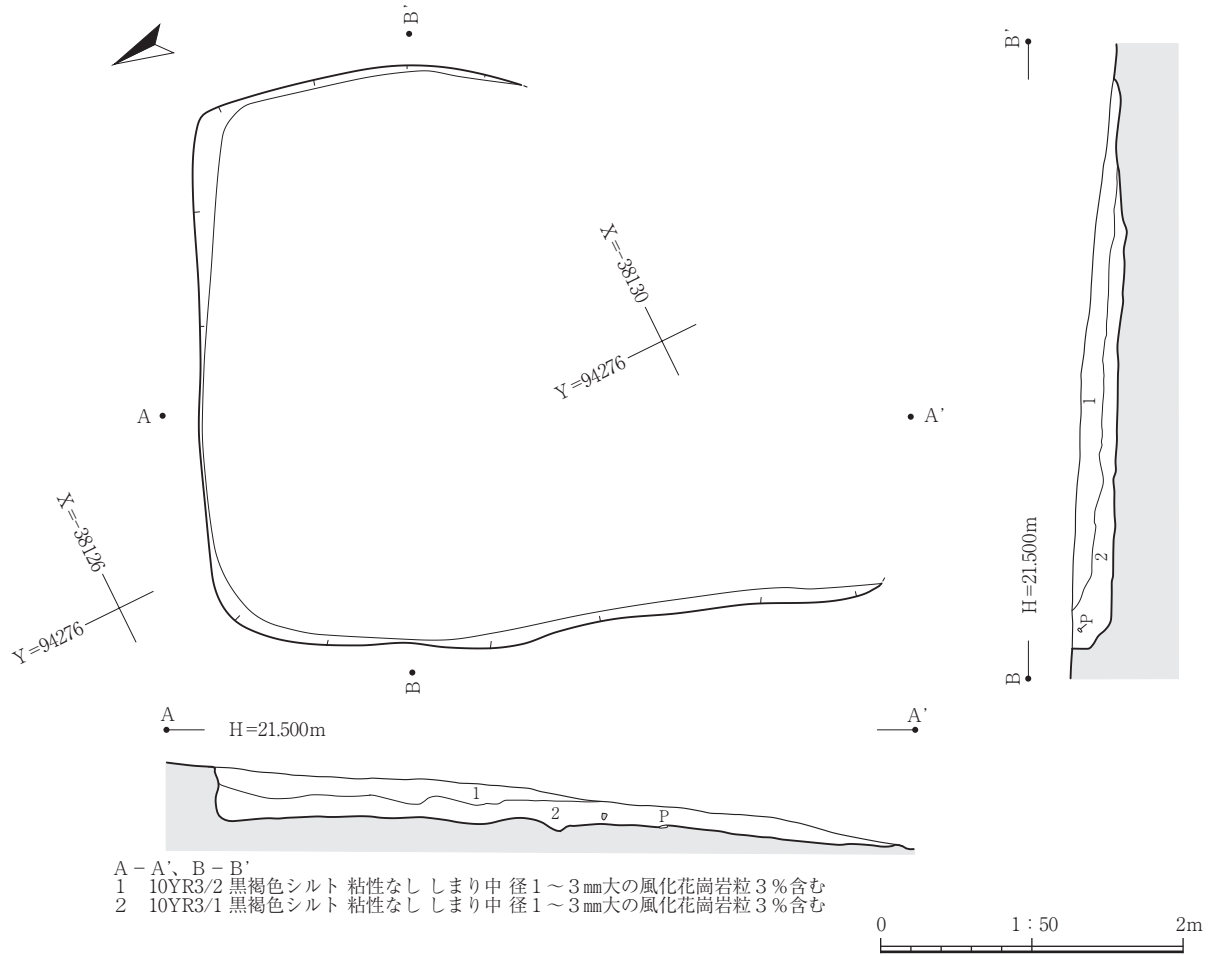
[37号竖穴建物]



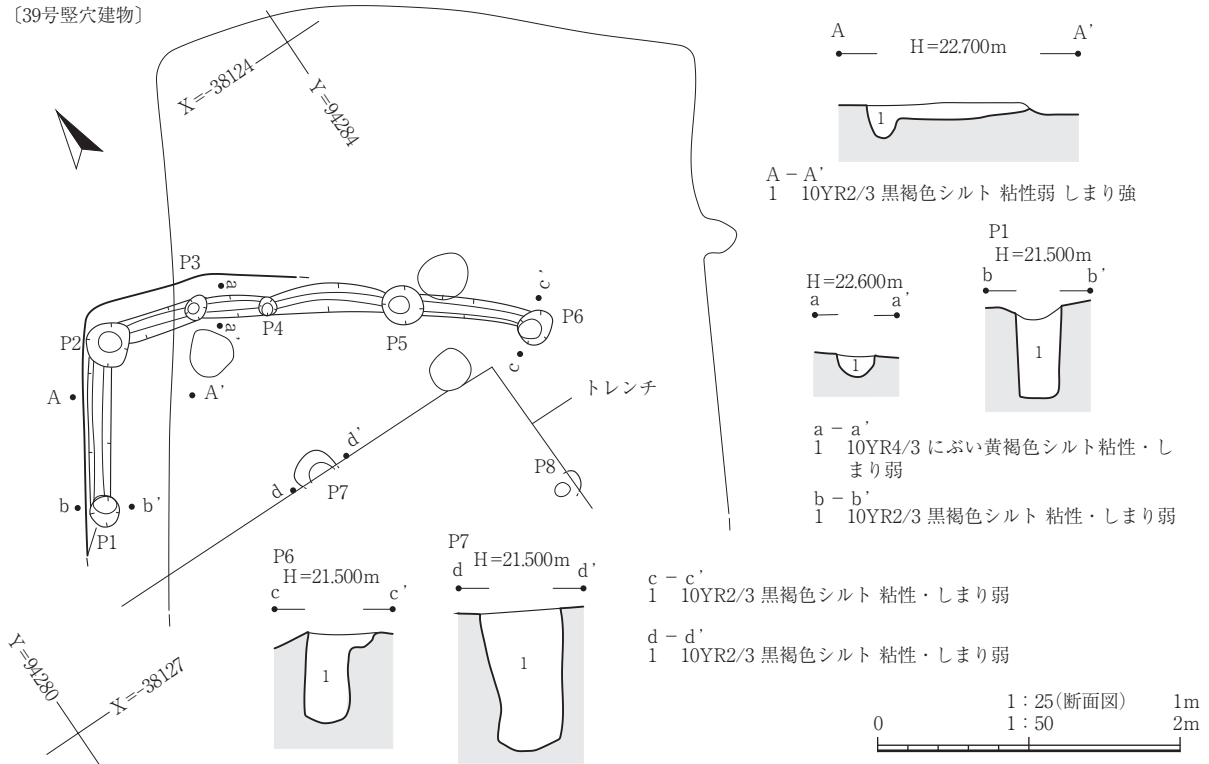
第51図 36号竖穴建物3、37号竖穴建物

3 検出遺構と出土遺物

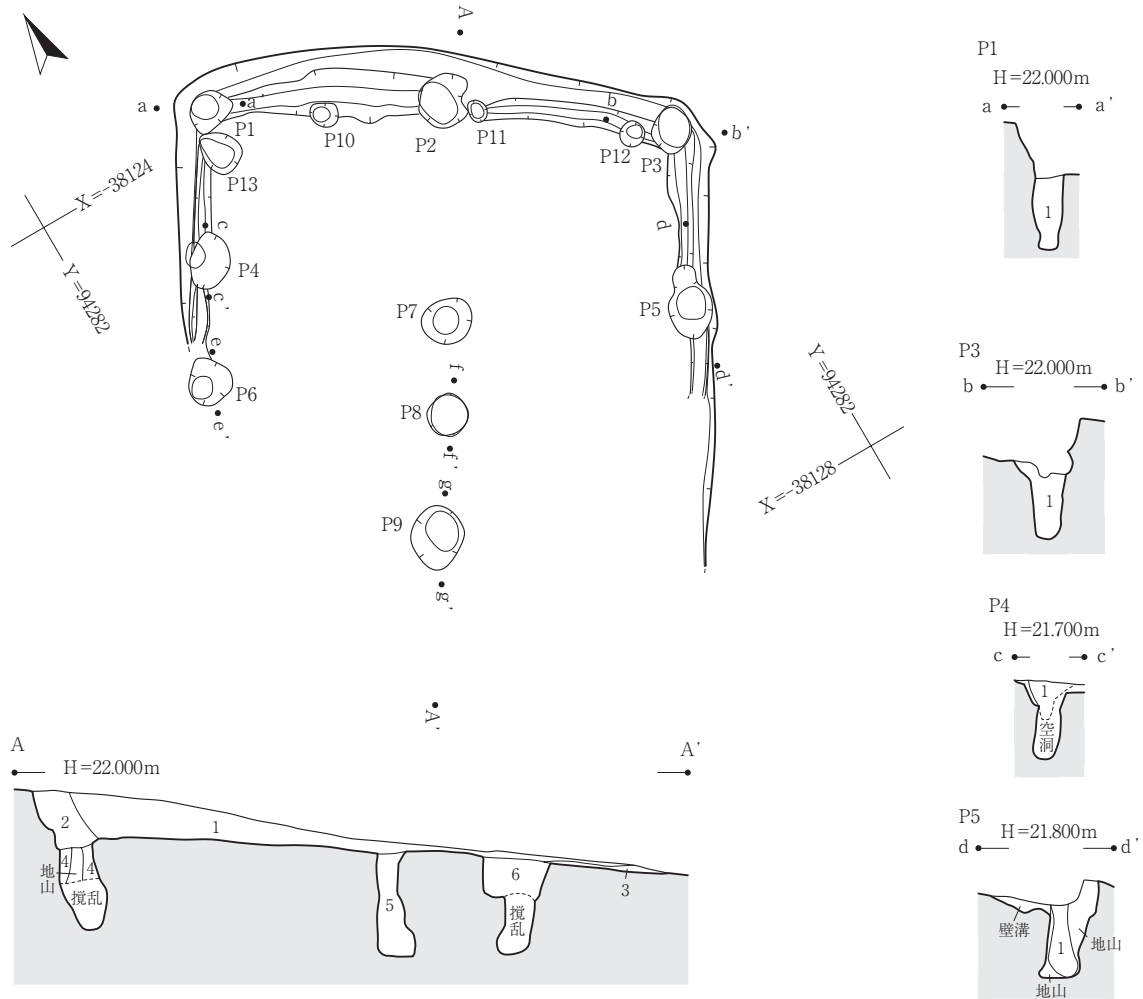
[38号竪穴建物]



[39号竪穴建物]

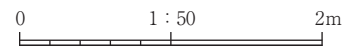


第52図 38号竪穴建物、39号竪穴建物



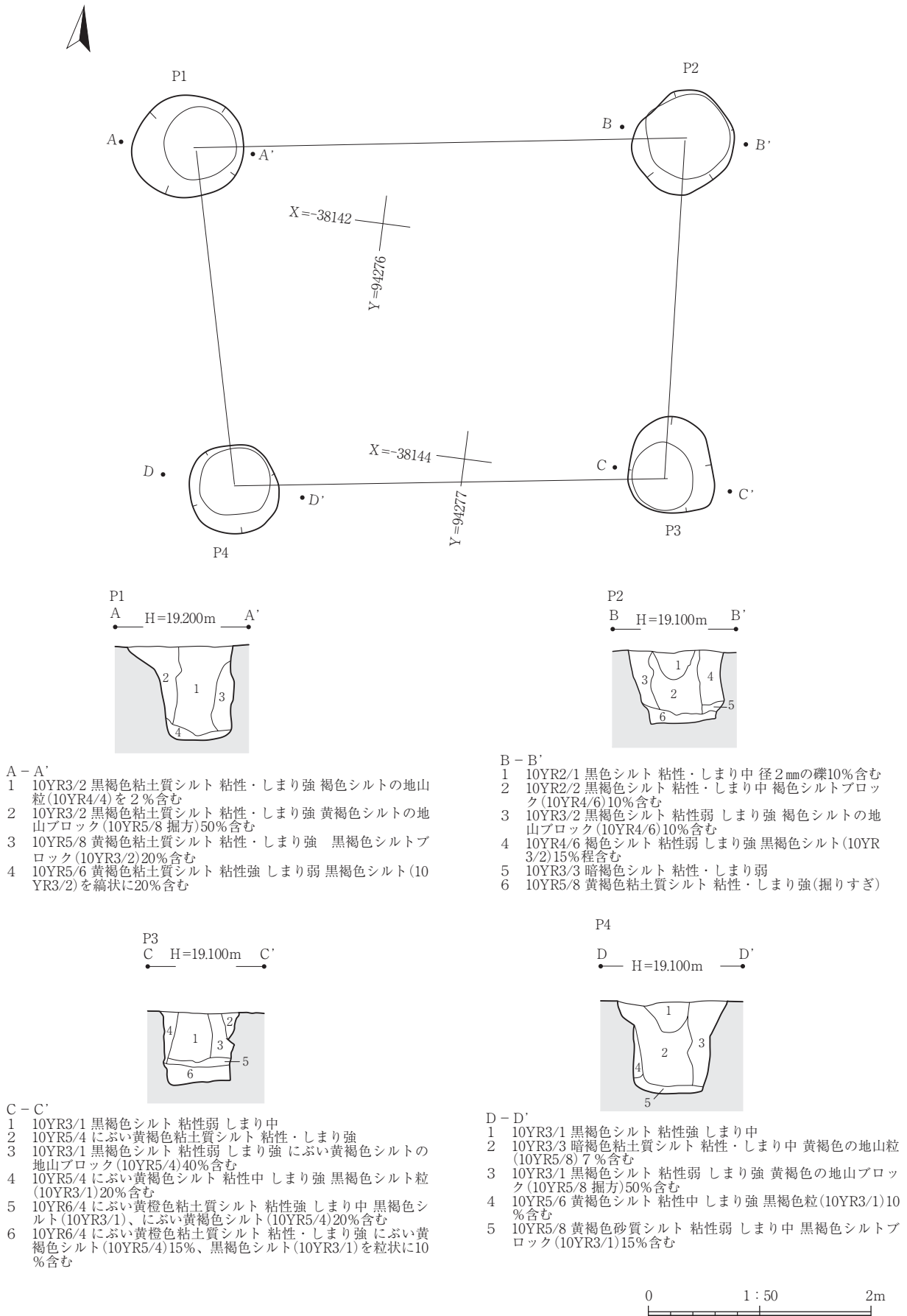
- A - A'
- 1 10YR3/2 黒褐色砂質シルト 粘性なし しまり強 径1~3mmの風化花崗岩粒5%、炭化物1%含む (38号堅穴建物の埋土と類似層下位に炭化物層が部分的に確認される)
 - 2 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり強 におい黄褐色シルト(10YR7/3)ブロック1%、風化花崗岩粒(10YR4/1 褐色 径1~3mm大)5%含む
 - 3 10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性なし しまり強 径1~3mmの風化花崗岩粒1%含む
 - 4 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり強 におい黄褐色シルト(10YR6/3 径1mm大)ブロック5%含む
 - 5 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり強 風化花崗岩粒(10YR8/1 灰白色 径1mm)1%含む
 - 6 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり強 径1mmの風化花崗岩粒3%、炭化物1%含む

- | | | | |
|--|--|---|---|
| <p>P6
H=21.800m
e - e'</p> <p>P6
e - e'
1 10YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性なし しまり弱 径1~3mmの風化花崗岩粒1%、におい黄褐色シルト(10YR5/4)10%含む</p> | <p>P8
H=21.600m
f - f'</p> <p>P8
f - f'
1 10YR2/2 黒褐色砂質シルト 粘性なし しまり中 風化花崗岩粒1%、黄褐色シルト(10YR5/8)ブロックで3%含む</p> | <p>P9
H=21.600m
g - g'</p> <p>P9
g - g'
1 10YR2/2 黒褐色砂質シルト 粘性なし しまり中 風化花崗岩粒3%含む</p> | <p>P1
a - a'
1 10YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性なし しまり弱 径1~5mmの風化花崗岩粒3%、におい黄褐色シルト(10YR5/4)20%含む</p> <p>P3
b - b'
1 10YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性なし しまり弱 径1~5mmの風化花崗岩粒3%、におい黄褐色シルト(10YR5/4)10%、炭化物3%含む</p> <p>P4
c - c'
1 10YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性なし しまり弱 径1~3mmの風化花崗岩粒1%含む</p> <p>P5
d - d'
1 10YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性なし しまり弱 径1~5mmの風化花崗岩粒1%含む</p> |
|--|--|---|---|



第53図 40号堅穴建物

3 検出遺構と出土遺物



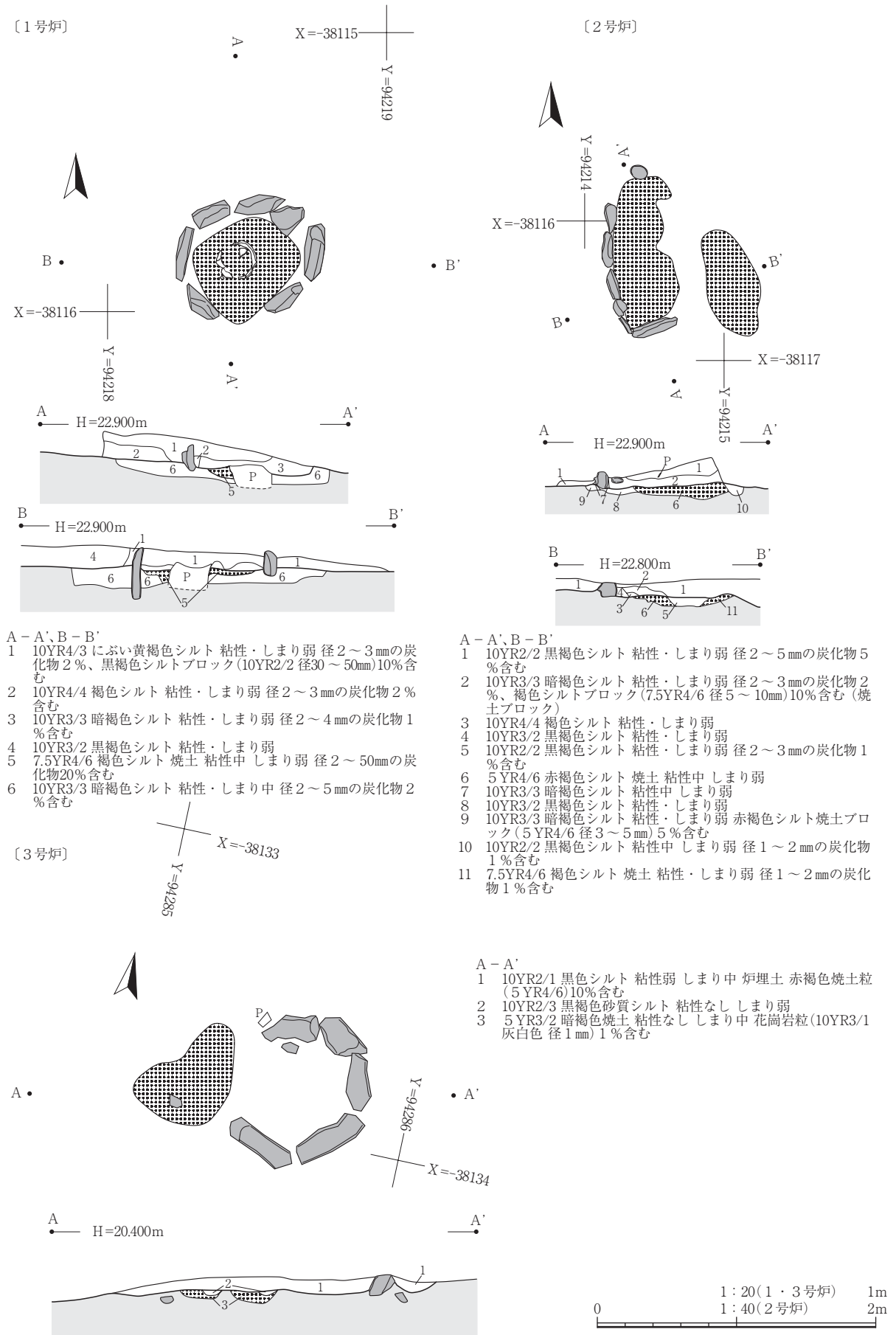
- A - A'
- 1 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト 粘性・しまり強 褐色シルトの地山粒(10YR4/4)を2%含む
 - 2 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト 粘性・しまり強 黄褐色シルトの地山ブロック(10YR5/8 掘方)50%含む
 - 3 10YR5/8 黄褐色粘土質シルト 粘性・しまり強 黒褐色シルトブロック(10YR3/2)20%含む
 - 4 10YR5/6 黄褐色粘土質シルト 粘性強 しまり弱 黒褐色シルト(10YR3/2)を縞状に20%含む

- B - B'
- 1 10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中 径2mmの礫10%含む
 - 2 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 褐色シルトブロック(10YR4/6)10%含む
 - 3 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり強 褐色シルトの地山ブロック(10YR4/6)10%含む
 - 4 10YR4/6 褐色シルト 粘性弱 しまり強 黒褐色シルト(10YR3/2)15%程含む
 - 5 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり弱
 - 6 10YR5/8 黄褐色粘土質シルト 粘性・しまり強(掘りすぎ)

- C - C'
- 1 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中
 - 2 10YR5/4 にぶい黄褐色粘土質シルト 粘性・しまり強
 - 3 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性弱 しまり強 にぶい黄褐色シルトの地山ブロック(10YR5/4)40%含む
 - 4 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粘性中 しまり強 黒褐色シルト粒(10YR3/1)20%含む
 - 5 10YR6/4 にぶい黄褐色粘土質シルト 粘性強 しまり中 黒褐色シルト(10YR3/1)、にぶい黄褐色シルト(10YR5/4)20%含む
 - 6 10YR6/4 にぶい黄褐色粘土質シルト 粘性・しまり強 にぶい黄褐色シルト(10YR5/4)15%、黒褐色シルト(10YR3/1)を粒状に10%含む

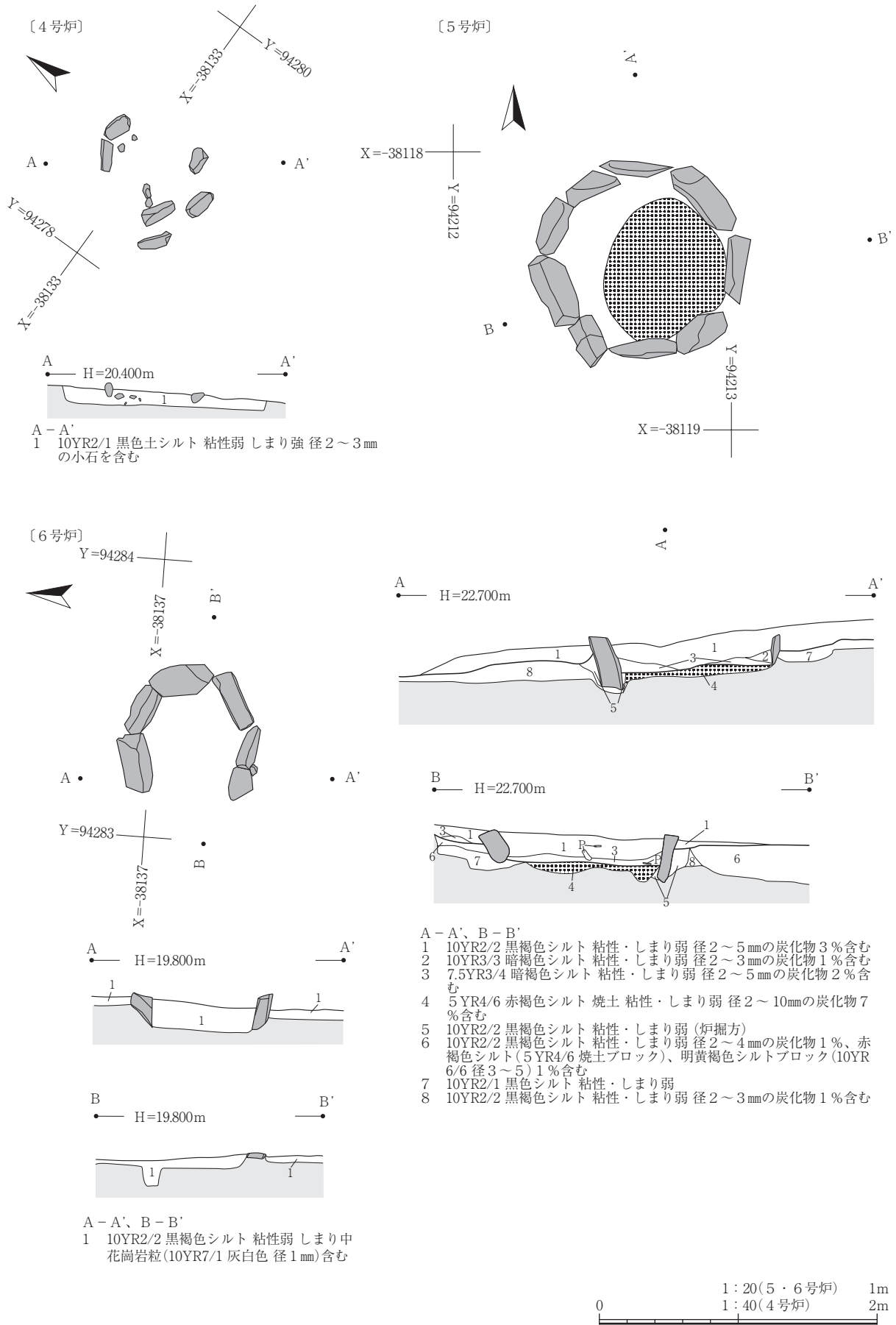
- D - D'
- 1 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性強 しまり中
 - 2 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 粘性・しまり中 黄褐色の地山粒(10YR5/8)7%含む
 - 3 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性弱 しまり強 黄褐色の地山ブロック(10YR5/8 掘方)50%含む
 - 4 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性中 しまり強 黒褐色粒(10YR3/1)10%含む
 - 5 10YR5/8 黄褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中 黒褐色シルトブロック(10YR3/1)15%含む

第54図 1号掘立柱建物跡

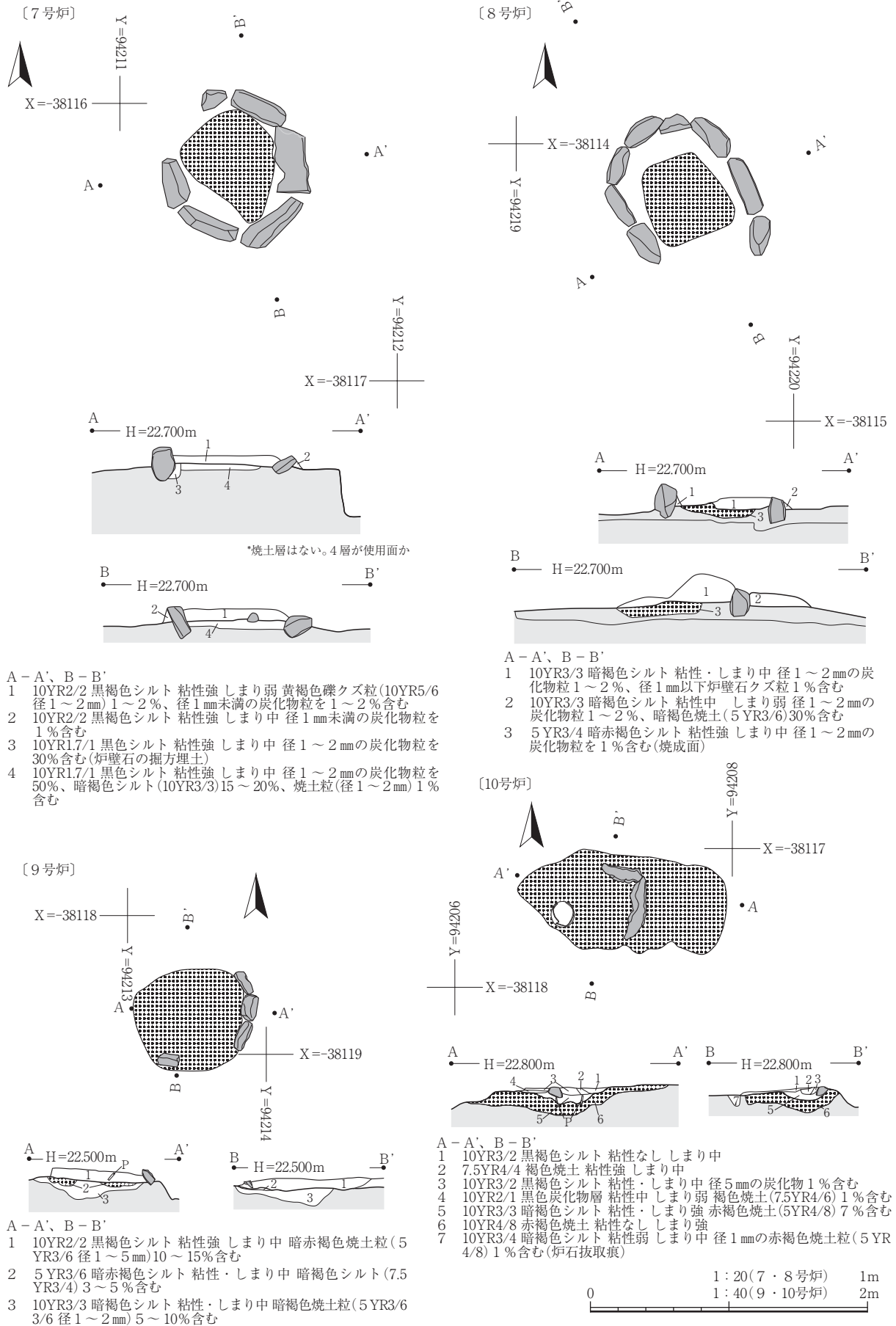


第55図 1~3号炉

3 検出遺構と出土遺物



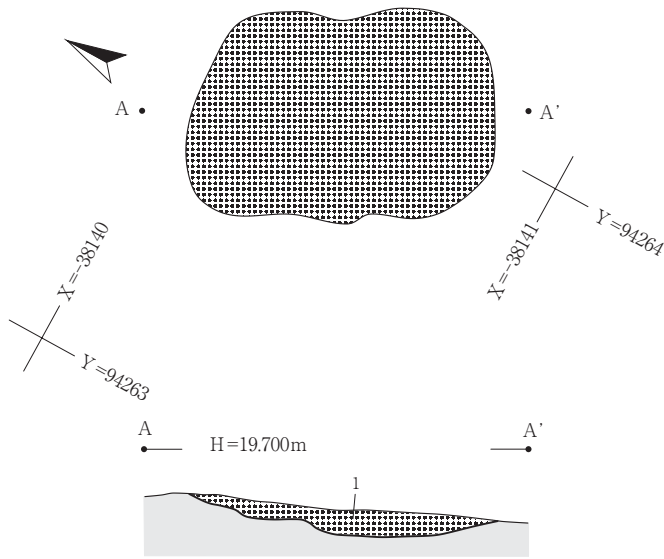
第56図 4~6号炉



第57図 7~10号炉

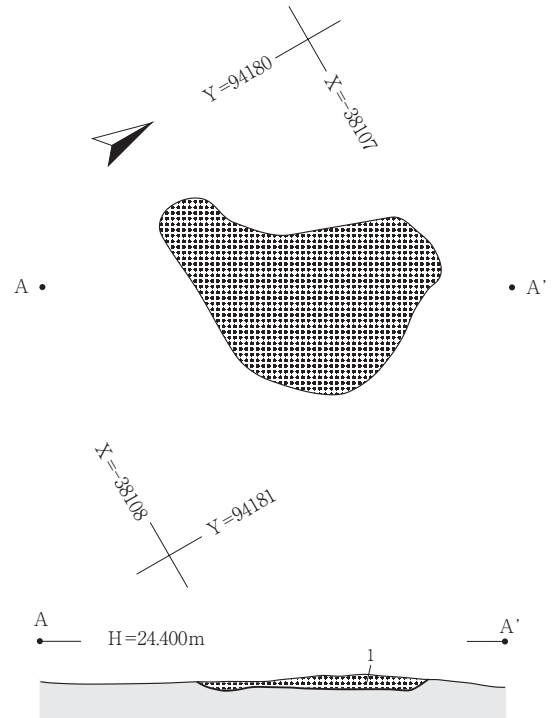
3 検出遺構と出土遺物

[1号焼土]



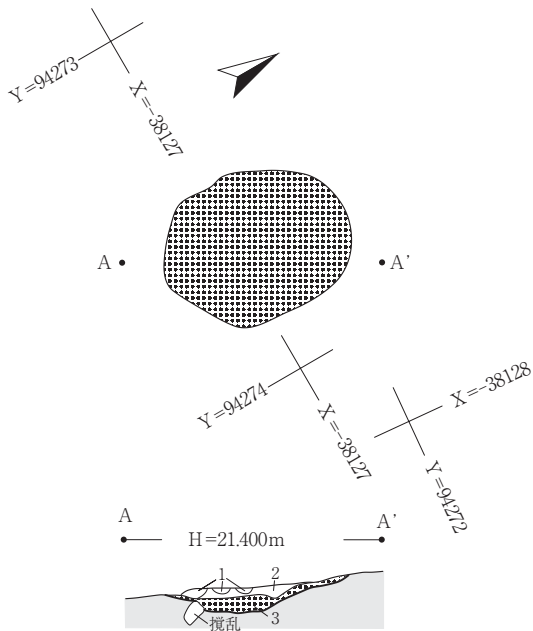
A - A'
1 7.5YR3/4 暗褐色焼土 粘性中しまり弱 径1~2mmの炭化物1%、黒色シルト(7.5YR2/1 径10~50mm)をブロックで20%含む

[2号焼土]



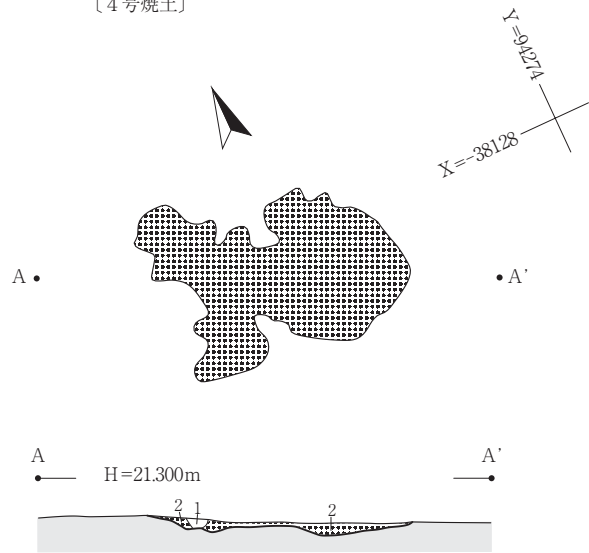
A - A'
1 7.5YR4/6 褐色焼土 粘性弱しまり中

[3号焼土]

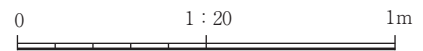


A - A'
1 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱しまり中
2 10YR1.7/1 黒色シルト 粘性・しまり弱 赤褐色焼土(5YR4/8)および炭化材を50%含む
3 5YR4/8 赤褐色土焼土 粘性弱しまり強

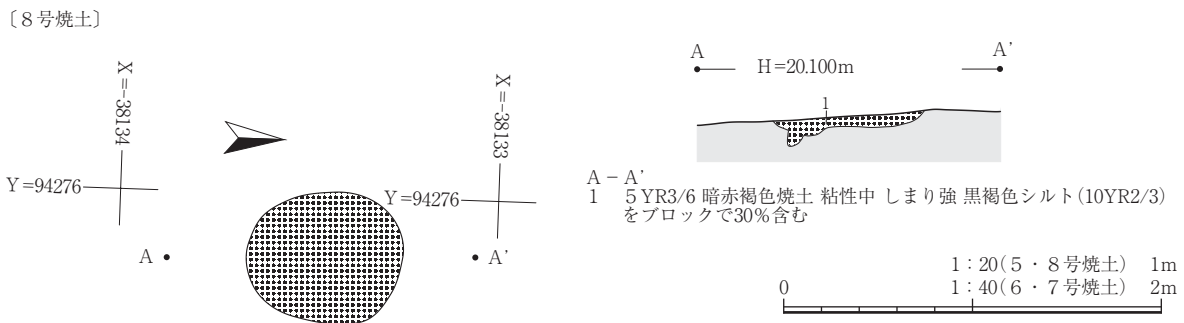
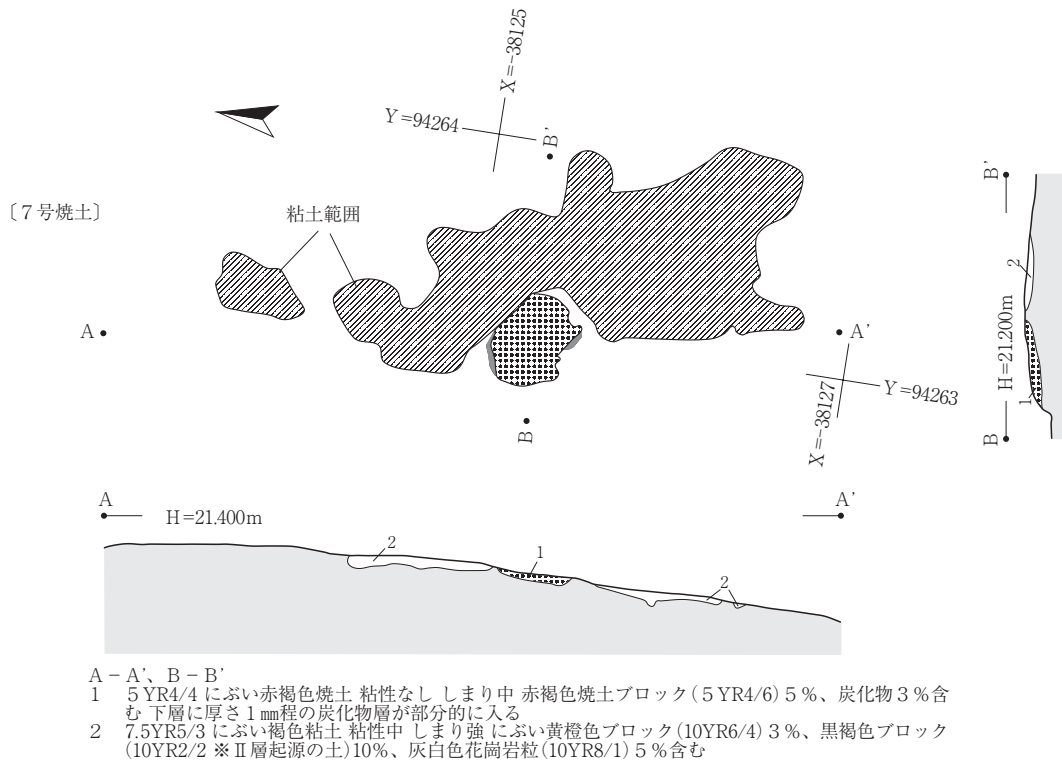
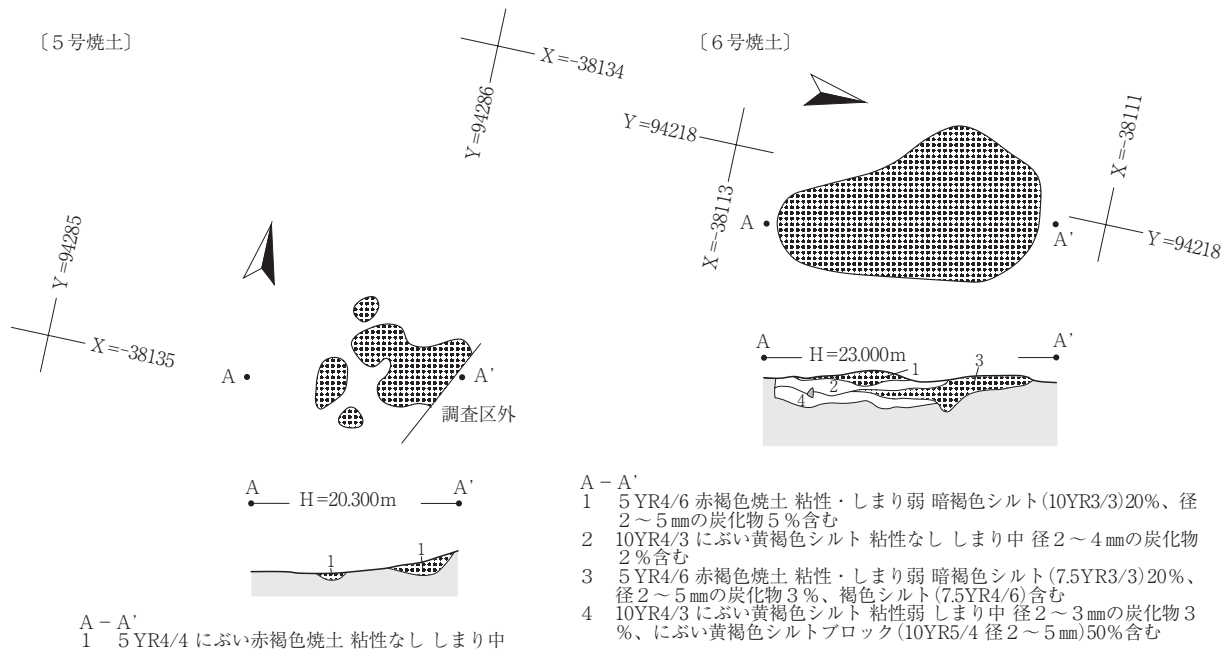
[4号焼土]



A - A'
1 10YR1.7/1 黒色炭化物 粘性なししまり弱
2 5YR5/8 明赤褐色焼土 粘性なししまり強

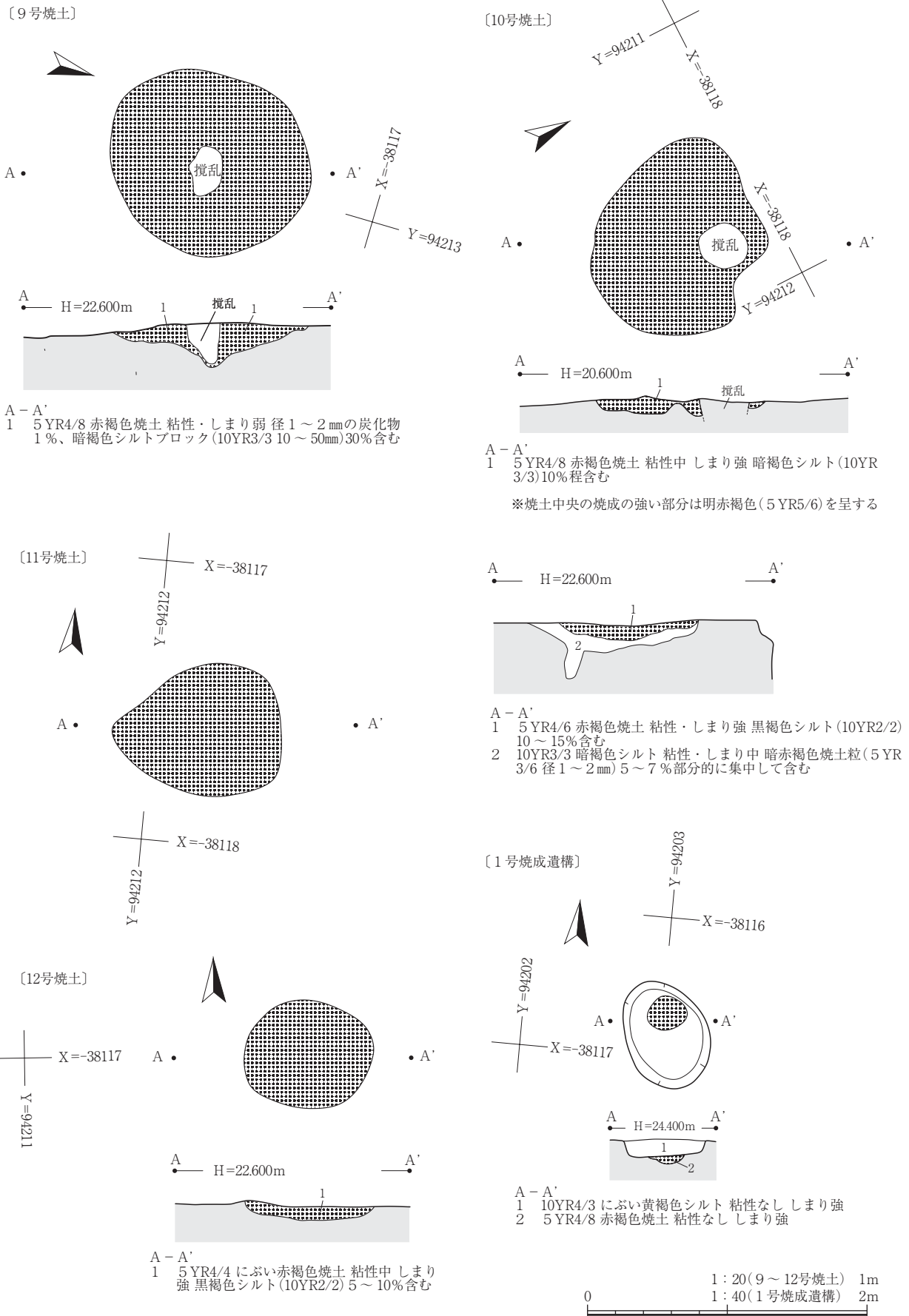


第58図 1~4号焼土



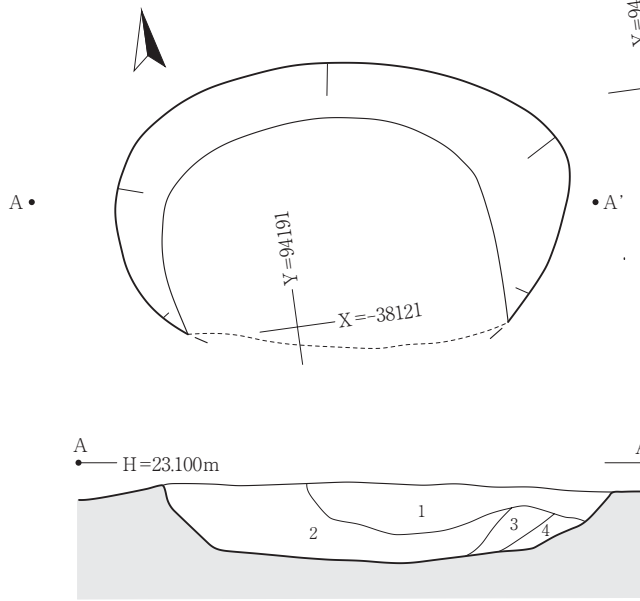
第59図 5~8号焼土

3 検出遺構と出土遺物



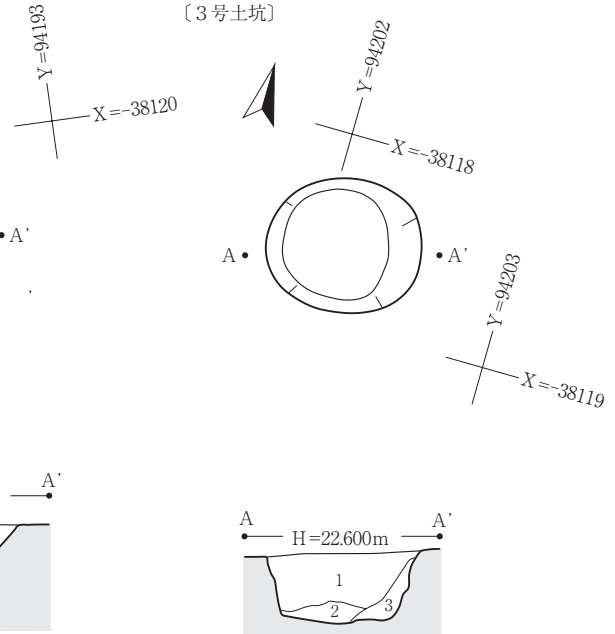
第60図 9~12号焼土、1号焼成遺構

[1号土坑]



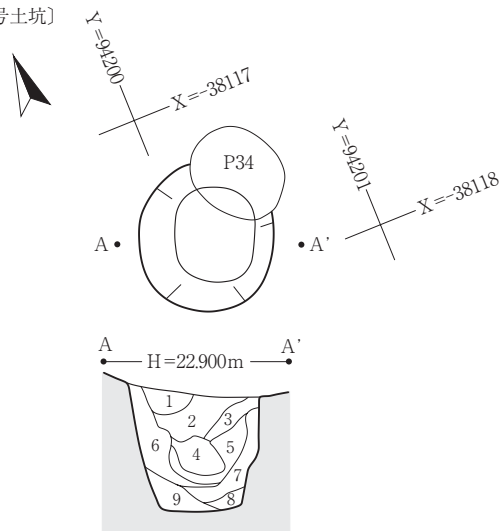
- A - A'
- 1 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 径5mmの礫粒1~2%含む
 - 2 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり強 径5mmの礫粒2~3%含む
 - 3 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性弱 しまり強 黒褐色シルト(10YR2/2)10%含む
 - 4 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性弱 しまり強 暗褐色シルト(10YR3/4)5%含む

[3号土坑]



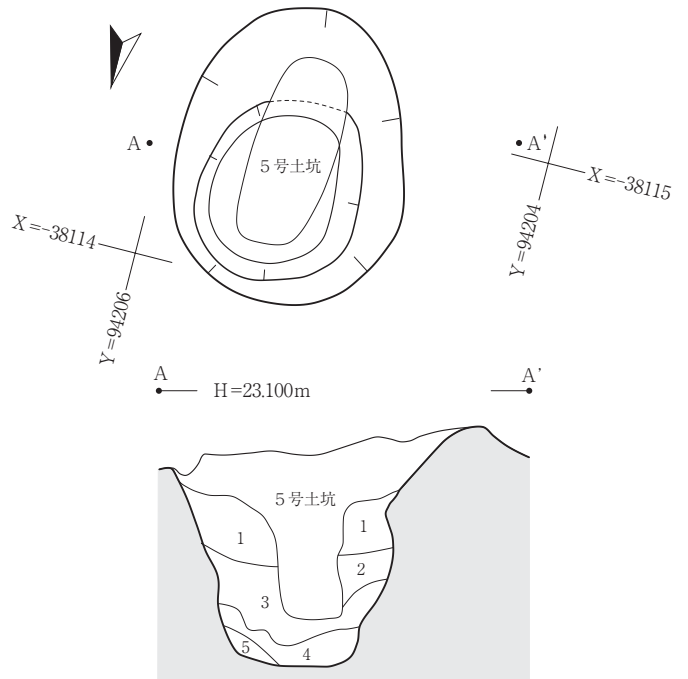
- A - A'
- 1 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり中 径3~5mmの炭化物粒1%含む
 - 2 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性弱 しまり強 黄褐色シルト(10YR5/6)3%含む
 - 3 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり強

[2号土坑]

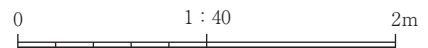


- A - A'
- 1 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり強 径1mmの礫粒1%含む
 - 2 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性弱 しまり強 径1mmの炭化物1%未満、径3mmの礫粒1%含む
 - 3 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なし しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/6)7%、径3mmの礫粒1%含む
 - 4 10YR3/3 暗褐色シルト50%、10YR4/3 におい黄褐色シルト40%、10YR5/6 黄褐色シルト10%の混合土層 粘性弱 しまり強
 - 5 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性中 しまり強 暗褐色シルト(10YR3/3)7%、径2~3mmの礫粒3%含む
 - 6 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり強 径1mmの礫粒1%含む
 - 7 10YR5/4 におい黄褐色シルト 粘性なし しまり強 黒褐色シルト(10YR2/3)3%含む
 - 8 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なし しまり強 浅黄色シルト(2.5Y7/4)3%含む
 - 9 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性弱 しまり強 黄褐色シルト(10YR5/6)5%含む

[4号土坑]



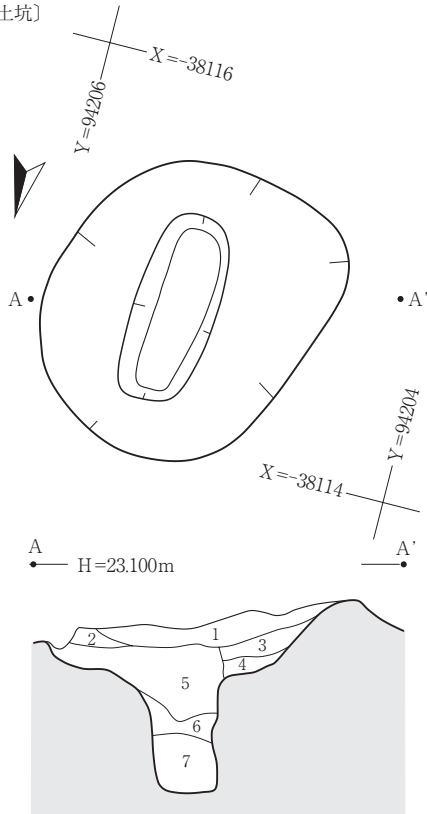
- A - A'
- 1 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性中 しまり強
 - 2 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性弱 しまり強 暗褐色シルト(10YR3/3)層状に10~15%含む
 - 3 10YR4/6 褐色シルト 粘性なし しまり強 径2~3mmの礫粒1%含む
 - 4 10YR5/6 黄褐色砂質シルト 粘性なし しまり強 暗褐色シルト(10YR3/3)5%含む
 - 5 10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性なし しまり強



第61図 1~4号土坑

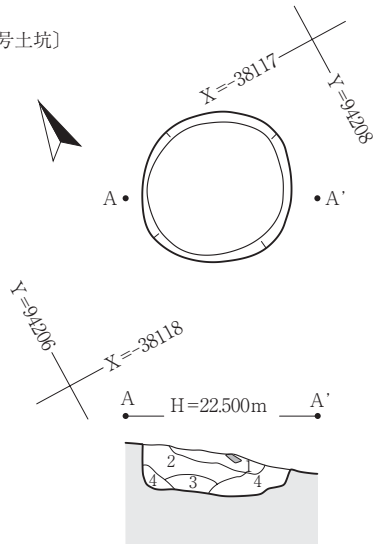
3 検出遺構と出土遺物

〔5号土坑〕



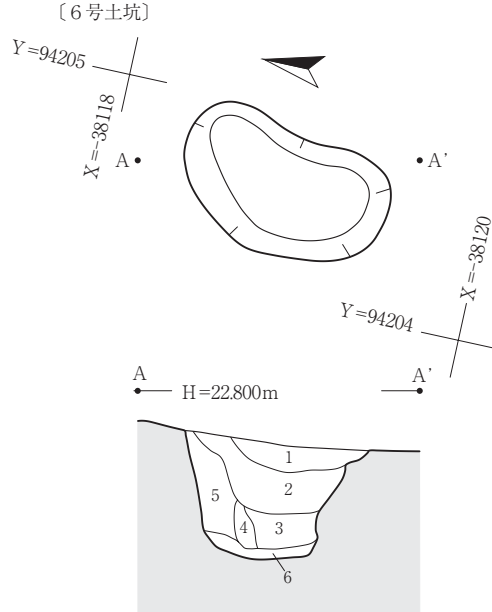
- A-A'
- 1 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性弱 しまり強 径1~2mmの炭化物1%未満、径1mmの礫粒3%含む
 - 2 10YR4/6 褐色シルト50%、10YR3/4 暗褐色シルト50%の混合土層 粘性中 しまり強
 - 3 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 しまり強 径2~3mmの礫粒3%含む
 - 4 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性中 しまり強 径1mmの礫粒1%未満含む
 - 5 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性弱 しまり強 径1mmの炭化物1%、径2~3mmの礫粒1%含む
 - 6 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性弱 しまり強 褐色シルト(10YR4/6)7%含む
 - 7 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性中 しまり強 径3mmの礫粒2%含む

〔8号土坑〕



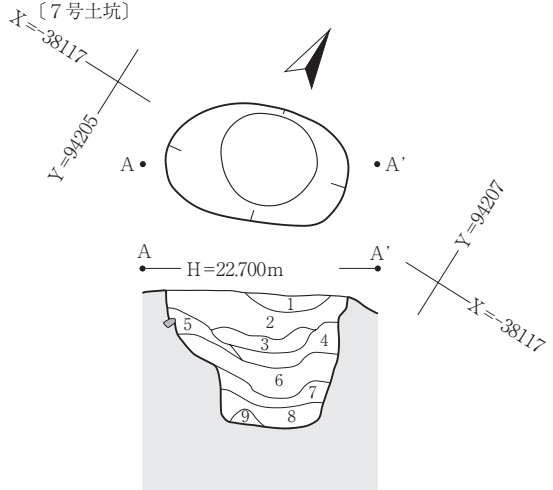
- A-A'
- 1 10YR4/4 褐色シルト 粘性弱 しまり強 黄褐色シルト(10YR5/6)5%含む
 - 2 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なし しまり強 黄褐色シルト(10YR5/6)3%含む
 - 3 10YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性なし しまり強
 - 4 10YR3/4 暗褐色粘土質シルト 粘性・しまり強

〔6号土坑〕

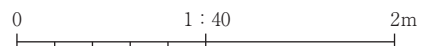


- A-A'
- 1 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり強 径3~5mmの礫粒3%含む
 - 2 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なし しまり強 黄褐色シルト(10YR5/6)1%、径3~5mmの礫粒1%含む
 - 3 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり強 黒褐色シルト(10YR2/2)2%、径5mmの礫粒3%含む
 - 4 10YR4/4 褐色シルト 粘性弱 しまり強 黄褐色シルト(10YR5/6)10%含む
 - 5 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり強 黒褐色シルト(10YR2/3)5%、褐色シルト(10YR4/4)3%、径5mmの炭化物粒5%含む
 - 6 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性弱 しまり強 黄褐色シルト(10YR5/6)5%含む

〔7号土坑〕

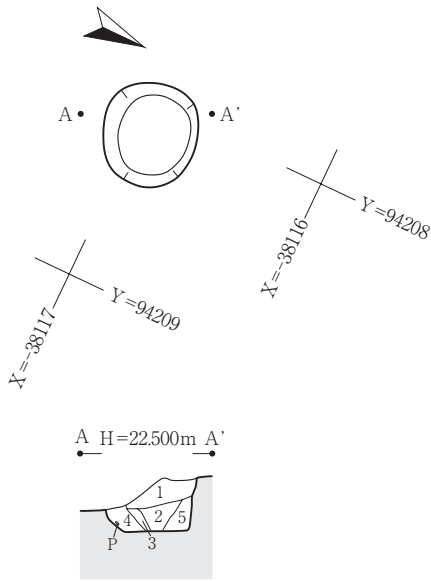


- A-A'
- 1 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性弱 しまり強 径5mmの炭化物粒1%含む
 - 2 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり中 黄褐色シルト(10YR5/6)1%、径5mmの炭化物粒1%含む
 - 3 10YR4/3 におい黄褐色シルト 粘性なし しまり中 黄褐色シルト(10YR5/6)3%、径3~5mmの炭化物粒3%含む
 - 4 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なし しまり強 黄褐色シルト(10YR5/6)1%、径3mmの炭化物粒1%含む
 - 5 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性中 しまり強 径5mmの炭化物粒1%含む
 - 6 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 粘性・しまり強 径1mmの炭化物粒1%含む
 - 7 10YR3/4 暗褐色粘土質シルト 粘性・しまり強 径3mmの炭化物粒1%含む
 - 8 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 粘性・しまり強
 - 9 2.5Y6/4 におい黄色シルト 粘性中 しまり強



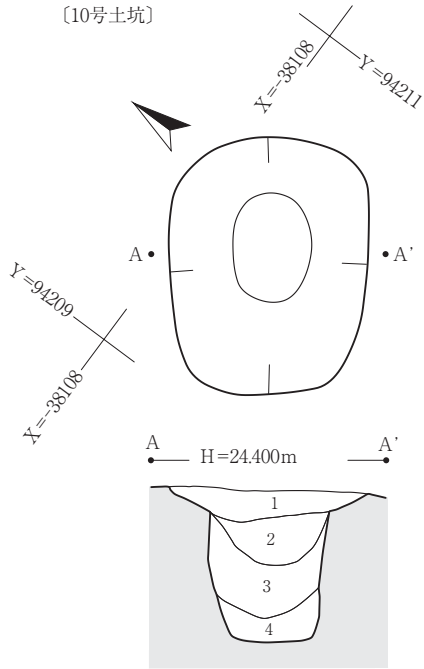
第62図 5~8号土坑

[9号土坑]



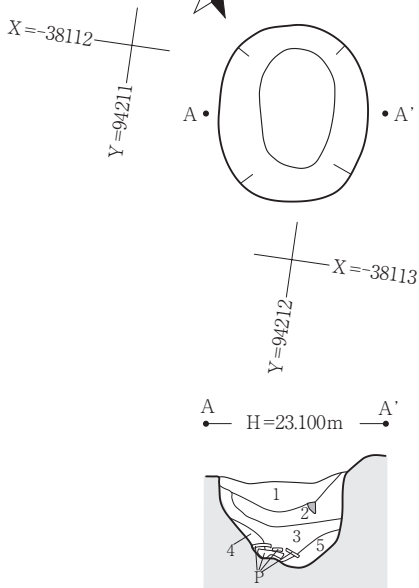
- A - A'
- 1 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性弱 しまり強
 - 2 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり強
 - 3 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 しまり強
 - 4 10YR2/3 黒褐色粘土質シルト 粘性・しまり強
 - 5 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまり強

[10号土坑]



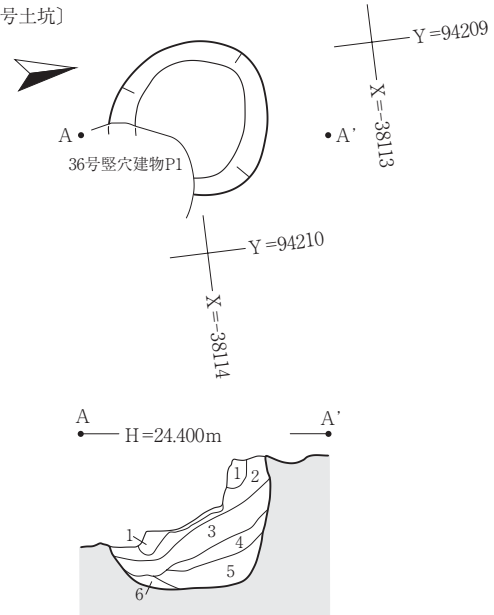
- A - A'
- 1 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり中 径2～3mmの炭化物1%含む
 - 2 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまり弱
 - 3 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 におい黄褐色シルトブロック(10YR5/4 径5～10mm) 5%、径2～3mmの炭化物1%含む
 - 4 10YR4/2 灰黄褐色シルト 粘性中 しまりなし

[11号土坑]

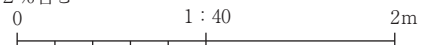


- A - A'
- 1 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 径2～3mmの炭化物2%含む
 - 2 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 径2～5mmの炭化物3%含む
 - 3 10YR4/4 褐色シルト 粘性・しまり弱 径2～5mmの炭化物、黄褐色粘土質シルトブロック(10YR5/6 径5～10mm) 2%含む
 - 4 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 径2～3mmの炭化物1%含む
 - 5 10YR4/6 褐色シルト 粘性・しまり弱

[12号土坑]



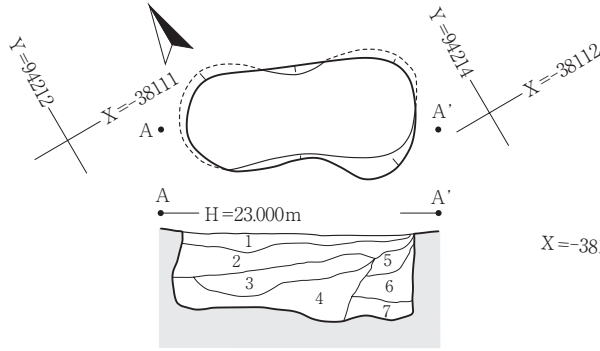
- A - A'
- 1 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 径2～5mmの炭化物2%、黄褐色粘土質シルトブロック(10YR5/6 径2～10mm) 7%含む
 - 2 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 径1～2mmの炭化物1%、径1～5mmの小礫5%含む
 - 3 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 径1～2mmの炭化物1%、径1～5mmの小礫5%含む
 - 4 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 径1～3mmの小礫5%含む
 - 5 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 におい黄褐色シルトブロック(10YR6/4 径20mm) 5%含む
 - 6 10YR5/4 におい黄褐色シルト 粘性なし しまり弱 径1～3mmの小礫2%含む



第63図 9～12号土坑

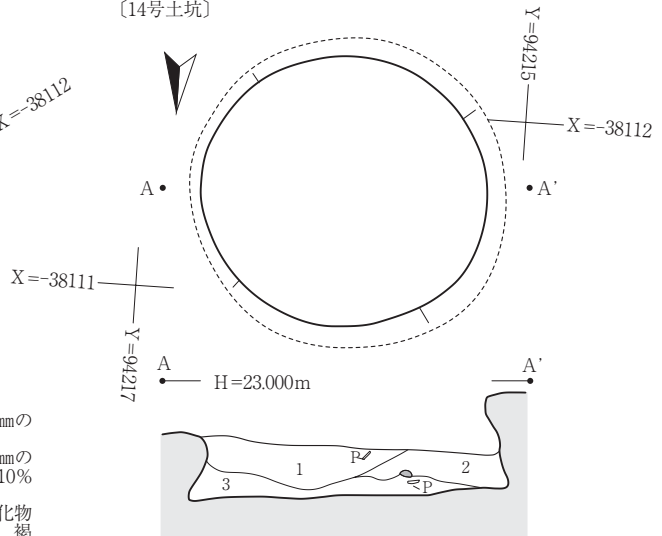
3 検出遺構と出土遺物

[13号土坑]



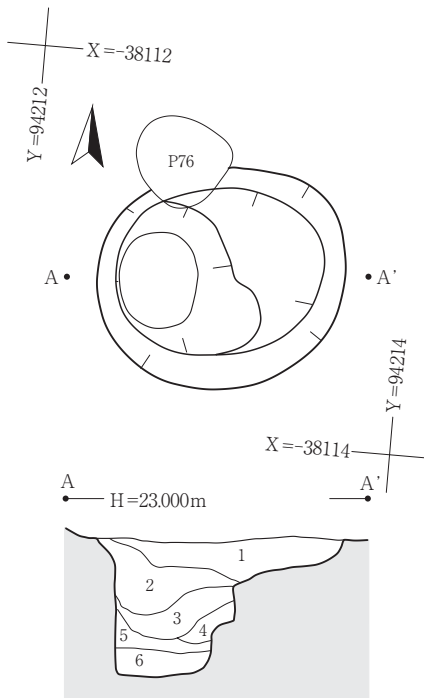
- A - A'
- 1 10YR4/3 において黄褐色シルト 粘性・しまり弱 径2~7mmの炭化物3%含む
 - 2 10YR4/3 において黄褐色シルト 粘性・しまり弱 径2~5mmの炭化物2%、褐色シルトブロック(10YR4/4 径5~50mm)10%含む
 - 3 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 径2~3mmの炭化物1%、暗褐色シルトブロック層状(7.5YR3/3)に下部10%、褐色シルトブロック(10YR4/4 径3~10mm)5%含む
 - 4 10YR4/3 において黄褐色シルト 粘性・しまり弱 径2~3mmの炭化物1%、褐色シルトブロック(10YR4/4 径5~30mm)3%含む
 - 5 10YR4/3 において黄褐色シルト 粘性・しまり弱 黒褐色シルトブロック層状(10YR3/2)下部に20%含む
 - 6 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性・しまり弱 黒褐色シルトブロック層状(10YR3/2)下部に15%含む
 - 7 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性・しまり弱

[14号土坑]



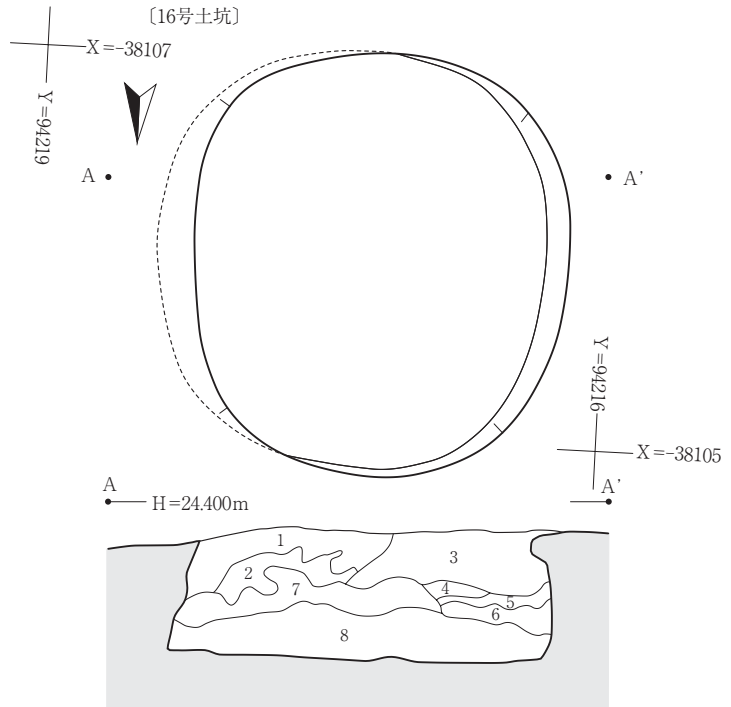
- A - A'
- 1 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性中 しまり弱 径2~5mmの炭化物2%、径1~5mmの小礫10%含む
 - 2 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり弱 径2~5mmの炭化物2%、径1~10mmの小礫15%含む
 - 3 10YR4/3 において黄褐色シルト 粘性中 しまり弱 径2~5mmの炭化物2%、径1~5mmの小礫7%含む

[15号土坑]

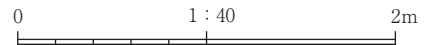


- A - A'
- 1 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 径1~5mmの炭化物5%含む
 - 2 10YR4/3 において黄褐色シルト 粘性・しまり弱 径5~20mmの炭化物7%、黄褐色粘土質シルトブロック(10YR5/6 径2~10mm)5%含む
 - 3 7.5YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 径2~30mmの炭化物10%(焼土混じり)、赤褐色シルトブロック(5YR4/8 径2~15mm ※焼土)20%含む
 - 4 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 径1~2mmの炭化物1%含む
 - 5 10YR4/4 褐色シルト 粘性・しまり弱 径2~3mmの炭化物2%、黄褐色粘土質シルトブロック(10YR5/6 径2~5mm)10%含む
 - 6 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト 粘性・しまり中

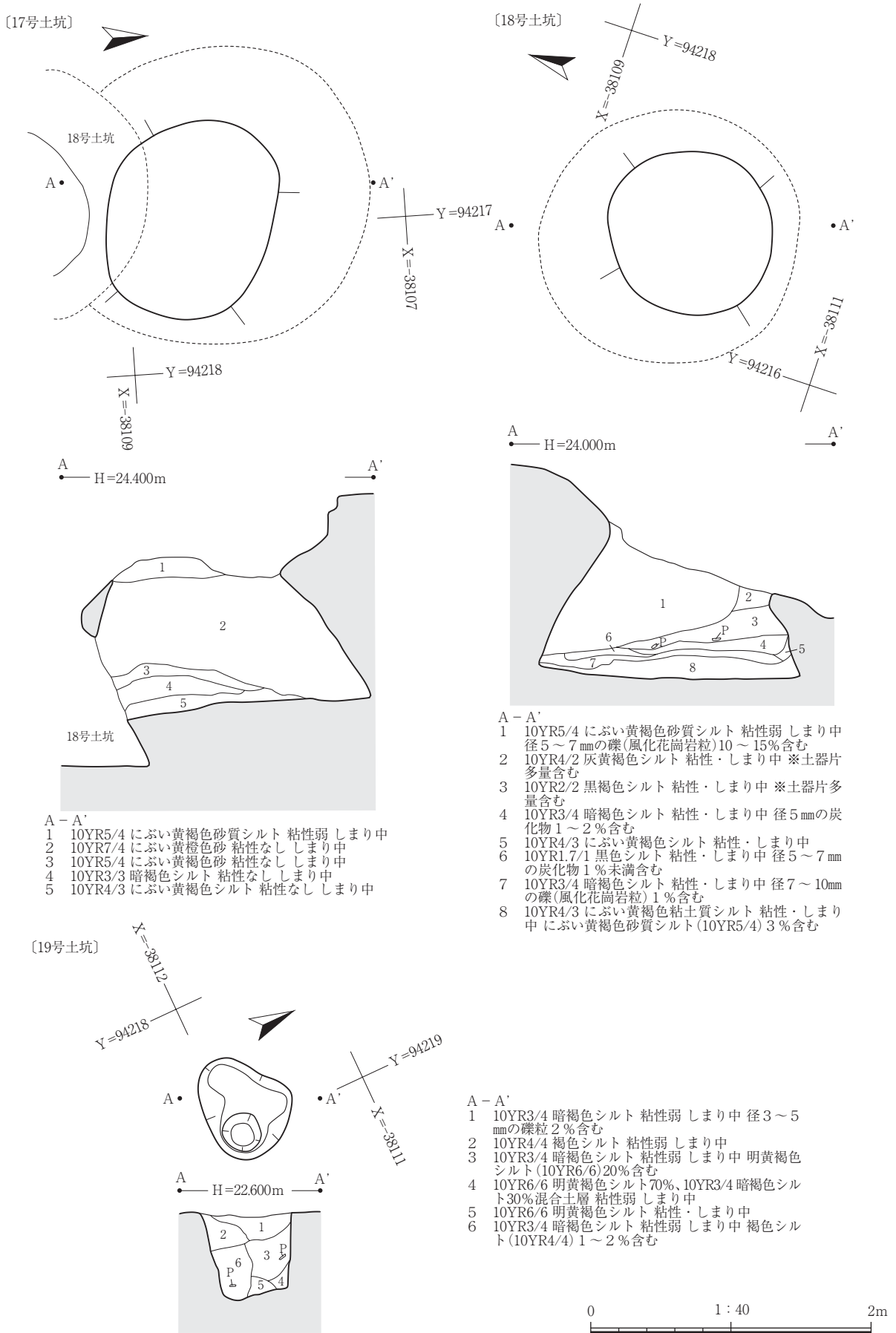
[16号土坑]



- A - A'
- 1 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 径1~10mmの風化花崗岩粒5%、黄褐色ロームブロック(10YR5/8)30%含む
 - 2 10YR7/8 黄褐色シルト 粘性・しまり弱 径1mm未満の風化花崗岩粒1%、褐色シルト(10YR4/6)15%含む
 - 3 10YR7/8 黄褐色シルト 粘性・しまり弱 径1mm未満の風化花崗岩粒10%含む
 - 4 10YR8/6 黄褐色シルト 粘性・しまり弱 径1mm未満の風化花崗岩粒25%含む
 - 5 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 径1mm未満の炭化物1%、径1mm未満の焼土1%含む
 - 6 10YR7/4 において黄褐色シルト 粘性・しまり弱 風化花崗岩粒30%含む
 - 7 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 径1mm前後の炭化物1%、径1mm未満の焼土1%未満含む
 - 8 10YR7/6 明黄褐色シルト 粘性・しまり弱 風化花崗岩粒40%含む



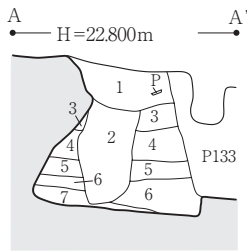
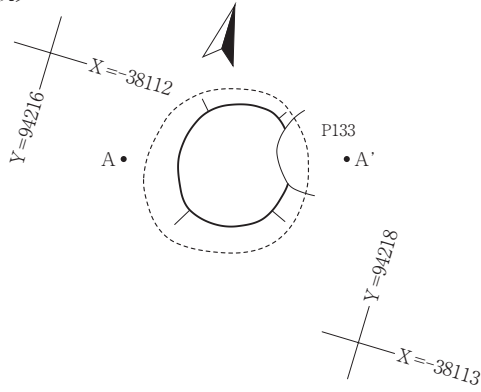
第64図 13~16号土坑



第65図 17~19号土坑

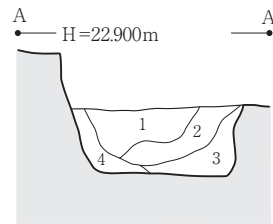
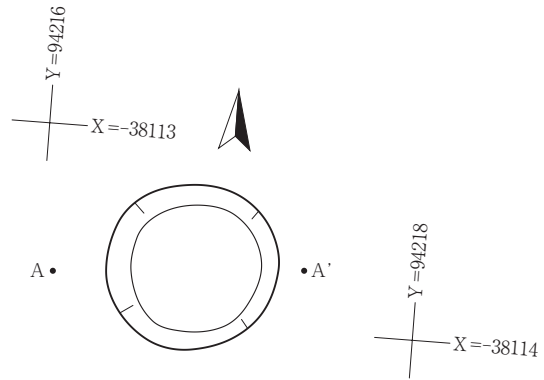
3 検出遺構と出土遺物

[20号土坑]



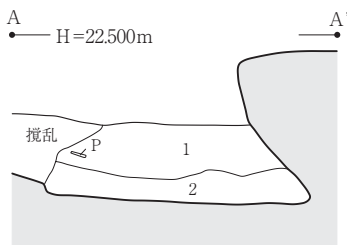
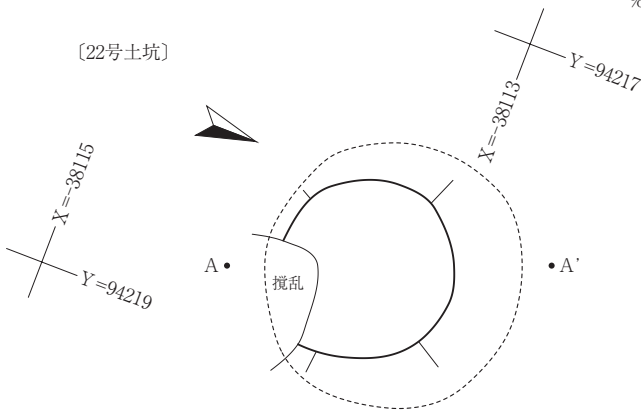
- A - A'
- 1 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり中
 - 2 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 しまり弱 灰黄褐色シルト(10YR4/2)10~15%含む
 - 3 10YR4/6 褐色シルト 粘性・しまり中 灰黄褐色シルト(10YR4/2)10%含む
 - 4 10YR4/6 褐色シルト 粘性・しまり中
 - 5 10YR5/6 黄褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中
 - 6 10YR4/6 褐色シルト 粘性弱 しまり中
 - 7 10YR2/2 黒褐色砂質シルト 粘性・しまり中

[21号土坑]



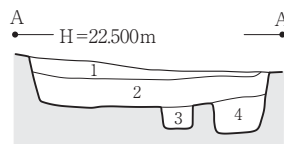
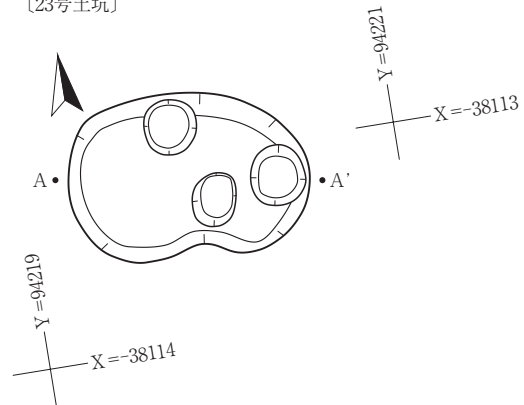
- A - A'
- 1 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 径2~5mmの炭化物5%、褐色シルトブロック(10YR4/4 径2~30mm)5%含む
 - 2 10YR4/3 におい黄褐色シルト 粘性・しまり弱 径2~3mmの炭化物3%、褐色シルトブロック(10YR4/4 径2~10mm)2%含む
 - 3 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり弱 径2~3mmの炭化物2%、褐色シルトブロック(10YR4/4 径2~10mm)10%含む
 - 4 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 径2~3mmの炭化物2%、褐色シルトブロック(10YR4/4 径2~7mm)2%含む

[22号土坑]

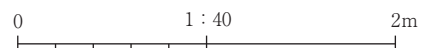


- A - A'
- 1 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中 明黄褐色シルト粒(10YR6/6、径5~7mm)1~2%含む 土器片多く含む
 - 2 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり中

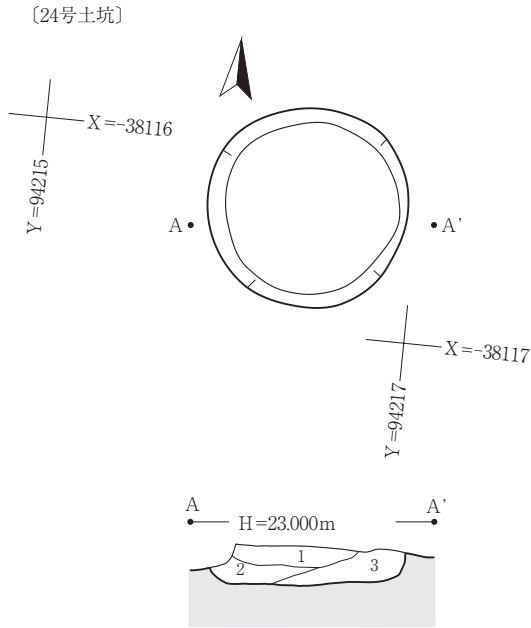
[23号土坑]



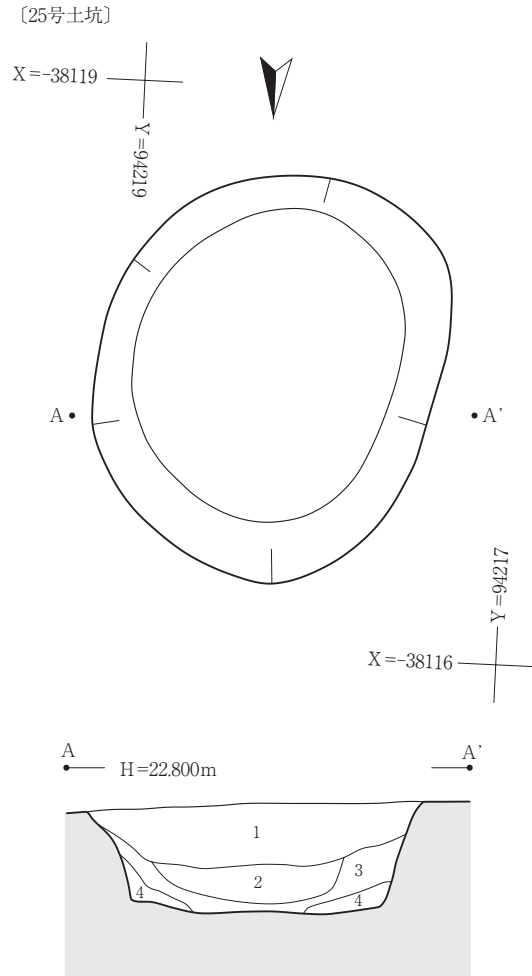
- A - A'
- 1 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なし しまり中 径1~2mmの明黄褐色シルト粒(10YR6/6)1%含む
 - 2 10YR4/6 褐色シルト 粘性弱 しまり中 暗褐色シルト(10YR3/4)10~15%含む
 - 3 10YR3/4 暗褐色シルト50%、10YR4/6 褐色シルト50%の混合土層 粘性弱 しまり中
 - 4 10YR4/4 褐色シルト 粘性弱 しまり中 径15~20mmの明赤褐色焼土(5YR5/8)1%含む



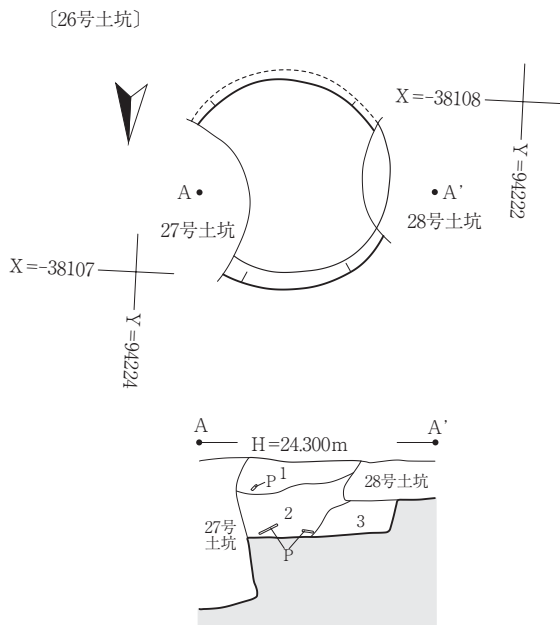
第66図 20~23号土坑



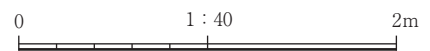
- A - A'
- 1 10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまり中 径2~3mm の礫5%、明赤褐色焼土(5YR5/6)3%含む
 - 2 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中
 - 3 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 黒色シルト(10YR2/1 径10mm)1~2%含む



- A - A'
- 1 10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり弱
 - 2 10YR2/2 黒褐色粘土質シルト 粘性・しまり弱 暗褐色粘土質シルトブロック(10YR3/3 径20~50mm)5%含む
 - 3 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト 粘性・しまり弱
 - 4 10YR2/2 黒褐色粘土質シルト 粘性・しまり弱 黄褐色粘土質シルトブロック(10YR5/6 径20~50mm)3%含む



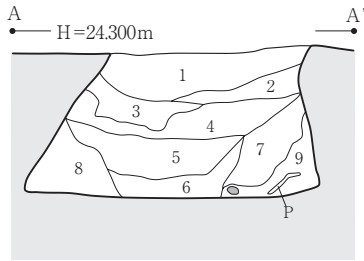
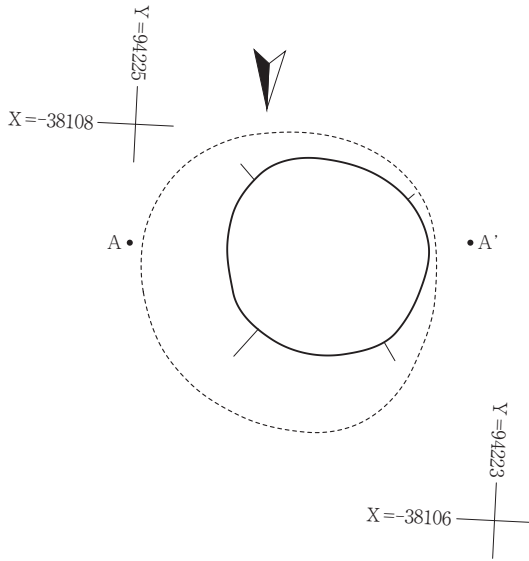
- A - A'
- 1 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 径5mm前後の炭化物3%、径3cmの土器片1%、風化花崗岩粒1%含む
 - 2 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり中 土器片5%、径1mm前後の風化花崗岩粒3%、赤褐色焼土(5YR4/8)5%、径5mm前後の炭化物粒含む
 - 3 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまり中 径1mm前後の風化花崗岩粒1%、径1cm前後の炭化物1%含む



第67図 24~26号土坑

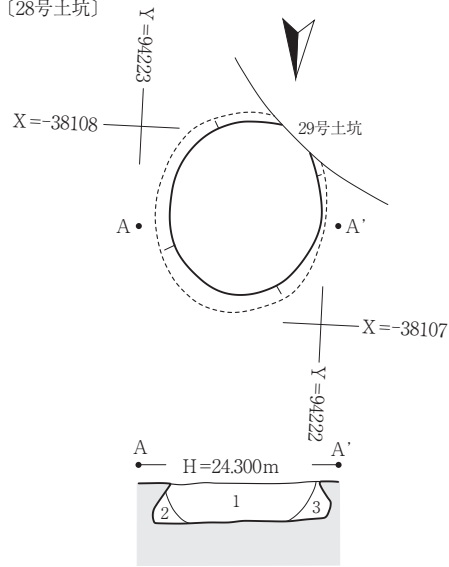
3 検出遺構と出土遺物

[27号土坑]



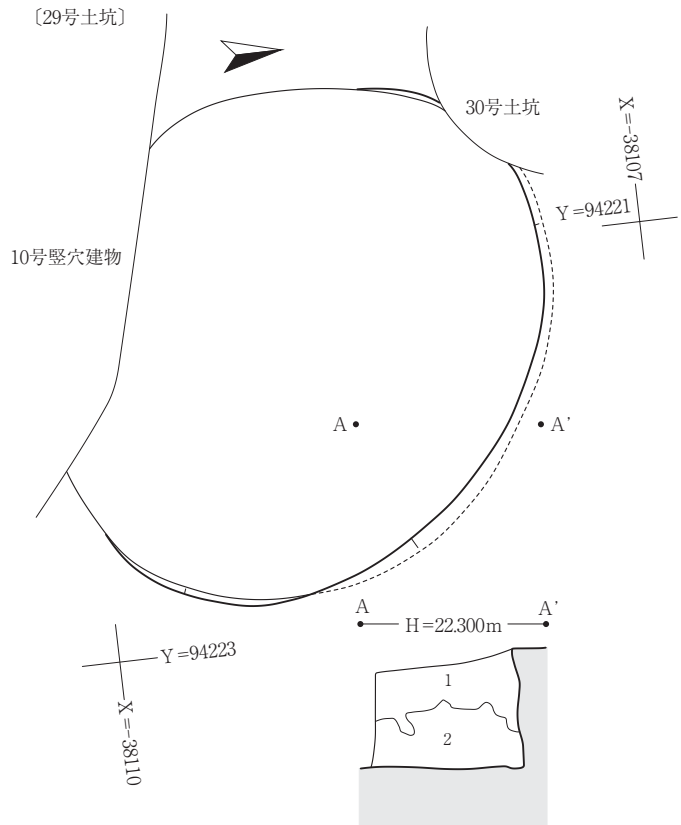
- A - A'
- 1 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 赤褐色焼土(5YR4/8)1%未満、径5mm前後の風化花崗岩粒5%、黄褐色ロームブロック(10YR5/8)5%含む
 - 2 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 径5mm前後の炭化物3%、径3cmの土器片3%、径5mm前後の風化花崗岩粒1%含む
 - 3 10YR4/6 褐色シルト 粘性・しまり中 径1mm前後の風化花崗岩粒1%含む
 - 4 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 径1mmの風化花崗岩粒2%、径1mm前後の炭化物2%、黄褐色シルトブロック(10YR5/8 径1cm前後)15%含む
 - 5 10YR4/6 褐色シルト 粘性・しまり中 暗褐色シルト(10YR3/4)25%、径1mm前後の風化花崗岩粒3%含む
 - 6 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまり中 径5mm前後の炭化物1%、径1mm前後の風化花崗岩粒1%含む
 - 7 10YR5/8 黄褐色シルト 粘性・しまり中 黒褐色シルト(10YR2/3)40%未満含む
 - 8 10YR4/6 褐色シルト 粘性・しまり中 径1mm前後の風化花崗岩粒1%未満含む
 - 9 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり中 土器片10%、丸石2%、径1mm前後の風化花崗岩粒3%、赤褐色焼土(5YR4/8)5%、径5mm前後の炭化物粒3%、黄褐色ロームブロック(10YR5/8)5%含む

[28号土坑]

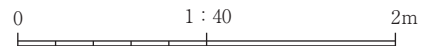


- A - A'
- 1 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまり中 径1mm前後の風化花崗岩粒1%、土器3%、径1cm前後の炭化物1%含む
 - 2 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり中 土器片10%、丸石2%、径1mm前後の風化花崗岩粒3%、赤褐色焼土(5YR4/8)5%、径5mm前後の炭化物粒3%、黄褐色ロームブロック(10YR5/8)5%含む
 - 3 10YR4/6 褐色シルト 粘性・しまり弱 径1mm前後の風化花崗岩粒1%含む

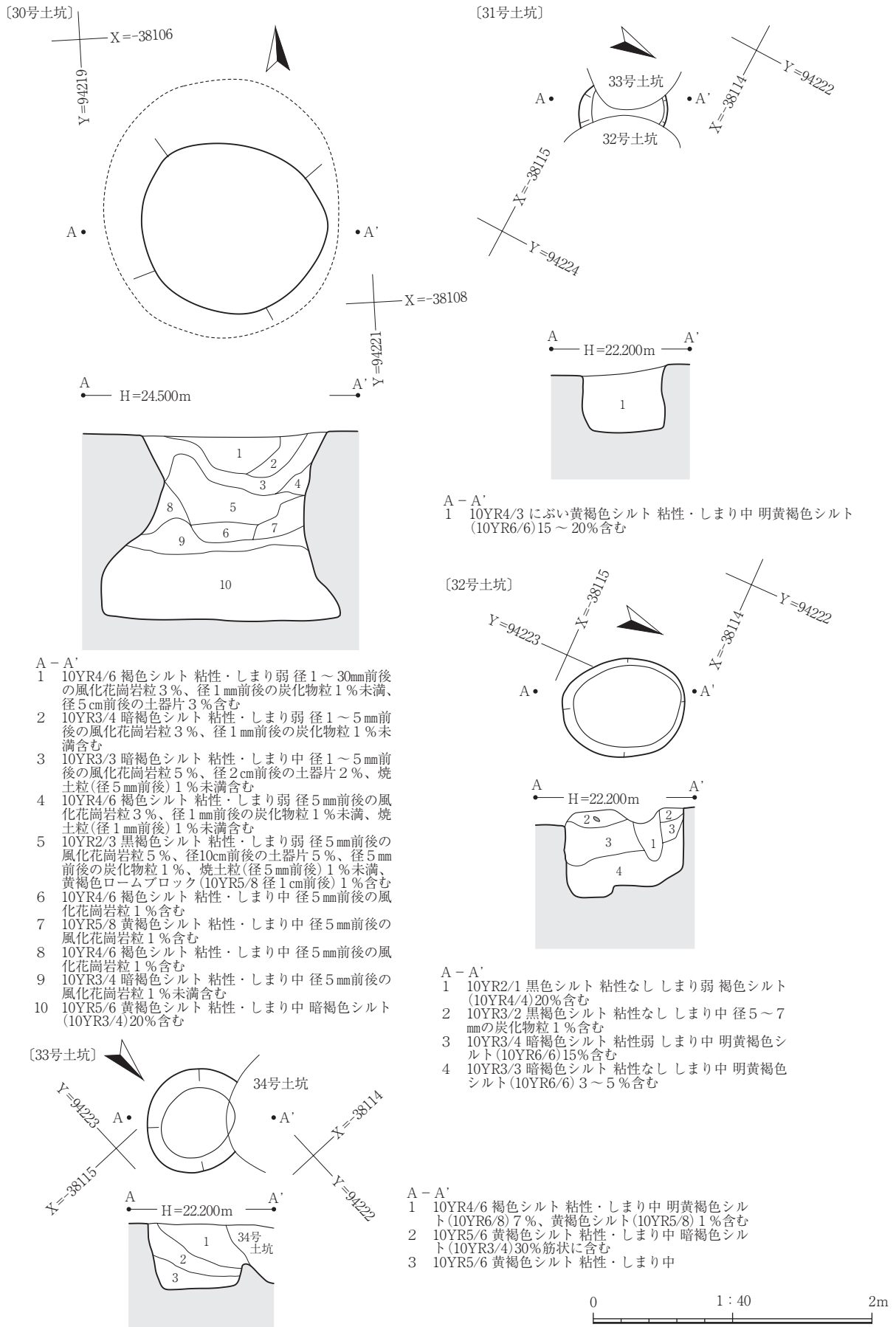
[29号土坑]



- A - A'
- 1 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 土器片2%、径1cm前後の炭化物2%、径5mm前後の風化花崗岩粒5%、焼土粒(径3mm前後)1%未満混入
 - 2 10YR4/6 褐色シルト 粘性・しまり中 径3cm前後の風化花崗岩粒5%、径5mm前後の炭化物1%、焼土粒(径1mm前後)1%未満混入



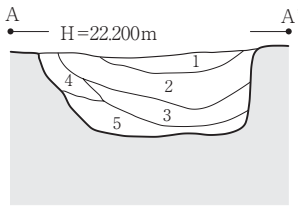
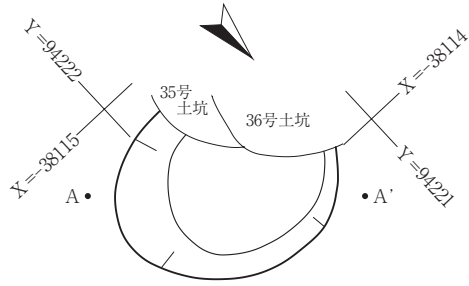
第68図 27～29号土坑



第69図 30~33号土坑

3 検出遺構と出土遺物

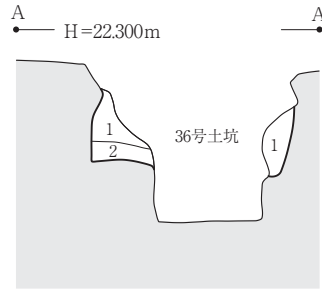
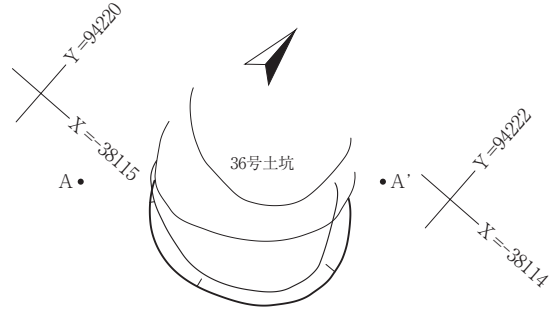
[34号土坑]



A - A'

- 1 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまり中 褐色シルト (10YR4/4) 5%含む
- 2 10YR4/6 褐色シルト 粘性・しまり中 黄褐色シルト (10YR5/8) 15%含む
- 3 10YR4/4 褐色シルト 粘性・しまり中 黄褐色シルト (10YR5/8) 7%含む
- 4 10YR4/6 褐色シルト 粘性・しまり中
- 5 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性・しまり中

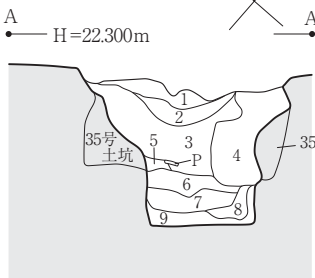
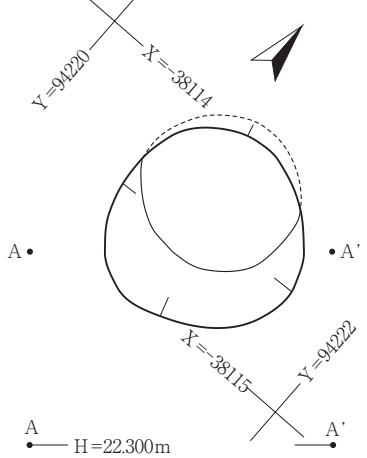
[35号土坑]



A - A'

- 1 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中
- 2 10YR4/2 灰黄褐色シルト 粘性・しまり中

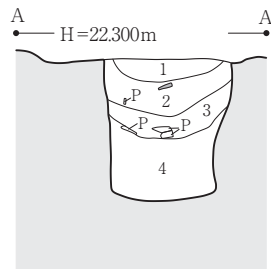
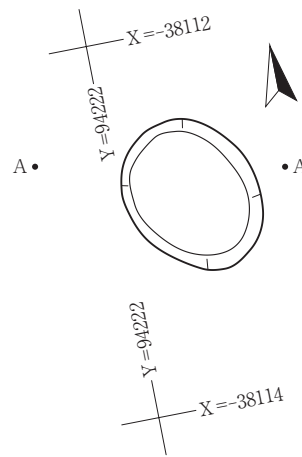
[36号土坑]



A - A'

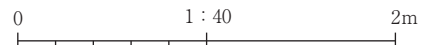
- 1 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中 炭化物 50%含む
- 2 5 YR5/6 明赤褐色焼土 粘性弱 しまり中 黒褐色シルト (10YR2/2) 20%含む
- 3 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中
- 4 10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中
- 5 10YR4/2 灰黄褐色シルト 粘性・しまり中
- 6 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中
- 7 5 YR3/6 暗赤褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中
- 8 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり中
- 9 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性・しまり中

[37号土坑]

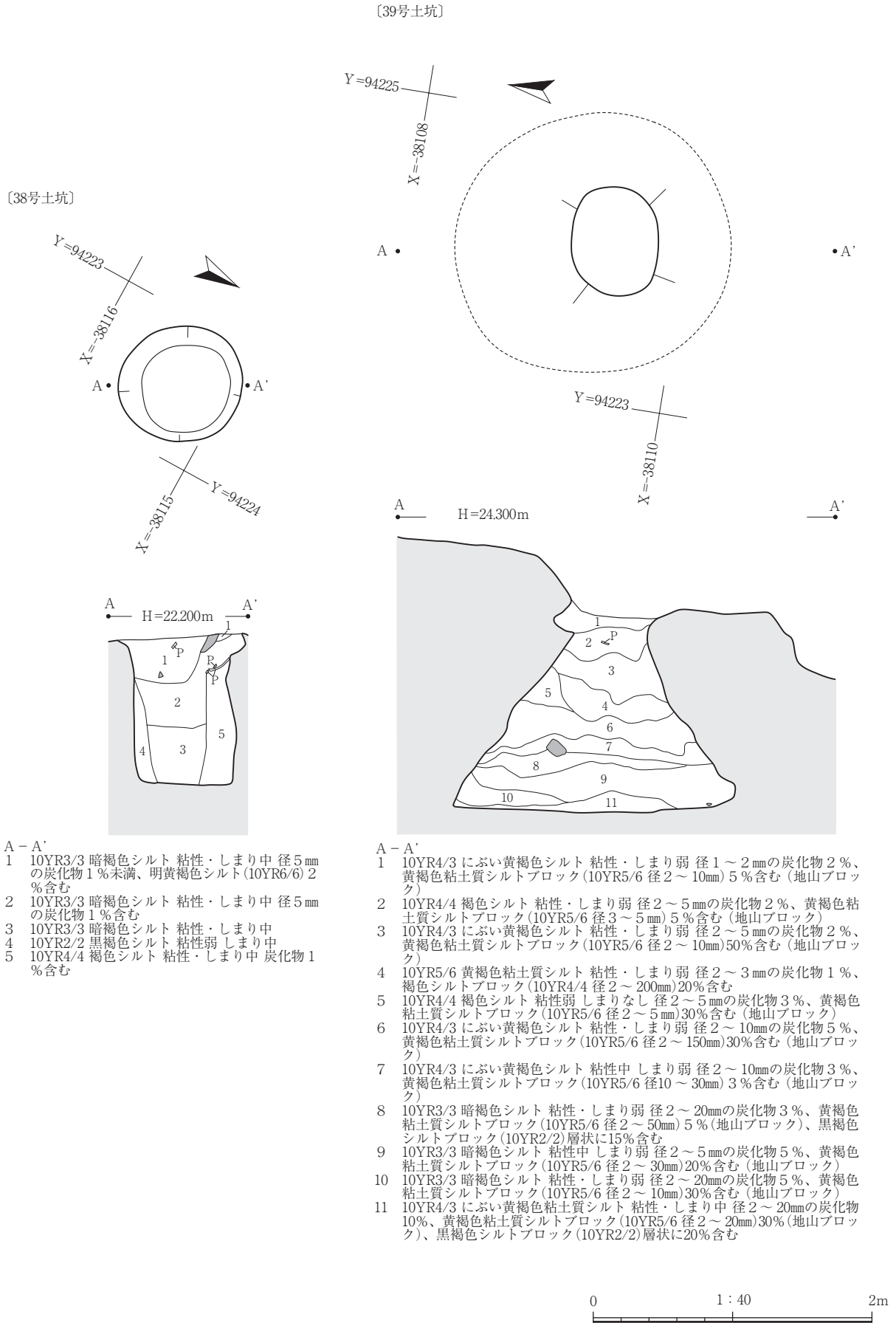


A - A'

- 1 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中 径3~5mmの炭化物1%、明黄褐色シルト(10YR6/6)3%含む
- 2 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中 径10~20mmの炭化物1%、明黄褐色シルト(10YR6/6)5%含む
- 3 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中 径5~7mmの炭化物3%含む
- 4 10YR4/2 灰黄褐色シルト 粘性・しまり中 明黄褐色シルト(10YR6/6)5%含む

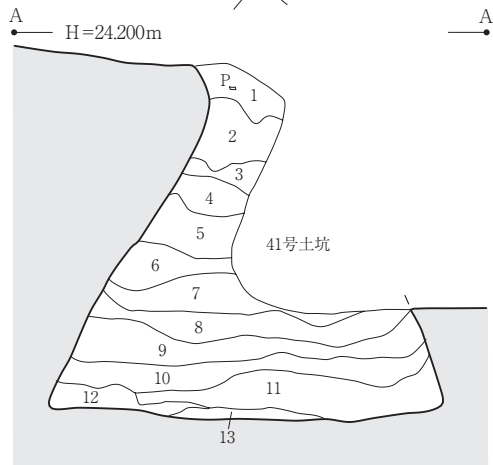
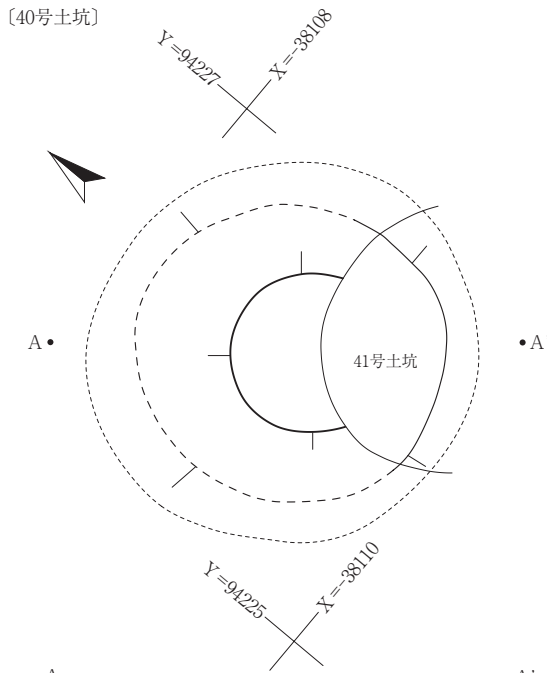


第70図 34~37号土坑

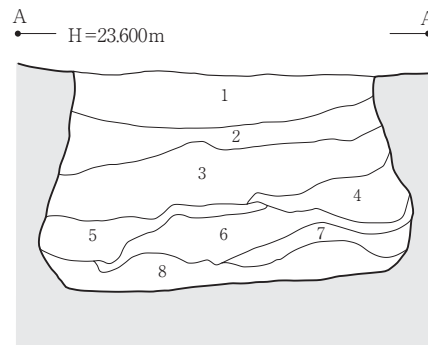
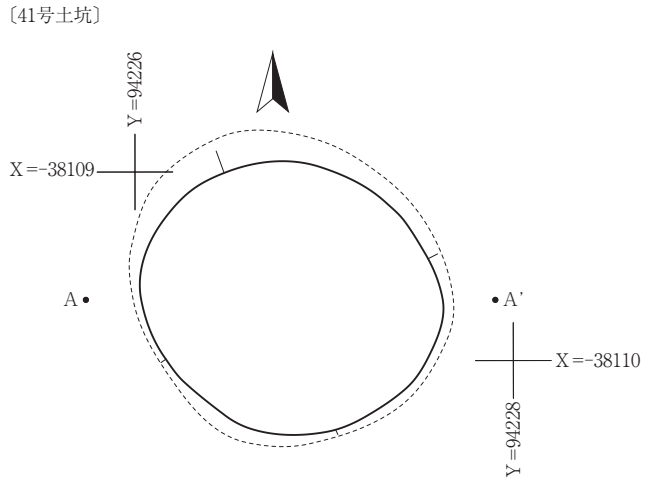


第71図 38・39号土坑

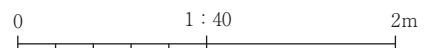
3 検出遺構と出土遺物



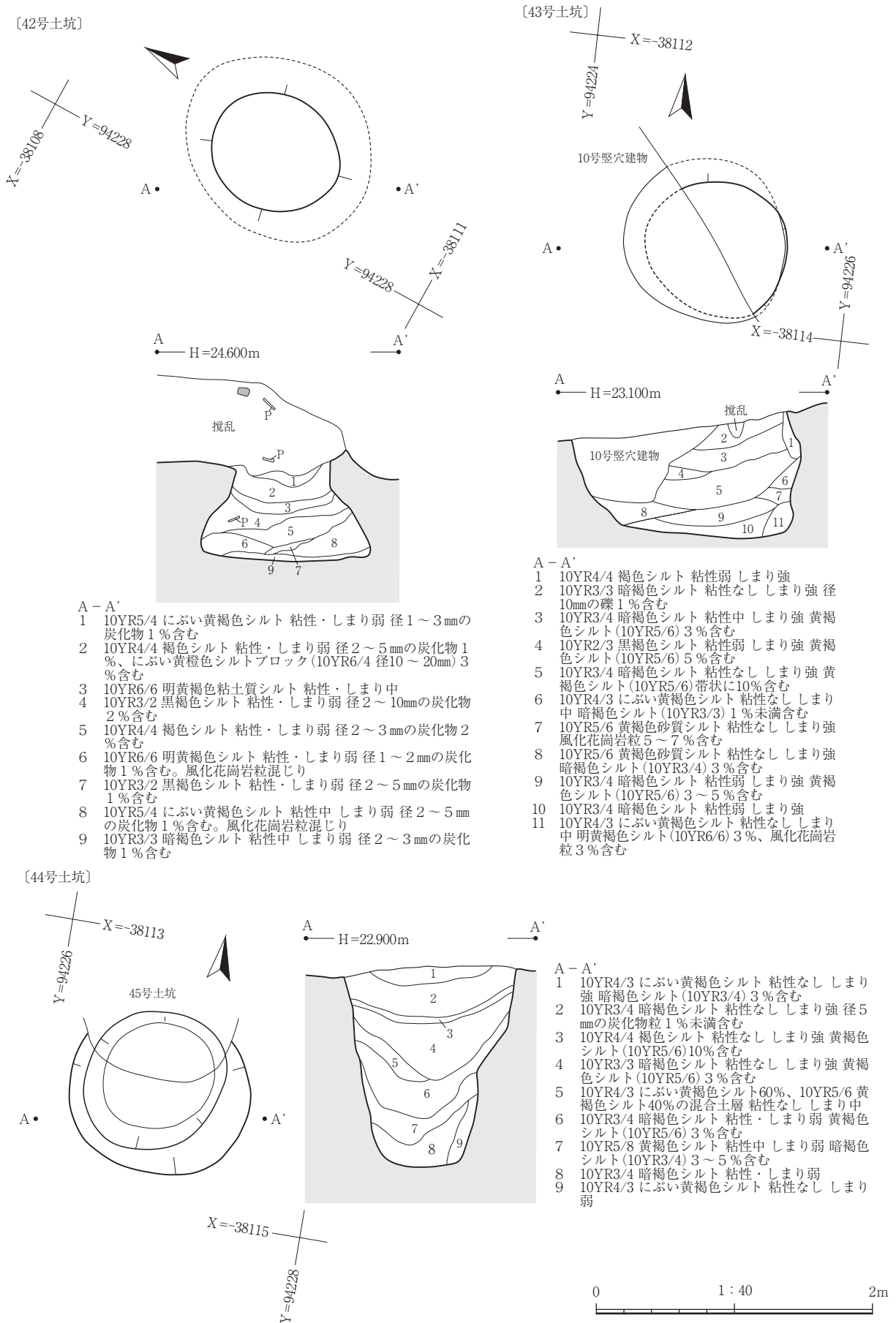
- A - A'
- 1 10YR5/4 黄褐色シルト 粘性・しまり弱
 - 2 10YR4/3 黄褐色シルト 粘性・しまり弱 明黄褐色シルトブロック(10YR6/8 径10~50mm)2%含む
 - 3 10YR4/4 褐色シルト 粘性・しまり弱 明黄褐色シルトブロック(10YR6/8 径10~30mm)10%含む
 - 4 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 径2~3mmの炭化物1%含む
 - 5 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 径2~3mmの炭化物1%、黄褐色シルトブロック(10YR5/4 厚さ3~4cm)15%上部に層状に含む
 - 6 10YR5/4 黄褐色シルト 粘性・しまり弱 径2~3mmの炭化物1%、暗褐色シルトブロック(10YR3/3)層状に20%含む
 - 7 10YR4/4 褐色シルト 粘性・しまり弱 径2~10mmの炭化物1%、明黄褐色シルトブロック(10YR6/8 径5~30mm)10%含む
 - 8 10YR4/3 黄褐色シルト 粘性・しまり弱 径2~3mmの炭化物1%、黄褐色粘土質シルトブロック(10YR5/6 径5~10mm)5%含む
 - 9 10YR4/4 褐色シルト 粘性・しまり弱 径2~5mmの炭化物2%、黄褐色シルトブロック(10YR5/4 径10~50mm)30%、黄褐色粘土質シルトブロック(10YR5/6 径10~30mm)20%含む
 - 10 10YR5/4 黄褐色粘土質シルト 粘性・しまり中 径2~5mmの炭化物2%、黄褐色粘土質シルトブロック(10YR5/6 径10~20mm)20%含む
 - 11 10YR4/4 褐色粘土質シルト 粘性中 しまり弱 径2~5mmの炭化物2%、黄褐色粘土質シルトブロック(10YR5/6 径10~50mm)10%含む
 - 12 10YR5/6 黄褐色粘土質シルト 粘性中 しまり弱 径2~3mmの炭化物1%含む
 - 13 10YR5/4 黄褐色シルト 粘性・しまり弱



- A - A'
- 1 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 径3~5mmの炭化物2%、暗褐色シルトブロック(10YR3/4 径10~30mm)20%含む
 - 2 10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり弱 径1~2mmの炭化物1%、黒褐色シルトブロック(10YR3/2 径10~40mm)3%含む
 - 3 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 径3~5mmの炭化物2%、暗褐色シルトブロック(10YR3/4 径40~100mm)25%、黄褐色シルトブロック(10YR5/6 径40~100mm)20%含む
 - 4 10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり弱 暗褐色シルトブロック(10YR3/4 径3~5mm)2%含む
 - 5 10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり弱 径2~3mmの炭化物1%、暗褐色シルトブロック(10YR3/4 径5~30mm)5%含む
 - 6 10YR4/3 黄褐色粘土質シルト 粘性・しまり中 径2~3mmの炭化物2%、暗褐色シルトブロック(10YR3/4 径2~30mm)10%、黒褐色シルトブロック(10YR3/2 径1~3mm)5%含む
 - 7 10YR4/4 褐色シルト 粘性・しまり中 暗褐色シルトブロック(10YR3/4 径5~20mm)30%含む
 - 8 10YR2/1 黒色粘土質シルト 粘性中 しまり弱 径1~2mmの炭化物1%、暗褐色シルトブロック(10YR3/4 径5~20mm)20%、黒褐色シルトブロック(10YR3/2 径10~30mm)10%含む



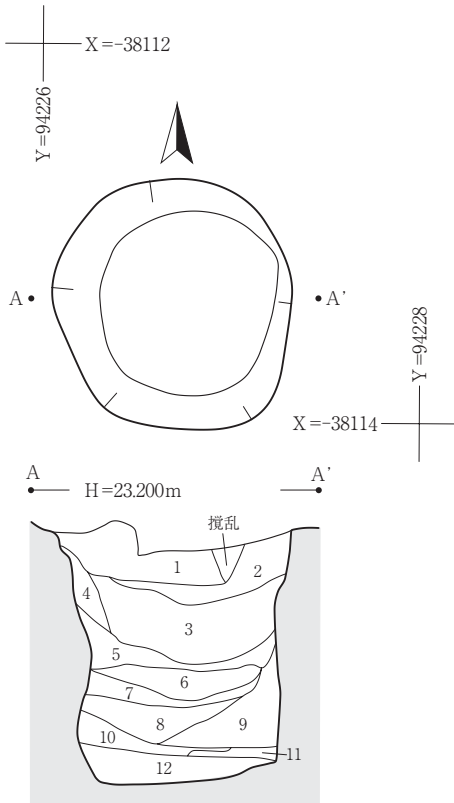
第72図 40・41号土坑



第73図 42~44号土坑

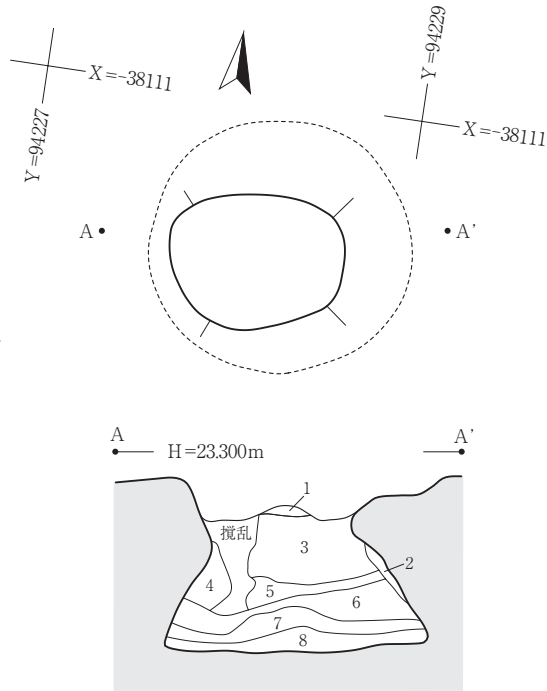
3 検出遺構と出土遺物

[45号土坑]



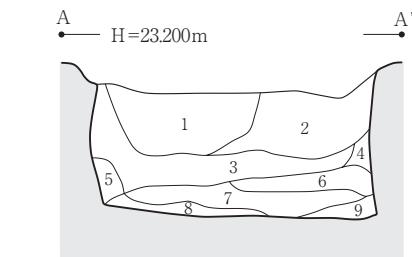
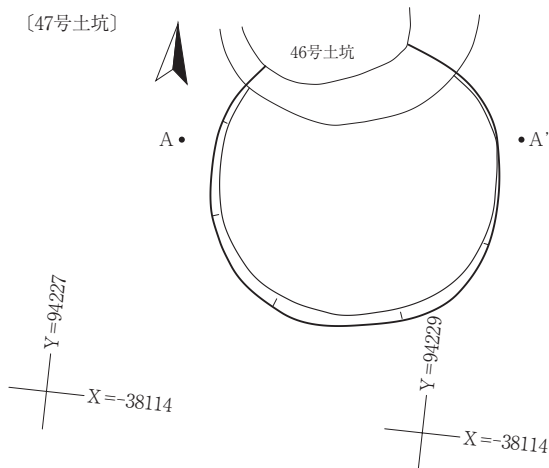
- A - A'
- 1 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なししまり強
 - 2 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中 褐色シルト(10YR4/6)10%含む
 - 3 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なししまり中 黄褐色シルト(10YR5/6)10%含む
 - 4 10YR4/6 褐色シルト 粘性弱 しまり中 黄褐色シルト(10YR5/6)5%含む
 - 5 10YR5/6 黄褐色シルト60%、10YR2/3 黒褐色シルト40%の混合土層 粘性弱 しまり強 径5mmの礫粒1%含む
 - 6 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 黄褐色シルト(10YR5/6)3%含む
 - 7 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり強 黄褐色シルト(10YR5/6)10%含む
 - 8 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 黄褐色シルト(10YR5/6)3~5%含む
 - 9 10YR6/6 明黄褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中 褐色シルト(10YR4/6)5~7%、暗褐色シルト(10YR3/4)5%含む
 - 10 10YR4/4 褐色シルト50%、10YR2/3 黒褐色シルト50%の混合土層 粘性弱 しまり中
 - 11 10YR8/6 黄橙色砂 粘性なししまり強 径5mmの礫粒3%含む
 - 12 10YR5/8 黄褐色シルト 粘性中 しまり強

[46号土坑]



- A - A'
- 1 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性なししまり強
 - 2 10YR4/4 褐色シルト50%、10YR6/8 明黄褐色シルト50%の混合土層 粘性なししまり弱
 - 3 10YR4/4 褐色シルト 粘性なししまり中 径2mmの炭化物粒1%未満、径3mmの礫粒3~5%含む
 - 4 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なししまり中 黄褐色シルト(10YR5/6)3%、径2mmの炭化物1%未満含む
 - 5 10YR4/4 褐色シルト 粘性・しまり弱 径2mmの炭化物1%未満含む
 - 6 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 しまり弱 明黄褐色シルト(10YR6/6)1%、径2mmの炭化物1%未満含む
 - 7 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 黄褐色シルト(10YR5/6)1%、径1~2mmの炭化物1%含む
 - 8 10YR4/4 褐色シルト 粘性弱 しまり中

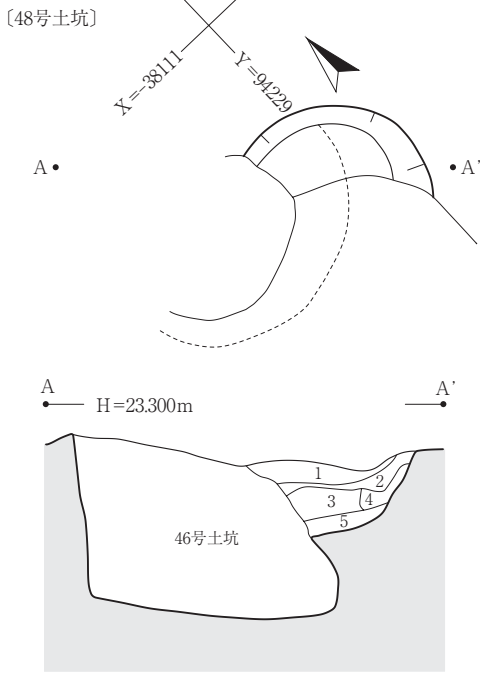
[47号土坑]



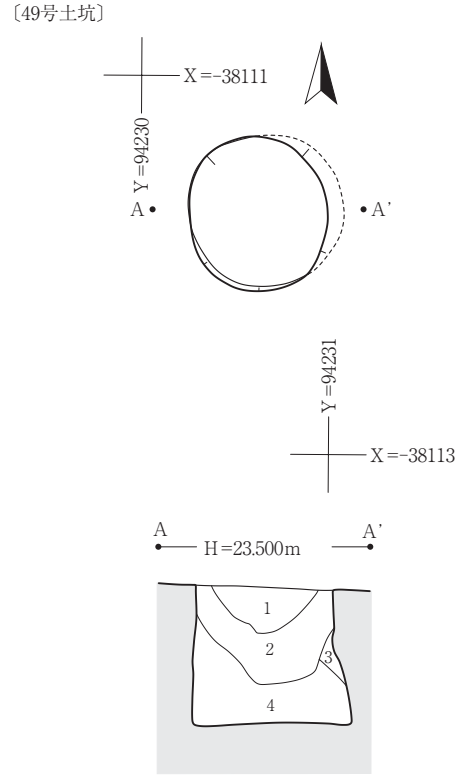
- A - A'
- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性なししまり強
 - 2 10YR4/6 褐色シルト 粘性なししまり強
 - 3 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なししまり強 明黄褐色砂質シルト(10YR6/6)10%含む
 - 4 2.5Y6/6 明黄褐色砂質シルト 粘性なししまり強
 - 5 10YR6/6 明黄褐色砂質シルト 粘性なししまり強
 - 6 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中
 - 7 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中
 - 8 10YR4/6 褐色シルト 粘性なししまり強 暗褐色シルト(10YR3/4)3%含む
 - 9 10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性なししまり中

0 1:40 2m

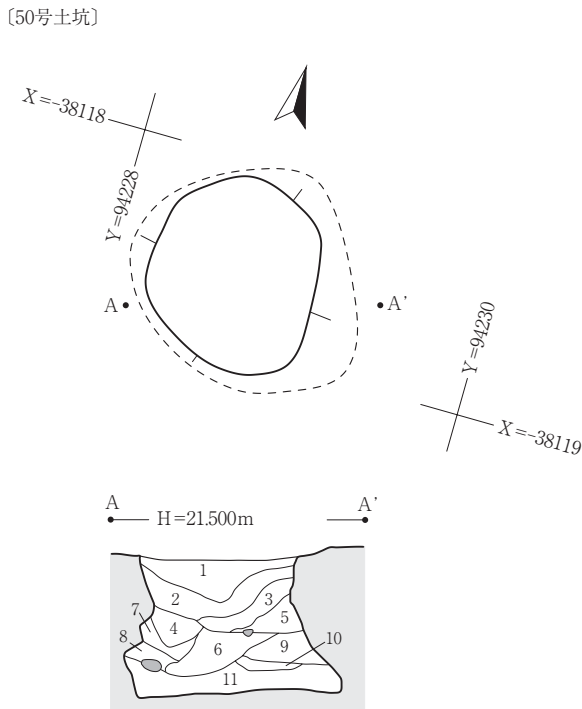
第74図 45~47号土坑



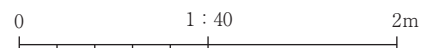
- A - A'
- 1 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なししまり強 明黄褐色シルト(10YR6/6) 3%、褐色シルト(10YR4/6) 5%含む
 - 2 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性弱しまり強 褐色シルト(10YR4/4) 5~7%含む
 - 3 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なししまり強 径1mmの礫1%含む
 - 4 10YR6/6 明黄褐色砂質シルト40%、10YR4/6 褐色シルト30%、10YR3/4 暗褐色シルト30%の混合土層 粘性なししまり強
 - 5 10YR4/6 褐色シルト 粘性なししまり強



- A - A'
- 1 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なししまり強 褐色シルト(10YR4/6) 3%含む
 - 2 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性弱しまり強
 - 3 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性なししまり強
 - 4 10YR4/6 褐色シルト 粘性なししまり中



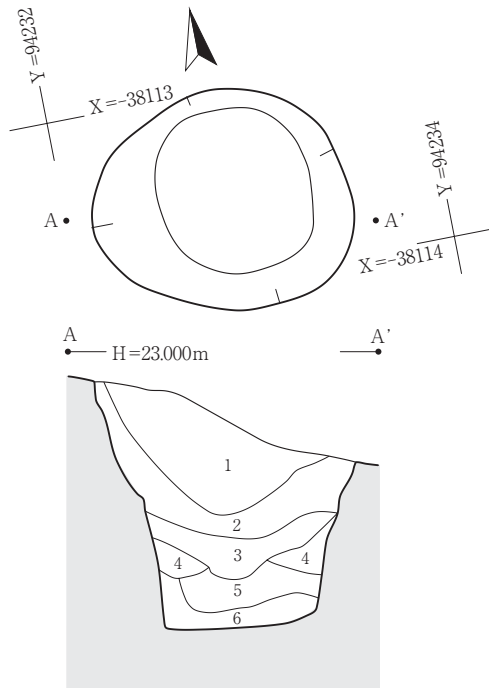
- A - A'
- 1 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 径2~7mmの炭化物5%、赤褐色焼土粒(5YR4/6 径2mm) 1%、径2~5mm大の褐色シルトブロック(10YR4/6) 10%含む
 - 2 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中しまり弱 径5mmの炭化物1%、赤褐色焼土粒(5YR4/6 径2mm)塊状に10%偏在、明黄褐色シルトブロック(10YR6/6) 10%含む
 - 3 10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性強しまり弱 径2mmの炭化物1%、径10~40mm大の暗褐色シルト(10YR3/4) 40%含む
 - 4 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性強しまりなし 径2mmの炭化物1%未満、明黄褐色シルト(10YR6/8) 5%が層上部に偏在
 - 5 10YR6/8 明黄褐色シルト 粘性・しまり強 径2mmの炭化物1%未満、径30mm大の暗褐色シルト粒(10YR3/4) 10%含む
 - 6 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性強しまり弱 径2mmの炭化物1%未満、径2mmの焼土粒1%、径5~10mm大の明黄褐色シルト(10YR6/8) 5%含む
 - 7 10YR5/8 黄褐色シルト 粘性強しまり中 径2mmの炭化物1%未満含む
 - 8 10YR7/2 におい黄橙色細砂 粘性なししまり弱 径2mmの炭化物1%未満、径30mm大の礫20%含む
 - 9 10YR6/8 明黄褐色シルト 粘性・しまり強 径5~20mmの暗褐色シルトブロック(10YR3/4) 5%含む
 - 10 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性強しまりなし 径2mmの炭化物1%未満、径20~40mm大のにおい黄橙色細砂(10YR7/2) 20%含む
 - 11 10YR6/2 灰黄褐色細砂 粘性なししまり中 径5~20mmの明黄褐色シルトブロック(10YR6/8) 20%層上部に偏在



第75図 48~50号土坑

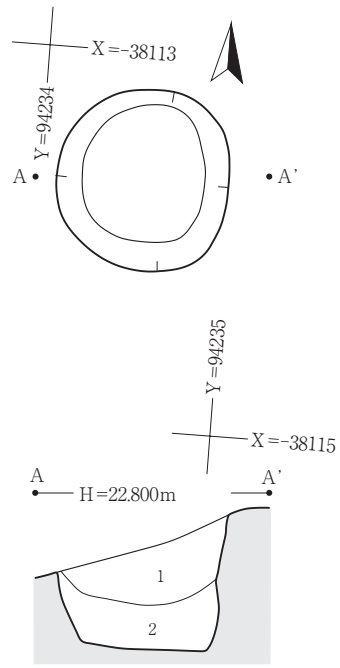
3 検出遺構と出土遺物

[51号土坑]



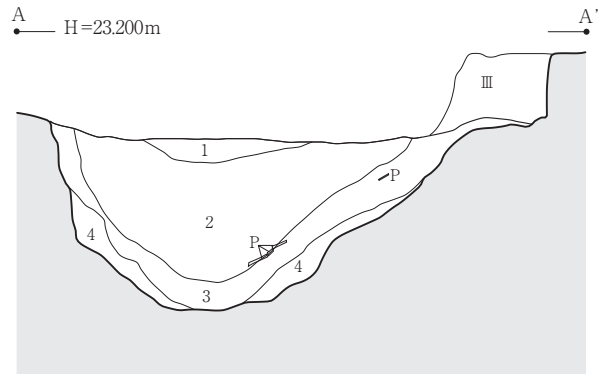
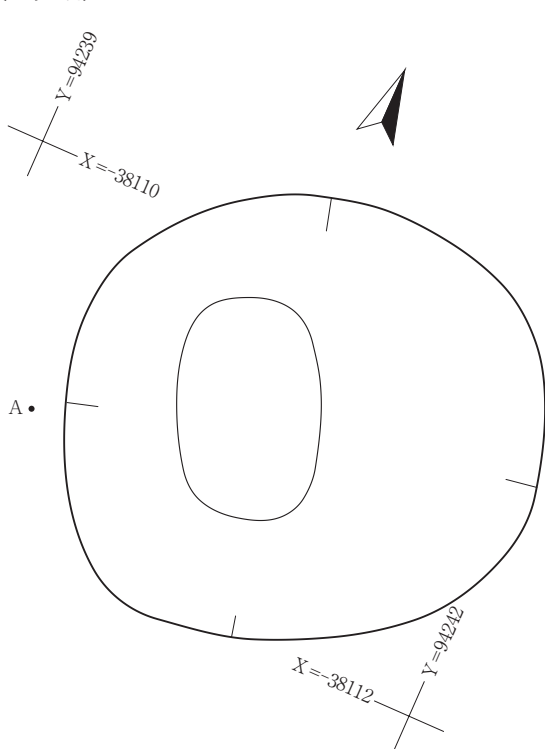
- A - A'
- 1 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なししまり強 黄褐色シルト(10YR5/6) 5%含む
 - 2 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なししまり強 褐色シルト(10YR4/6) 3%含む
 - 3 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なししまり強 褐色シルト(10YR4/6) 5%、黄褐色シルト(10YR5/6) 3%含む
 - 4 10YR4/6 褐色シルト50%、10YR3/4 暗褐色シルト50%の混合土層 粘性弱 しまり中
 - 5 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 明黄褐色砂質シルト(10YR6/8) 1%含む
 - 6 10YR5/6 黄褐色砂質シルト 粘性なししまり弱

[52号土坑]

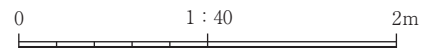


- A - A'
- 1 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なししまり強
 - 2 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なししまり強

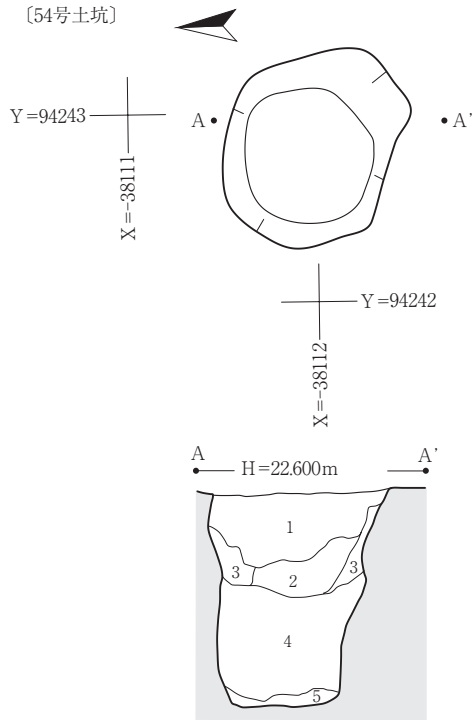
[53号土坑]



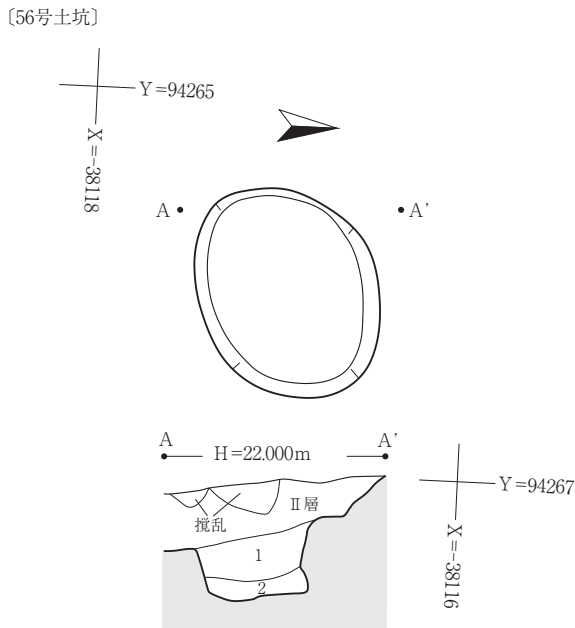
- A - A'
- 1 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 径2~4mmの炭化物2%含む
 - 2 10YR4/3 におい黄褐色シルト 粘性・しまり弱 径2~4mmの炭化物3%含む
 - 3 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 径2~3mmの炭化物1%含む
 - 4 10YR4/6 褐色粘土質シルト 粘性・しまり弱 径2~3mmの炭化物1%含む



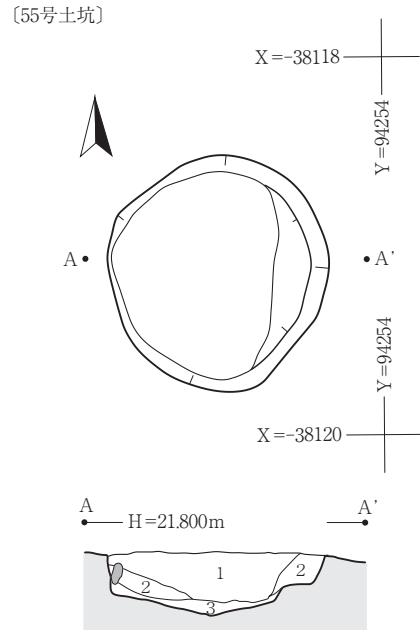
第76図 51~53号土坑



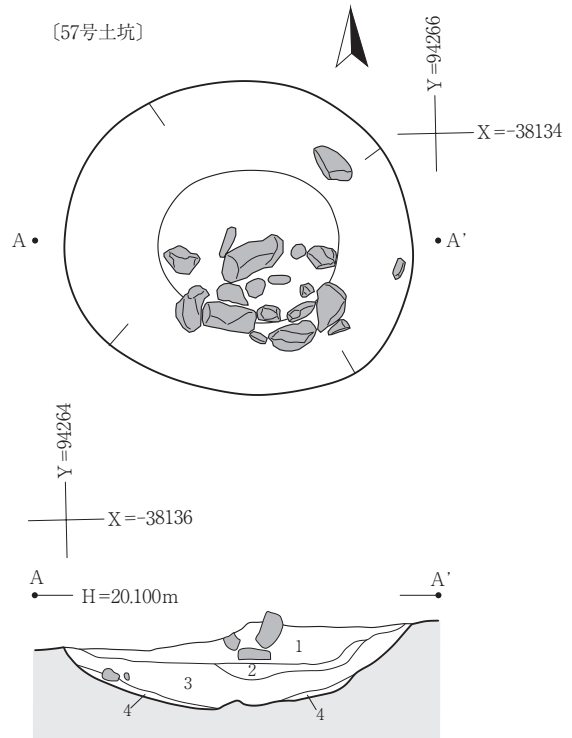
- A - A'
- 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中 径2mmの炭化物1%未満、黄褐色シルトブロック(10YR5/6)3%、2~5mm大の礫5%含む
 - 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまり弱 径2~5mmの炭化物1~3%、黄褐色シルトブロック(10YR5/6)1%、径2mmの細砂3%含む
 - 10YR7/6 明黄褐色シルト 粘性中 しまり強 径2mmの炭化物1%未満、径20mmの暗褐色シルトブロック(10YR3/3)30%含む
 - 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性中 しまり弱 径2mmの炭化物1%未満含む
 - 10YR5/8 におい黄褐色シルト 粘性・しまり強 4層より明るめ 壁崩落土 径2~5mm大の礫10%含む



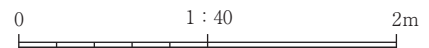
- A - A'
- 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性中 しまり強 径5mm程度の小礫5%含む
 - 10YR2/1 黒色シルト 粘性強 しまり弱 径5mm程度の小礫3%含む



- A - A'
- 10YR2/1 黒色シルト 粘性・しまり中 径3~7mmの礫1~2%含む
 - 10YR2/1 黒色シルト 粘性中 しまり強 径2~3mmの礫3~5%含む
 - 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性中 しまり強



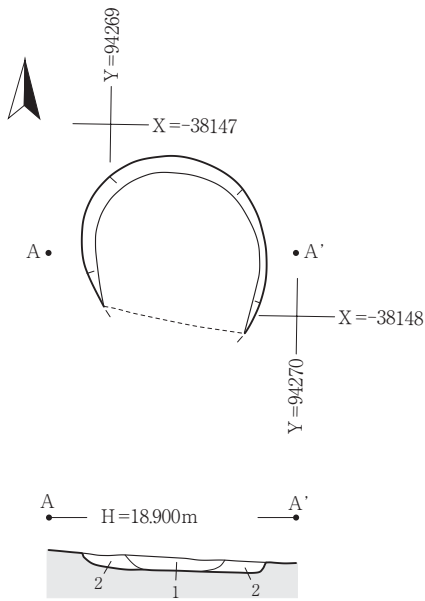
- A - A'
- 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 径20cm大の花崗岩 亜角礫、炭化物1%含む
 - 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまり中
 - 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 径10cm大の花崗岩 亜角礫、炭化物3%含む
 - 10YR3/4 暗褐色粘土質シルト 粘性中 しまり強



第77図 54~57号土坑

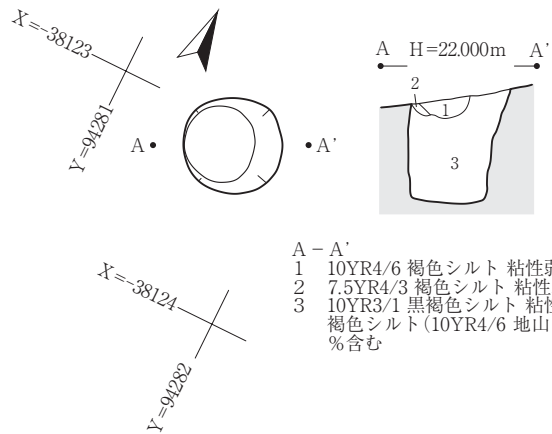
3 検出遺構と出土遺物

[58号土坑]



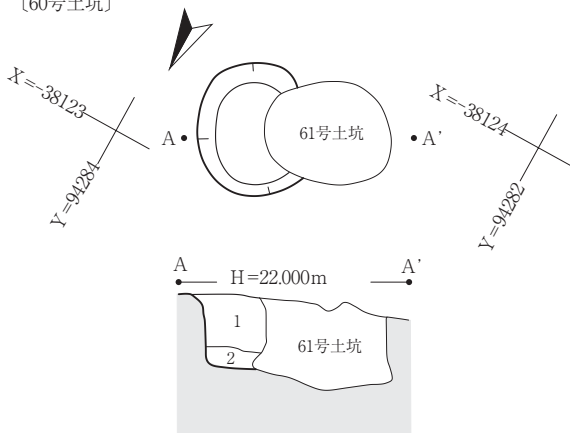
- A - A'
- 1 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 炭化物3%、風化花崗岩粒1%含む
 - 2 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 炭化物1%、風化花崗岩粒1%含む

[59号土坑]



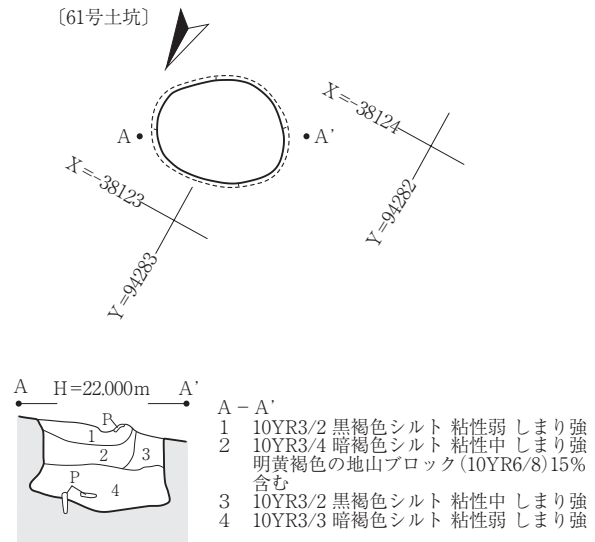
- A - A'
- 1 10YR4/6 褐色シルト 粘性弱 しまり中
 - 2 7.5YR4/3 褐色シルト 粘性弱 しまり中
 - 3 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性・しまり中 褐色シルト(10YR4/6 地山ブロック)15%含む

[60号土坑]



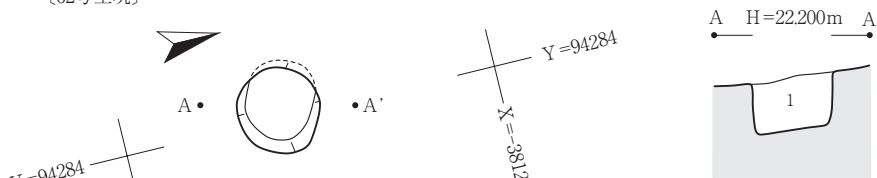
- A - A'
- 1 7.5YR4/3 褐色シルト 粘性中 しまり強
 - 2 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性中 しまり強

[61号土坑]

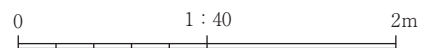


- A - A'
- 1 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり強
 - 2 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 しまり強 明黄褐色の地山ブロック(10YR6/8)15%含む
 - 3 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり強
 - 4 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり強

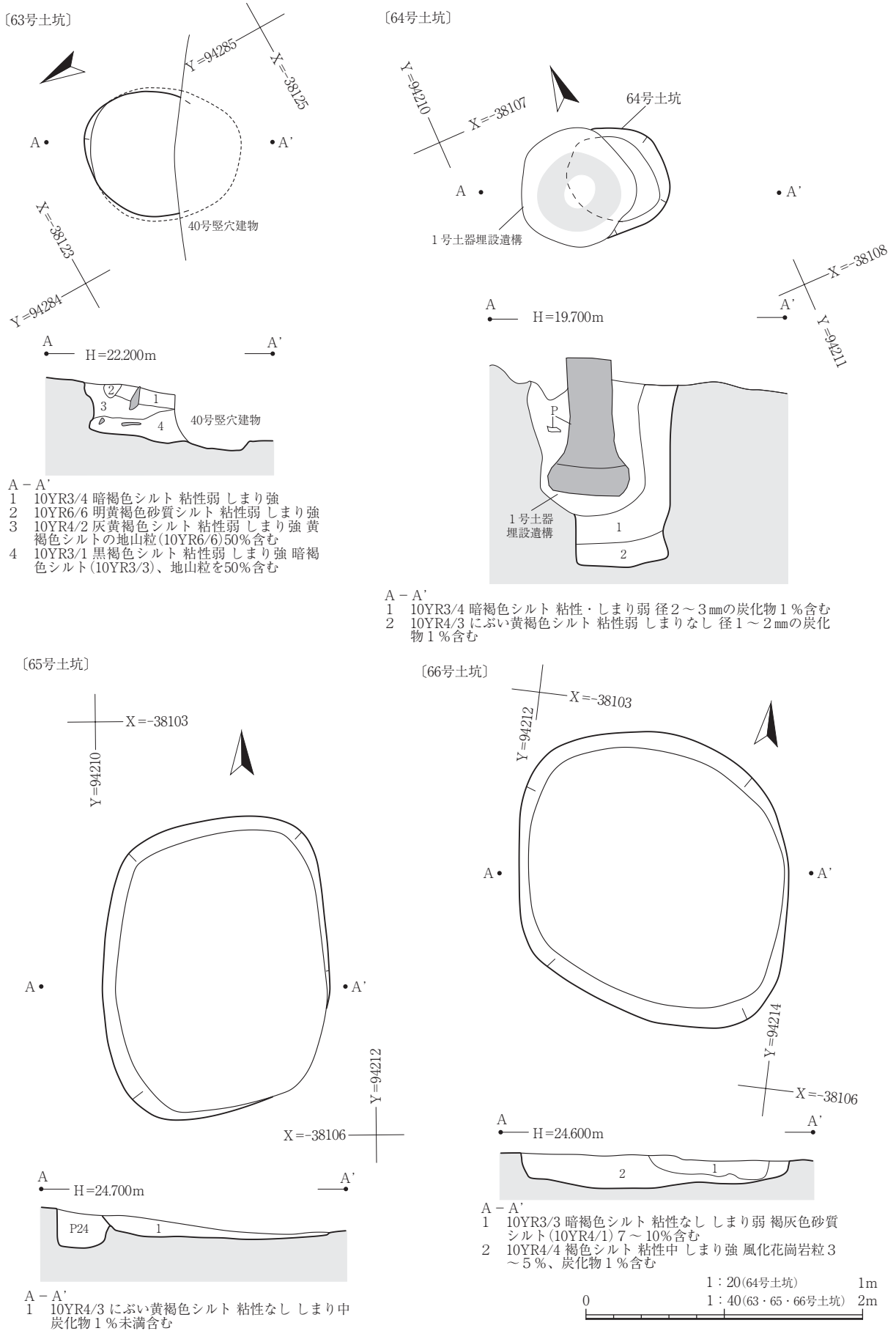
[62号土坑]



- A - A'
- 1 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり強



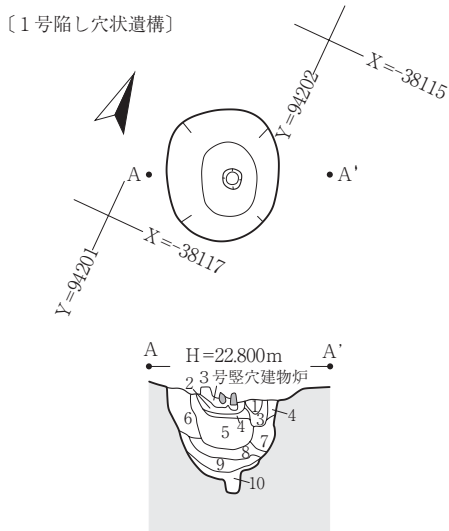
第78図 58~62号土坑



第79図 63~66号土坑

3 検出遺構と出土遺物

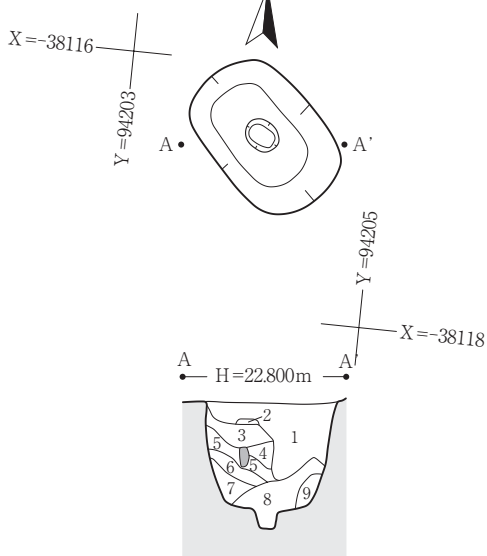
〔1号陥し穴状遺構〕



A - A'

- 1 7.5YR3/4 暗褐色シルト 粘性なし しまり中 径3mmの炭化物粒1%含む
- 2 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性弱 しまり強 明褐色焼土(7.5YR5/8)30%含む
- 3 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粘性弱 しまり中
- 4 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり強 黄褐色シルト(10YR5/6)5%含む
- 5 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なし しまり強 径5~10mmの炭化物3%含む
- 6 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり強 明黄褐色シルト(10YR6/6)3%含む
- 7 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中
- 8 10YR2/2 黒褐色粘土質シルト 粘性・しまり強
- 9 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり中 黒褐色粘土質シルト(10YR2/2)7%含む
- 10 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性なし しまり強

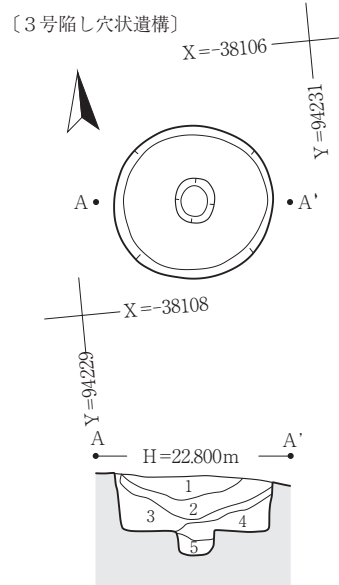
〔2号陥し穴状遺構〕



A - A'

- 1 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なし しまり強 黄褐色シルト(10YR5/8)5%、径3~5mmの炭化物粒5%含む
- 2 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性中 しまり強
- 3 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性中 しまり強 黄褐色シルト(10YR5/8)2%、径3mmの礫粒5%含む
- 4 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なし しまり強 径3mmの礫粒1%、径1mmの炭化物粒1%未滴含む
- 5 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまり中 黄褐色シルト(10YR5/8)3%、径5mmの礫粒1%含む
- 6 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なし しまり中 黄褐色シルト(10YR5/8)10%含む
- 7 10YR4/4 褐色粘土質シルト 粘性・しまり強
- 8 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 粘性・しまり強
- 9 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト50%、10YR4/3 にぶい黄褐色シルト50%の混合土層 粘性強 しまり中

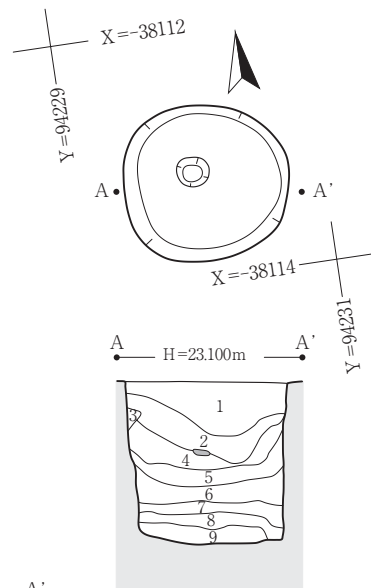
〔3号陥し穴状遺構〕



A - A'

- 1 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまりなし 褐色シルトブロック(10YR4/6 径50~100mm)20%、径2~5mmの炭化物1%含む
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性なし しまり弱 径2~5mmの炭化物1%含む
- 3 10YR4/4 褐色シルト 粘性中 しまり弱
- 4 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性中 しまり弱
- 5 10YR4/4 褐色シルト 粘性・しまりなし

〔4号陥し穴状遺構〕



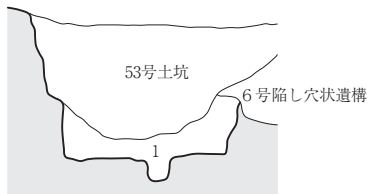
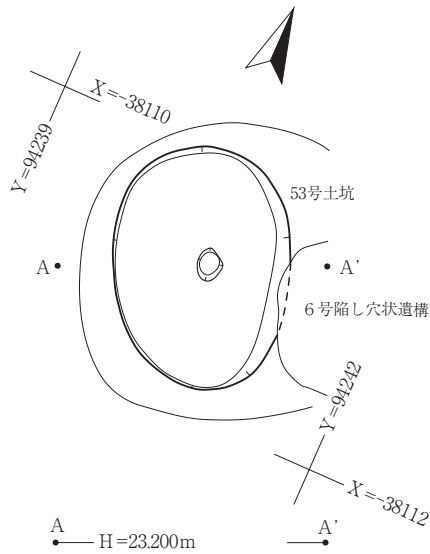
A - A'

- 1 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なし しまり強
- 2 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性なし しまり強 黄褐色シルト(10YR5/8)1%、風化花崗岩粒3%含む
- 3 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性なし しまり強
- 4 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性弱 しまり強 黄褐色シルト(10YR5/6)7%含む
- 5 10YR7/6 明黄褐色砂質シルト 粘性なし しまり中
- 6 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性なし しまり中
- 7 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性弱 しまり強 にぶい黄褐色砂質シルト(10YR5/4)1%含む
- 8 10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性なし しまり強 暗褐色シルト(10YR3/4)3%、にぶい黄褐色シルト(10YR4/3)1%含む
- 9 10YR4/6 褐色シルト40%、10YR4/3 にぶい黄褐色シルト30%、10YR3/4 暗褐色シルト30%の混合土層 粘性中 しまり強

0 1:60 2m

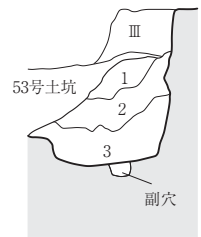
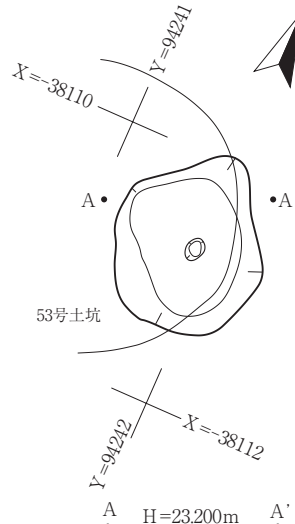
第80図 1~4号陥し穴状遺構

〔5号陥し穴状遺構〕



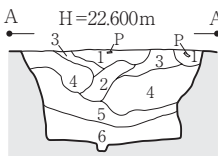
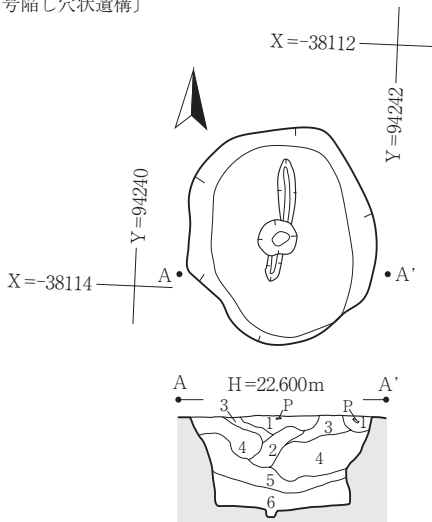
A - A'
1 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性・しまり弱 径2～30mmの炭化物2%、明黄褐色粘土質シルトブロック(10YR6/6 径20～50mm)20%含む

〔6号陥し穴状遺構〕

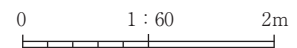


A - A'
1 10YR4/4 褐色シルト 粘性・しまり弱 径2～3mmの炭化物1%含む
2 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 径2～5mmの炭化物2%、にぶい黄褐色シルトブロック(10YR6/4 径10～40mm)20%含む
3 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性・しまり弱 径3～10mmの炭化物2%、にぶい黄褐色シルトブロック(10YR6/4 径10～50mm)10%含む

〔7号陥し穴状遺構〕

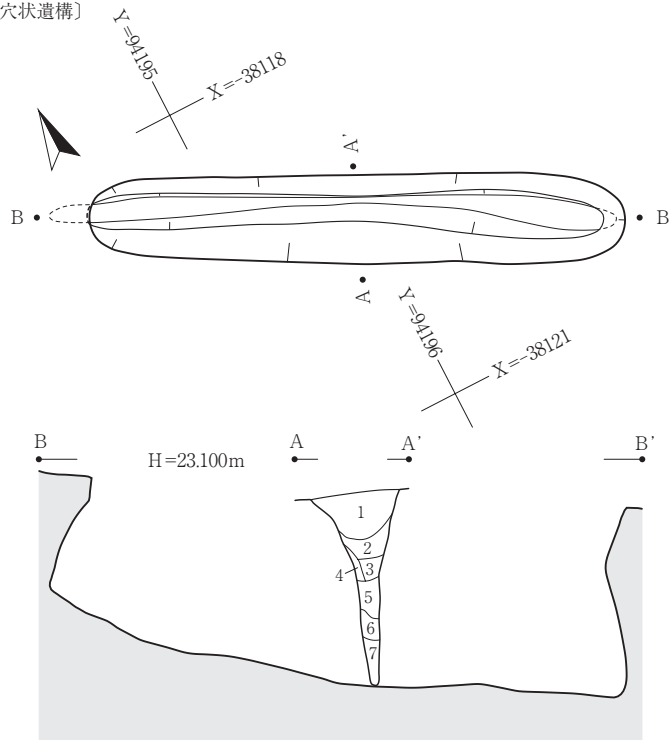


A - A'
1 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 径15～20mmの炭化材1%、明赤褐色焼土粒(5YR5/6 径2～10mm)5%、2mm大の礫10%含む
2 10YR5/4 暗褐色シルト 粘性・しまり弱 径1mmの炭化物1%未満、明赤褐色焼土粒(5YR5/6 径2mm)7%、明黄褐色シルト(10YR7/6)10%含む
3 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性なし しまり中 径1mmの炭化物1%未満、明黄褐色シルト(10YR6/8)10%、2mm大の礫10～15%含む
4 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまり中 径1mmの炭化物1%、明黄褐色シルト(10YR6/8)3～5%、径2mm大の礫7%含む
5 10YR4/6 褐色シルト 粘性中 しまり弱 径1mmの炭化物1%未満、明黄褐色シルト(10YR6/8)30%、2～5mm大の礫15～20%含む
6 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性強 しまり弱 径1～3mmの炭化物1%、明黄褐色シルト(10YR6/8)5～10%、2～5mm大の礫5%含む



第81図 5～7号陥し穴状遺構

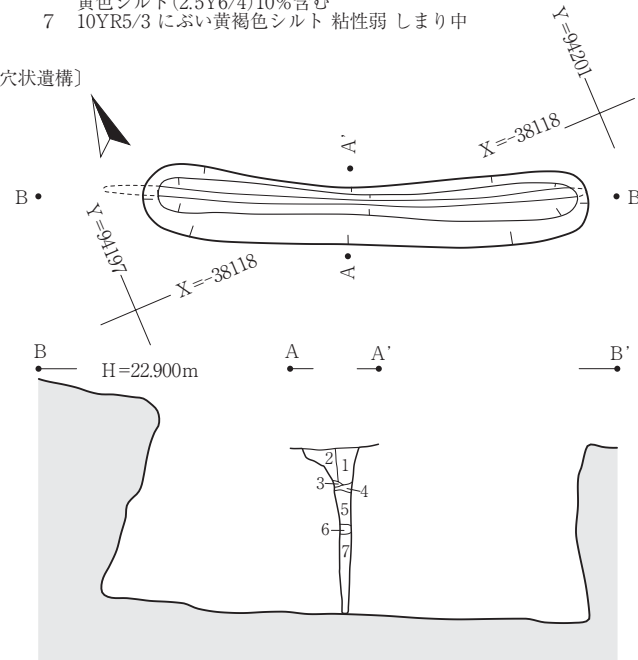
〔8号陥し穴状遺構〕



A - A'

- 1 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なししまり強
- 2 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性弱しまり中 暗褐色シルト(10YR3/3)5%、褐色シルト(10YR4/6)1%含む
- 3 10YR3/4 暗褐色シルト50%、10YR2/3 黒褐色シルト50%の混合土層 粘性なししまり中
- 4 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまり弱
- 5 2.5Y5/6 黄褐色シルト 粘性なししまり強
- 6 10YR4/2 灰黄褐色シルト 粘性なししまり弱 におい黄色シルト(2.5Y6/4)10%含む
- 7 10YR5/3 におい黄褐色シルト 粘性弱しまり中

〔9号陥し穴状遺構〕



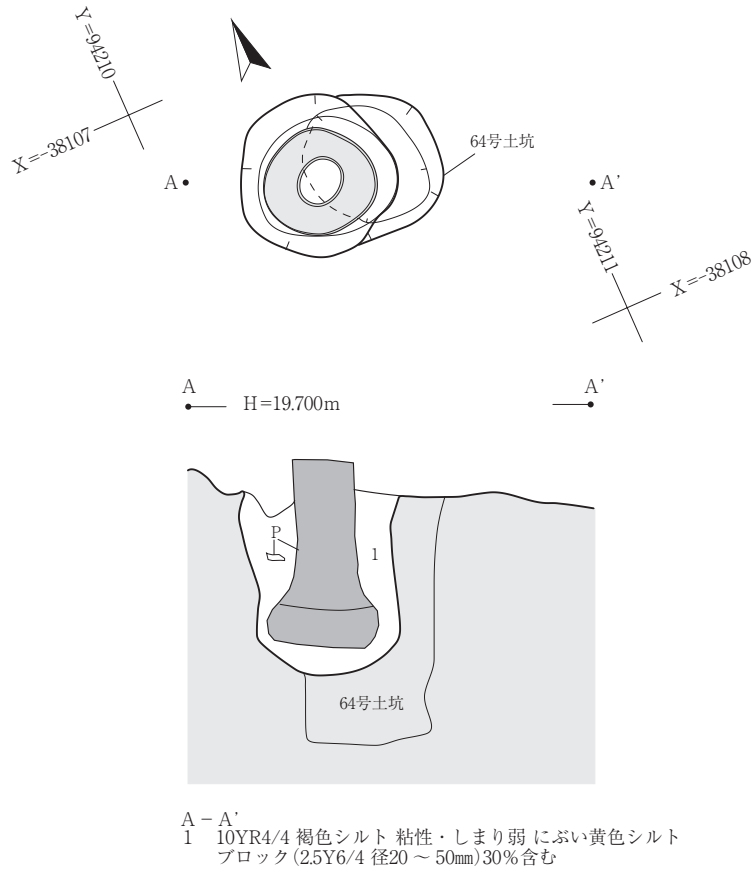
A - A'

- 1 10YR4/4 褐色シルト 粘性なししまり中
- 2 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱しまり中
- 3 10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性なししまり中
- 4 10YR6/6 明黄褐色砂質シルト 粘性なししまり弱 暗褐色シルト(10YR3/3)5%含む
- 5 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱しまり中 浅黄色砂(10YR8/4)1%含む
- 6 10YR4/6 褐色シルト 粘性中しまり強
- 7 10YR4/3 におい黄褐色シルト 粘性・しまり中 灰白色砂(10YR8/2)5~7%含む

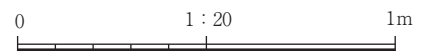
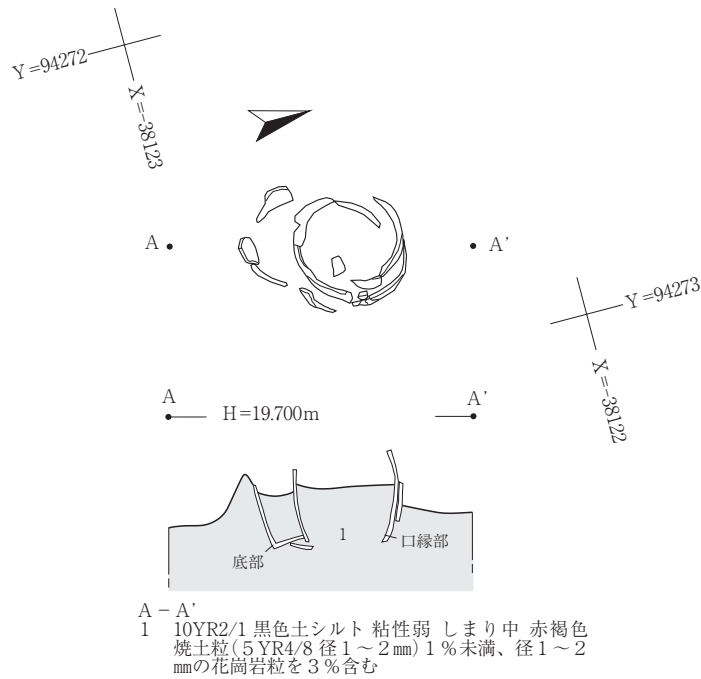
0 1 : 60 2m

第82図 8・9号陥し穴状遺構

〔1号土器埋設遺構〕



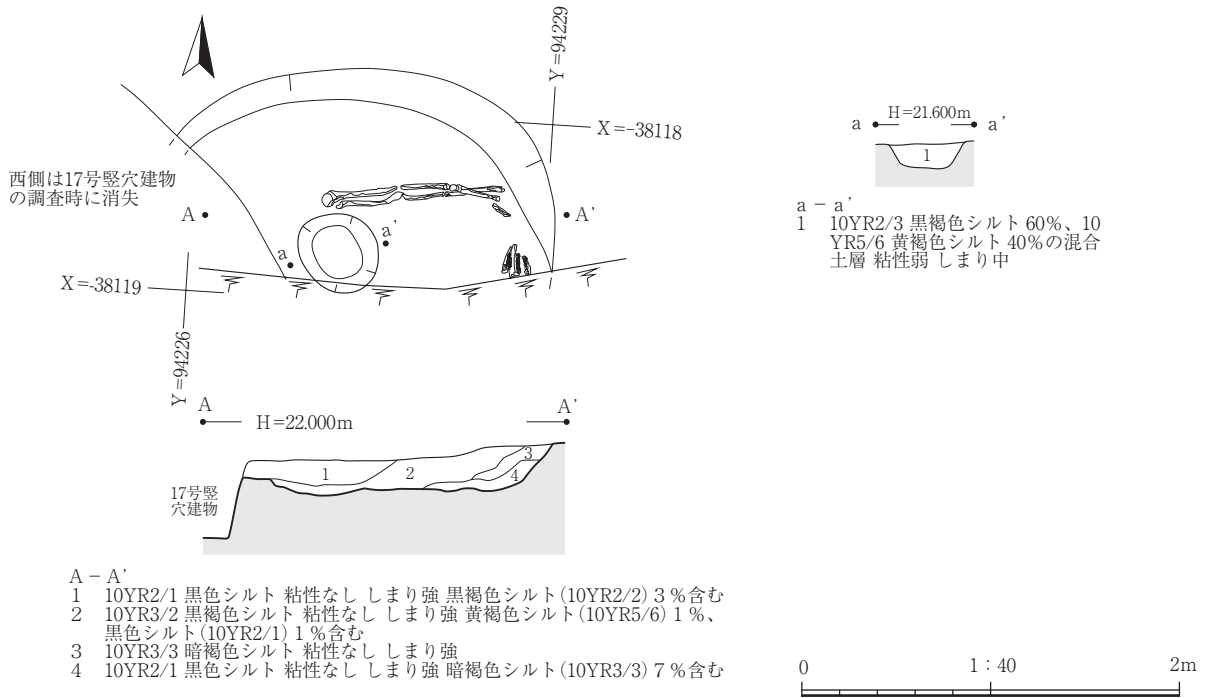
〔2号土器埋設遺構〕



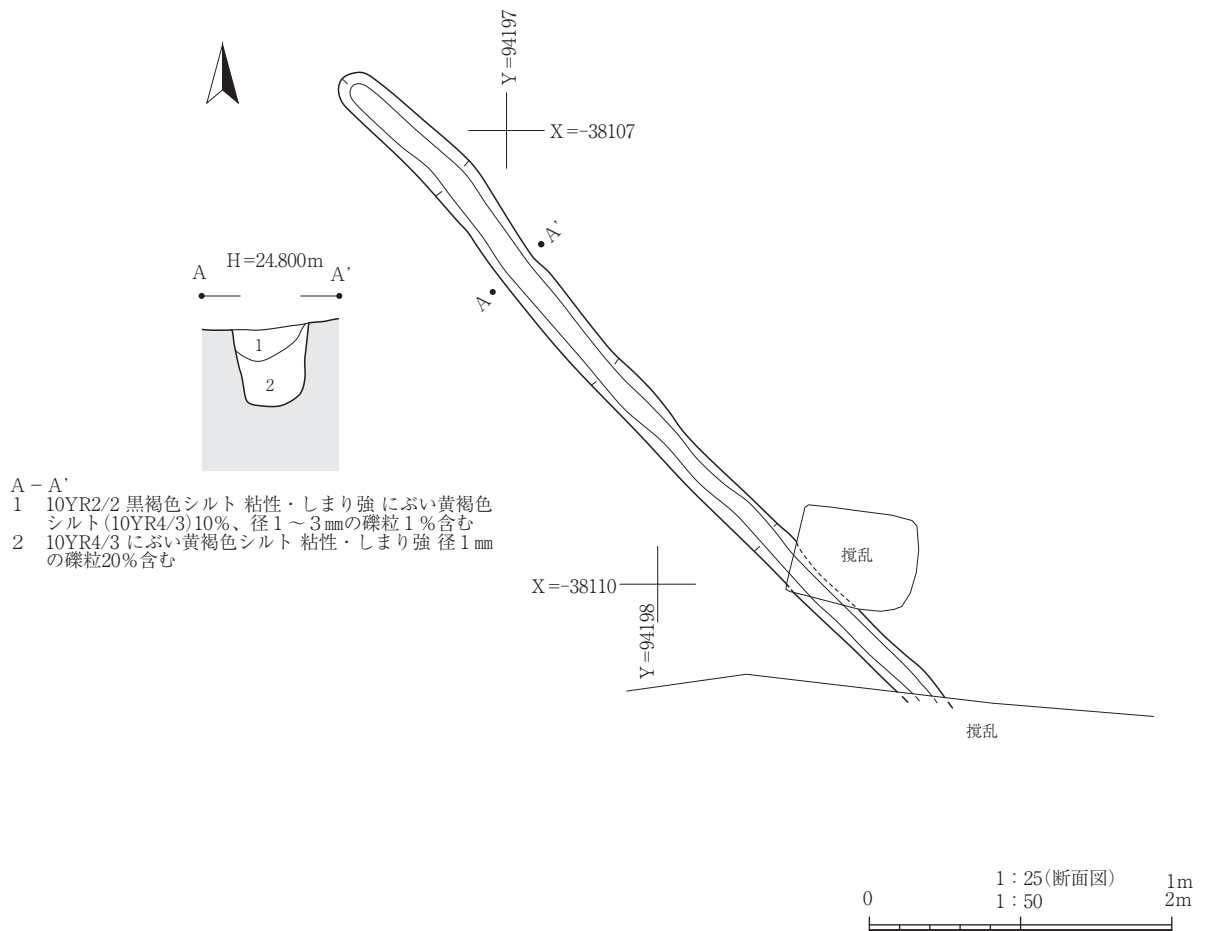
第83図 1・2号土器埋設遺構

3 検出遺構と出土遺物

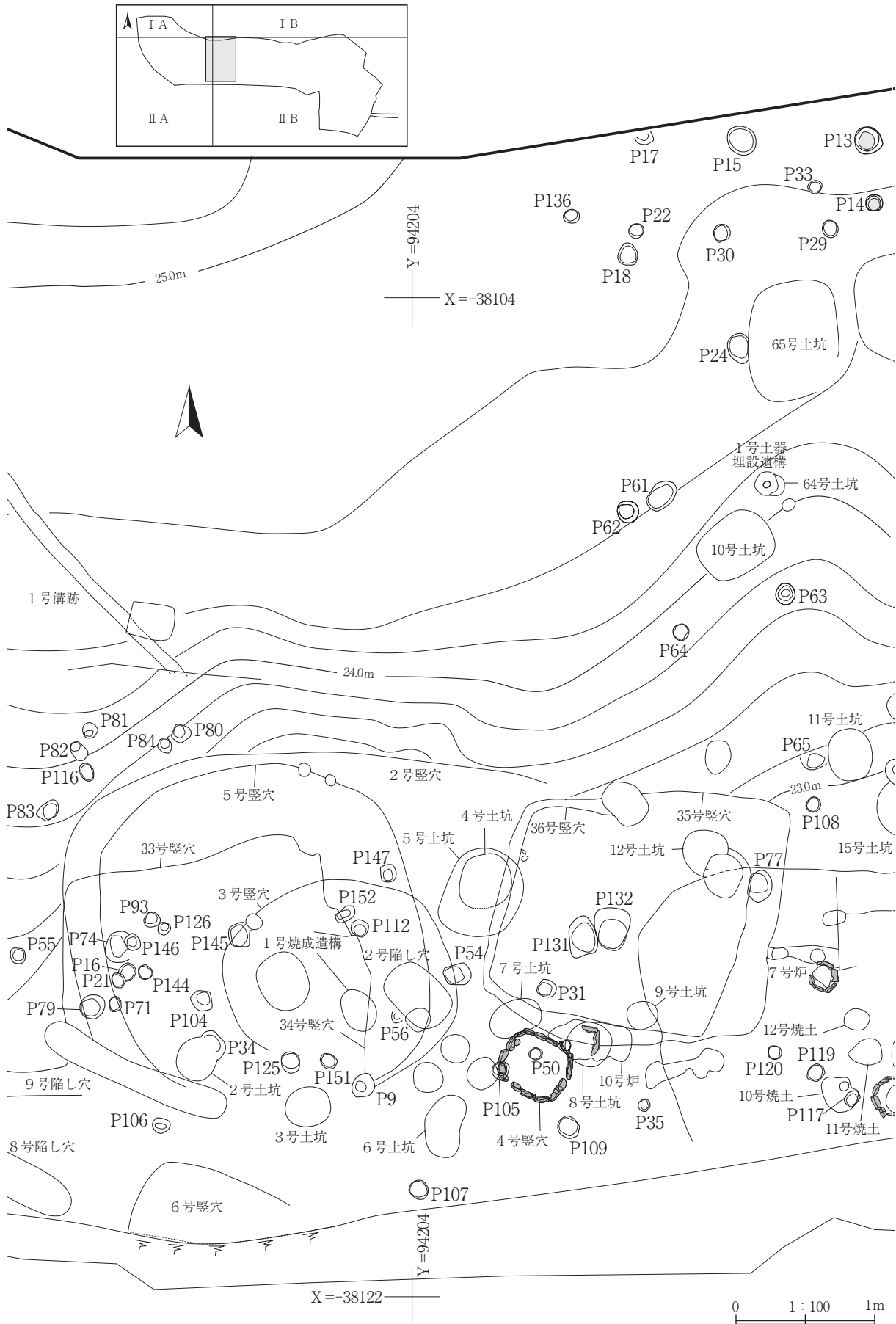
[1号墓壙]



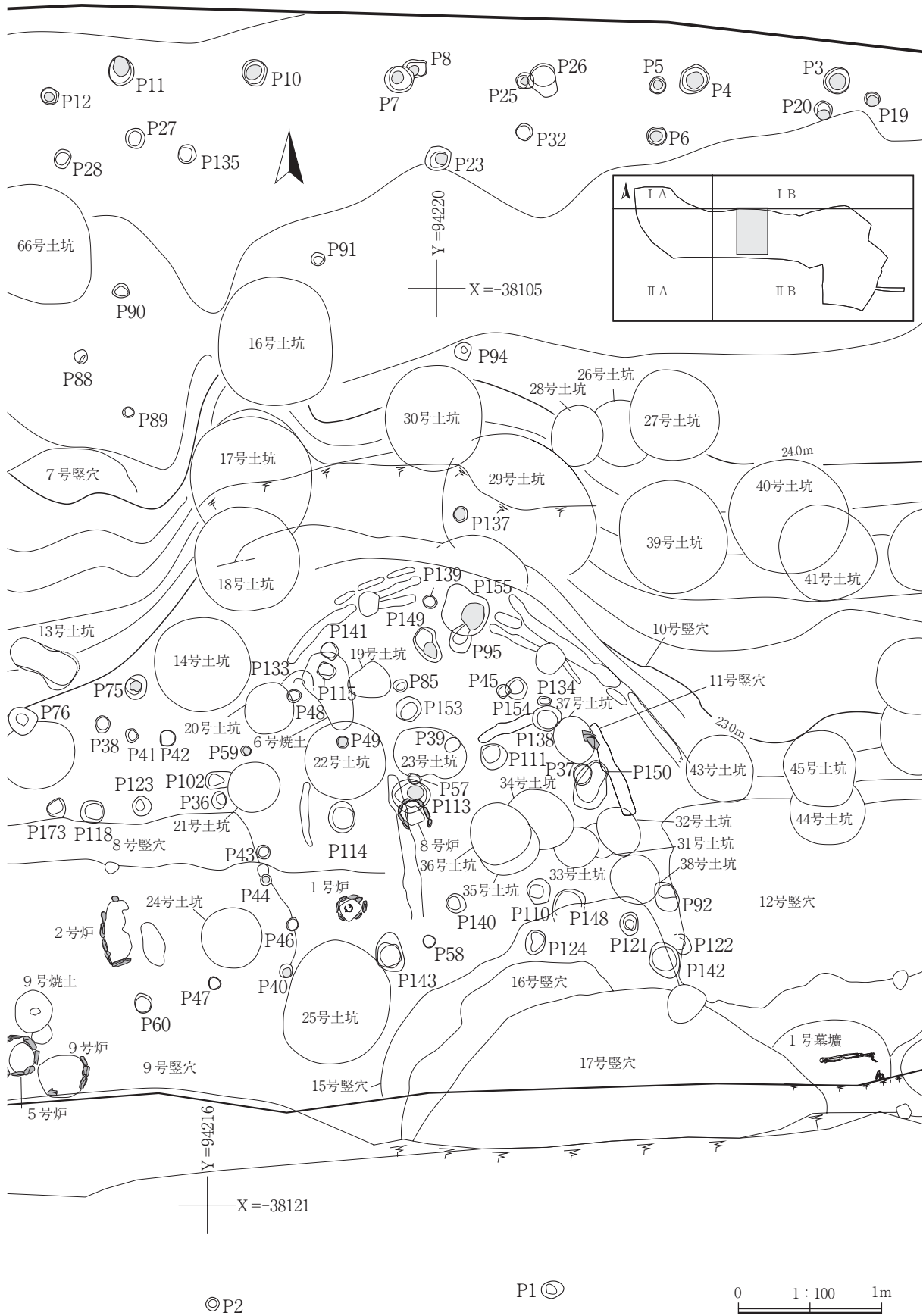
[1号溝跡]



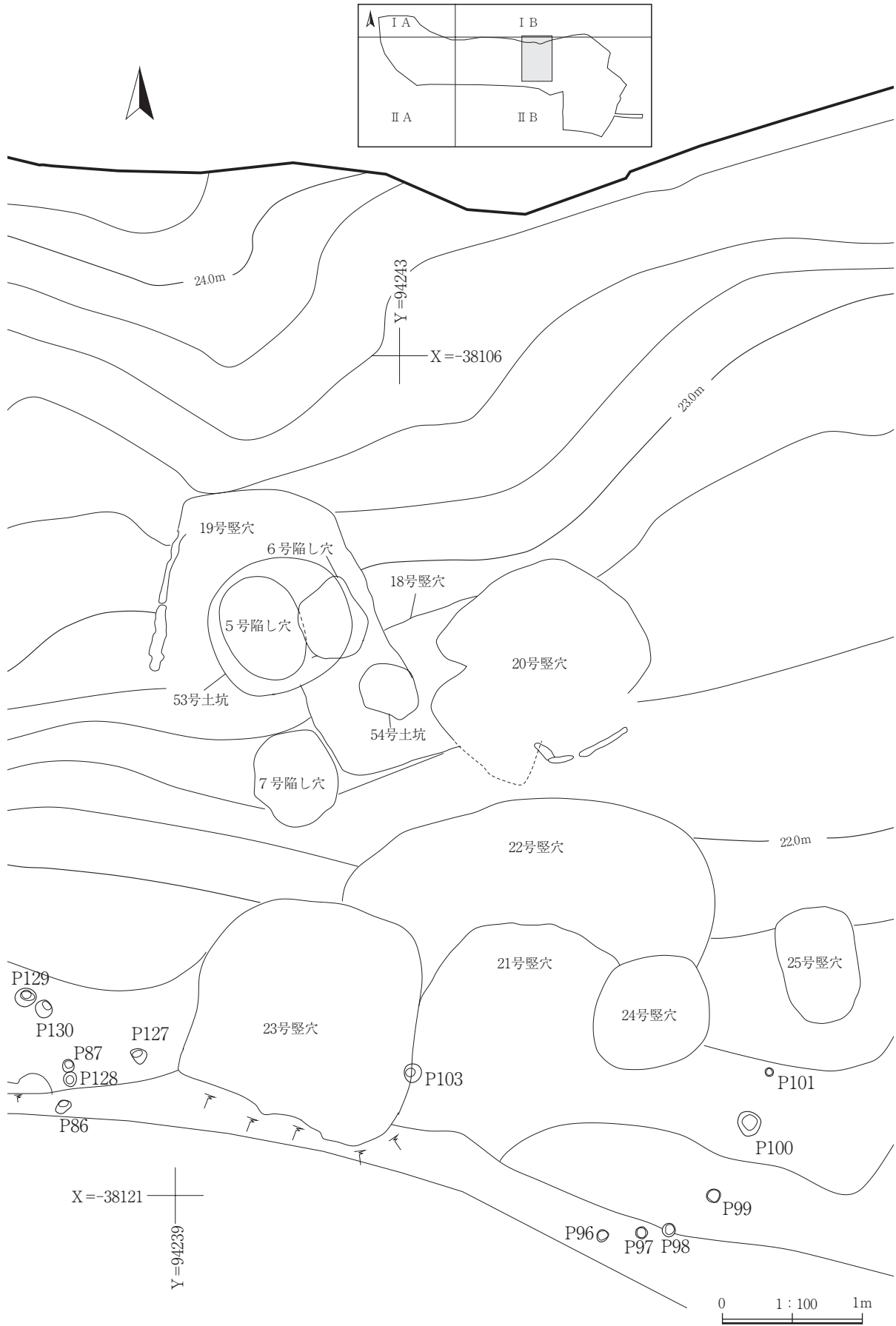
第84図 1号墓壙、1号溝跡



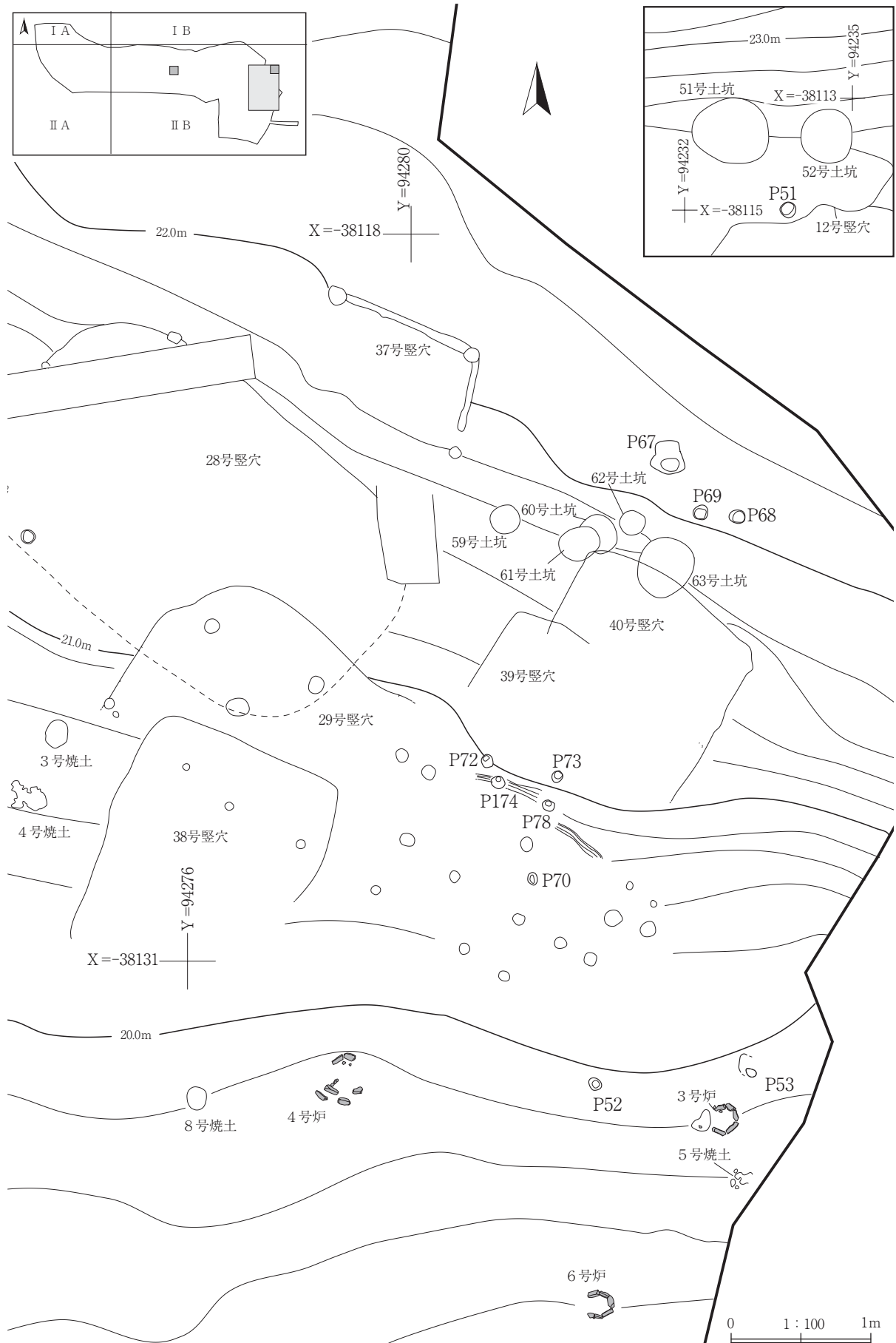
第85図 柱穴状土坑分布図1



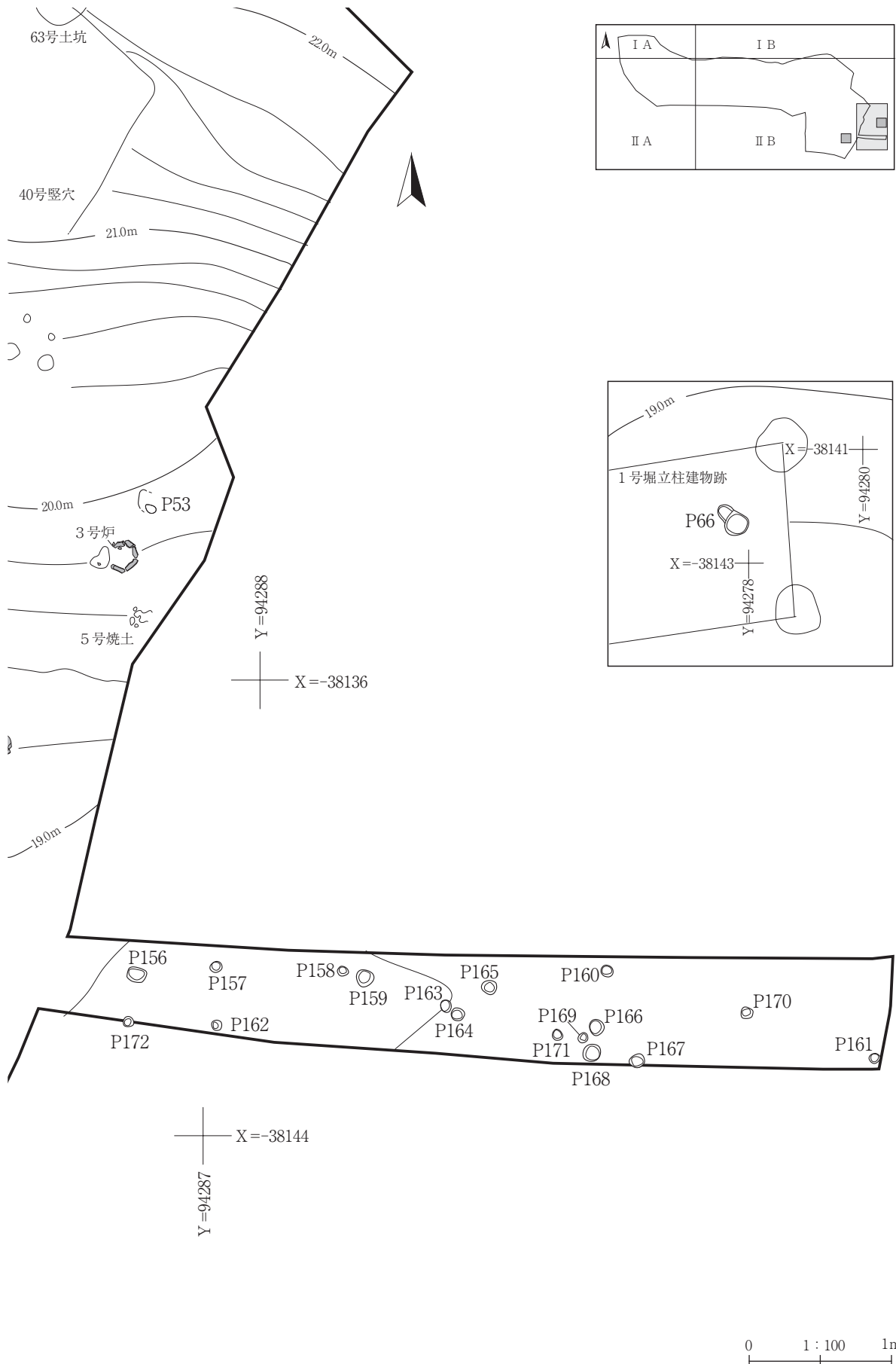
第86图 柱穴状土坑分布图2



第87図 柱穴状土坑分布図3



第88图 柱穴状土坑分布图4



第89图 柱穴状土坑分布图5

第3表 竪穴建物内柱穴一覧

遺構名	PNo	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	底面標高 (m)	備考	
1号竪穴建物	1	36	31	46	23.71		
	2	28	26	29	23.50		
2号竪穴建物	1	30	26	38	22.99		
	2	31	30	58	22.45		
	3	22	81	55	23.00		
	4	35	29	20	22.74		
	5	(37)	34	27	22.71	5号竪穴建物に切られる	
5号竪穴建物	1	24	22	22	22.86	壁を切る	
	2	19	19	25	22.74	〃	
	3	34	32	23	22.71		
	4	30	26	28	22.51		
	5	39	34	36	22.45		
	6	81	60	76	22.11		
	7	26	24	38	22.32		
	8	39	43	17	22.08	P9に切られる	
	9	33	31	13	22.15	P8を切る	
	10	28	27	5	22.21		
	11	25	43	43	23.05		
6号竪穴建物	1	24	22	11	21.95		
	2	31	30	24	21.86		
	3	25	22	27	21.77		
	4	19	18	48	21.57		
9号竪穴建物	1	39	33	23	21.98		
	2	21	18	24	22.00	P22を切る	
	3	34	32	33	21.94		
	4	42	37	15	22.15	P14を切る	
	5	27	25	13	22.16		
	6	28	28	10	22.20		
	7	35	33	18	22.05		
	8	43	40	28	21.92		
	9	29	29	15	21.00		
	10	36	29	22	22.03		
	11	28	26	18	22.00		
	12	34	30	16	22.01		
	13	32	28	17	22.05		
	14	31	(22)	22	22.05	P4に切られる	
	15	38	29	25	21.99		
	16	21	20	21	21.97		
	17	21	21	15	22.08		
	18	24	19	32	22.05	壁を切る	
	19	24	20	16	22.27	〃	
	20	25	22	12	22.25		
	21	43	26	16	22.32	壁を切る	
	22	(30)	31	10	22.18	P2に切られる	
10号竪穴建物	1	43	41	49	22.11	壁溝を切る	
	2	51	44	84	21.65	〃	
12号竪穴建物	1	29	29	32	22.11		
	2	53	35	52	21.56		
	3	41	31	22	21.88		
	4	53	38	26	21.86		
	5	25	25	19	21.98		
	6	27	23	32	21.67		
	7	17	14	17	21.71		
	8	49	41	52	21.39		
	9	41	34	32	21.66		
	10	35	33	29	21.73		
	11	22	21	30	21.74		
13号竪穴建物	1	51	35	14	21.35		
	2	27	24	8	21.34		
	3	17	17	26	21.38		
	4	20	17	7	21.50		
	5	19	18	13	21.43		
	6	45	28	42	20.97		
	7	21	17	24	21.35		
	8	24	21	11	21.44		
	9	23	21	7	21.49		
	10	29	24	14	21.44		
	11	21	20	12	21.45		
	12	25	25	16	21.42		
	13	15	14	16	21.60		
	14	29	26	23	21.60		
	15	56	41	50	21.00		
	16	39	38	18	21.25		
	17	21	20	51	21.28		
	18	29	25	48	20.94		
	19	61	37	57	20.71	P34を切る	
	20	30	13	51	21.16		
	21	35	30	54	20.96		
	22	23	22	45	21.02		
	23	19	18	16	21.35		
	24	24	22	25	21.60		
	25	36	27	27	21.06		
	26	40	33	38	20.97		
	27	46	31	67	20.65		
	28	29	23	23	21.11		
	29	31	27	12	21.16		
	30	18	16	8	21.31		
13号竪穴建物	31	28	17	89	20.57		
	32	15	15	5	21.44		
	33	27	26	36	20.77		
	34	35	28	16	21.67	P19に切られる	
	35	30	24	43	20.83		
	36	27	25	14	21.18		
	37	33	26	17	20.96		
	38	55	39	20	20.49		
	39	31	25	25	21.04		
	40	28	22	40	20.93		
	41	21	18	9	21.37		
	42	26	22	24	21.07		
	43	35	24	37	21.03		
	14号竪穴建物	1	32	31	19	21.06	
		2	22	21	23	21.02	
		3	23	23	18	21.09	
	16号竪穴建物	1	27	25	32	21.17	
		2	30	25	27	21.34	
		3	24	16	24	21.20	
	17号竪穴建物	4	25	(16)	4	21.48	17号竪穴建物に切られる
		5	29	27	22	21.31	
		6	15	15	9	21.54	壁を切る
		7	18	15	9	21.47	
		8	21	20	8	21.41	
		9	24	18	36	21.22	
		1	61	44	37	20.96	壁溝を切る
		2	49	48	61	20.64	
		3	48	42	22	21.09	
	18号竪穴建物	4	68	67	66	20.67	
		5	32	28	47	20.81	
		6	45	50	54	20.74	
		7	37	50	33	20.92	
		8	69	60	88	20.97	壁を切る
		9	20	20	11	21.25	
		1	24	24	24	22.13	
		2	12	10	6	22.48	
		1	13	(6)	11	22.98	壁溝に切られる
		2	(12)	12	2	22.96	〃
		3	15	(5)	4	22.88	〃
		4	19	18	25	22.66	壁溝を切る
		5	28	26	31	22.57	〃
		6	23	17	14	22.75	
	19号竪穴建物	7	18	15	20	22.70	
8		16	15	13	22.78		
9		35	32	27	22.55		
10		13	12	14	22.70		
11		11	11	15	22.64	壁溝を切る	
12		15	17	12	22.68		
13		20	19	44	23.35		
14		14	13	17	22.53		
15		38	(26)	38	22.31	54号土坑に切られる	
16		18	(9)	21	22.44	54号土坑に切られる	
17		20	19	6	22.76		
18		11	11	11	22.57		
19		24	22	14	22.62		
20		42	36	67	21.94		
21	35	29	3	22.58			
20号竪穴建物	22	22	17	15	22.76	P23に切られる、壁溝を切る	
	23	20	18	16	22.74	P22・壁溝を切る	
	24	33	27	38	22.39		
	25	11	9	12	22.68		
	26	29	23	11	22.70		
	27	25	22	19	22.55		
	28	18	16	16	22.80	壁溝を切る	
	29	14	13	9	22.71	P30を切る	
	30	15	(7)	8	22.73	P29に切られる	
	31	17	13	10	22.66		
	32	12	11	9	22.70		
	33	23	19	40	22.35	壁溝を切る	
	34	14	12	6	22.77	〃	
	35	34	31	26	22.58		
	36	17	15	14	22.61	壁溝を切る	
	37	22	13	16	22.59	〃	
	38	12	11	7	22.70	〃	
	39	18	16	8	22.72	〃	
	40	15	13	9	22.37		
	41	37	28	28	22.22	P42を切る	
42	28	17	—	22.08	P41に切られる		
43	12	10	2	22.48			
20号竪穴建物	1	33	29	37	21.77		
	2	25	24	23	21.90		
	3	43	38	62	21.49		
	4	15	(11)	12	22.12	壁溝に切られる	

遺構名	PNo	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	底面標高 (m)	備考
20号竪穴建物	5	26	22	36	21.78	
	6	22	17	34	21.79	
	7	17	15	8	22.11	
	8	21	20	12	22.08	
	9	12	(5)	15	22.15	壁溝に切られる
	10	22	16	26	21.91	
	11	19	18	12	22.12	
21号竪穴建物	12	17	15	12	22.20	壁溝を切る
	1	73	38	37	23.36	
	2	74	56	30	23.22	
	3	17	14	20	22.27	P10を切る
	4	31	28	46	21.82	P5を切る
	5	31	30	35	21.82	P4・6に切られる
	6	26	22	23	22.11	P5を切る
	7	23	18	20	22.11	P3を切る
	8	23	18	16	22.04	
	9	33	28	21	21.97	
22号竪穴建物	10	25	24	78	21.59	
	1	37	30	—	—	
	2	35	29	—	—	
	3	24	21	—	—	
	4	27	21	22	21.59	
	5	29	25	16	21.62	
	6	28	22	21	21.56	
	7	29	29	26	21.53	
23号竪穴建物	8	29	27	10	21.64	
	1	37	31	44	21.28	
	2	35	33	48	21.15	
	3	46	38	34	21.19	
	4	36	29	35	21.10	
	5	37	35	20	21.17	
	6	27	25	32	21.18	
	7	34	34	45	21.16	
	8	37	34	30	21.29	
	9	30	29	17	21.40	
23号竪穴建物	10	36	33	56	20.85	P22・23を切る
	11	47	43	35	21.12	
	12	38	28	27	21.24	
	13	45	40	52	21.02	P24を切る
	14	32	27	24	21.47	P16を切る
	15	25	22	45	21.22	
	16	27	25	26	21.43	P14に切られる
	17	30	19	24	21.37	P16に切られる
	18	26	25	18	21.35	
	19	21	23	28	21.25	
	20	35	23	25	21.33	
	21	28	26	30	21.29	
	22	35	(24)	62	20.82	P10に切られる
	23	31	19	16	21.26	〃
	24号竪穴建物	24	(37)	39	29	21.12
1		20	19	19	21.15	壁溝を切る
2		16	13	4	21.29	
3		25	16	11	21.25	壁溝を切る
4		25	23	13	21.20	〃
5		22	14	9	21.25	〃
6		22	18	3	21.28	
7		20	18	16	21.15	
25号竪穴建物	8	10	9	8	21.30	壁溝を切る
	1	15	13	48	21.43	
	2	13	11	24	21.34	壁溝を切る
	3	17	16	18	21.38	
26号竪穴建物	4	15	13	8	21.52	
	1	29	24	26	19.55	
	2	24	20	21	19.74	
27号竪穴建物	3	14	13	4	19.89	
	1	22	22	43	21.92	
	2	21	20	40	21.96	
	3	17	17	40	22.06	
	4	23	22	34	22.09	
28号竪穴建物	5	24	22	39	22.03	
	1	70	62	57	20.76	
	2	34	30	50	20.59	
	3	61	61	67	20.69	
	4	36	33	6	20.74	
	5	47	41	18	20.91	
	6	77	68	67	20.65	
	7	33	30	56	20.73	P24を切る
	8	28	26	23	20.72	
	9	28	28	39	20.61	
	10	39	34	38	20.94	
	11	18	17	57	20.76	
	12	23	25	13	21.23	
	13	28	27	53	20.66	
	14	26	24	17	20.99	
	15	28	27	12	21.24	
16	14	(11)	39	21.27	トレンチに切られる	
28号竪穴建物	17	(23)	32	8	21.33	トレンチに切られる
	18	19	18	9	21.25	
	19	12	10	2	21.32	
	20	24	20	30	20.78	
	21	26	23	5	21.35	
	22	24	19	23	21.61	壁を切る
	23	21	20	19	21.03	
	24	20	(7)	8	21.18	P7に切られる
	25	17	14	13	21.11	
	29号竪穴建物	1	27	25	37	20.29
2		32	27	33	20.29	
3		24	23	26	20.17	
4		25	25	44	20.12	
5		26	22	34	20.23	
6		15	12	18	20.32	
7		13	11	8	20.34	
8		21	19	13	20.24	
9		41	35	16	20.35	
10		27	23	13	20.26	
11		22	19	46	20.00	
12		22	21	28	20.10	
13		21	21	22	20.11	
14		25	24	13	20.15	
15		32	29	38	20.03	
16		30	28	33	20.05	
17		27	26	30	19.98	
31号竪穴建物		18	20	18	10	20.28
	19	10	12	10	20.26	
	20	12	12	7	20.27	
	21	16	15	12	20.16	
	22	17	17	14	20.07	
	23	17	16	21	19.98	
	24	20	19	6	20.05	
	25	18	22	14	20.04	
	1	104	95	42	22.54	
	2	117	103	34	22.58	
	3	33	33	21	22.65	
	4	32	(20)	17	22.69	P5に切られる
	5	27	22	13	22.70	P4を切る
	32号竪穴建物	1	42	36	8	24.41
2		28	27	17	24.22	
3		28	26	14	24.19	
4		30	28	33	24.31	壁を切る
5		33	32	27	24.87	〃
35号竪穴建物	1	31	34	42	21.49	
	2	28	25	35	22.61	
	3	33	33	6	22.79	
36号竪穴建物	1	44	43	32	22.25	
	2	20	19	16	22.53	
	3	24	23	19	22.47	
	4	48	43	28	22.30	
	5	22	20	19	22.38	
37号竪穴建物	1	36	31	58	21.43	壁を切る
	2	27	27	62	21.44	〃
	3	23	20	15	21.70	
	4	32	32	74	21.18	
	5	22	22	4	21.80	
	6	27	18	60	21.48	
	7	22	2	11	21.76	
	8	23	23	27	21.63	
	9	23	23	10	21.77	
	10	18	16	25	21.68	
39号竪穴建物	1	20	20	30	21.12	
	2	29	28	37	21.19	
	3	18	14	18	21.24	
	4	13	12	24	21.17	
	5	28	26	36	21.10	
	6	24	21	27	21.11	
	7	31	(15)	43	20.98	トレンチに切られる
40号竪穴建物	8	(15)	(6)	43	20.93	〃
	1	29	23	53	21.07	壁溝を切る
	2	32	37	46	21.00	〃
	3	31	26	40	21.01	〃
	4	37	27	48	21.03	〃
	5	49	29	41	20.95	〃
	6	31	30	50	20.94	
	7	33	31	52	20.83	
	8	28	28	69	20.76	
	9	43	36	59	20.86	
	10	20	18	24	21.29	壁溝を切る
	11	15	12	20	21.27	〃
	12	17	17	34	21.11	〃
13	30	25	4	21.50	〃	

第4表 土坑一覧

遺構名	位置	開口部径(cm)	底部径(cm)	深さ(cm)	出土遺物No	備考	図版	写図
1号土坑	II A5w	242×(152)	165×(122)	34	308・309		61	86
2号土坑	II A5y・II B5a	73×(55)	50×42	60	310~312		61	86
3号土坑	II B5a	82×71	57×56	27	313		61	86
4号土坑	II B4b	163×135	81×66	119			61	87
5号土坑	II B4b	167×156	102×43	149			62	87
6号土坑	II B5b	114×66	94×43	38			62	87
7号土坑	II B5b	97×62	51×48	70			62	87
8号土坑	II B5b	80×80	71×69	24			62	87
9号土坑	II B5b・5c	56×52	42×38	22			63	88
10号土坑	II B2c・3c	137×106	58×41	80			63	89
11号土坑	II B3c	94×80	63×38	60			63	88
12号土坑	II B4c	83×(59)	58×49	54			63	88
13号土坑	II B3d	122×67	127×56	43			64	89
14号土坑	II B3d	152×142	169×165	53	314~316	フラスコ形	64	88
15号土坑	II B4d	133×117	50×40	39	317		64	89
16号土坑	II B2e	223×198	217×206	65	318	フラスコ形	64	89
17号土坑	II B3e	139×118	219×(158)	91		〃	65	90
18号土坑	II B3d・3e	117×115	184×175	110	319~330	〃	65	90
19号土坑	II B3e・4e	76×63	65×51	43			65	90
20号土坑	II B3e・4e	64×(54)	87×90	78		フラスコ形	66	90
21号土坑	II B4e	91×88	69×67	37			66	91
22号土坑	II B4e	103×95	143×136	67	331・332	フラスコ形	66	91
23号土坑	II B4e・4f	124×105	107×85	32			66	91
24号土坑	II B5e	107×105	92×91	23			67	91
25号土坑	II B5e	218×179	167×139	62	333~336		67	92
26号土坑	II B2f・3f	112×(61)	106×(75)	43	337~341		67	92
27号土坑	II B2f・2g	104×103	160×156	75	342~347	フラスコ形	68	92
28号土坑	II B2f	92×80	107×91	28	348・349	〃	68	92
29号土坑	II B2f・3f	292×(214)	283×224	47	350・351		68	92
30号土坑	II B2e・2f	134×120	185×169	81	352	フラスコ形	69	92
31号土坑	II B4f	64×(14)	52×(14)	41			69	93
32号土坑	II B4f	88×73	74×59	50	353・354		69	93
33号土坑	II B4f	81×72	55×47	43			69	93
34号土坑	II B4f	109×(69)	74×59	35			70	93
35号土坑	II B4f	111×(49)	97×(43)	52	355~358		70	94
36号土坑	II B4f	106×100	84×79	66			70	93
37号土坑	II B4f	84×69	70×54	12			70	94
38号土坑	II B4f	87×87	67×61	89	358~367		71	94
39号土坑	II B3f・3g	78×63	200×186	153	368~374	フラスコ形	71	94
40号土坑	II B3g	80×(48)	207×199	179		〃	72	95
41号土坑	II B3g	146×148	171×159	69	375~380	〃	72	95
42号土坑	II B3g・3h	96×85	138×128	71	381~385	〃	73	95
43号土坑	II B4g	102×(98)	122×115	82			73	95
44号土坑	II B4g	132×(103)	77×77	154			73	96
45号土坑	II B4g	133×128	97×94	128	386~389		74	96
46号土坑	II B3g	139×133	92×72	70	390	フラスコ形	74	96
47号土坑	II B4g・4h	150×144	145×145	36	391~396		74	96
48号土坑	II B3h・4h	92×(29)	41×(19)	37			75	97
49号土坑	II B3h・4h	83×74	81×79	78	397		75	97
50号土坑	II B5h	99×89	128×120	71	398~401	フラスコ形	75	97
51号土坑	II B4i	137×118	87×80	43			76	97
52号土坑	II B4i	96×92	73×65	53			76	98
53号土坑	II B3j・3k・4k	251×234	118×76	90	402~415		76	98
54号土坑	II B3k・4k	112×87	74×71	116	416・417		77	98
55号土坑	II B5n	122×117	106×88	14	418・419		77	98
56号土坑	II B5q	117×96	103×77	46			77	99
57号土坑	II B9q	186×165	94×80	42	420~422		77	99
58号土坑	II B12r	101×86	88×77	6			78	99
59号土坑	II B6u	55×53	37×35	62			78	99
60号土坑	II B6u	71×(33)	53×(23)	42			78	100
61号土坑	II B6u	70×57	74×60	48	423~425		78	100
62号土坑	II B6u・6v	46×45	41×35	25			78	100
63号土坑	II B6v・7v	90×(66)	109×97	34	426~430		79	100
64号土坑	II B2c	78×(23)	62×(10)	131	431~433		79	101
65号土坑	II B1c・2c	215×165	197×149	13	434~436		79	101
66号土坑	II B1d・2d	242×203	215×181	22			79	101

第5表 柱穴状土坑一覧

PNo	地点	開口部径 (cm)	深さ (cm)	底面標高 (m)	柱痕径 (cm)	出土遺物 No	備考	PNo	地点	開口部径 (cm)	深さ (cm)	底面標高 (m)	柱痕径 (cm)	出土遺物 No	備考
1	II B6f	39×30	53	20.57	(12)			49	II B4e	21×21	39	22.61	16×16		
2	II B6e	24×24	28	21.62	(10)			50	II B5b	26×22	25	22.15			
3	II B1g	47×43	79	23.91	29×28	448・449		51	II B4i	28×28	37	22.13			
4	II B1g	54×44	69	24.01	30×29	450		52	II B9u	25×20	30	19.94			
5	II B1f	30×28	39	24.31	17×15			53	II B9v	30×(17)	79	19.67			
6	II B1f	35×33	64	24.06	21×20			54	II B5b	51×40	66	22.14	22×21	454	
7	II B1e	52×43	58	24.02	23×19		P 8 と重複	55	II A4y	31×30	58	22.82			
8	II B1e	42×32	30	24.30	18×17		P 7 と重複	56	II B5a	22×14	51	22.19			
9	II B5a	47×39	60	22.10				57	II B4e	24×18	38	22.52			
10	II B1e	47×42	58	24.12	29×23			58	II B5e	23×22	35	22.25			
11	II B1d	51×43	69	23.71	35×28	451		59	II B4e	19×17	36	22.34	14×12		
12	II B1d	31×29	42	24.28	17×16	452		60	II B5d	35×31	47	22.23			
13	II B1d	51×47	51	24.29	32×28			61	II B2c	62×41	104	23.46			
14	II B1d	31×29	42	24.28	22×21			62	II B2b	41×38	144	23.06			
15	II B1c	56×47	66	24.24	32×29			63	II B3c	39×35	100	23.30			
16	II A5y	(29)×29	37	22.63			P 21 より古い	64	II B3c	31×29	102	23.28			
17	II B1c	31×(18)	56	24.54	(26)		一部調査区外	65	II B4c	(44)×(30)	82	22.28			
18	II B1b	40×35	13	24.47	16×15			66	II B11t	63×42	27	18.58			
19	II B1g	27×25	46	24.24	20×18			67	II B6v	61×(40)	88	21.42			
20	II B1g	33×31	56	24.14	23×18			68	II B6v	29×24	59	21.61			
21	II A5y	29×24	37	22.63			P 16 より新しい	69	II B6v	28×26	46	21.74			
22	II B1b	28×26	40	24.40	25×17			70	II B8u	22×18	51	20.19	(12)		
23	II B1f	48×42	31	24.29	22×20			71	II B5y	29×22	34	22.66			
24	II B2c	54×42	42	24.28			65号土坑より古い	72	II B7u	24×22	64	20.36			
25	II B1f	31×31	30	24.30	14×14		P26より新しい	73	II B7u	22×19	72	20.38	(9)		
26	II B1f	59×41	58	24.02			P25より古い	74	II A4y	57×45	78	22.22		455	
27	II B1d	50×34	50	24.20	26×20			75	II B3d	44×38	64	22.36	21×18		
28	II B1d	33×26	32	24.28				76	II B4d	51×48	48	22.42	23×19	456	
29	II B1c	31×28	40	24.30				77	II B4c	58×41	72	22.18	39×31		
30	II B1c	33×30	32	24.38	30×27			78	II B8u	23×18	52	20.38			
31	II B5b	35×32	34	22.14				79	II A5y	47×43	71	22.39			
32	II B1f	30×29	34	24.26				80	II A3y	36×33	47	23.43			
33	II B1c	26×24	24	24.46	13×13			81	II A3y	28×27	58	23.06			
34	II B5a	52×(21)	71	22.19			2号土坑より古い	82	II A4y	37×26	32	23.26			
35	II B5c	23×21	44	21.96				83	II A4y	43×29	40	23.14			
36	II B4e	30×25	63	22.37				84	II A4y	28×24	32	23.25			
37	II B4f	37×31	41	22.49		453		85	II B3e	25×21	52	21.98			
38	II B4d	29×25	47	22.53				86	II B5j	31×21	26	20.98			
39	II B4f	28×22	58	22.42				87	II B5j	23×20	36	20.98			
40	II B5e	25×22	55	22.35	17×14			88	II B2d	25×23	15	24.35			
41	II B4d	24×21	28	22.56				89	II B2d	21×18	13	24.37			
42	II B4d	30×28	14	22.69				90	II B2d	29×25	19	24.31			
43	II B4e	25×23	42	22.58				91	II B2e	24×23	20	24.30			
44	II B4e	20×18	53	22.47	12×12			92	II B4f	56×40	56	21.44			
45	II B4f	24×23	60	22.50				93	II A4y	30×27	32	22.55			
46	II B5e	24×19	36	-				94	II B2f	31×30	24	24.16			
47	II B5e	23×21	32	-				95	II B3f	(53)×37	56	21.94			
48	II B4e	25×23	64	22.36				96	II B6l	22×20	18	21.13			

3 検出遺構と出土遺物

PNo	地点	開口部径 (cm)	深さ (cm)	底面標高 (m)	柱痕径 (cm)	出土遺物 No	備考	PNo	地点	開口部径 (cm)	深さ (cm)	底面標高 (m)	柱痕径 (cm)	出土遺物 No	備考
97	II B6l	22×21	23	21.08				136	II B1b	30×26	31	24.59	18×14		
98	II B6l	24×24	28	21.02				137	II B3f	28×24	51	22.99	23×20		
99	II B6m	26×24	15	21.20				138	II B4f	52×45	85	21.55			
100	II B5m	45×41	30	21.18				139	II B3e	26×23	29	22.16			
101	II B5m	16×15	22	21.38				140	II B4f	36×32	40	21.72			
102	II B4e	(40)×29	50	22.40				141	II B3e	32×31	35	22.14			
103	II B5k	33×31	34	21.13				142	II B5f	66×53	46	21.44			
104	II B5a	42×38	36	22.54				143	II B5e	75×48	96	20.34			
105	II B5b	33×32	35	22.15				144	II A5y	28×25	13	22.68			
106	II B5y	32×27	48	22.32				145	II B4a	47×42	17	22.60			
107	II B6b	36×33	25	21.83				146	II B4y	30×28	54	22.36			
108	II B4c	28×26	33	22.47				147	II B4a	33×29	54	22.09			
109	II B5b	42×37	30	21.84				148	II B4f	64×(35)	23	21.89			
110	II B4f	46×40	48	21.72				149	II B3e	66×41	36	22.10	30×22		
111	II B4f	49×46	65	21.54				150	II B4f	87×57	47	21.68			
112	II B4a	32×30	47	22.19				151	II B5a	31×26	28	22.33			
113	II B4e	67×59	83	21.47	29×23			152	II B4a	39×23	52	22.17			
114	II B4e	55×47	49	21.65				153	II B4e	46×42	65	21.73			
115	II B3e	33×29	41	21.89		457		154	II B3f	39×38	18	20.84			
116	II B4y	34×24	31	23.23				155	II B3f	95×83	78	21.64	47×40		
117	II B5c	30×23	48	23.42				156	II B11v	35×27	8	18.65			
118	II B4d	43×43	62	22.08				157	II B11v	22×19	4.8	18.65			
119	II B5c	34×28	18	21.86				158	II B11w	20×17	6	18.72			
120	II B5c	26×25	16	21.04				159	II B11w	31×30	20	18.60			
121	II B5f	41×32	55	21.45				160	II B11x	22×20	21.6	18.84			
122	II B5g	35×26	36	21.74				161	II B11y	20×18	15.2	18.82			
123	II B4d	35×23	46	22.34				162	II B11v	20×18	22	18.40			
124	II B5f	44×32	44	21.36				163	II B11w	23×20	9	18.78			
125	II B5a	39×35	30	22.40				164	II B11w	24×22	17.2	18.69			
126	II B4y	24×23	43	22.42				165	II B11w	27×26	20	18.68			
127	II B5j	29×25	51	20.94				166	II B11x	29×25	16.4	18.80			
128	II B5j	26×23	47	20.88				167	II B11x	27×24	18.8	18.72			
129	II B5j	38×33	55	21.04		458		168	II B11x	33×30	24	18.68			
130	II B5j	32×30	66	20.84				169	II B11x	19×17	18	18.75			
131	II B4b	77×52	72	22.08				170	II B11y	22×22	31.2	18.73			
132	II B4b	76×67	65	22.15				171	II B11x	20×18	14	18.76			
133	II B3e	(51)×(44)	92	21.88				172	II B11v	19×19	11	18.62			
134	II B4f	24×15	33	22.07				173	II B4d	35×33	47	22.24			
135	II B1d	34×31	31	24.29				174	II B6b	33×30	22				

第6表 陥し穴状遺構一覧

遺構名	地点	形状	開口部径(cm)	底部径(cm)	深さ(cm)	備考	出土遺物No	図版	写真
1号陥し穴状遺構	II B4a・5a	楕円状	103×88	59×43	64	副穴あり		80	101
2号陥し穴状遺構	II B5a・5b	隅丸方形	127×86	85×52	84	〃	437・438	80	102
3号陥し穴状遺構	II B2h	円形	125×121	114×106	43	〃		80	102
4号陥し穴状遺構	II B4h	円形	133×124	112×107	142	〃		80	102
5号陥し穴状遺構	II B3j・3k	楕円形	193×185	141×126	106	〃		81	102
6号陥し穴状遺構	II B3k	不整な形状	131×106	117×78	78	〃		81	103
7号陥し穴状遺構	II B4k	楕円形	170×150	149×113	75	〃	439	81	103
8号陥し穴状遺構	II A5x	溝状	425×19	449×15	154	両端オーバーハング	440・441	82	103
9号陥し穴状遺構	II A5y・II B5a	溝状	353×43	380×5	131	〃		82	103

(12) 遺構外出土遺物 (第 151 ~ 191 図、写真図版 147 ~ 176)

遺構外からは縄文土器、須恵器、石器、土製品、石製品、鉄製品、銭貨、陶磁器が出土した。

①土器

土器は縄文時代早期～平安時代のものが約大コンテナで170箱分、総量2487.8kgが出土した。このうち古代の土器は14.3kgである。縄文土器の出土量のうち約3/4にあたる1888.0kgが遺構外からの出土で、その大半が調査区東側のⅡ層（遺物包含層）からである。

第Ⅰ群土器 (459・460)

縄文時代早期の土器で調査区東側で2点出土した。いずれも深鉢の口縁部破片で文様は貝殻復縁文と沈線文による組み合わせで構成される。早期中葉の寺の沢式期の土器に該当する。

第Ⅱ群土器 (461～517)

1 類 (461～468)

前期前～中葉に位置づけられる大木2 a～2 b式に比定される土器群である。461～467は口縁部文様帯に横位の結節回転文 (461・462・464・466・468) が施文され、464は結節回転文後に刺突を伴う隆帯が貼付されている。胴部文様は斜縄文 (463)、組紐回転文 (462・466)、結束回転文 (463) など、467は表裏縄文が施文される。468は口縁部破片で口縁部に節のないS字状連鎖沈文が施文される。

2 類 (469～472)

前期中葉に位置づけられる大木3式に比定される土器片で細い沈線による弧状文が施文されている。469は二本一対の弧状沈線を重ねた文様である。471・472は頸部が狭まり、口縁部が大きく外反する形状を呈し、471の頸部には連続する刺突文が展開する。また頸部～胴部上半には次の3類にもみられる刻みのない粘土紐貼付による円文が展開している。

3 類 (473～481)

前期後葉に位置づけられる大木4式に比定される土器群で細い粘土紐による円文 (475)・小波状文 (475・476・480・481)・梯子状 (473・478・480) を口縁部や口唇頂部に貼付している。

4 類 (482～516)

前期後葉に位置づけられる大木5式に比定される土器群で円形のボタン状の突起が付くもの (482～487・494・495)、口縁部や口唇に沿ってに沈線文や刺突文、指頭押圧文を伴う幅広の隆帯を鋸歯状に貼付するもの (483・490～494・496)。胴部の縄文は単軸絡条体第1 A類、単軸絡条体第5類が多く施文される。504～506・507は頸部に指頭押圧による刺突文を伴う隆帯が巡り (504・506は剥落) 胴部は縄文のみ、512～516は粗製土器である。

第Ⅲ群土器 (518～662)

縄文時代中期の土器群で出土量が最も多い。土器形式は大木7 b式～8 b式、円筒土器上層 d式・e式が出土し、1～6類に細分した。また、文様がないことから細分は行っていないが、形態や胎土などから636～649の粗製土器、器台、異形 (木の葉型) の浅鉢もこの群に含まれると推測する。

1 類 (518・519)

中期前葉に位置づけられる大木7 b式に比定される土器群で口縁部に原体押圧文が施文されるもの

で浅鉢、深鉢の各1点が出土している。器形から帰属の時期と判断したが、破片の一部のため後続する大木8 a 式の前段階に含まれる可能性もある。

2類 (520~543)

中期中葉に位置づけられる大木8 a 式に比定される土器群の中で形態が大木7 b 式と異なり、口縁部を中心に縄文原体押圧文で文様が描かれたものを同型式の前段階とした。器種は深鉢と浅鉢である。深鉢の形態にはキャリパー形と長胴形の2種があり、520~529がキャリパー形の形状を呈し、527~529は波状口縁を呈する。口縁部の文様帯は原体押圧文により方形・三角形に大きく区画し、区画内部は原体押圧による波状文や隆帯による渦巻文、沈線文により施文されている。520・521は口縁上部~頂部に隆帯による突起が付く。長胴形の深鉢は530~537で530は平縁で口縁部に横位の原体押圧文、その下に沈線による鋸歯状文と直線沈線文が施文される。531・533は口縁部に縦位の原体押圧文を連続して施文している。533の口唇頂部に隆帯による円形の突起が付く。532は縦位の原体押圧文を連続して施文された波状の隆帯が口唇部に貼付し、口縁部は原体押圧文が施文された隆帯による区画と原体押圧文による円文が展開している。534は口縁部を横位の原体押圧文により区画し、突起部分は原体押圧文と指頭押圧文により円形を呈する。535は口唇頂部に突起が付き、口縁部に2本の横位沈線文、その下に原体押圧による連続する弧状文が横位に展開している。536は口唇部に山形突起が並び、口縁部は原体押圧文により区画され、その中に原体押圧による波状文を展開している。537も同様に口唇部に突起をもち口縁部は原体押圧文により区画されている。528・536は口縁部が隆帯による方形区画と区画内に原体押圧に波状文などが描かれている。よる文様による文様は口縁部と頸部下までである。浅鉢は538~543で形状は口縁部が内側に屈曲する。543以外は口縁部を含む破片である。540・543の口縁部には突起が付く。口縁部は隆帯により区画され、区画内に原体押圧文を充填する。541~543は胴部中段付近まで原体押圧文による文様が展開している。

3類 (544~620)

中期中葉に位置づけられる大木8 a 式に比定される土器群のうち形態が前段階と類似するが、文様が原体押圧文から沈線や隆帯で描かれる土器群で新段階とした。器種は深鉢と浅鉢である。深鉢の形態にはキャリパー形と長胴形の2種類ある。544~553はキャリパー形の形状を呈する平縁の深鉢で口縁部文様は沈線により均等に区画されるもの(544)、沈線や隆帯でクランク状文が施文されるもの(545・546)や波状文を横位に巡らせるもの(547~549)、隆沈線を三角形状に巡らせるもの(550~552)やこれが崩れたような文様のものもある(553)。554の口縁部文様帯は無文である。555は平縁口縁の頂部に隆帯による突起が付くもので口縁部文様帯に隆帯で三角形状の文様が展開している。また、557は胴部に縦位の波状沈線文が施文されている。556~575はキャリパー形の器形で口唇頂部に突起が付き、波状口縁を呈する深鉢である。556~559は小型の突起が付き、緩い波状を呈するが、560~575は大型突起を頂部とし、大きな波状を呈する。口縁部文様帯は沈線・隆沈線を三角形状に巡らせるもの(556~558・560・564・568)、隆沈線による横位のS字状(564)、隆沈線による渦巻文(556・559・562・563~569)などが組み合わさった文様が展開され、突起は台形状の形状を呈する大型の突起が付くものが多く(561~563・567~573)、突起の中心に円孔を伴うもの(569・570)や把手が付いているものがある(571~573)。文様は弧状の沈線により、小渦巻文を連結するもの(561)、隆帯による渦巻文が展開するもの(568)、細い粘土紐状の隆帯貼付による渦巻文(571・572)が施文されている。長胴形の深鉢(576~587)は平縁口縁と波状口縁の形状に大きく分かれる。平縁口縁には口唇頂部に突起がなく平縁のもの(576)、口唇頂部に突起があり突起部分のみ波状となり、上部に盛り上がるもの(577~582)がある。口縁部文様は隆帯による無文帯(576)、渦巻文(577~579)、横位

のS字状文、円文(581)、また刺突文(582)、原体押圧文を伴う隆帯による文様が展開している。胴部文様帯は沈線文・隆帯で描かれ、580・581・587は胴部上位に3条の平行沈線と区画内に波状沈線文、584は沈線によるクラック状文、585は隆帯による緩い渦巻文が施文されている。588～599は波状口縁を呈する深鉢である。588は口縁部は隆帯による無文帯で胴部に沈線による渦巻文が描かれている。589・590は同一個体と考えられる小型の深鉢で口縁部は無文、胴部は縦位の隆沈線により区画されている。591は口縁頂部に大小の突起が付き、口縁～胴部上位に沈線による区画文・渦巻文・小波状文が展開している。592～596は口縁部・口唇頂部に隆帯によるS字状、渦巻状の突起が付く。597は口縁部が無文帯で頂部に隆帯による大型の突起が付くが、大きく欠けている。胴部は縄文の上から細い隆帯による渦巻文を展開している。600～607は浅鉢で600～602は口縁部に縦位に連続した原体押圧文が施文されている。603・604は口縁部と胴部を隆帯で区画し、口縁部には603が隆帯による渦巻文、604は隆沈線による文様が展開している。605・606は口縁部が波状で、波頂部に隆帯による渦巻文が付く。

4類(611～635)

中期中葉に位置づけられる大木8b式に比定される土器群で文様に隆沈線による渦巻文や有棘文が施文される土器を含む。形態や文様構成から細分は可能と考えられるが、破片が多いため一括して掲載した。器種は深鉢と浅鉢である。深鉢は平縁口縁のものと波状口縁のものがある。611・612はキャリパー形の形状を呈する平縁の深鉢で口縁部文様は隆沈線による渦巻文が施文されている。613～616は平縁口縁で口縁部文様が無文のものである。頸～胴部の文様は613が頸部に刺突を伴う沈線文、渦巻文、614は胴部に3条の沈線を連結させた文様が描かれている。615・616は頸部に連続する刺突文、胴部に縦位の単軸絡条体第1類が施文される。617～625は波状口縁の深鉢であるが617～620は口縁部が無文で口縁部が開く形状を呈する。頸～胴部の文様は617が頸部に連続する刺突文で胴部は隆帯による渦巻文である。618・619は隆沈線による文様が展開し、620が沈線による文様が頸部は横位に直線に引き、胴部に縦位の波状文を多く使用している。621も口縁部が開いた形状で、文様は口縁～胴部まで縄文のみ施文される。622～625は波頂部に突起が付くもので622・623は口縁部に連続する刺突文、胴部に隆沈線による渦巻文が施文される。622は円孔を伴う突起である。624は口縁部が隆帯による渦巻文、胴部が隆沈線による区画文と渦巻文が施文される。625は口縁部突起に横位のS字状隆帯が付き、口縁部は隆帯による渦巻文が展開している。626～629は深鉢の胴部破片で文様に沈線文、隆帯による渦巻文が施文されている。630・631は突起部分で隆帯による渦巻文を伴う。632は小型の深鉢で口縁部無文、頸部に横位の円形刺突文、胴部に沈線文が描かれている。633・634は深鉢の胴部で、口縁部を欠く。634は隆沈線による渦巻文が施文されている。635は形状から樽形を呈する深鉢の頸部付近の破片と推測される。口縁部に隆帯による渦巻文を伴う橋状突起が付く。

5類(608)

中期中葉に位置づけられる円筒土器上層d式に比定される土器群で1点出土した。三角形の文様が原体押圧を伴う隆帯貼付によって施文される。(608)

6類(609・610)

中期中葉に位置づけられる円筒土器上層e式に比定される土器群で2点出土した。三角形の文様が沈線により施文され、口唇端部に波状の隆帯を貼付している。(609・610)

第IV群土器

縄文時代晩期の土器で底部破片1点が出土した。(663)

第V群土器

奈良～平安時代の土器（土師器・須恵器）を本群とした。主に遺構内（30～36号竪穴建物）から出土し、遺構外から出土したのは須恵器甕の口縁部破片1点のみである。872は攪乱中から出土したもので器体外面に刻書による文字が記されている。

②石器

遺構外からは出土した剥片石器は石鏃、石錐、石匙、石篋で定形以外のものは石核、スクレイパーである。礫石器は磨製石斧、磨石類、石皿、石棒、石剣、石刀で、このうち磨石類は磨痕以外に敲打痕、凹痕などの使用痕が確認できるものも含まれる。

石鏃（652～692）

遺構外から出土した41点を掲載した。基部はI類が39点、II類が2点でI類が大半を占める。基部の形状ではA類（凹基）24点、B類（平基）12点、C類（円基）5点である。I類は全てA類とB類で、II類はB類3点、C類2点である。I A類では基部の抉れが深いもの（652～657）と浅いもの（658～675）があり、I B類に近いものも含まれている（672～675）。石材は656が凝灰岩で他はすべて北上山地産の頁岩を使用している。

石錐（693～699）

遺構外から出土した7点を掲載した。摘み部を有するI類が4点、摘み部が作出されず、錐状の端部とが一体となるII類は3点である。石材はすべて北上山地産の頁岩を使用している。

石匙（700～715）

遺構外から出土した16点を掲載した。摘み部に対し、作出された刃部の向きにより、3分類した。刃部が縦方向に付くI類は11点（700～710）、刃部が横方向に付くII類は1点（715）、刃部が斜方向に付くIII類は4点である。石材はすべて北上山地産の頁岩を使用している。

石篋（716）

遺跡内で1点のみ出土した。剥片を素材とし、周縁部を篋状に整形したもので下端に刃部を作出している。石材は北上山地産の頁岩が使用されている。

不定形石器（717～722）

遺構外から出土した6点を掲載した。剥片石器のうち定形化した形状をもたず、縁辺部に二次加工による刃部をもつ。717～722はすべて刃部に角度が60°未満の削器（スクレイパー）で、石材は北上山地産の頁岩が使用されている。

石核（723～725）

遺構外から3点出土した。石器の原材で、剥片石器製作の工程で剥片を剥がし、残存したもので石質は723・724が頁岩、725が細粒閃緑岩である。

磨製石斧（726～743）

遺構外から出土した18点を掲載した。原石を剥離や敲打によって整形した後、研磨により仕上げられた石斧を磨製石斧とした。形状や大きさなどに差異が見られるが大半が基部や刃部が欠損したもののため分類は行っていない。石材の内訳は蛇紋岩9点、頁岩4点、細粒閃緑岩3点、玢岩2点である。734は器面全面に製作時の剥離痕と研磨痕が残っていることから製作段階の未製品の可能性が考えられる。

磨石類（744～786）

遺構外から出土した43点を掲載した。敲打痕跡の確認できるものも含まれるため「磨石類」とした。平面形状→研磨痕→研磨痕以外の使用痕により群→類→種を設定した（15頁参照）。内訳はI群11点、II群7点、III群7点、IV群9点、V群5点、VI群3点、VII群1点、である。I群ではA類4点、B類6点、使用痕跡も2種が半分を占める。このうち753は形状からI群としたが下両端部に敲打痕跡があり、使用目的が他とは異なる可能性がある。755～761はII群でA類2点、C類3点、D類2点である。使用痕跡は1点（756）のみ2種で他は研磨痕以外の使用痕が認められない。III類は762～768で研磨痕跡は762がC類で他はすべてD類である。研磨痕以外の使用痕は3点が3種、他は1種である。768は片側端部が細くなっており、磨製石斧に似た形状を呈する。769～777はIV群で側面片側の研磨により半円状の形状を呈するもので、すべてに剥離が認められる。777はIV群としたが、側面両側が研磨により扁平な形状を呈する。778～782はV群ですべてに剥離が認められる。783～785はVI群で側面に磨面が認められる。784は研磨痕以外に凹痕が認められる。VII群は786の1点のみで楕円形の磨石の両端が尖り、多角形となっている。

石皿（787～794）

遺構外から出土したものを8点掲載した。石材に自然礫をそのまま使用したI類が5点（787～791）、縁辺部を加工し、一定の形状に成形されているものが3点（792～794）である。いずれも破片で石材には砂岩・流紋岩が使用されている。

砥石（795・796）

遺構外から2点出土した。形態は一定ではなく、表面に研磨によるものと推測される溝状の痕跡が認められるものでいずれも破片である。石材は795が砂岩、796が流紋岩である。

石棒・石刀・石剣（797～803）

遺構外から出土した7点を掲載した。いずれも破片で797～801が石棒、804・805が石刀・石剣の一部と考えられる。石材には797～801は砂岩・流紋岩、804・805は頁岩が使用されている。

③石製品（804～814）

遺構外からは11点出土した。いずれも竪穴建物周辺からの出土で本来は遺構に付随するものと考えられる。種類は垂れ飾り1点（804）、玦状耳飾り7点（805～811）、有孔円盤1点（812）、円盤状石製品1点（813）、有孔石製品1点（814）である。石質は804が蛇紋岩、807が頁岩、809・814が凝灰岩、813が花崗岩、他は滑石を使用している。

④土製品 (815～858)

縄文時代の土製品は円盤状土製品41点が遺構外から出土し、半数を超える24点が1/3～1/2が欠けている。形状はいずれも円形を基調としているが、成形のため周縁を打ち欠いたものの中には多角形ないし、歪な形状を呈するものがある(822・823・833・835・844・862・865・867)。他に不明土製品1点(857)が出土している。形状は三角形・台形状で表面に木葉痕が残っている。奈良時代の土製紡錘車1点(871)が出土した。中心に孔を有し、断面形状は台形状を呈する。表面にはミガキが施されている。位置的には30号竪穴建物に付随するものである可能性が高いと考えられる。

⑤鉄製品 (859～863)

遺構外から出土した5点を掲載した。4点は表土もしくは攪乱土からの出土である。859は鉄鏃で先端が欠けているため鏃身の形状は不明、長さは残存値で13.8cmを測る。860は刀子で両端を欠く。刃部は直線的な形状で、関は刃部側が角関、刀身背側が無関である。刃部は鋭利に尖っている。861は釘、862は刀子(小刀)の基部、863は器種不明で細長い板状の形状で両端を欠く。長さは6.6cm、幅1.5cm、厚さ0.4cmを測り、片側端部に加工痕が認められる。

⑥銭貨 (864～871)

遺構外から出土した8点を掲載した。いずれも攪乱および表土除去後の検出作業中に出土したものである。素材はすべて銅で、銭名が判読できたのは864～867の4点で864が熙寧元寶、865が元豊通寶、866が政和通寶、867が永樂通寶である。868は一部判読可で■■元寶と読める。

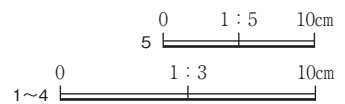
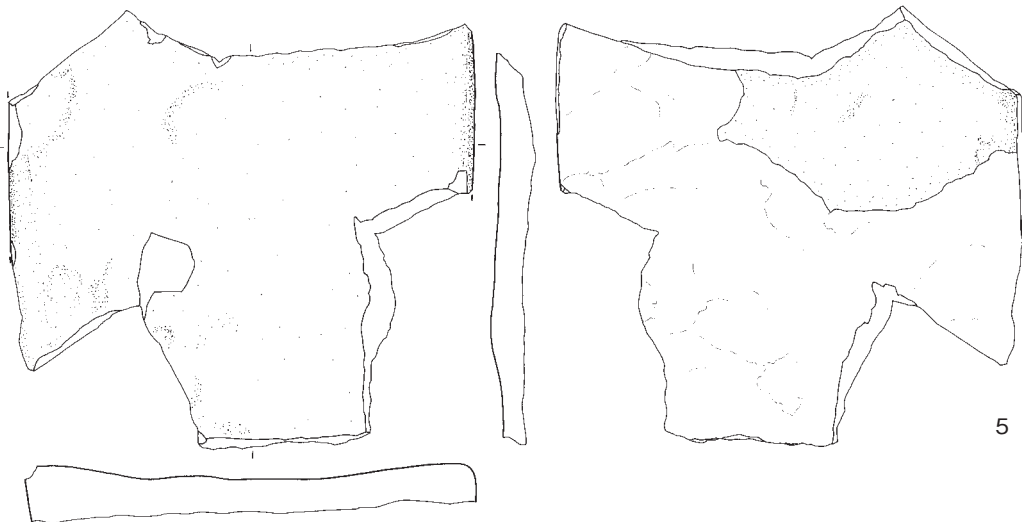
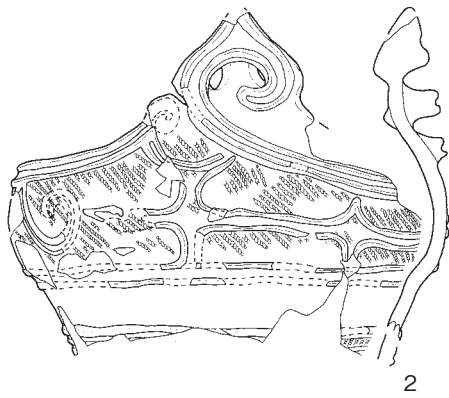
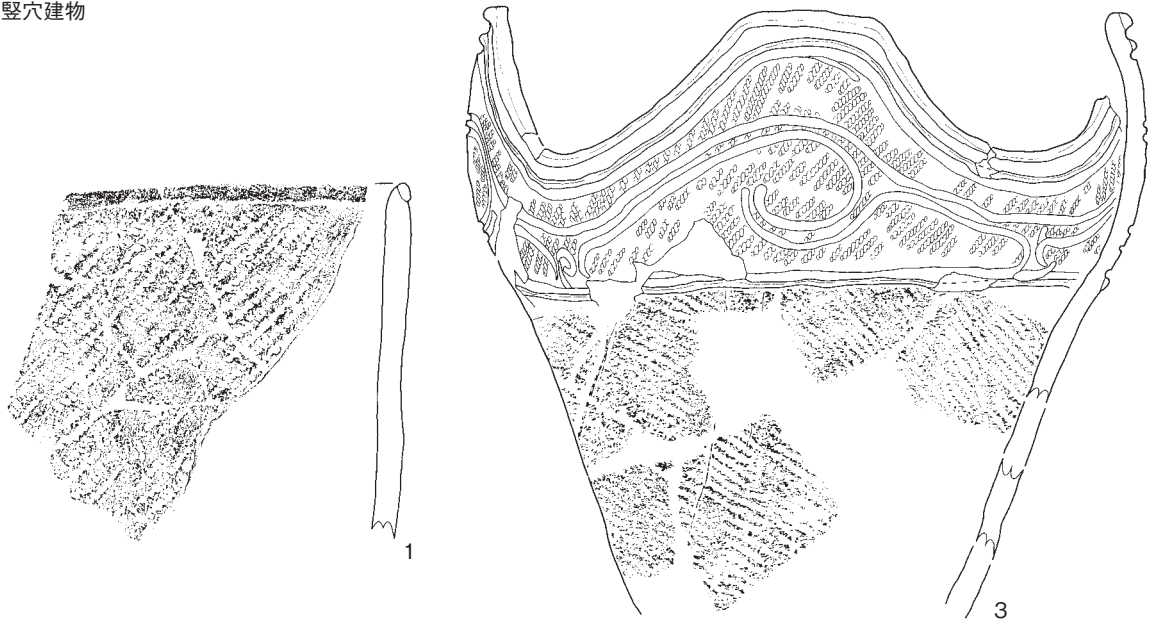
⑦須恵器 (872)

表採で取り上げた須恵器1点を掲載した。器種は甕の頸部～胴部の破片で外面に刻書による文字が書かれている。

⑧陶磁器 (873～875)

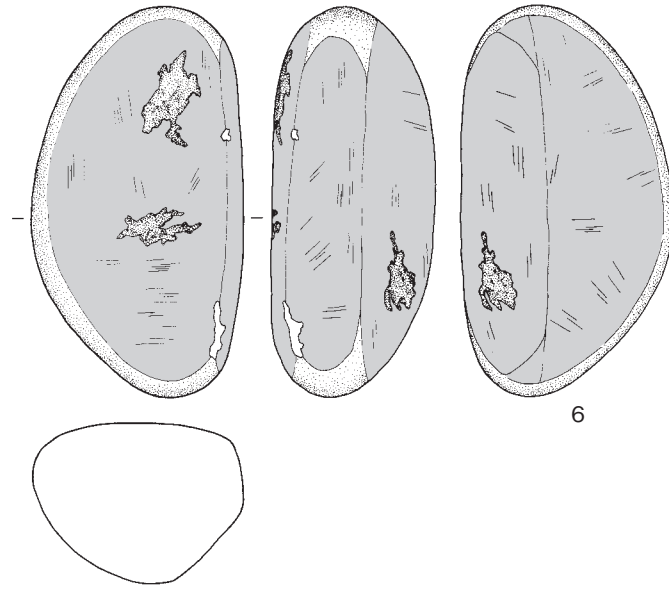
3点を掲載した。873はⅡB11xグリッドの攪乱土から出土した陶器で瀬戸・美濃産の播鉢の口縁部破片と考えられる。874は肥前産の唐津皿で時期は16世紀末～17世紀初頭、875は中国産の青磁碗の口縁部破片で時期は15世紀末頃である。

1号竖穴建物



第90図 遺構内出土遺物 1

2号竖穴建物



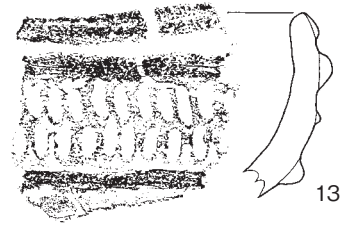
3号竖穴建物



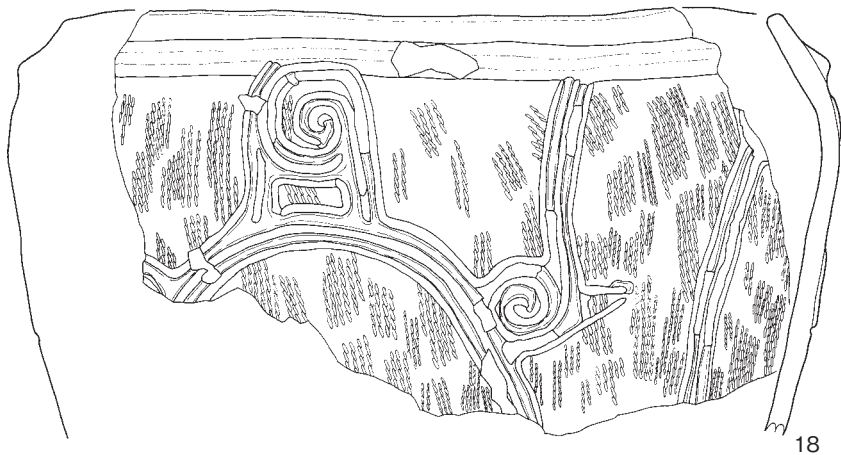
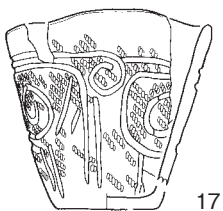
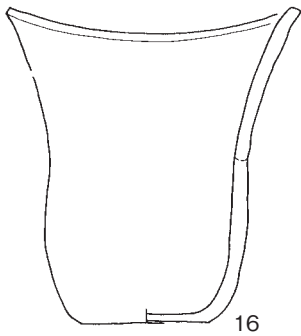
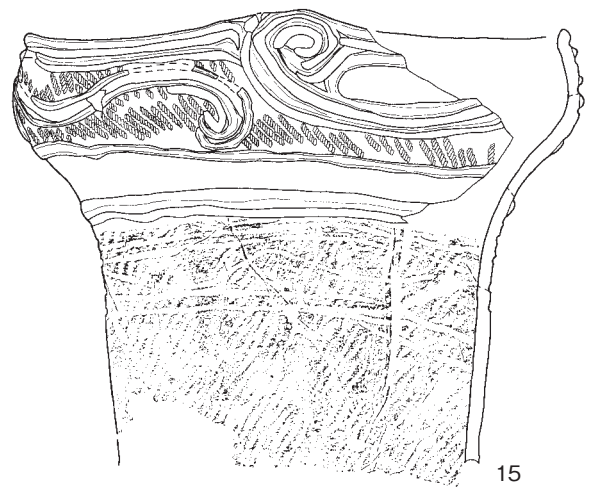
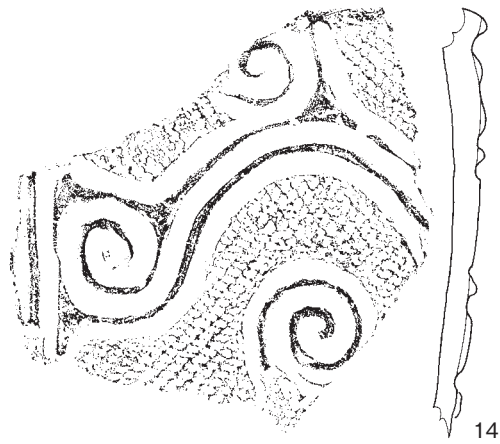
0 1:3 10cm
6~10

第91図 遺構内出土遺物2

4号豎穴建物



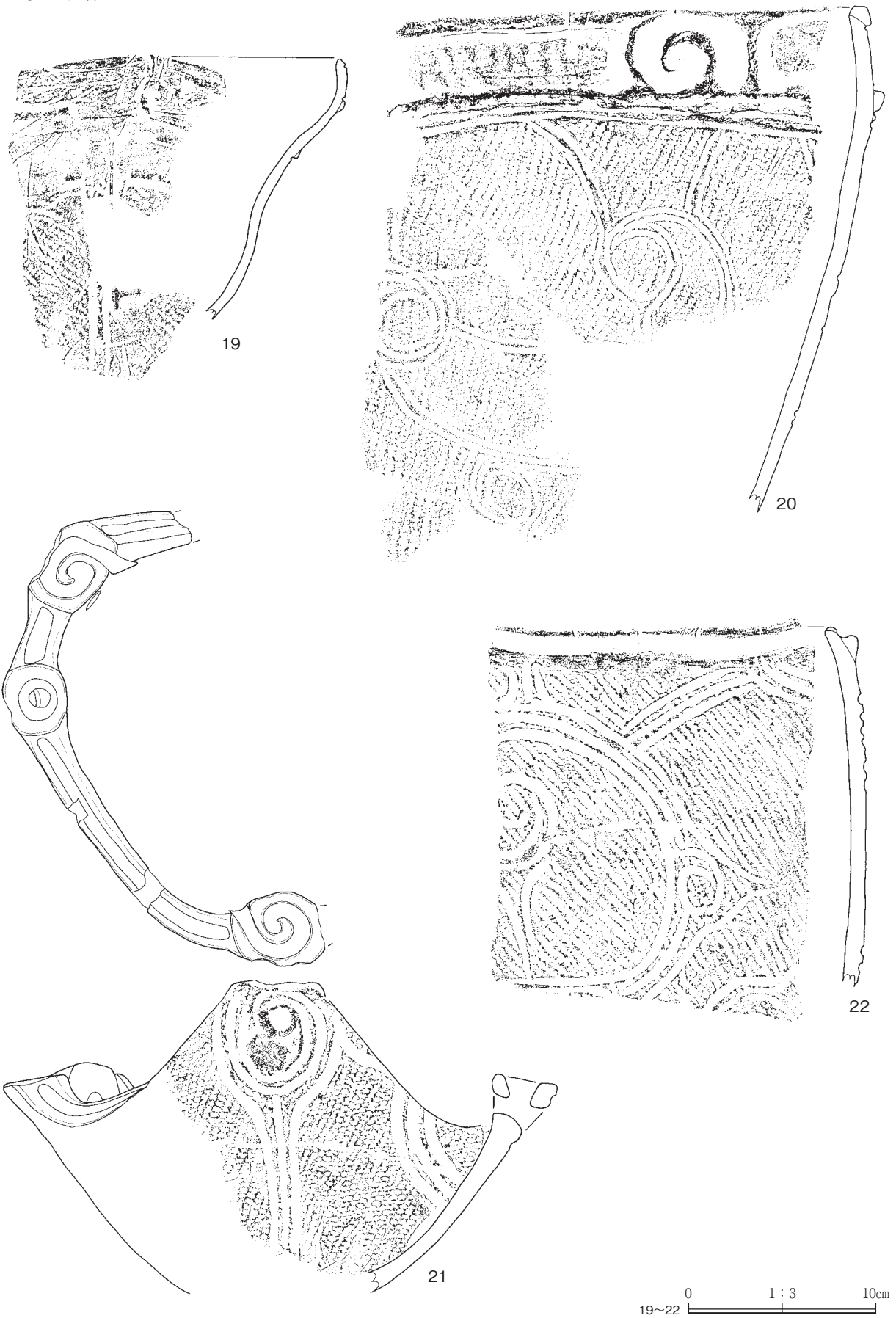
5号豎穴建物



0 1:3 10cm
11~18

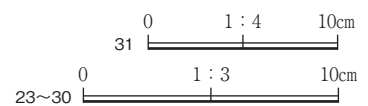
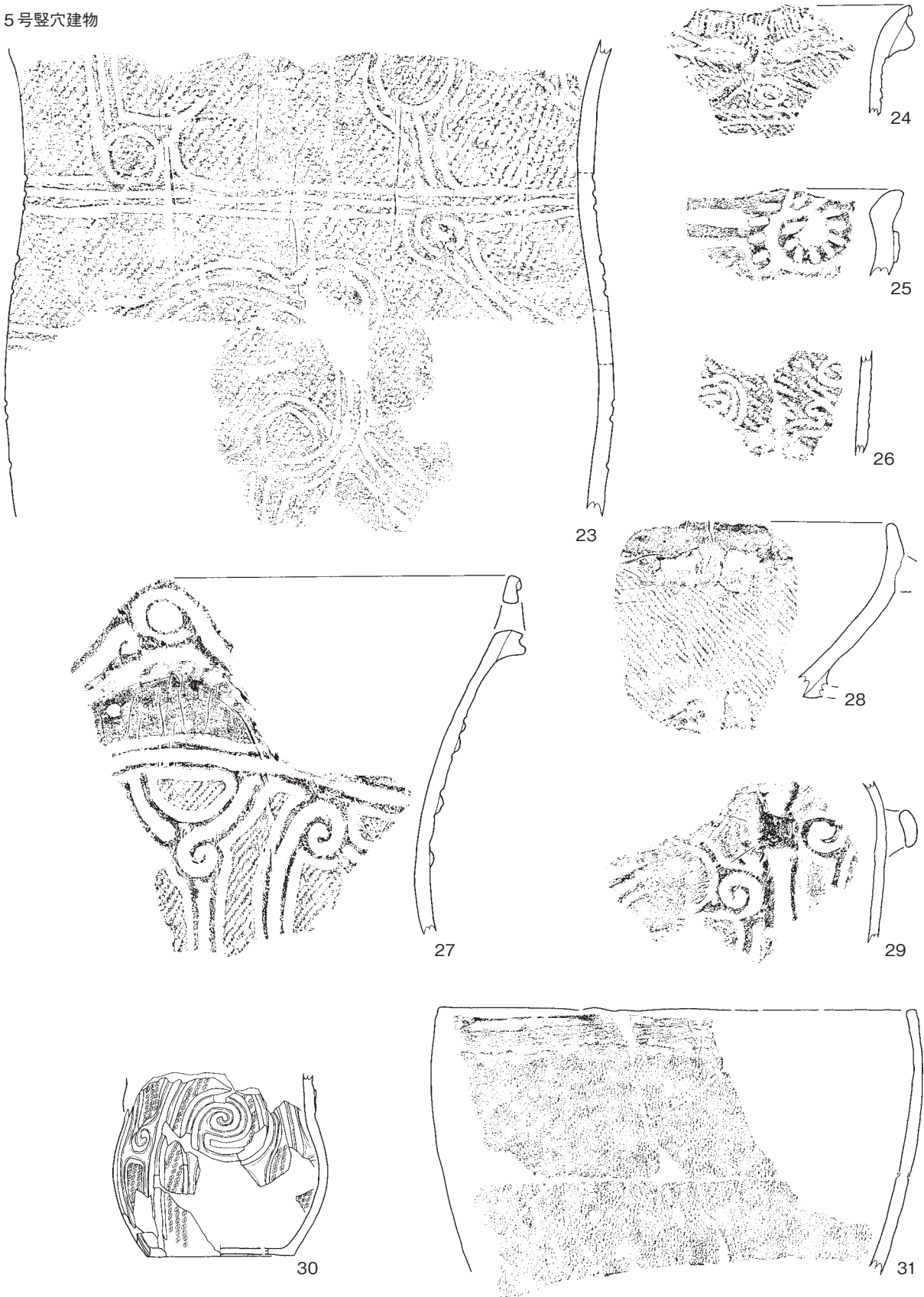
第92図 遺構内出土遺物 3

5号竪穴建物



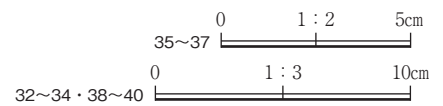
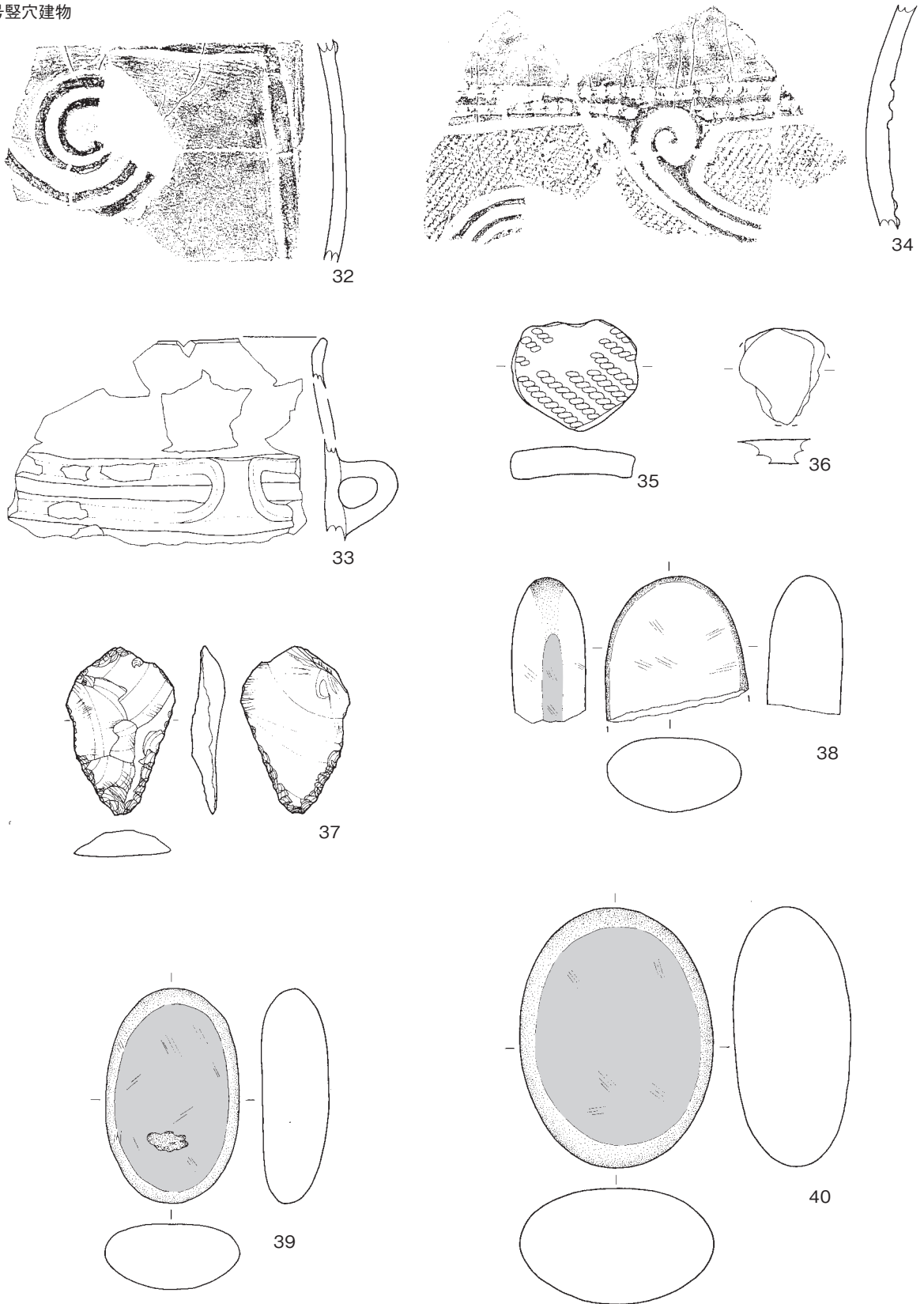
第93図 遺構内出土遺物 4

5号竖穴建物



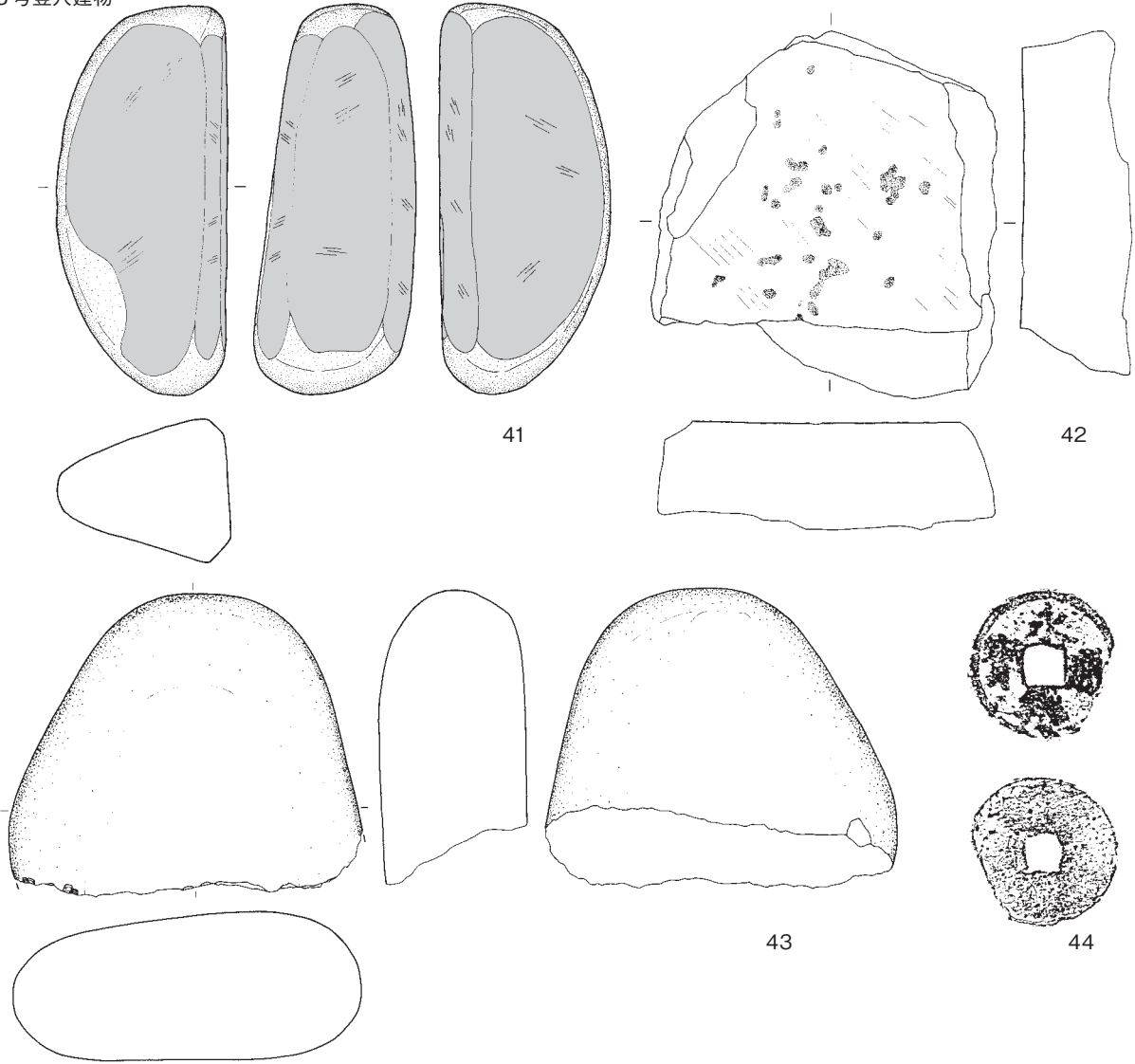
第94図 遺構内出土遺物 5

5号竪穴建物

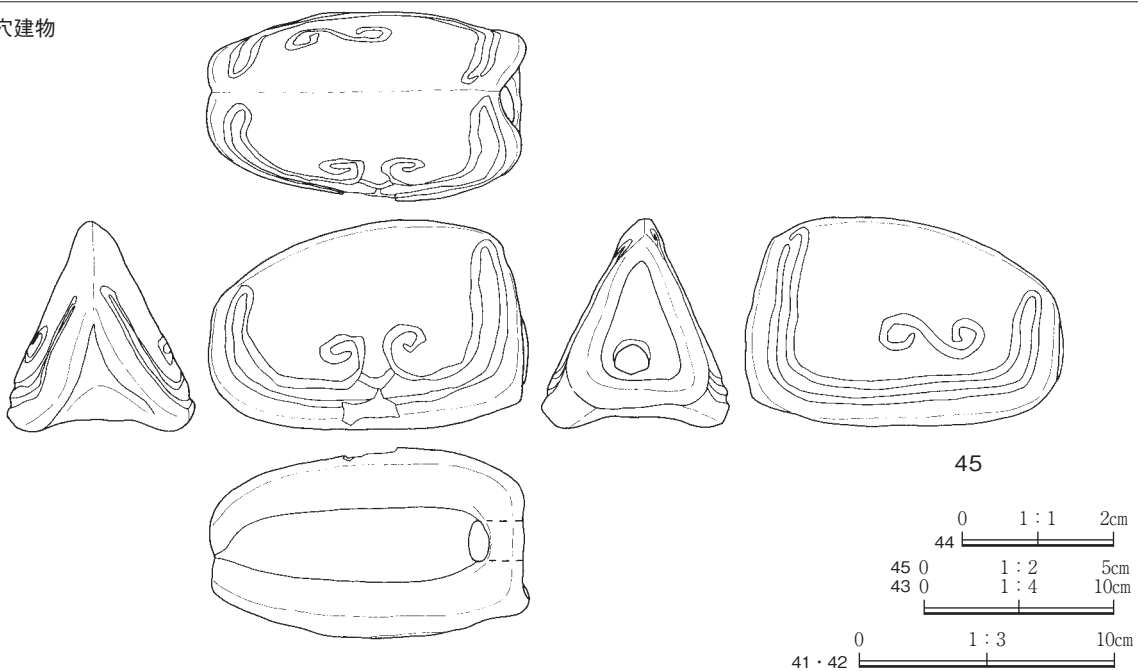


第95図 遺構内出土遺物6

5号竖穴建物

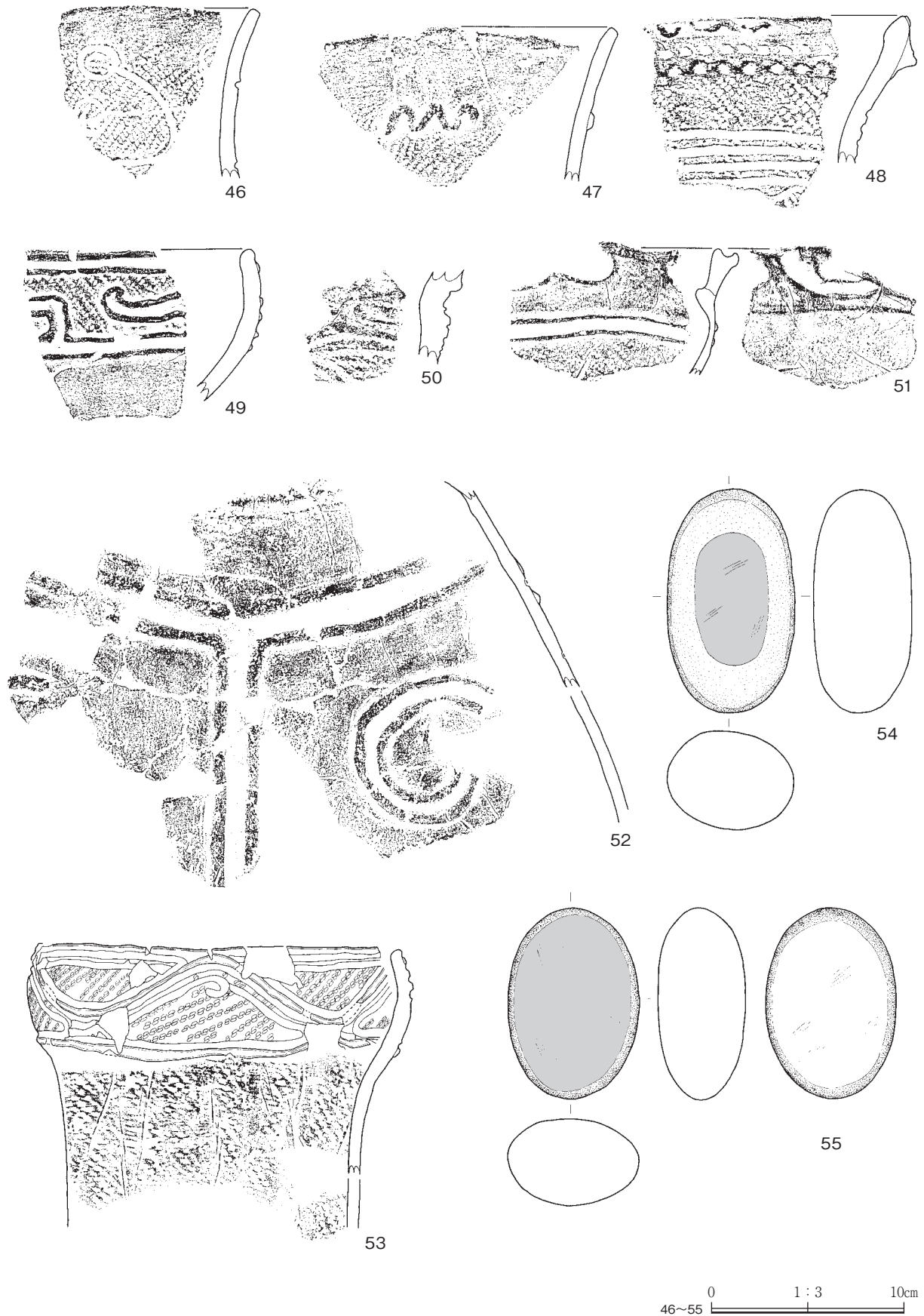


6号竖穴建物



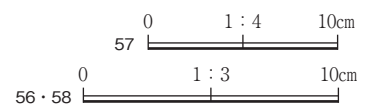
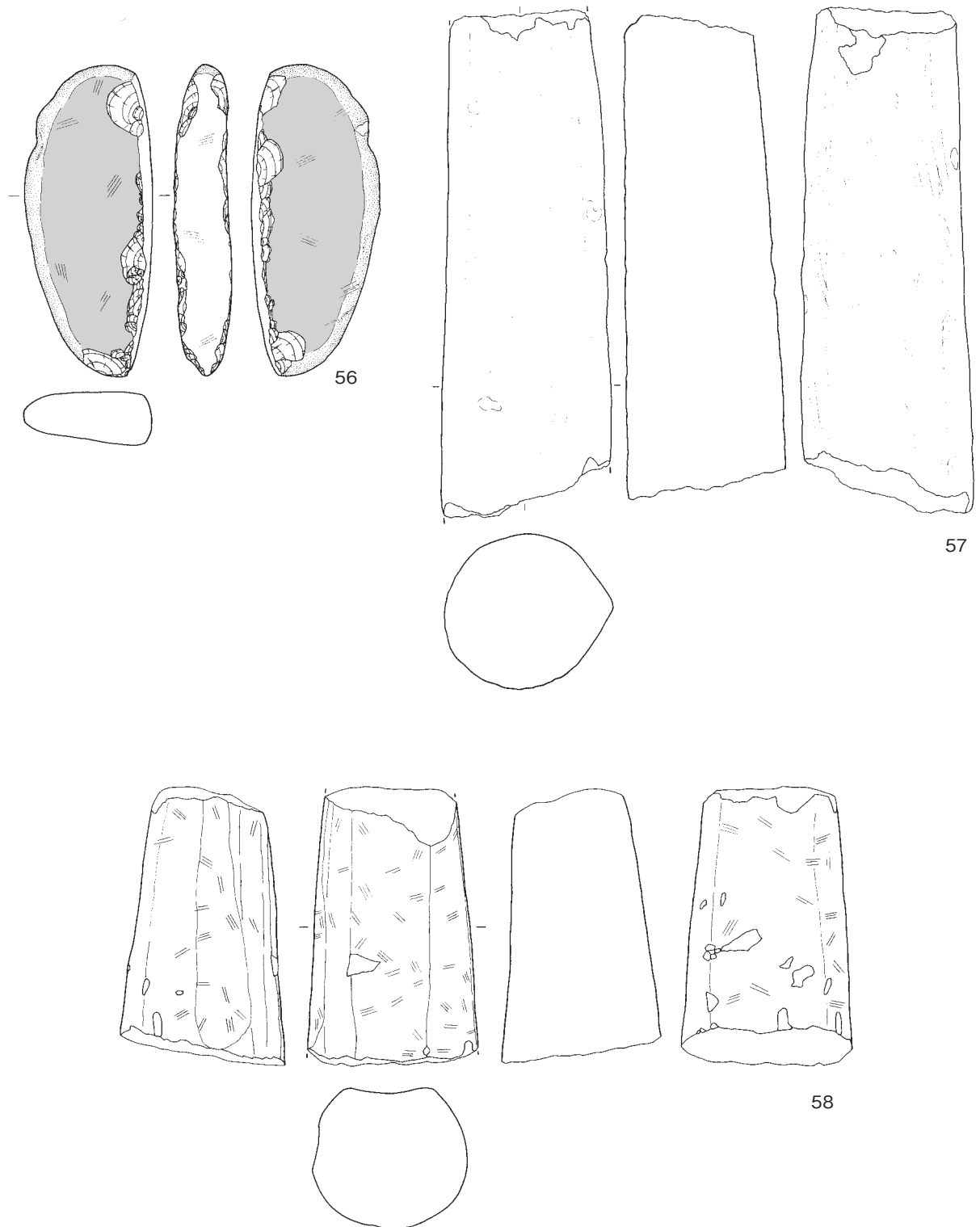
第96図 遺構内出土遺物 7

8号竪穴建物



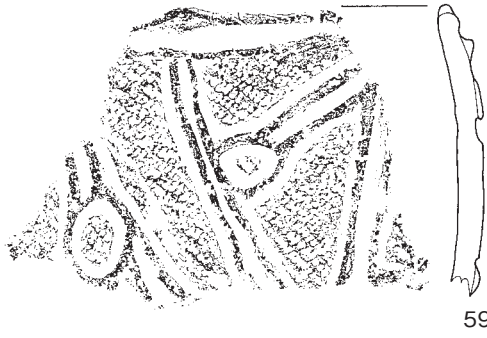
第97図 遺構内出土遺物 8

8号竖穴建物

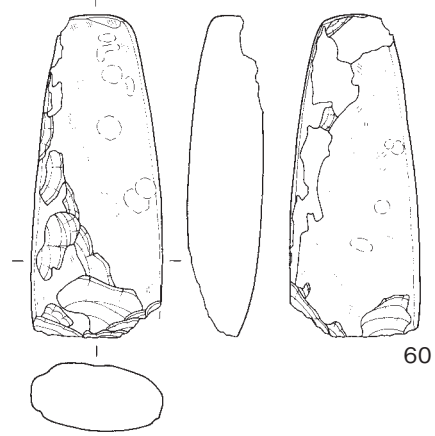


第98図 遺構内出土遺物9

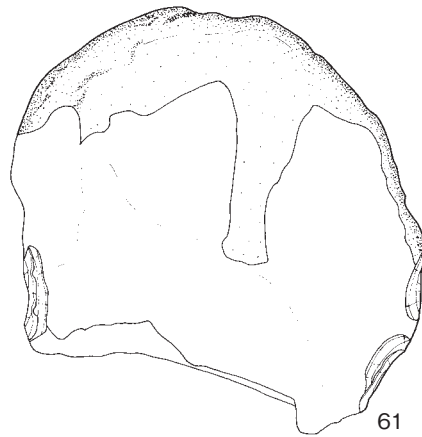
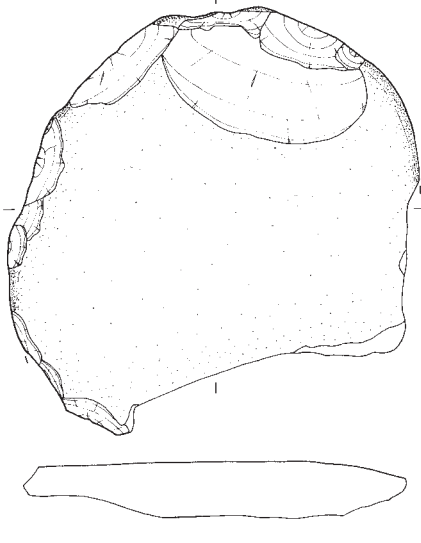
9号竪穴建物



59



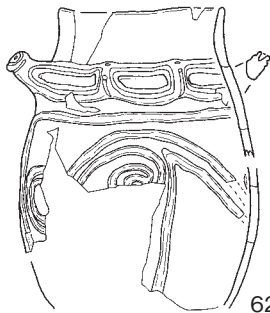
60



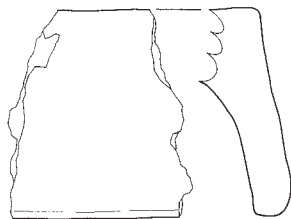
61



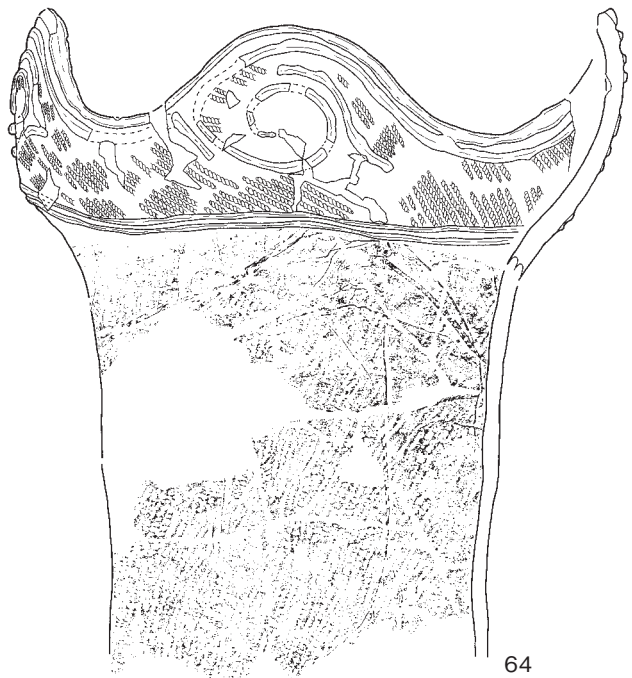
10号竪穴建物



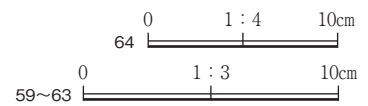
62



63

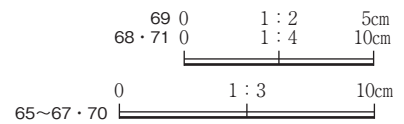
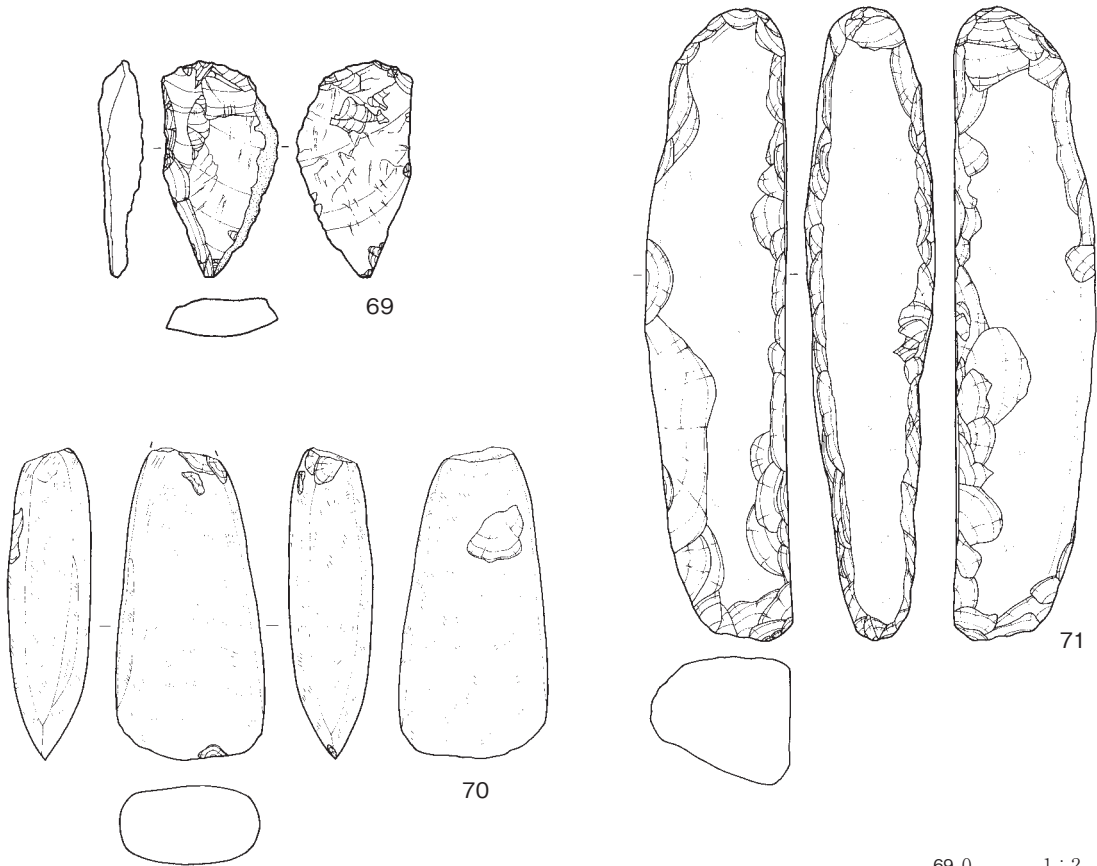


64



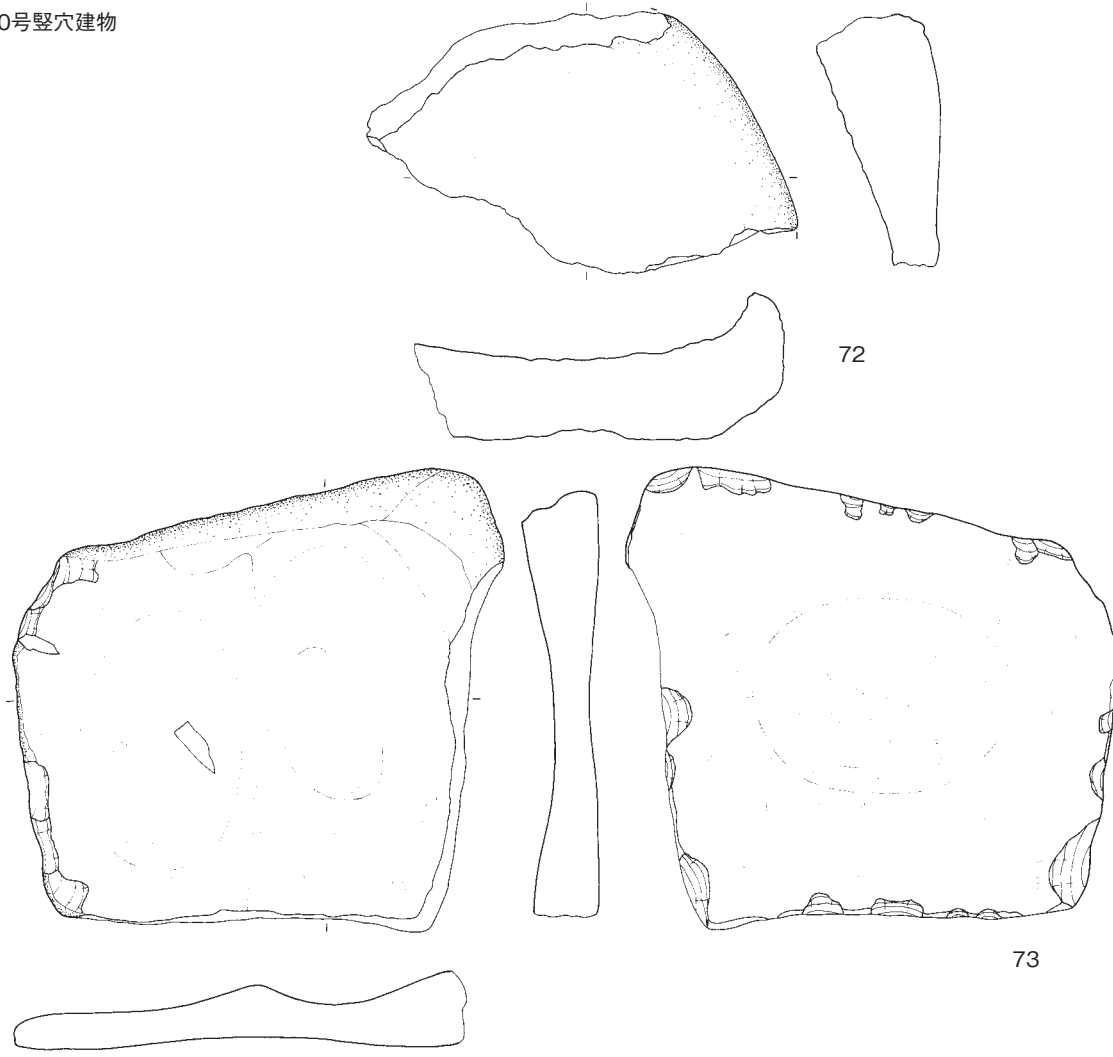
第99図 遺構内出土遺物10

10号竖穴建物

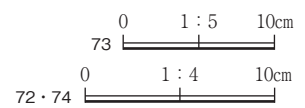


第100図 遺構内出土遺物11

10号豎穴建物

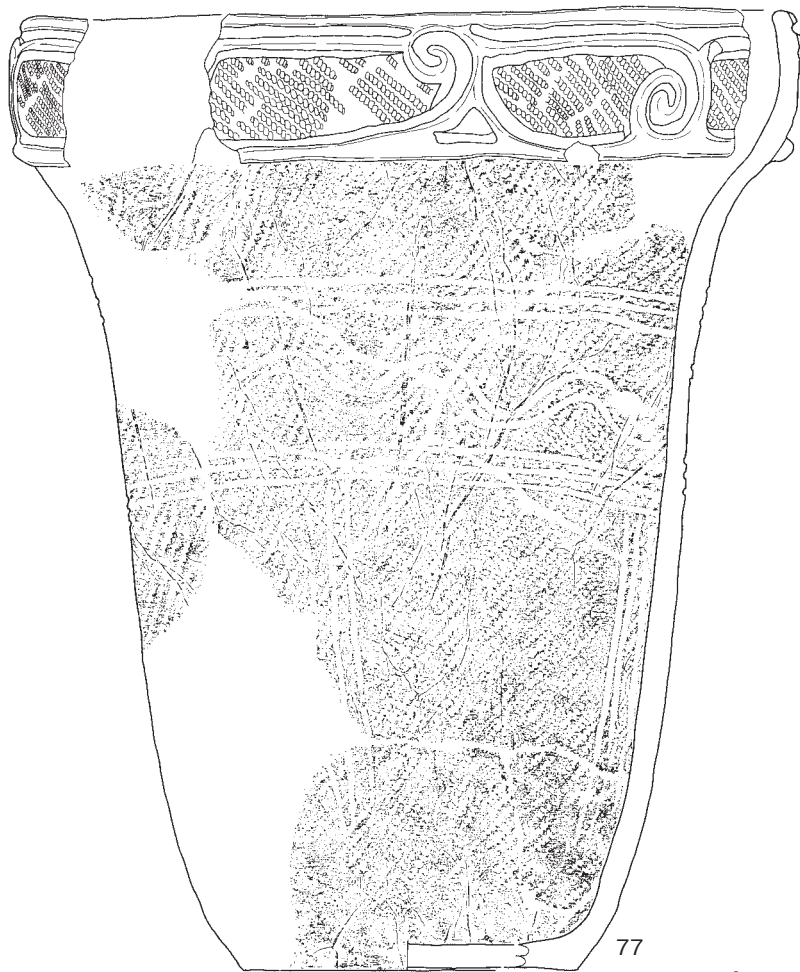
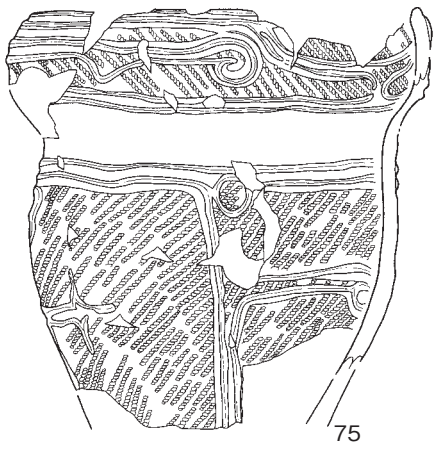


11号豎穴建物



第101図 遺構内出土遺物12

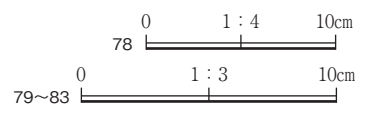
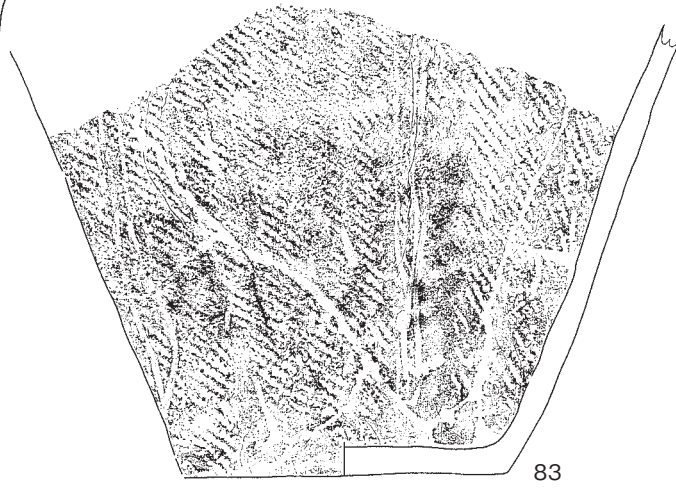
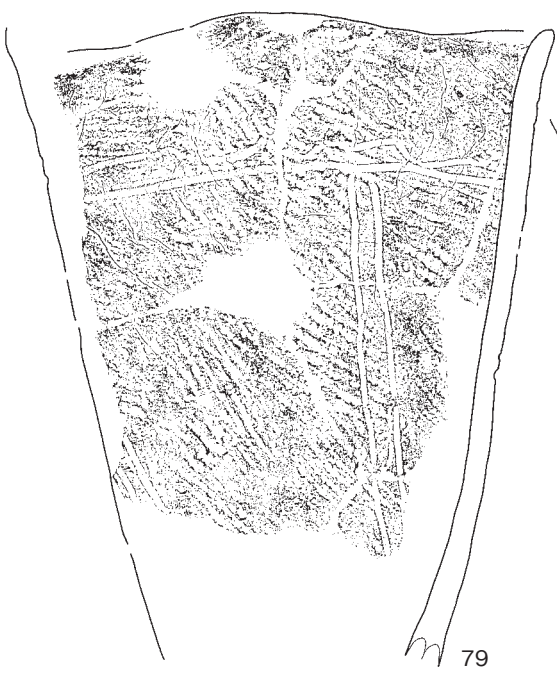
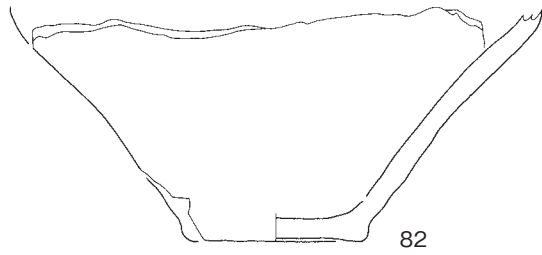
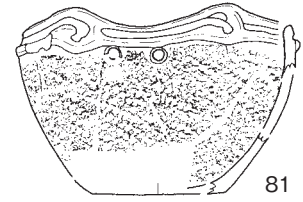
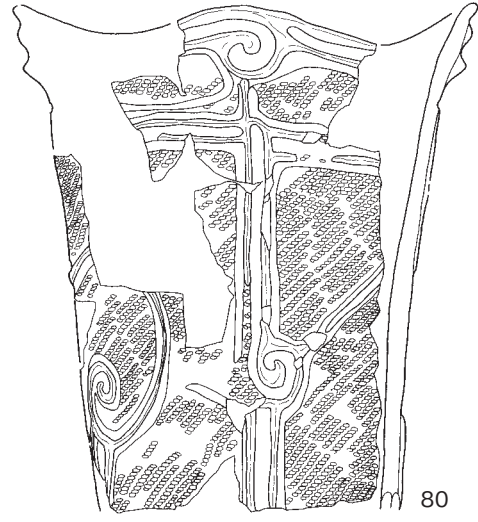
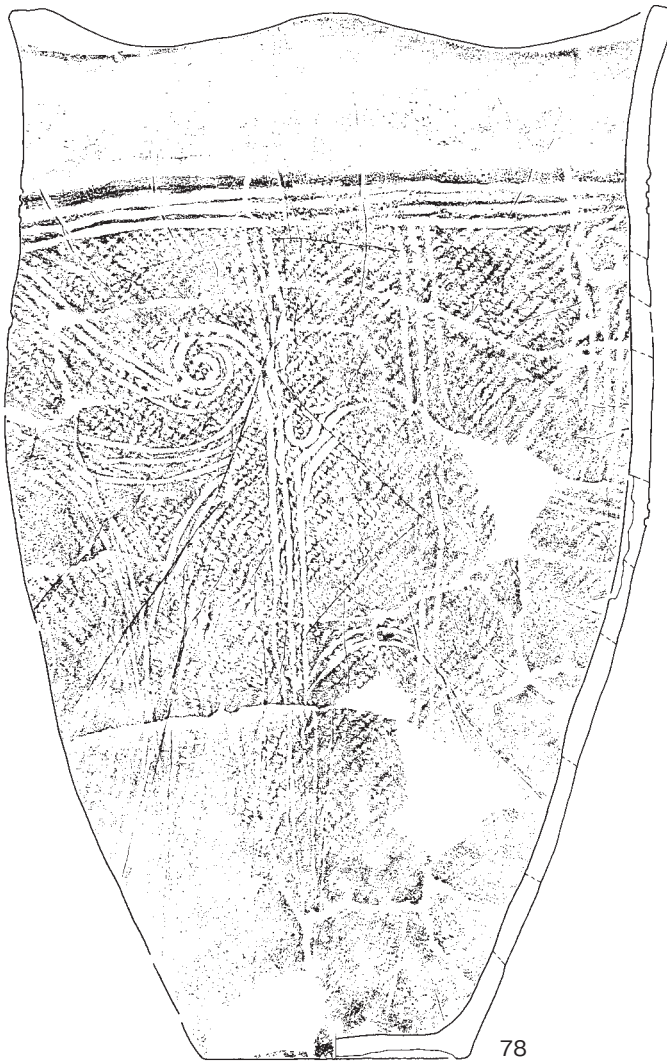
11号竖穴建物



0 1:3 10cm
75~77

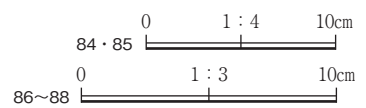
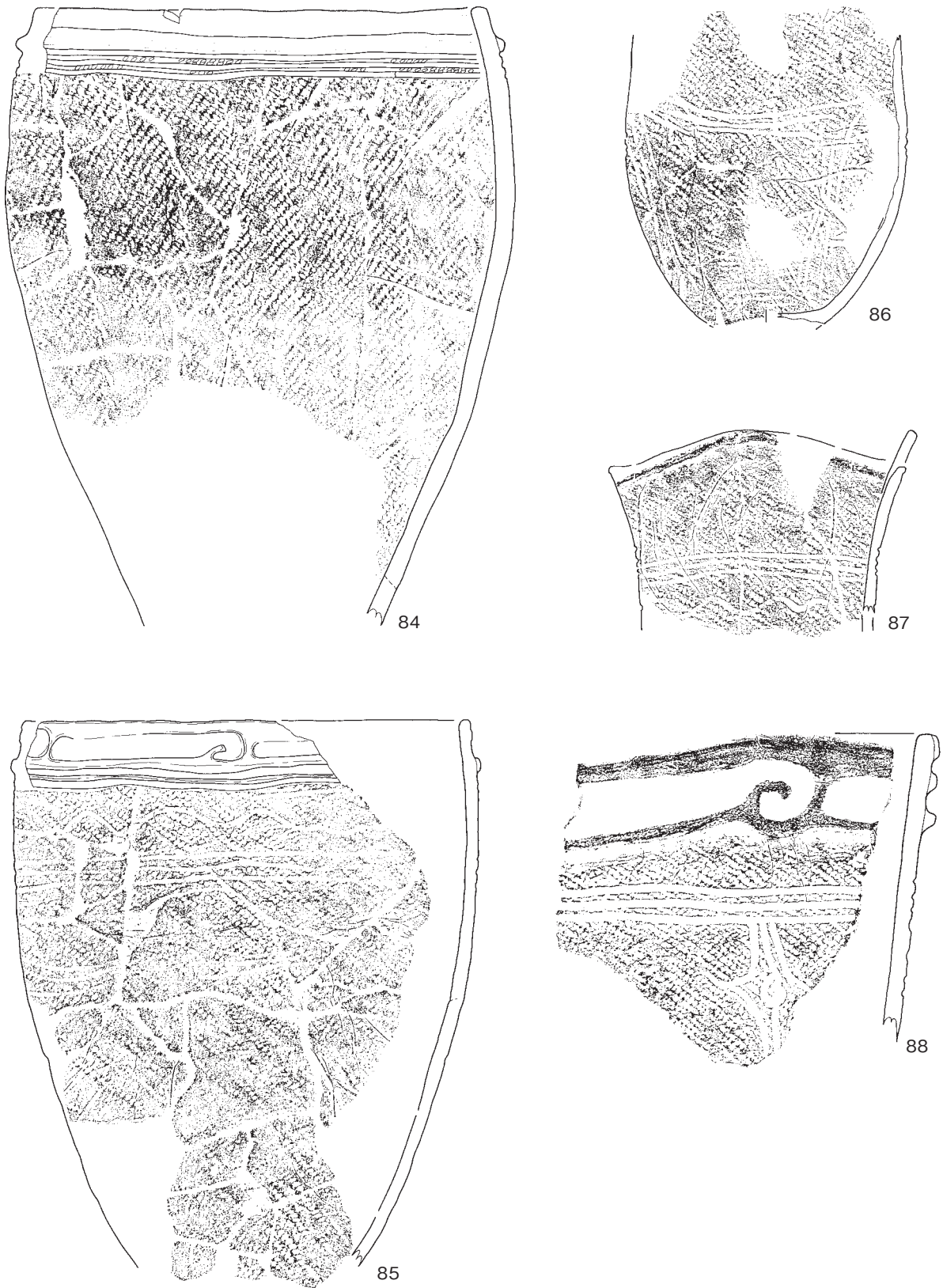
第102図 遺構内出土遺物13

11号竖穴建物



第103図 遺構内出土遺物14

11号竖穴建物



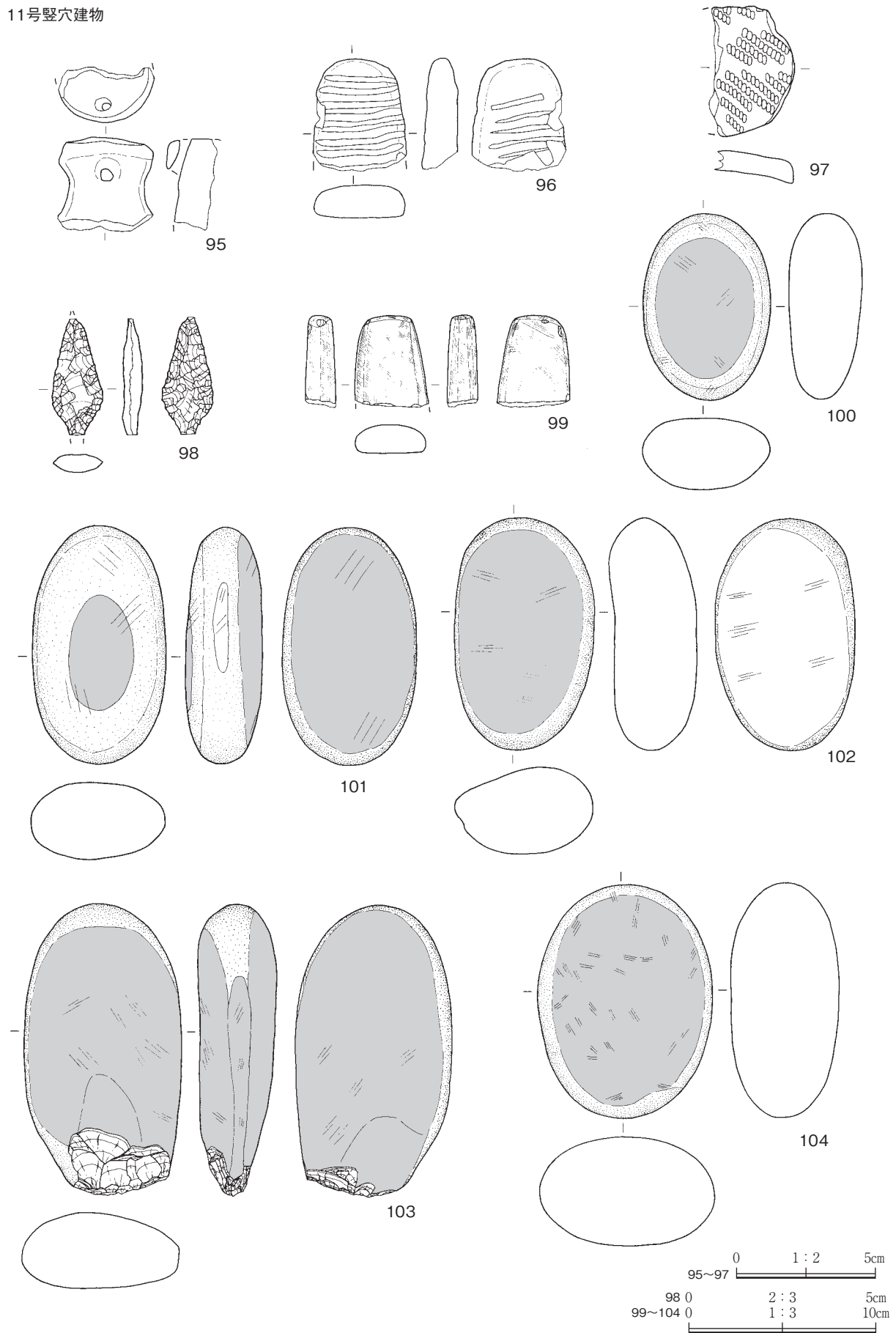
第104図 遺構内出土遺物15

11号竖穴建物



第105図 遺構内出土遺物16

11号竖穴建物



第106図 遺構内出土遺物17

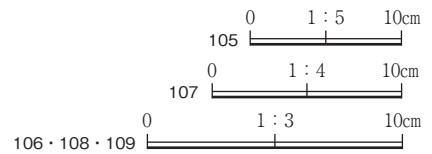
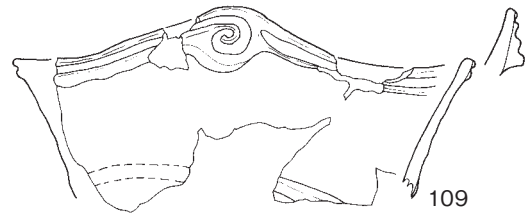
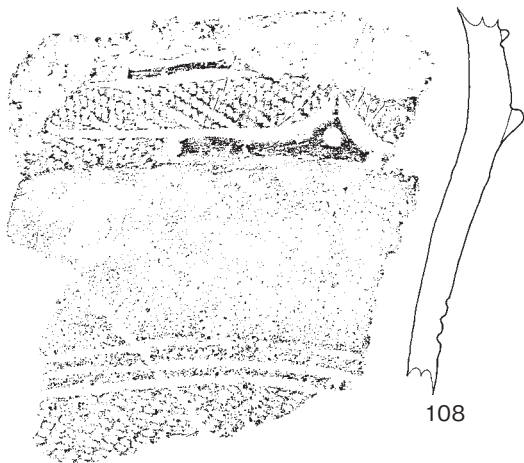
11号竪穴建物



12号竪穴建物

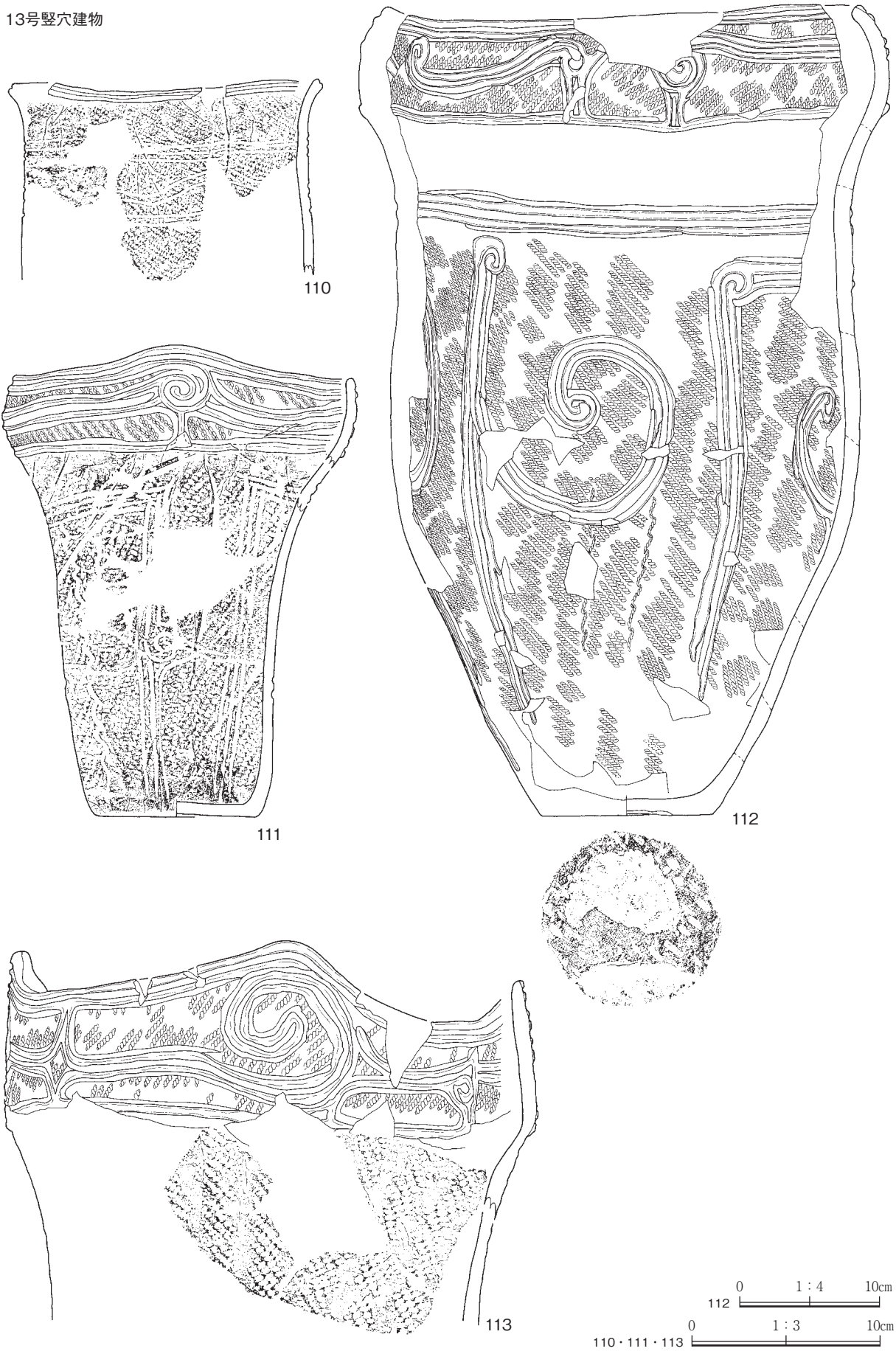


13号竪穴建物



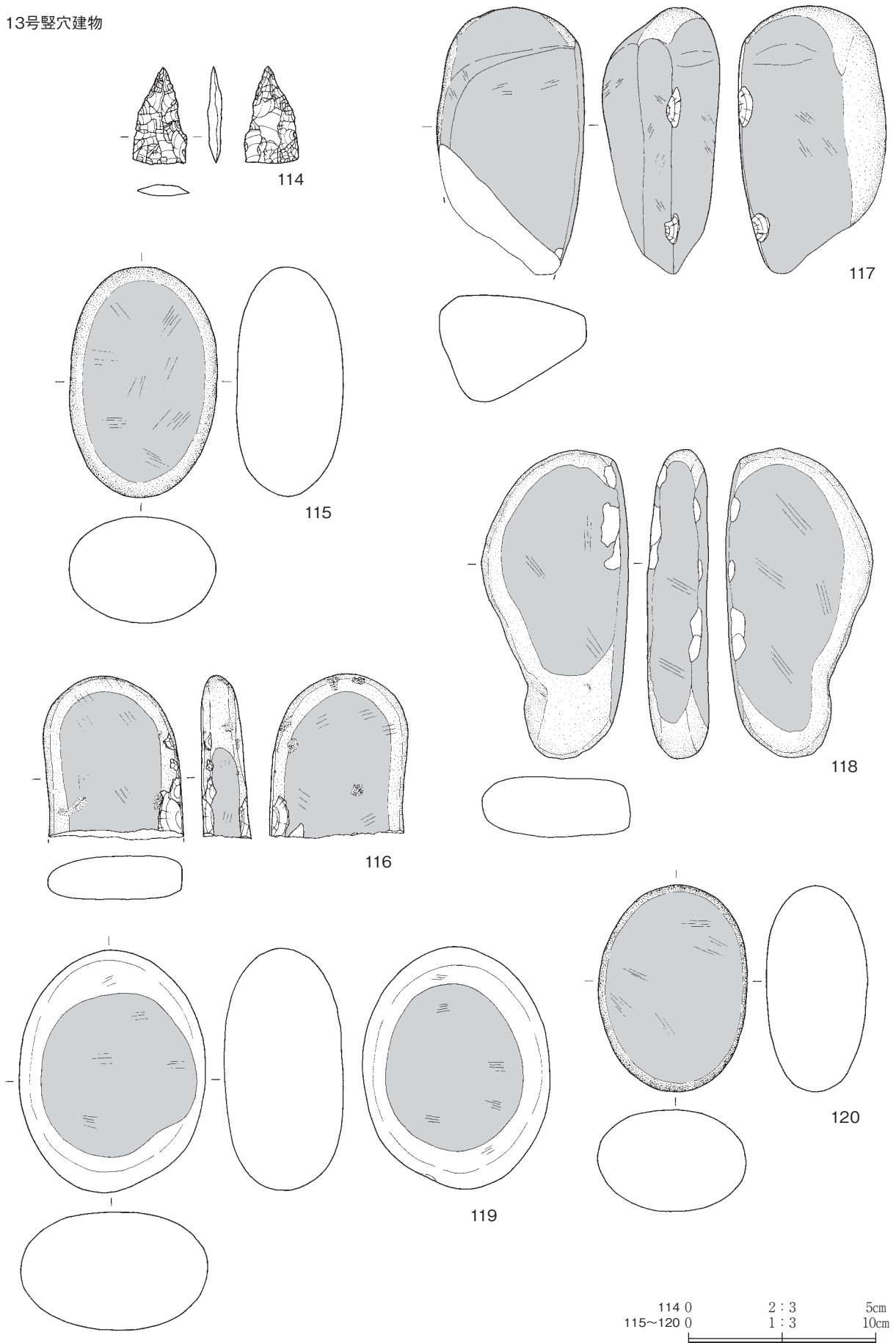
第107図 遺構内出土遺物18

13号竖穴建物



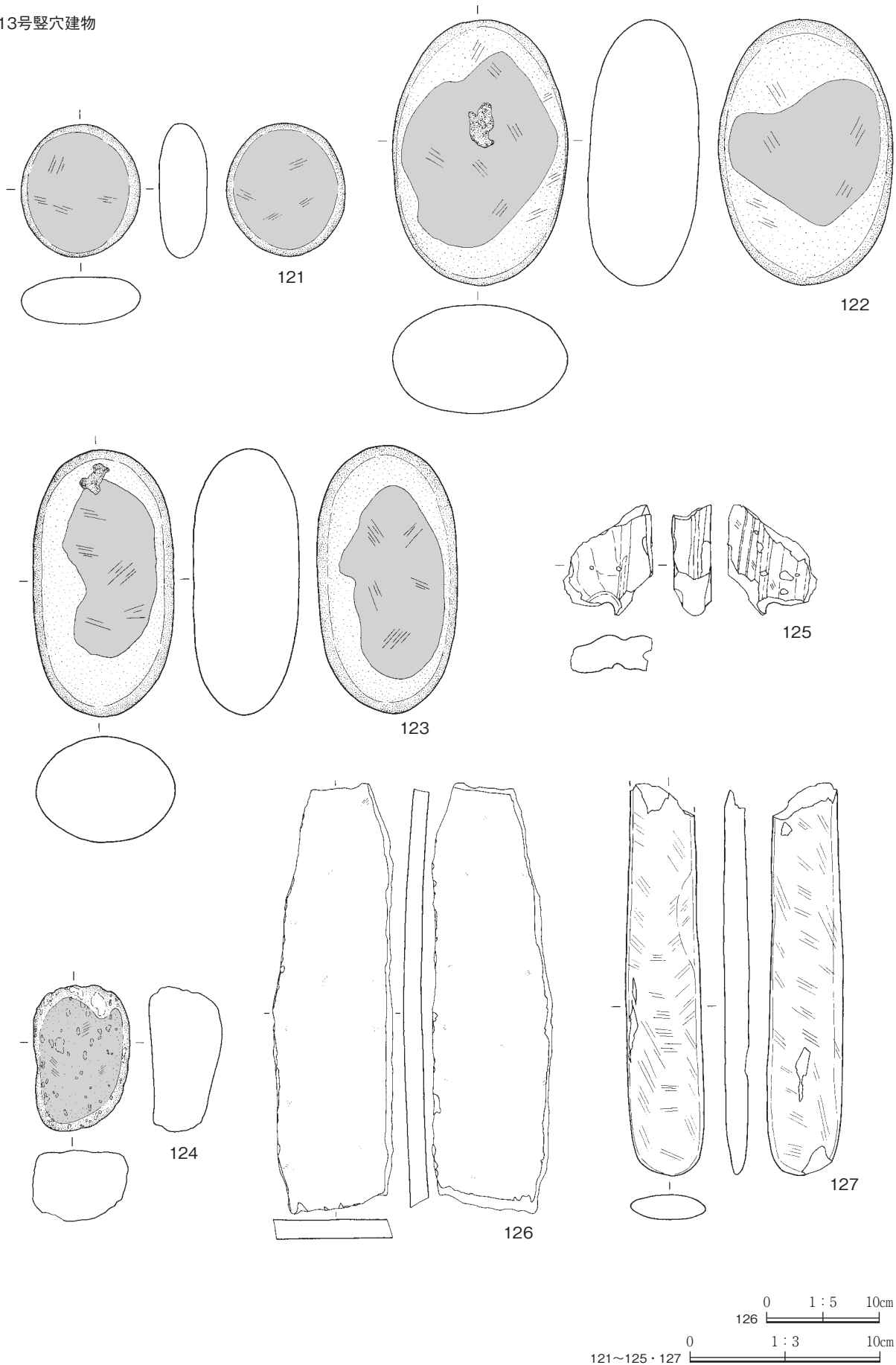
第108図 遺構内出土遺物19

13号竪穴建物



第109図 遺構内出土遺物20

13号竖穴建物



第110図 遺構内出土遺物21

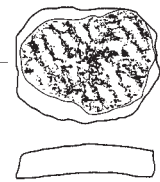
15号豎穴建物



128

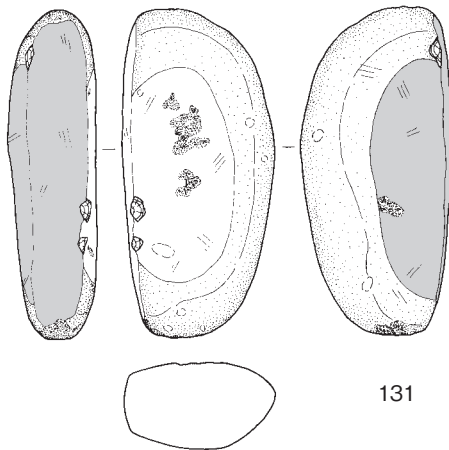


129

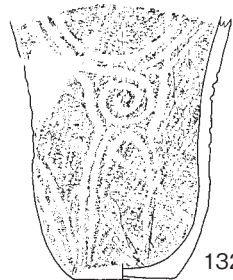


130

17号豎穴建物



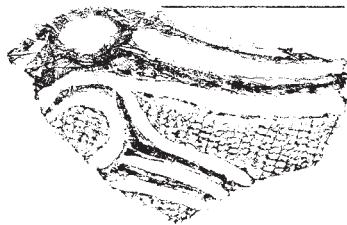
131



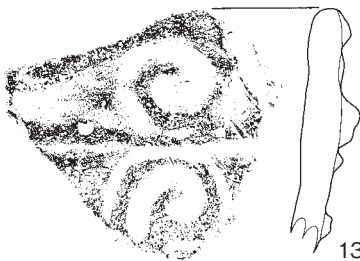
132



133



134



135



136



137



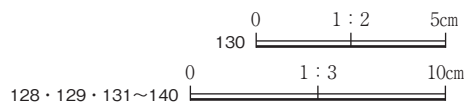
138



140

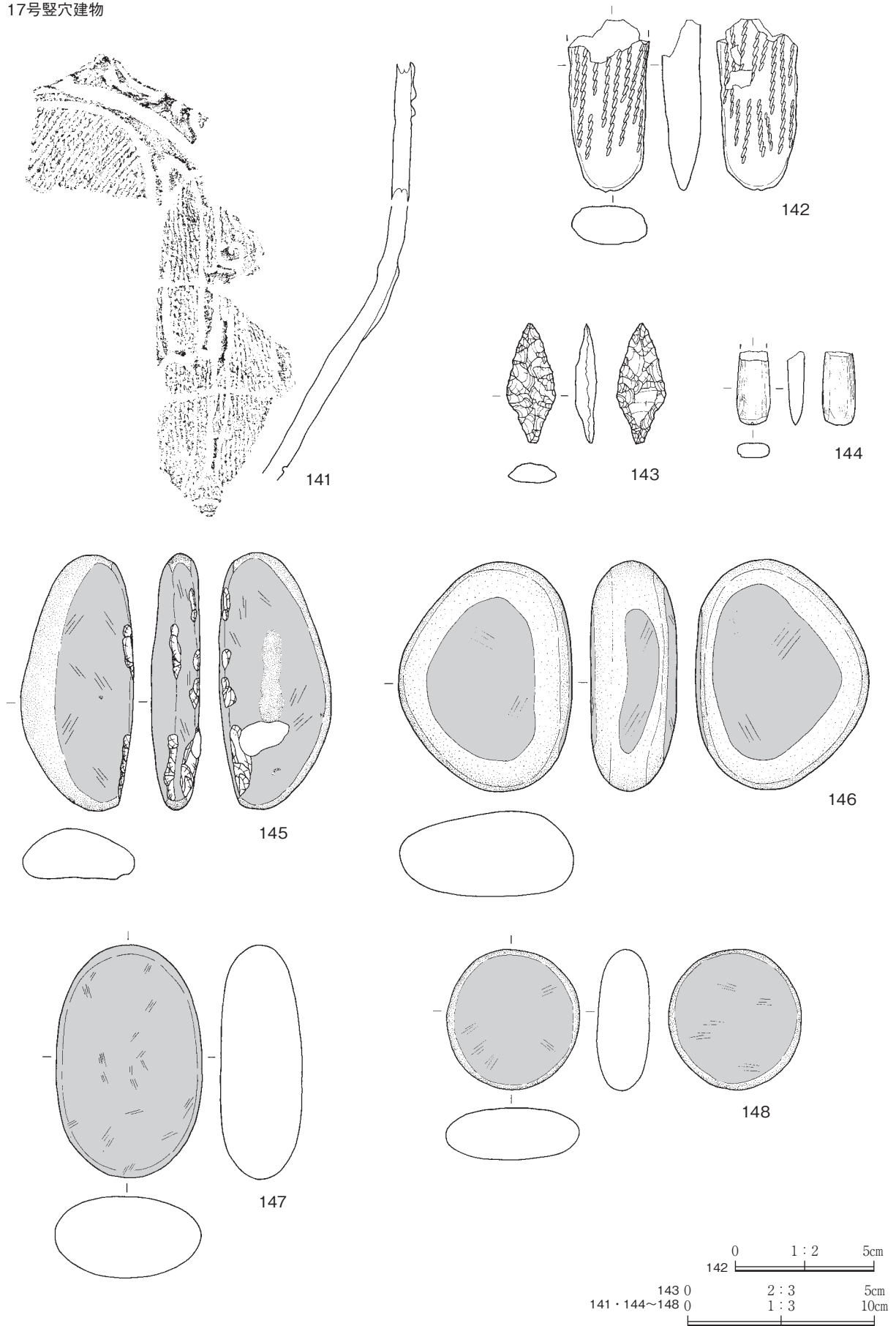


139



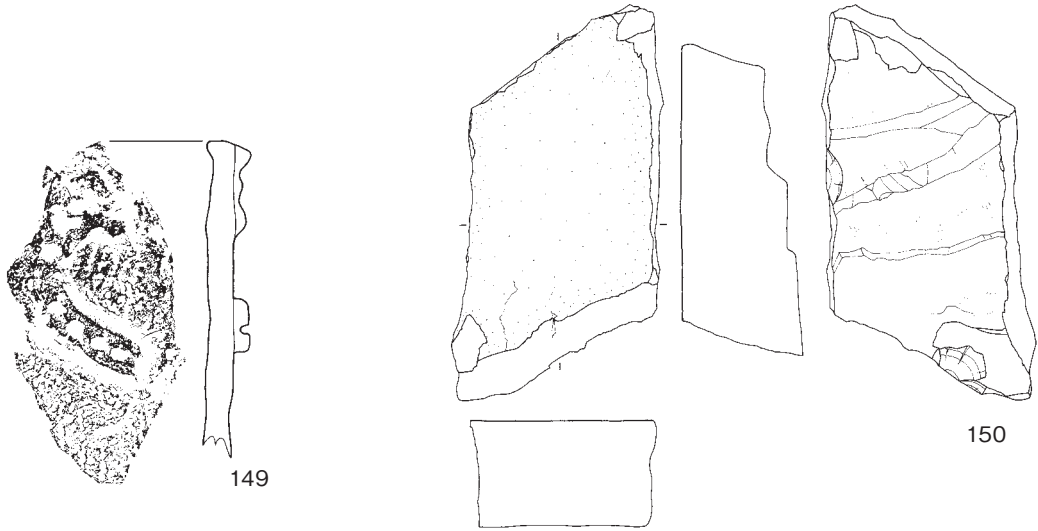
第111図 遺構内出土遺物22

17号竖穴建物

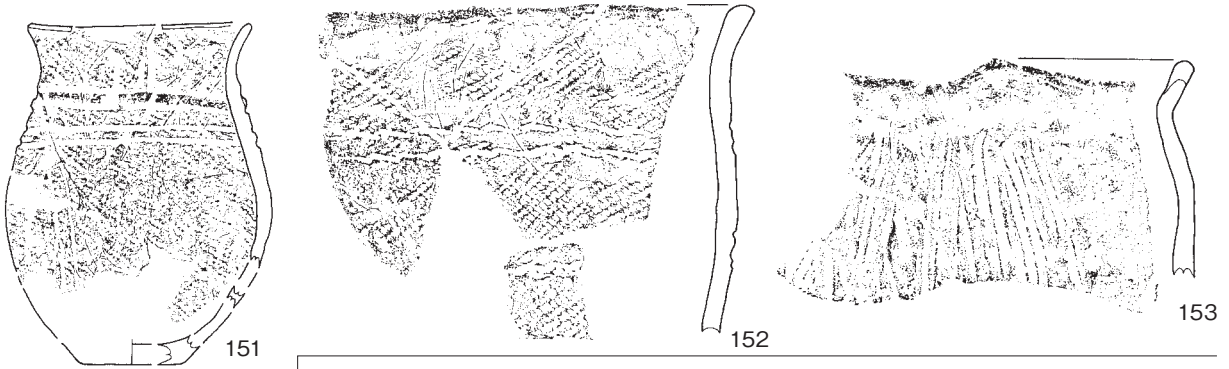


第112図 遺構内出土遺物23

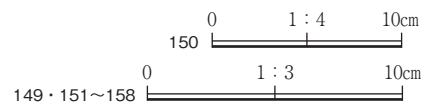
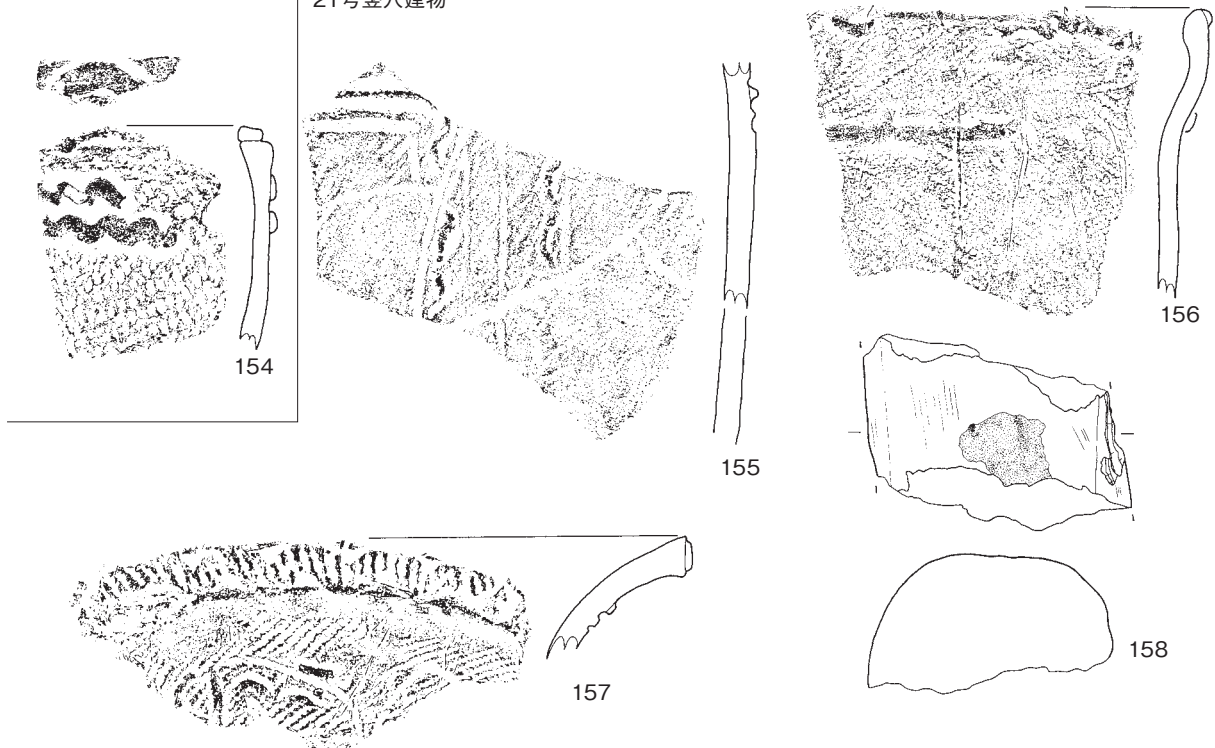
19号豎穴建物



20号豎穴建物

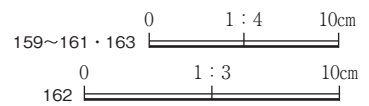
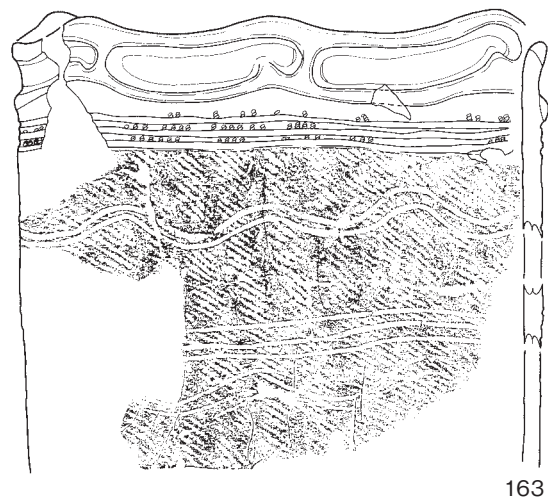
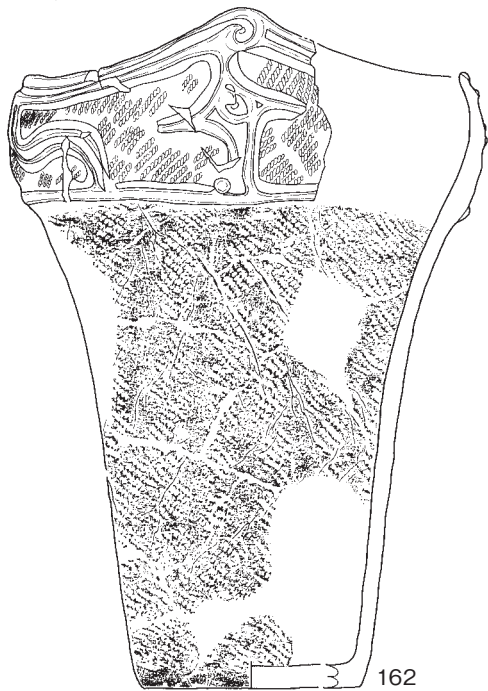
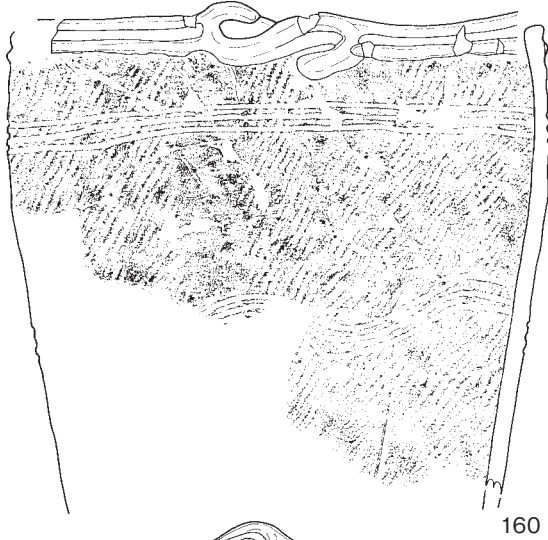
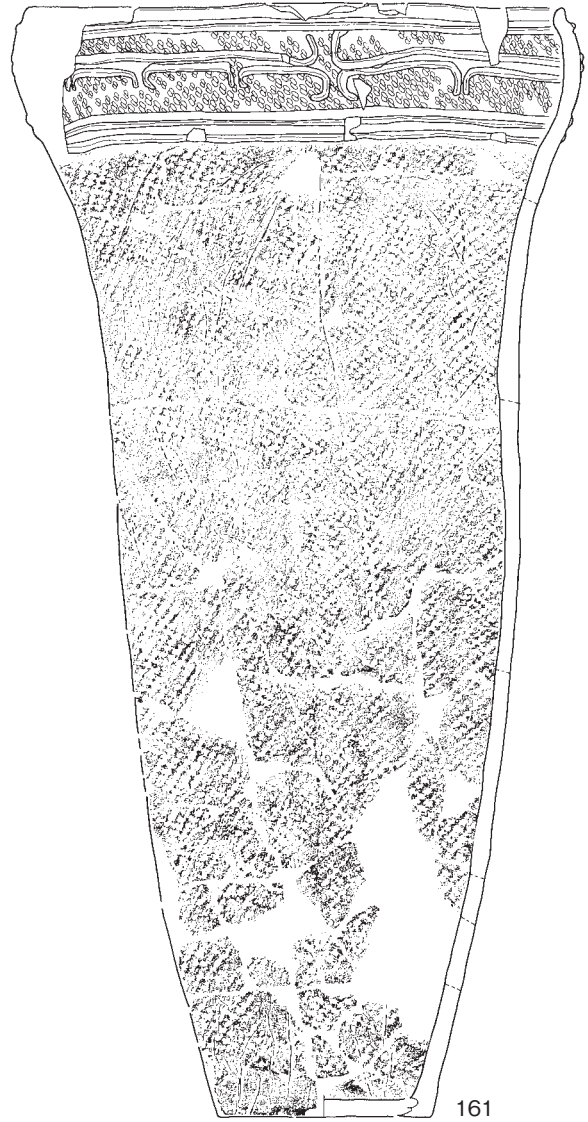
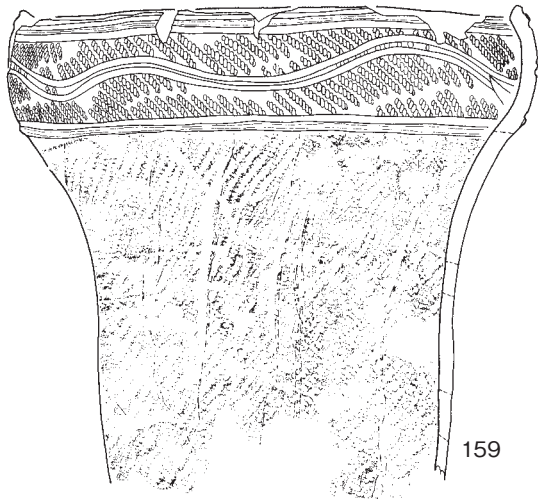


21号豎穴建物



第113図 遺構内出土遺物24

22号竖穴建物



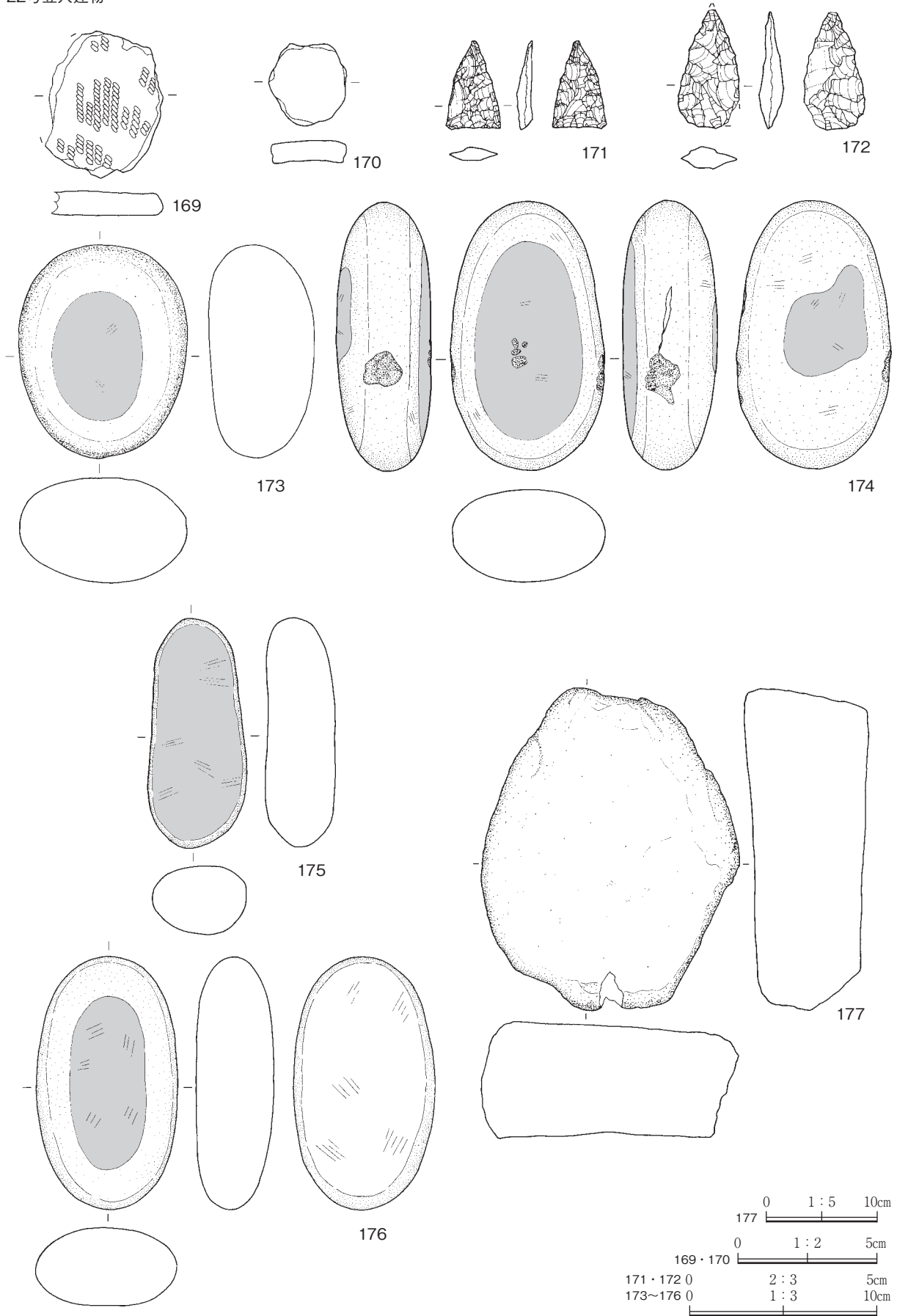
第114図 遺構内出土遺物25

22号竖穴建物



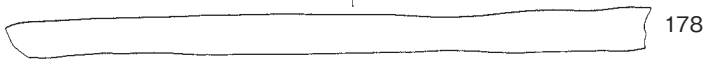
第115図 遺構内出土遺物26

22号竖穴建物

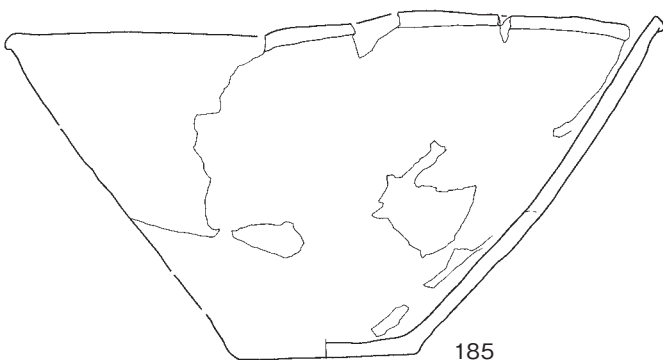
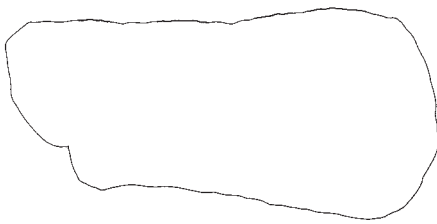


第116図 遺構内出土遺物27

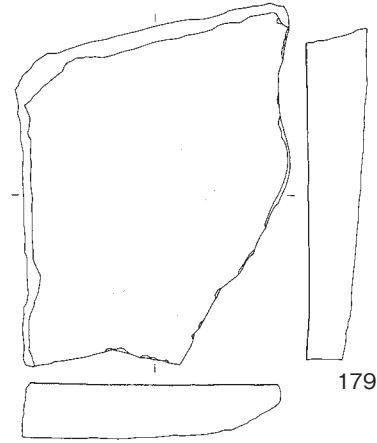
22号竪穴建物



180



185



179

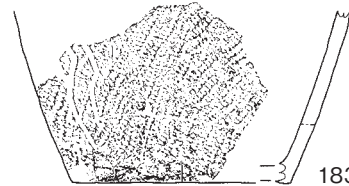
23号竪穴建物



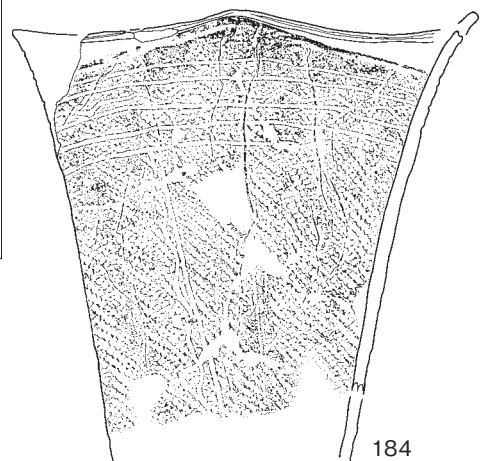
181



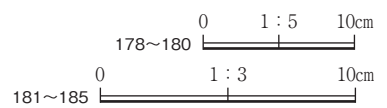
182



183

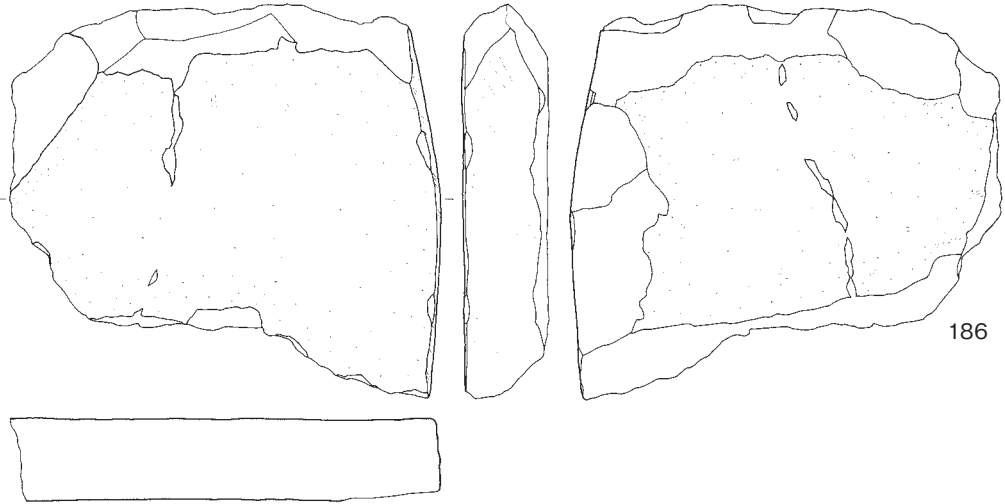


184



第117図 遺構内出土遺物28

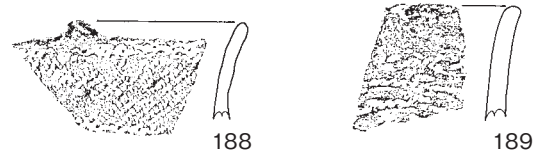
23号竖穴建物



24号竖穴建物



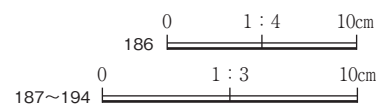
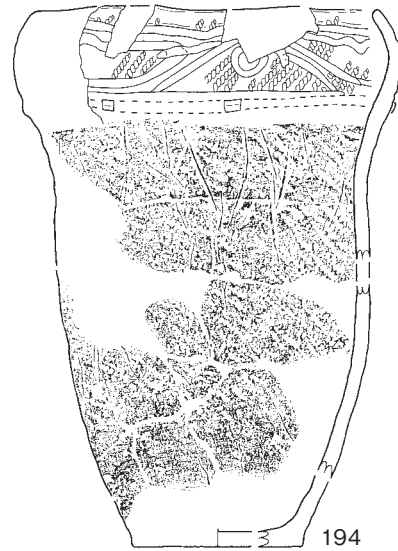
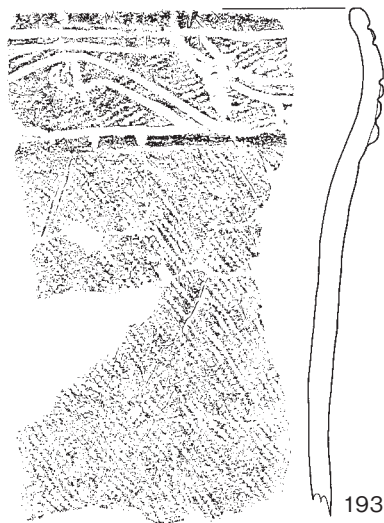
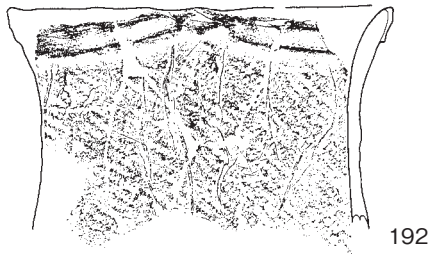
25号竖穴建物



26号竖穴建物



27号竖穴建物



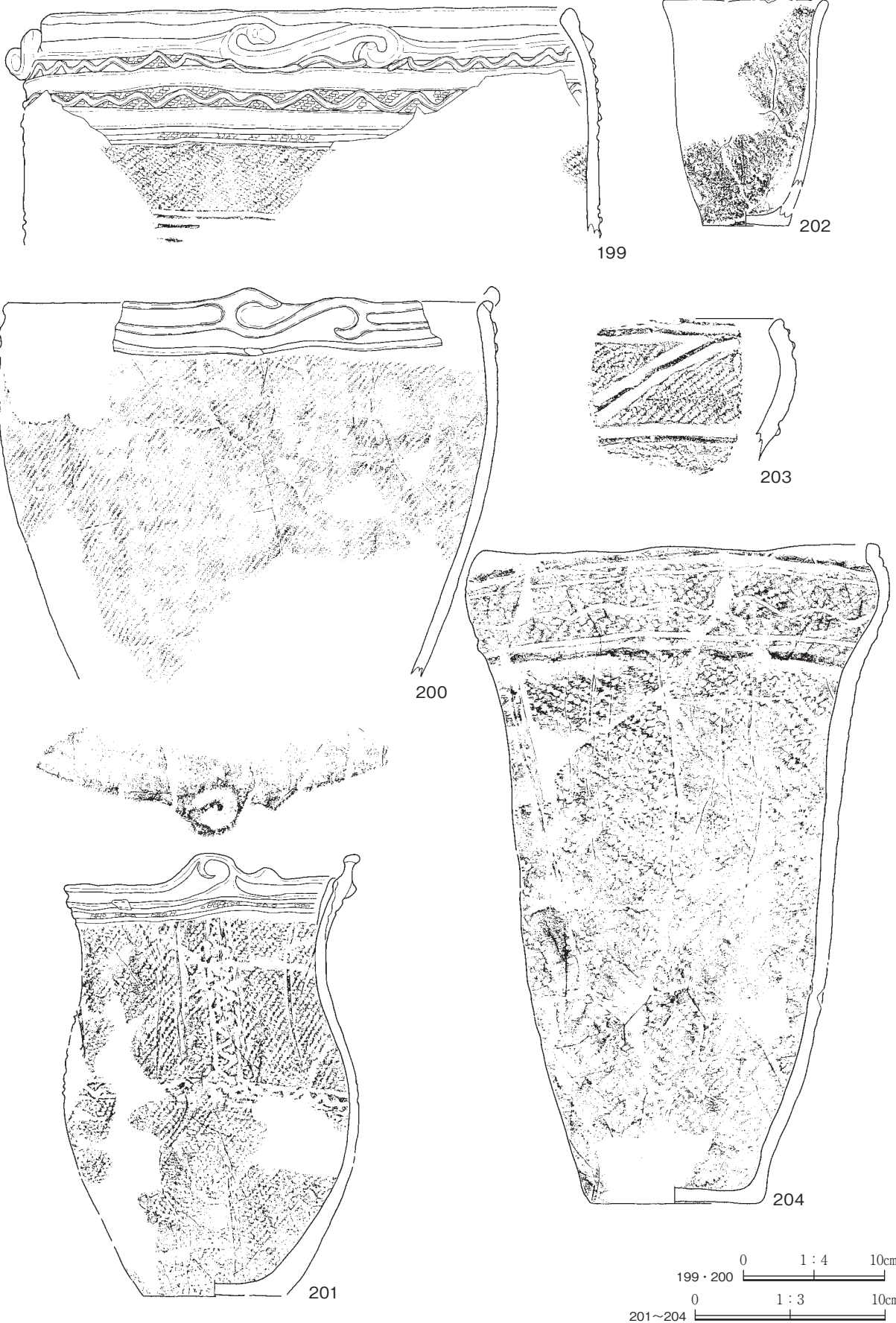
第118図 遺構内出土遺物29

28号竖穴建物



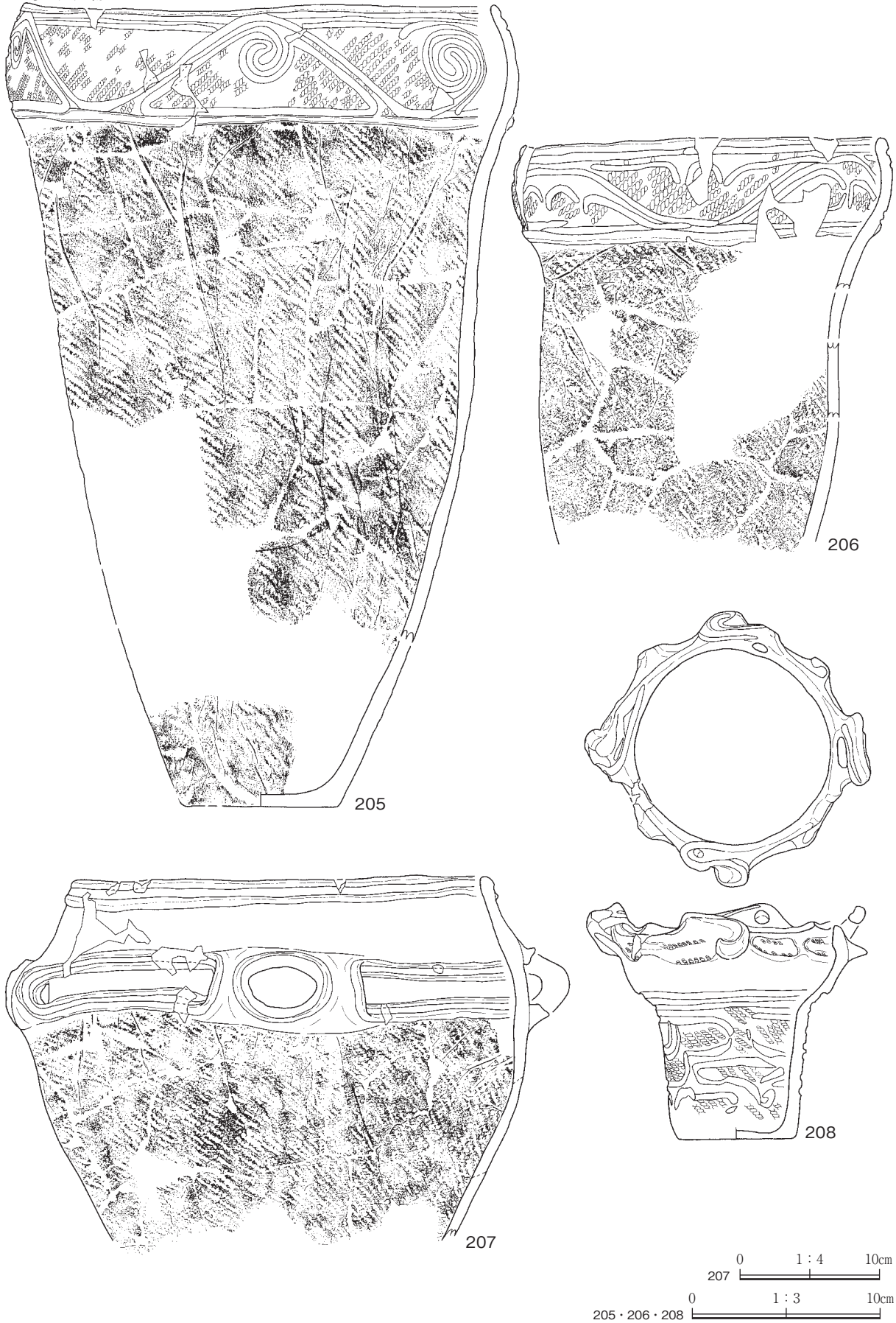
第119図 遺構内出土遺物30

28号竖穴建物



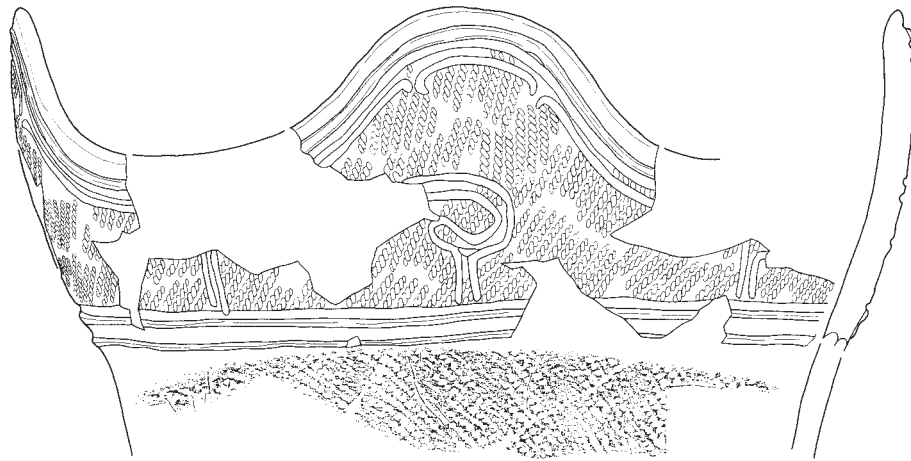
第120図 遺構内出土遺物31

28号竖穴建物

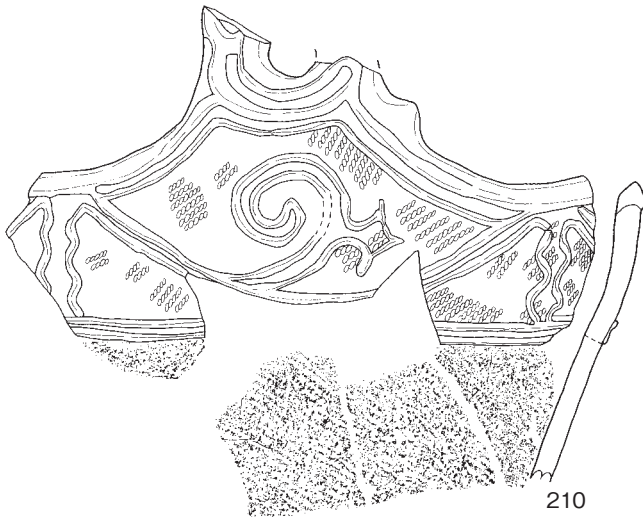


第121図 遺構内出土遺物32

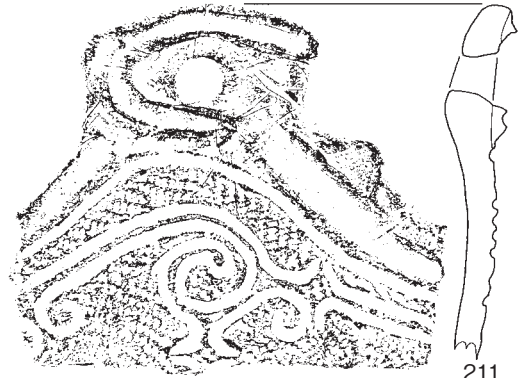
28号竖穴建物



209



210



211

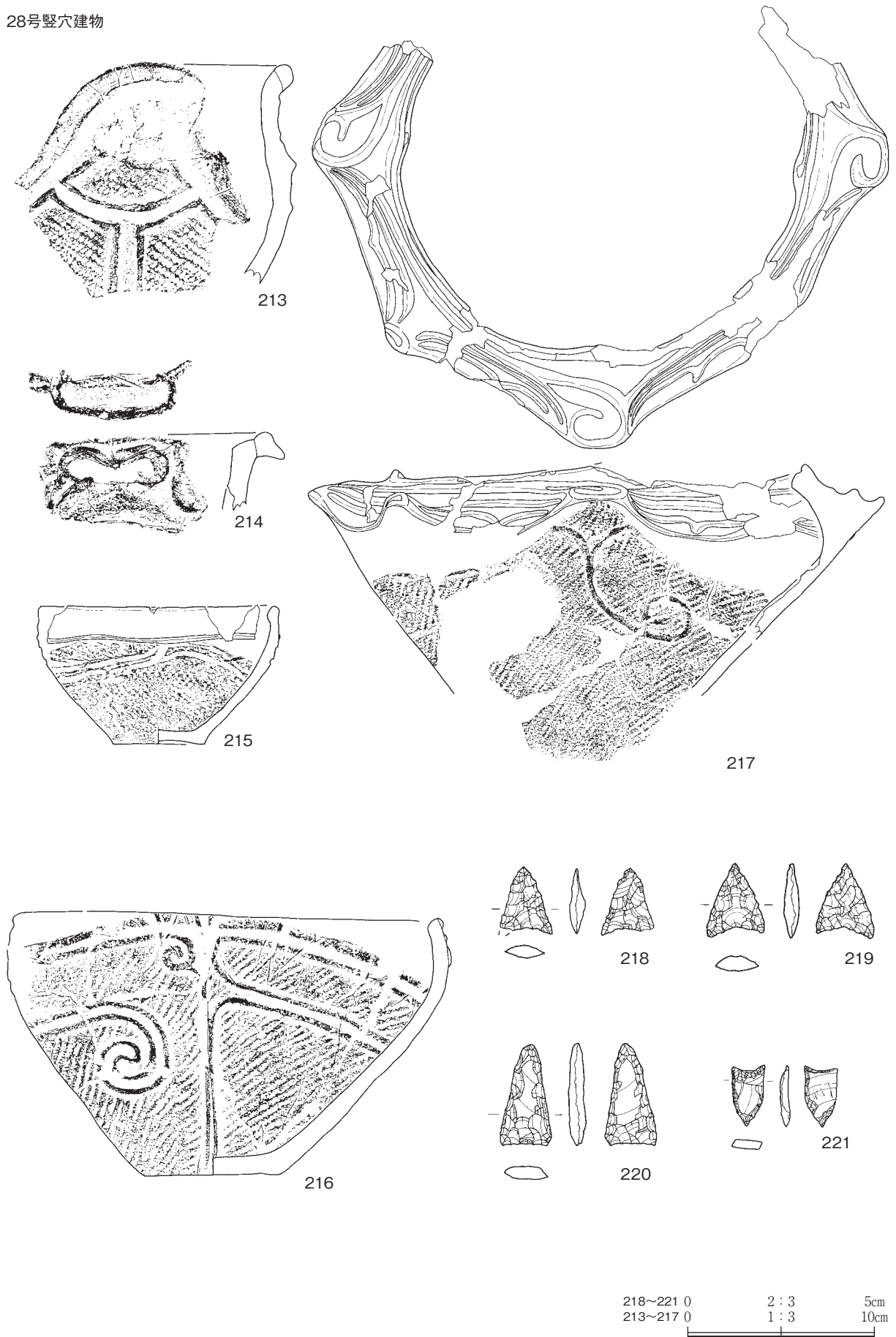


212

0 1:3 10cm
209~212

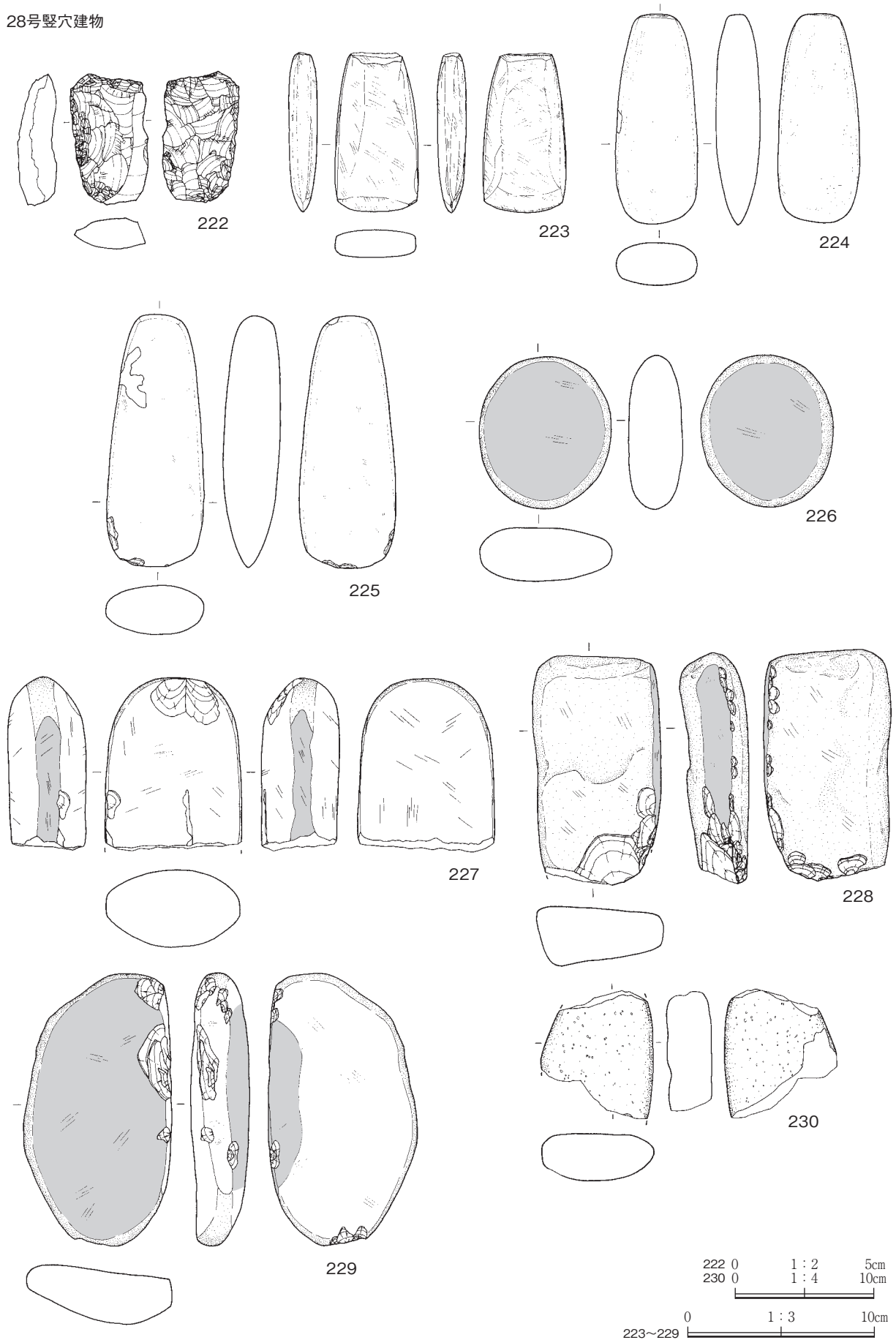
第122図 遺構内出土遺物33

28号竖穴建物



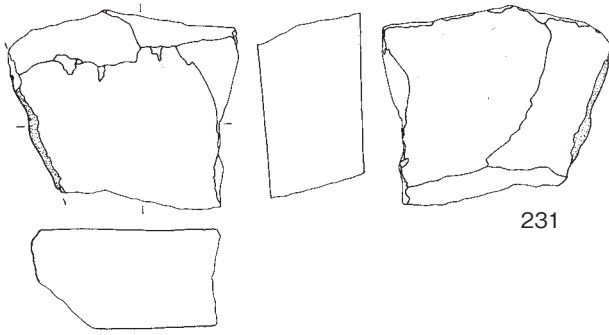
第123図 遺構内出土遺物34

28号竖穴建物

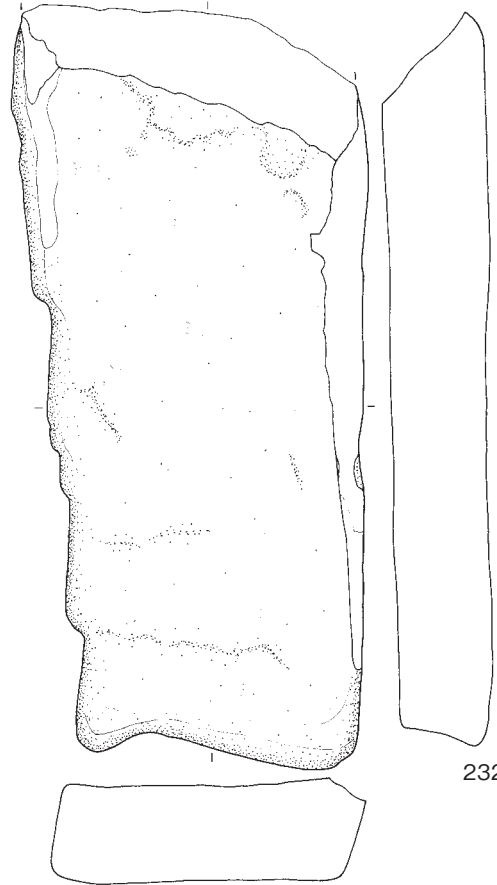


第124図 遺構内出土遺物35

28号豎穴建物

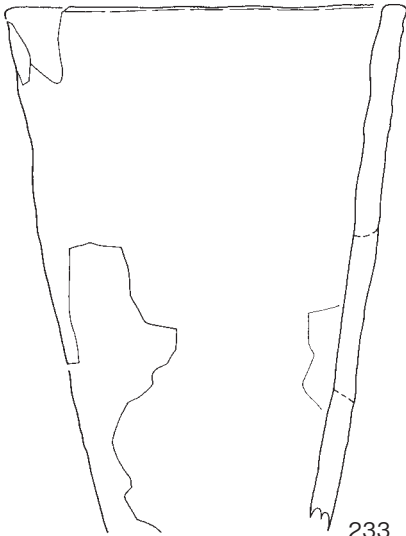


231

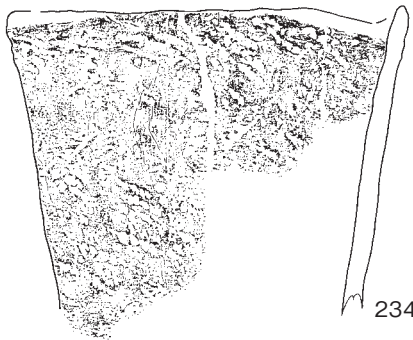


232

29号豎穴建物



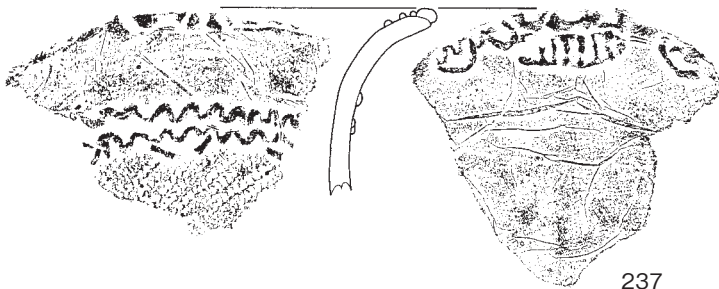
233



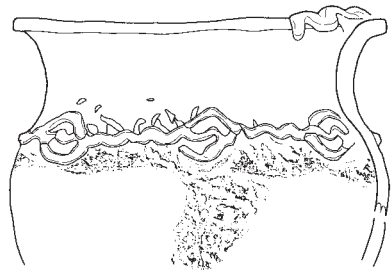
234



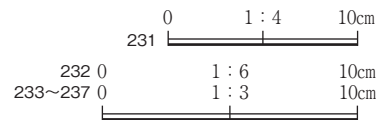
235



237

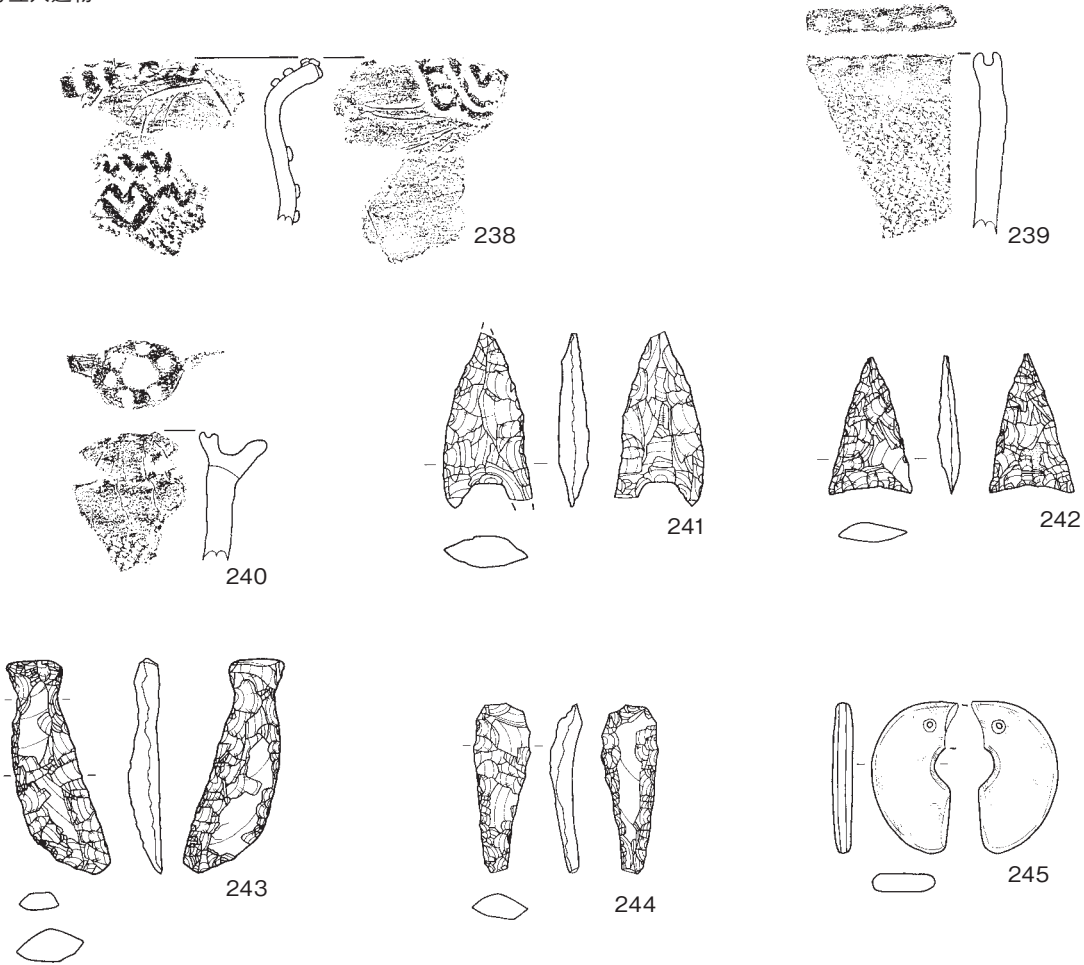


236

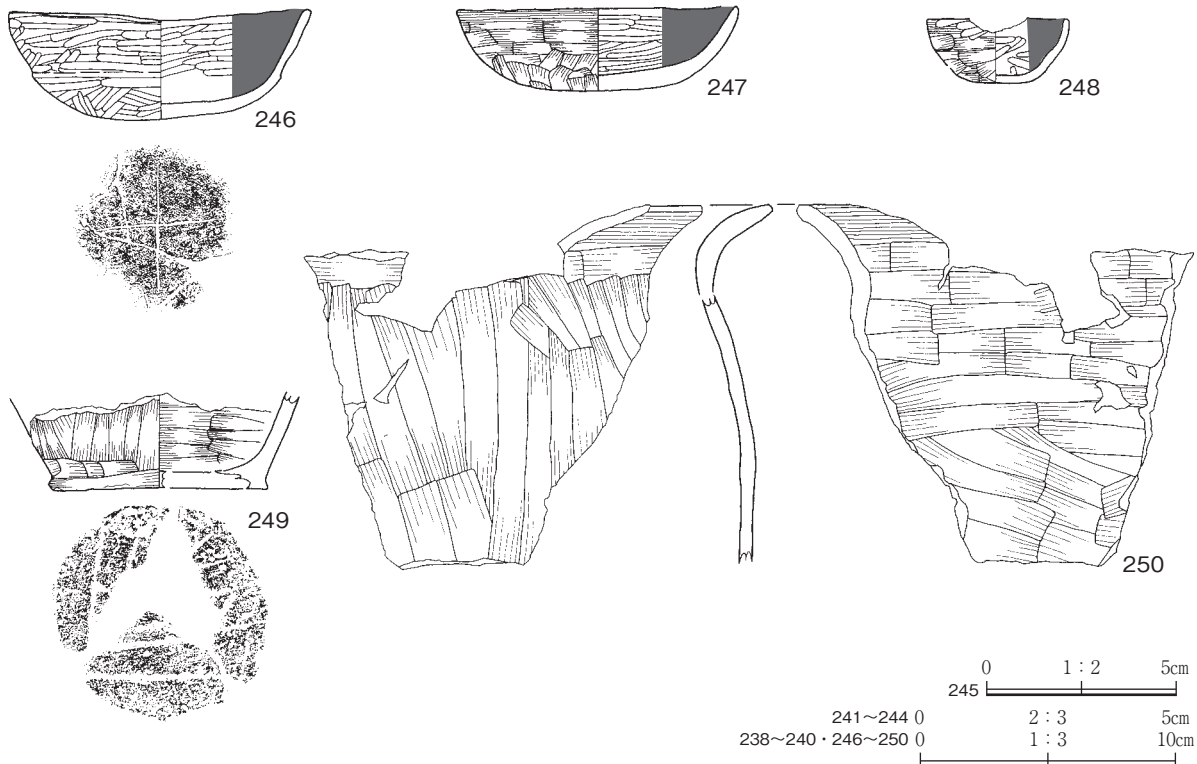


第125図 遺構内出土遺物36

29号竖穴建物

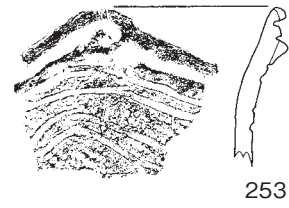
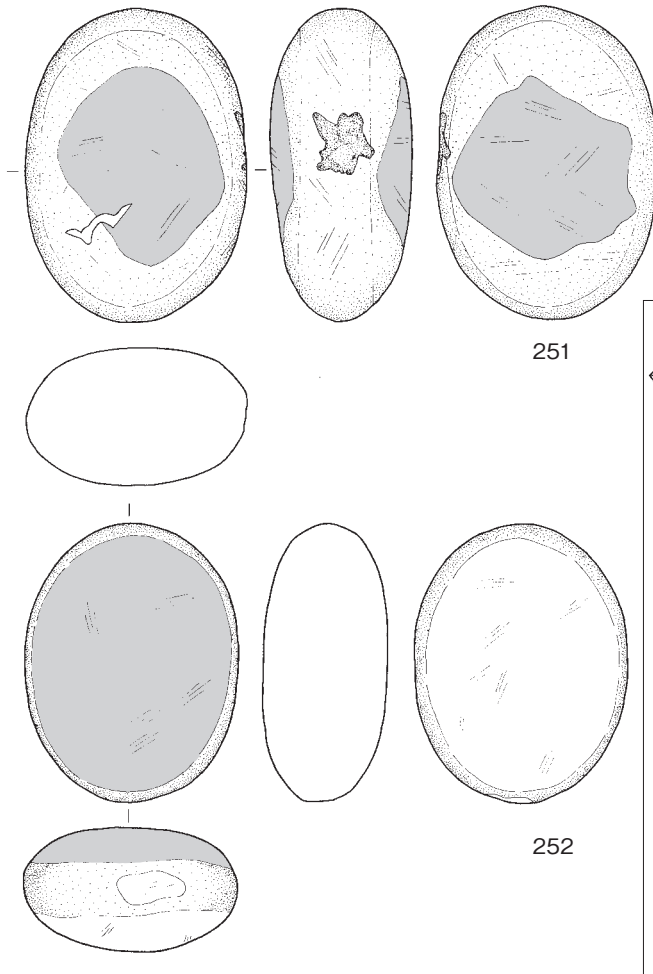


30号竖穴建物

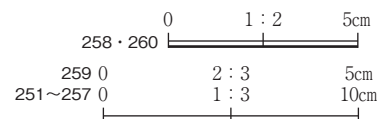
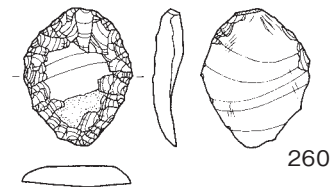
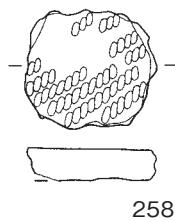
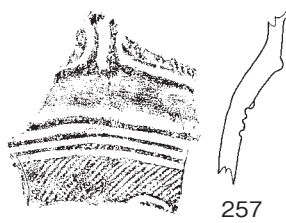
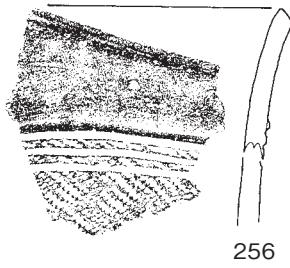
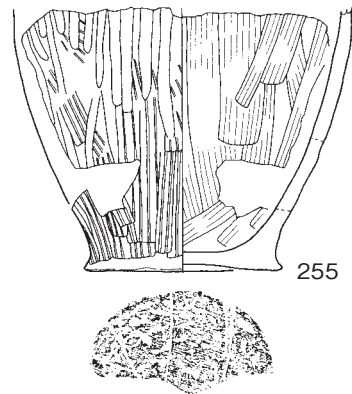
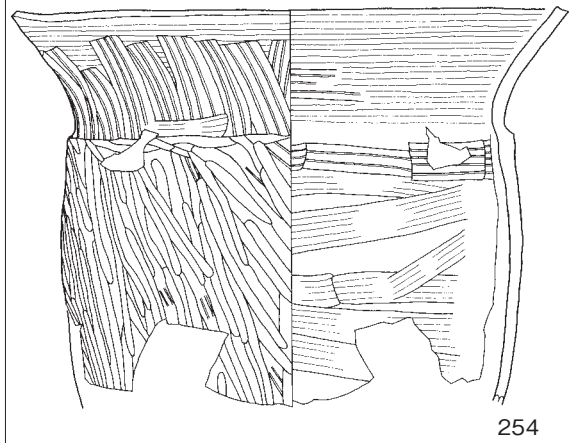


第126図 遺構内出土遺物37

30号竪穴建物

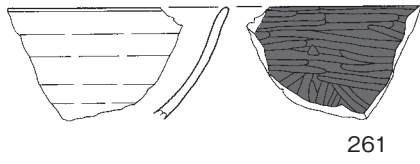


31号竪穴建物

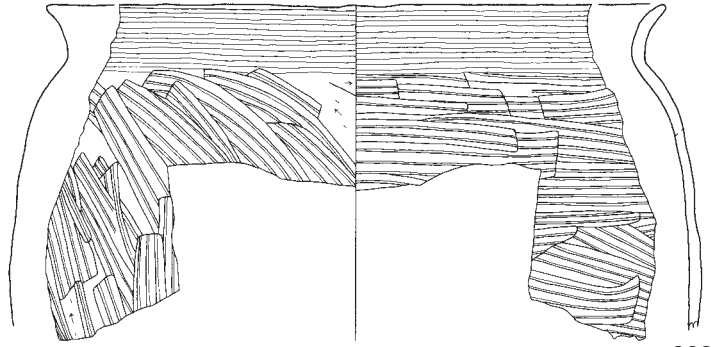


第127図 遺構内出土遺物38

32号竖穴建物

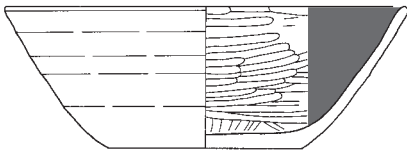


261

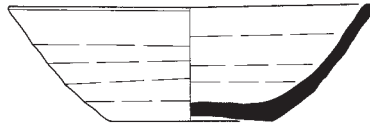


262

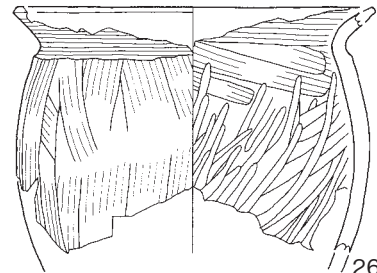
33号竖穴建物



263

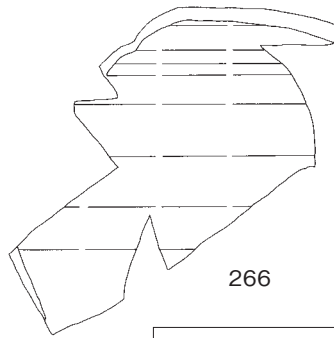
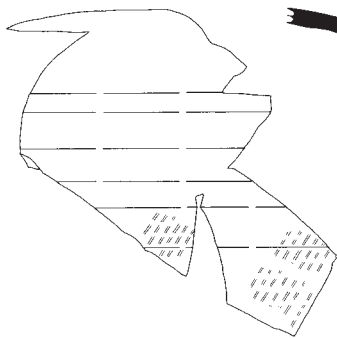


264

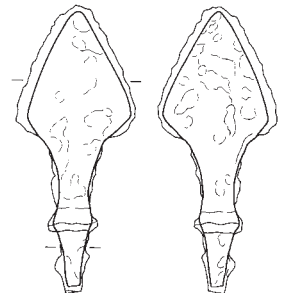


265

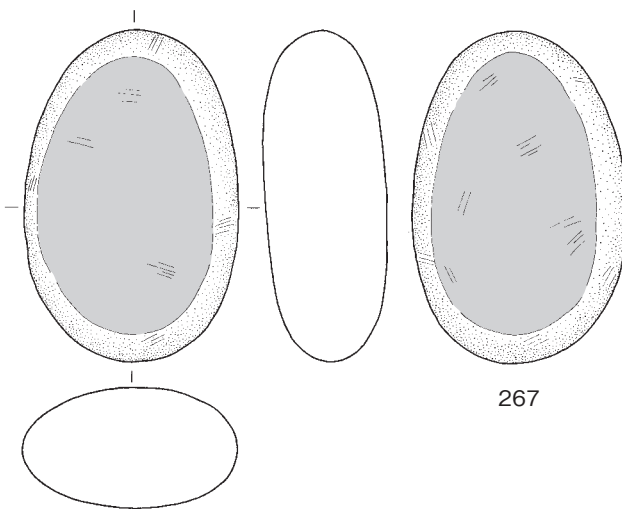
34号竖穴建物



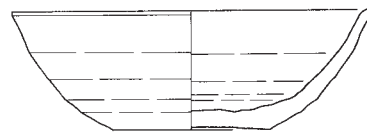
266



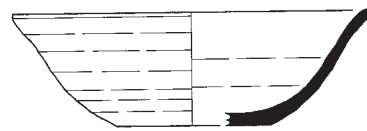
270



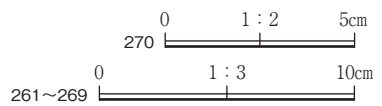
267



268

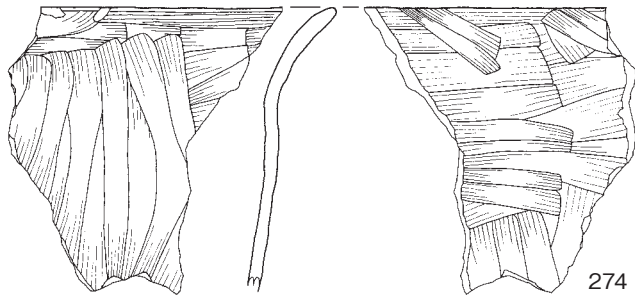
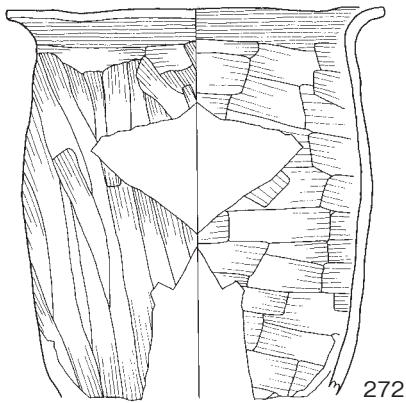
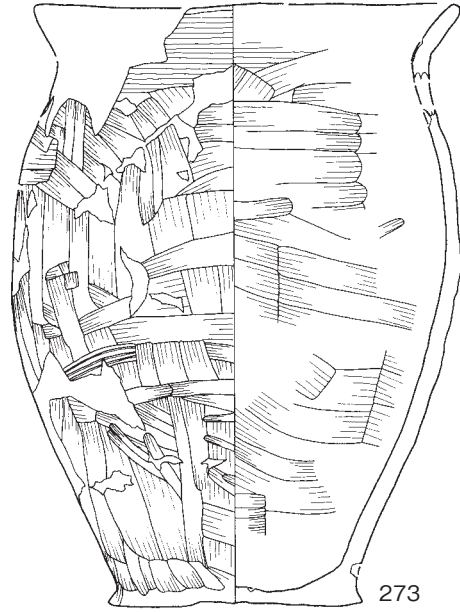
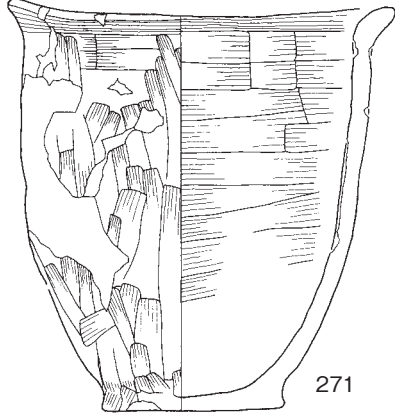


269

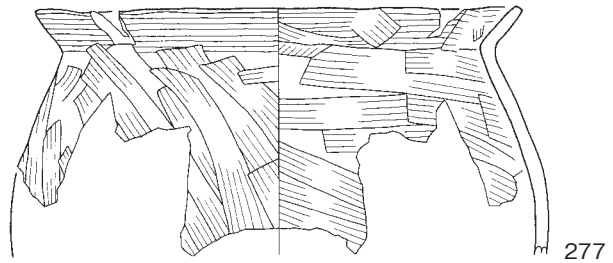
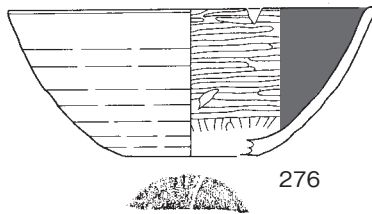
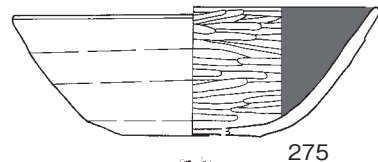


第128図 遺構内出土遺物39

35号竖穴建物



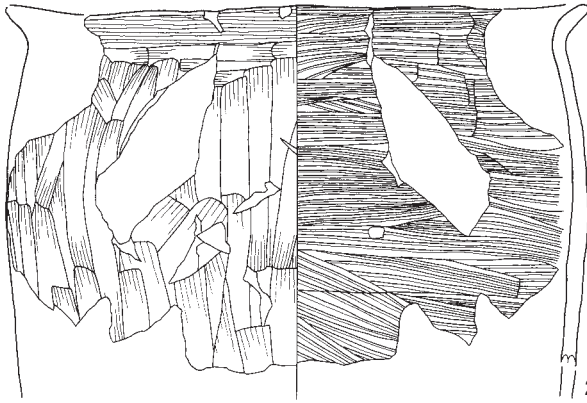
36号竖穴建物



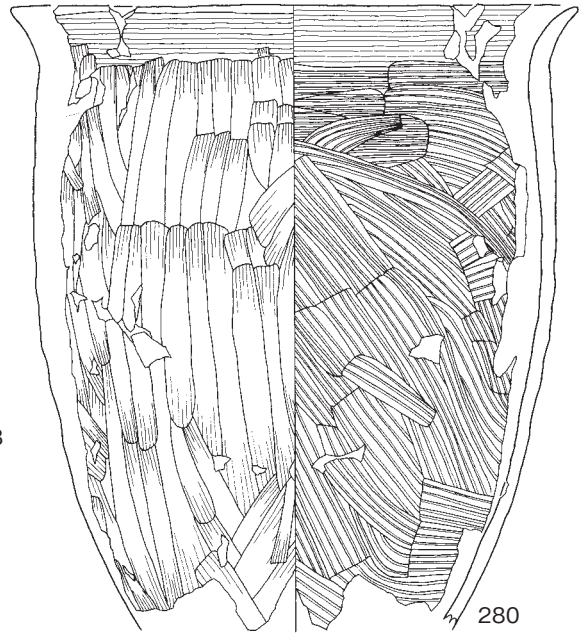
0 1:3 10cm
271~277

第129図 遺構内出土遺物40

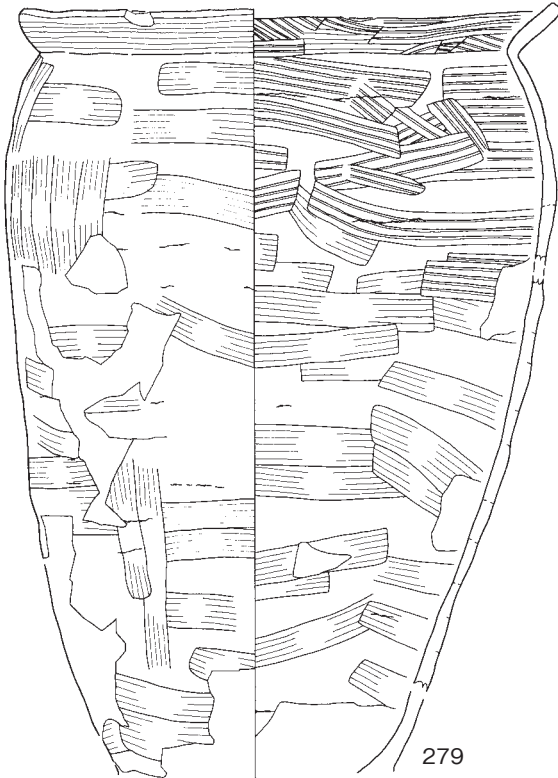
36号竖穴建物



278



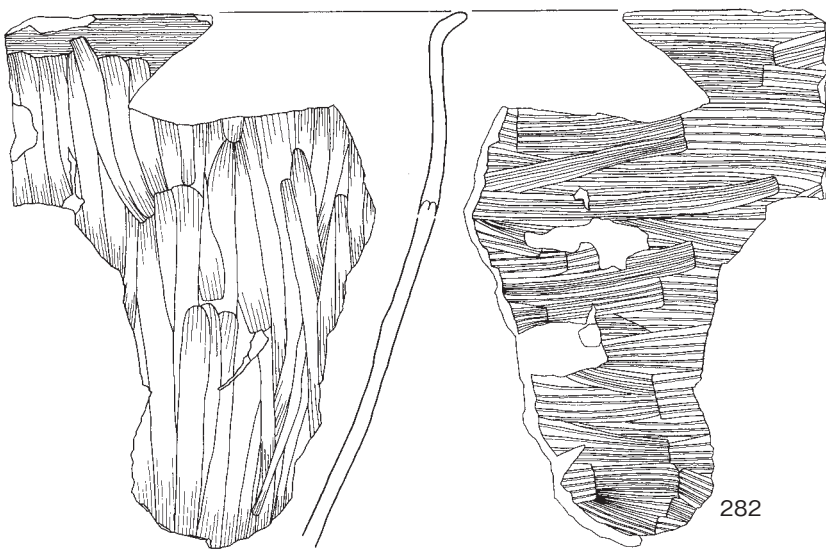
280



279



281

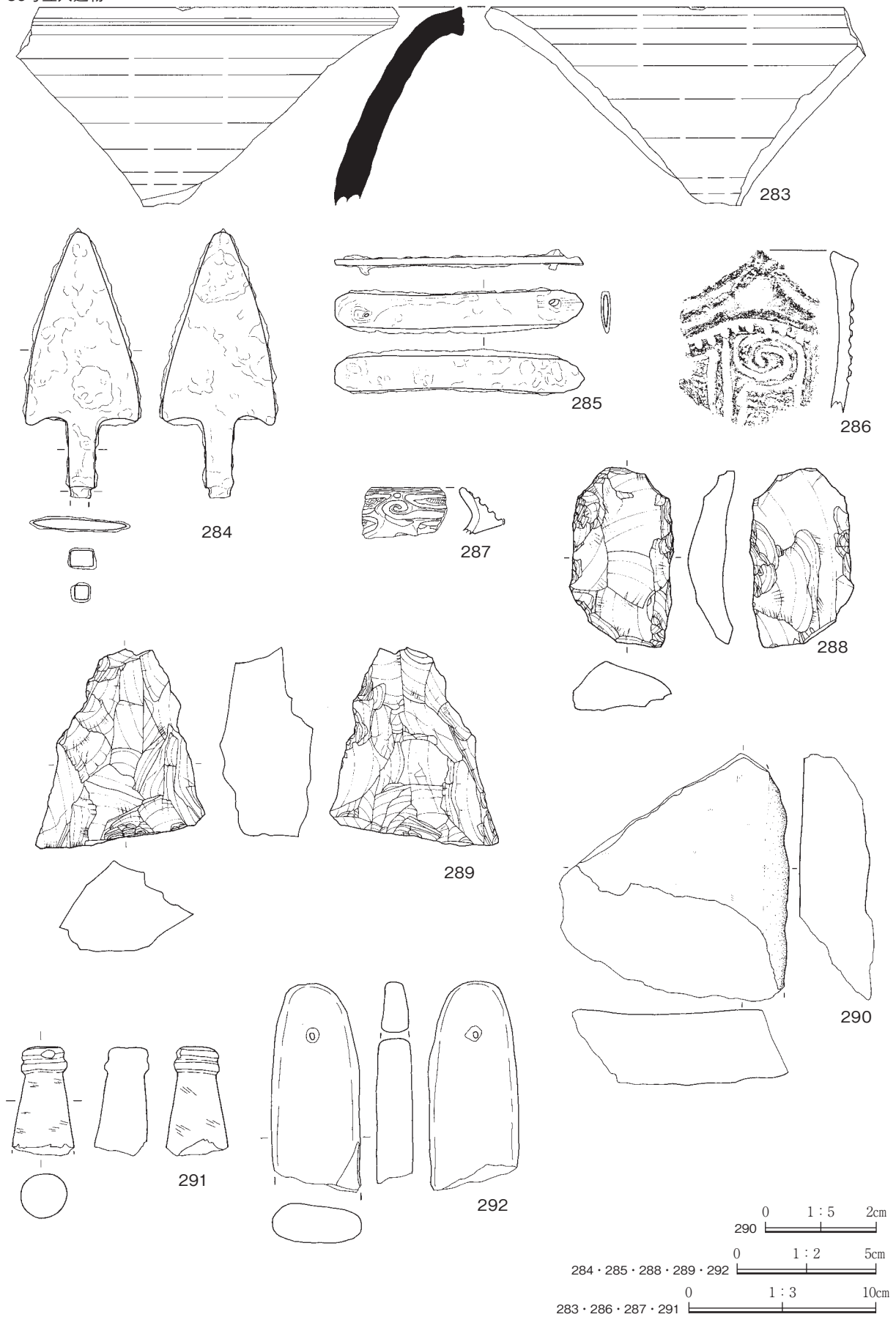


282

0 1:3 10cm
278~282

第130図 遺構内出土遺物41

36号竖穴建物

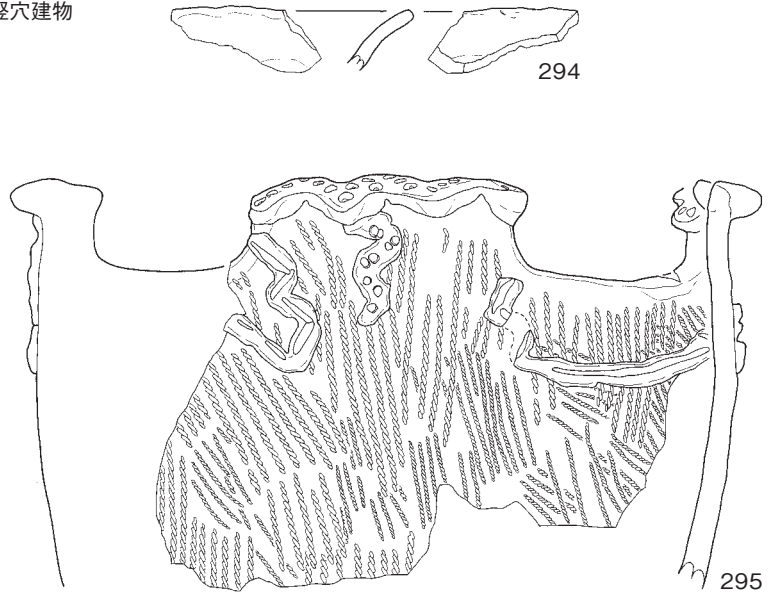


第131図 遺構内出土遺物42

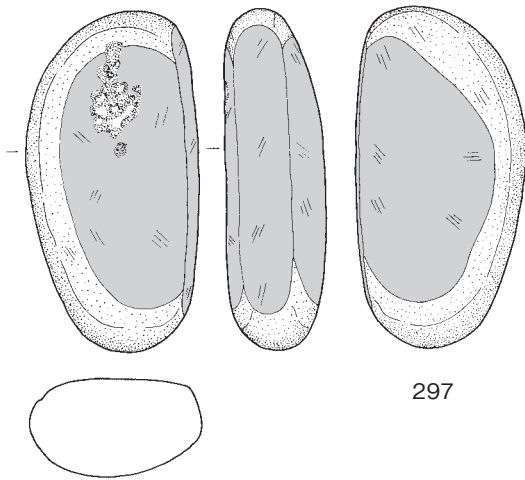
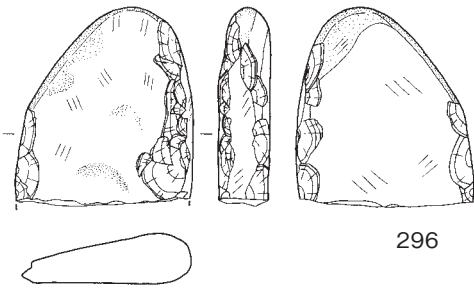
37号竖穴建物



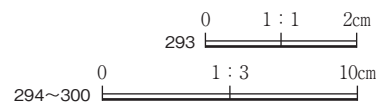
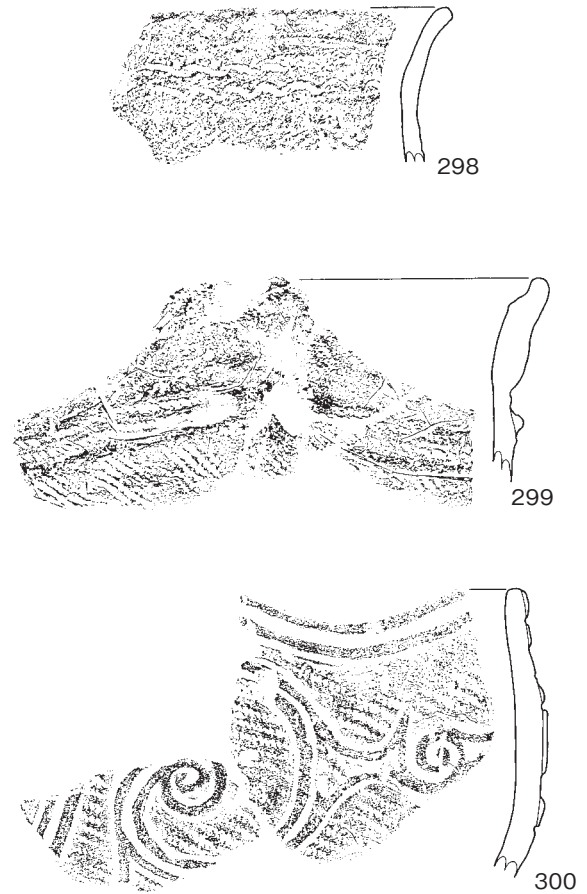
38号竖穴建物



39号竖穴建物

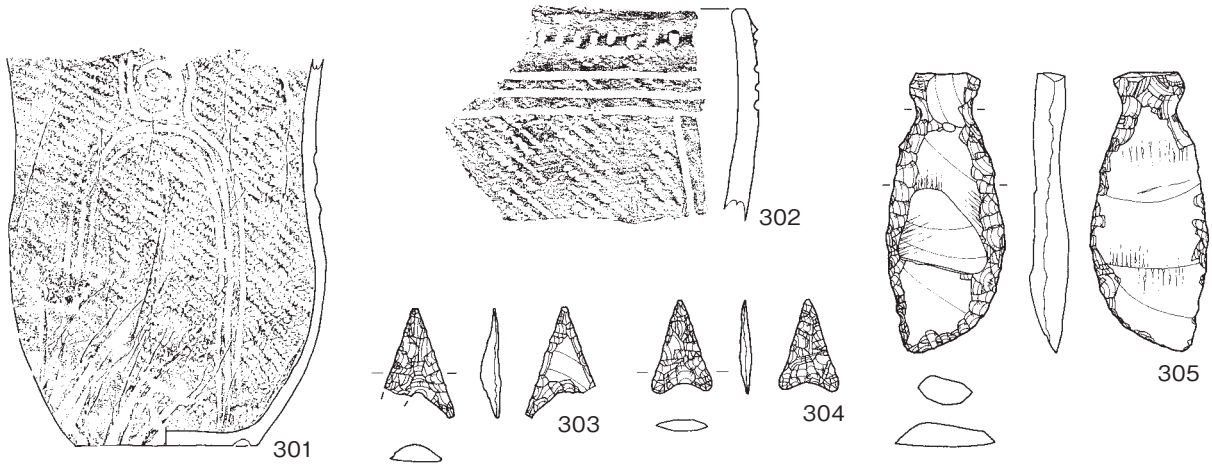


1号掘立柱建物跡

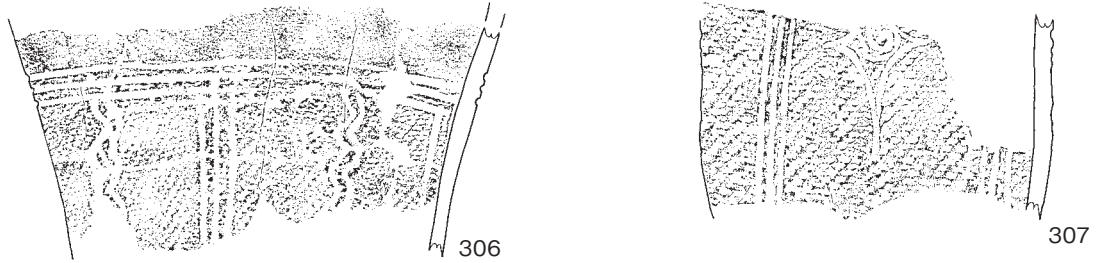


第132図 遺構内出土遺物43

1号炉



10号炉

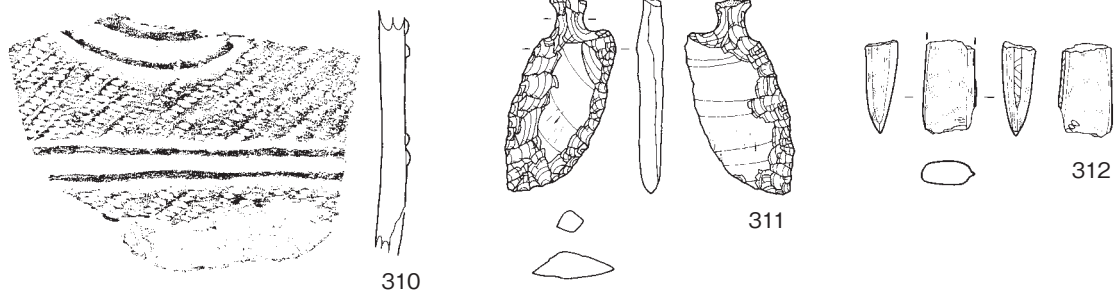


1号土坑

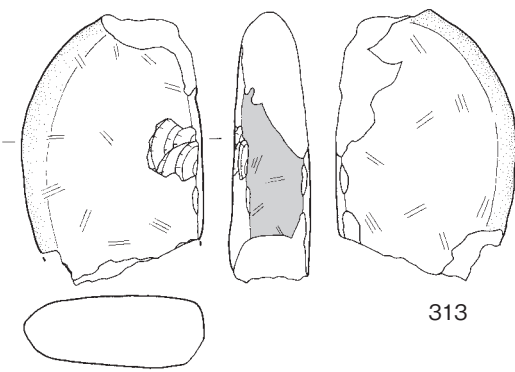


第133図 遺構内出土遺物44

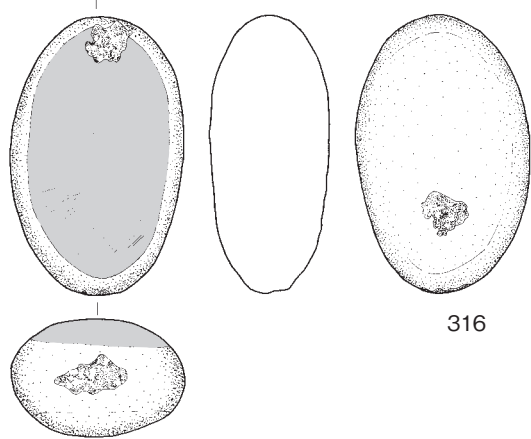
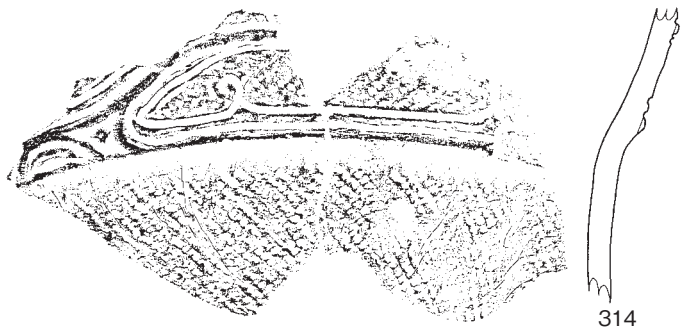
5号土坑



6号土坑



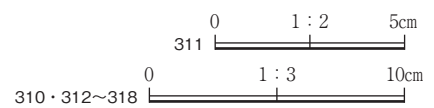
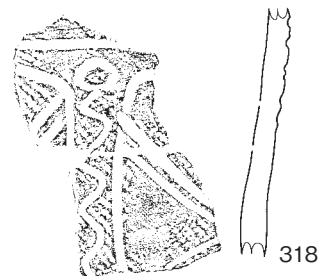
14号土坑



15号土坑

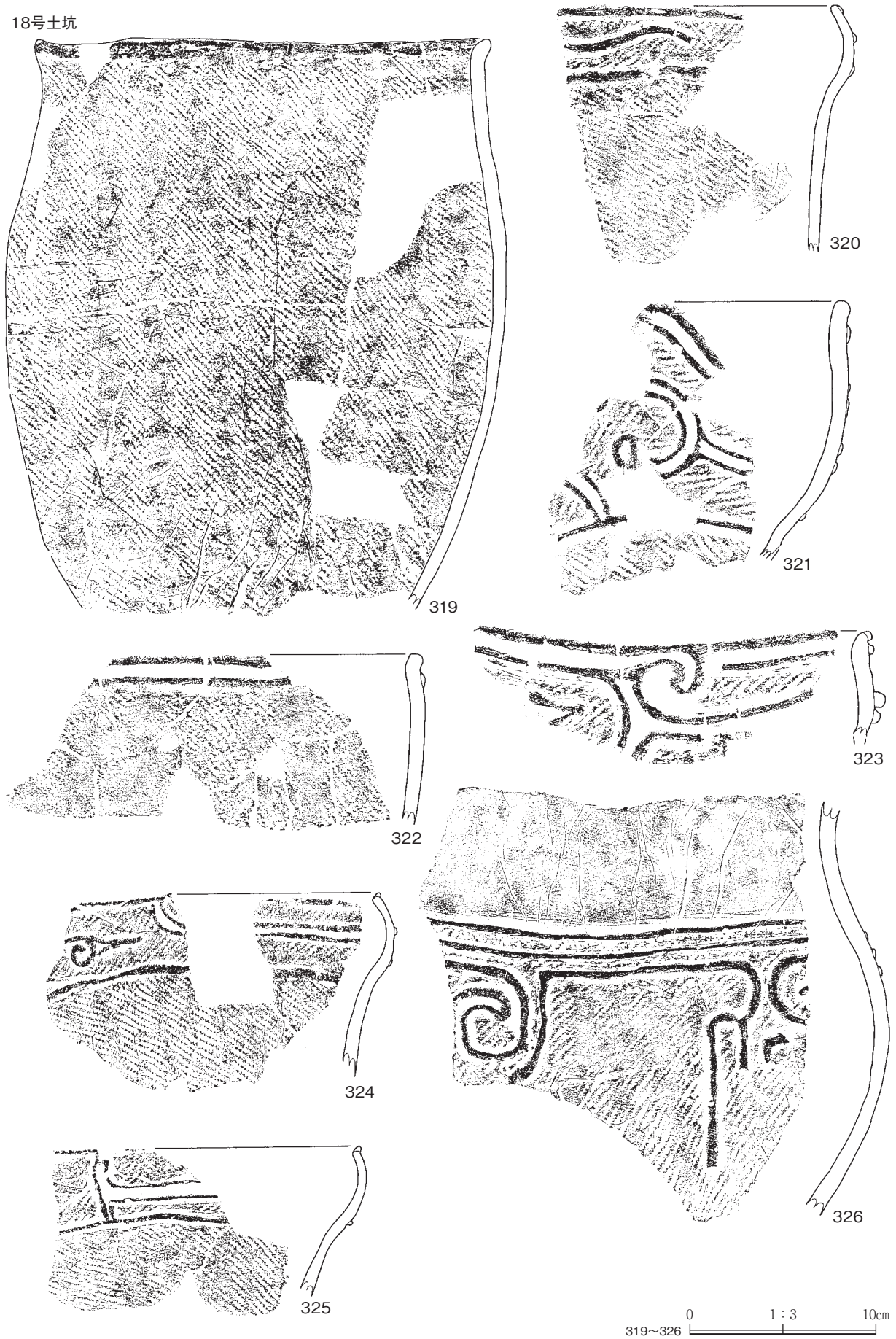


16号土坑



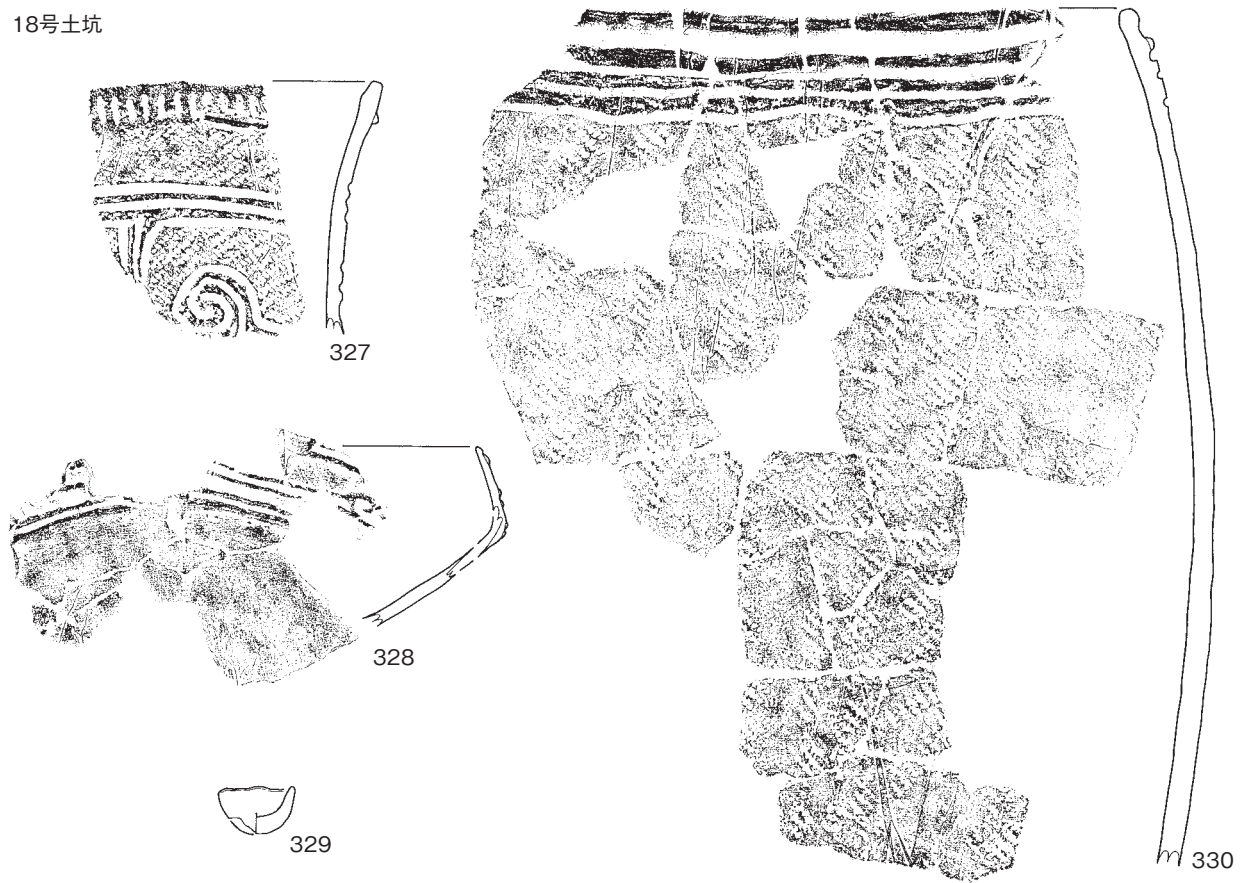
第134図 遺構内出土遺物45

18号土坑

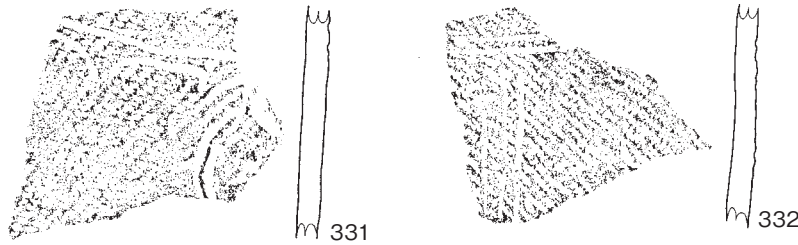


第135図 遺構内出土遺物46

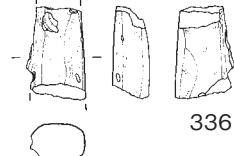
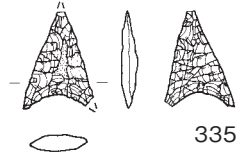
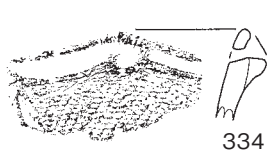
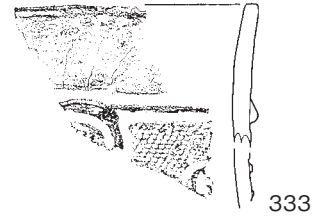
18号土坑



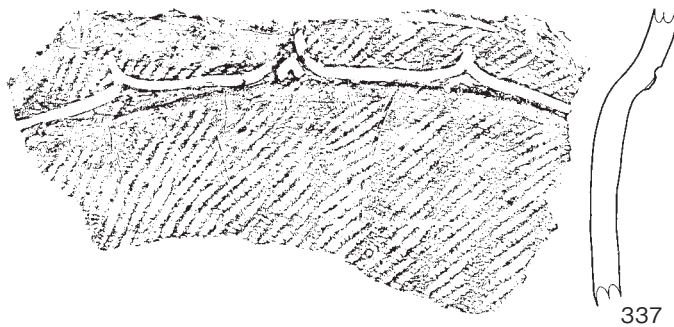
22号土坑



25号土坑



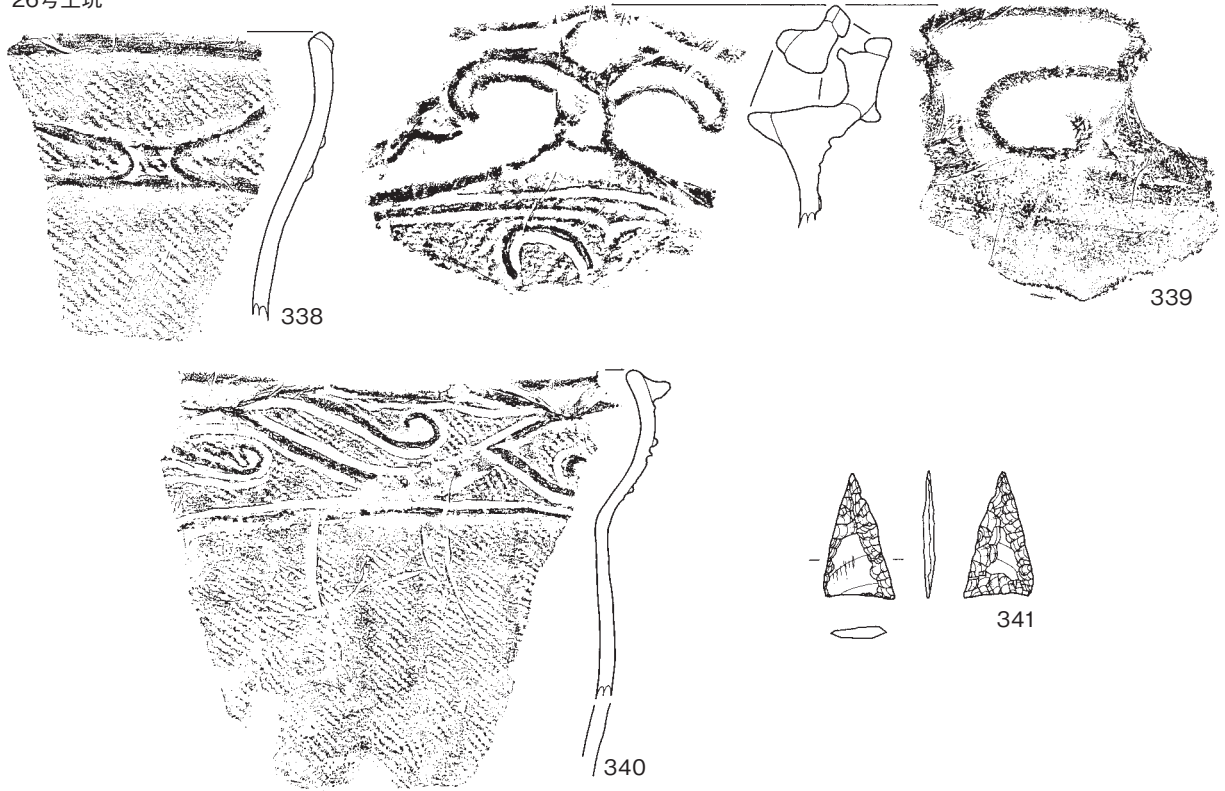
26号土坑



335 0 2 : 3 5cm
 327~334 · 0 1 : 3 10cm
 336 · 337

第136図 遺構内出土遺物47

26号土坑

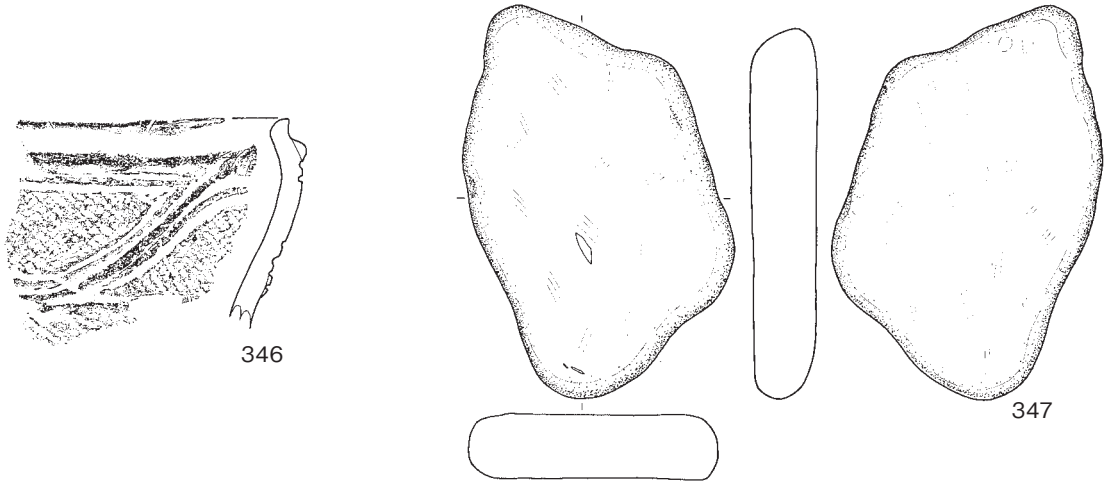


27号土坑

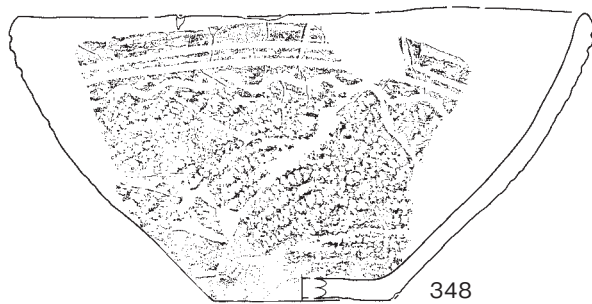


第137図 遺構内出土遺物48

27号土坑



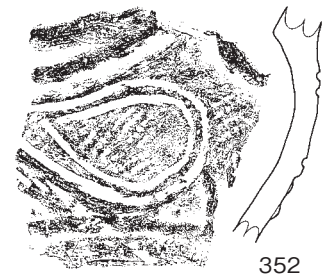
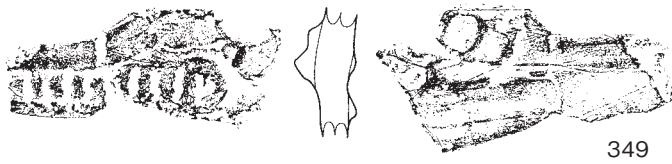
28号土坑



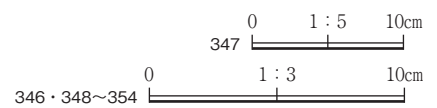
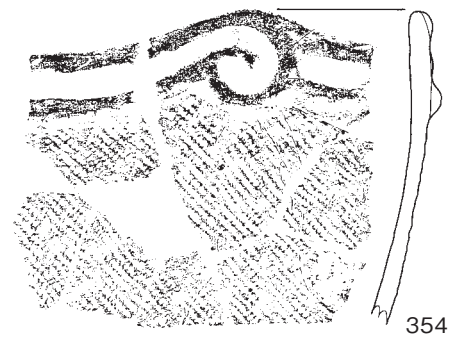
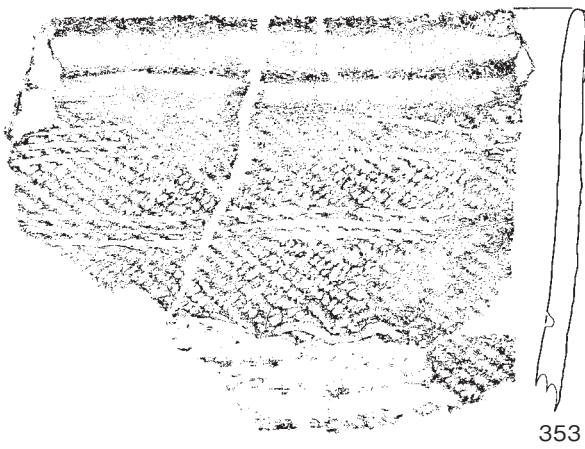
29号土坑



30号土坑

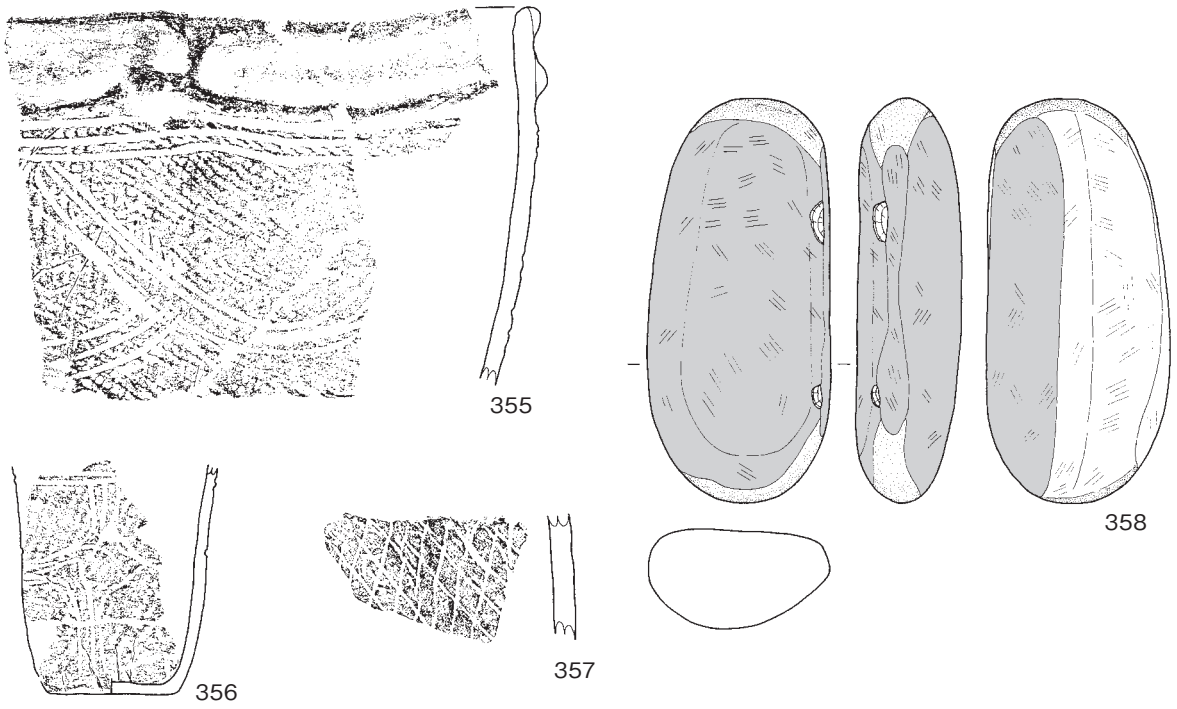


32号土坑

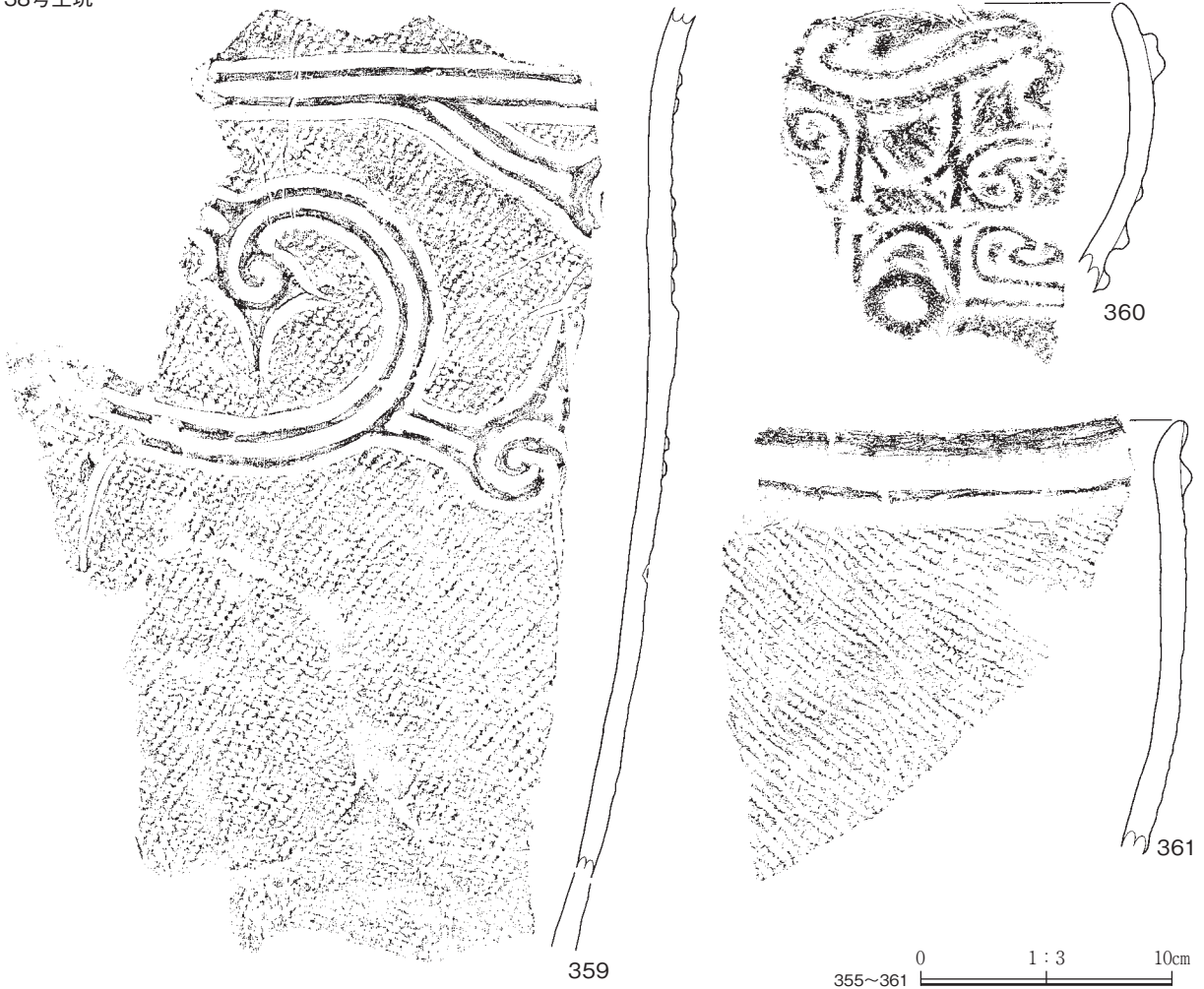


第138図 遺構内出土遺物49

35号土坑

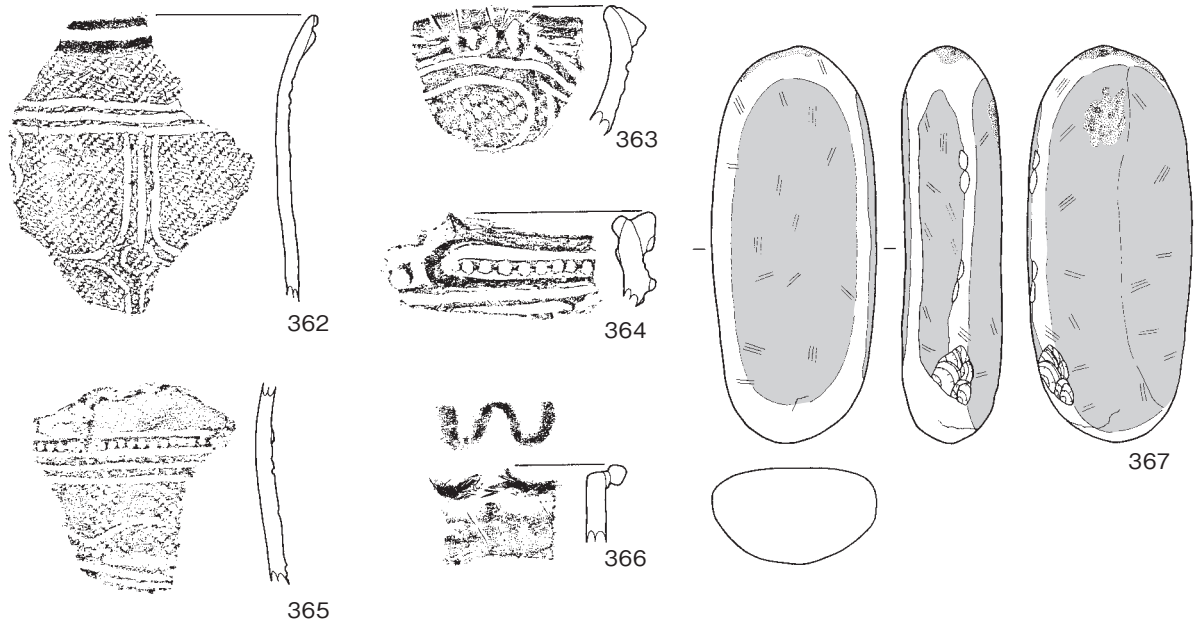


38号土坑

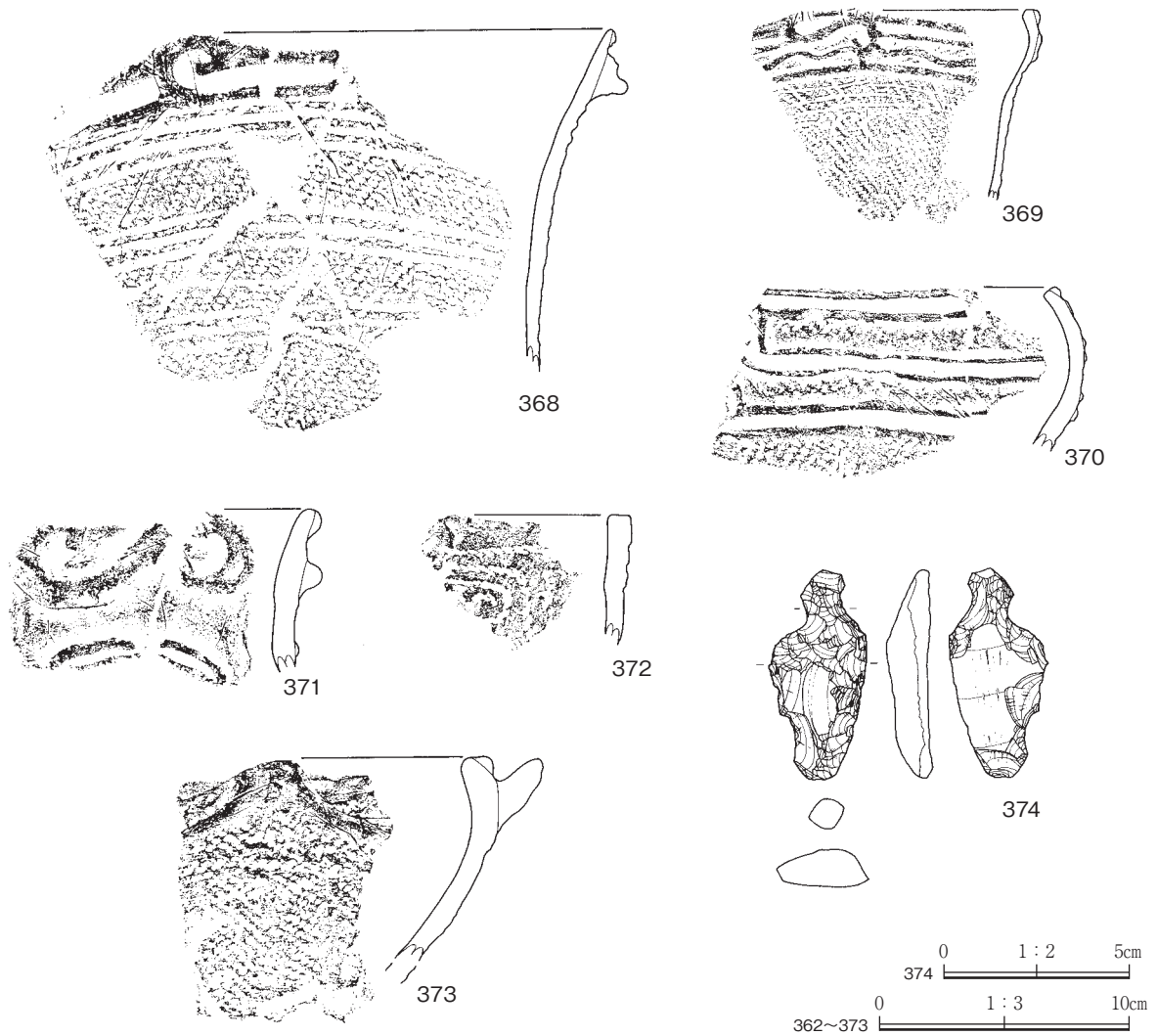


第139図 遺構内出土遺物50

38号土坑

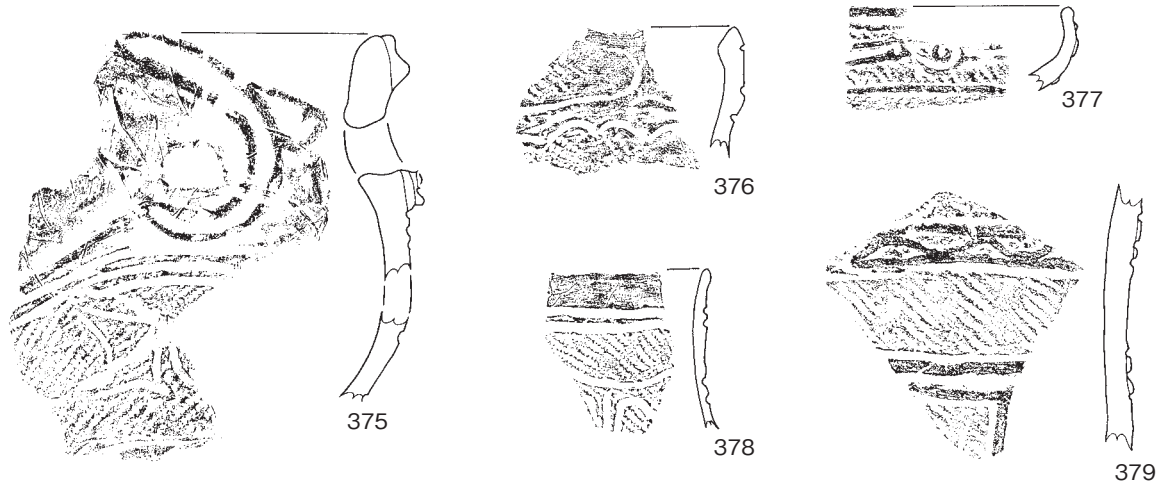


39号土坑

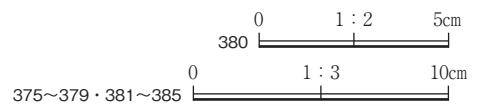
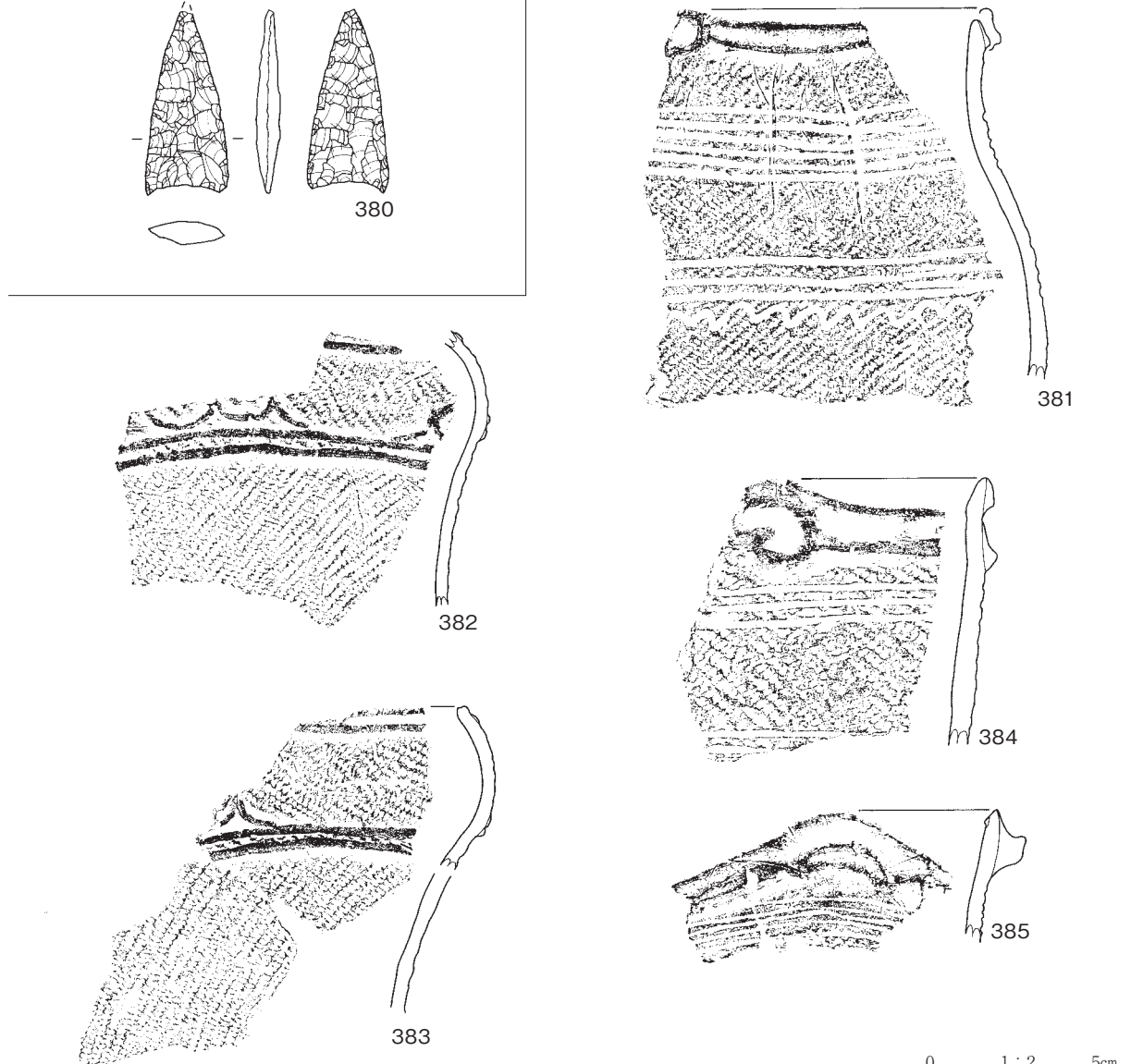


第140図 遺構内出土遺物51

41号土坑

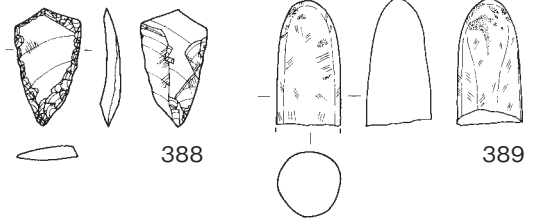


42号土坑

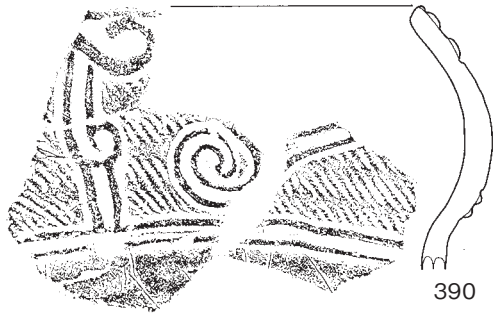


第141図 遺構内出土遺物52

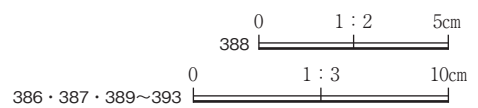
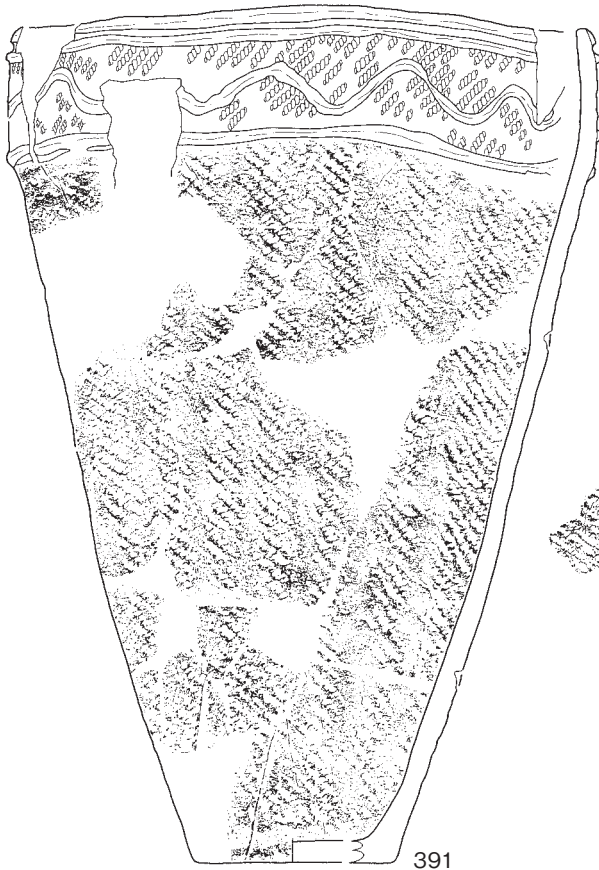
45号土坑



46号土坑

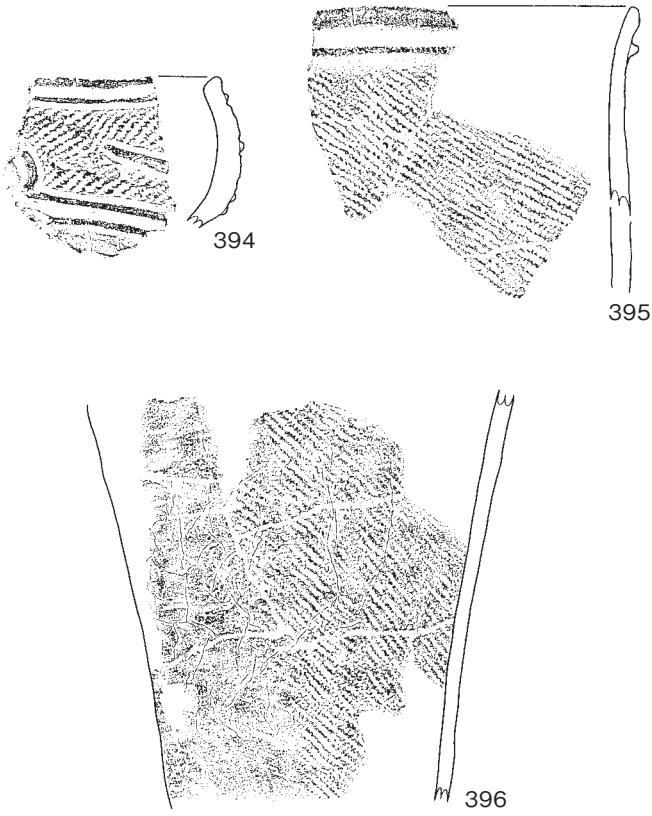


47号土坑

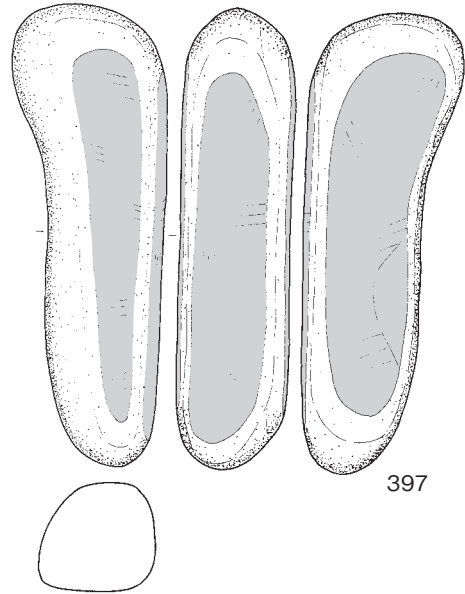


第142図 遺構内出土遺物53

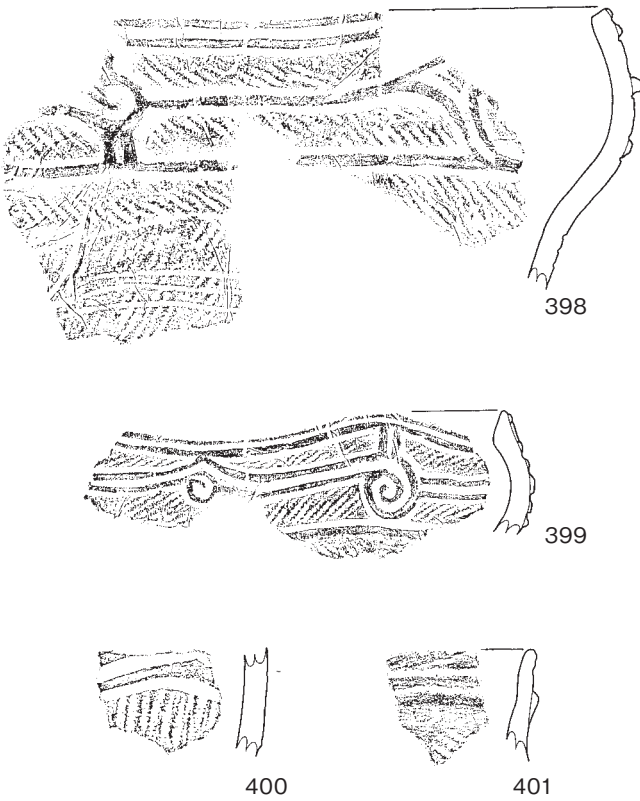
47号土坑



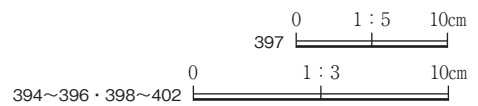
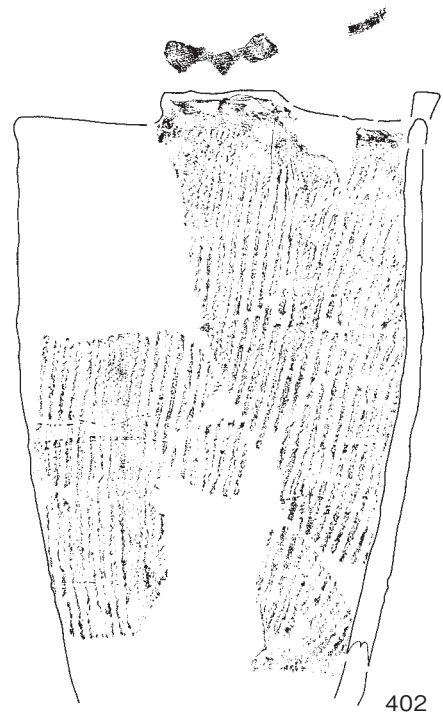
49号土坑



50号土坑

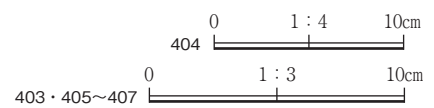
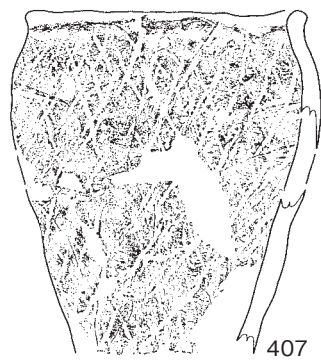
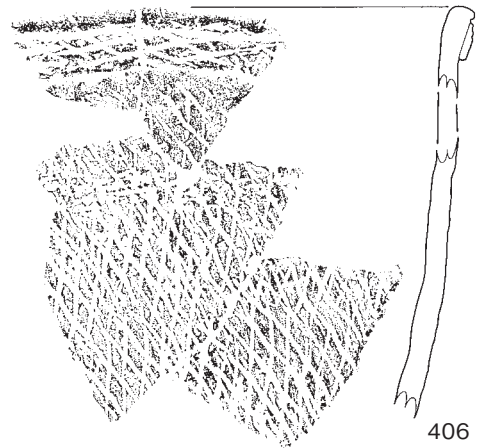


53号土坑



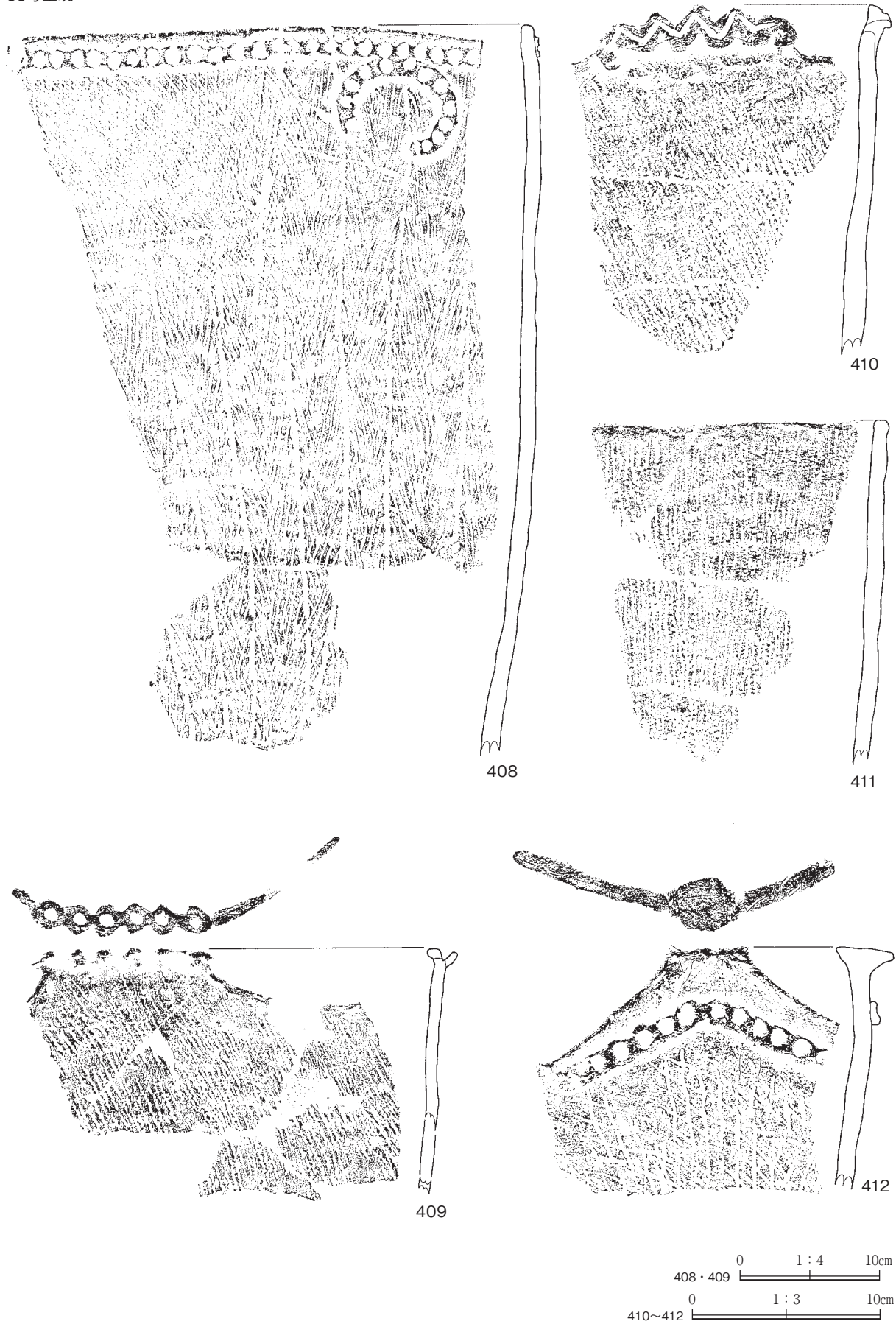
第143図 遺構内出土遺物54

53号土坑



第144図 遺構内出土遺物55

53号土坑



第145図 遺構内出土遺物56

53号土坑

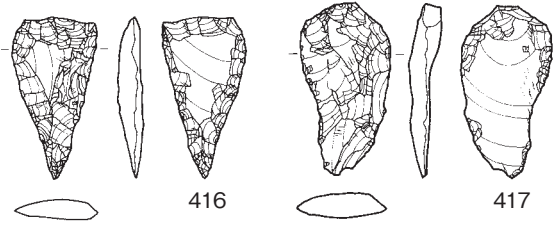


413



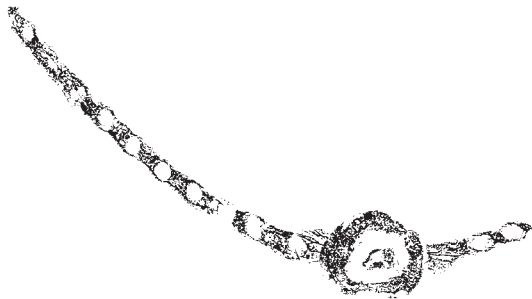
415

54号土坑



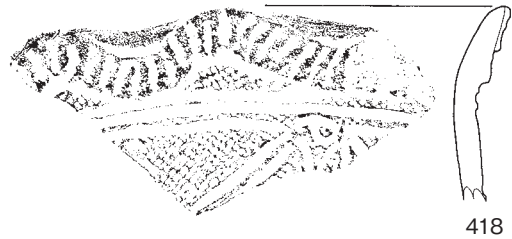
416

417



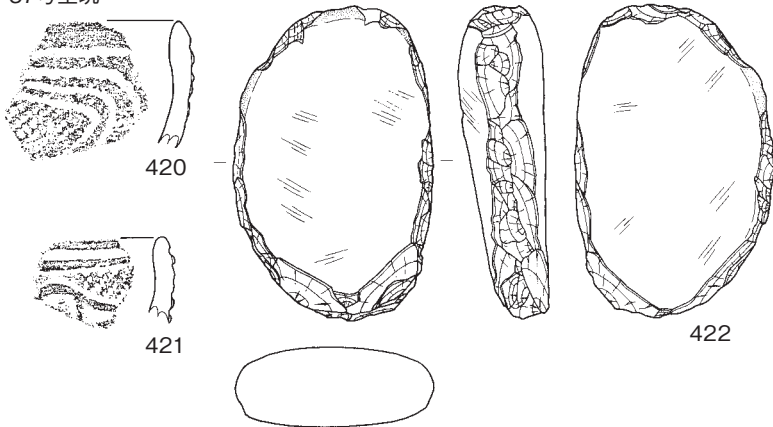
414

55号土坑



418

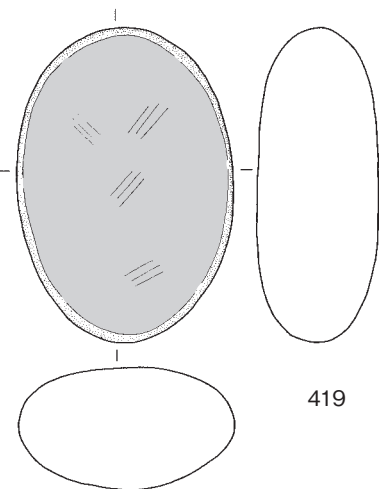
57号土坑



420

421

422



419

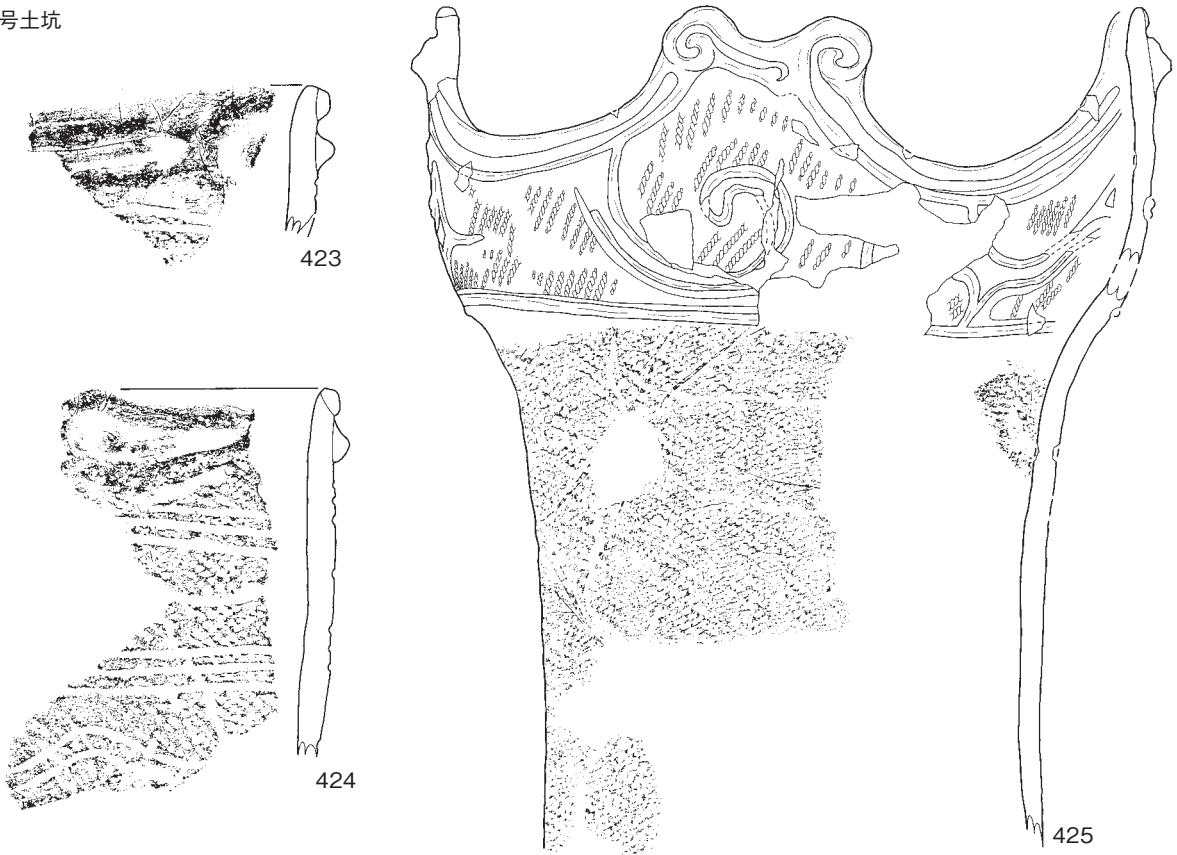
0 1:2 5cm

0 1:3 10cm

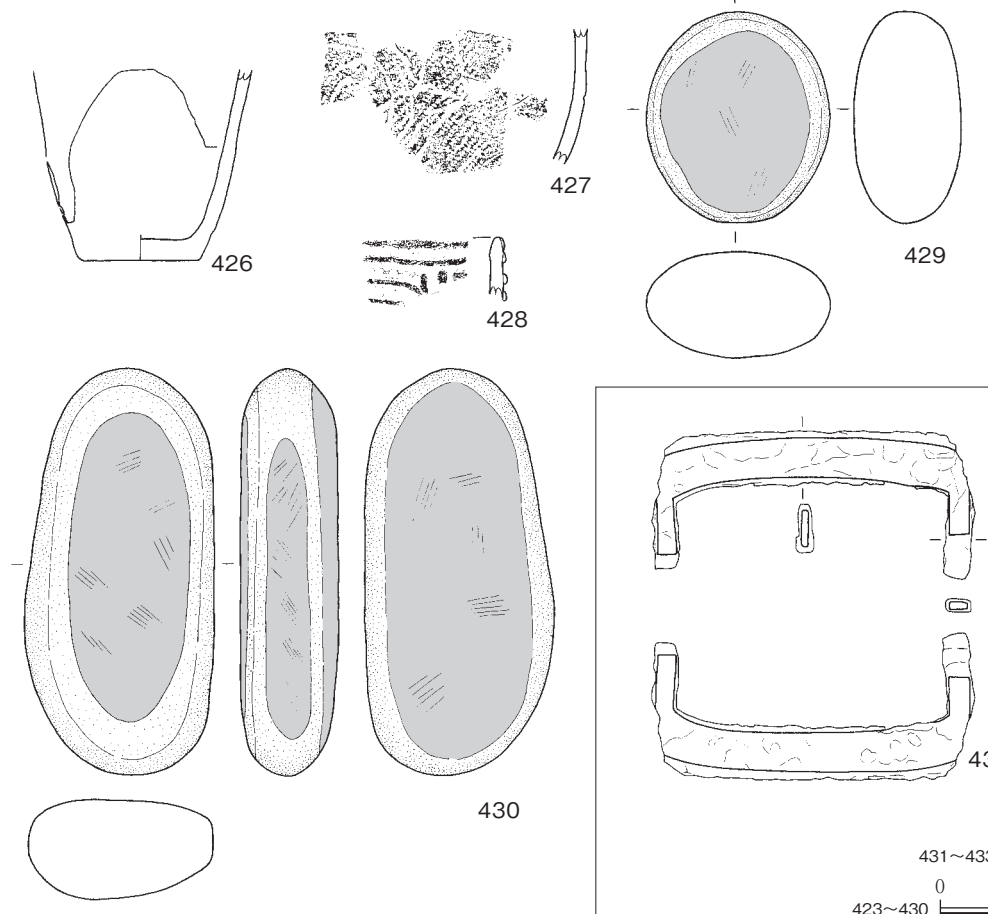
413~415 · 418~422

第146図 遺構内出土遺物57

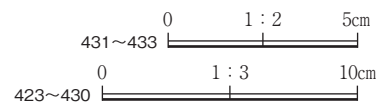
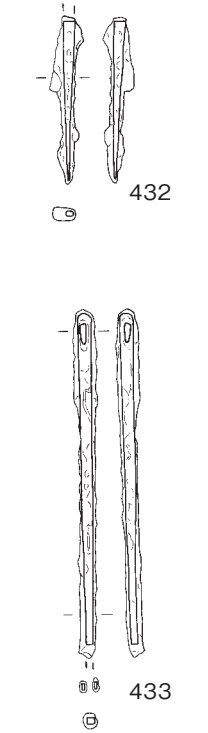
61号土坑



63号土坑

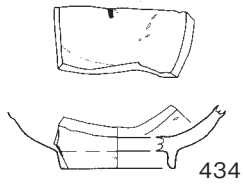


65号土坑

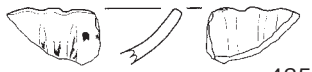


第147図 遺構内出土遺物58

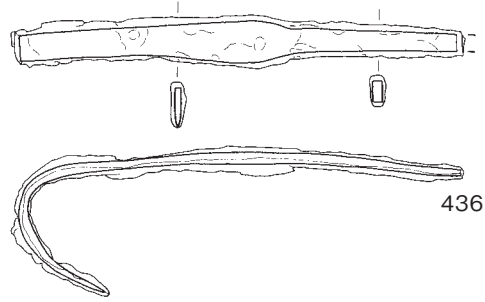
66号土坑



434

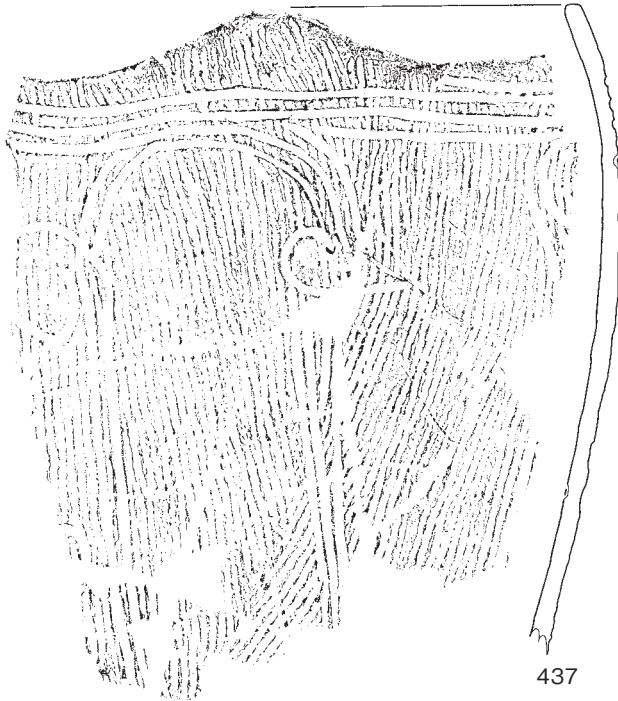


435

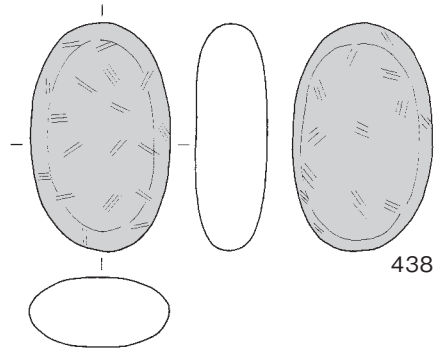


436

2号陥し穴状遺構

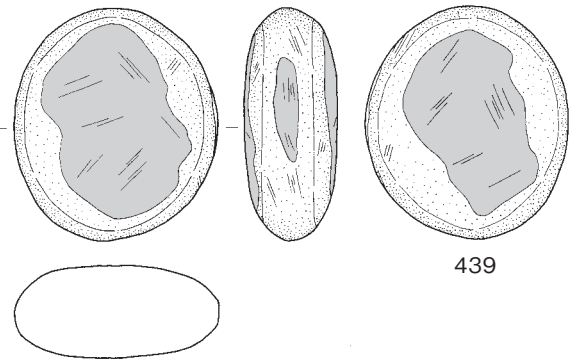


437



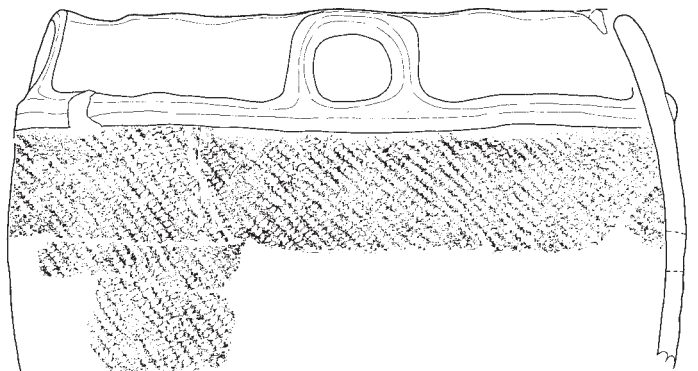
438

7号陥し穴状遺構

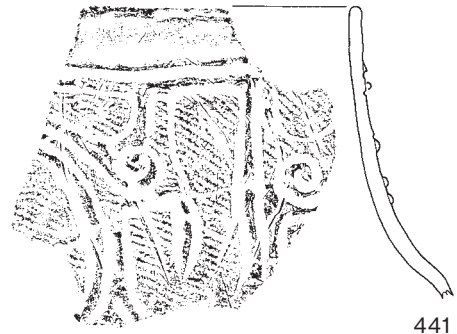


439

8号陥し穴状遺構



440



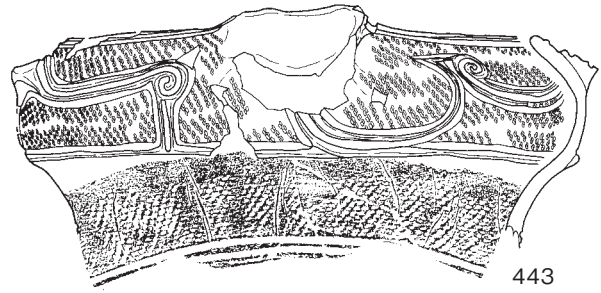
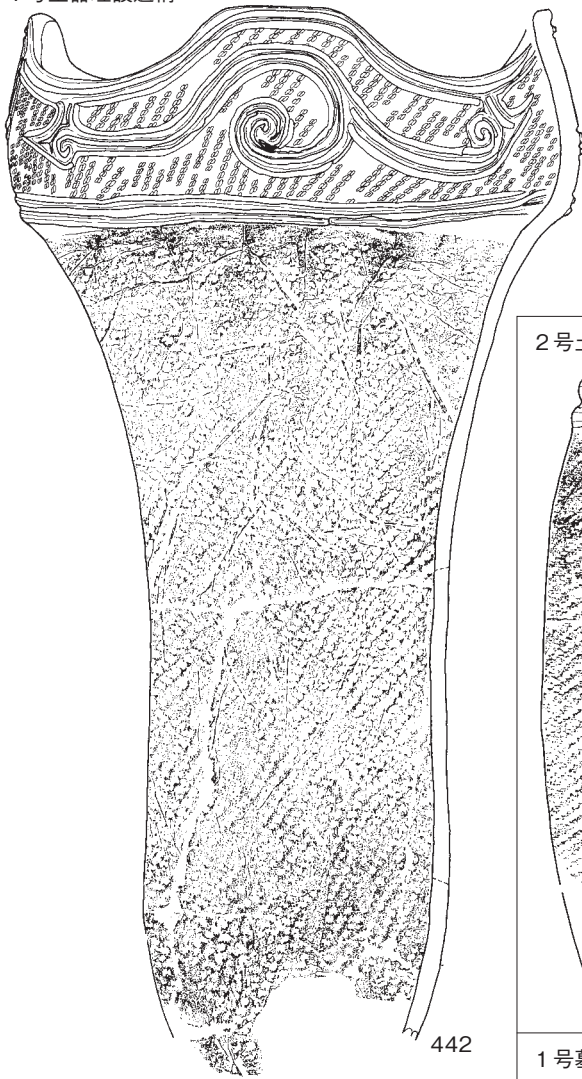
441

440 0 1 : 4 10cm
436 0 1 : 2 5cm

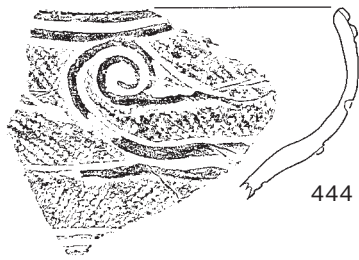
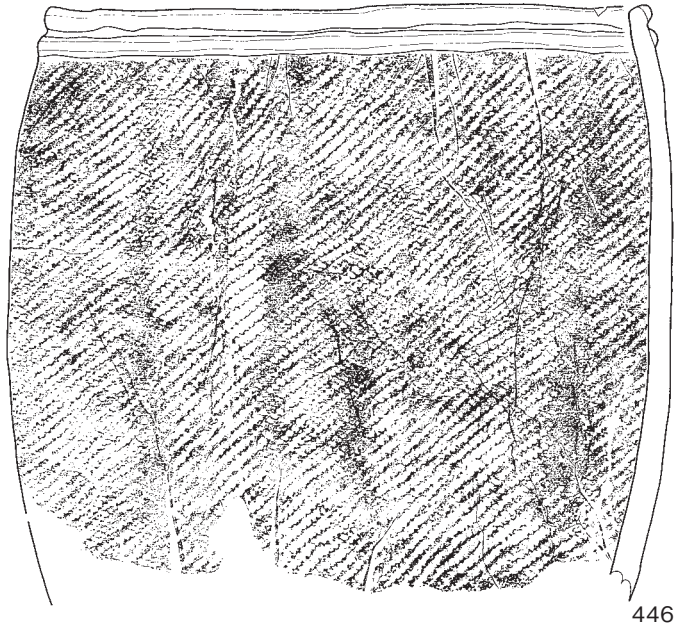
0 1 : 3 10cm
434 · 435 · 437 ~ 439 · 441

第148図 遺構内出土遺物59

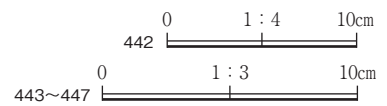
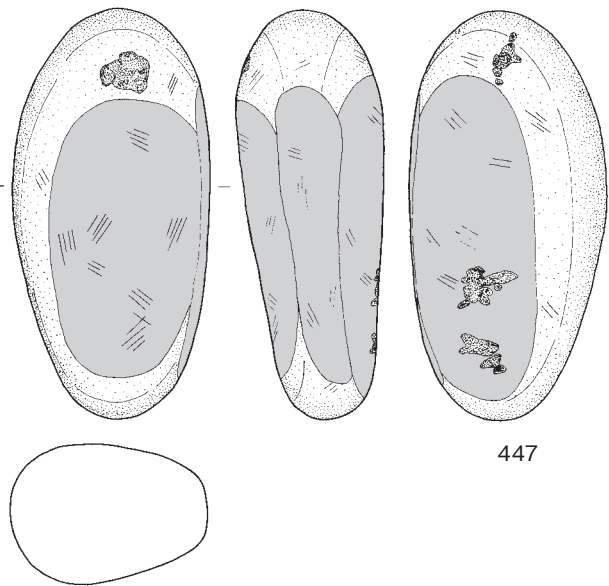
1号土器埋設遺構



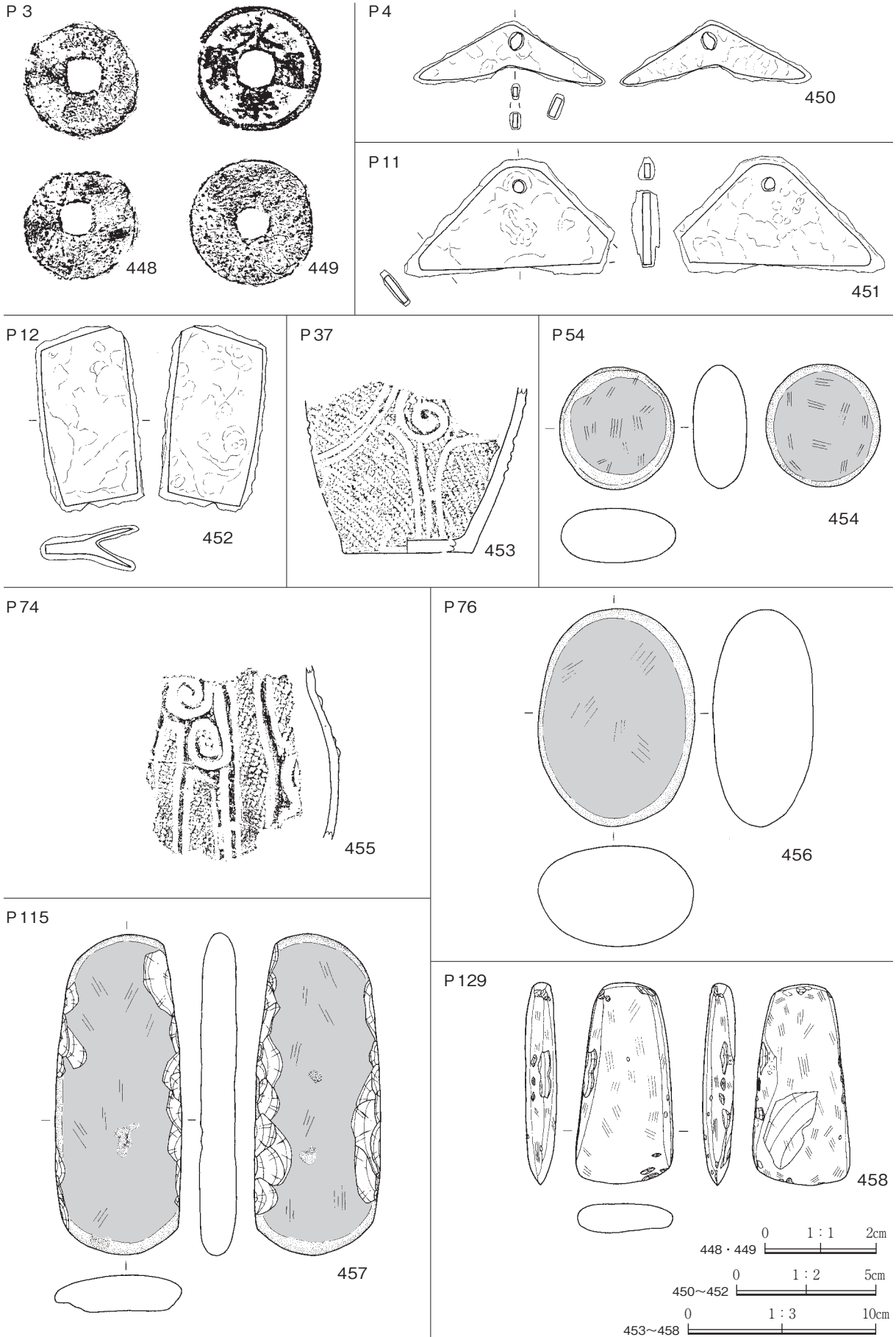
2号土器埋設遺構



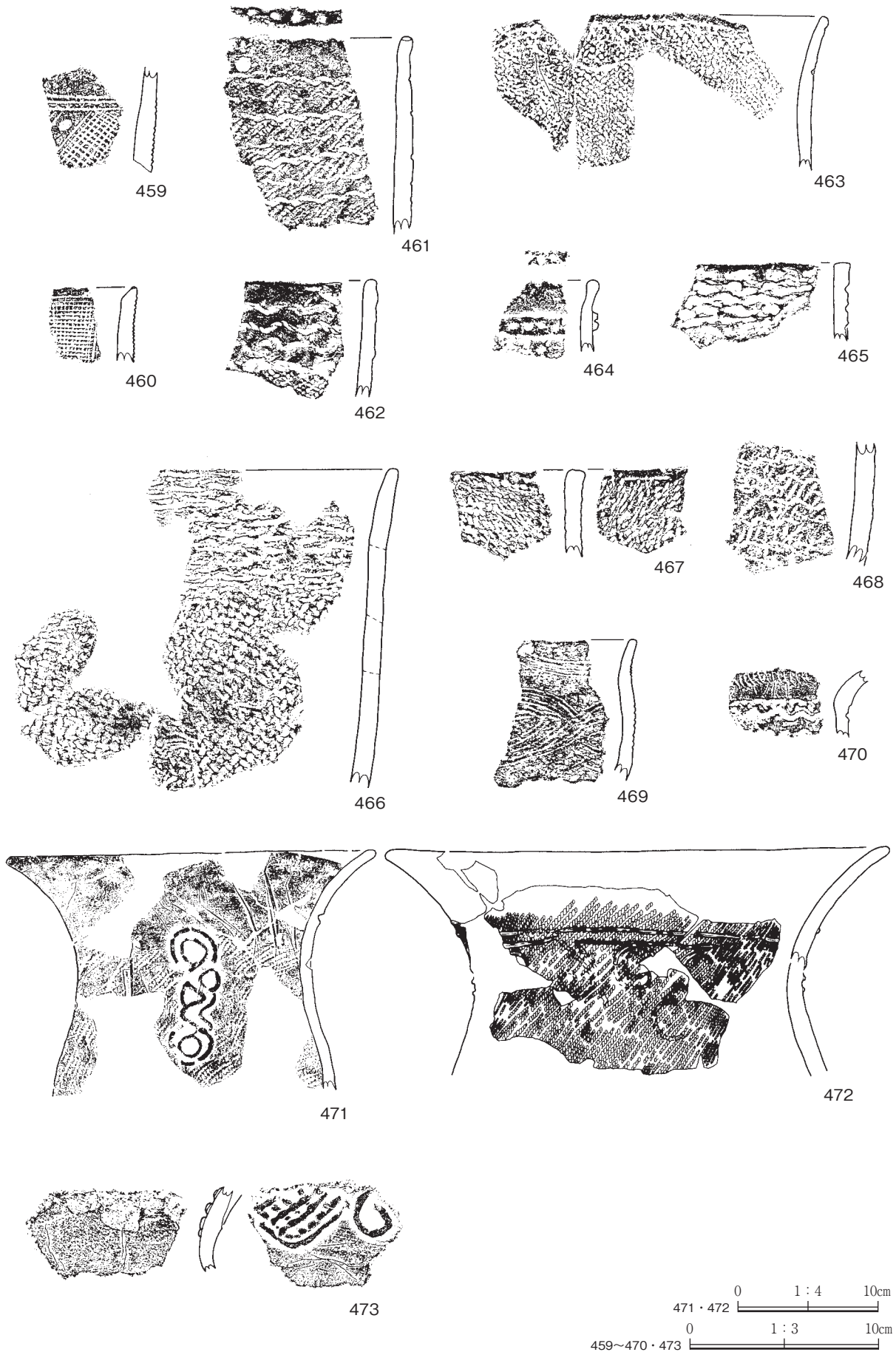
1号墓墳



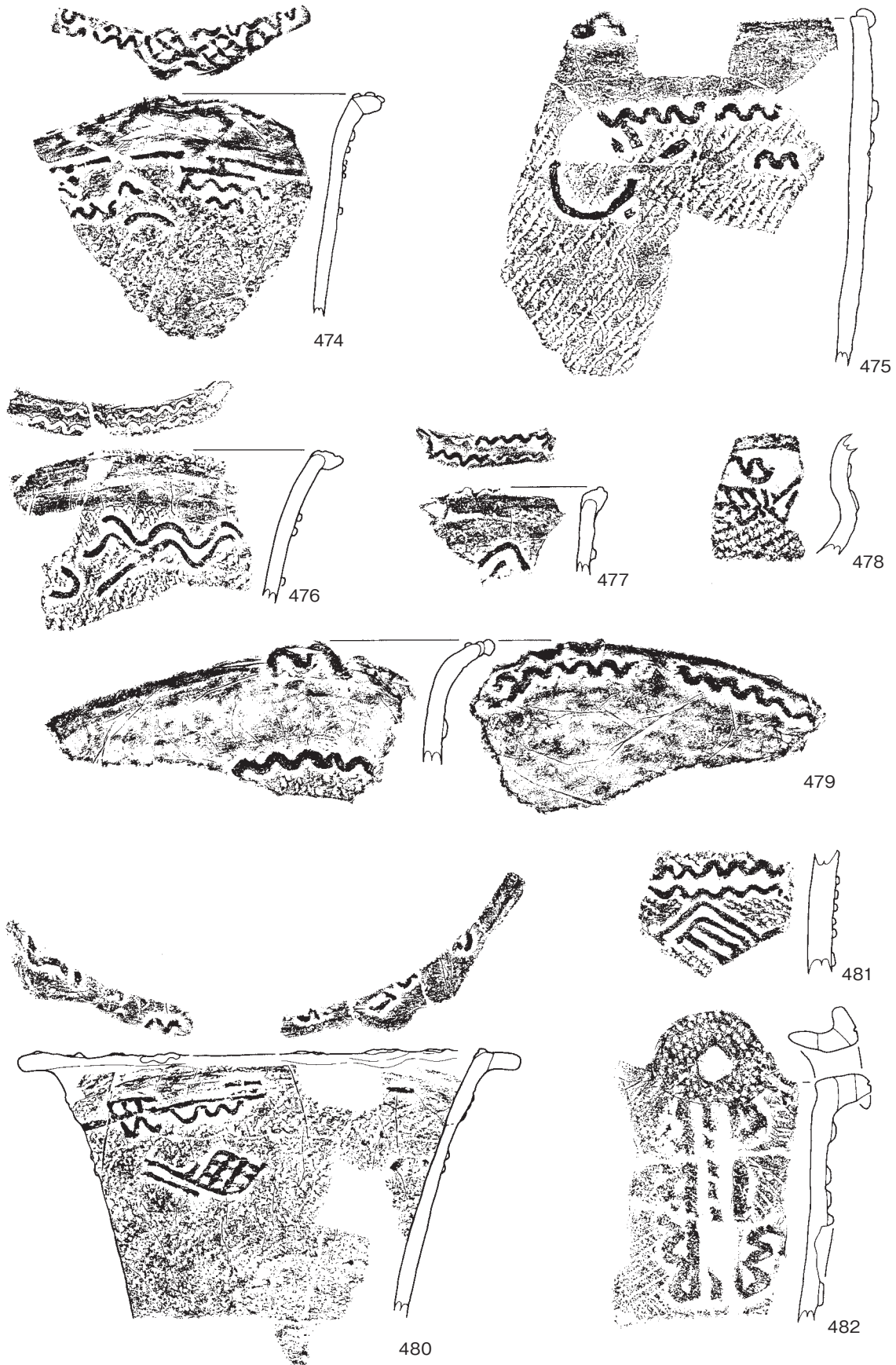
第149図 遺構内出土遺物60



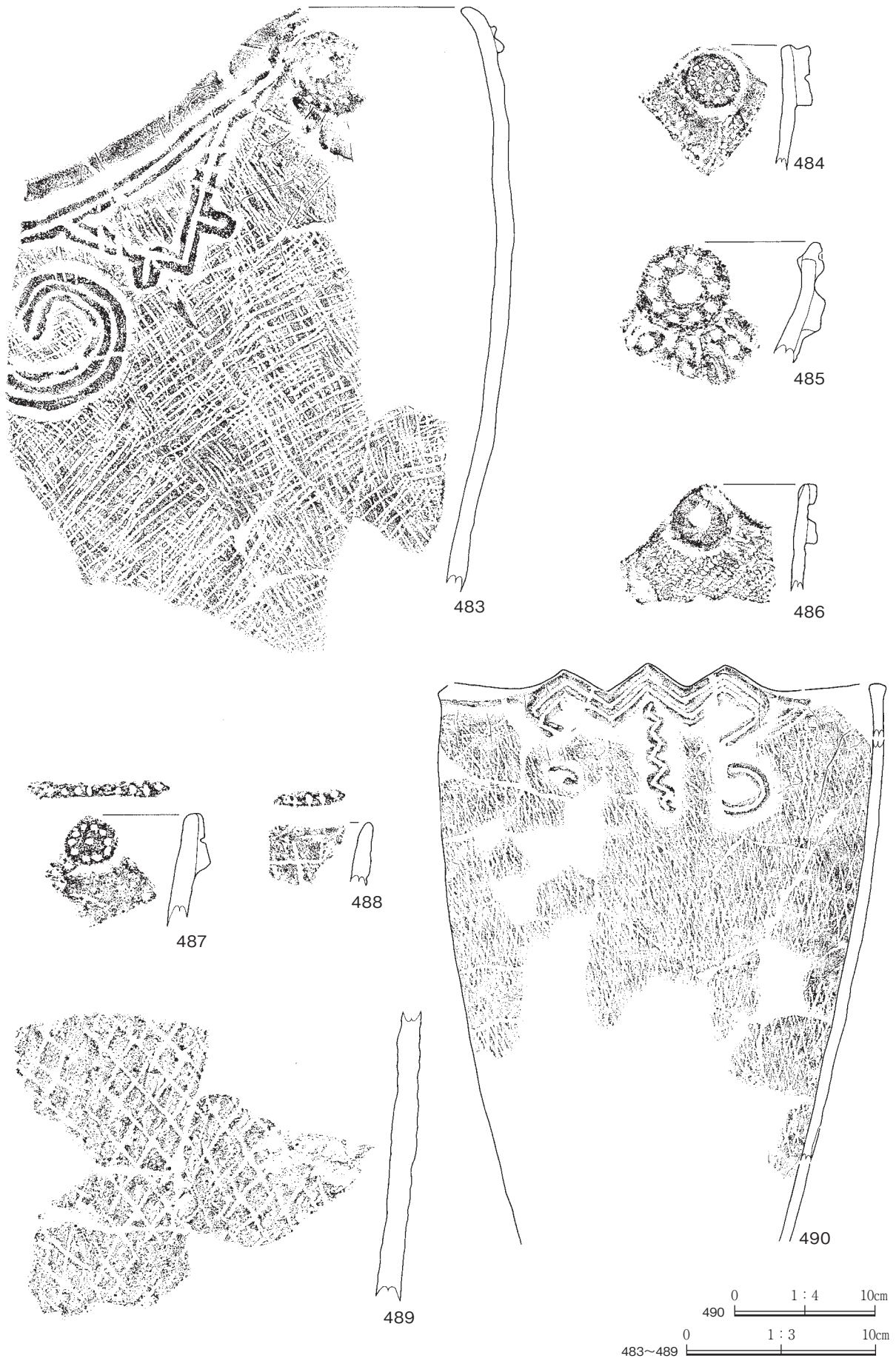
第150図 遺構内出土遺物61



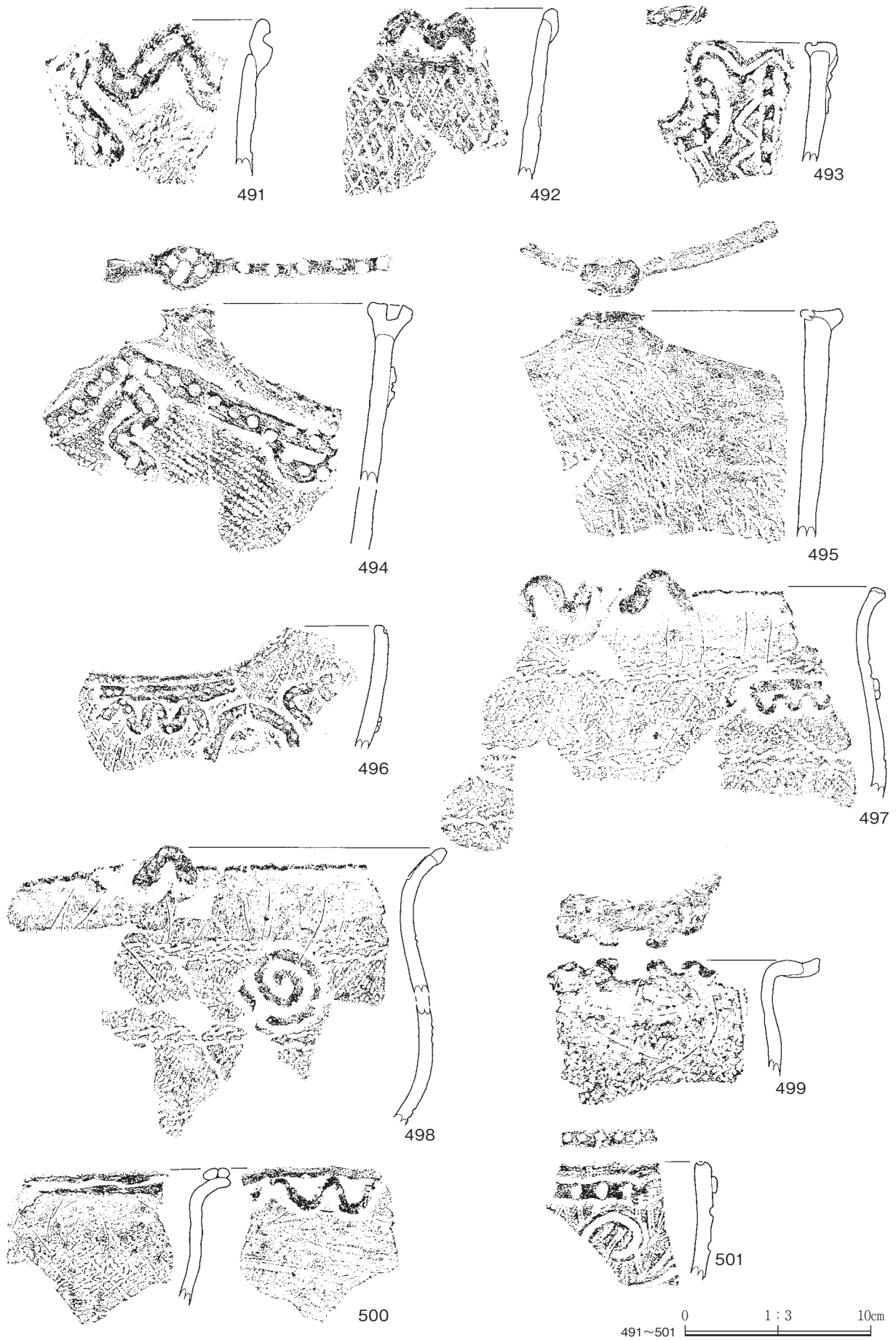
第151図 遺構外出土遺物1 (縄文土器1)



第152図 遺構外出土遺物2 (縄文土器2)



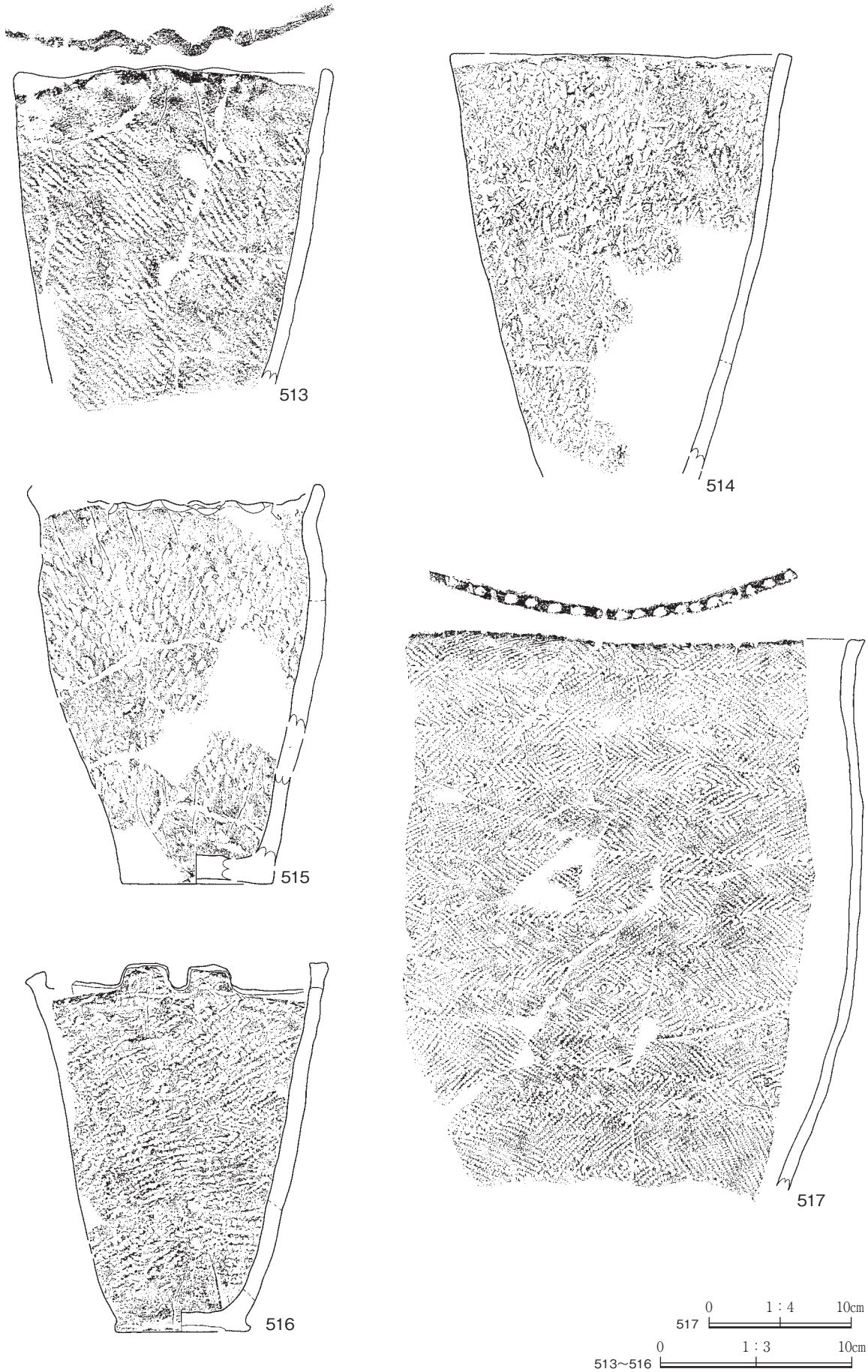
第153図 遺構外出土遺物3 (縄文土器3)



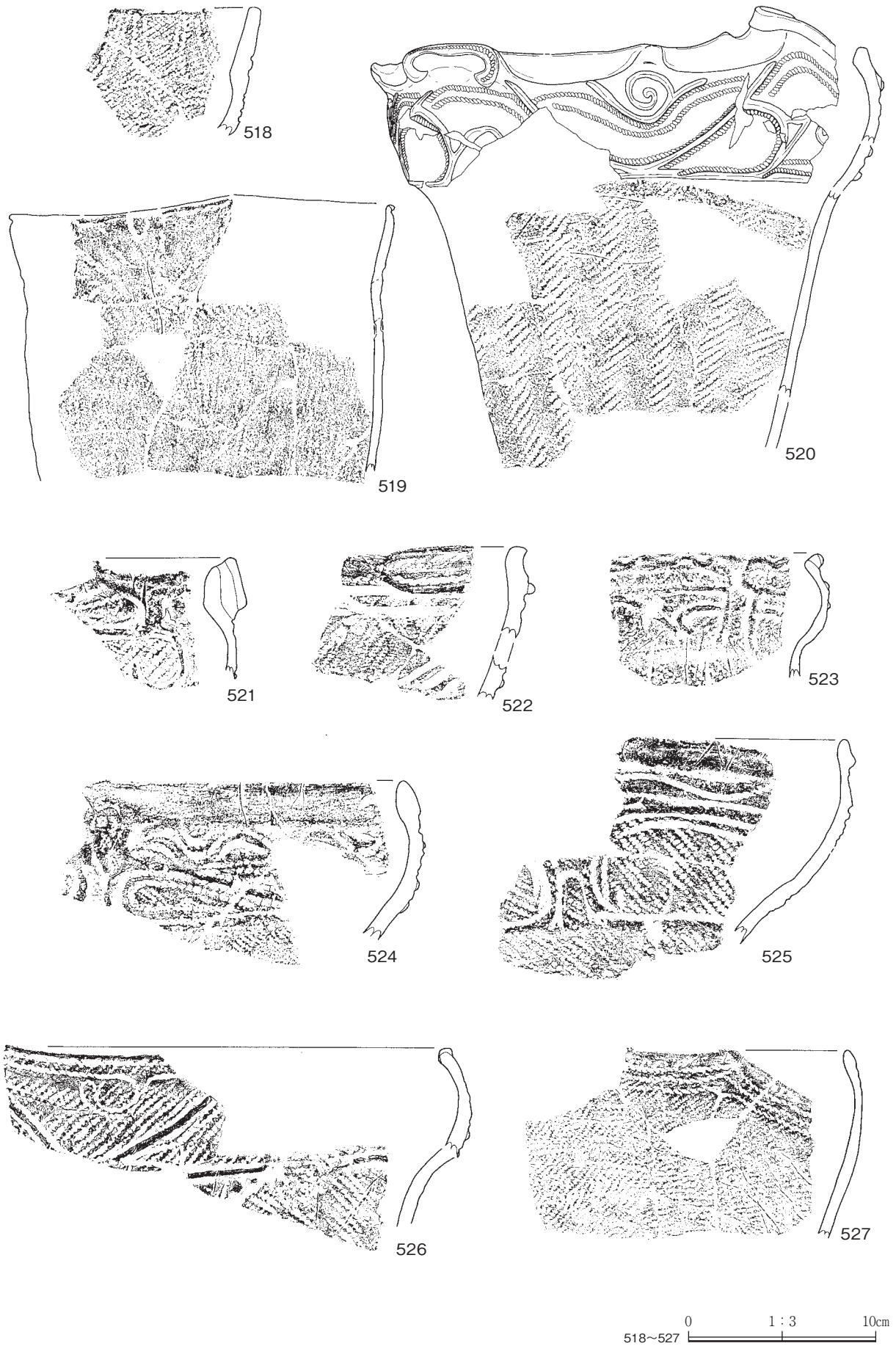
第154図 遺構外出土遺物4（縄文土器4）



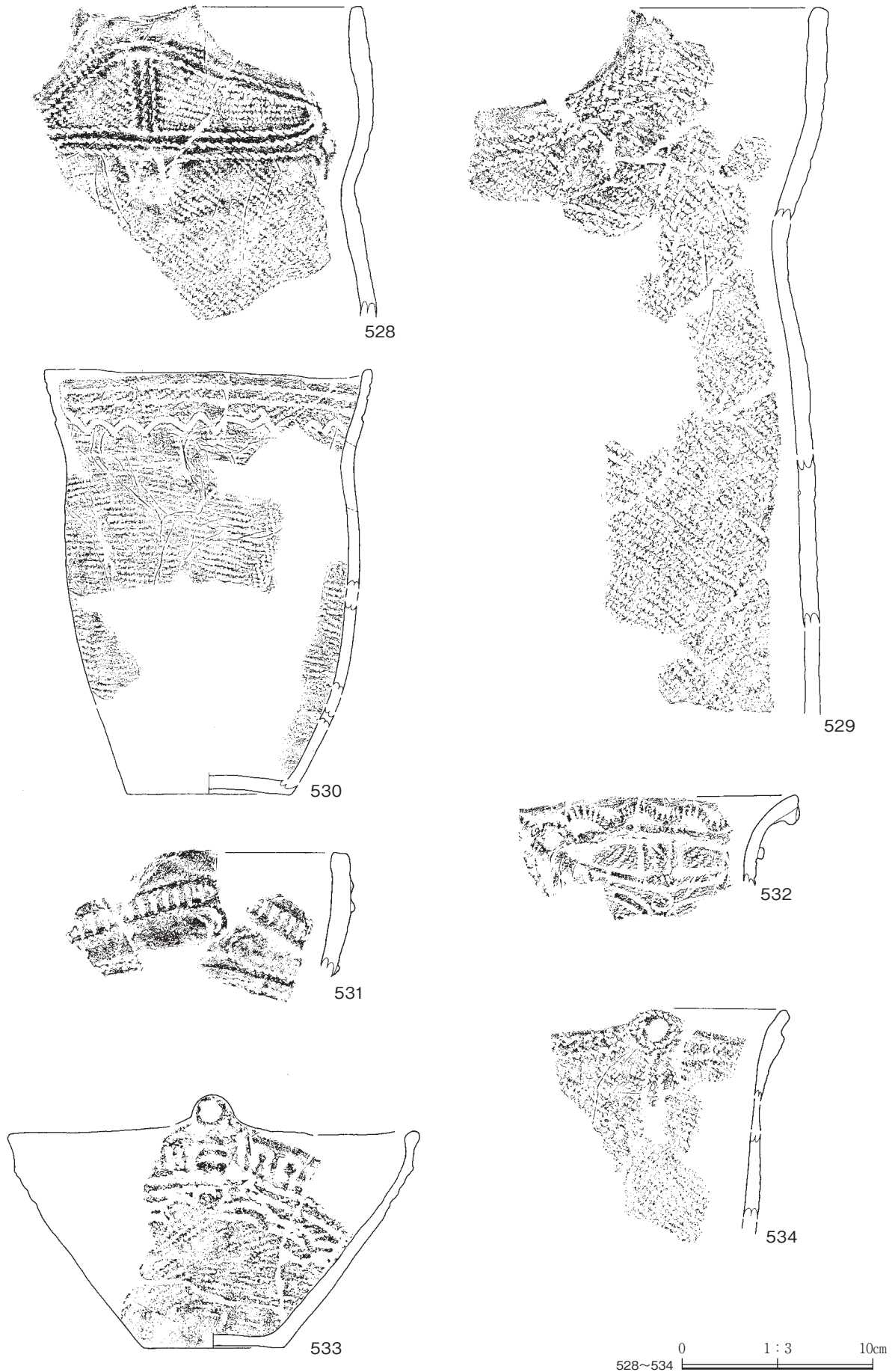
第155図 遺構外出土遺物5（縄文土器5）



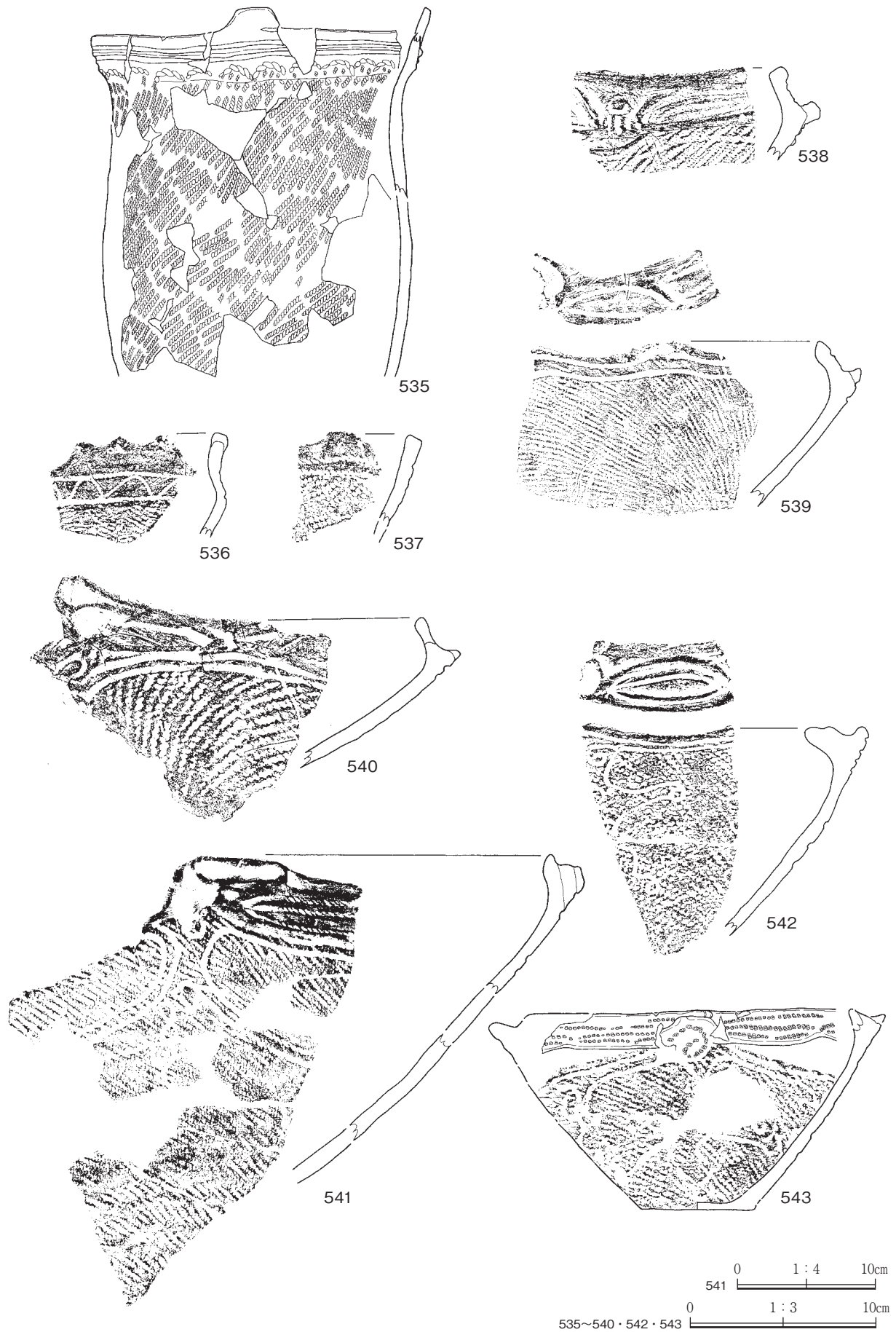
第156図 遺構外出土遺物6（縄文土器6）



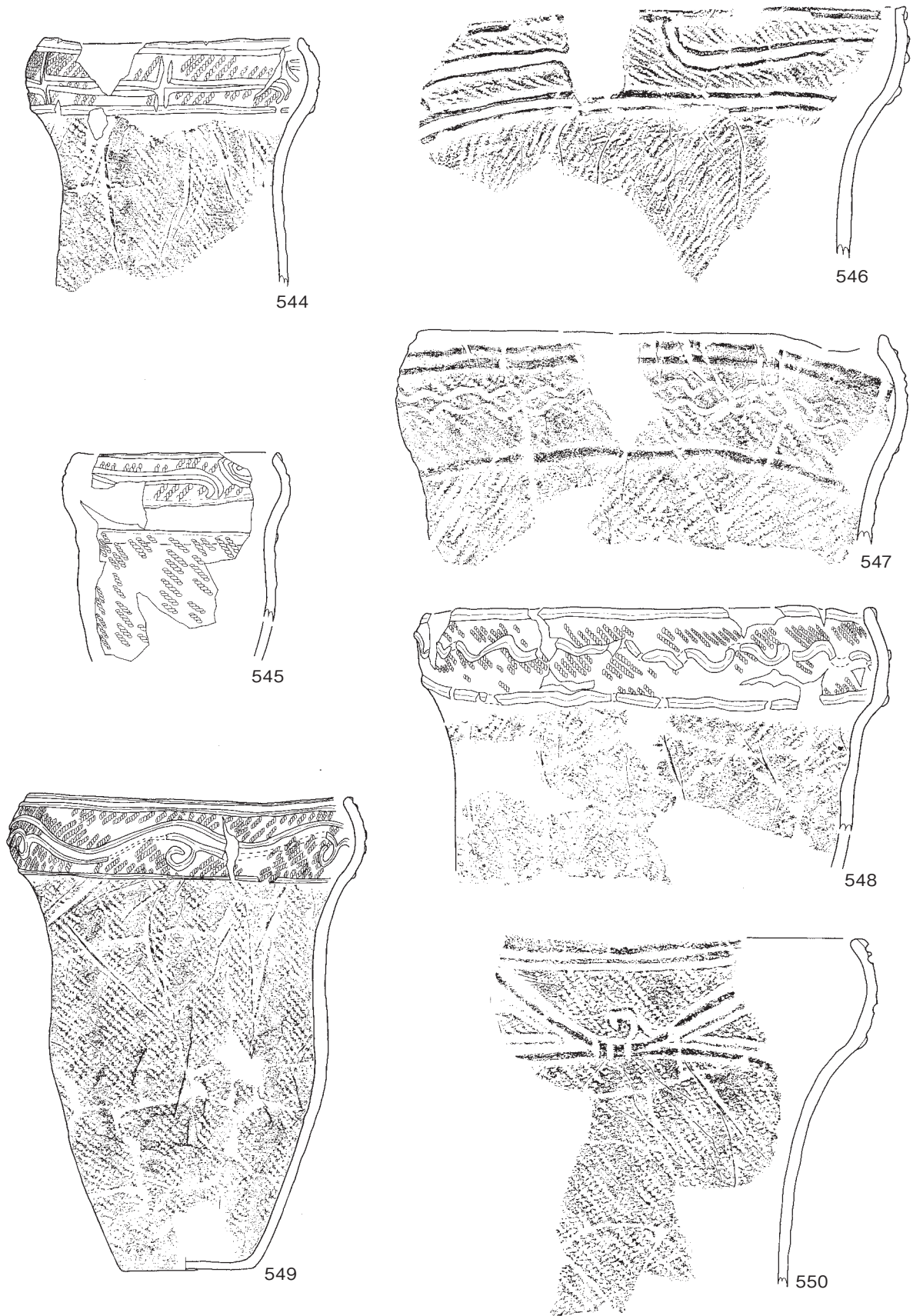
第157図 遺構外出土遺物7（縄文土器7）



第158図 遺構外出土遺物8（縄文土器8）

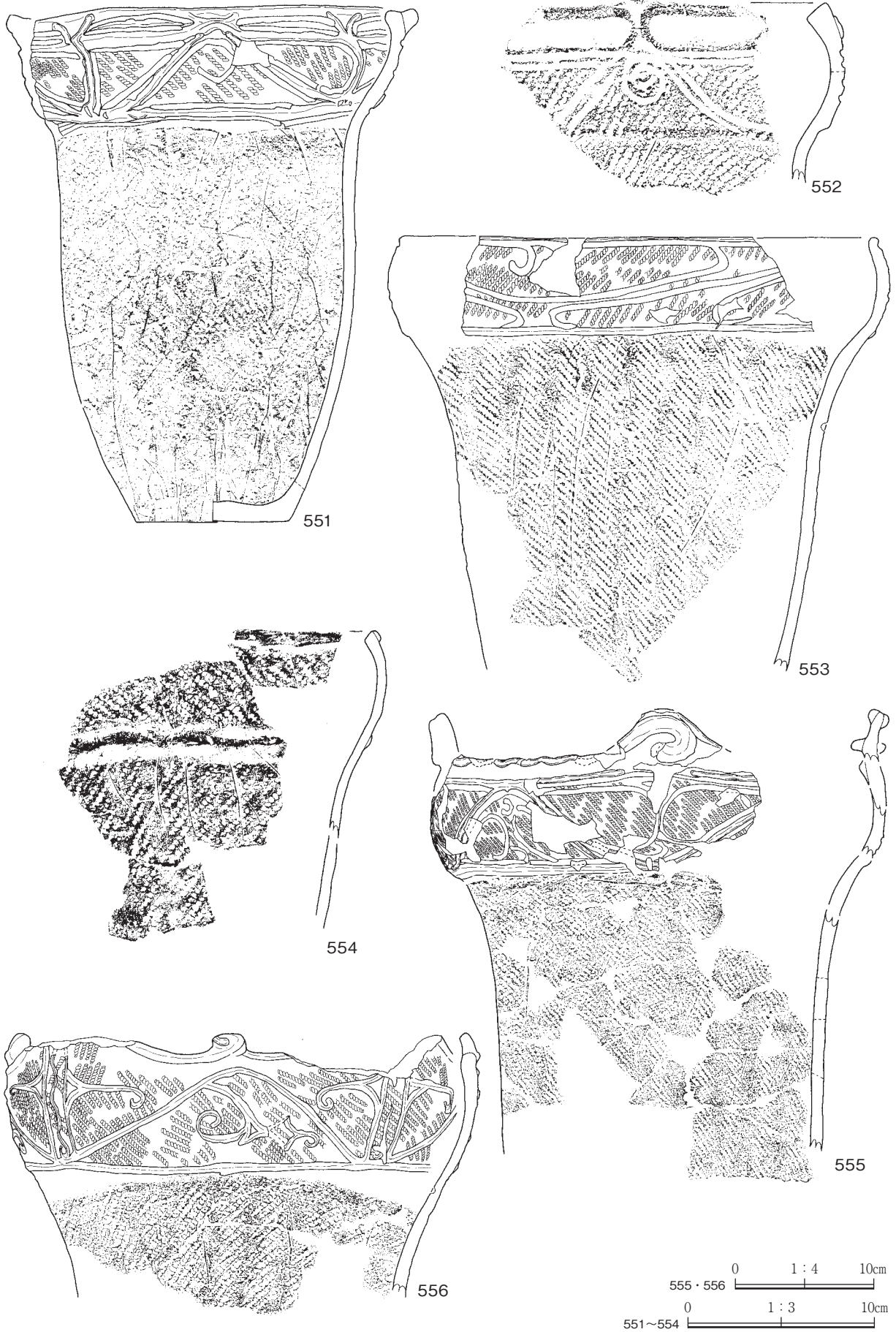


第159図 遺構外出土遺物9（縄文土器9）

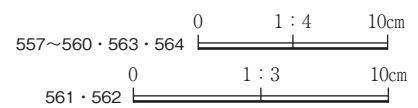
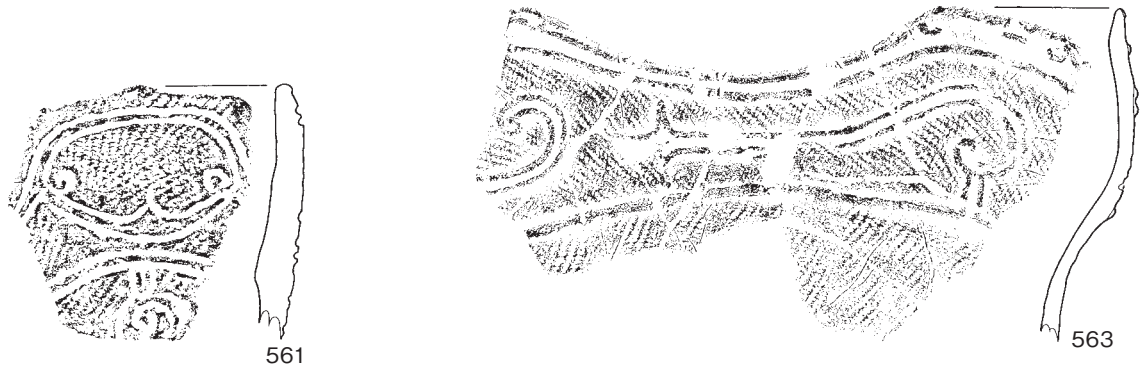
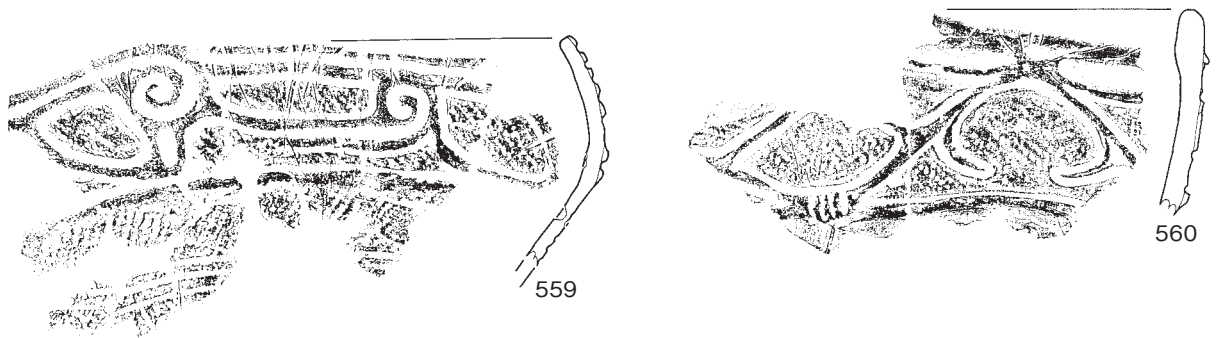
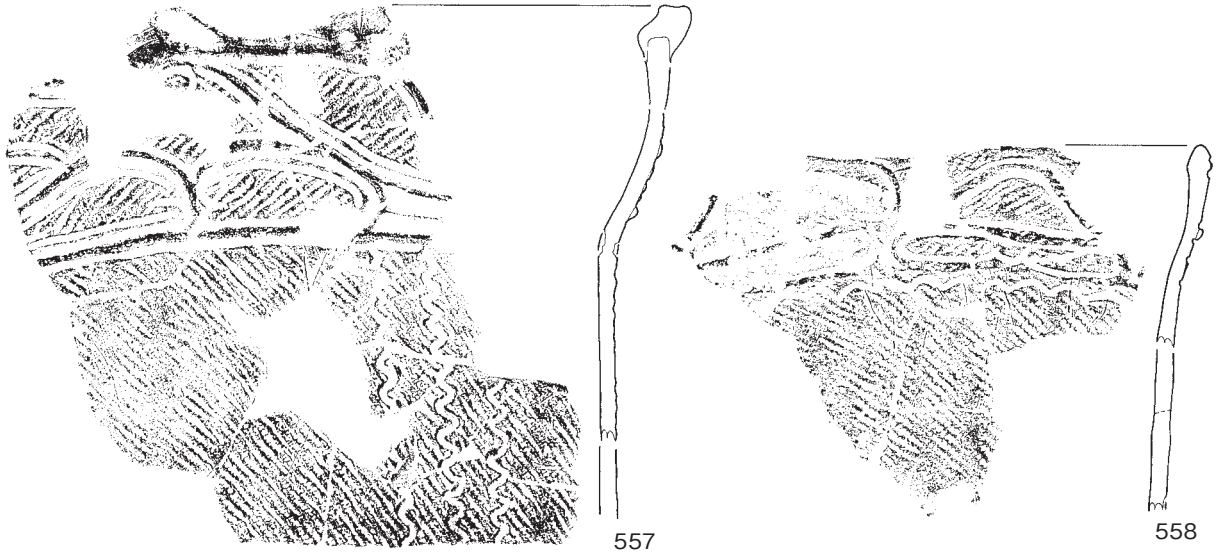


0 1:3 10cm
544~550

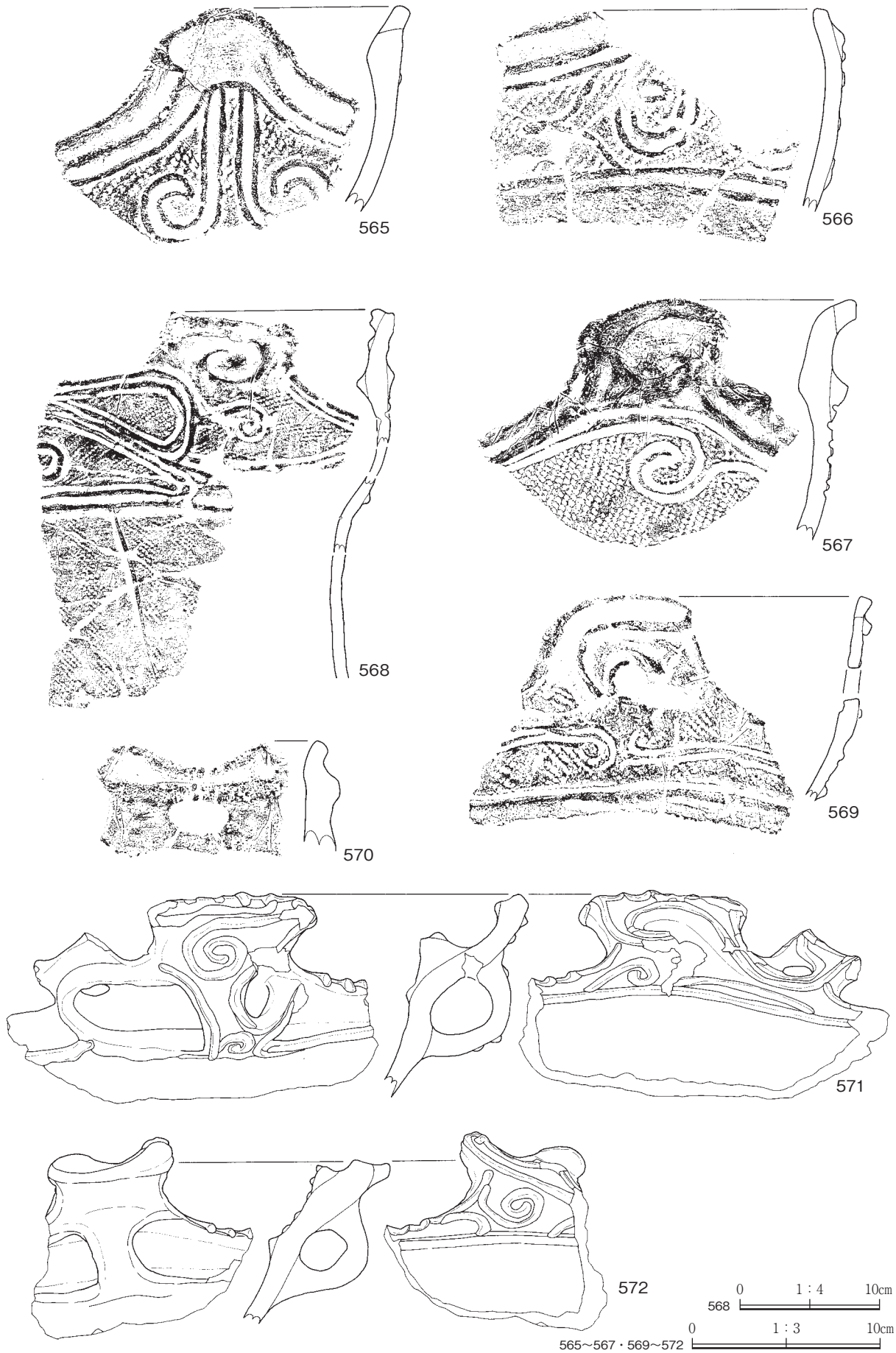
第160図 遺構外出土遺物10 (縄文土器10)



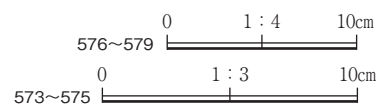
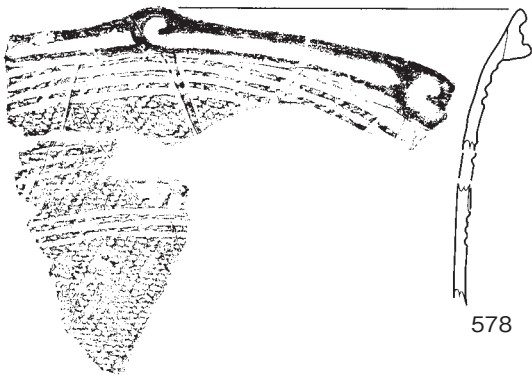
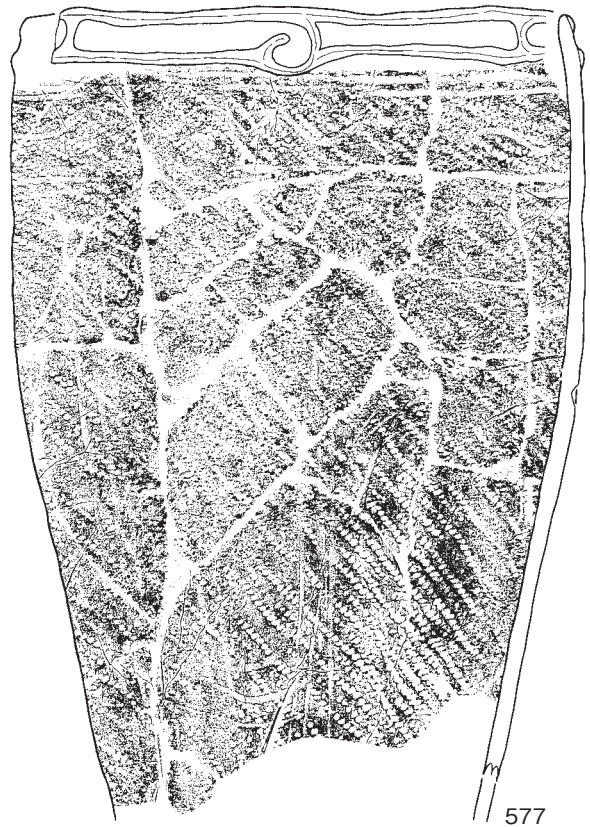
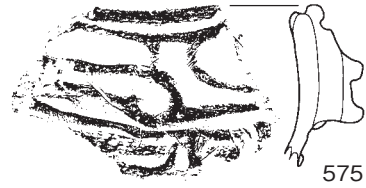
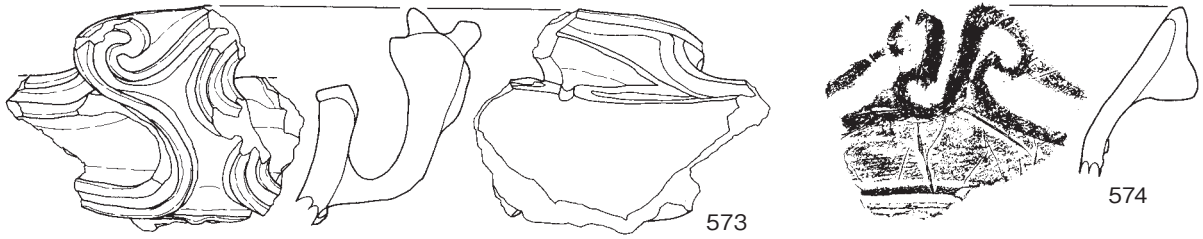
第161図 遺構外出土遺物11（縄文土器11）



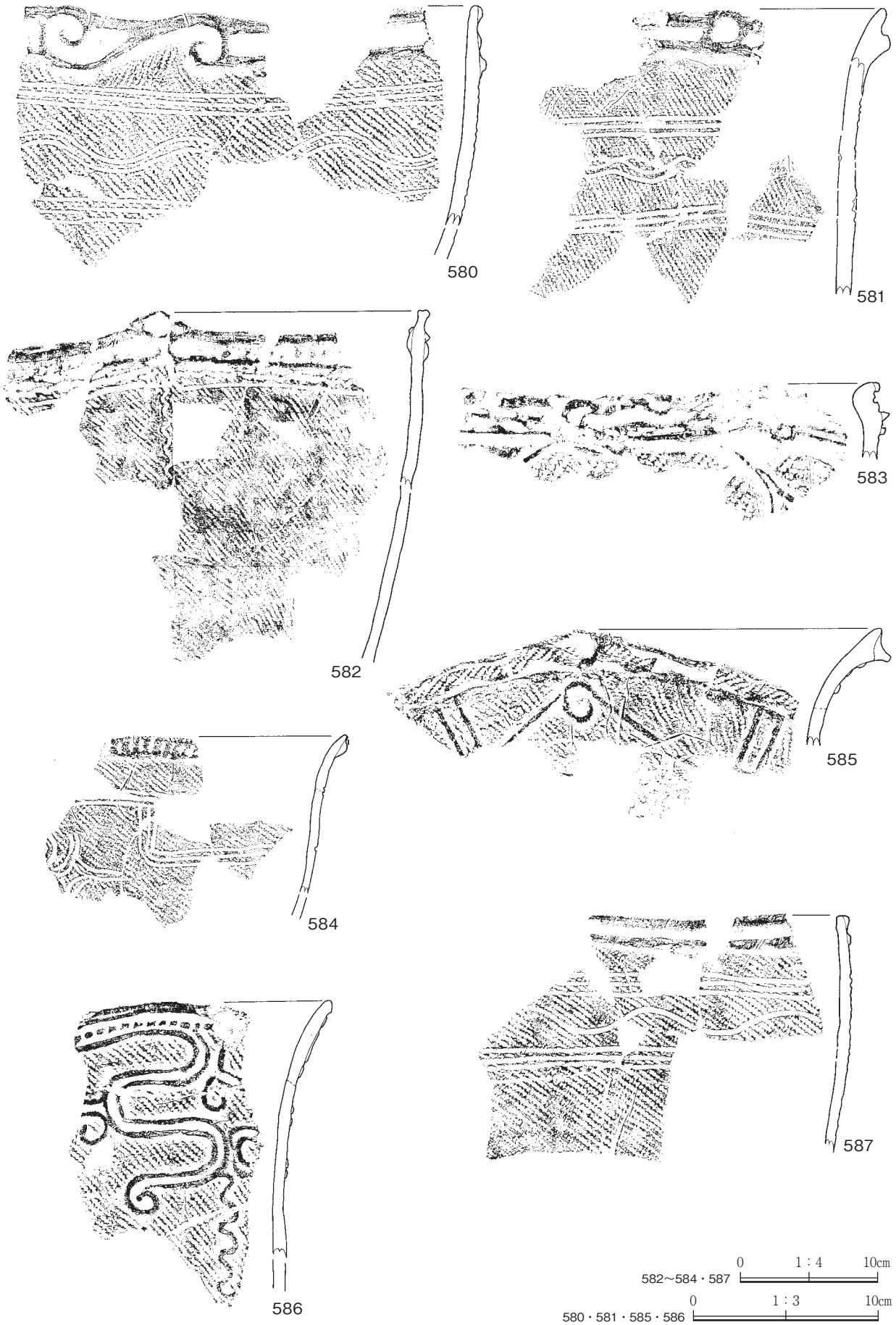
第162図 遺構外出土遺物12 (縄文土器12)



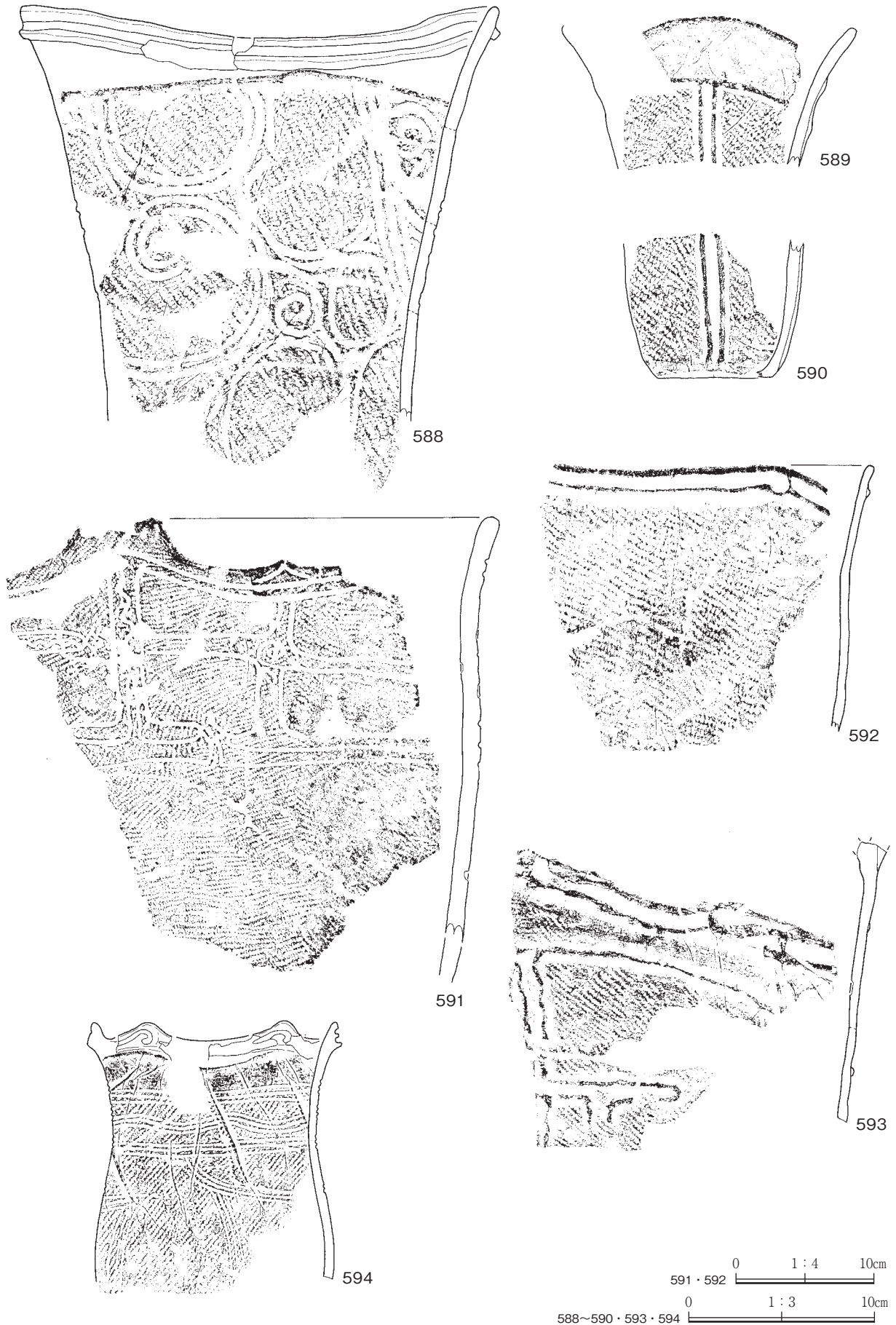
第163図 遺構外出土遺物13 (縄文土器13)



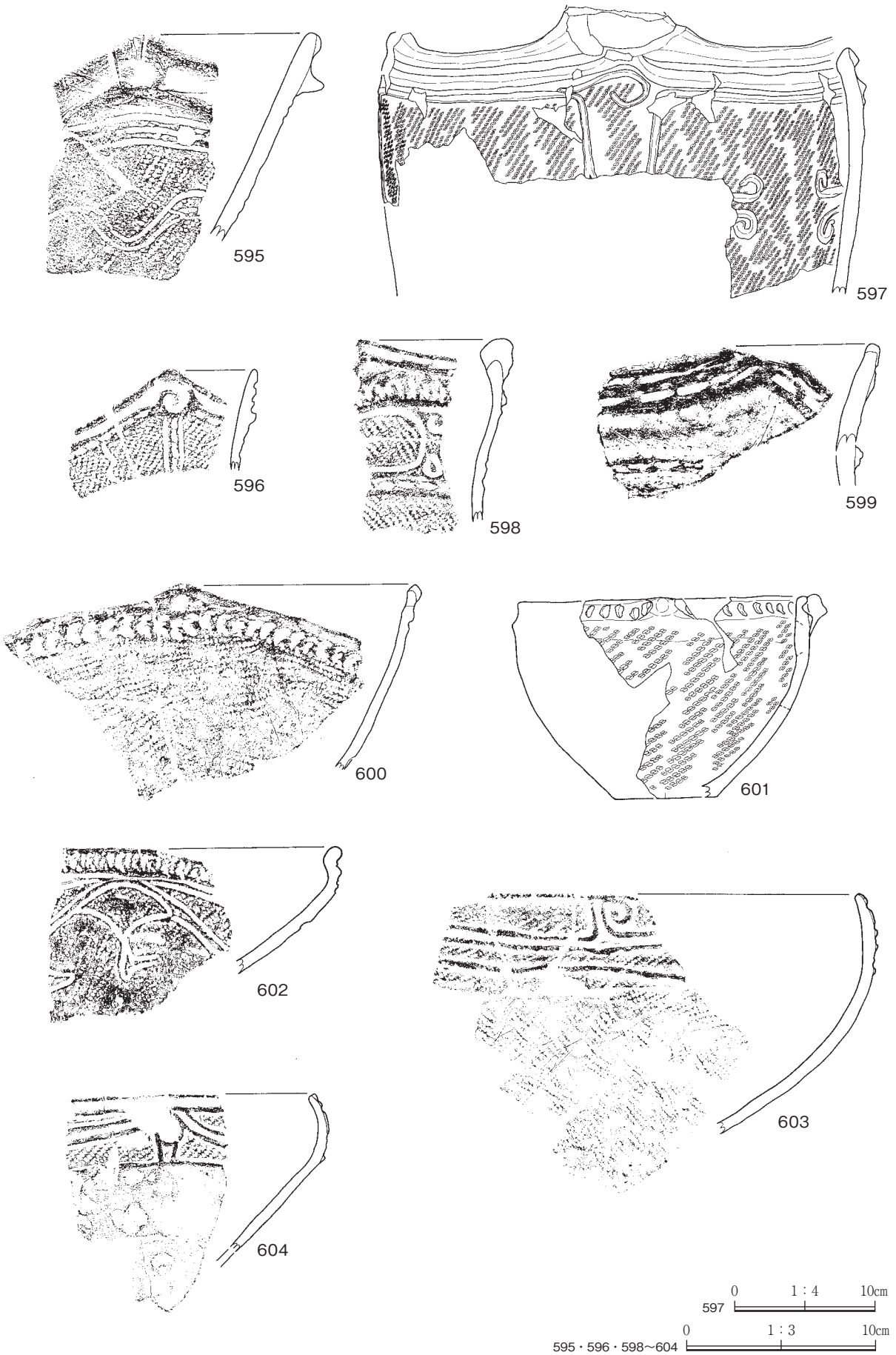
第164図 遺構外出土遺物14 (縄文土器14)



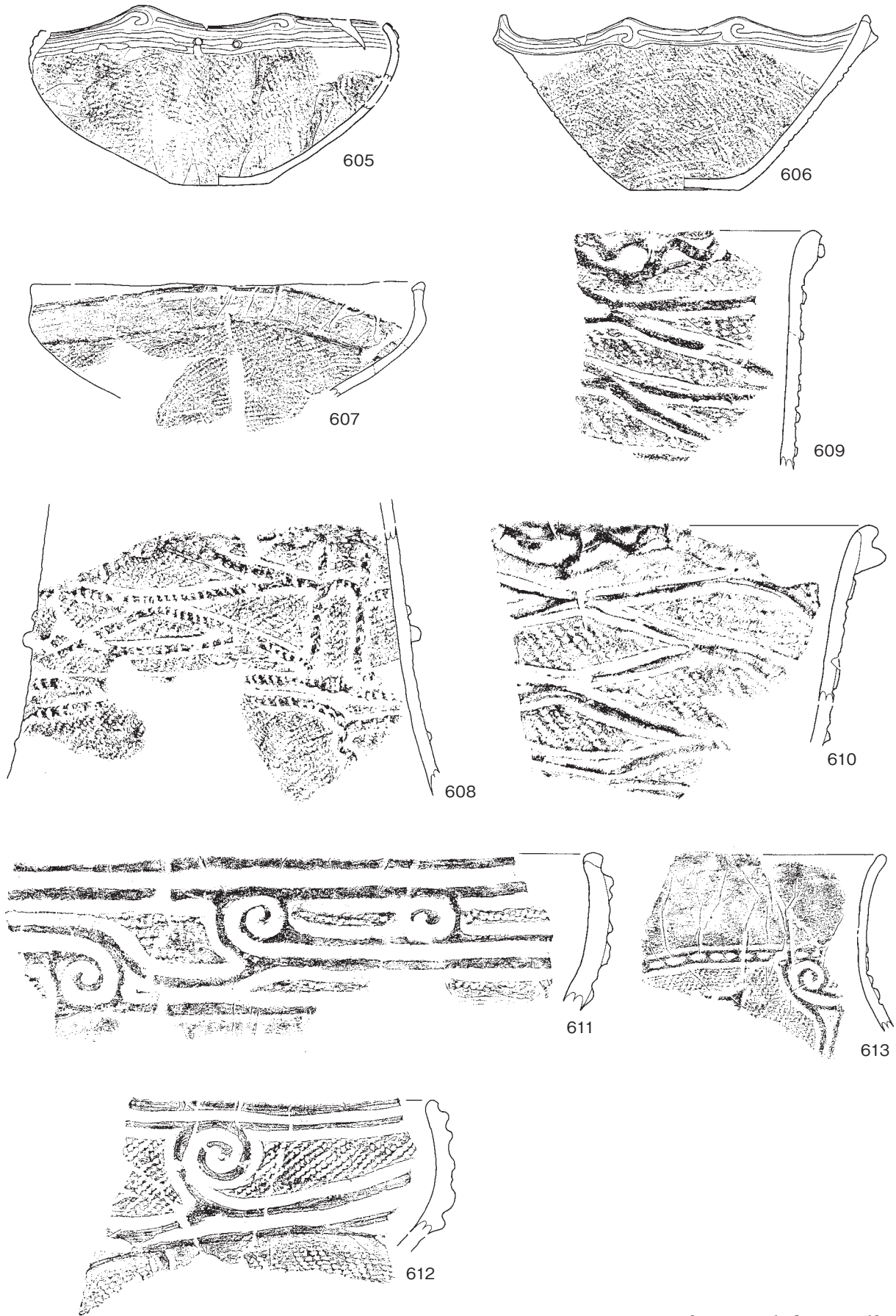
第165図 遺構外出土遺物15（縄文土器15）



第166図 遺構外出土遺物16 (縄文土器16)

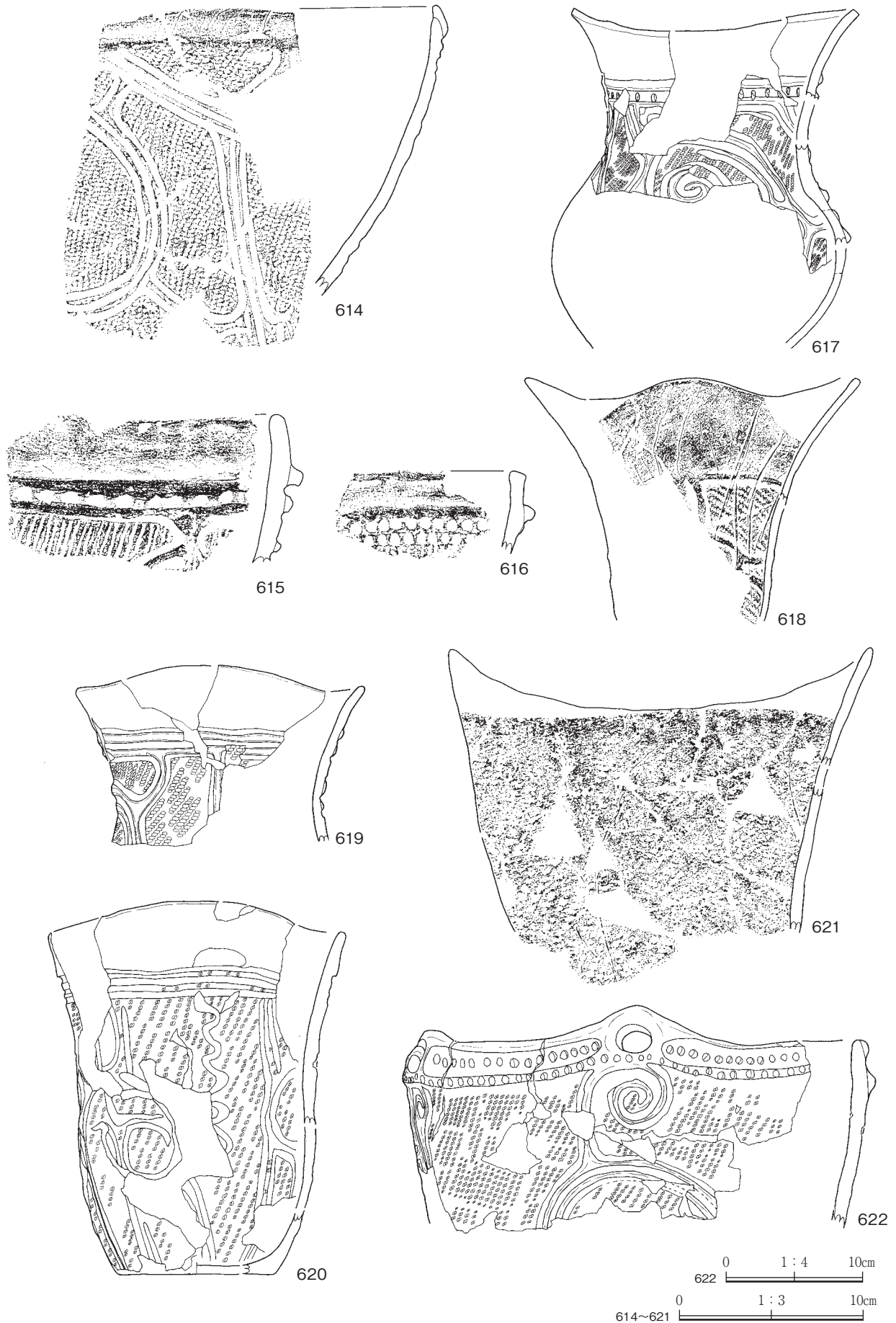


第167図 遺構外出土遺物17（縄文土器17）

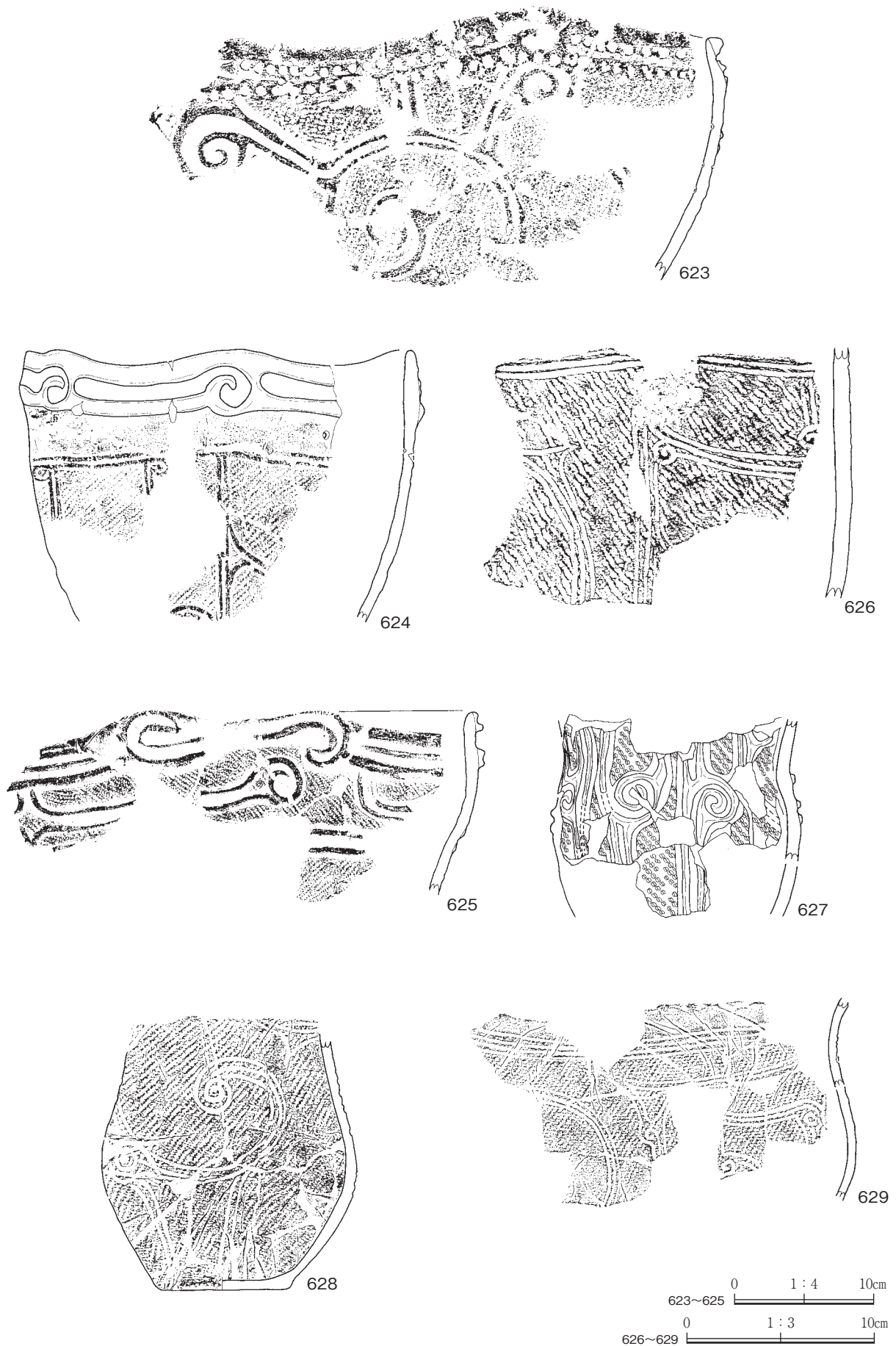


0 1:3 10cm
605~613

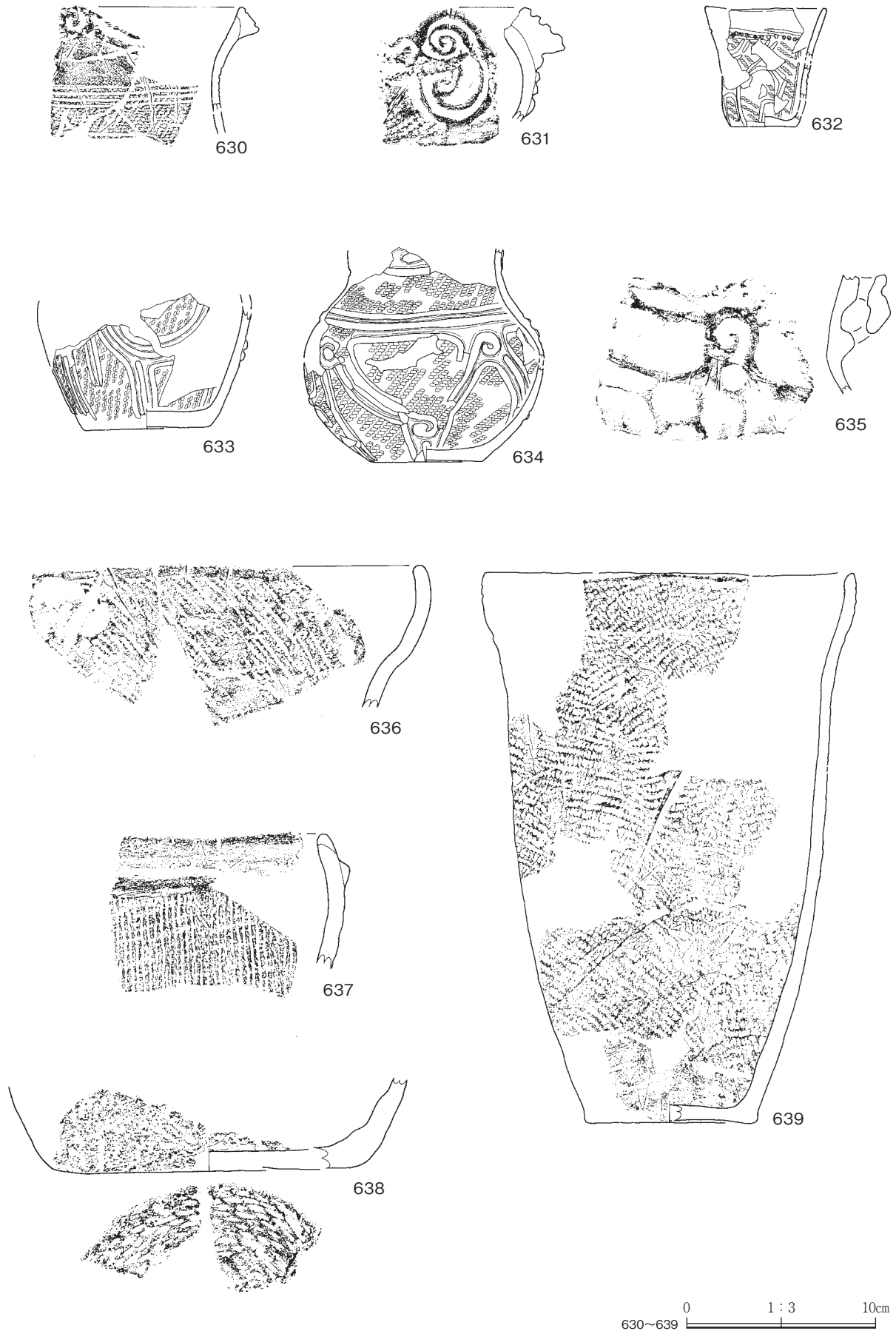
第168図 遺構外出土遺物18 (縄文土器18)



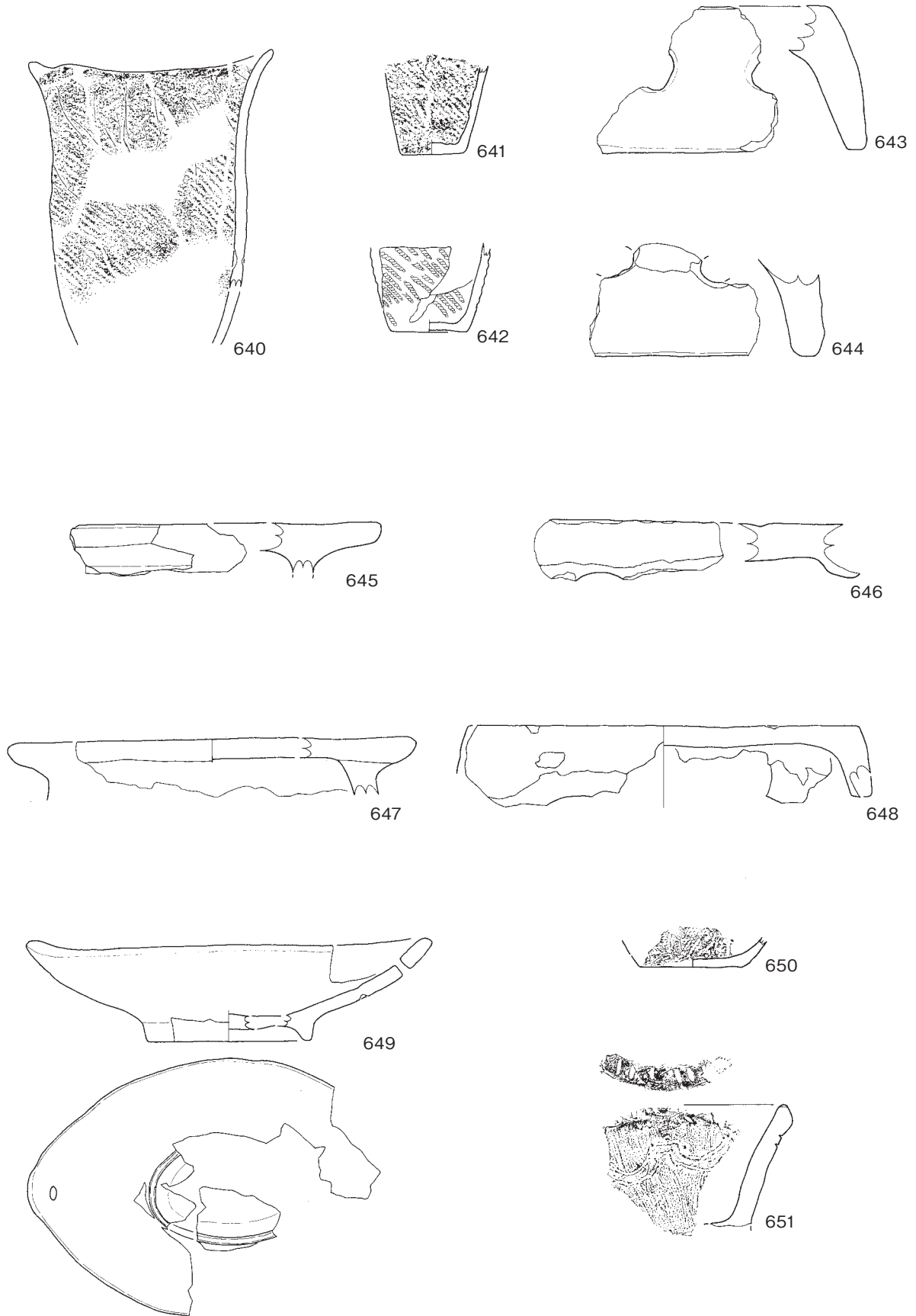
第169図 遺構外出土遺物19（縄文土器19）



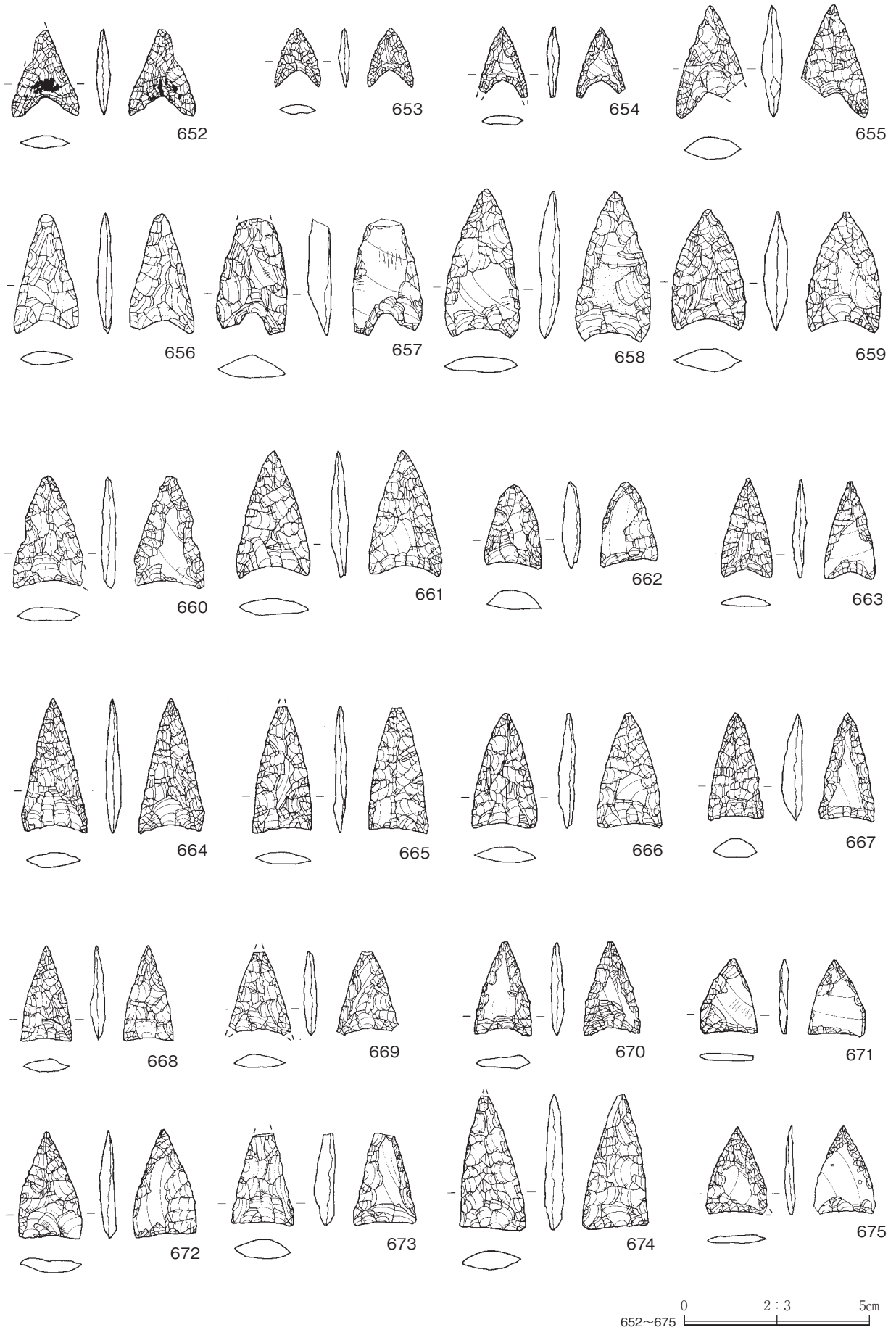
第170図 遺構外出土遺物20 (縄文土器20)



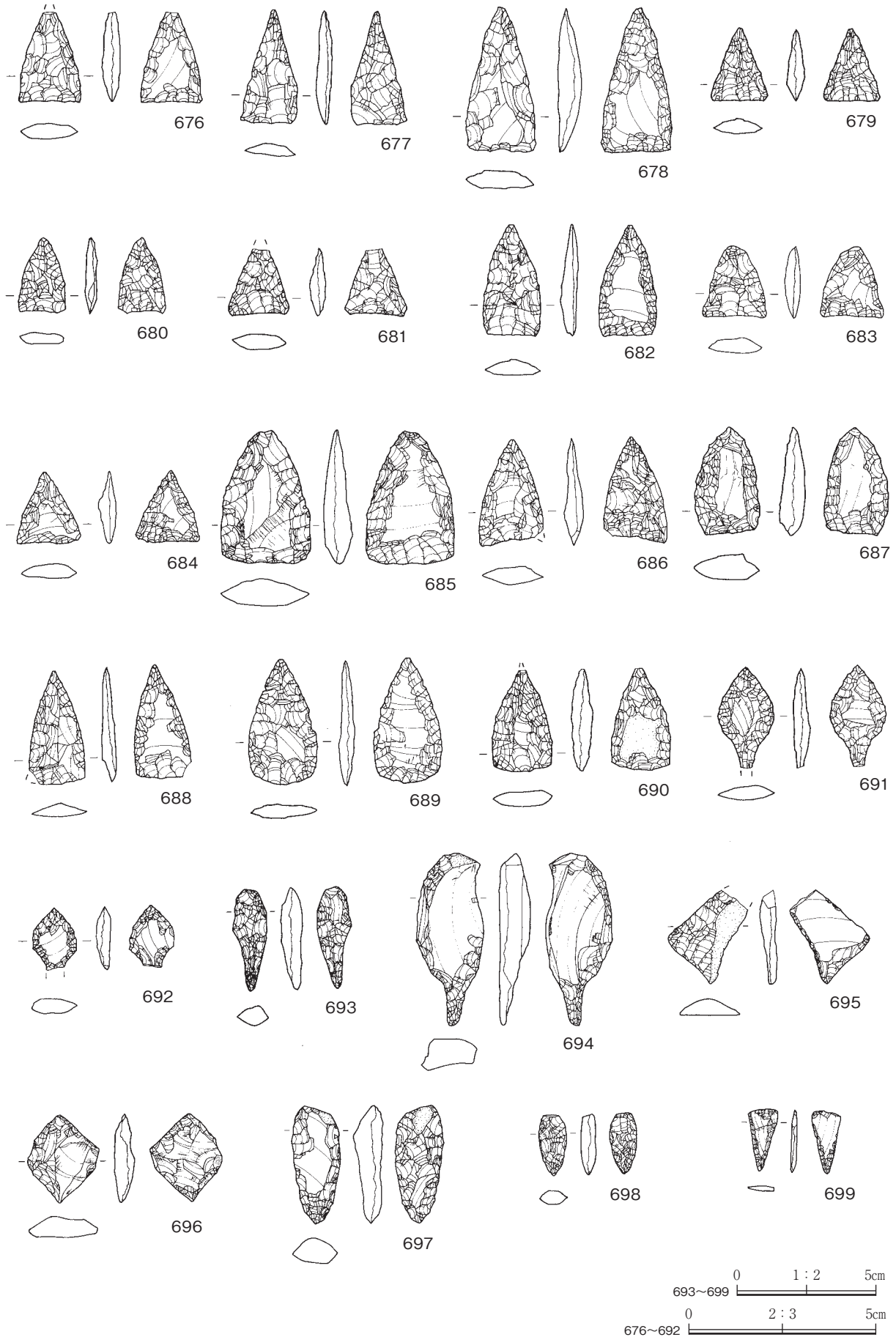
第171図 遺構外出土遺物21（縄文土器21）



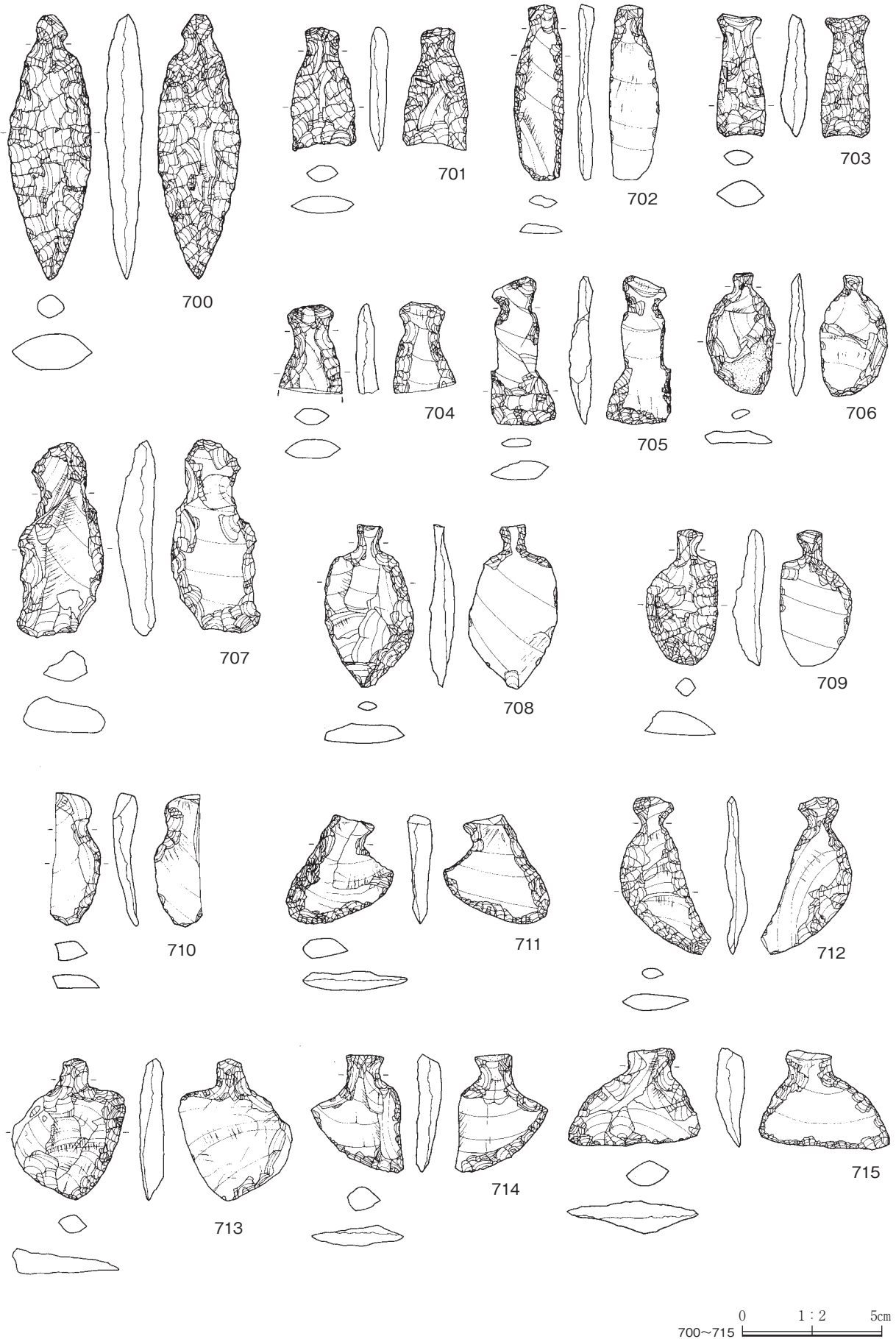
第172図 遺構外出土遺物22 (縄文土器22)



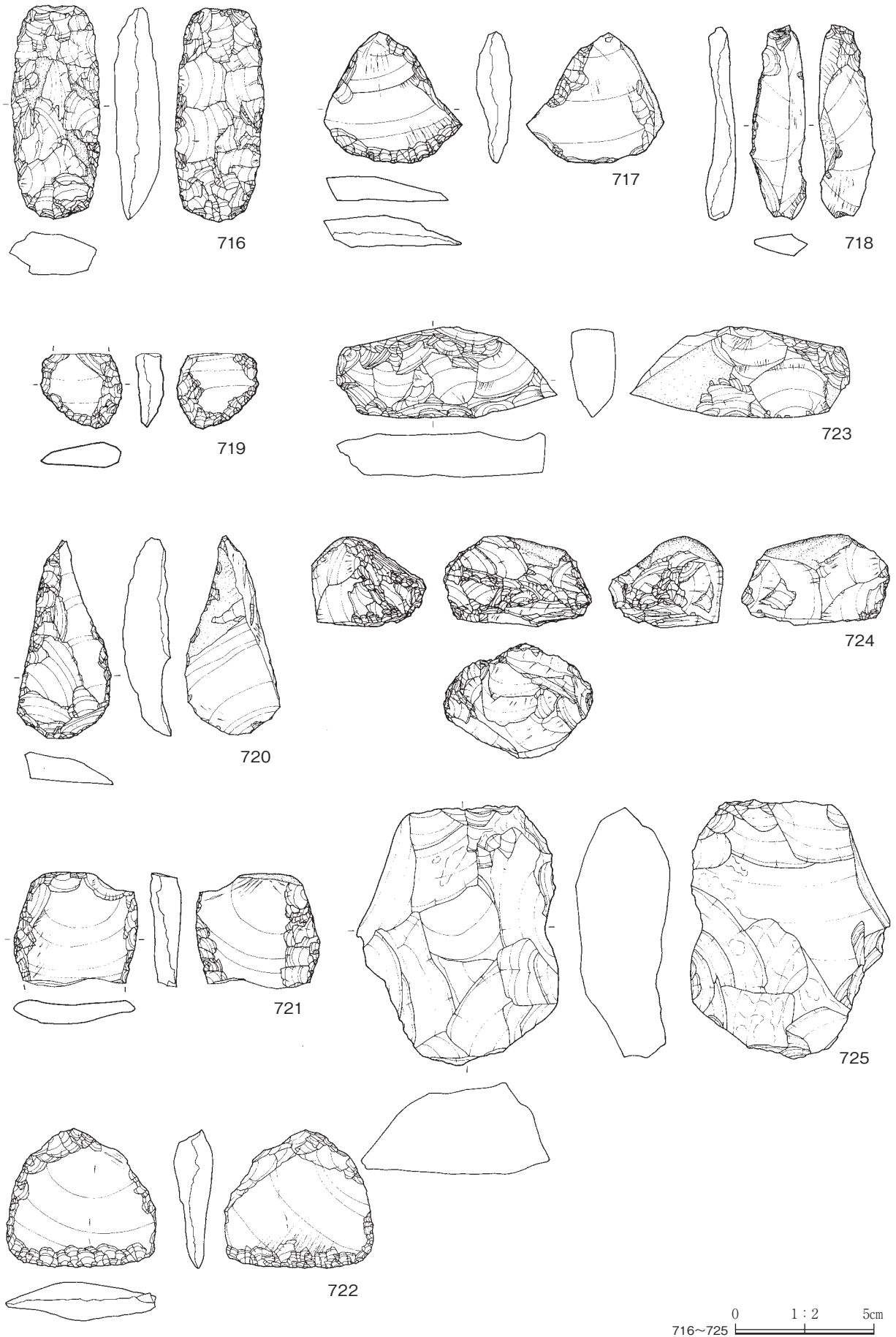
第173図 遺構外出土遺物23 (石器1)



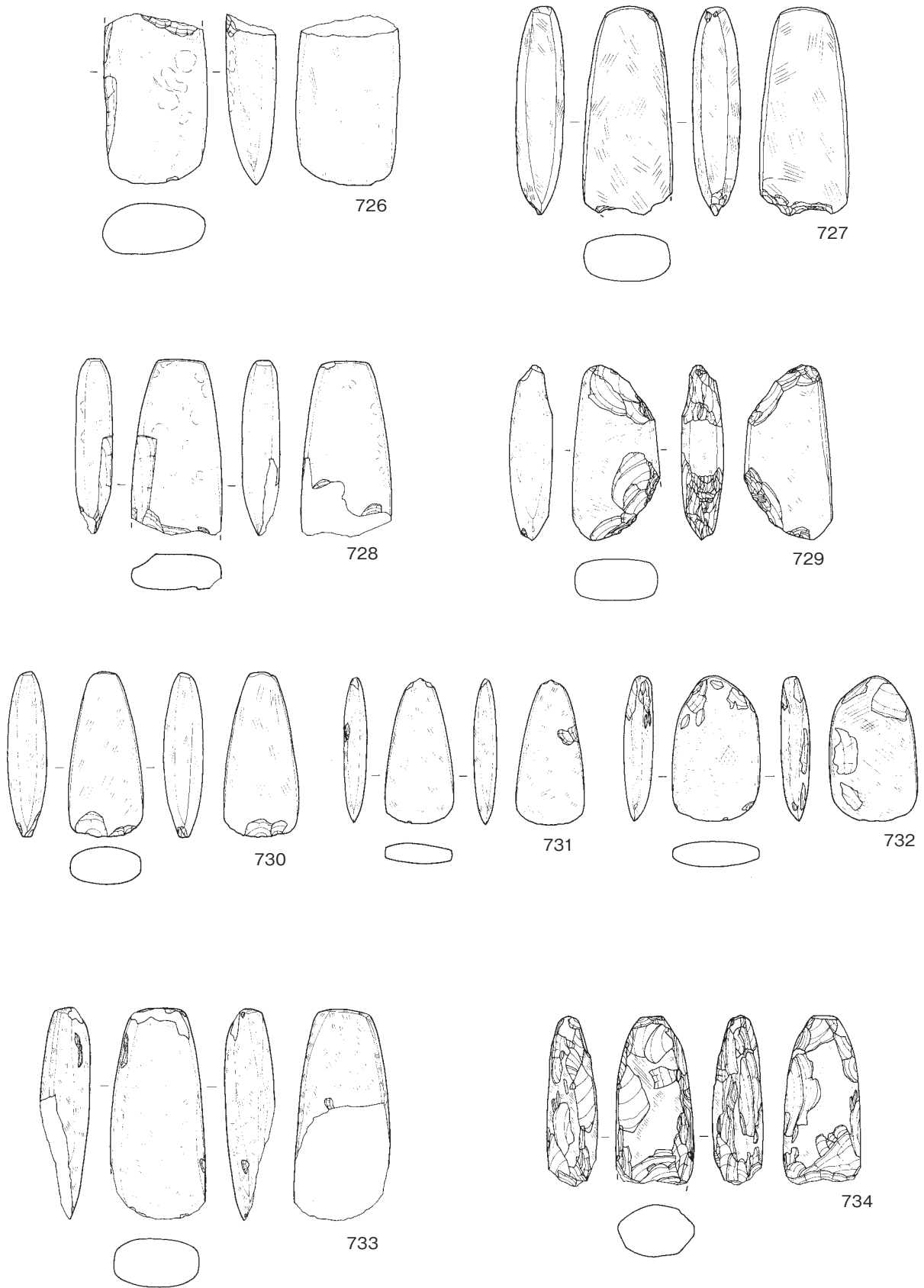
第174図 遺構外出土遺物24 (石器2)



第175図 遺構外出土遺物25 (石器3)

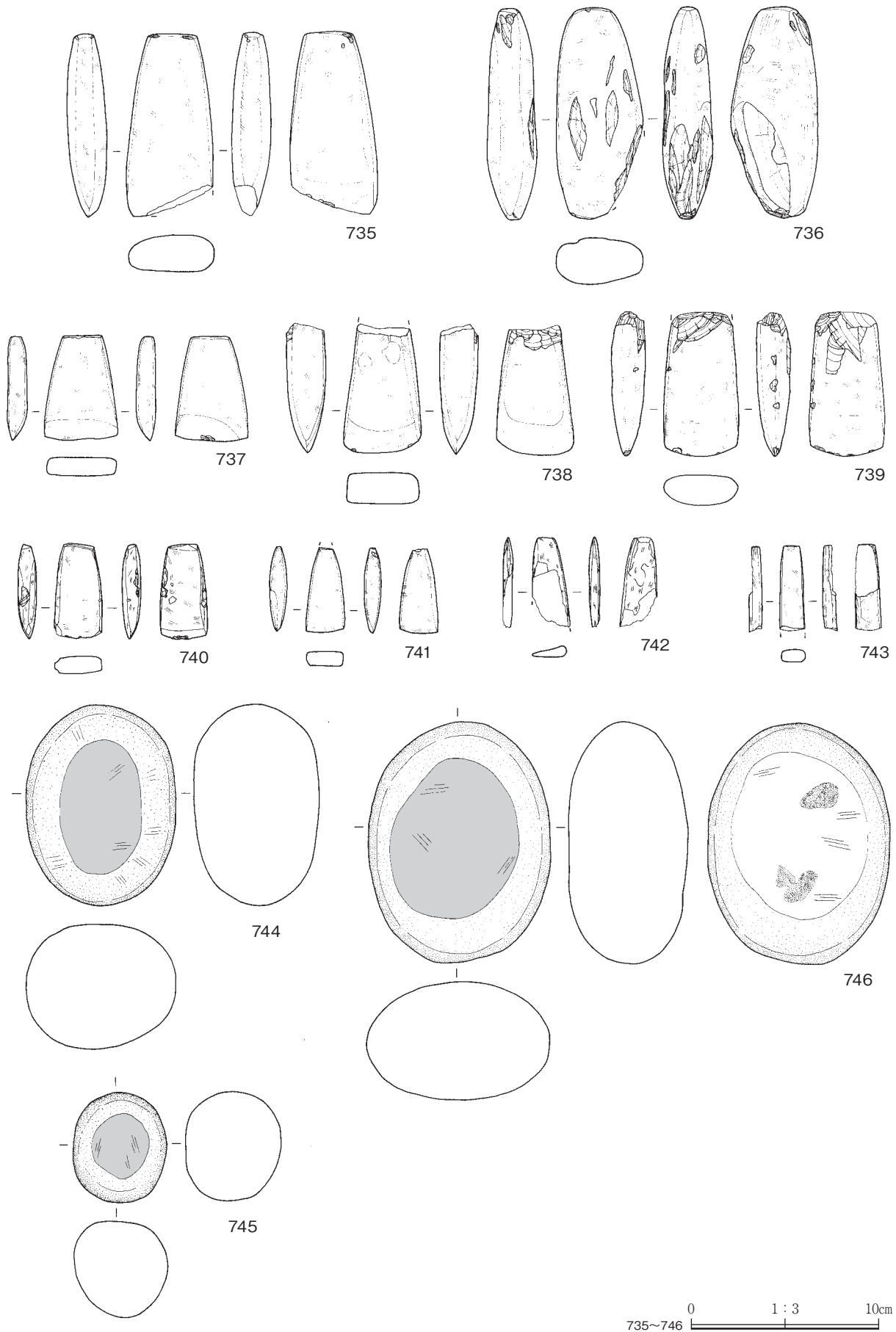


第176図 遺構外出土遺物26 (石器4)

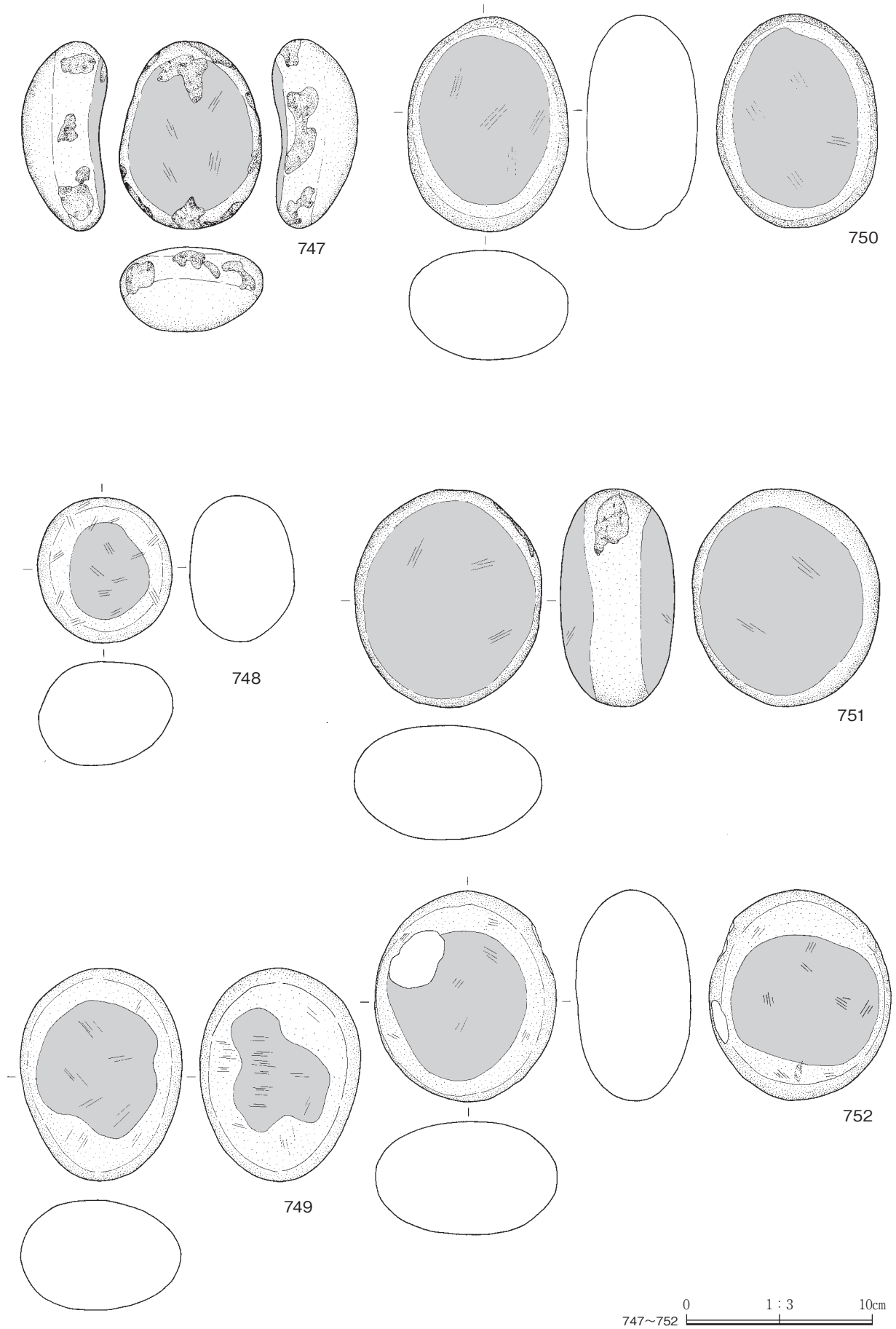


0 1:3 10cm
726~734

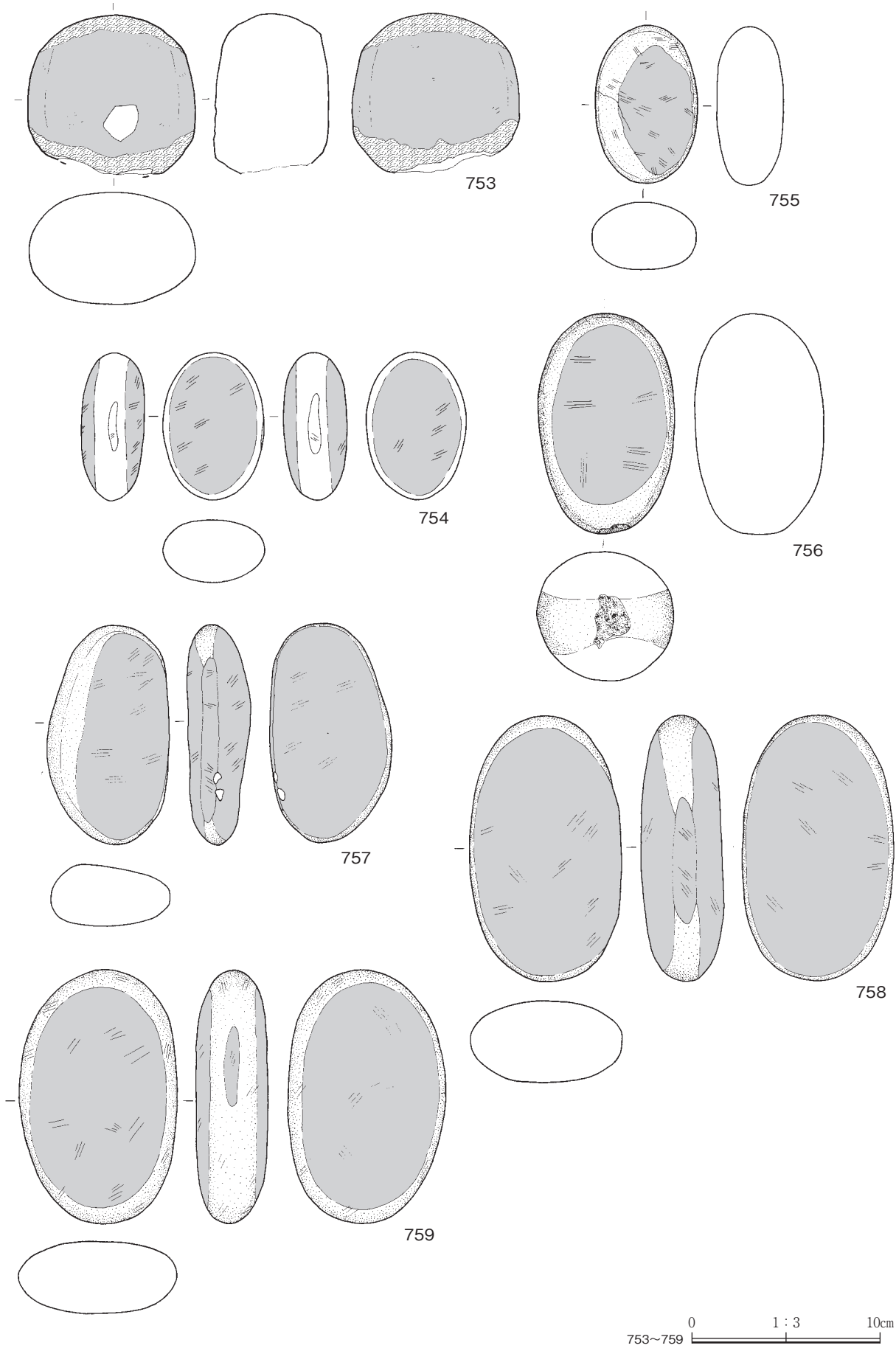
第177図 遺構外出土遺物27 (石器5)



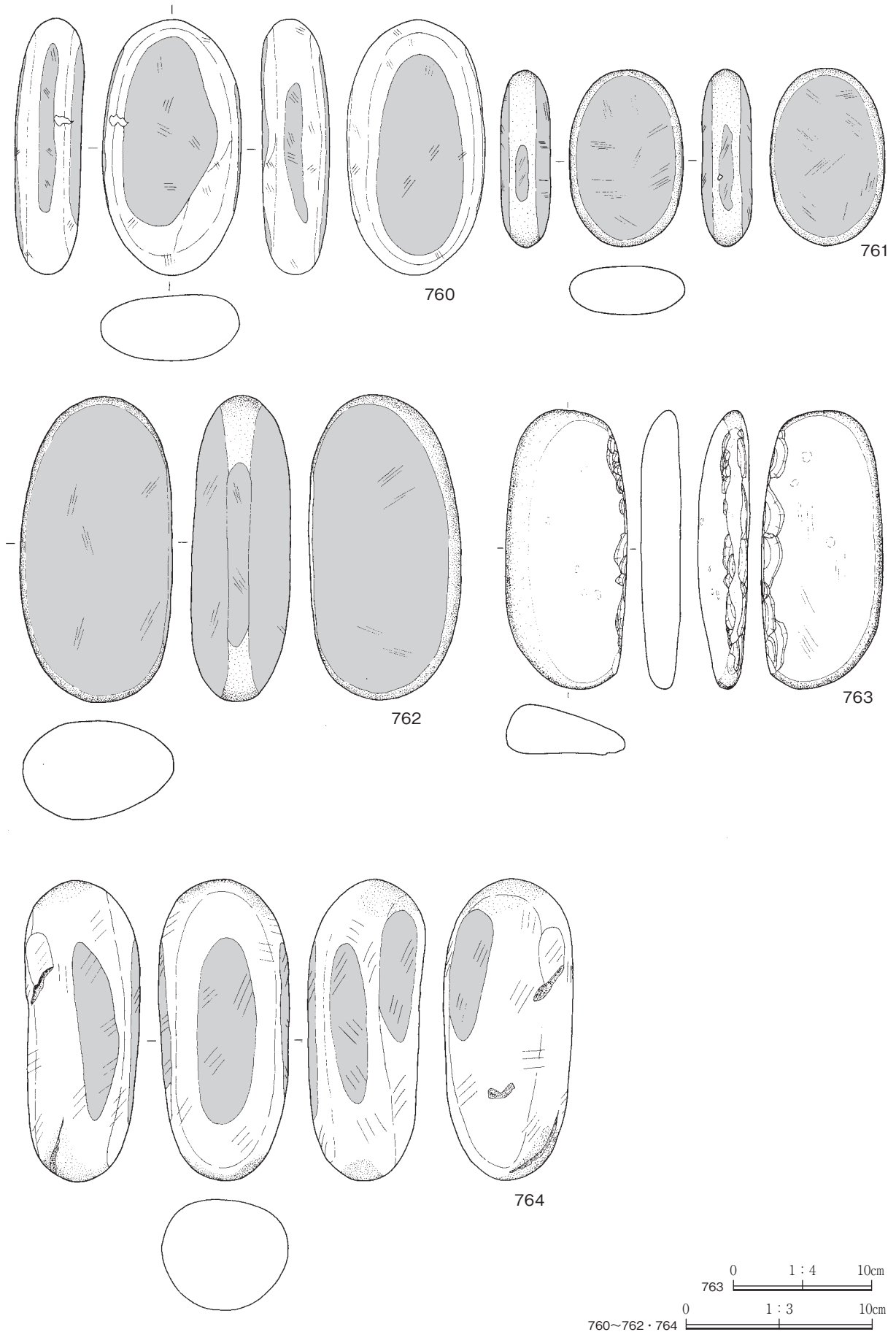
第178図 遺構外出土遺物28 (石器6)



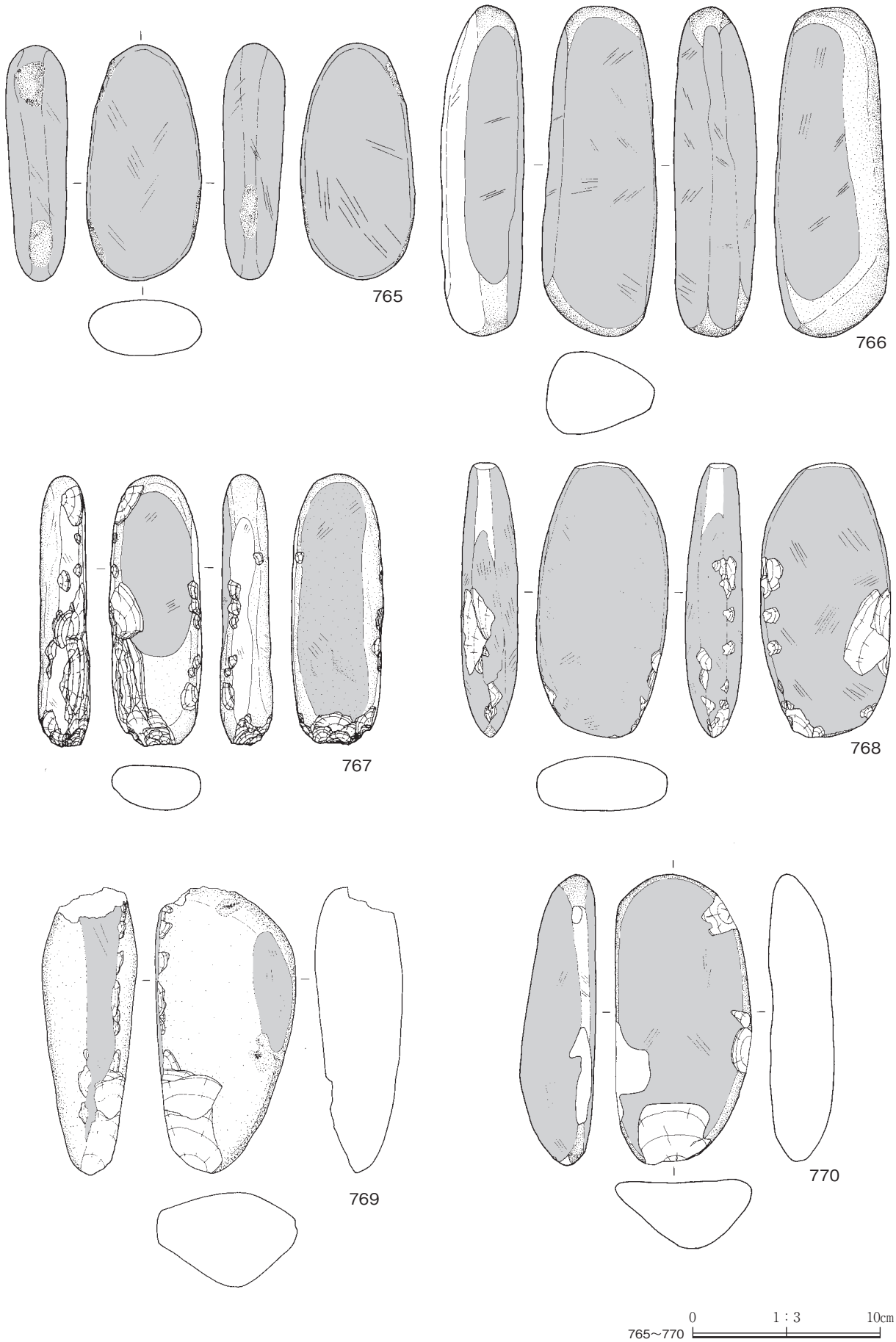
第179図 遺構外出土遺物29 (石器7)



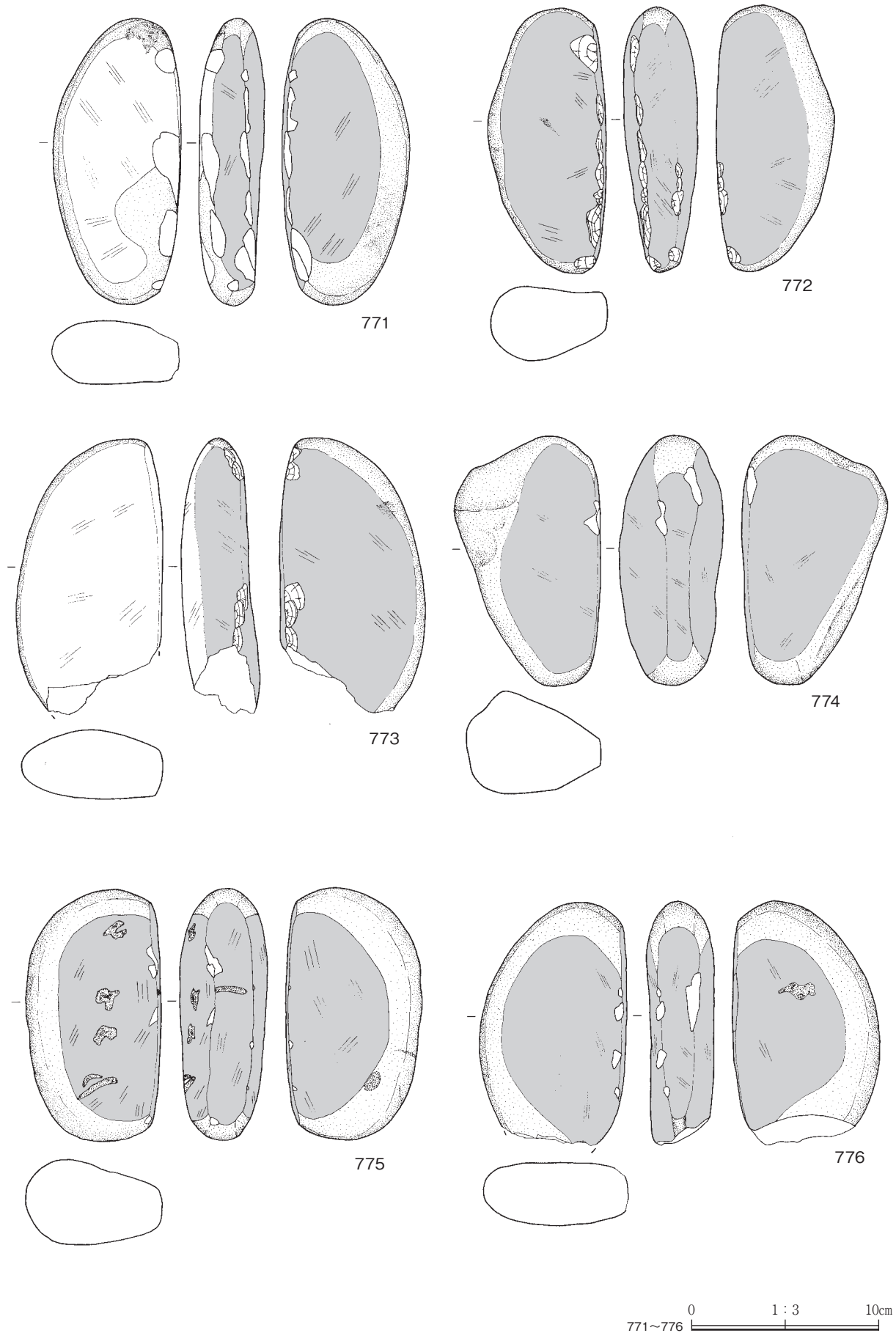
第180図 遺構外出土遺物30（石器8）



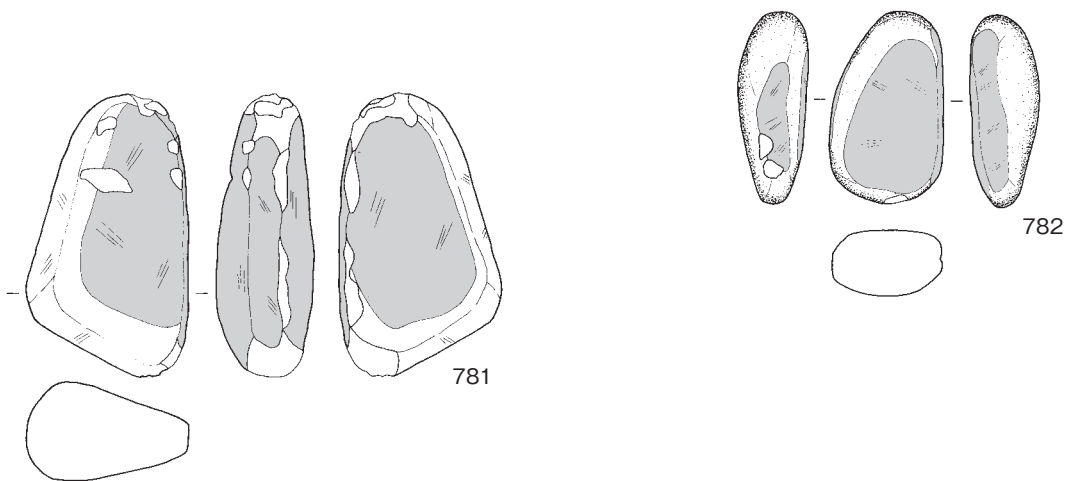
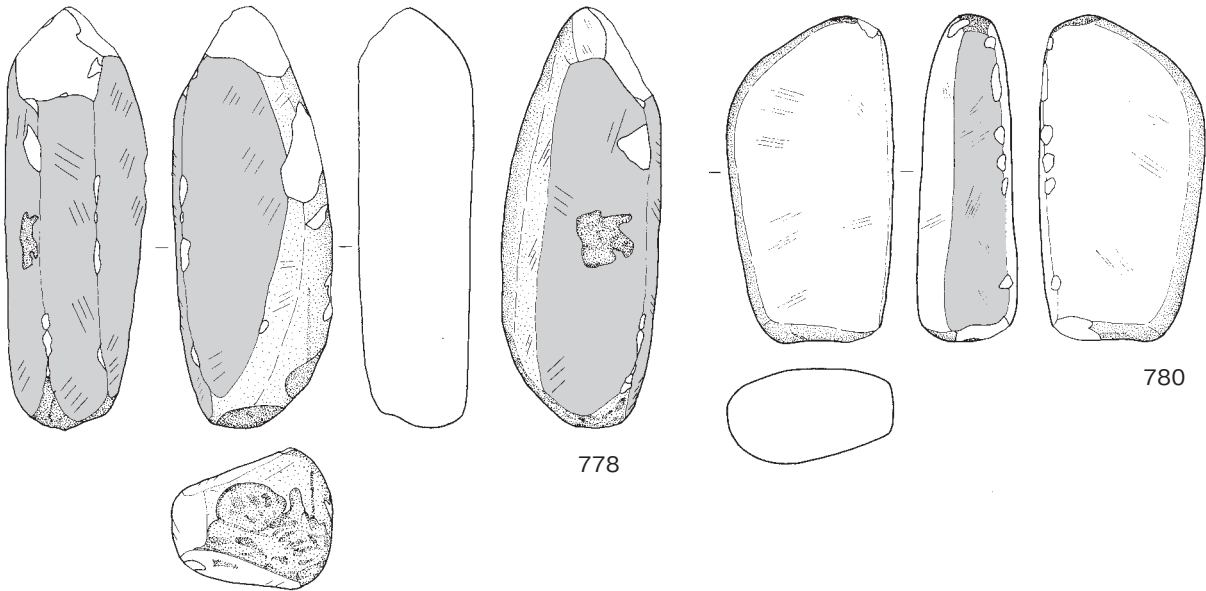
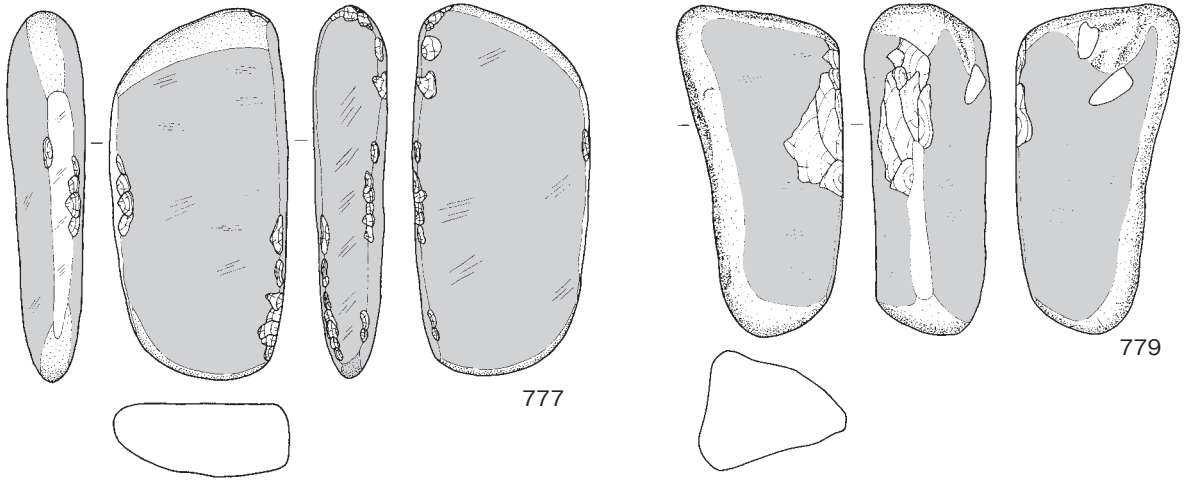
第181図 遺構外出土遺物31（石器9）



第182図 遺構外出土遺物32 (石器10)

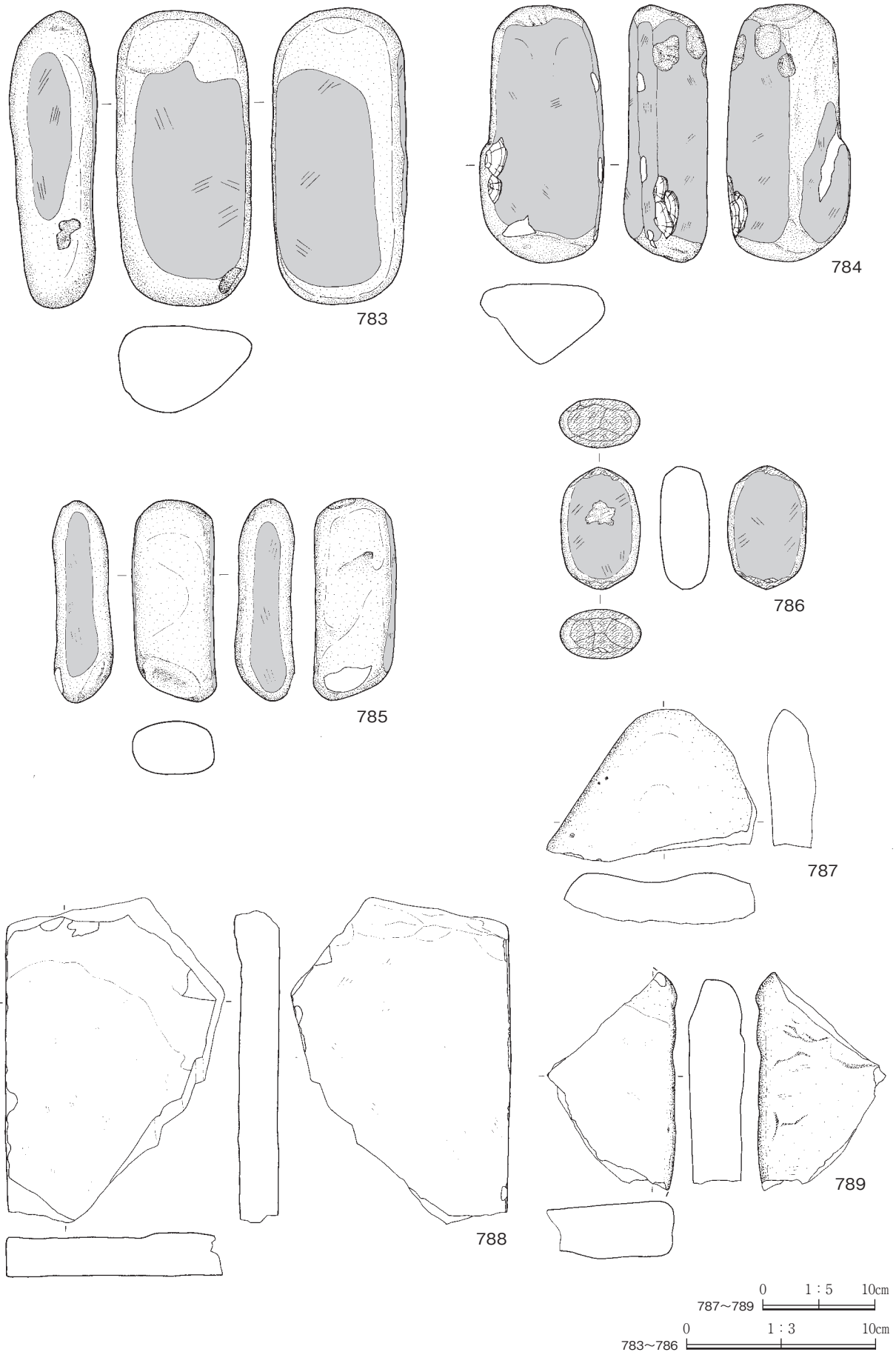


第183図 遺構外出土遺物33 (石器11)

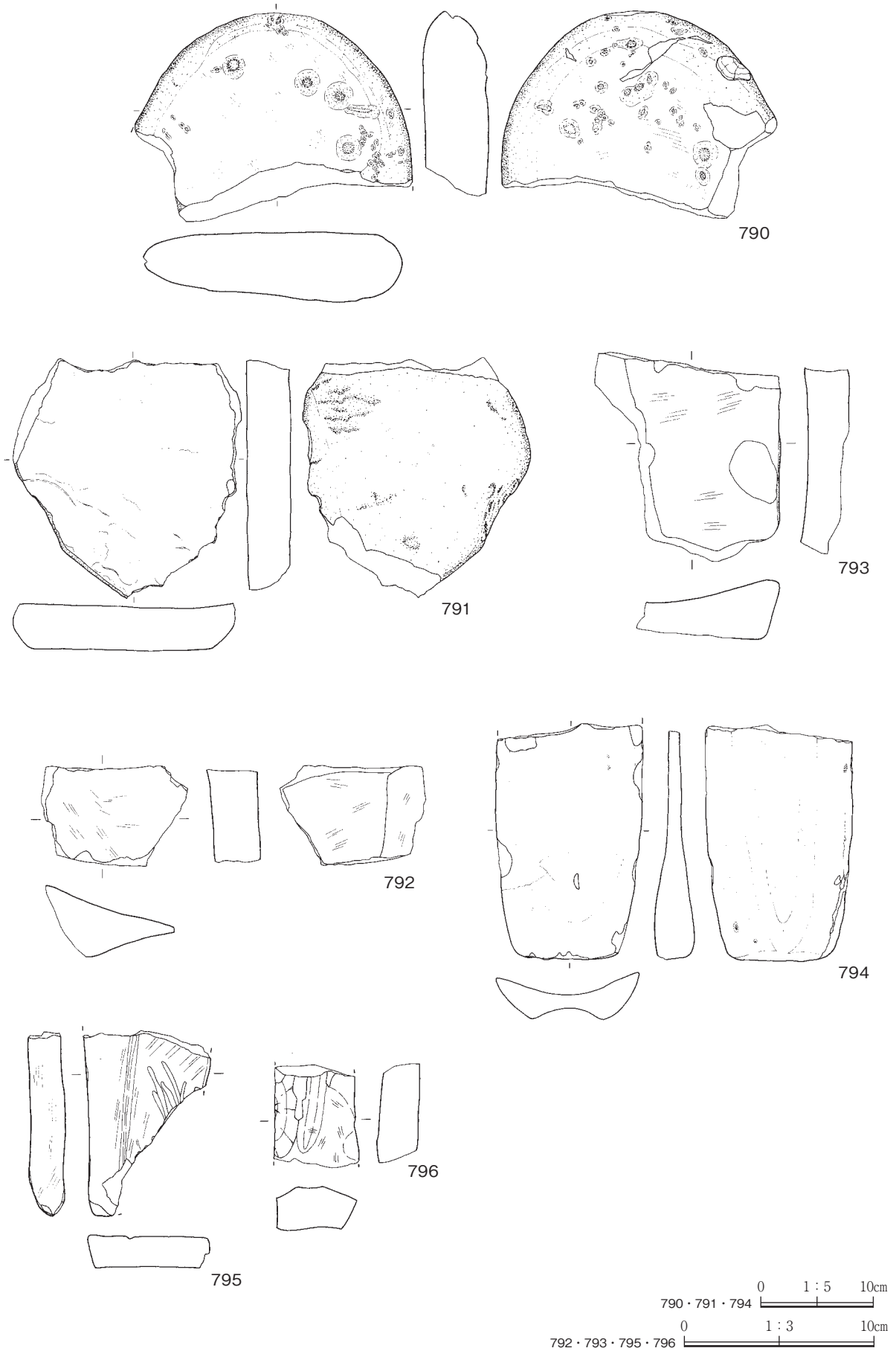


0 1:3 10cm
777~782

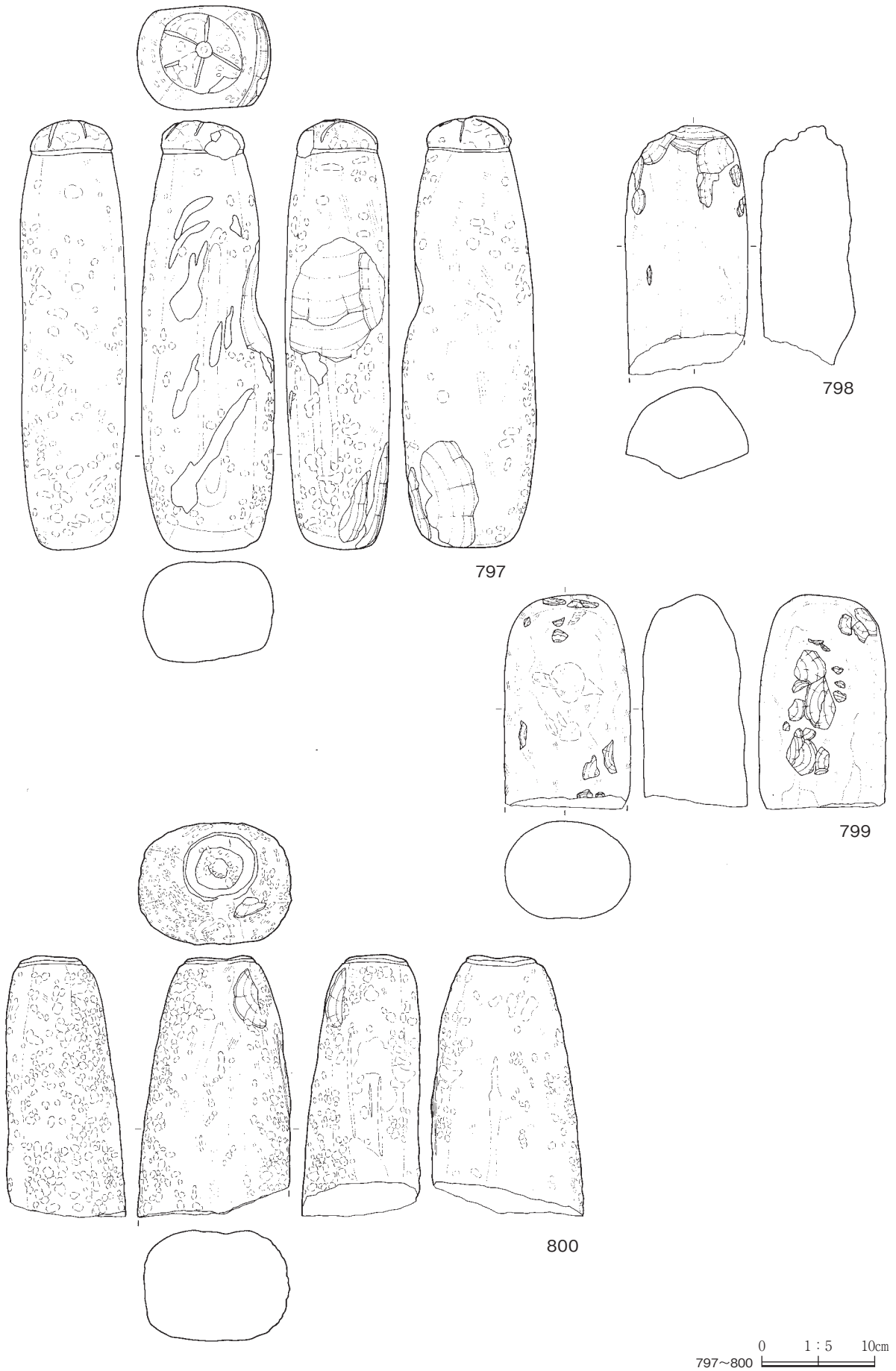
第184図 遺構外出土遺物34 (石器12)



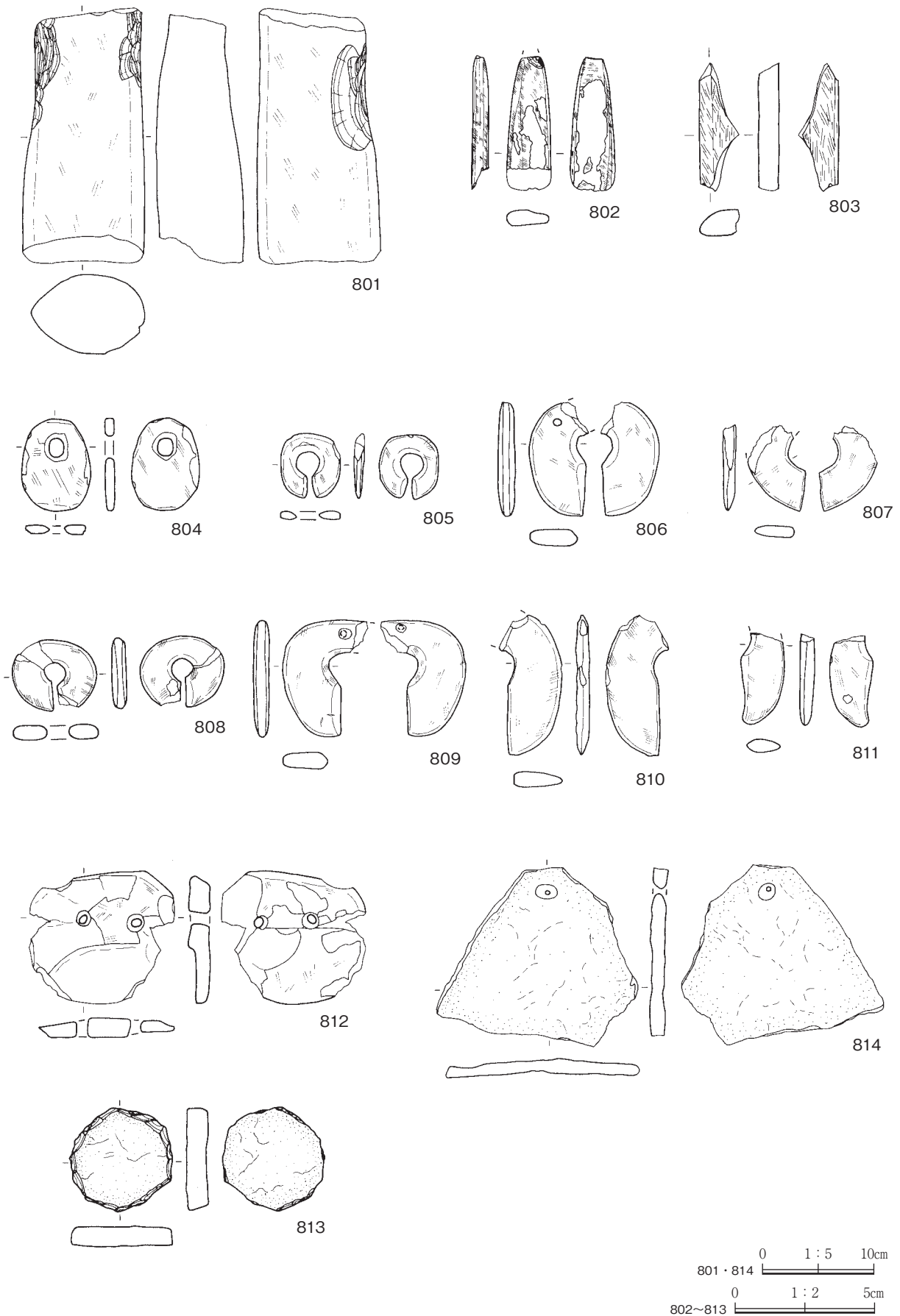
第185図 遺構外出土遺物35 (石器13)



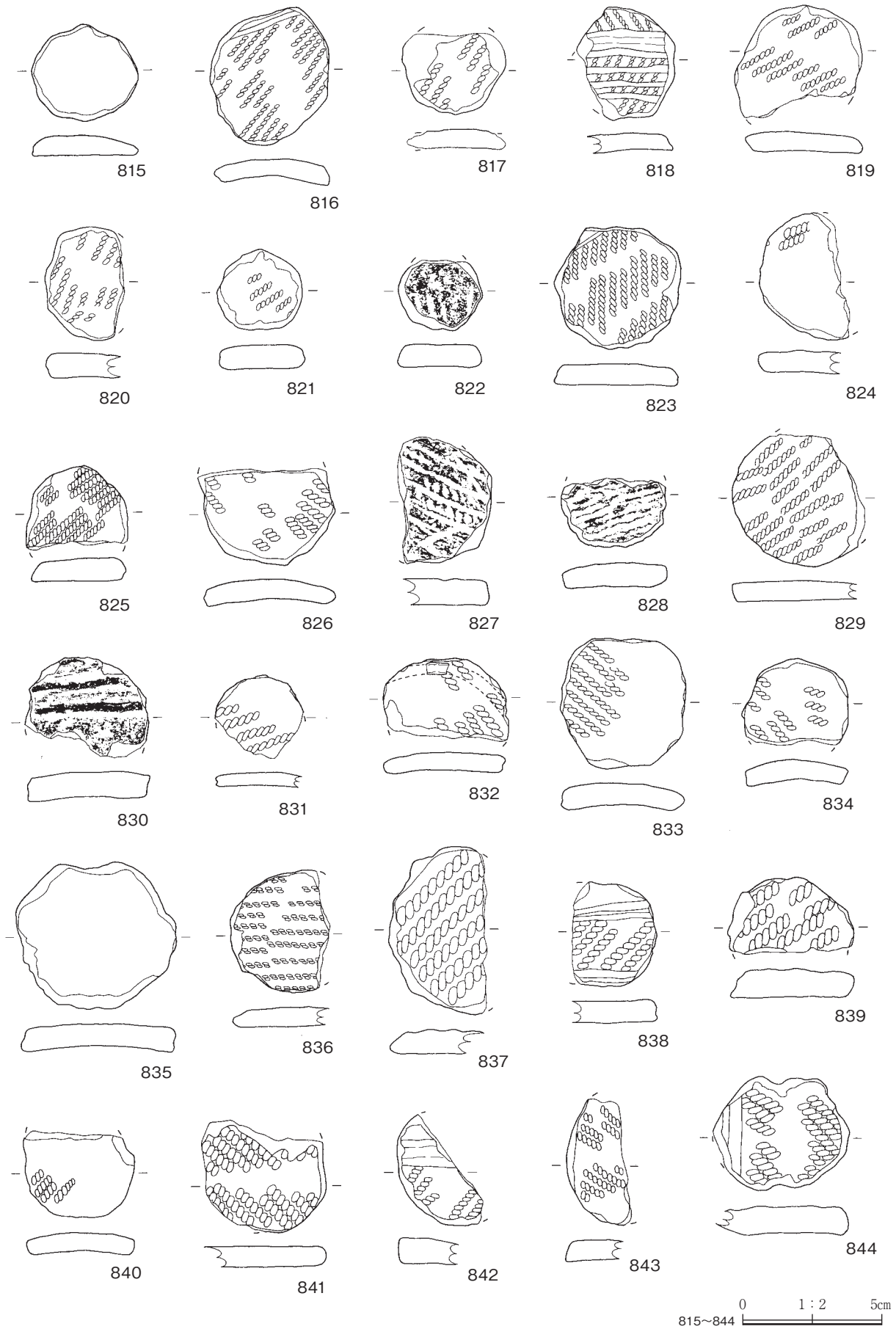
第186図 遺構外出土遺物36 (石器14)



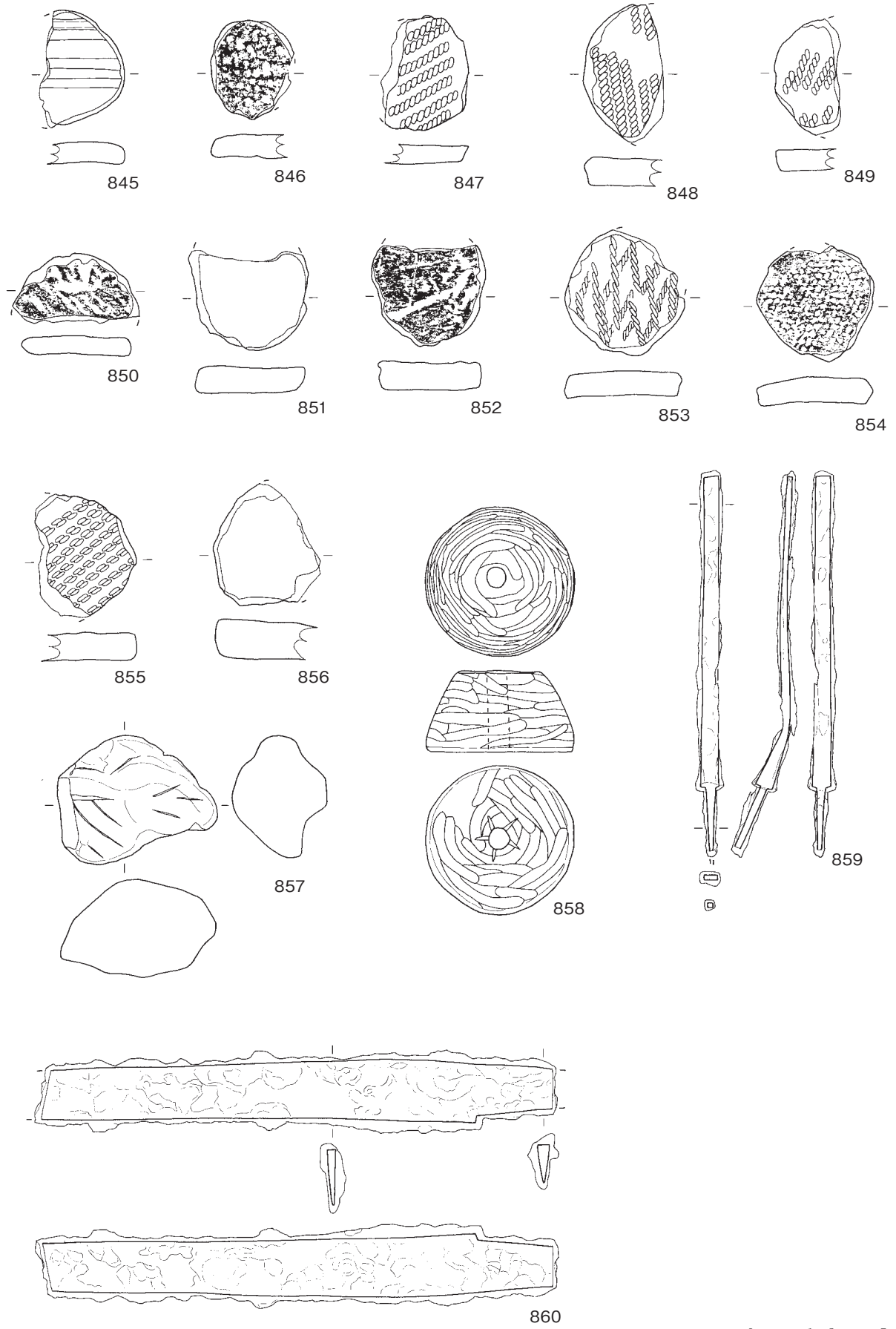
第187図 遺構外出土遺物37 (石器15)



第188図 遺構外出土遺物38 (石器16、石製品)

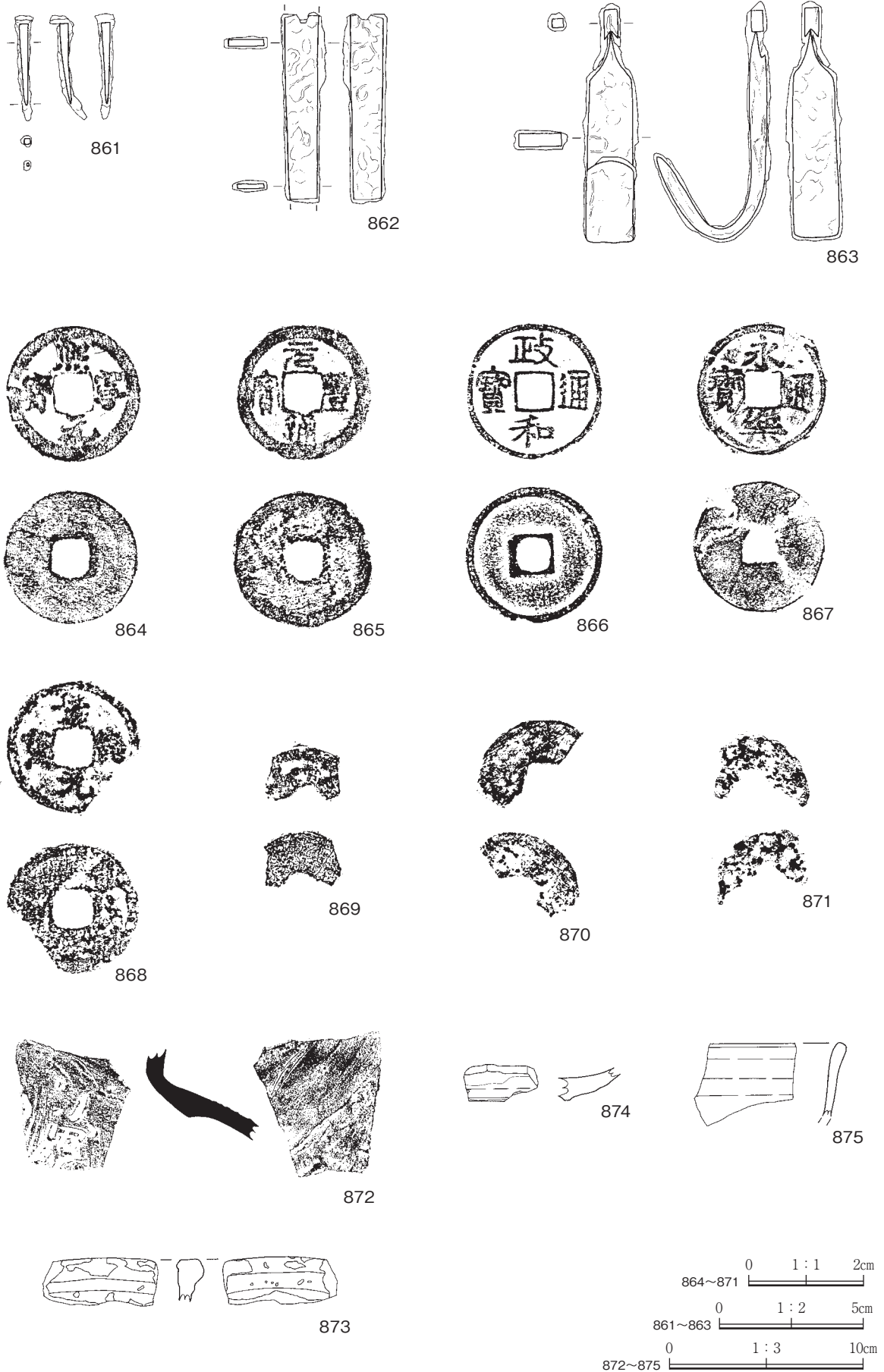


第189図 遺構外出土遺物39 (土製品1)



0 1 : 2 5cm
845~860

第190図 遺構外出土遺物40 (土製品2、鉄製品1)



第191図 遺構外出土遺物41 (鉄製品2、銭貨、須恵器、陶磁器)

第7表 縄文土器観察表

No	出土地点・層位	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外面文様等	内面	時期	分類	備考	図版	写真
1	1号竪穴建物埋土	深鉢	-	<14.0>	-	唇：隆帯により肥厚 胴：RL縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ		90	106
2	1号竪穴建物埋土	深鉢	17.0	<13.9>	-	口：隆帯による突起(渦巻文)、RL横	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		90	106
3	1号竪穴建物P1埋土	深鉢	25.6	<24.0>	-	唇：隆帯 口：沈線による渦巻文、LR横 胴：LR縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		90	106
4	1号竪穴建物埋土	深鉢	-	<6.9>	-	頸～胴上：細い粘土紐貼付(格子・鋸歯状)、LR横	ナデ	前期中葉	Ⅱ 3		90	106
7	3号竪穴建物床面	深鉢	-	<15.2>	-	口：無文、孔1箇所 頸：隆帯 胴：RLR縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		91	107
8	3号竪穴建物埋土	深鉢	-	<19.1>	-	胴：隆沈線による渦巻文、LR斜	ナデ	中期中葉	Ⅲ 4		91	107
9	3号竪穴建物埋土	深鉢	-	<8.2>	-	口：無文 胴：縄文	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 4		91	107
10	3号竪穴建物埋土	深鉢	-	<8.2>	4.4	胴下半：縄文？		中期中葉	Ⅲ 4		91	107
11	4号竪穴建物炉内	深鉢	-	<13.3>	12.2	胴：LR縦・斜	ナデ	中期中葉	Ⅲ		92	107
12	4号竪穴建物埋土	器台	(13.2)	<2.8>	-	台座はミガキにより無文		中期中葉	Ⅲ		92	107
13	4号竪穴建物炉内	深鉢	-	<7.4>	-	口：2段の縦位短沈線	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		92	107
14	4号竪穴建物埋土	深鉢	-	<17.1>	-	胴：隆沈線による渦巻文、RLR縦・横	ナデ	中期中葉	Ⅲ 4		92	107
15	5号竪穴建物埋土	深鉢	21.6	<18.0>	-	口：隆沈線による渦巻文、RL横 頸：沈線文 胴：RL縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		92	107
16	5号竪穴建物床面	深鉢	(11.7)	12.5	5.1	口：2単位 胴：無文	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 4	外面に煤付着	92	107
17	5号竪穴建物埋土	深鉢(小型)	8.1	7.9	4.0	口：無文 胴：沈線による渦巻文、円文、LR縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3～4		92	107
18	5号竪穴建物床面	深鉢	(28.4)	<16.9>	-	口：無文 頸：隆帯 胴：隆沈線による渦巻文、単軸絡条体第1類	ナデ	中期中葉	Ⅲ 4		92	108
19	5号竪穴建物埋土	深鉢	-	<14.1>	-	口：外面剥落 胴：隆沈線、LR縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3～4		93	108
20	5号竪穴建物埋土	深鉢	-	<28.2>	-	口：隆帯による渦巻文 胴：沈線による渦巻文、RLR縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 4		93	108
21	5号竪穴建物埋土	浅鉢	(29.9)	<16.7>	-	唇：頂部に隆帯による渦巻文、円孔 胴：沈線による渦巻文、RLR縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 4		93	108
22	5号竪穴建物埋土	深鉢	-	<19.4>	-	口：無文 頸：隆帯 胴：沈線による渦巻文、剣先文、LR縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 4		93	108
23	5号竪穴建物埋土	深鉢	-	<24.7>	-	胴：沈線による渦巻文、RL縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3？		94	108
24	5号竪穴建物埋土	深鉢	-	<5.8>	-	口：原体押圧文を伴う隆帯、円形刺突文 胴：原体押圧文、円形刺突文	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 2？	内面に煤付着	94	109
25	5号竪穴建物埋土	深鉢	-	<4.5>	-	口：刻目を伴う渦巻状の隆帯	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		94	109
26	5号竪穴建物埋土	深鉢	-	<5.5>	-	胴：沈線文、無節縄文	ナデ	中期	Ⅲ		94	109
27	5号竪穴建物埋土	深鉢	-	<18.4>	-	口：円孔を伴う突起 胴：隆沈線による渦巻文、RL縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 4		94	109
28	5号竪穴建物埋土	深鉢	-	<8.9>	-	口：無文 頸：隆帯、把手剥落痕 胴：把手剥落痕、LR縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3～4		94	109
29	5号竪穴建物埋土	深鉢？	-	<8.3>	-	胴：隆帯による環状把手、隆沈線による渦巻文	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 4	赤色顔料付着	94	109

3 検出遺構と出土遺物

No	出土地点・層位	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外面文様等	内面	時期	分類	備考	図版	写真
30	5号竪穴建物埋土	鉢	-	<9.5>	(7.6)	口～胴：隆沈線による渦巻文、RLR縦	ミガキ(剥落)	中期中葉	Ⅲ 4		94	109
31	5号竪穴建物埋土	深鉢	(33.2)	<18.5>	-	口：隆帯剥落 胴：単軸絡条体第1類?	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 4		94	109
32	5号竪穴建物埋土	深鉢	(4.0)	<10.2>	-	胴：渦巻文を伴う隆帯、ミガキ	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 4	赤色顔料付着	95	109
33	5号竪穴建物埋土	深鉢	-	<19.3>	-	頸：隆帯による橋状把手、ミガキ	ミガキ? 剥落	中期中葉	Ⅲ 4		95	109
34	5号竪穴建物埋土	深鉢	-	<11.3>	-	口：無文 頸：凹形刺突列を伴う沈線文 胴：沈線による渦巻文、RLR縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 4		95	109
46	8号竪穴建物埋土	深鉢	-	<8.9>	-	口：無文 胴：沈線による円文、LR横	ミガキ	前期中葉	Ⅱ 2		97	111
47	8号竪穴建物埋土	深鉢	-	<8.3>	-	唇：頂部に小突起 胴：細い粘土紐による波状文	ナデ	前期中葉	Ⅱ 3		97	111
48	8号竪穴建物埋土	浅鉢	-	<7.7>	-	口：波状の細い隆帯、横位に連続する刺突文 胴：沈線文、LR縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		97	111
49	8号竪穴建物埋土	深鉢	-	<8.0>	-	口：隆帯、RL横 胴：無文	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		97	111
50	8号竪穴建物埋土	浅鉢	-	<4.9>	-	口：原体押圧文	ナデ	中期中葉	Ⅲ 2		97	111
51	8号竪穴建物埋土	浅鉢?	-	<6.6>	-	口：隆帯による突起 頸：隆帯 胴：LR縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		97	111
52	8号竪穴建物埋土	深鉢	-	<19.3>	-	口：隆帯による区画、渦巻文、外面ミガキ	ミガキ? 剥落	中期中葉	Ⅲ 4		97	111
53	8号竪穴建物埋土	深鉢	19.1	<14.9>	-	口：隆沈線による波状文、LRL横 胴：LRL縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		97	111
59	9号竪穴建物埋土	深鉢	-	<11.6>	-	胴：隆沈線による円文、LR縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 4		99	112
62	10号竪穴建物埋土	深鉢(小型)	6.5	<11.9>	-	口：無文 頸：隆帯による区画、突起 胴：隆帯による渦巻文	ナデ	中期中葉	Ⅲ 4		99	112
63	10号竪穴建物埋土	器台	(3.6)	8.3	(6.7)	無文、台座部分光沢あり(ミガキか?)	ナデ	中期中葉	Ⅲ		99	112
64	10号竪穴建物床面	深鉢	(30.8)	<34.4>	-	口：隆帯による渦巻文、RL横 胴：RL縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		99	112
65	10号竪穴建物床面	深鉢	22.9	<28.2>	-	口：沈線による波状文、RL横 胴：RL縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		100	112
66	10号竪穴建物1号炉内	深鉢	-	<3.3>	-	胴：隆帯、RL縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 4		100	112
67	10号竪穴建物埋土	深鉢	-	<11.2>	-	口：沈線文 胴：隆帯、RL縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 4		100	112
68	10号竪穴建物埋土	深鉢	28.8	<15.0>	-	口：無文 胴：RLR縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		100	112
74	11号竪穴建物床面	深鉢	41.2	<31.7>	-	口：隆帯による渦巻文 胴：RLR縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3	内面に煤付着	101	113
75	11号竪穴建物床面	深鉢	(15.5)	<16.5>	-	口：隆帯による渦巻文、RL横 胴：貼付隆線、RL縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		102	114
76	11号竪穴建物埋土	深鉢	24.9	<28.9>	-	口：無文帯、口縁と胴部間に隆帯(刺突あり)、RL縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		102	114
77	11号竪穴建物埋土下位	深鉢	30.8	38.0	(13.2)	口：隆沈線、渦巻文、RL横位 胴：沈線文、RL縦位	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		102	114
78	11号竪穴建物埋土下位	深鉢	35.1	55.6	14.3	口：波状(5単位) 頸：貼付隆帯 胴：沈線文(渦巻文)、RL横・縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3	内面に煤付着	103	114

No	出土地点・層位	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外面文様等	内面	時期	分類	備考	図版	写図
79	11号竪穴建物 床面	深鉢	(21.7)	<26.0>	-	口：沈線による小波状文、無節L	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		103	115
80	11号竪穴建物 埋土	深鉢	(18.4)	<20.0>	-	口：隆帯による渦巻文 胴：隆沈線による渦巻文、RL縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 4		103	115
81	11号竪穴建物 埋土	鉢	10.7	7.5	5.2	口：隆帯による渦巻文、孔2箇所 胴：LR縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 4		103	115
82	11号竪穴建物 埋土	浅鉢?	-	<9.2>	6.8	胴：無文、器体上部ミガキ	ミガキ	中期中葉	Ⅲ		103	115
83	11号竪穴建物 床面	深鉢	-	<17.7>	12.7	胴：縦位の沈線文、LR縦、砂多く付着	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		103	115
84	11号竪穴建物 埋土	深鉢	(30.3)	<41.5>	-	口：無文、頸：3条の横位沈線文 胴：RL縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3	内面に煤 付着	104	115
85	11号竪穴建物 埋土	深鉢	30.0	<36.5>	-	口：無文 頸：隆帯 胴：沈線文、LLR縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		104	115
86	11号竪穴建物 床面	深鉢	-	<14.4>	-	胴：沈線文、LR縦	ミガキ (剥落多い)	中期中葉	Ⅲ 3		104	115
87	11号竪穴建物 埋土下位	深鉢	14.9	<10.1>	-	口：波状口縁 胴：沈線文、LLR縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		104	116
88	11号竪穴建物 埋土	深鉢	-	<15.3>	-	口：隆帯による渦巻文 胴：沈線による渦巻文、LR縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3 ~ 4		104	116
89	11号竪穴建物 床面	深鉢	(27.0)	<13.2>	-	口：無文(隆帯の剥落か?) 胴：沈線文、LR横・縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		105	116
90	11号竪穴建物 床面	深鉢	(28.9)	<25.4>	-	口：無文(隆帯の剥落か?) 胴：沈線文、LR横・縦		中期中葉	Ⅲ 3		105	116
91	11号竪穴建物 埋土	深鉢	(41.2)	<21.5>	-	唇：隆帯により肥厚 胴：隆帯による区画、RLR縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3 ~ 4		105	116
92	11号竪穴建物 埋土	深鉢	-	<29.0>	-	口：無文 頸：隆帯 胴：RL縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		105	116
93	11号竪穴建物 埋土	深鉢	-	<9.9>	-	口：波状口縁、無文 胴：沈線文、RL縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		105	116
94	11号竪穴建物 埋土	器台	(14.8)	7.1	(18.0)	台座部分に円孔	ナデ	中期中葉	Ⅲ		105	116
106	12号竪穴建物 P 7埋土	深鉢	-	<2.9>	-	口：隆沈線による波状文、RL横	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		107	118
107	13号竪穴建物 埋土	深鉢	-	<37.6>	-	胴：沈線による渦巻文	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 4		107	118
108	13号竪穴建物 埋土	深鉢	-	<15.3>	-	口：隆沈線、RL横 胴：沈線文、RL縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		107	118
109	13号竪穴建物 床面	甕棺	(18.3)	<8.1>	-	口：隆帯による渦巻文	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		107	118
110	13号竪穴建物 埋土	深鉢	(16.9)	<10.6>	-	口：沈線を伴う隆帯 胴：波状の沈線文、LR縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		108	118
111	13号竪穴建物 埋土	深鉢	18.4	25.4	8.5	口：隆沈線による渦巻文、RLR横 胴：沈線による区画、RLR縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3	内面に煤 付着	108	118
112	13号竪穴建物 埋土	深鉢	34.8	58.2	12.4	口：隆沈線による渦巻文、LR横 胴：隆沈線による渦巻文、LR縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3	内面に煤 付着	108	118
113	13号竪穴建物 埋土	甕棺	27.5	<20.5>	-	口：隆沈線による渦巻文、LR横 胴：LR縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		108	119
128	15号竪穴建物 埋土	深鉢	-	<4.1>	-	胴：沈線文、RLR縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		111	120
129	15号竪穴建物 埋土	深鉢	-	<6.3>	-	胴：沈線による渦巻文、LR縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 4		111	120

3 検出遺構と出土遺物

No	出土地点・層位	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外面文様等	内面	時期	分類	備考	図版	写図
132	17号竪穴建物埋土	深鉢	-	<10.4>	4.0	胴：沈線による円文、RLR縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 4		111	120
133	17号竪穴建物埋土	深鉢	-	<6.4>	-	口：無文 胴：隆沈線による楕円文、渦巻文、LR縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 4		111	120
134	17号竪穴建物埋土	深鉢	-	<7.5>	-	唇：頂部に隆帯による円孔を伴う突起 胴：隆沈線、RLR斜	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 4		111	120
135	17号竪穴建物埋土	深鉢	-	<9.7>	-	口：隆帯による渦巻文	ナデ	中期中葉	Ⅲ 4		111	120
136	17号竪穴建物埋土	深鉢	-	<8.0>	-	唇：隆帯、円孔を伴う突起 口：沈線文	ナデ	中期中葉	Ⅲ 4		111	121
137	17号竪穴建物埋土	深鉢	-	<8.5>	-	胴：条痕文	ナデ	中期	Ⅲ		111	121
138	17号竪穴建物埋土	深鉢	-	<7.2>	-	唇：円孔を伴う突起 口：隆沈線	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		111	121
139	17号竪穴建物埋土	深鉢	-	<5.4>	-	口：縦位の刻目文を伴う隆帯	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 4		111	121
140	17号竪穴建物埋土	深鉢	-	<5.6>	-	口：無文 胴：隆沈線、単軸絡条体第1類	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 4 ?		111	121
141	17号竪穴建物埋土	深鉢	-	<8.8>	-	胴：隆沈線による楕円形の区画		中期中葉	Ⅲ 4 ?		112	121
149	19号竪穴建物P1埋土	深鉢	-	<12.5>	-	口：刺突を伴う幅広の貼付隆帯	ナデ	前期後葉	Ⅱ 4		113	122
151	20号竪穴建物埋土	深鉢	8.8	13.5	4.0	頸：刺突を伴う隆帯 胴：沈線文、LR縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		113	122
152	20号竪穴建物埋土	深鉢	-	<12.9>	-	口～胴：結節縄文、LR横	ナデ	前期前～中葉	Ⅱ 1		113	122
153	20号竪穴建物埋土	深鉢	-	<8.6>	-	口：波状 胴：条痕(縦)	ナデ	前期?	Ⅱ ?		113	122
154	20号竪穴建物埋土	深鉢	-	<8.8>	-	口：小波状の貼付隆帯、孔1個	ナデ	前期中～後葉	Ⅱ 3～4	内・外面に煤付着	113	122
155	21号竪穴建物埋土	深鉢	-	<15.1>	-	胴：細い隆帯による波状文、沈線文、RL ? 縦(摩滅)	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		113	122
156	21号竪穴建物埋土	深鉢	-	<11.5>	-	唇：頸：隆帯、内面に浅い沈線文、LR横 胴：LR縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		113	122
157	21号竪穴建物埋土下位	深鉢	-	<4.7>	-	唇：原体押圧文を伴う隆帯 胴：細い隆帯、LR横	ミガキ	中期前葉	Ⅲ 1		113	122
159	22号竪穴建物P7埋土	深鉢	(26.5)	<25.1>	-	口：波状の沈線文、RL横位 胴：RL縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		114	122
160	22号竪穴建物P5埋土	深鉢	(28.1)	<26.9>	-	口：隆帯によるS字状の突起 胴：沈線による波状文、RL縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		114	122
161	22号竪穴建物P6埋土	深鉢	28.7	58.9	11.2	口：隆帯、RLR横 胴：RLR縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		114	123
162	22号竪穴建物P1埋土	深鉢	17.7	26.9	8.6	口：隆帯による渦巻文、隆沈線、LR横 胴：LR縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		114	123
163	22号竪穴建物P1埋土	深鉢	28.3	<24.4>	-	口：隆帯 胴：沈線による波状文、LR縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3	内・外面に煤付着	114	123
164	22号竪穴建物埋土下位	深鉢	34.2	<24.3>	-	口：隆帯による渦巻文、RL横 胴：RL縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		115	123
165	22号竪穴建物P10埋土	深鉢	-	<20.0>	-	口：隆帯による渦巻文、RL横 胴：RL縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		115	124
166	22号竪穴建物P8埋土	深鉢	(7.0)	11.5	4.4	口：無文 頸：隆帯による把手(4単位) 胴：隆帯による区画	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		115	124

No	出土地点・層位	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外面文様等	内面	時期	分類	備考	図版	写図
167	22号竪穴建物 P9埋土	深鉢	-	<5.8>	3.6	胴：縦位の沈線文、RL縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		115	124
168	22号竪穴建物 P4埋土	深鉢	-	<33.1>	11.5	胴：RLR縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		115	124
181	23号竪穴建物 埋土	深鉢	-	<7.9>	-	頸：隆帯による把手 胴：隆帯	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		117	125
182	23号竪穴建物 埋土	深鉢	-	<5.0>	-	胴：沈線文、LLR縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		117	125
183	23号竪穴建物 埋土	深鉢	-	<6.8>	(8.6)	胴：沈線文、RL縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		117	125
184	23号竪穴建物 埋土	深鉢	(18.4)	<17.9>	-	唇：隆帯 口：波状の沈線文 胴：縦位の沈線文、LR縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3	内・外面 に煤付着	117	125
185	23号竪穴建物 埋土	浅鉢	(26.1)	13.2	7.0	唇：隆帯による肥厚 胴：無文(横位のケズリ→ミガキ)	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		117	125
187	24号竪穴建物 埋土	深鉢	-	<9.9>	-	口：無文 胴：結節回転、RL横	ナデ	前期前～ 中葉	Ⅱ 1		118	126
188	25号竪穴建物 埋土	深鉢	-	<3.9>	-	唇：頂部に突起 口：結節回転 胴：LR横	ナデ	前期前～ 中葉	Ⅱ 1		118	126
189	25号竪穴建物 埋土	深鉢	-	<4.3>	-	口：結節回転	ナデ	前期前～ 中葉	Ⅱ 1		118	126
190	26号竪穴建物 埋土下位	深鉢	-	<3.6>	-	唇：頂部に小突起	ナデ	前期中～ 後葉	Ⅱ 3 ～4		118	126
191	26号竪穴建物 埋土下位	深鉢	-	<11.6>	-	唇：隆帯 口：RL縦→結節回転(横)	ナデ	前期前～ 中葉?	Ⅱ 1?		118	126
192	27号竪穴建物 埋土下位	深鉢	(15.2)	<8.8>	-	唇：隆帯により肥厚 部：LLR縦		中期中葉	Ⅲ 3		118	126
193	27号竪穴建物 床面	深鉢	-	<20.1>	-	口：波状の沈線文、LR横 胴：LR縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		118	126
194	27号竪穴建物 埋土上位	深鉢	13.7	21.4	6.6	口：沈線による波状文、円文、LR横 胴：LR縦		中期中葉	Ⅲ 3		118	126
195	28号竪穴建物 埋土上位	深鉢	17.4	27.3	7.3	口：隆帯による渦巻文 胴：沈線文、LR縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		119	126
196	28号竪穴建物 埋土上位	深鉢	(18.7)	30.3	9.4	口：刺突を伴う隆帯 胴：LR縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		119	126
197	28号竪穴建物 埋土	深鉢	(14.1)	<13.5>	-	口：無文 頸：隆帯、LR縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		119	126
198	28号竪穴建物 床面	深鉢	38.0	55.9	12.6	口：隆帯による把手 胴：上部に沈線文による区画文、LR縦 底：中央に穿孔あり	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		119	127
199	28号竪穴建物 P20埋土	深鉢	38.1	<16.6>	-	口：隆帯によるS字状の突起 胴：小波状の隆帯、RL縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		120	126
200	28号竪穴建物 埋土下位	深鉢	(34.8)	<27.7>	-	口：隆帯によるS字状の突起 胴：RL縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		120	127
201	28号竪穴建物 埋土上位	深鉢	15.5	23.5	7.4	口：隆帯による突起 胴：沈線による区画文、波状文、RL縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		120	127
202	28号竪穴建物 埋土	深鉢 (小型)	(8.8)	12.0	4.5	胴：LR縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		120	127
203	28号竪穴建物 埋土上位	深鉢	-	<7.5>	-	口：隆沈線、LR横	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		120	127
204	28号竪穴建物 P1埋土	深鉢	(21.3)	35.0	9.0	口：沈線による波状文、LR横 胴：LR縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		120	127
205	28号竪穴建物 埋土	深鉢	25.8	43.1	8.3	口：沈線による渦巻文、LR横 胴：LR縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		121	128

3 検出遺構と出土遺物

No	出土地点・層位	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外面文様等	内面	時期	分類	備考	図版	写真
206	28号竪穴建物埋土上位	浅鉢	19.9	<21.7>	-	口：沈線文、LR横 胴：LR縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		121	128
207	28号竪穴建物埋土	浅鉢	30.4	<26.2>	-	唇：隆帯 口：無文 頸：隆帯による把手 胴：LR縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		121	128
208	28号竪穴建物P6埋土	深鉢	15.0	12.7	6.3	口：隆帯による突起、原体押圧文 胴：沈線による渦巻文、LR縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3	外面に煤付着	121	128
209	28号竪穴建物埋土	深鉢	(35.1)	<17.8>	-	口：隆沈線、沈線文、LR横 頸：隆沈線 胴：LR縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		122	129
210	28号竪穴建物埋土	深鉢	(23.8)	<12.3>	-	口：円孔を伴う突起、隆帯による渦巻文、LR横 胴：LR縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		122	128
211	28号竪穴建物埋土	深鉢	-	<14.1>	-	口：円孔を伴う突起、沈線による渦巻文、RL横	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		122	129
212	28号竪穴建物P4埋土	深鉢	31.5	<22.1>	-	口：隆帯による渦巻文、RL横 頸：隆沈線 胴：RL縦・横	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		122	129
213	28号竪穴建物埋土上位	深鉢	-	<11.8>	-	口：隆帯による突起、隆帯、LR縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		123	129
214	28号竪穴建物埋土上位	深鉢	-	<4.2>	-	口：隆帯を伴う突起	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		123	129
215	28号竪穴建物埋土下位	浅鉢	(13.0)	7.4	5.0	口：無文 頸：隆帯 胴：沈線文、単軸絡条体第1類(斜位)	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		123	129
216	28号竪穴建物P5埋土	浅鉢	23.2	14.3	7.4	唇：隆帯 胴：隆帯による渦巻文、無節R縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		123	129
217	28号竪穴建物埋土	浅鉢	31.1	<12.8>	-	口：隆帯による渦巻文 胴：沈線による渦巻文、RL縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3?		123	129
233	29号竪穴建物埋土上位		15.9	20.8	-	口～胴：無文、繊維痕あり	ナデ	前期前～中葉	Ⅱ 1		125	130
234	29号竪穴建物埋土	深鉢	(15.9)	<12.2>	-	口～胴：組紐?	ナデ	前期	Ⅱ	内外面に煤付着	125	131
235	29号竪穴建物埋土上位	壺	-	<8.1>	-	頸：無文 胴：貼付隆帯、LR横	ナデ	前期中葉	Ⅱ 3		125	131
236	29号竪穴建物埋土	深鉢	14.8	<10.4>	-	口縁端部と口縁下に貼付隆帯(鋸歯状)	ナデ	前期中葉	Ⅱ 3		125	131
237	29号竪穴建物埋土	深鉢	-	<7.1>	-	唇：頂部に貼付隆帯(鋸歯状、格子目状)、LR横	ミガキ	前期中葉	Ⅱ 3		125	131
238	29号竪穴建物埋土	深鉢	-	<6.5>	-	唇：端部と裏面に貼付隆帯 胴：貼付隆帯	ナデ	前期中葉	Ⅱ 3		126	131
239	29号竪穴建物埋土上位	深鉢	-	<7.2>	-	唇：頂部に刺突文	ナデ	前期後葉	Ⅱ 4		126	131
240	29号竪穴建物埋土上位	深鉢	-	<5.1>	-	口：頂部に刺突を伴う環状の突起		前期後葉	Ⅱ 4		126	131
253	30号竪穴建物検出面	深鉢	-	<6.3>	-	口：隆帯による渦巻文 胴：沈線文、LR縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		127	131
256	31号竪穴建物カマド内	深鉢	-	<8.5>	-	口：無文 頸：隆帯 胴：沈線文、LR横	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3～4		127	132
257	31号竪穴建物貼床	深鉢	-	<6.9>	-	胴：沈線文、RL縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		127	132
286	36号竪穴建物埋土	深鉢	-	<8.6>	-	口：沈線による渦巻文、刺突文、LR	ナデ	中期中葉	Ⅲ 4		131	134
287	36号竪穴建物埋土	深鉢?	-	<2.5>	-	口：隆帯による渦巻状の突起	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 4		131	134
295	38号竪穴建物埋土	深鉢	(29.6)	<16.5>	-	唇：頂部に円形刺突文を伴う鋸歯状の貼付隆帯 口～胴：隆帯による刺突文・沈線文、単軸絡条体第1類	ナデ	前期後葉	Ⅱ 4		132	135

No	出土地点・層位	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外面文様等	内面	時期	分類	備考	図版	写真
298	1号掘立柱建物 P2埋土	深鉢	-	<6.1>	-	口：結節回転	ナデ	前期前～ 中葉?	II 1?		132	135
299	1号掘立柱建物 P1埋土	深鉢	-	<8.1>	-	口：頂部突起、原体押圧文 胴：LR縦	ナデ	中期中葉	III 2		132	135
300	1号掘立柱建物 P1埋土	深鉢	-	<11.4>	-	口：隆帯による渦巻文、RL横	ナデ	中期中葉	III 4		132	135
301	1号炉内埋設	深鉢	-	<15.3>	7.2	口：沈線文、LR縦	ミガキ	中期中葉	III 4		133	135
302	1号炉	深鉢	-	<8.4>	-	口：短沈線を伴う隆帯、沈線文、LR縦	ミガキ	中期中葉	III 3		133	135
306	10号炉	深鉢	-	<10.1>	-	胴：沈線による区画文、縦位の波状文、 RLR縦	ミガキ	中期中葉	III 3		133	136
307	10号炉内 焼土	深鉢	-	<8.1>	-	胴：沈線による渦巻文、有棘文、RLR縦 位	ナデ	中期中葉	III 4		133	136
308	1号土坑 埋土	深鉢	(21.7)	31.1	10.6	口：波状(4単位?)、沈線文、LR縦?	ナデ	中期中葉	III 3		133	136
309	1号土坑 埋土	深鉢	(14.8)	26.5	8.3	口：波状(3単位) 胴：LRL縦	ナデ	中期後葉	III 7		133	136
310	5号土坑 埋土	深鉢	-	<9.6>	-	胴：隆帯、RL縦位	ミガキ	中期中葉	III 3		134	136
314	14号土坑 埋土上位	深鉢	-	<11.6>	-	口：隆帯による区画、沈線文、LR横 胴：LR縦	ミガキ	中期中葉	III 3		134	136
315	14号土坑 埋土上位	深鉢	-	<7.5>	-	口：沈線による渦巻文、RL横 胴：RL縦	ミガキ	中期中葉	III 3		134	136
317	15号土坑 埋土中位	深鉢	-	<6.1>	-	口：隆帯による渦巻文 胴：隆帯、RL縦	ナデ	中期中葉	III 3		134	136
318	16号土坑 埋土	深鉢	-	<9.8>	-	口：沈線による円文、小波状文、LR縦	ミガキ	中期中葉	III 3		134	136
319	18号土坑 埋土	深鉢	24.8	<30.9>	-	口～胴：LR縦	ナデ	中期中葉	III 3		135	137
320	18号土坑 埋土	深鉢	-	<13.4>	-	口：隆帯による波状文、LR横 胴：LR縦	ミガキ	中期中葉	III 3		135	137
321	18号土坑 埋土	深鉢	-	<13.9>	-	口：波状口縁、隆帯による渦巻文、LR横 胴：LR縦	ミガキ	中期中葉	III 4		135	137
322	18号土坑 埋土下位	深鉢	-	<9.3>	-	唇・頸：隆帯 口：無文	ミガキ	中期中葉	III 3		135	137
323	18号土坑 埋土	深鉢	-	<5.7>	-	口：隆沈線による渦巻文、LR横	ミガキ	中期中葉	III 4		135	137
324	18号土坑 埋土	深鉢	-	<9.9>	-	口：隆帯、LR横 胴：LR縦	ナデ	中期中葉	III 3		135	137
325	18号土坑 埋土	深鉢	-	<7.8>	-	口：隆帯、LR横 胴：LR縦		中期中葉	III 3		135	137
326	18号土坑 埋土下位	深鉢	-	<22.0>	-	口：無文 胴：隆帯による渦巻文、RL縦	ミガキ	中期中葉	III 4		135	137
327	18号土坑 埋土	深鉢	-	<10.1>	-	口：絡圧を伴う隆帯 胴：沈線による渦巻文、RL縦	ミガキ	中期中葉	III 4	内・外面 に煤付着	136	137
328	18号土坑 埋土下位	浅鉢	-	<7.2>	-	口：隆沈線 胴：無文(ミガキ)	ミガキ	中期中葉	III 3 ～4		136	137
329	18号土坑 埋土	小型鉢	3.0	1.9	-	口～胴：ミガキ	ナデ	中期中葉	III		136	137
330	18号土坑 埋土	深鉢	-	<33.9>	-	口：隆帯、沈線文、LR縦	ミガキ	中期中葉	III 3		136	137

3 検出遺構と出土遺物

No	出土地点・層位	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外面文様等	内面	時期	分類	備考	図版	写真
331	22号土坑埋土	深鉢	-	<9.2>	-	胴：沈線文、RL縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		136	138
332	22号土坑埋土	深鉢	-	<8.9>	-	胴：沈線文、LR縦？	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		136	138
333	25号土坑埋土	深鉢	-	<7.8>	-	口：無文 胴：隆沈線による渦巻文、RLR縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 4		136	138
334	25号土坑埋土	深鉢	-	<3.7>	-	口：隆帯、円孔 胴：RLR縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		136	138
337	26号土坑埋土	深鉢	-	<11.3>	-	口：沈線文、RL縦 胴：RL縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		136	138
338	26号土坑埋土	深鉢	-	<11.5>	-	口：隆帯、LR縦 胴：LR縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		137	138
339	26号土坑埋土	深鉢	-	<8.5>	-	口：隆帯による把手 頸：沈線文 胴：RLR縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		137	138
340	26号土坑埋土	深鉢	-	<16.0>	-	口：隆沈線による渦巻文、LR縦 胴：LR縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		137	138
342	27号土坑埋土	深鉢	17.8	23.8	8.5	口：隆帯による突起 胴：RL縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		137	138
343	27号土坑埋土	深鉢	13.8	<10.7>	-	口：隆帯による突起、波状文、RL横 胴：沈線文、RL縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3	内・外面に煤付着	137	138
344	27号土坑埋土	深鉢	25.9	<20.5>	-	唇：隆帯 口：沈線による波状文、LR縦 胴：LR縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		137	138
345	27号土坑埋土	深鉢	-	<7.4>	-	口：隆帯による橋状把手、原体押圧文	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 2		137	138
346	27号土坑埋土	深鉢	-	<8.3>	-	口：隆沈線、沈線文、LR縦位	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		138	138
348	28号土坑埋土	浅鉢	22.7	11.5	7.0	口～胴上：沈線文 胴：LR横・斜	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		138	139
349	28号土坑埋土	深鉢	-	<5.1>	-	口：原体押圧文を伴う隆帯	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		138	139
350	29号土坑埋土	深鉢	-	<3.3>	-	波状の細い沈線文？	ナデ	前期	Ⅱ		138	139
351	29号土坑埋土	深鉢	-	<3.4>	-	口：沈線文、LR縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3 ～4		138	139
352	30号土坑埋土5層	深鉢	-	<9.3>	-	唇・頸：隆帯 口：沈線文、LR横	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		138	139
353	32号土坑埋土	深鉢	-	<15.9>	-	唇・頸：隆帯 口：無文 胴：LR縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		138	139
354	32号土坑埋土	深鉢	-	<12.4>	-	口：隆帯による渦巻文、LR縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		138	139
355	35号土坑埋土	深鉢	-	<14.9>	-	口：隆帯 胴：沈線文、LR縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		139	139
356	35号土坑埋土	深鉢 (小型)	-	<9.1>	5.0	胴：沈線による剣先文？、RL縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 4		139	139
357	35号土坑埋土	深鉢	-	<5.0>	-	胴：単軸絡条体第5類	ナデ	前期後葉	Ⅱ 4？		139	139
359	38号土坑埋土	深鉢	-	<37.8>	-	胴：隆沈線による渦巻文、剣先文、RLR縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 4		139	139
360	38号土坑埋土	深鉢	-	<11.6>	-	口：S字状の隆帯 胴：隆帯	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		139	140
361	38号土坑埋土	深鉢	-	<17.5>	-	唇・頸：隆帯 口：無文 胴：LLR縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		139	140

No	出土地点・層位	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外面文様等	内面	時期	分類	備考	図版	写図
362	38号土坑埋土	深鉢	-	<11.4>	-	口：隆帯 胴：沈線文、RL縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		140	140
363	38号土坑埋土	深鉢	-	<5.1>	-	口：刻目をもつ隆帯、沈線文、LR横	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		140	140
364	38号土坑埋土	深鉢	-	<3.8>	-	口：隆線による区画帯、刺突列	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		140	140
365	38号土坑埋土	深鉢	-	<7.9>	-	口：横位の連続する刺突文、沈線文、LR縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		140	140
366	38号土坑埋土	深鉢	-	<3.0>	-	唇：貼付隆帯	ナデ	前期中～ 後葉	Ⅱ 3 ～ 4		140	140
368	39号土坑埋土	深鉢	-	<13.8>	-	口：隆帯による渦巻文 胴：沈線文、RLR縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		140	140
369	39号土坑埋土	深鉢	-	<7.8>	-	口：隆帯による渦巻文、波状文 胴：沈線文、LRL縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		140	140
370	39号土坑埋土	深鉢	-	<6.6>	-	口：隆帯、RLR横 胴：RLR縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		140	140
371	39号土坑埋土	深鉢	-	<6.3>	-	口：隆帯によるS字状の突起	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		140	140
372	39号土坑埋土	深鉢	-	<5.3>	-	口：原体押圧文	ナデ	中期中葉	Ⅲ 2		140	140
373	39号土坑埋土	浅鉢	-	<9.2>	-	口：隆帯による突起 胴：上部に原体押圧文、LR縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 2		140	140
375	41号土坑埋土	深鉢	-	<14.5>	-	口：隆帯および円孔を伴う突起、沈線文、LR横	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		141	140
376	41号土坑埋土	深鉢	-	<5.2>	-	口：沈線文 頸：隆帯 胴：沈線による波状文、LR縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		141	140
377	41号土坑埋土	深鉢	-	<3.3>	-	口：隆帯による渦巻文、RLR横 胴：RLR縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		141	140
378	41号土坑埋土	深鉢	-	<6.3>	-	口：無文 頸・胴：沈線文、LR縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		141	140
379	41号土坑埋土	深鉢	-	<10.6>	-	口：隆帯、沈線文、LR縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		141	140
381	42号土坑埋土	深鉢	-	<15.8>	-	口：隆帯による突起 胴：沈線文、RL縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3	内・外面 に煤付着	141	141
382	42号土坑埋土	深鉢	-	<11.7>	-	口：隆帯、RL横 胴：RL縦		中期中葉	Ⅲ 3		141	141
383	42号土坑埋土	深鉢	-	<13.2>	-	口：隆帯、RL横 胴：RL縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		141	141
384	42号土坑埋土	深鉢	-	<11.4>	-	口：隆帯による渦巻文 胴：沈線文、LR縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		141	141
385	42号土坑埋土	深鉢	-	<5.6>	-	口：隆帯、沈線文	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		141	141
386	45号土坑埋土	深鉢	-	<8.8>	-	口：隆沈線、LR横 胴：LR縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		142	141
387	45号土坑埋土	深鉢	-	<5.7>	-	唇・頸：隆帯 口：波状の隆沈線、RL横	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		142	141
390	46号土坑埋土	深鉢	-	<10.3>	-	口：隆沈線による渦巻文、RL横	ナデ	中期中葉	Ⅲ 4		142	141
391	47号土坑埋土	深鉢	23.1	33.8	(7.9)	口：隆帯による波状文、LR横 胴：LR縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		142	141
392	47号土坑埋土	深鉢	-	<16.2>	-	口・胴：隆帯、沈線文、RL縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		142	141

3 検出遺構と出土遺物

No	出土地点・層位	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外面文様等	内面	時期	分類	備考	図版	写真
393	47号土坑埋土	深鉢	-	<16.4>	-	唇・頸：隆帯 口：波状の沈線文、LR横 胴：LR縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		142	141
394	47号土坑埋土	深鉢	-	<11.2>	-	口：隆帯 胴：LR縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		143	141
395	47号土坑埋土	深鉢	-	<6.0>	-	口：隆沈線、LR横	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		143	141
396	47号土坑埋土	深鉢	-	<16.2>	-	胴：LLR縦位	ナデ	中期中葉	Ⅲ		143	141
398	50号土坑埋土	深鉢	-	<11.1>	-	口：隆沈線による渦巻文、LR横 胴：沈線文、LR縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 4		143	142
399	50号土坑埋土	深鉢	-	<4.9>	-	口：隆沈線による渦巻文、LR横	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 4		143	142
400	50号土坑埋土	深鉢	-	<4.2>	-	口：隆沈線、RL	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		143	142
401	50号土坑埋土	深鉢	-	<4.4>	-	口：原体押圧文 胴：LR縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 2		143	142
402	53号土坑埋土	深鉢	(16.3)	<24.3>	-	胴：単軸絡条体第1類	ナデ	前期後葉	Ⅱ 4		143	142
403	53号土坑埋土	深鉢	-	<27.3>	-	胴：単軸絡条体第1A類	ナデ	前期後葉	Ⅱ 4		144	142
404	53号土坑埋土	深鉢	-	<31.6>	-	胴：RL縦・横(羽状縄文)	ナデ	前期後葉	Ⅱ 4		144	142
405	53号土坑埋土	深鉢	-	<23.4>	-	胴：単軸絡条体第1A類	ナデ	前期後葉	Ⅱ 4		144	142
406	53号土坑埋土	深鉢	-	<16.2>	-	口：隆帯により肥厚 胴：単軸絡条体第5類	ナデ	前期後葉	Ⅱ 4		144	142
407	53号土坑埋土	深鉢	11.1	<13.5>	-	胴：単軸絡条体第5類	ナデ	前期後葉	Ⅱ 4		144	142
408	53号土坑埋土	深鉢	-	<52.1>	-	胴：指頭押圧を伴う隆帯、単軸絡条体第1A類	ナデ	前期後葉	Ⅱ 4		145	143
409	53号土坑埋土	深鉢	-	<17.7>	-	唇：凹形刺突文を伴う隆帯 胴：単軸絡条体第1類	ナデ	前期後葉	Ⅱ 4		145	143
410	53号土坑埋土	深鉢	-	<18.3>	-	口：端部に沈線を伴う隆帯 胴：単軸絡条体第1類	ナデ(縦位)	前期後葉	Ⅱ 4		145	143
411	53号土坑埋土	深鉢	-	<18.2>	-	胴：単軸絡条体第1類	ナデ	前期後葉	Ⅱ 4		145	143
412	53号土坑埋土	深鉢	-	<12.9>	-	口：指頭押圧を伴う隆帯 胴：単軸絡条体第5類	ナデ	前期後葉	Ⅱ 4		145	143
413	53号土坑埋土	深鉢	-	<15.6>	-	口：刺突を伴う隆帯	ナデ	前期後葉	Ⅱ 4		146	143
414	53号土坑埋土	深鉢	-	<14.7>	-	口：頂部に環状の突起、 胴：原体押圧文	ナデ	前期後葉	Ⅱ 4		146	143
415	53号土坑埋土	深鉢	-	<17.2>	-	口：刺突を伴う隆帯 胴：結束?	ナデ	前期後葉	Ⅱ 4		146	143
418	55号土坑埋土	深鉢	-	<7.8>	-	口：原体押圧文を加えた隆帯、LR横 胴：沈線文、LR縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 3		146	144
420	57号土坑埋土1層	深鉢	-	<5.0>	-	口：原体押圧文、LR横	ナデ	中期中葉	Ⅲ 2		146	144
421	57号土坑埋土1層	深鉢	-	<3.4>	-	口：隆帯、LR横	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		146	144
423	61号土坑床面	深鉢	-	<6.0>	-	口：隆帯 胴：沈線文	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		147	144

No	出土地点・層位	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外面文様等	内面	時期	分類	備考	図版	写図
424	61号土坑 床面	深鉢	-	<14.5>	-	口：隆帯 胴：沈線文、LR縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		147	144
425	61号土坑 埋土上位	深鉢	28.2	<33.2>	-	唇：隆帯による渦巻文を伴う突起 口：隆沈線による渦巻文、LR横 胴：LR縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		147	144
426	63号土坑 埋土	深鉢？	-	<7.5>	4.6	胴：無文	ナデ	中期	Ⅲ		147	144
427	63号土坑 埋土	深鉢	-	<5.3>	-	胴：沈線文	ナデ	中期中葉	Ⅲ 4？		147	144
428	63号土坑 埋土	深鉢	-	<2.5>	-	口：隆帯	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3		147	144
437	2号陥し穴状 遺構 埋土	深鉢	-	<25.8>	-	胴：沈線文、単軸絡条体第1類(縦・斜)	ナデ	中期中葉	Ⅲ 4		148	145
440	8号陥し穴状 遺構 埋土	深鉢	30.6	<19.1>	-	口：隆帯よる円文 胴：LR縦	ミガキ (剥がれ ている箇 所多い)	中期中葉	Ⅲ 3		148	145
441	8号陥し穴状 遺構 埋土	深鉢	-	<11.5>	-	口：無文 胴：隆沈線による渦巻文、LR縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 4		148	145
442	1号土器埋設 遺構	深鉢	27.6	<54.7>	-	口：波状(4単位)、隆沈線による渦巻文、 剣先文 口～胴：RLR縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 3	内面に煤 付着	149	145
443	1号土器埋設 遺構	深鉢	18.8	<9.7>	-	口：隆沈線による渦巻文、剣先文、RLR 横 胴：沈線文、RL縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 4		149	145
444	1号土器埋設 遺構	深鉢	-	<7.6>	-	口：隆沈線による渦巻文、剣先文、RLR 横 胴：沈線文、LRL縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 4		149	145
445	1号土器埋設 遺構	深鉢	-	<16.1>	-	口～胴：沈線による渦巻文、波状文、 RLR縦	ミガキ	中期中葉	Ⅲ 4		149	145
446	2号土器埋設 遺構	深鉢	24.0	<23.8>	-	口：隆帯 胴：RL縦		中期中葉	Ⅲ 3		149	146
453	P37 埋土	深鉢	-	<8.9>	(7.0)	胴：沈線による渦巻文、LR縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 4		150	146
455	P74 埋土	深鉢	-	<9.3>	-	胴：隆沈線による渦巻文、RLR縦	ナデ	中期中葉	Ⅲ 4		150	146
459	Ⅱ B10s Ⅱ層	深鉢	-	<5.4>	-	口～胴：平行沈線文、貝殻腹縁文→沈線 文	ナデ	早期中葉	I		151	147
460	Ⅱ B6q Ⅱ層	深鉢	-	<4.0>	-	口～胴：貝殻復縁文→沈線文	ナデ	早期中葉	I		151	147
461	Ⅱ B4o Ⅱ層	深鉢	-	<10.3>	-	口：頂部小波状、孔1箇所 胴：結節回転LR横	ナデ	前期前～ 中葉	Ⅱ 1	外面に煤 付着	151	147
462	Ⅱ B5m Ⅱ層	深鉢	-	<6.3>	-	口：結節縄文 胴：組紐	ナデ	前期前～ 中葉	Ⅱ 1		151	147
463	Ⅱ B9r Ⅱ層	深鉢	-	<8.2>	-	胴：結束縄文、LR縦	ナデ	前期前～ 中葉？	Ⅱ 1？		151	147
464	Ⅱ B9q Ⅱ層	深鉢	-	<3.9>	-	唇：連続する刺突文 口：貼付隆帯(円形刺突列付)	ナデ	前期前～ 中葉	Ⅱ 1		151	147
465	Ⅱ B11q Ⅱ c層	深鉢	-	<4.3>	-	口：結束縄文	ミガキ	前期前～ 中葉	Ⅱ 1		151	147
466	Ⅱ B10q Ⅱ層	深鉢	-	<17.1>	-	口：結節縄文 胴：組紐	ナデ	前期前～ 中葉	Ⅱ 1		151	147
467	Ⅱ B11t Ⅰ c層	深鉢	-	<4.7>	-	口：表裏縄文	縄文	前期前～ 中葉	Ⅱ 1		151	147
468	Ⅱ B5g Ⅱ層	深鉢	-	<6.7>	-	口：S字状連鎖沈文	ナデ	前期前～ 中葉	Ⅱ 1		151	147
469	Ⅱ B9t Ⅱ層	深鉢	-	<7.6>	-	口：2本一対の細い沈線による弧状文	ナデ	前期中 葉？	Ⅱ 2？	内面に煤 付着	151	147

3 検出遺構と出土遺物

No	出土地点・層位	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外面文様等	内面	時期	分類	備考	図版	写真
470	II A3s II層	深鉢	-	<3.6>	-	口：鋸歯状の沈線文、弧状沈線文(縦)	ナデ	前期中葉	II 2 ~3		151	147
471	II B9p III層	深鉢	26.5	<17.2>	-	口：粘土紐による隆帯(円文)、連続する刺突文	ミガキ	前期中葉	II 2 ~3		151	147
472	II B4t トレンチ内	深鉢	(36.2)	<16.6>	-	口：無文 頸~胴：粘土紐貼付による渦巻文、LR横	ミガキ	前期中葉	II 2 ~3		151	147
473	II B4e	深鉢	-	<4.4>	-	口：粘土紐による隆帯(剥落)、沈線文	ナデ	前期中葉	II 3		151	147
474	調査区内 表採	深鉢	-	<11.2>	-	唇・口：粘土紐による小波状隆帯		前期中葉	II 3		152	147
475	II B3o II層	深鉢	-	<18.1>	-	口・胴：粘土紐による小波状隆帯	ミガキ?	前期中葉	II 3		152	147
476	II B4m II層	深鉢	-	<8.1>	-	唇：頂部に小波状の沈線文 口：粘土紐による波状隆帯	ミガキ	前期中葉	II 3		152	147
477	II B5m II層	深鉢	-	<4.5>	-	唇：頂部に小波状の貼付隆帯 口：貼付隆帯(紐状)	ナデ	前期中葉	II 3	煤付着	152	147
478	II B11r II層	深鉢	-	<6.1>	-	口：粘土紐による梯子状隆帯 胴：LR横	ナデ	前期中葉	II 3		152	148
479	II B9s III層	深鉢	-	<6.3>	-	唇・口：表裏に粘土紐による小波状隆帯	ミガキ	前期中葉	II 3		152	148
480	II B9q II層	深鉢	25.4	<13.5>	-	唇：粘土紐貼付による小波状文 胴：紐状の粘土紐貼付による波状文、格子状文)、結束、単軸絡条体第1類		前期中葉	II 3		152	148
481	II B12r II層	深鉢	-	<6.1>	-	胴：粘土紐貼付による小波状文、RL横	ナデ	前期中葉	II 3		152	148
482	II B3k II層	深鉢	-	<15.8>	-	口：細かい刺突と円孔を伴う環状の突起 胴：貼付隆帯による波状文、単軸絡条体による格子状の文様	ナデ	前期後葉	II 4		152	148
483	II B3k II層	深鉢	-	<31.2>	-	口：細かい刺突が施された環状の突起 胴：貼付隆帯(渦巻文他)、単軸絡条体による格子状の文様		前期後葉	II 4		153	148
484	II B11u I c層	深鉢	-	<6.7>	-	口：刺突を伴う環状突起	ナデ	前期後葉	II 4		153	148
485	II B12s II層	深鉢	-	<6.5>	-	口：刺突を伴う環状突起 胴：貼付隆帯(指頭による押圧)、単軸絡条体第1A類	ナデ	前期後葉	II 4		153	148
486	II B11q II層	深鉢	-	<5.6>	-	口：環状の貼付隆帯 胴：結束、LR横	ナデ	前期後葉	II 4	内面に煤付着	153	148
487	II B12p II層	深鉢	-	<5.6>	-	口：刺突を伴う環状突起、頂部に刺突列	ナデ	前期後葉	II 4	488・489 と同一個体?	153	148
488	II B12p II層	深鉢	-	<3.4>	-	口：頂部に刺突列 胴：単軸絡条体第5類		前期後葉	II 4	487・489 と同一個体?	153	148
489	II B12p II層	深鉢	-	<15.4>	-	胴：単軸絡条体第5類		前期後葉	II 4	487・488 と同一個体?	153	148
490	II B8t II層	深鉢	(32.1)	<41.4>	-	口：沈線を伴う鋸歯状隆帯 胴：単軸絡条体第5類R縦	ナデ	前期後葉	II 4		153	148
491	II B3n II層	深鉢	-	<8.5>	-	口：沈線を伴う鋸歯状隆帯 胴：LR?横		前期後葉	II 4		154	149
492	II B11y II層	深鉢	-	<9.2>	-	口：鋸歯状の貼付隆帯 胴：単軸絡条体第5類	ナデ	前期後葉	II 4		154	149
493	II B10r II層	深鉢	-	<6.5>	-	口：端部に沈線文、刺突文、貼付隆帯 単軸絡条体第1A類	ナデ	前期後葉	II 4		154	149
494	II B6p II層	深鉢	-	<13.4>	-	口：頂部に刺突を伴う円形の突起 口~胴：円形の刺突を伴う貼付隆帯、LR	ナデ	前期後葉	II 4		154	149
495	II B5l II層	深鉢	-	<12.3>	-	口：頂部に円形の突起	ナデ	前期後葉	II 4		154	149

No	出土地点・層位	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外面文様等	内面	時期	分類	備考	図版	写図
496	II B4l I b層	深鉢	-	<6.8>	-	唇：端部に円形刺突列 口：円形刺突文を伴う貼付隆帯 胴：単軸絡条体第5類	ナデ	前期後葉	II 4		154	149
497	II B8r III層	深鉢	-	<11.4>	-	唇：端部指頭押圧により小波状 口：粘土紐貼付による波状の隆帯 胴：小波状と直線粘土紐貼付、結節縄文RL横	ナデ	前期後葉	II 4		154	149
498	II B8r III層	深鉢	-	<15.0>	-	唇：端部指頭押圧により小波状 口：粘土紐貼付による波状の隆帯 胴：貼付隆帯による渦巻文、結節縄文RL横		前期後葉	II 4		154	149
499	II B7t II層	深鉢	-	<6.3>	-	唇：突起 胴：原体押圧文	ナデ	前期後葉	II 4		154	149
500	II B5m II層	深鉢	-	<7.4>	-	唇：粘土紐貼付による隆帯 胴：附加条(格子目状)	ナデ	前期後葉	II 4		154	149
501	II B9v II層	深鉢	-	<6.4>	-	唇：頂部に円形刺突文 口：貼付隆帯、沈線文、単軸絡条体第1A類	ナデ	前期後葉	II 4		154	149
502	II B7p II層	深鉢	-	<8.5>	-	口～胴：結節縄文、LR斜	ナデ	前期後葉	II 4		155	149
503	II B13q II層	深鉢	-	<8.8>	-	唇：頂部突起 胴：鋸歯状沈線文	ナデ	前期後葉	II 4		155	149
504	II A3t II層	深鉢	-	<13.9>	-	胴：単軸絡条体第5類	ナデ	前期後葉	II 4		155	149
505	II B11u I c層	深鉢	-	<11.7>	-	口：指頭による押圧が施された貼付隆帯 胴：単軸絡条体第1A類	ナデ	前期後葉	II 4		155	149
506	II B7p II層	深鉢	-	<24.4>	-	胴：単軸絡条体第1A類	ナデ	前期後葉	II 4		155	149
507	II B8u III層	深鉢	-	<36.0>	-	貼付隆帯(指頭による押圧)、単軸絡条体第1類	ナデ	前期後葉	II 4	胎土に小礫(径3～4mm)多く混入	155	150
508	II B10t II層	深鉢	-	<5.6>	-	口：頂部に円形刺突文、沈線をもつ貼付隆帯 胴：単軸絡条体第1A類	ナデ	前期後葉	II 4		155	150
509	II B11t I c層	深鉢	-	<6.8>	-	口：頂部に円形刺突文、単軸絡条体第2類?	ナデ	前期後葉	II 4		155	150
510	II B9q III層	深鉢	-	<9.8>	-	口：鋸歯状文、LR横	ミガキ	前期後葉	II 4	内面に煤付着	155	150
511	II B11w II層	深鉢	-	<8.9>	-	胴：結節縄文、単軸絡条体第1類	ナデ	前期後葉	II 4		155	150
512	II B9r II層	深鉢	-	<20.3>	-	胴：単軸絡条体第1A類	ナデ	前期後葉	II 4		155	150
513	II B12r II層	深鉢	16.9	<16.9>	-	口：平縁(一部小波状)、結束縄文、無節L	大木5式?	前期後葉	II 4		156	150
514	II B9r II層	深鉢	(18.0)	<22.3>	-	胴：組紐?	ナデ	前期後葉	II 4		156	150
515	II B4m II層	深鉢	(15.6)	21.0	(7.8)	口：頂部：指頭圧痕により小波状 胴：RL?横	ナデ	前期後葉	II 4		156	150
516	II B4m II層	深鉢	16.0	19.4	6.8	口：頂部2個一対の突起 胴：LR横?	ナデ	前期後葉	II 4		156	150
517	II B3k IV層	深鉢	-	<39.2>	-	口：小波状、結束第1種	ナデ	前期?	II ?		156	150
518	II B4e	浅鉢	-	<6.9>	-	口：突起、原体押圧文	ミガキ	中期前葉	III 1		157	151
519	II B3e 攪乱中	深鉢	(20.7)	<15.0>	-	口：原体押圧文	ナデ	中期前葉	III 1?		157	151
520	II B3n I b層	深鉢	26.8	<23.9>	-	口：突起、原体押圧文を伴う隆帯 胴：RL縦	ミガキ	中期中葉	III 2	内面に煤付着	157	151
521	II B9q II層	深鉢	-	<6.5>	-	口：隆帯、原体押圧文 胴：沈線文を伴う隆帯、RL縦	ミガキ	中期中葉	III 2		157	151

3 検出遺構と出土遺物

No	出土地点・層位	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外面文様等	内面	時期	分類	備考	図版	写真
522	II A6u II層	深鉢	-	<8.2>	-	口：隆沈線による楕円形の区画(区画内原 体押圧文) 胴：沈線文、RL縦位？	ミガキ	中期中葉	III 2		157	151
523	II B7p II層	深鉢	-	<6.5>	-	口：原体押圧文L、隆帯 胴：LR縦	ミガキ	中期中葉	III 2		157	151
524	II B5m II層	深鉢	-	<8.6>	-	口：原体押圧文LR 胴：LR縦	ミガキ	中期中葉	III 2		157	151
525	調査区内 表採	深鉢	-	<12.4>	-	口：原体押圧文、LR縦	ナデ	中葉中葉	III 2		157	151
526	II B11q II層	深鉢	-	<9.6>	-	口：隆帯、原体押圧文、LR横 胴：LR縦	ミガキ	中期中葉	III 2		157	151
527	II B7q II層	深鉢	-	<10.1>	-	口：原体押圧文LR 胴：LR横・斜	ミガキ	中期中葉	III 2		157	151
528	II B7p II層	深鉢	-	<16.4>	-	口：原体押圧文、LR横・斜 胴：LR縦	ミガキ	中期中葉	III 2		158	151
529	II B7p II層	深鉢	-	<37.3>	-	口：LR縦・斜→原体押圧文LR 胴：LR縦	ナデ	中期中葉	III 2		158	151
530	II B7p II層	深鉢	(17.3)	22.5	8.7	口：沈線文(鋸歯状)、原体押圧文 胴：LR斜	ミガキ	中期中葉	III 2		158	151
531	II B5m II層	深鉢	-	<6.5>	-	口：原体押圧文	ミガキ	中期中葉	III 2		158	152
532	II B6q II層	深鉢	-	<4.8>	-	口：原体による押圧を伴う波状の隆帯 胴：原体押圧文を伴う隆帯、原体押圧に よる渦巻文	ミガキ	中期中葉	III 2		158	152
533	II B5p II層	深鉢	(21.7)	13.4	7.4	口：頂部突起、原体押圧文LR 胴：LR横位	ナデ	中期中葉	III 2		158	152
534	II B8q III層	深鉢	-	<11.8>	-	口：頂部に小突起、原体押圧文、LR縦	ミガキ	中期中葉	III 2	外面に煤 付着	158	152
535	II B3n I b層	深鉢	18.4	<20.0>	-	口：頂部突起、2条一対の沈線文、沈線 下に弧状の原体押圧文 胴：LR横	ミガキ	中期中葉	III 2		159	152
536	II B6p II層	深鉢	-	<5.7>	-	口：突起、小波状、原体押圧文 胴：無節L	ミガキ	中期中葉	III 2		159	152
537	II B7q II層	深鉢？	(21.4)	12.6	(8.0)	口：原体押圧文LR 胴：LR横	ナデ(横 位)	中期中葉	III 2		159	152
538	II B5m II層	浅鉢	-	<5.1>	-	口：原体押圧文LR	ミガキ	中期中葉	III 2		159	152
539	II B2f	浅鉢	-	<9.1>	-	口：原体押圧文 胴：LR縦・斜	ミガキ	中期中葉	III 2		159	152
540	II B5l II層	浅鉢	-	<8.1>	-	口：原体押圧文 胴：沈線文、RLR？縦	ナデ	中期中葉	III 2		159	152
541	II B4i I b層	浅鉢	-	<24.1>	-	口：原体押圧文を伴う区画帯 胴：RL横→原体押圧文LR	ミガキ	中期中葉	III 2		159	152
542	II B3f	浅鉢	-	<11.4>	-	口：原体押圧文を伴う楕円形区画帯 胴：原体押圧文RL、LRL縦	ナデ	中期中葉	III 2		159	152
543	II B2h I b層	浅鉢	18.9	11.0	6.2	口：突起、原体押圧文RL 胴：LR縦、原体押圧文	ナデ	中期中葉	III 2		159	152
544	II B2f	深鉢	(13.5)	<12.7>	-	口：沈線による方形の区画帯、LR横 胴：LR縦	ミガキ	中期中葉	III 3		160	153
545	II B2f	深鉢	(10.7)	<10.7>	-	唇：隆帯 口：沈線によるクランク状文、LR横 胴：LR縦	ミガキ	中期中葉	III 3		160	153
546	II B5k II層	深鉢	-	<12.9>	-	口：隆帯によるクランク状文、RL横 胴：RL縦	ミガキ	中期中葉	III 3	内面に煤 付着	160	153
547	II B2f	深鉢	(24.2)	<10.7>	-	唇：隆帯 口：沈線による小波状文(2段)、RL横 胴：LR縦	ナデ	中期中葉	III 3		160	153

No	出土地点・層位	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外面文様等	内面	時期	分類	備考	図版	写図
548	II B8r III層	深鉢	23.5	<13.5>	-	口：隆帯による小波状文、RL横 胴：RL縦	ナデ	中期中葉	III 3	胎土に礫 (5~8 mm)多い	160	153
549	II B8v II層	深鉢	16.8	24.7	6.7	口：隆帯による渦巻文、LR横 胴：LR縦	ナデ	中期中葉	III 3		160	153
550	II B3n I b層	深鉢	-	<18.0>	-	口：隆沈線による波状の区画文 胴：LRL縦		中期中葉	III 3		160	153
551	II B4h II層	深鉢	22.2	28.0	8.2	口：隆帯による区画、隆沈線による波状文、 LR縦 胴：LR縦	ミガキ	中期中葉	III 3		161	153
552	II B5m II層	深鉢	-	<9.7>	-	口：隆帯による楕円の区画帯 胴：沈線による渦巻文、RLR縦	ミガキ	中期中葉	III 3		161	153
553	II B3o I b層	深鉢	(26.0)	<23.3>	-	口：沈線文、LR横、 頸：隆帯 胴：LR縦	ミガキ	中期中葉	III 3		161	153
554	II B4i I b層	深鉢	-	<16.1>	-	唇・頸：隆帯 口：RLR横 胴：RLR縦	ミガキ	中期中葉	III 3		161	153
555	II B4o II層	深鉢	(33.2)	<32.2>	-	唇：隆帯によるS字状?の突起、細い小波 状の隆帯 口：隆沈線による波状の区画帯、LR縦 胴：LR縦	ナデ	中期中葉	III 3		161	154
556	調査区内 表採	深鉢	33.0	<19.2>	-	唇：渦巻状の突起 口：隆帯、RL横 胴：RL縦	ナデ	中期中葉	III 3		161	154
557	II B3o II層	深鉢	-	<27.3>	-	唇：頂部突起、 口：沈線文、LR横 胴：縦位に小波状の沈線文、LR縦		中期中葉	III 3		162	154
558	II B4n II層	深鉢	-	<19.5>	-	口：隆帯による区画、LR横 頸：沈線による小波状文 胴：LR縦	ナデ	中期中葉	III 3		162	154
559	II B5i III層	深鉢	-	<13.2>	-	口：隆沈線による渦巻文、RLR横 胴：沈線文、RLR縦	ミガキ	中期中葉	III 3		162	154
560	II B4m II層	深鉢	-	<11.0>	-	口：隆沈線による区画、弧状文、RL横	ミガキ	中期中葉	III 3		162	154
561	II B7p II層	深鉢	-	<10.1>	-	口：LR横位→沈線による渦巻文、弧状文	ナデ	中期中葉	III 3		162	154
562	II B5l II層	深鉢	-	<11.5>	-	口：隆帯による渦巻文、LR横	ミガキ	中期中葉	III 3		162	154
563	II B8u II層	深鉢	-	<17.7>	-	口：隆帯による渦巻文、RLR横 胴：RLR縦	ミガキ	中期中葉	III 3		162	154
564	II B3g	深鉢	-	<11.5>	-	口：隆沈線によるS字状文、LR横 胴：LR縦	ナデ	中期中葉	III 3		162	155
565	II B3g	深鉢	-	<11.0>	-	口：頂部突起、隆帯による渦巻文、LR横	ミガキ	中期中葉	III 3		163	155
566	II B3g	深鉢	-	<10.9>	-	口：隆帯による渦巻文、LR横 胴：LR縦	ミガキ	中期中葉	III 3		163	155
567	II A6u II層	深鉢	-	<13.0>	-	唇：渦巻文のある突起 口：沈線による渦巻文、LR横	ミガキ	中期中葉	III 3		163	155
568	II B7p II層	深鉢	-	<26.4>	-	口：突起の表裏に渦巻状の隆帯、隆沈線 による区画、LR横 胴：RL縦	ミガキ	中期中葉	III 3		163	155
569	II B6s II層	深鉢	-	<11.0>	-	口：円孔を伴う突起、隆沈線による渦巻文、 LR縦	ナデ(粗)	中期中葉	III 3		163	155
570	II B4g	深鉢	-	5.8	-	円孔を伴う突起	ミガキ	中期中葉	III 3		163	155
571	II B3o I b層	深鉢	(19.0)	<12.8>	-	口：隆帯による橋状の把手、表裏に隆帯 による渦巻文	ミガキ、 貼付隆線	中期中葉	III 3		163	155
572	II B3o II層	深鉢	(10.7)	<11.1>	-	口：隆帯による橋状の把手、裏面に隆帯 による渦巻文	ミガキ、 貼付隆線	中期中葉	III 3		163	155
573	II B5l II層	深鉢	(9.2)	<8.6>	-	口：隆帯による橋状の把手	ミガキ	中期中葉	III 3		164	156

3 検出遺構と出土遺物

No	出土地点・層位	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外面文様等	内面	時期	分類	備考	図版	写真
574	II B5l II層	深鉢	-	<6.8>	-	隆沈線による耳状突起	ミガキ	中期中葉	III 3		164	156
575	II B5l II層	深鉢	-	<6.4>	-	口：隆帯による渦巻文	ミガキ	中期中葉	III 3		164	156
576	II B3f I層	深鉢	32.7	<40.9>	-	口：隆帯 胴：RL縦	ナデ	中期中葉	III 3		164	156
577	II B3f	深鉢	(29.5)	<43.3>	-	口：隆帯による渦巻文、縦位の沈線文、LRL縦	ナデ	中期中葉	III 3		164	156
578	II B3g	深鉢	-	<15.7>	-	口：隆帯による渦巻文 胴：沈線文(3条)、RLR縦	ミガキ	中期中葉	III 3		164	156
579	II B9s II層	深鉢	-	<11.9>	-	口：隆帯による渦巻文 胴：沈線文、LR縦	ミガキ	中期中葉	III 3		164	156
580	II B5i	深鉢	-	<13.9>	-	口：隆帯による渦巻文 胴：2条一対の沈線による波状文、LR縦	ナデ	中期中葉	III 3		165	157
581	II B8u II層	深鉢	-	<15.6>	-	口：隆帯による円文 胴：2条一対の沈線による波状文、LRL縦	ミガキ	中期中葉	III 3		165	157
582	II B4o II層	深鉢	-	<25.6>	-	唇：隆帯による突起 口：隆帯による区画(区画内に刺突文) 頸：沈線による横位の小波状文 胴：沈線による縦位の小波状文、L縦	ミガキ	中期中葉	III 3		165	157
583	II B4h 攪乱中	深鉢	-	<5.6>	-	唇：隆帯によるS字状の突起 口：横位の押引文 頸：隆帯 胴：隆沈線、RLR縦	ミガキ	中期中葉	III 3		165	157
584	II B4m II層	深鉢	-	<13.4>	-	口：縦位の原体押圧文 胴：沈線によるクランク状文?、LR縦位	ミガキ	中期中葉	III 3		165	157
585	II B5m II層	深鉢	-	<6.4>	-	口：原体押圧文(LR)を伴う波状の隆帯 胴：隆帯による渦巻文、LR縦	ミガキ	中期中葉	III 3		165	157
586	II B4h II層	深鉢	-	<15.8>	-	口：隆帯に原体押圧文 胴：隆帯による小波状文、渦巻文、LR縦	ミガキ	中期中葉	III 3		165	157
587	II B5k II層	深鉢	-	<17.4>	-	口：隆帯 胴：沈線による波状文、LR縦	ミガキ	中期中葉	III 3	外面に微量煤付着	165	157
588	II B4f III層	深鉢	25.9	<22.6>	-	口～胴：沈線による渦巻文、LR縦	ミガキ	中期中葉	III 3		166	157
589	II B4g	深鉢	-	<7.6>	-			中期中葉	III 3		166	158
590	II B4g	深鉢	-	<7.4>	(6.2)	口：無文 頸：隆帯 胴：隆沈線、LLR縦	ミガキ	中期中葉	III 3		166	158
591	II B8u II層	深鉢	-	<34.0>	-	口：頂部突起、沈線による渦巻文、区画文、LR横 胴：LR斜	ナデ	中期中葉	III 3		166	158
592	II B4f III層	深鉢?	-	<19.9>	-	口：隆帯による渦巻文 胴：LR縦	ナデ	中期中葉	III 3		166	158
593	II B4i II層	深鉢	-	<15.2>	-	口：隆帯によるS字状の突起 胴：LR縦→隆帯	ミガキ	中期中葉	III 3		166	158
594	II B3d	深鉢	(13.4)	<14.1>	-	口：隆帯による渦巻文 胴：3条の波状文、曲線文、RL縦	ミガキ	中期中葉	III 3		166	158
595	II B5i III層	深鉢	-	<12.1>	-	口：隆帯 胴：沈線文、RL縦、孔1	ミガキ	中期中葉	III 3		167	158
596	II B5g II層	深鉢	-	<5.4>	-	口：隆帯による渦巻文、 頸：沈線+連続する刺突文 胴：沈線文、刺突文、RL縦	ナデ	中期中葉	III 3		167	158
597	II B6q II層	深鉢	(33.8)	<20.8>	-	口：隆帯 胴：隆帯による渦巻文、RLR縦	ミガキ	中期中葉	III 3		167	158
598	II B7t II層	深鉢	-	<9.6>	-	口：隆帯、縦位の短沈線、沈線による渦巻文、LR縦 頸：沈線+横位の刺突文 胴：LR縦	ナデ	中期中葉	III 3		167	158
599	II B9t III層	深鉢	-	<7.6>	-	口・頸：押引文を伴う隆帯	ナデ	中期中葉	III 3		167	158

No	出土地点・層位	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外面文様等	内面	時期	分類	備考	図版	写図
600	II B8v II層	深鉢	-	<10.0>	-	唇：隆帯による突起 口：原体押圧文 胴：LR横・斜	ナデ	中期中葉	III 3		167	158
601	II B4h III層	浅鉢	(16.2)	10.7	(5.4)	口：隆帯に原体押圧文 胴：RLR縦位	ミガキ	中期中葉	III 3		167	158
602	II B4o II層	浅鉢	-	<9.0>	-	口：縦位の原体押圧文 胴：沈線文、LR横?	ナデ	中期中葉	III 3		167	159
603	II B8s II層	浅鉢	-	<16.5>	-	口：沈線を伴う隆帯による区画、渦巻文、LR横 胴：LR縦	ミガキ	中期中葉	III 3	器面に タール状 の煤付着	167	159
604	II B7q I b層	浅鉢	-	<9.2>	-	口：隆沈線 胴：ミガキにより無文	ミガキ	中期中葉	III 3		167	159
605	II B8s II層	浅鉢	19.1	9.7	5.2	口：隆帯による渦巻文、沈線文、孔2箇所 胴：L横・縦	ナデ	中期中葉	III 3		168	159
606	II B5l II層	浅鉢	20.0	9.5	5.8	口：隆帯による渦巻文 胴：LR縦		中期中葉	III 3		168	159
607	II A2u II層	浅鉢	(21.2)	<6.2>	-	唇：隆帯 口：無文 胴：LR横	ミガキ	中期中葉	III 3		168	159
608	II B5n II層	深鉢	-	<15.9>	-	胴：原体押圧文を伴う隆帯、LR斜・縦	ナデ	中期中葉	III 5		168	159
609	II B5l II層	深鉢	-	<12.9>	-	口：隆帯による小波状文 胴：隆沈線による肋骨文、LR縦	ナデ	中期中葉	III 6		168	159
610	II B5n II層	深鉢	-	<11.9>	-	口：隆帯による小波状文 胴：隆沈線による肋骨文、LR斜・縦	ミガキ	中期中葉	III 6		168	159
611	II B12p II層	深鉢	-	<8.5>	-	口：隆帯による渦巻文、沈線文、LRL斜	ミガキ	中期中葉	III 4		168	160
612	II B5j II層	深鉢	-	<8.2>	-	口：隆沈線(渦巻文)、LRL横 胴：LRL縦	ミガキ	中期中葉	III 4		168	160
613	II B4g	深鉢	-	<9.3>	-	口：無文 頸：沈線文、刺突文 胴：沈線による渦巻文、RL縦	ミガキ	中期中葉	III 4		168	160
614	II B5b II層	深鉢	-	<15.8>	-	口：隆帯 胴：沈線文、RLR縦	ナデ	中期中葉	III 4		169	160
615	II A6y 攪乱中	深鉢	-	<8.1>	-	口：無文 頸：隆帯、刺突文 胴：隆沈線による区画帯、単軸絡糸体第1類	ナデ	中期中葉	III 4		169	160
616	II B5g II層	深鉢	-	<4.6>	-	口：無文 頸：隆帯、横位の円形刺突列(二段) 胴：単軸絡糸体第1類	ナデ(横位)	中期中葉	III 4		169	160
617	II B9t II層	深鉢	15.8	<18.6>	-	口：無文 頸：刺突文 胴：隆帯による渦巻文		中期中葉	III 4		169	160
618	II B5i III層	深鉢	(18.4)	<13.4>	-	口：無文 胴：隆帯(渦巻文?)、LR縦	ミガキ	中期中葉	III 4		169	160
619	II A3w III層	深鉢	(15.9)	<10.0>	-	口：無文 胴：隆沈線、RL縦	ナデ	中期中葉	III 4		169	160
620	II B5b II層	深鉢	(16.4)	20.5	(8.6)	口：波状 頸：平行沈線文 胴：沈線文、RLR縦	ミガキ	中期中葉	III 4		169	160
621	II B3f 攪乱中	深鉢	23.3	<15.6>	-	口～胴：RL縦	ナデ	中期中葉	III 4		169	160
622	II B5b II層	深鉢	(32.9)	<16.8>	-	口：波頂部に円孔を伴う突起、区画内に連続する円形刺突列 胴：隆沈線による渦巻文、RLR縦	ナデ(ヨコ)	中期中葉	III 4		169	161
623	II B5b II層	深鉢	-	<17.4>	-	口：波頂部に隆帯による渦巻文、区画内に連続する円形刺突列 胴：隆沈線による渦巻文、RLR縦		中期中葉	III 4		170	161
624	II B4g	深鉢	(28.2)	<19.6>	-	口：隆帯による渦巻文 胴：隆沈線、RLR縦	ナデ	中期中葉	III 4		170	161
625	II B5b III層	深鉢	-	<13.3>	-	口：突起部分にS字状の隆帯、RL横 胴：RL縦	ミガキ	中期中葉	III 4		170	161

3 検出遺構と出土遺物

No	出土地点・層位	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外面文様等	内面	時期	分類	備考	図版	写真
626	II B5i III層	深鉢	-	<13.5>	-	胴：沈線文(渦巻文)、LR縦	ミガキ	中期中葉	III 4	内面に煤 付着	170	161
627	II B5b III層	深鉢	-	<10.9>	-	胴：隆帯による渦巻文、LRL縦	ミガキ	中期中葉	III 4		170	161
628	II B3f 攪乱中	深鉢	-	<13.8>	7.0	胴：沈線による渦巻文、RL縦	ナデ	中期中葉	III 4		170	161
629	II B8u II 層	深鉢	-	<10.8>	-	頸：沈線文 胴：沈線文、RLR縦	ミガキ	中期中葉	III 4		170	161
630	II B8u II層	深鉢	-	<6.7>	-	口：隆沈線による渦巻文 頸：沈線文 胴：沈線文、RLR縦	ミガキ	中期中葉	III 4		171	161
631	II B5m II層	深鉢	-	<6.1>	-	口：隆帯による渦巻状の突起、LRL横	ミガキ	中期中葉	III 4		171	161
632	II B5h III層	小型 深鉢	(6.5)	6.4	3.5	口：無文 頸：円形刺突文 胴：沈線文、LR縦	ナデ	中期中葉	III 4		171	161
633	II B3d	深鉢	-	<7.1>	6.7	胴：隆沈線による区画、RLR縦	ナデ	中期中葉	III 4		171	161
634	II A3w III層	深鉢	-	<11.5>	5.9	胴：隆沈線による渦巻文、RL縦	ナデ	中期中葉	III 4		171	161
635	II B4b II層	深鉢	-	<6.4>	-	口：隆帯による渦巻を伴う突起	ミガキ、 内面に煤 付着	中期中葉	III 4		171	161
636	II B4i I b層	深鉢	-	<7.6>	-	付加条	ナデ	中期	III		171	162
637	II B5g II層	深鉢	-	<7.2>	-	口：無文 胴：単軸絡条体第1類無節R	ナデ	中期	III		171	162
638	II B9r II層	深鉢	-	<4.9>	(16.1)			中期	III	底部に文 様	171	162
639	II B7q II層	深鉢	(19.9)	29.3	9.0	LR横・縦	ナデ	中期	III		171	162
640	II B10u II層	深鉢	12.7	<15.3>	-	胴：LLR縦	ナデ	中期	III		172	162
641	II B3o II層	小型鉢	-	<4.5>	3.0	LR縦→結節回転	ナデ	中期	III		172	162
642	II B3o I b層	小型鉢	-	<4.6>	(3.9)	LR縦	ナデ	中期	III		172	162
643	II B4e	器台	(1.5)	<7.5>	7.8	台部に透かし	ナデ	中期	III		172	162
644	II B3e I b層	器台	-	<5.9>	(7.9)	台部に透かし	ナデ	中期	III		172	162
645	II B5f III層	器台	(6.6)	<2.7>	-		ミガキ	中期	III		172	162
646	II B5h III層	器台	(8.4)	<3.2>	-		ミガキ	中期	III		172	162
647	II B3e 攪乱中	器台	(21.2)	<3.0>	-	上面ミガキ	上面以外 はナデ	中期	III		172	162
648	II B5b 攪乱中	器台	20.1	<4.2>	-		ミガキ	中期	III		172	162
649	II B7q II層	鉢(木の 葉型)	21.0	5.3	8.5	皿形、孔1個、内外面ミガキ	ミガキ	中期?	III?		172	162
650	II B13p II層	深鉢	-	<1.6>	5.3	RL縦	ミガキ	晩期?	IV		172	162
651	II B4k III層	小型鉢	-	<6.2>	-	唇：刻目 胴：線刻、単軸絡条体第1類R縦	ナデ	不明			172	162

第8表 土師器・須恵器観察表

No	出土地点・層位	種類	器種	部位	器面調整			計測値(cm)			重量(g)	備考	図版	写真
					外面	内面	底部外面	口径	器高	底径				
246	30号竪穴建物 床面直上	土師器	坏	口～底	ミガキ	ミガキ、黒色処理	丸底、 ミガキ	11.9	4.3	-	134.5	底面に「×」 の刻線あり	126	131
247	30号竪穴建物 床面直上	土師器	坏	口～底	口～体上：ナデ 体下～底：ケズリ→ ナデ(縦)	ミガキ、黒色処理	ケズリ→ ナデ	11.1	3.3	-	121.2		126	131
248	30号竪穴建物 床面直上	土師器	ミニ チュア	口～底	口：一部ミガキ、体 部中段に段 体下～底：ケズリ→ ナデ	ミガキ、黒色処理	丸底、 ケズリ→ ナデ	5.6	2.6	-	18.1		126	131
249	30号竪穴建物 検出面～埋土	土師器	甕	胴～底	胴：ナデ(縦)、下部 は横	胴：ナデ(横)	木葉痕	-	<3.9>	8.7	131.8		126	131
250	30号竪穴建物 カマド袖土	土師器	甕	口～胴	口：ヨコナデ 胴：ナデ(縦)	口：ヨコナデ 胴：ナデ(横)		-	<14.1>	-	144.0		126	131
254	31号竪穴建物 床面	土師器	甕	口～胴	口：ヨコナデ→ハケ メ(縦) 胴：ミガキ	口：ハケメ(一部)→ ヨコナデ 胴：ナデ、ハケメ(横)		11.9	<15.7>	-	304.4	内面に煤付 着	127	132
255	31号竪穴建物 検出面	土師器	甕	胴～底	ハケメ(縦)→ミガキ	ナデ(縦)		-	<10.4>	7.8	177.4		127	132
261	32号竪穴建物 壁溝埋土	土師器	坏	口～体	ロクロナデ	ミガキ、黒色処理		(5.9)	<4.4>	-	14.2		128	132
262	32号竪穴建物 カマド崩落土	土師器	甕	口～胴	口：ヨコナデ 胴：ハケメ(斜)	口：ヨコナデ 胴：ハケメ(横)		(24.3)	<12.7>	-	135.7		128	132
263	33号竪穴建物 埋土	土師器	坏	口～底	ロクロナデ	ミガキ、黒色処理	回転糸切	(15.9)	5.6	7.7	60.9	外面口縁部 に煤付着	128	132
264	33号竪穴建物 床面	須恵器	坏	口～底	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切	14.4	4.5	6.5	158.7		128	132
265	33号竪穴建物 床面(カマド付近)	土師器	甕	口～胴	口：ヨコナデ 胴：ナデ(縦)	口：ヨコナデ 胴：ナデ→ミガキ(斜)		(14.3)	<10.5>	-	122.3		128	132
266	33号竪穴建物 床面(カマド付近)	須恵器	甕	胴	タタキメ→ロクロ ナデ	ロクロナデ		-	<12.9>	-	184.9		128	132
268	34号竪穴建物 床面(カマド付近)	土師器	坏	口～底	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切	14.2	4.8	6.3	102.8		128	132
269	34号竪穴建物 埋土	須恵器	坏	口～底	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切	14.2	4.5	6.0	50.1		128	132
271	35号竪穴建物	土師器	甕	口～底	口：ヨコナデ 胴：ナデ(縦)	口：ヨコナデ 胴：ナデ(横)	ナデ→ 摩滅	15.3	16.3	7.2	646.7		129	133
272	35号竪穴建物	土師器	甕	口～胴	口：ヨコナデ 胴：ナデ(縦)	口：ヨコナデ 胴：ナデ(横)		(15.0)	<15.4>	-	80.5		129	133
273	35号竪穴建物 カマド内	土師器	甕	口～底	口：ヨコナデ 胴：ナデ(横)	口：ヨコナデ 胴：ナデ(横)	木葉痕	(16.9)	23.8	10.0	715.7		129	133
274	35号竪穴建物 カマド内	土師器	甕	口～胴	口：ヨコナデ 胴：ナデ(縦)	口：ヨコナデ→ナデ (斜) 胴：ナデ(横)		(9.5)	<11.2>	-	81.5		129	133
275	36号竪穴建物 床面	土師器	坏	口～底	ロクロナデ	ミガキ、黒色処理	回転糸切	14.5	5.1	5.4	195.4		129	133
276	36号竪穴建物 カマド	土師器	坏	口～底	ロクロナデ	ミガキ、黒色処理	ケズリ (再調整)	14.5	5.8	(5.2)	65.3		129	133
277	36号竪穴建物 カマド煙道部底面	土師器	甕	口～胴	口：ヨコナデ 胴：ナデ(斜・粗)	口：ヨコナデ 胴：ナデ(横)		(19.2)	<9.8>	-	116.2		129	133
278	36号竪穴建物 カマド煙道部底面	土師器	甕	口～胴	口：ヨコナデ 胴：ナデ(縦)	口：ヨコナデ 胴：ハケメ(横)		(23.0)	<15.5>	-	270.4		130	133
279	36号竪穴建物 床面	土師器	甕	口～胴	口：ヨコナデ 胴：ナデ(横)	口：ヨコナデ 胴：ハケメ(横)、ナ デ(横)		21.4	<30.6>	-	1409.2		130	133
280	36号竪穴建物 カマド内	土師器	甕	口～胴	口：ヨコナデ 胴：ナデ(縦)	口：ヨコナデ 胴：ハケメ(斜)		22.5	<24.7>	-	607.2		130	134
281	36号竪穴建物 カマド内	土師器	甕	口～胴	口：ヨコナデ 胴：ナデ(縦)	口：ヨコナデ 胴：ハケメ(横)、ナ デ(横)		21.5	<22.8>	-	1111.7		130	134
282	36号竪穴建物 埋土	土師器	甕	胴～底	口：ヨコナデ 胴：ナデ(縦)	口：ヨコナデ 胴：ハケメ(横)		-	<21.1>	-	214.3		130	134
283	36号竪穴建物 埋土下位	須恵器	甕	口	ロクロナデ	ロクロナデ		-	<10.7>	-	373.3		131	134
872	調査区内 攪乱中	須恵器	甕	口～胴	口：ロクロナデ 胴：タタキメ?	口：ロクロナデ		-	<4.8>	-	63.9	器面に刻書 文字あり	191	176

3 検出遺構と出土遺物

第9表 石器観察表

No	出土地点・層位	器種	計測値(cm)			重量(g)	石質	備考	形態分類	図版	写真
			長さ	幅	厚さ						
5	1号竪穴建物 炉石	石皿	<29.1>	<30.9>	<3.8>	1099.4	流紋岩 新生代古代三紀 浄土ヶ浜・松山・立丸峠	炉石		90	106
6	2号竪穴建物 埋土	磨石類	15.5	8.4	6.5	1103.9	流紋岩 新生代古代三紀 浄土ヶ浜・松山・立丸峠	一部凹あり	IVC2	91	106
37	5号竪穴建物 埋土	スクレイパー	5.6	3.7	1.0	16.34	頁岩 中生代 北上山地			95	109
38	5号竪穴建物 埋土	磨石類	<7.3>	<7.1>	3.7	268.2	花崗岩 中生代白亜紀 北上山地	半分欠損	C	95	109
39	5号竪穴建物 埋土	磨石類	10.8	6.7	3.4	362.9	花崗岩 中生代白亜紀 北上山地		II A2	95	109
40	5号竪穴建物 埋土	磨石類	13.0	9.6	5.9	1039.8	花崗岩 中生代白亜紀 北上山地		I A1	95	110
41	5号竪穴建物 埋土	磨石類	17.3	7.1	6.4	1106.4	花崗閃緑岩 中生代白亜紀 北上山地		III C1	96	110
42	5号竪穴建物 埋土	石皿	<15.3>	<14.3>	<4.6>	1309.2	砂岩 中生代白亜紀 宮古層群	一部のみ		96	110
43	5号竪穴建物 埋土	台石	<16.8>	<19.7>	<8.2>	3792.7	溶結凝灰岩 中生代白亜紀 原地山層	磨面あり		96	110
54	8号竪穴建物 埋土上位	磨石類	11.7	6.7	5.2	596.6	花崗岩 中生代白亜紀 北上山地		II A1	97	111
55	8号竪穴建物 埋土上位	磨石類	10.0	6.9	4.6	438.4	花崗岩 中生代白亜紀 北上山地		I B1	97	111
56	8号竪穴建物 埋土	磨石類	15.3	6.2	2.8	375.9	砂岩 中生代 北上山地		IVC3	98	111
57	8号竪穴建物 埋土	石棒	<33.2>	<11.2>	10.4	5393.9	デイスaito 中生代白亜紀 北上山地	両端欠損		98	111
58	8号竪穴建物 埋土上位	石棒	<13.6>	<8.4>	<7.8>	1159.6	砂岩 中生代白亜紀 宮古層群	両端欠損		98	111
60	9号竪穴建物 埋土	磨製石斧	<12.7>	5.2	3.0	306.9	凝灰岩砂岩 北上山地 原地山層 中生代白亜紀	刃部欠損		99	112
61	9号竪穴建物 埋土	石皿	<17.0>	<16.3>	<2.3>	710.1	流紋岩 新生代古第三紀 浄土ヶ浜・松山・立丸峠			99	112
69	10号竪穴建物	スクレイパー	5.8	3.0	1.1	18.78	玉随 中生代 北上山地			100	113
70	10号竪穴建物 埋土	磨製石斧	<12.3>	5.9	3.3	370.7	細粒閃緑岩 中生代白亜紀 北上山地			100	113
71	10号竪穴建物 床面	磨石類	33.5	7.6	6.8	2123.6	流紋岩 新生代古第三紀 浄土ヶ浜・松山・立丸峠		III C3	100	113
72	10号竪穴建物 埋土	石皿	<13.8>	<22.8>	<6.0>	1247.3	安山岩 新生代新第三紀 奥羽山脈			101	113
73	10号竪穴建物 床面	砥石	30.1	32.4	5.0	6021.4	砂岩 中生代白亜紀 宮古層群			101	113
98	11号竪穴建物 埋土	石鏃	<3.2>	1.4	0.5	2.11	頁岩 中生代 北上山地		II C	106	117
99	11号竪穴建物 埋土	磨製石斧	<4.9>	3.9	1.7	57.8	蛇紋岩 古生代オルドビス紀 早池峰山周辺			106	117
100	11号竪穴建物 埋土	磨石類	10.1	6.9	4.0	355.2	流紋岩 新生代古第三紀 浄土ヶ浜・松山・立丸峠		I A1	106	117
101	11号竪穴建物 埋土	磨石類	12.9	7.2	4.2	583.7	花崗岩 中生代白亜紀 北上山地		II C1	106	117
102	11号竪穴建物 埋土	磨石類	12.5	7.6	4.5	662.2	花崗岩 中生代白亜紀 北上山地		II B1	106	117
103	11号竪穴建物 埋土	磨石類	<15.8>	8.5	4.3	772.1	流紋岩 新生代古第三紀 浄土ヶ浜・松山・立丸峠		II B3	106	117
104	11号竪穴建物 埋土	磨石類	12.7	9.4	5.9	1006.2	花崗岩 中生代白亜紀 北上山地		I A1	106	117
105	11号竪穴建物 床面	石皿	<35.0>	<29.3>	11.5	18300.0	花崗岩 中生代白亜紀 北上山地			107	117
114	13号竪穴建物 埋土	石鏃	2.6	1.5	0.5	1.12	頁岩 中生代 北上山地		I B	109	119
115	13号竪穴建物 埋土	磨石類	12.4	8.0	5.7	825.6	花崗岩 中生代白亜紀 北上山地		II A1	109	119
116	13号竪穴建物 埋土	磨石類	<8.9>	<7.6>	2.5	296.4	細粒はんれい岩 中生代白亜紀 北上山地	一部のみ	C4	109	119
117	13号竪穴建物 埋土	磨石類	<14.4>	8.0	6.3	769.8	流紋岩 新生代古第三紀 浄土ヶ浜・松山・立丸峠	一部欠損	VC3	109	119
118	13号竪穴建物 埋土	磨石類	16.6	7.9	3.2	727.1	花崗閃緑岩 中生代白亜紀 北上山地		VC3	109	119
119	13号竪穴建物 埋土	磨石類	13.1	10.1	6.4	1266.9	溶結凝灰岩 中生代白亜紀 原地山層		I B1	109	119
120	13号竪穴建物 埋土	磨石類	11.1	8.0	5.5	710.4	花崗岩 中生代白亜紀 北上山地		I A1	109	119
121	13号竪穴建物 埋土	磨石類	7.1	6.3	2.6	167.4	花崗岩 中生代白亜紀 北上山地		I B1	110	119
122	13号竪穴建物 埋土	磨石類	14.1	9.3	5.9	1126.4	溶結凝灰岩 中生代白亜紀 原地山層		II B2	110	119
123	13号竪穴建物 埋土	磨石類	14.2	7.5	5.6	904.2	凝灰質礫岩 中生代白亜紀 原地山層		II B2	110	120
124	13号竪穴建物 埋土	磨石類	7.7	5.1	3.8	70.2	軽石 新生代新第四紀 十和田火山		V A1	110	120

No	出土地点・層位	器種	計測値(cm)			重量(g)	石質	備考	形態分類	図版	写真
			長さ	幅	厚さ						
125	13号竪穴建物埋土	砥石	<5.9>	<4.8>	<2.1>	40.0	凝灰岩 新生代古第三紀 北上山地			110	120
126	13号竪穴建物埋土	台石	<38.3>	<10.7>	<1.7>	1261.2	流紋岩 新生代古第三紀 浄土ヶ浜・松山・立丸峠			110	120
127	13号竪穴建物埋土	石刀類	<20.8>	4.0	1.4	184.2	蛇紋岩 古生代オルドビス紀 早池峰山周辺			110	120
131	15号竪穴建物炉石	磨石類	<13.0>	6.0	3.6	435.6	細粒閃緑岩 中生代白亜紀 北上山地		IVC4	111	120
143	17号竪穴建物埋土	石鏃	3.3	1.3	0.6	2.0	頁岩 中生代 北上山地		II C	112	121
144	17号竪穴建物埋土	磨製石斧	<3.9>	1.8	0.9	10.9	蛇紋岩 古生代オルドビス紀 早池峰山周辺			112	121
145	17号竪穴建物P1埋土	磨石類	13.8	6.0	2.6	313.5	砂岩 中生代 北上山地		IVC3	112	121
146	17号竪穴建物埋土	磨石類	12.4	9.4	4.7	793.7	デイサイト 中生代白亜紀 北上山地		VC1	112	121
147	17号竪穴建物埋土	磨石類	12.6	7.9	4.5	646.5	花崗岩 中生代白亜紀 北上山地		II A1	112	121
148	17号竪穴建物埋土	磨石類	7.6	7.2	2.8	226.3	花崗岩 中生代白亜紀 北上山地		I B1	112	121
150	19号竪穴建物埋土	石皿	<21.0>	<11.3>	<6.4>	1847.7	流紋岩 新生代古第三紀 浄土ヶ浜・松山・立丸峠		II	113	122
158	21号竪穴建物炉石	石棒	<7.7>	<10.6>	<5.4>	427.9	デイサイト 新生代古第三紀 北上山地	石棒→炉石に転用		113	122
171	22号竪穴建物埋土	石鏃	2.4	1.5	0.4	1.16	頁岩 中生代 北上山地		I B	116	124
172	22号竪穴建物床面	石鏃	<3.2>	1.7	0.7	1.42	凝灰岩 中生代 北上山地		I C	116	124
173	22号竪穴建物	磨石類	11.5	9.1	5.7	868.9	花崗岩 中生代白亜紀 北上山地		I A1	116	124
174	22号竪穴建物	磨石類	14.5	8.3	5.1	916.8	花崗岩 中生代白亜紀 北上山地		II B4	116	124
175	22号竪穴建物埋土下位	磨石類	12.3	5.3	3.8	393.5	溶結凝灰岩 中生代白亜紀 原地山層		III A1	116	124
176	22号竪穴建物埋土下位	磨石類	13.7	7.6	4.2	674.2	花崗岩 中生代白亜紀 北上山地		II B1	116	124
177	22号竪穴建物	台石	29.2	23.4	11.2	11500.0	花崗岩 中生代白亜紀 北上山地			116	125
178	22号竪穴建物	石皿	<30.8>	<43.1>	<3.0>	5493.0	凝灰岩 新生代古第三紀 北上山地		I	117	124
179	22号竪穴建物	石皿	<22.6>	<17.6>	<4.0>	2456.0	流紋岩 新生代古第三紀 浄土ヶ浜・松山・立丸峠		I	117	125
180	22号竪穴建物	石皿	<38.4>	<29.7>	<28.5>	21000.0	花崗閃緑岩 中生代白亜紀 北上山地		II	117	125
186	23号竪穴建物炉石	石皿	<20.9>	<22.7>	<4.5>	3125.7	流紋岩 新生代古第三紀 浄土ヶ浜・松山・立丸峠		I	118	125
218	28号竪穴建物埋土下位	石鏃	<1.8>	1.4	0.5	0.58	頁岩 中生代 北上山地		I A	123	130
219	28号竪穴建物埋土下位	石鏃	2.0	1.6	0.5	0.90	頁岩 中生代 北上山地		I A	123	130
220	28号竪穴建物埋土下位	石鏃	2.8	1.4	0.5	1.82	頁岩 中生代 北上山地		I B	123	130
221	28号竪穴建物埋土上位	石鏃	2.2	1.2	0.4	1.00	頁岩 中生代 北上山地			123	130
222	28号竪穴建物埋土上位	スクレイパー	4.8	2.8	1.4	18.97	頁岩 中生代 北上山地			124	130
223	28号竪穴建物埋土下位	磨製石斧	8.6	4.5	1.6	110.4	蛇紋岩 古生代オルドビス紀 早池峰山周辺			124	130
224	28号竪穴建物埋土下位	磨製石斧	11.3	4.4	2.4	205.6	玢岩 中生代白亜紀 北上山地			124	130
225	28号竪穴建物埋土上位	磨製石斧	13.6	5.2	3.0	365.1	細粒閃緑岩 中生代白亜紀 北上山地			124	130
226	28号竪穴建物埋土上位	磨石類	8.2	7.2	3.0	257.8	花崗岩 中生代白亜紀 北上山地		I A1	124	130
227	28号竪穴建物埋土上位	磨石類	<9.4>	7.5	4.2	438.5	流紋岩 新生代古第三紀 浄土ヶ浜・松山・立丸峠		II D2	124	130
228	28号竪穴建物埋土上位	磨石類	<12.4>	6.9	3.5	435.3	砂岩 中生代 北上山地	刃部欠損	VIC3	124	130
229	28号竪穴建物埋土上位	磨石類	14.7	8.0	3.2	532.2	細粒花崗閃緑岩 中生代白亜紀 北上山地		IVC3	124	130
230	28号竪穴建物埋土上位	石皿	<9.3>	<8.1>	3.3	157.6	安山岩 新生代第四紀 岩手山			124	130
231	28号竪穴建物埋土上位	石皿	<10.6>	<12.2>	<5.5>	900.5	流紋岩 新生代古第三紀 浄土ヶ浜・松山・立丸峠		II	125	130
232	28号竪穴建物埋土下位	石皿	<62.2>	28.6	8.6	17500.0	流紋岩 新生代古第三紀 浄土ヶ浜・松山・立丸峠		I	125	130
241	29号竪穴建物埋土中位	石鏃	<3.5>	1.8	0.6	3.3	頁岩 中生代 北上山地		I A	126	131
242	29号竪穴建物埋土下位	石鏃	2.8	1.7	0.4	1.21	頁岩 中生代 北上山地		I A	126	131
243	29号竪穴建物埋土下位	石匙	5.7	2.8	0.9	8.95	頁岩 中生代 北上山地			126	131

3 検出遺構と出土遺物

No	出土地点・層位	器種	計測値(cm)			重量(g)	石質	備考	形態分類	図版	写真
			長さ	幅	厚さ						
244	29号竪穴建物埋土	石錐	<4.5>	1.5	0.7	3.88	頁岩 中生代 北上山地			126	131
251	30号竪穴建物埋土	磨石類	12.4	8.4	5.6	894.3	溶結凝灰岩 中生代白亜紀 原地山層		I B2	127	131
252	30号竪穴建物埋土	磨石類	11.0	8.5	5.0	639.2	デイサイト 新生代古第三紀 北上山地		I B1	127	131
259	31号竪穴建物P2埋土	石鏃	<1.4>	1.3	0.3	0.34	頁岩 中生代 北上山地	基部にアスファルト付着	I A	127	132
260	31号竪穴建物P1埋土	スクレイパー	3.7	2.9	0.7	7.30	頁岩 中生代 北上山地			127	132
267	33号竪穴建物埋土	磨石類	13.2	8.5	4.8	790.3	花崗岩 中生代白亜紀 北上山地		II B1	128	132
288	36号竪穴建物埋土	石核	6.5	3.8	1.3	48.66	頁岩 中生代 北上山地			131	134
289	36号竪穴建物埋土	石核	7.2	6.2	3.3	120.47	頁岩 中生代 北上山地			131	134
290	36号竪穴建物床面	石皿	<22.4>	<20.8>	<6.5>	3285.4	流紋岩 新生代古第三紀 浄土ヶ浜・松山・立丸峠		I	131	134
291	36号竪穴建物埋土	石棒	<5.9>	<3.4>	<2.8>	52.7	砂岩 中生代白亜紀 宮古層群	先端部のみ		131	134
296	39号竪穴建物埋土	磨石類	<7.9>	<7.0>	2.1	1535.6	ヒン岩 中生代白亜紀 北上山地	一部のみ		132	135
297	39号竪穴建物埋土	磨石類	13.5	6.8	4.0	558.3	凝灰質礫岩 中生代白亜紀 原地山層		IV C2	132	135
303	1号炉内	石鏃	<2.2>	<1.4>	0.4	0.62	頁岩 中生代 北上山地		I A	133	135
304	1号炉内	石鏃	1.9	1.2	0.3	0.35	頁岩 中生代 北上山地		I A	133	135
305	1号炉内	石匙	7.4	3.1	1.0	19.48	頁岩 中生代 北上山地			133	135
311	5号土坑埋土	石匙	5.2	3.0	0.7	8.74	頁岩 中生代 北上山地			134	136
312	5号土坑埋土	磨製石斧	<3.7>	2.1	1.3	15.9	蛇紋岩 古生代オルドビス紀 早池峰山周辺			134	136
313	6号土坑埋土	磨石類	<10.8>	7.2	3.2	369.4	細粒閃緑岩 中生代白亜紀 北上山地		IV C3	134	136
316	14号土坑埋土	磨石類	11.0	6.9	4.7	509.5	花崗岩 中生代白亜紀 北上山地		II A2	134	136
335	25号土坑埋土	石鏃	<2.0>	1.5	0.3	0.58	頁岩 中生代 北上山地		I A	136	138
336	25号土坑埋土	石棒・石剣?	<3.7>	2.3	1.5	20.2	頁岩 中生代 北上山地	一部のみ		136	138
341	26号土坑埋土	石鏃	2.6	1.4	0.2	0.61	頁岩 中生代 北上山地		I A	137	138
347	27号土坑埋土	石皿	26.1	18.0	4.4	3093.8	流紋岩 新生代古第三紀 浄土ヶ浜・松山・立丸峠	磨面あり	I	138	138
358	35号土坑埋土	磨石類	16.0	7.3	4.1	654.9	流紋岩 新生代古第三紀 浄土ヶ浜・松山・立丸峠		III C3	139	139
367	38号土坑埋土	磨石類	15.7	6.6	4.0	569.1	流紋岩 新生代古第三紀 浄土ヶ浜・松山・立丸峠		III C4	140	140
374	39号土坑埋土	石匙	5.6	2.7	1.2	14.69	頁岩 中生代 北上山地			140	140
380	41号土坑埋土	石鏃	<4.0>	1.8	0.5	2.69	頁岩 中生代 北上山地		I A	141	140
388	45号土坑埋土	石錐	3.1	1.8	0.5	2.01	頁岩 中生代 北上山地			142	141
389	45号土坑埋土	石棒	<5.0>	2.6	2.6	43.4	砂岩 中生代 北上山地	一部のみ		142	141
397	49号土坑埋土	磨石類	30.6	10.3	7.3	3437.6	珩岩 中生代白亜紀 北上山地		VC1	143	142
416	54号土坑埋土	石錐	4.3	2.3	0.7	5.19	頁岩 中生代 北上山地			146	144
417	54号土坑埋土	スクレイパー	4.6	2.4	0.7	7.89	頁岩 中生代 北上山地			146	144
419	55号土坑埋土	磨石類	12.4	8.6	4.8	753.4	花崗岩 中生代白亜紀 北上山地		I A1	146	144
422	57号土坑埋土	半円状扁平打製石器	12.5	8.0	3.4	494.7	細粒閃緑岩 中生代白亜紀 北上山地			146	144
429	63号土坑埋土	磨石類	8.4	7.2	4.2	360.2	花崗岩 中生代白亜紀 北上山地		I A1	147	144
430	63号土坑埋土	磨石類	16.0	7.5	3.9	736.4	流紋岩 新生代古第三紀 浄土ヶ浜・松山・立丸峠		III C1	147	144
438	2号陥し穴状遺構埋土	磨石類	9.0	5.5	2.8	213.7	花崗岩 中生代白亜紀 北上山地		II B1	148	145
439	7号陥し穴状遺構埋土	磨石類	9.2	8.1	3.7	411.2	花崗閃緑岩 中生代白亜紀 北上山地		I C1	148	145
447	1号墓壇埋土	磨石類	16.2	7.8	5.8	968.2	流紋岩 新生代古第三紀 浄土ヶ浜・松山・立丸峠		IV C2	149	146
454	P54埋土	磨石類	6.6	6.2	3.0	170.9	花崗岩 中生代白亜紀 北上山地		I B1	150	146
456	P76埋土	磨石類	11.7	8.4	5.4	770.6	花崗岩 中生代白亜紀 北上山地		I A1	150	146

No	出土地点・層位	器種	計測値 (cm)			重量 (g)	石質	備考	形態分類	図版	写真
			長さ	幅	厚さ						
457	P115 埋土	磨石類	17.2	6.8	2.0	407.1	デイスайト 中生代白亜紀 原地山層		ⅢB4	150	146
458	P129 埋土	磨製石斧	10.9	5.3	1.7	180.7	頁岩 中生代 北上山地			150	146
652	ⅡB3d Ⅱ層	石鏃	<2.4>	1.8	0.4	0.96	頁岩 中生代 北上山地	基部にアスファルト付着	I A	173	163
653	ⅡB5l 攪乱中	石鏃	1.6	1.3	0.3	0.38	頁岩 中生代 北上山地		I A	173	163
654	ⅡB6o Ⅱ層	石鏃	<2.0>	<1.3>	0.4	0.51	頁岩 中生代 北上山地		I A	173	163
655	ⅡB6g Ⅱ層	石鏃	<3.2>	1.9	0.6	2.13	頁岩 中生代 北上山地		I A	173	163
656	ⅡB5c Ⅲ層	石鏃	3.3	1.8	0.4	1.62	凝灰岩 中生代 北上山地		I A	173	163
657	ⅡB5d Ⅱ層	石鏃	<3.2>	1.9	0.7	4.07	頁岩 中生代 北上山地		I A	173	163
658	ⅡB12p Ⅱ層	石鏃	4.1	2.1	0.6	4.33	頁岩 中生代 北上山地		I A	173	163
659	ⅡB5p Ⅱ層	石鏃	3.3	2.1	0.7	3.62	頁岩 中生代 北上山地		I A	173	163
660	ⅡB5m Ⅱ層	石鏃	3.1	1.9	0.4	1.93	頁岩 中生代 北上山地		I A	173	163
661	ⅡA5v Ⅱ層	石鏃	3.5	2.0	0.5	2.46	頁岩 中生代 北上山地		I A	173	163
662	ⅡB4e 攪乱中	石鏃	2.4	1.6	0.5	1.71	頁岩 中生代 北上山地		I A	173	163
663	ⅡB4h Ⅱ層	石鏃	2.8	1.4	0.4	1.05	頁岩 中生代 北上山地		I A	173	163
664	ⅡB6o Ⅱ層	石鏃	3.7	1.8	0.5	2.02	頁岩 中生代 北上山地		I A	173	163
665	ⅡB6s Ⅱ層	石鏃	<3.5>	1.7	0.4	1.73	頁岩 中生代 北上山地		I A	173	163
666	ⅡB6u Ⅱ層	石鏃	3.2	1.8	0.5	2.02	頁岩 中生代 北上山地		I A	173	163
667	ⅡB6n Ⅱ層	石鏃	3.0	1.6	0.6	1.94	頁岩 中生代 北上山地		I A	173	163
668	ⅡB7q I b層	石鏃	2.6	1.4	0.4	0.97	頁岩 中生代 北上山地		I A	173	163
669	ⅡB7t Ⅱ層	石鏃	2.3	<1.7>	0.4	1.34	頁岩 中生代 北上山地		I A	173	163
670	ⅡB8r Ⅱ層	石鏃	2.6	1.6	0.4	1.25	頁岩 中生代 北上山地		I A	173	163
671	ⅡB7l 攪乱中	石鏃	2.1	1.6	0.2	0.81	頁岩 中生代 北上山地		I A	173	163
672	ⅡB9v Ⅱ層	石鏃	3.0	1.8	0.4	1.85	頁岩 中生代 北上山地		I A	173	163
673	調査区内	石鏃	<2.6>	1.8	0.6	2.08	頁岩 中生代 北上山地		I A	173	163
674	ⅡB10u Ⅱ層	石鏃	<3.7>	1.8	0.5	2.87	頁岩 中生代 北上山地		I A	173	163
675	ⅡB11y Ⅱ層	石鏃	2.5	<1.7>	0.3	1.00	頁岩 中生代 北上山地		I A	173	163
676	ⅡB3e I b層	石鏃	<2.5>	1.7	0.5	2.09	頁岩 中生代 北上山地		I B	174	164
677	ⅡB4l Ⅱ層	石鏃	3.1	1.5	0.4	1.37	頁岩 中生代 北上山地		I B	174	164
678	ⅡB5d	石鏃	4.0	1.9	0.7	4.30	頁岩 中生代 北上山地		I B	174	164
679	ⅡB5m Ⅱ層	石鏃	2.0	1.5	0.5	0.90	頁岩 中生代 北上山地		I B	174	164
680	ⅡB6p Ⅱ層	石鏃	2.1	1.3	0.4	0.90	頁岩 中生代 北上山地		I B	174	164
681	ⅡB7t Ⅱ層	石鏃	<1.8>	1.7	0.5	1.02	頁岩 中生代 北上山地		I B	174	164
682	ⅡB8r Ⅱ層	石鏃	3.0	1.6	0.5	2.02	頁岩 中生代 北上山地		I B	174	164
683	ⅡB9q Ⅱc層	石鏃	1.9	1.7	0.5	1.26	頁岩 中生代 北上山地		I B	174	164
684	ⅡB13s Ⅲ層	石鏃	2.0	1.8	0.5	1.19	頁岩 中生代 北上山地		I B	174	164
685	ⅡB12p Ⅱ層	石鏃	4.8	3.2	1.0	15.92	頁岩 中生代 北上山地		I B	174	164
686	ⅡB8s Ⅱ層	石鏃	<2.9>	1.8	0.5	1.93	頁岩 中生代 北上山地		I B	174	164
687	ⅡB6p Ⅱ層	石鏃	2.9	1.8	0.7	3.64	頁岩 中生代 北上山地		I B	174	164
688	ⅡA4y I b層	石鏃	<3.1>	<1.6>	0.4	1.49	頁岩 中生代 北上山地		I C	174	164
689	ⅡB11p Ⅱ層	石鏃	3.4	1.9	0.4	2.19	頁岩 中生代 北上山地		I C	174	164
690	ⅡB12r Ⅱc層	石鏃	<2.8>	1.6	0.6	2.52	頁岩 中生代 北上山地		I C	174	164

3 検出遺構と出土遺物

No	出土地点・層位	器種	計測値(cm)			重量(g)	石質	備考	形態分類	図版	写真
			長さ	幅	厚さ						
691	II B4f III層	石鏃	<2.8>	1.5	0.5	1.43	頁岩 中生代 北上山地		II C	174	164
692	II B5d	石鏃	<1.7>	1.2	0.4	0.73	頁岩 中生代 北上山地		II C	174	164
693	II B3d 埋土	石鏃	3.7	1.3	0.8	2.88	頁岩 中生代 北上山地		I	174	164
694	II B6p II層	石鏃	6.2	2.5	1.1	15.35	頁岩 中生代 北上山地		I	174	164
695	II B7t II層	石鏃	<3.4>	<2.9>	0.6	4.09	赤色頁岩 中生代 北上山地		I	174	164
696	II B6o II層	石鏃	3.2	2.6	0.7	5.04	頁岩 中生代 北上山地		I	174	164
697	II B4e	石鏃	4.3	1.7	1.1	7.24	頁岩 中生代 北上山地		II	174	164
698	II B5m II層	石鏃	2.2	1.0	0.6	1.44	頁岩 中生代 北上山地		II	174	164
699	II B4g	石鏃	2.3	1.1	0.2	0.48	頁岩 中生代 北上山地		II	174	164
700	II B5m II層	石匙	9.6	3.0	1.4	35.72	頁岩 中生代 北上山地	尖頭器か?	I	175	165
701	II B4k II層	石匙	4.5	2.4	0.7	6.97	頁岩 中生代 北上山地		I	175	165
702	II B3p I b層	石匙	6.3	1.8	0.6	5.23	頁岩 中生代 北上山地		I	175	165
703	II B8r II層	石匙	4.4	1.8	1.0	7.41	頁岩 中生代 北上山地		I	175	165
704	II B5m II層	石匙	<3.3>	2.2	0.7	5.79	頁岩 中生代 北上山地	刃部欠損	I	175	165
705	II B12q II層	石匙	5.4	2.3	0.8	7.92	頁岩 中生代 北上山地		I	175	165
706	II B7p II層	石匙	4.4	2.5	0.6	6.32	頁岩 中生代 北上山地		I	175	165
707	II B9r I b層	石匙	7.0	3.2	1.3	28.29	頁岩 中生代 北上山地		I	175	165
708	II B8r II層	石匙	5.9	3.2	0.9	15.52	頁岩 中生代 北上山地		I	175	165
709	II B12s I c層	石匙	4.9	2.6	1.0	11.21	頁岩 中生代 北上山地		I	175	165
710	II B II層	石匙	4.8	<1.8>	0.9	6.30	頁岩 中生代 北上山地	片側欠損	I	175	165
711	II B5l III層	石匙	4.2	3.3	0.9	9.68	頁岩 中生代 北上山地		III	175	165
712	II B12g II層	石匙	<5.7>	<2.4>	0.6	8.49	頁岩 中生代 北上山地		III	175	165
713	II B8r III層	石匙	5.2	4.1	0.9	15.08	頁岩 中生代 北上山地		III	175	165
714	II B12s II層	石匙	4.3	3.3	0.9	8.99	頁岩 中生代 北上山地		III	175	165
715	II B5i III層	石匙	3.6	4.7	1.1	12.22	頁岩 中生代 北上山地	摘まり部先端欠損	II	175	165
716	II B10t II層	石筥	7.8	3.2	1.6	45.92	頁岩 中生代 北上山地			176	165
717	II B8r III層	スクレイパー	4.8	5.0	1.3	20.64	頁岩 中生代 北上山地			176	165
718	II B8u II層	スクレイパー	7.0	2.0	1.1	11.80	頁岩 中生代 北上山地			176	165
719	II B5k II層	スクレイパー	<2.7>	3.0	0.9	6.67	頁岩 中生代 北上山地			176	165
720	II B13r II層	スクレイパー	7.2	3.4	1.7	26.47	頁岩 中生代 北上山地			176	166
721	II B9t II層	スクレイパー	<4.2>	4.5	1.1	21.32	頁岩 中生代 北上山地			176	166
722	II B9t II層	スクレイパー	5.1	5.4	1.4	30.39	頁岩 中生代 北上山地			176	166
723	II B4g II層	石核	3.3	8.0	1.7	58.47	頁岩 中生代 北上山地			176	166
724	II B5n II層	石核	9.1	5.8	3.7	245.91	頁岩 中生代 北上山地			176	166
725	II B7r II層	石核	14.1	10.2	5.0	906.88	細粒閃緑岩 中生代白亜紀 北上山地			176	166
726	II B2o I b層	磨製石斧	<8.8>	5.3	2.6	207.9	玢岩 中生代白亜紀 北上山地			177	166
727	II A4y 攪乱中	磨製石斧	<10.8>	4.7	2.5	232.4	玢岩 中生代白亜紀 北上山地	刃部欠損		177	166
728	II A5x II層	磨製石斧	<9.1>	4.7	1.9	143.2	細粒閃緑岩 中生代白亜紀 北上山地	刃部欠損		177	166
729	II B3e III層	磨製石斧	<8.9>	<4.5>	2.2	132.6	蛇紋岩 古生代オルドビス紀 早池峰山周辺			177	166
730	II B3e 攪乱中	磨製石斧	8.5	3.9	<2.0>	103.2	細粒花崗閃緑岩 中生代白亜紀 北上山地			177	167
731	II B3o II層	磨製石斧	7.5	3.5	1.2	48.1	蛇紋岩 古生代オルドビス紀 早池峰山周辺			177	167

No	出土地点・層位	器種	計測値(cm)			重量(g)	石質	備考	形態分類	図版	写真
			長さ	幅	厚さ						
732	II B5j III層	磨製石斧	7.5	4.6	1.5	81.8	蛇紋岩 古生代オルドビス紀 早池峰山周辺	基部再加工		177	167
733	II B5h III層	磨製石斧	10.9	<4.9>	2.6	200.0	蛇紋岩 古生代オルドビス紀 早池峰山周辺			177	167
734	II B6l II層	磨製石斧	<8.7>	4.0	2.6	128.5	頁岩 中生代 北上山地	未製品		177	167
735	II B7k 攪乱中	磨製石斧	9.8	<4.6>	2.1	176.4	細粒閃緑岩 中生代白亜紀 北上山地			178	167
736	II B9t II層	磨製石斧	11.4	<4.6>	2.7	225.1	蛇紋岩 古生代オルドビス紀 早池峰山周辺	再加工品		178	167
737	II B8d II層	磨製石斧	5.7	3.9	1.1	44.7	蛇紋岩 古生代オルドビス紀 早池峰山周辺			178	167
738	II B5h II層	磨製石斧	<6.9>	4.1	2.1	104.0	蛇紋岩 古生代オルドビス紀 早池峰山周辺			178	167
739	II B10q II層	磨製石斧	<7.7>	4.1	1.8	97.3	蛇紋岩 古生代オルドビス紀 早池峰山周辺			178	167
740	II B7e 攪乱中	磨製石斧	5.1	2.6	1.0	23.4	頁岩 中生代 北上山地			178	167
741	II B10q II層	磨製石斧	<4.6>	2.1	0.9	15.0	蛇紋岩 古生代オルドビス紀 早池峰山周辺			178	167
742	II B10s II層	磨製石斧	<4.9>	<2.0>	<0.6>	5.9	頁岩 中生代 北上山地			178	167
743	II B4j II層	磨製石斧	<4.6>	1.4	0.7	7.2	頁岩 中生代 北上山地			178	167
744	II B5c III層	磨石類	10.8	8.0	6.8	870.9	溶結凝灰岩 中生代白亜紀 原地山層		I A1	178	168
745	II B12r IIc層	磨石類	6.0	5.1	5.2	217.4	花崗岩 中生代白亜紀 北上山地		I A1	178	168
746	II B5i III層	磨石類	13.0	9.8	6.4	1183.6	溶結凝灰岩 中生代白亜紀 原地山層		I A2	178	168
747	II B6s II層	磨石類	10.3	7.7	4.4	500.8	花崗岩 中生代白亜紀 北上山地		I A2	179	168
748	II B5a	磨石類	8.0	7.3	5.7	462.3	凝灰質礫岩 中生代白亜紀 原地山層		I B1	179	168
749	II B4g	磨石類	11.6	8.8	6.0	867.2	溶結凝灰岩 中生代白亜紀 原地山層		I B1	179	168
750	II B8s 攪乱中	磨石類	11.6	8.8	6.0	890.0	凝灰質礫岩 中生代白亜紀 原地山層		I B1	179	168
751	II B4e I b層	磨石類	11.8	10.2	6.2	1073.6	溶結凝灰岩 中生代白亜紀 原地山層		I B2	179	168
752	II B5c III層	磨石類	11.5	9.9	6.2	1030.1	凝灰質礫岩 中生代白亜紀 原地山層		I B2	179	168
753	II B7q II層	磨石類	<8.6>	8.9	6.1	710.7	溶結凝灰岩 中生代白亜紀 原地山層		I B2	180	168
754	II B12p II層	磨石類	8.0	5.4	3.4	210.9	花崗岩 中生代白亜紀 北上山地		I D1	180	168
755	II B4m II層	磨石類	8.5	5.5	3.6	239.6	花崗岩 中生代白亜紀 北上山地	炭付着、被熱あり	II A1	180	168
756	II B6g 攪乱中	磨石類(敲石)	11.8	7.3	6.9	845.2	花崗岩 中生代白亜紀 北上山地		II A2	180	168
757	II B12p II層	磨石類	11.7	6.6	3.4	332.2	流紋岩 新生代古第三紀 浄土ヶ浜・松山・立丸峠		II C1	180	168
758	II B4h II層	磨石類	14.3	8.1	4.4	782.1	花崗岩 中生代白亜紀 北上山地		II C1	180	168
759	II B5n II層	磨石類	13.6	8.4	3.9	693.6	花崗岩 中生代白亜紀 北上山地		II C1	180	169
760	II B3h	磨石類	13.9	7.5	3.6	534.7	流紋岩 新生代古第三紀 浄土ヶ浜・松山・立丸峠		II D1	181	169
761	II B3d	磨石類	9.6	6.2	2.7	255.0	花崗岩 中生代白亜紀 北上山地		II D1	181	169
762	II B4j II層	磨石類	16.5	8.2	5.4	1124.8	花崗岩 中生代白亜紀 北上山地		III C1	181	169
763	II B9q II層	半円状扁平打製?	20.2	8.8	3.7	1026.8	細粒花崗閃緑岩 中生代白亜紀 北上山地		III C3	181	169
764	II B6v I c層	磨石類	12.7	6.2	3.3	372.4	流紋岩 新生代古第三紀 浄土ヶ浜・松山・立丸峠		III D1	181	169
765	II B12p II層	磨石類	16.3	7.1	6.2	1012.7	流紋岩 新生代古第三紀 浄土ヶ浜・松山・立丸峠		III D1	182	169
766	II B8t II層	磨石類	17.7	6.1	4.5	691.8	流紋岩 新生代古第三紀 浄土ヶ浜・松山・立丸峠		III D1	182	169
767	II B3g	磨石類	14.6	5.0	2.8	313.1	砂岩 中生代 北上山地		III D3	182	169
768	II B5n II層	磨石類	14.7	7.0	3.1	490.3	砂岩 中生代 北上山地		III D3	182	170
769	II B6n II層	磨石類	<15.5>	7.5	4.6	679.6	砂岩 中生代 北上山地		IV C3	182	170
770	II B10u II層	磨石類	15.6	7.3	4.0	554.8	細粒閃緑岩 中生代白亜紀 北上山地		IV C3	182	170
771	不明	磨石類	15.5	6.9	3.5	527.0	砂岩 中生代 北上山地		IV C3	183	170
772	II B5l II層	磨石類	14.3	6.4	4.0	538.4	花崗斑岩 中生代白亜紀 北上山地		IV C3	183	170

3 検出遺構と出土遺物

No	出土地点・層位	器種	計測値(cm)			重量(g)	石質	備考	形態分類	図版	写真
			長さ	幅	厚さ						
773	II B9t I c層	磨石類	<14.8>	7.9	3.8	622.1	細粒閃緑岩 中生代白亜紀 北上山地		IVC3	183	170
774	II B6n II層	磨石類	13.4	7.9	5.6	708.2	凝灰質礫岩 中生代白亜紀 原地山層		IVC3	183	170
775	II B5m II層	磨石類	13.6	7.4	4.7	710.0	花崗斑岩 中生代白亜紀 北上山地		IVC4	183	170
776	II B8r III層	磨石類	<13.2>	7.9	3.6	602.8	花崗岩 中生代白亜紀 北上山地		IVC4	183	170
777	II B6s II層	磨石類	14.6	7.0	3.0	520.9	細粒閃緑岩 中生代白亜紀 北上山地		IVD3	184	171
778	II B9q II層	磨石類	16.7	6.2	4.6	736.8	砂岩 中生代 北上山地		VC3	184	171
779	II B10t II層	磨石類	13.1	6.5	4.8	472.8	流紋岩 新生代古第三紀 浄土ヶ浜・松山・立丸峠		VC3	184	171
780	II B4g II層	磨石類	13.0	6.5	4.0	601.0	砂岩 中生代 北上山地		VC3	184	171
781	II B8r II層	磨石類	11.2	6.5	3.9	342.6	デイサイト 新生代古第三紀 北上山地		VC3	184	171
782	II B6o II層	磨石類	7.6	4.5	2.8	129.8	デイサイト 中生代白亜紀 原地山層		VD4	184	171
783	II B5m II層	磨石類	15.9	7.2	4.7	828.9	花崗閃緑岩 中生代白亜紀 北上山地		VIC1	185	171
784	II B7q II層	磨石類	13.7	6.6	4.5	503.3	流紋岩 新生代古第三紀 浄土ヶ浜・松山・立丸峠		VIC4	185	171
785	II B6p II層	磨石類	10.8	4.4	3.1	241.3	流紋岩 新生代古第三紀 浄土ヶ浜・松山・立丸峠		VID1	185	171
786	II B4i 攪乱中	磨石類	6.5	4.3	2.7	112.7	花崗岩 中生代白亜紀 北上山地		VIE1	185	172
787	II B10q II層	石皿	<13.6>	<18.7>	<4.5>	1184.4	砂岩 中生代白亜紀 宮古層群	半分欠損	I	185	172
788	II B10t II層	石皿	<29.1>	<19.5>	<4.0>	3274.4	流紋岩 新生代古第三紀 浄土ヶ浜・松山・立丸峠		I	185	172
789	II B5i III層	石皿	<19.5>	<11.6>	<5.0>	1314.3	流紋岩 新生代古第三紀 浄土ヶ浜・松山・立丸峠		I	185	172
790	II B5a	石皿	<18.6>	<24.7>	<6.2>	320.1	砂岩 中生代白亜紀 宮古層群		I	186	172
791	II B4j II層	石皿	<21.0>	<22.8>	<4.5>	2645.8	流紋岩 新生代古第三紀 浄土ヶ浜・松山・立丸峠		I	186	172
792	II B10p II層	石皿	<5.3>	<7.8>	<2.8>	127.0	凝灰質砂岩 中生代白亜紀 宮古層群	一部のみ	II	186	172
793	II B6p II層	石皿	<11.2>	<9.9>	<3.1>	320.4	砂岩 中生代白亜紀 宮古層群	一部のみ	II	186	172
794	II A3u II層	石皿	<21.1>	<13.1>	<3.4>	1108.3	砂岩 中生代白亜紀 宮古層群		II	186	172
795	II B4e I b層	砥石	<9.8>	<6.7>	<1.9>	121.9	砂岩 中生代白亜紀 宮古層群	一部のみ 表面に溝あり		186	172
796	II B5l II層	砥石	<5.5>	<4.5>	<2.2>	71.7	流紋岩 新生代古第三紀 浄土ヶ浜・松山・立丸峠			186	172
797	II B12v I層	石棒	<38.2>	<11.8>	<9.4>	6500.0	砂岩 中生代白亜紀 宮古層群			187	173
798	II B6s II層	石棒	<22.0>	<10.9>	<8.2>	2424.3	流紋岩 新生代古第三紀 浄土ヶ浜・松山・立丸峠			187	173
799	II B3g	石棒	<19.0>	<11.2>	<9.1>	3021.0	流紋岩 新生代古第三紀 浄土ヶ浜・松山・立丸峠			187	173
800	II B4e	石棒	<23.2>	<13.6>	<10.7>	4412.0	砂岩 中生代白亜紀 宮古層群			187	173
801	II B9t II層	石棒	<23.0>	<11.0>	<7.7>	2633.7	流紋岩 新生代古第三紀 浄土ヶ浜・松山・立丸峠	両端欠損		188	173
802	II B9r II層	石剣・石刀	<7.1>	2.4	0.9	20.9	頁岩 中生代 北上山地	先端部のみ		188	173
803	II B5j III層	石剣・石刀	<6.9>	<2.1>	<1.1>	21.5	頁岩 中生代 北上山地			188	173

第10表 石製品観察表

No	出土地点・層位	器種	計測値(cm)			重量(g)	石質	図版	写図
			長さ	幅	厚さ				
245	29号竪穴建物埋土下位	块状耳飾り	4.1	<2.3>	0.6	8.20	頁岩 中生代 北上山地	126	131
804	II B10r III層	垂れ飾り	3.4	2.5	0.4	4.63	蛇紋岩 古生代オルドビス紀 早池峰山周辺	188	173
805	II B5c III層	块状耳飾り	2.4	2.2	0.4	2.86	滑石 古生代オルドビス紀 早池峰山周辺	188	173
806	II B5i II層	块状耳飾り	<4.1>	<2.1>	0.6	9.34	滑石 古生代オルドビス紀 早池峰山周辺	188	173
807	II B7q III層	块状耳飾り	<3.1>	<2.1>	0.5	3.87	滑石 古生代オルドビス紀 早池峰山周辺	188	173
808	II B7t II層	块状耳飾り	<2.6>	3.1	0.6	6.25	滑石 古生代オルドビス紀 早池峰山周辺	188	173
809	II B7t II層	块状耳飾り	4.2	<3.1>	0.6	10.84	滑石 古生代オルドビス紀 早池峰山周辺	188	173
810	II B8s II層	块状耳飾り	<5.1>	<2.3>	0.5	8.83	滑石 古生代オルドビス紀 早池峰山周辺	188	173
811	II B7t II層	块状耳飾り	<3.3>	<1.6>	0.5	3.45	凝灰岩 中生代 北上山地	188	173
812	II B5m II層	有孔円盤	<4.8>	<5.2>	0.8	18.63	頁岩 中生代 北上山地	188	173
813	II B4i III層	円盤状石製品	3.8	3.7	0.8	17.80	花崗岩 中生代白亜紀 北上山地	188	173
814	II B5c III層	有孔石製品	<16.2>	<18.2>	<1.4>	404.14	凝灰岩 新生代古第三紀 北上山地	188	173

第11表 土製品観察表

No	出土地点・層位	器種	文様等	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考	図版	写図
36	5号竪穴建物埋土	円盤状土製品		<3.2>	<2.9>	0.8	6.5		95	109
45	6号竪穴建物埋土	三角壺形土製品	沈線による渦巻文	8.5	5.5	5.0	176.8		96	110
95	11号竪穴建物埋土	耳栓形土製品		<3.4>	<3.4>	<2.0>	16.9		106	116
96	11号竪穴建物埋土	斧形土製品	沈線文	<4.1>	<3.4>	1.3	17.1		106	116
97	11号竪穴建物埋土	円盤状土製品	RL	4.7	<3.1>	1.2	11.4		106	116
130	15号竪穴建物埋土	円盤状土製品	無節L	3.1	3.8	0.9	11.1		111	120
142	17号竪穴建物埋土	斧形土製品	単軸絡条体第1類	<6.2>	<2.9>	1.4	22.5		112	121
169	22号竪穴建物埋土	円盤状土製品		5.3	<4.2>	0.9	23.9		116	124
170	22号竪穴建物埋土	円盤状土製品		2.9	2.8	0.9	7.4		116	124
258	31号竪穴建物貼床	円盤状土製品	LR	3.2	3.5	0.9	11.3		127	132
292	36号竪穴建物埋土下位	斧形土製品		<7.5>	3.2	1.4	34.2		131	134
815	II B3f	円盤状土製品	底部	3.5	3.8	0.7	8.9		189	174
816	II B3m I b層	円盤状土製品		5.0	4.3	1.0	14.9		189	174
817	II B3o II層	円盤状土製品	RL?	<2.9>	3.8	0.7	7.2		189	174
818	II B3o II層	円盤状土製品	貼付隆線、沈線文、単軸絡条体第1類L	4.1	<3.6>	0.7	11.4		189	174
819	II B3u II層	円盤状土製品	LR	<4.1>	4.6	0.8	13.5		189	174
820	II B4e II層	円盤状土製品	RL	4.1	<2.9>	0.9	11.1		189	174
821	II B4k II層	円盤状土製品	単軸絡条体第1類R	2.9	3.1	0.9	8.6		189	174
822	II B4l I b層	円盤状土製品	単軸絡条体第1類R?	<2.6>	3.1	0.8	7.0		189	174
823	II B4m II層	円盤状土製品	LR	4.4	4.6	0.8	17.7		189	174
824	II B4o II層	円盤状土製品	LR	4.6	<3.3>	0.8	10.1		189	174
825	II B5f II層	円盤状土製品	LR	<3.0>	3.7	0.8	8.7		189	174
826	II B5h III層	円盤状土製品		<3.5>	4.9	1.0	14.6		189	174

3 検出遺構と出土遺物

No	出土地点・層位	器種	文様等	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考	図版	写図
827	II B5l III層	円盤状土製品	文様不明	<4.6>	<3.4>	1.0	18.3		189	174
828	II B5l III層	円盤状土製品	無節L	<2.5>	3.8	0.9	10.2		189	174
829	II B5m II層	円盤状土製品	LR	<4.8>	<4.8>	0.7	19.3		189	174
830	II B5n II層	円盤状土製品	貼付隆線	<3.7>	4.5	1.0	16.0		189	174
831	II B5n II層	円盤状土製品	LR	<3.0>	<3.1>	0.5	4.5		189	174
832	II B5q II層	円盤状土製品	貼付隆線、LR ?	<3.0>	4.5	0.7	11.1		189	174
833	II B5y II層	円盤状土製品	LR	4.7	4.5	1.0	21.7		189	174
834	II B6n II層	円盤状土製品	LR	<3.1>	3.8	0.9	10.7		189	174
835	II B6o II層	円盤状土製品	LR	5.3	5.8	1.0	29.5		189	175
836	II B6o II層	円盤状土製品	RLR	4.4	<3.6>	0.7	13.0		189	175
837	II B7k 攪乱中	円盤状土製品		6.0	<3.5>	0.9	18.9		189	175
838	II B7k 攪乱中	円盤状土製品	RL	3.8	<3.1>	0.8	12.4		189	175
839	II B7q II層	円盤状土製品	LR	<2.8>	4.5	1.0	13.9		189	175
840	II B7q II層	円盤状土製品	LR	<3.1>	4.0	0.8	9.9		189	175
841	II B7q II層	円盤状土製品	RL	<4.1>	<4.5>	0.8	15.5		189	175
842	II B7s II層	円盤状土製品	貼付隆線(帯)、RL	<4.0>	<3.1>	1.0	9.6		189	175
843	II B8r II層	円盤状土製品	RL	<4.6>	<2.4>	0.8	8.6		189	175
844	II B8r II層	円盤状土製品	沈線文、LR ?	4.1	<4.9>	1.0	18.2		189	175
845	II B8v II層	円盤状土製品	沈線文	4.2	<3.0>	0.8	9.9		190	175
846	II B8v III層	円盤状土製品		3.5	<3.0>	0.9	8.2		190	175
847	II B9r II層	円盤状土製品	LR	4.1	<3.1>	0.7	8.5		190	175
848	II B9u II層	円盤状土製品	RL	<4.9>	<2.9>	1.0	14.8		190	175
849	II B9v II層	円盤状土製品	LR	<4.1>	<2.4>	0.8	7.4		190	175
850	II B10c II層	円盤状土製品	沈線文、L ?	<2.5>	<4.5>	0.7	8.1		190	175
851	II B11r II層	円盤状土製品		<3.6>	4.3	1.0	15.9		190	175
852	II B11s I c層	円盤状土製品	側圧(組紐?)	<3.6>	4.1	1.0	17.3		190	175
853	II B11v トレンチ	円盤状土製品	単軸絡条体?	<4.5>	4.2	1.0	17.2		190	175
854	II B11x II層	円盤状土製品	原体不明	4.1	4.2	1.0	18.2		190	175
855	II B13p II層	円盤状土製品	RLR	<4.4>	<3.6>	1.0	17.3		190	175
856	II B7j 攪乱中	円盤状土製品		4.3	3.8	1.4	25.2		190	176
857	II B7r II層	不明土製品	木葉痕	5.7	4.6	3.5	52.9		190	176
858	II A2t III層	紡錘車	ミガキ	5.3	5.3	2.9	78.2		190	176

第12表 鉄製品観察表

No	出土地点・層位	素材	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考	図版	写図
270	34号竪穴建物 貼床	鉄	鎌	<7.6>	3.1	0.6	23.8		128	132
284	36号竪穴建物 カマド煙出部底面	鉄	鎌	9.8	4.3	0.8	34.2		131	134
285	36号竪穴建物 埋土	鉄	手鎌	9.0	1.1	0.3	8.8		131	134
431	65号土坑 埋土	鉄	不明	3.9	8.5	0.5	13.8	把手金具？	147	144
432	65号土坑 埋土	鉄	針	<4.4>	0.7	3.5	1.7		147	144
433	65号土坑 埋土	鉄	針	<9.2>	0.6	0.4	7.0	先端欠	147	144
436	66号土坑 検出面～埋土上位	鉄	刀子	<12.0>	1.4	0.8	21.7	刃部屈曲	148	145
450	P4 埋土	鉄	火打金	6.9	2.4	0.4	10.2		150	146
451	P11 埋土	鉄	火打金	<7.6>	4.2	<1.0>	41.2		150	146
452	P12 埋土	鉄	鋤・鍬	<6.7>	3.9	1.6	90.3	農耕具の一部	150	146
859	II B4b 攪乱中	鉄	鎌	<13.7>	1.0	0.9	15.7		190	176
860	II B10u I層	鉄	小刀	<18.6>	3.0	1.1	89.2		190	176
861	II B2f I b層	鉄	釘	3.7	0.7	0.4	1.6		191	176
862	II B3o II層	鉄	刀子(小刀)	<6.6>	<1.5>	<0.4>	12.9	基部	191	176
863	II B2e 攪乱中	鉄	不明	<8.5>	1.9	0.7	44.2		191	176

第13表 銭貨観察表

No	出土地点・層位	素材	銭名	初鑄造年	銭径(A)／(B)mm	内径(C)／(D)mm	銭厚(mm)	量目(g)	備考	図版	写図		
44	5号竪穴建物 埋土	銅	永楽通寶	明銭／1408年	21.01	-	17.27		0.67～0.78	0.85		96	110
293	37号竪穴建物 P1埋土下位	銅	判読不明		<18.64>	<17.88>	-	-	0.61～0.69	0.54		132	134
448	P3 埋土	銅	永楽通寶	明銭／1408年	-	-	-	-	0.53～0.67	0.78		150	146
449	P3 埋土	銅	永楽通寶	明銭／1408年	22.81	-	20.13	20.21	0.88～0.95	1.58		150	146
864	II B6i 攪乱中	銅	熙寧元寶	北宋／1068年	23.71	23.61	18.84	18.66	1.17～1.35	2.07		191	176
865	II B6i 攪乱中	銅	元豊通寶	北宋／1078年	23.70	23.63	18.90	18.69	1.31～1.56	2.55		191	176
866	II B9s I層	銅	政和通寶	北宋／1111年	23.93	23.93	21.41	21.37	1.61～1.65	2.37		191	176
867	II B6i 攪乱中	銅	永楽通寶	明銭／1408年	22.75	22.68	20.51	19.88	0.88～1.02	1.22		191	176
868	II B8q II層	銅	■■元寶		23.10	23.22	19.68	19.77	0.98～1.08	1.72		191	176
869	II B6i 攪乱中	銅	判読不明		-	-	-	-	0.63～0.72	0.36		191	176
870	II B6i 攪乱中	銅	判読不明		-	-	-	-	0.57～0.73	0.38		191	176
871	II B6s II層	銅	判読不明		-	-	-	-	0.70～0.73	0.30		191	176

第14表 陶磁器観察表

No	出土地点・層位	器種	重量(g)	備考	図版	写図
294	38号竪穴建物 埋土	青磁皿	14.7	中国産 明代15世紀末 稜花皿	132	135
434	66号土坑 埋土	磁器碗	17.9	肥前産 見込み：二重圏線、外面：2条の圏線	148	145
435	66号土坑 埋土	陶器皿	6.9	緑釉 菊花皿	148	145
873	II B11x トレンチ	陶器皿	24.2	瀬戸・美濃産 17世紀代	191	176
874	II B5d	陶器皿	15.1	肥前(唐津)産	191	176
875	II B7r I c層	青磁碗	17.7	中国産 15世紀末	191	176

3 検出遺構と出土遺物

第15表 縄文土器重量表

出土地点	重量(g)	出土地点	重量(g)	出土地点	重量(g)	出土地点	重量(g)
1号竪穴建物	5673.8	14号土坑	1599.3	P65	43.8	II A3u	4686.3
3号竪穴建物	5323.9	15号土坑	194.9	P66	130.2	II A3v	2419.6
4号竪穴建物	3734.8	16号土坑	917.5	P74	196.3	II A3w	4608.7
5号竪穴建物	70142.1	18号土坑	9371.1	P76	7.3	II A3y	86.9
6号竪穴建物	818.0	19号土坑	135.0	P97	165.0	II A4r	131.0
8号竪穴建物	10873.1	22号土坑	2539.0	P109	97.0	II A4s	258.1
9号竪穴建物	3078.7	24号土坑	395.4	P110	17.9	II A4t	216.3
10号竪穴建物	26644.1	25号土坑	1252.4	P111	106.0	II A4u	204.4
11号竪穴建物	100313.2	26号土坑	2149.8	P113	984.6	II A4v	17.8
12号竪穴建物	122.9	27号土坑	4159.0	P118	18.4	II A4w	321.1
13号竪穴建物	18923.9	28号土坑	505.0	P119	27.5	II A4x	2926.3
14号竪穴建物	466.7	29号土坑	389.9	P120	157.9	II A4y	5579.7
15号竪穴建物	5069.1	30号土坑	474.5	P121	189.2	II A5r	15.9
17号竪穴建物	26244.1	32号土坑	4069.3	P122	105.7	II A5s	697.4
18号竪穴建物	9.9	33号土坑	20.3	P123	23.8	II A5t	212.3
19号竪穴建物	165.9	34号土坑	674.6	P124	25.8	II A5u	3450.4
20号竪穴建物	3894.0	35号土坑	5399.9	P127	20.3	II A5v	6144.6
21号竪穴建物	5018.9	36号土坑	22.0	P128	30.0	II A5w	3349.6
22号竪穴建物	21312.0	37号土坑	1097.3	P131	24.7	II A5x	10550.3
23号竪穴建物	6689.7	38号土坑	7840.2	P132	58.0	II A5y	5992.8
24号竪穴建物	398.8	39号土坑	3813.3	P133	126.3	II A6s	609.5
25号竪穴建物	143.5	40号土坑	909.6	P140	395.0	II A6u	11110.1
26号竪穴建物	354.5	41号土坑	6155.4	P141	43.0	II A6w	2880.3
27号竪穴建物	2872.0	42号土坑	3069.4	P142	47.4	II A6x	1285.1
28号竪穴建物	85881.0	43号土坑	542.2	P143	133.5	II A6y	4069.3
29号竪穴建物	7744.8	45号土坑	1103.9	P148	50.8	II B1c	681.3
30号竪穴建物	2149.6	46号土坑	3272.1	P149	59.2	II B1f	231.9
31号竪穴建物	9642.6	47号土坑	4147.7	P150	125.4	II B1n	204.2
32号竪穴建物	286.0	50号土坑	1031.6	P151	21.3	II B1o	521.4
33号竪穴建物	5028.6	53号土坑	26733.5	P152	163.4	II B2a	15.0
34号竪穴建物	567.6	54号土坑	34.6	P153	149.5	II B2c	2863.4
35号竪穴建物	4017.2	55号土坑	829.0	P155	327.5	II B2d	720.6
36号竪穴建物	5118.4	57号土坑	1496.1	P160	23.6	II B2e	438.6
38号竪穴建物	4123.1	58号土坑	13.9	P161	6.1	II B2f	16314.1
39号竪穴建物	113.4	61号土坑	2110.7	P168	15.6	II B2m	163.6
40号竪穴建物	161.5	63号土坑	1023.2	P169	5.9	II B2n	1723.6
1号掘立柱建物跡	612.4	64号土坑	44.5	I A23r	116.3	II B2o	11289.0
1号炉	920.3	66号土坑	669.3	I A24q	53.0	II B2p	13.4
2号炉	305.2	1号陥し穴状遺構	227.4	I A24r	1411.8	II B2r	1088.8
5号炉	141.8	2号陥し穴状遺構	1318.0	I A24s	222.1	II B3a	430.6
10号炉	1124.6	4号陥し穴状遺構	98.7	I A25s	160.7	II B3b	292.1
1号焼土	18.3	7号陥し穴状遺構	1214.5	II A1p	3.6	II B3c	1004.8
6号焼土	260.3	8号陥し穴状遺構	4149.4	II A1q	15.2	II B3d	18005.2
7号焼土	3.1	9号陥し穴状遺構	1584.8	II A1r	0.7	II B3e	32268.1
9号焼土	94.9	1号土器埋設遺構	7331.4	II A1s	59.0	II B3f	34161.3
10号焼土	37.7	2号土器埋設遺構	6629.5	II A1t	1112.0	II B3g	15850.5
11号焼土	103.8	1号墓壙	486.9	II A2p	108.4	II B3h	9171.8
1号焼成遺構	16.1	1号溝跡	79.5	II A2q	44.1	II B3k	11243.3
1号土坑	6751.2	P16	15.3	II A2r	241.8	II B3l	4320.3
2号土坑	132.8	P28	38.7	II A2s	579.5	II B3m	10717.3
5号土坑	1216.6	P31	44.9	II A2t	446.3	II B3n	34776.4
6号土坑	130.0	P37	399.2	II A2u	4601.5	II B3o	41347.6
7号土坑	322.5	P39	51.2	II A2v	1419.8	II B3p	12351.0
8号土坑	78.6	P46	75.9	II A3r	233.7	II B3u	1274.2
11号土坑	1524.1	P54	98.0	II A3s	91.6	II B4a	3334.1
13号土坑	228.8	P55	70.6	II A3t	2638.6	II B4b	7825.1

出土地点	重量(g)	出土地点	重量(g)	出土地点	重量(g)	出土地点	重量(g)
II B4c	4812.0	II B5m	58020.2	II B7l	6576.1	II B10t	7159.2
II B4d	2503.1	II B5n	31697.9	II B7o	589.0	II B10u	7013.7
II B4e	18352.0	II B5o	21761.4	II B7p	17757.9	II B10v	1564.9
II B4f	36929.3	II B5p	17430.6	II B7q	29224.1	II B11o	156.0
II B4g	25063.2	II B5q	7002.1	II B7r	15976.1	II B11p	9809.9
II B4h	30775.1	II B5r	961.3	II B7s	18500.4	II B11q	12946.4
II B4i	15189.3	II B5t	427.4	II B7t	7821.1	II B11r	6752.1
II B4j	10555.5	II B5u	27.7	II B7u	3487.5	II B11s	5409.6
II B4k	36470.4	II B5v	185.0	II B7v	151.1	II B11t	2312.2
II B4l	29276.1	II B6a	914.6	II B7w	202.8	II B11u	5507.0
II B4m	40309.7	II B6b	632.7	II B8o	162.2	II B11v	6413.3
II B4n	30554.7	II B6g	5190.2	II B8p	2070.4	II B11w	6607.9
II B4o	32978.0	II B6k	90.4	II B8q	9062.5	II B11x	1772.7
II B4p	12372.5	II B6l	17587.5	II B8r	31725.1	II B11y	3640.1
II B4q	58.4	II B6m	19117.3	II B8s	18454.9	II B12o	7259.6
II B4s	21.3	II B6n	23619.1	II B8t	14433.2	II B12p	9256.4
II B4t	2418.4	II B6o	13364.5	II B8u	29215.5	II B12q	15836.2
II B5a	5744.5	II B6p	25837.6	II B8v	9937.6	II B12r	8004.1
II B5b	19102.5	II B6q	29663.8	II B9p	3487.3	II B12s	12678.0
II B5c	9150.2	II B6r	7678.8	II B9q	19915.1	II B12t	3328.8
II B5d	5985.6	II B6s	23052.8	II B9r	19319.5	II B12u	2826.3
II B5e	4064.5	II B6t	3236.5	II B9s	15808.3	II B13p	6694.2
II B5f	27089.0	II B6u	275.5	II B9t	14020.5	II B13q	7979.5
II B5g	26312.2	II B6v	66.9	II B9u	4565.6	II B13r	5610.2
II B5h	40926.7	II B7e	120.0	II B9v	16267.9	II B13s	11942.4
II B5i	55802.5	II B7g	3240.2	II B10p	5272.4	II B13t	8234.5
II B5j	20713.8	II B7i	2757.8	II B10q	15351.1	調査区内	21644.1
II B5k	36117.6	II B7j	1728.1	II B10r	18776.8	合計	2473468.6
II B5l	63224.0	II B7k	15392.1	II B10s	7611.4		

*単位はg。5号土坑は4号土坑、1号土器埋設遺構は64号土坑出土土器を含む

第16表 古代土器重量表

出土地点	重量(g)	出土地点	重量(g)	出土地点	重量(g)	出土地点	重量(g)
1号竪穴建物	40.6	41号土坑	19.5	II B4b	66.1	II B5h	16.9
5号竪穴建物	58.4	II A3s	3.7	II B4c	59.2	II B5k	23.7
13号竪穴建物	3.3	II A3u	7.0	II B4e	13.4	II B6l	6.5
17号竪穴建物	304.1	II A4x	6.8	II B4f	7.1	II B7g	39.6
22号竪穴建物	5.3	II A4y	134.3	II B4g	35.8	II B7k	259.7
30号竪穴建物	892.6	II A5s	5.3	II B4h	268.2	II B7l	233.4
31号竪穴建物	395.8	II A5t	16.6	II B4i	28.4	II B8r	63.5
32号竪穴建物	865.2	II A6y	11.3	II B5b	65.8	II B13s	6.6
33号竪穴建物	631.6	II B2c	108.8	II B5c	36.2	II B13t	66.0
34号竪穴建物	245.7	II B2d	4.1	II B5d	44.1	調査区内	27.3
35号竪穴建物	1682.2	II B3e	11.5	II B5e	13.6	合計	14309.0
36号竪穴建物	7191.1	II B3f	18.7	II B5f	205.0		
40号竪穴建物	11.2	II B3o	4.3	II B5g	43.9		

VI 調査のまとめ

1 調査の概要

当遺跡は、千徳丘陵が山口川の支流蜂ヶ沢によって開析された谷底平野、蜂ヶ沢左岸に位置し、標高19～27mの丘陵南側の裾野に立地する。調査区内の東西には丘陵地間を流れる沢があり、これによって開析された丘陵地先端部の比較的緩い斜面上に位置し、調査では縄文時代～近世まで幅広い時代の遺構・遺物がみつかった。検出した各時代ごとの遺構数は末尾の「報告書抄録」のとおりであるが、特徴としては重複する遺構が非常に多く、竪穴建物は7割以上が重複関係にある（下記第17表参照）。各時代毎の竪穴建物の占地は古代が中央～西側、中世が調査区東側と一定のまとまりをみせるのに対し、縄文時代中期の竪穴建物は西側の旧沢跡以外の全てで検出されている（第192図）。各時代毎の詳細は次のとおりである。

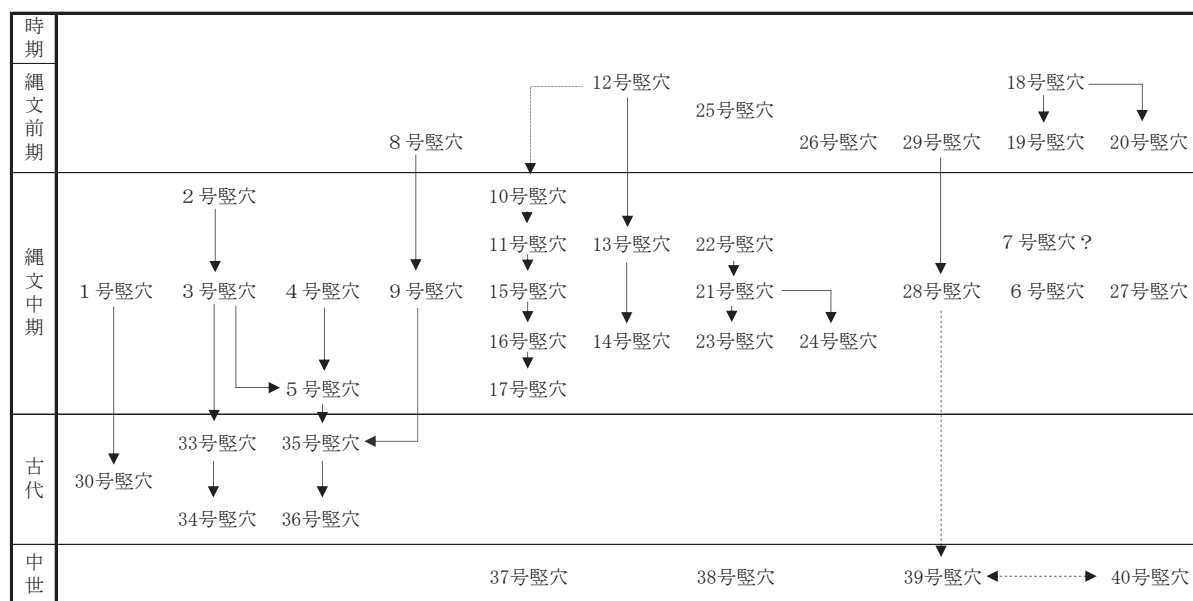
2 各時代の遺構と遺物

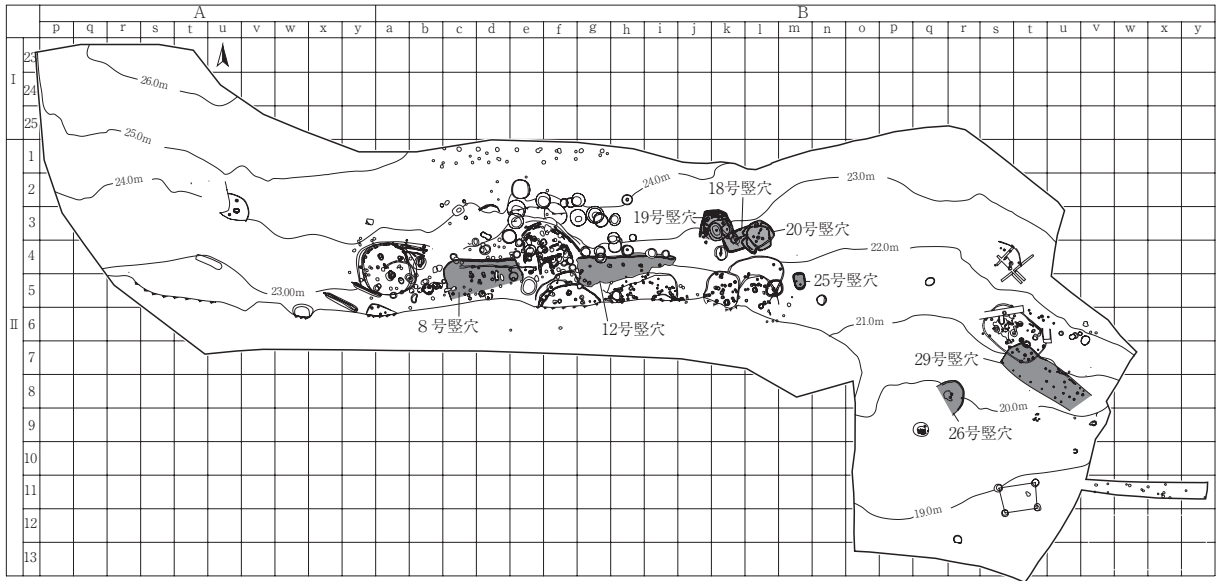
(1) 縄文時代

遺構

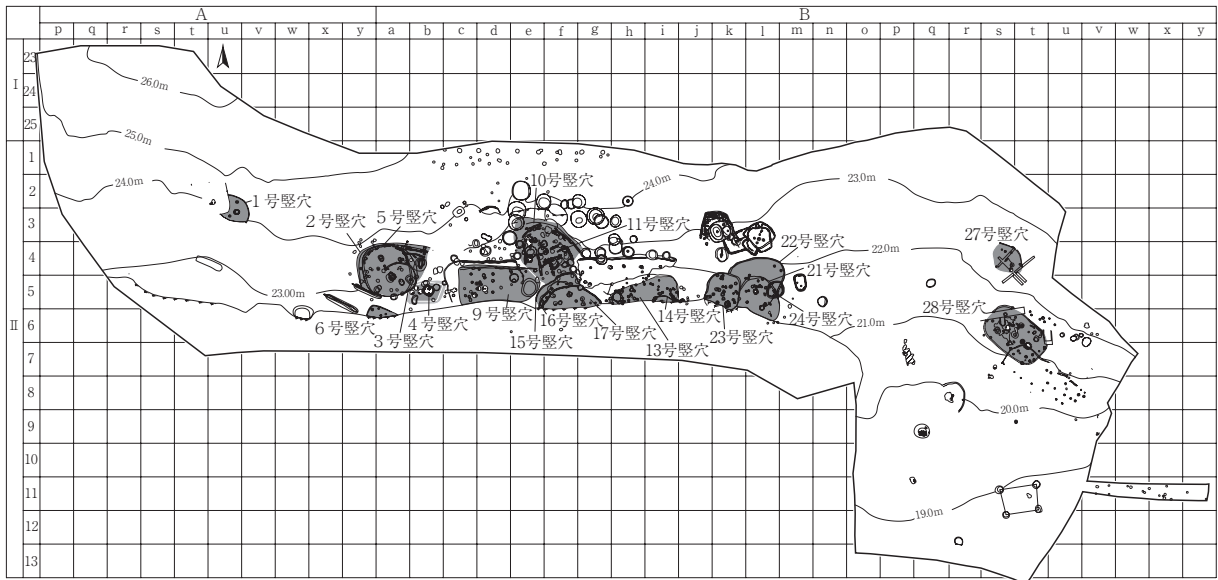
今回の調査で竪穴建物は29棟（1～29号竪穴建物）検出した。時期は遺物が出土しなかった7号竪穴建物以外が縄文時代前期と中期に分かれ、前期8棟、中期20棟、不明1棟である。重複や削平のために全体の形状や規模を把握できないものが多いが、残存部分から円形、楕円形、長方形の形状が推定される。規模を把握できたのは3・20・24・25・28号竪穴建物の5棟のみである。炉の設置が確認できたのは11棟、うち地床炉のみのは1棟で、他は石囲炉を伴う。また、複数の炉が設置されているものが2棟あり、10号竪穴建物は石囲炉2基、28号竪穴建物は石囲炉2基と地床炉1基が設けられている。28号竪穴建物の炉は長軸線上に配置され、炉以外にも埋甕を中心として、土器埋設遺構が

第17表 竪穴建物の新旧関係

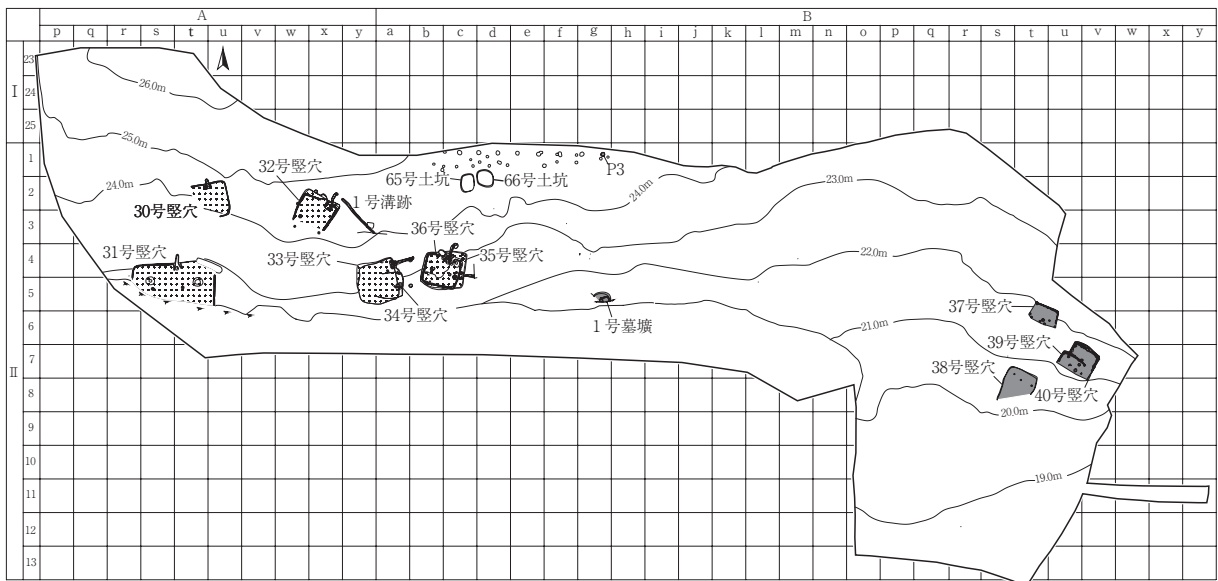




<縄文時代前期の竪穴建物>



<縄文時代中期の竪穴建物>



<古代～近世の遺構>

古代

中世

0 1:900 10m

第192図 時期別の遺構分布図

同一線上にある。石囲炉はいずれも中期中葉の竪穴建物で検出され、形態は方形5基、長方形1基、楕円形1基、三角形（台形か？）1基、五角形1基である。

土坑は64基を検出した。形状は円～楕円形で、規模は開口部径が2mを超える大型のものが5基を数える。検出した場所は調査区中央部のⅡBグリッド北西部の竪穴建物が集中する場所が最も多く、他では調査区東端に5基（59～63号土坑）がまとまって検出された。このうち屋外の貯蔵を目的としたフラスコ形の形状を呈する土坑は15基（第4表参照）で、10・11号竪穴建物をはじめとする竪穴建物が密集する箇所から集中して検出されている。規模は底部径が92～219cmの範疇で39・40号土坑は底部径が開口部径の2倍を超える。これらのフラスコ形土坑の時期は出土遺物から南側に隣接する縄文時代中期中葉の竪穴建物群に伴って構築されたものと考えられる。また、19・23・31～38号土坑は10・11号竪穴建物の床面で検出したもので、これらの遺構に伴う土坑である可能性もあるが、調査時に重複関係を把握することができなかつたため、単独の遺構として掲載した。

炉跡は焼成痕跡が石組によって囲まれているものを10基検出した。本来は竪穴建物に伴って使用されていた可能性が高いが、後世の造成工事による削平や重複などにより、調査時に他の遺構との関係性が不明であったものである。検出した場所は1・2・5・7～10号炉が調査区中央部の竪穴建物等が密集している箇所で3・4・6号炉が調査区東端で遺物包含層（Ⅱ層）の掘り下げ中に検出したものである。炉の形態は円形3基、楕円形3基、不明4基で、1号炉は内面の焼成面に土器が埋設されていた。3号炉は石組内面より西側に焼成痕跡がある。4号炉は石組が崩れ、焼成痕跡はない。6号炉は西側以外の石組は残っているが、周辺を含め、焼成痕跡が認められない。時期は1・10号炉が出土遺物から縄文中期中葉の大木8a式新段階期、それ以外は周辺の遺構や検出状況から大木8a式新段階期～8b式期の範疇と考えられる。

焼土遺構は12基検出した。形状は円形4基で他は不整な形状を呈する。時期は出土遺物がないため、検出状況や重複関係からの推定になるが、縄文時代9基、中世2基、古代以降1基である。

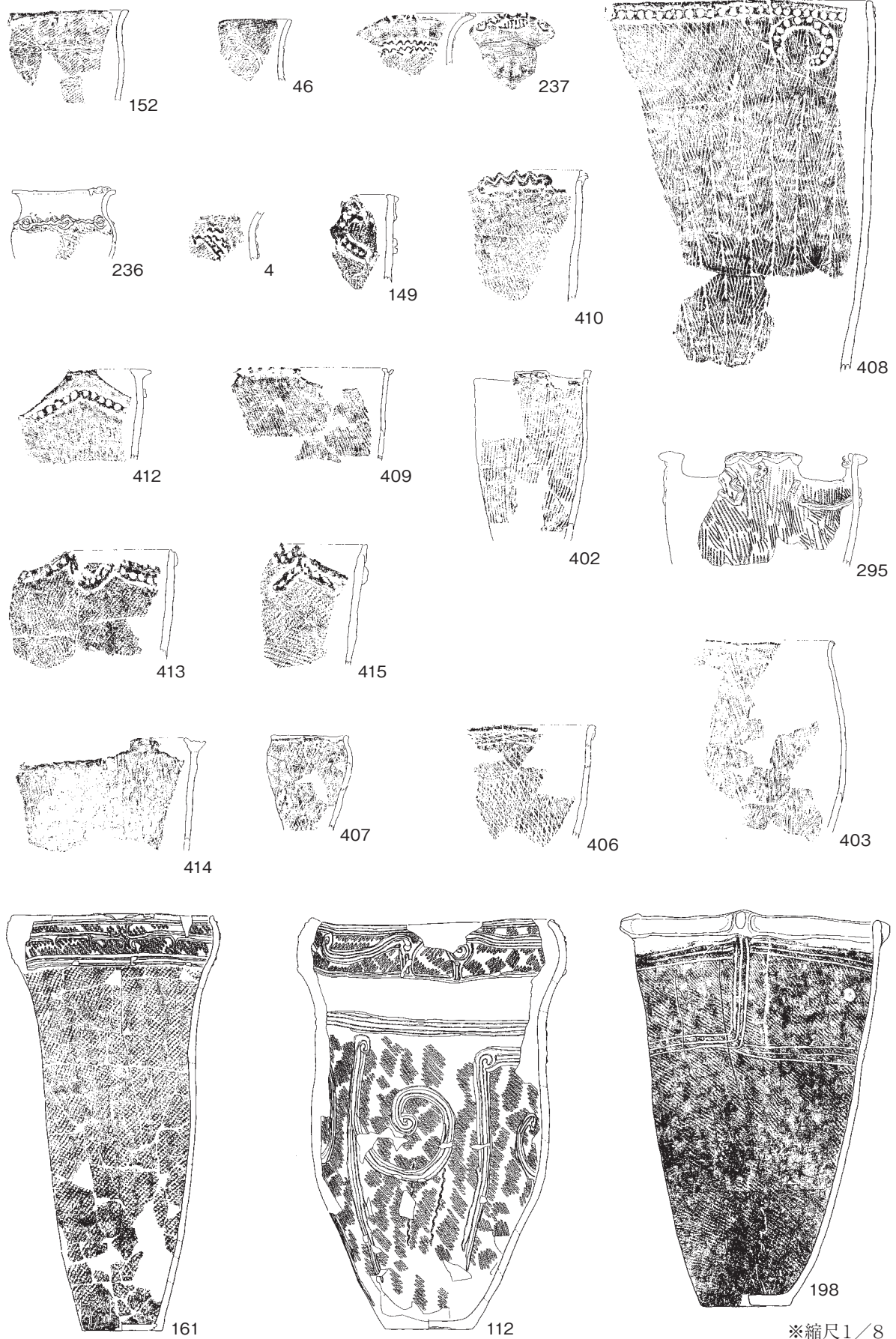
陥し穴状遺構は9基検出した。平面の形状別では溝状2基、楕円形（楕円状含む）4基、円形2基、不整形1基である。溝状の2基は隣接した場所に位置し、北西－南東方向に長軸をもち、底部が極端に狭い形状を呈する。円形ものは底部中央に副穴が1基あり、7号陥し穴状遺構は底面中央の副穴の南北に溝が掘られている。断面形状はU字状4基、開口部付近の上面が大きく開くY字状2基、底部まで壁が垂直で底部が平坦なピーカー状が3基に分かれる。時期はいずれも縄文時代の遺構で5・6号陥し穴状遺構が他遺構との重複関係から前期後葉の大木5式期、7号陥し穴状遺構もこれらと類似することから同時期の可能性が考えられる。他についても1・2・8・9号陥し穴状遺構は重複関係から中期中葉以前に属する。

その他に焼成遺構1基、柱穴状土坑170個を検出した。柱穴状土坑は出土遺物がないものがほとんどのため、他の時期に属する可能性のあるものも含んでいる。

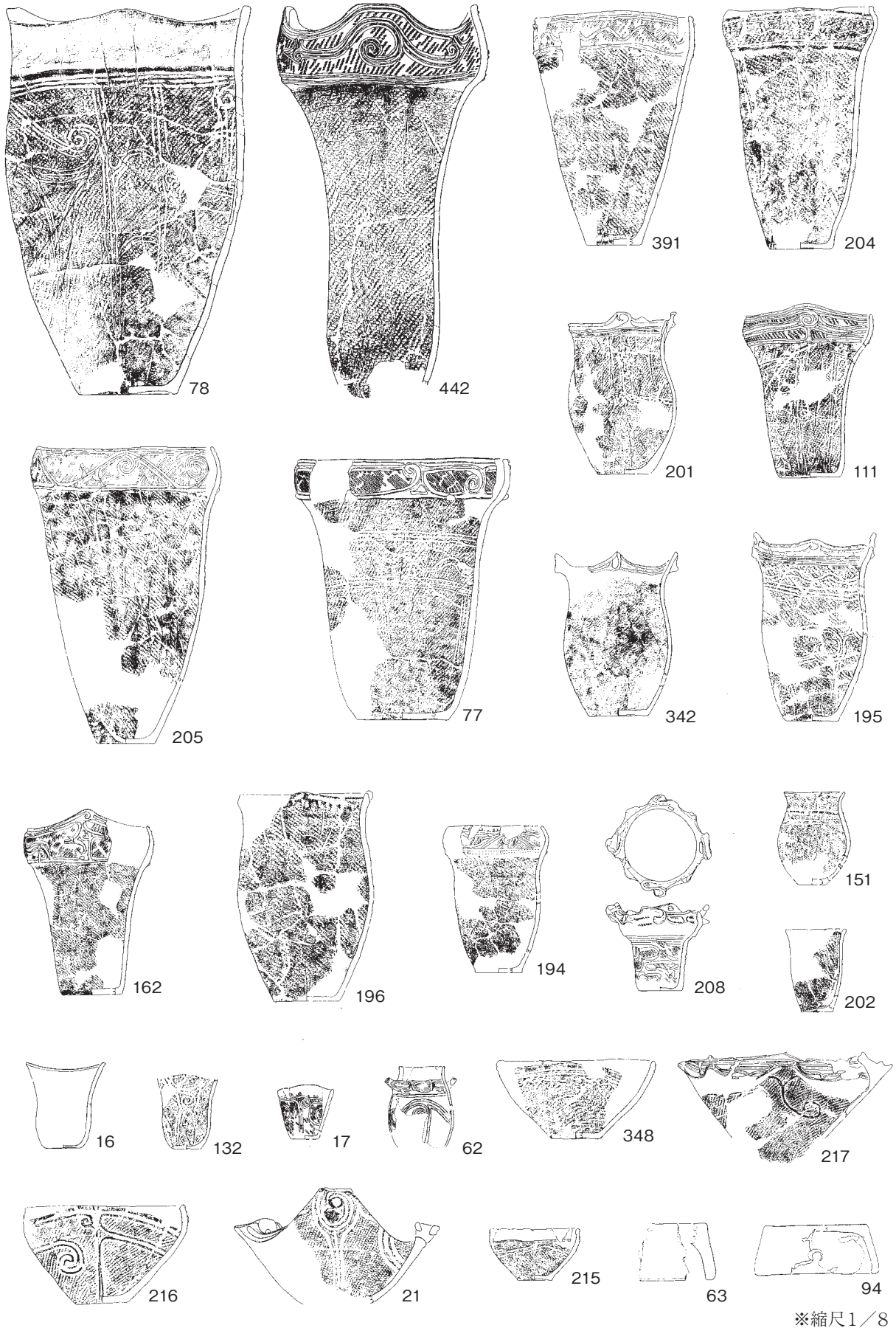
遺物

土器は全体で約大コンテナで190箱分、総量2,487,777.6gが出土した。このうち古代の土器は14,309.0gで9割以上を縄文土器が占める。出土した縄文土器のうち約7割が遺構外からの出土である。

時期は縄文早期～晩期までであるが、中期中葉の大木8式期が最も多く、前期中葉～後葉の大木4～5式がこれに次ぐ。これは時期毎の遺構数と比例するもので、居住域として集落が営まれていた時期の出土が顕著となっていることを示す。土器の時期や土器型式の分類にあたっては「Ⅳ 出土遺物の分類」にあるとおり、層位や遺構別の出土状況よりも土器自体の形態や文様の特徴によって判断する



第193図 主な縄文土器1 (遺構内)



第194図 主な縄文土器2 (遺構内)

ことを優先してⅠ～Ⅳ群の時期に大別し、さらに1類、2類などに細分した。ただし、全体の器形がわかる個体が少なく、形態と文様をあわせた分類がほとんどできなかったことから、文様意匠や施工手法による分類に頼らざるを得なかったため、最小限の分類に留めたが、時期が前後する可能性は否定できない。遺構内から出土した主な土器を第193・194図に集成し、掲載した。

(2) 古 代

今回の調査で遺構は竪穴建物は7棟(30～36号竪穴建物)、溝跡1条を検出した。竪穴建物のうち重複関係が認められるのは33号竪穴建物と34号竪穴建物、35号竪穴建物と36号竪穴建物でほぼ同じ場所に位置していることから建て替えによるものと考えられる。また、32号竪穴建物も北東側の壁面に拡張した部分があることから、建て替えが行われた可能性がある。規模は31号竪穴建物が最大で、一辺が約10mを測り、他は4m50cm前後である。カマドは北壁・東壁面に構築され、30・31号竪穴建物は壁面中央に構築されている。煙道部は31号竪穴建物が掘り込み式の可能性があり、他は削り抜き式の構造である。床面施設では壁溝が巡っているのが31・36号竪穴建物の2棟、柱穴を検出したのが31・32・35・36号竪穴建物で31号竪穴建物の支柱穴2個は開口部径が104cm・117cmと大規模である。溝跡は32号竪穴建物の東側に隣接するもので、検出長5.59m、幅20～32cm、深さ24cmを測り、南端は削平され失われている。

遺物は土器が遺構内29点、遺構外1点を図化・掲載し、このうち土師器が24点、須恵器が5点である。器種は坏10点、甕20点で、土師器坏は8点出土し、非ロクロ成形のものとロクロ成形のものがある。前者は30号竪穴建物から出土した246～248の3点で246は外面中位に段を有し、底部は丸底である。247・248は外面に明瞭な段はなく、底部も丸底に近い平底を呈する。いずれも内面の調整はミガキで黒色処理が施されている。後者は内面の調整にミガキが施されたもの(261・263・275・276)とロクロのみによるもの(268)がある。土師器甕はすべて非ロクロ使用で、32～36号竪穴建物から出土した甕は口縁部が短く、形状は「く」の字状に屈曲するものと緩く外反しているものがある。また、胴部は上半に最大径を有し、胴部径が口縁部径よりも大きいものがある(262・277・281)。一方、31号竪穴建物から出土した254は口縁部が長く外反し、頸部に明瞭な段を有し、外面の調整にミガキが施されている。須恵器は坏・甕各2点で872が遺構外、他は竪穴建物から出土した。いずれもロクロが使用された痕跡がある。これらの特徴から判断して遺構の時期は30・31号竪穴建物が8世紀代、32～36号竪穴建物が9世紀後半～10世紀前半代の範疇であると考えられる。

(3) 中 世

中世の遺構は竪穴建物4棟(37～40号竪穴建物)と墓壇1基、柱穴状土坑1個を検出した。位置的には竪穴建物が調査区の東端、墓壇、柱穴状土坑が調査区中央にある。竪穴建物はいずれも斜面下方側である南側が削平のため失われているが、形状は方形・長方形を呈し、長軸方向は北東～南西を向いていると推測される。規模は短軸側で3.16～3.86mで38号竪穴建物以外は床面施設に壁溝と柱穴がある。遺物は37号竪穴建物から判読不明の銭貨1点と38号竪穴建物から中国産の青磁皿1点で他は縄文時代の遺物が混入したものである。墓壇は遺構の南側が現代の造成工事による影響で一部失われているが分析鑑定による同定によりウシの骨一骨体分であることが判明した。時期は骨について放射性炭素年代測定を行ったところ14世紀という結果を得た。柱穴状土坑は永楽通寶2点出土したP3のみを中世としたが、周辺で検出した柱穴状土坑の中で同時期に属する遺構が含まれている可能性がある。これらの結果を踏まえると、竪穴建物を含めた遺構群は14世紀以降に属すると考えられる。

(4) 近 世

今回の調査で土坑2基を検出した。66号土坑は埋土中から陶磁器2点が出土した。65号土坑は遺物は出土していないが、形状や埋土が66号土坑に類似することから同じ時期と判断した。

3 総 括

今回の調査で出土した遺物の年代は縄文時代～近世まで幅広く見つかっており、この場所が長期間にわたって断続的に生活に利用されていたことが明らかになった。

縄文時代は縄文時代前期後葉と中期中葉に貯蔵穴群を伴った居住域という、集落構造の一部としての利用が確認された。一方で集落としての利用のない時期には食糧確保の手段として陥し穴状遺構を構築し、狩猟場として利用されていたことも明らかになった。また、縄文時代前期中葉以前にも土器が少量ながら出土していることから、生活域が存在する可能性が考えられる。

古代～中世は今回の調査区内においては小規模な数しか竪穴建物が見つからなかったが、現在集落として居住・耕作地等として利用されている南側の低位面に集落が展開している可能性が考えられる。

最後に今回の報告では整理作業の時間的制約もあり、遺構・遺物についての検討が不十分であったが、当地域における当時の様子の一端を明らかにしたという意味においては、重要な意味をもつと考える。特に縄文時代中期の遺跡が本遺跡の所在する山口地区には多く存在しており、過去2回、宮古市教育委員会で調査が行われ、H26～28年に当埋蔵文化財センターによる調査が実施された高根遺跡はその代表であり、今後、調査・整理作業中である同遺跡の成果を待ち、本遺跡との関連性や遺跡の詳細がさらに解明されることを期待したい。

引用・参考文献

- 2002『新田Ⅱ遺跡』遠野市埋蔵文化財調査報告書第13集 遠野市教育委員会
- 1996『牧田貝塚発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第241集
- 1998『田代遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第262集
- 2006『大清水上遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第475集
- 2016『赤前Ⅲ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第650集
- 2017『中村遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第671集
- 2017『荷竹日影Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第675集
- 2018『浜川目沢田Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第679集
- 2018『荷竹日向Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第681集
- 永井久美男 1994 「－出土銭の調査と分類－」『中世の出土銭』兵庫埋蔵銭調査会

附編 自然科学分析

1 骨 同 定

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

山口駒込 I 遺跡（岩手県宮古市山口 2 丁目 217 ほか）に所在）は、山間部南側の緩斜面に位置し、東西に沢地形がある。これまでの発掘調査の結果、縄文時代前期～中期の竪穴建物・土坑・石囲炉・柱穴が検出され、古代や近世の遺構・遺物も確認されている。今回、調査区内から比較的大型の獣骨が検出された。その種類について明らかにする。

1. 試 料

試料は、調査時の名称 SX02（掲載名 1 号墓壙）から出土した骨で、頭部と四肢骨が確認されている。保存状態は悪く、特に四肢骨は発掘段階では形状を残していたものの、取り上げ時に壊れて破片となっている。No.1-1～1-4 の番号が付された試料、および獣骨サンプルとされた試料、計 5 袋が採取されている。試料採取時の資料によると、それぞれの試料は、No.1-1～1-3 が頭部、No.1-4 が四肢骨、獣骨サンプルが一括試料である。

2. 分 析 方 法

試料を肉眼で観察し、形態的特徴から種および部位を同定する。骨格各部位の名称は、ウシを例として図 1 に示す。また、必要に応じて、Driach (1976) に基づき計測する。

3. 結果および考察

結果を表 1 に示す。SX02 で検出された骨は、左右上顎歯牙、左右下顎骨および下顎歯牙、右距骨、右踵骨である。これらは、ウシ目（偶蹄目：Artiodactyla）ウシ科（Bovidae）ウシ（*Bos Taurus*）であった。なお、表 1 でウシ？ と表記したのも、基本的には他の結果や組成からみて、ウシの可能性が高い。

ウシが出土した SX02 は、水田開発による攪乱層の下位に認められる縄文時代の遺構検出面で確認されているが、SX02 内の歯牙や骨類は全てウシであることと、後世の攪乱層直下の遺構である。ウシは、九州・中国・近畿地方での発掘調査の所見により、日本にウシが普及するのは 5 世紀後半～6 世紀にかけてと考えられている（松井, 2008）。これらのことを考慮すると、本遺構は、古代よりも新しい遺構の可能性が高い。水田開発によって遺構上部が削剥されていることが考えられる。

検出されたウシは、重複する部位がみられないことから 1 個体であったとみられる。発掘段階の資料からみると、下肢骨は比較的まっすぐの状態である。ただし、下顎骨との位置関係から推定すると、右側を下にし、下肢を頭部側にまげていると推定される。また、上顎骨は下顎骨の東側に位置することから、軟質部が腐食してなくなった際に頭蓋が崩れたことが想定される。

破片のため計測できる箇所が少ないが、右下顎後臼歯列長 76.59mm、M3 部後方下顎体高 61.69mm を計る。西中川ほか (1991) の研究によると、これらの計測値から推定される体高は、前者の相関係数が 43%、後者の相関係数が 71% とされ、四肢骨の全長から推定される体高と比較すると相関係数が低

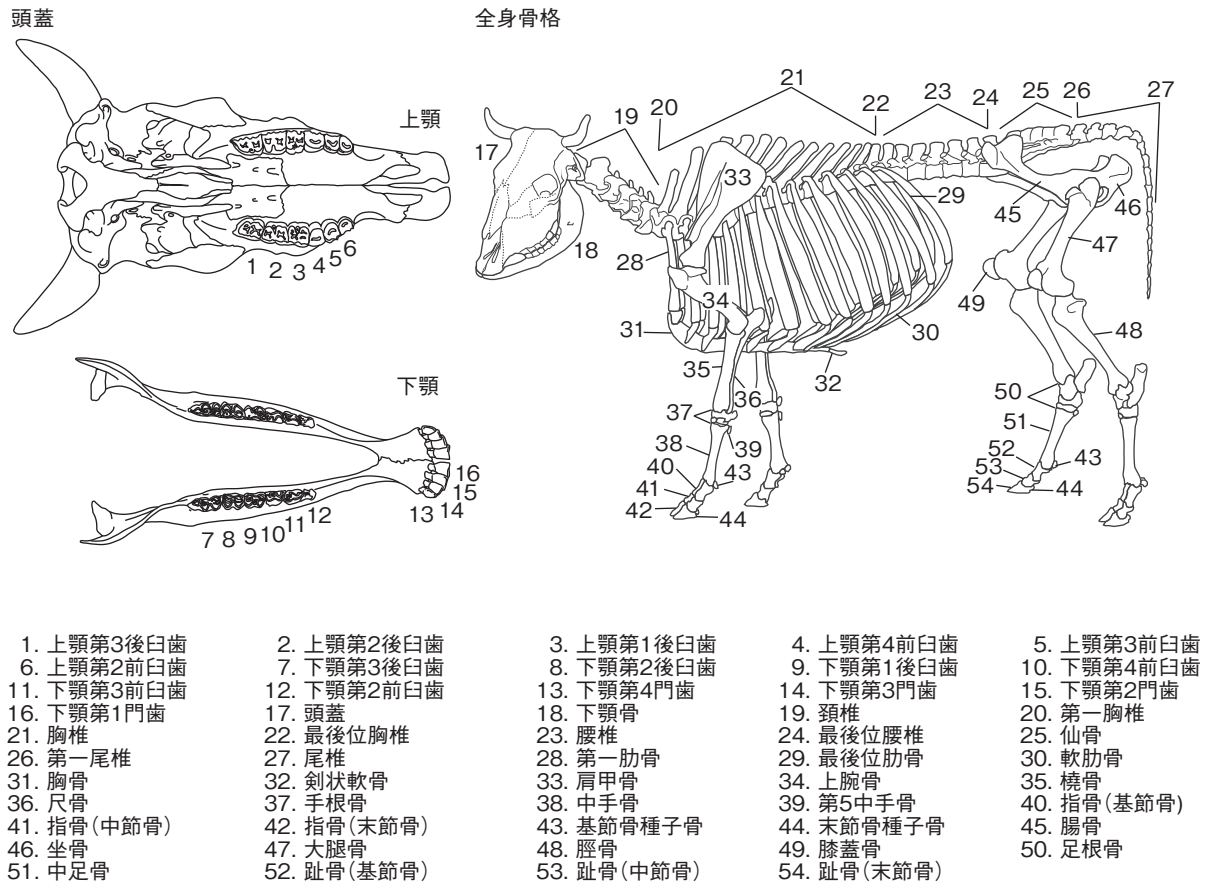
いため正確性に欠けると思われる。ただし、右下顎後臼歯列長から推定される体高が約108cm、M3部後方下顎体高61.69mmから推定される体高が約100cm程度となり、いずれにしても出土したウシは比較的小型であった可能性がある。松井（1997）によると、ウマ・ウシの出土例を整理・分類すると、自然死・事故死、屠殺、犠牲に分類できるとしている。今回の場合は、遺構内より下肢を曲げた状態で検出されている点を考えると、運搬や農耕などの使役に利用されたものが自然死あるいは事故死して埋葬された可能性もある。以上の結果、本遺構は、ウシ1個体を埋めるための遺構であったと考えられる。

表1. 骨同定結果

遺構	No.	種類	部位	左	右	部分	数量	備考	
SX02 (1号墓壙)	1-1	ウシ	下顎骨		左	破片	1		
		ウシ	下顎骨			破片	6		
		ウシ	下顎第3前臼歯	左		破片	1		
		ウシ	歯牙			破片	2		
		ウシ?	不明			破片	多数	9.76g	
	1-2	ウシ	下顎骨			右	破片	1	P3-M3植立
		ウシ	下顎第4前臼歯	左		破片	1		
		ウシ	下顎第1後臼歯	左		略完	1		
		ウシ	下顎第2後臼歯	左		略完	1		
		ウシ	下顎第2前臼歯			右	破片	1	
		ウシ	下顎第3前臼歯			右	破片	1	
		ウシ	歯牙				歯根片	2	
		ウシ	歯牙				破片	3	
		ウシ?	不明				破片	多数	7.65g
	1-3	ウシ	上顎骨?				破片	2	
		ウシ	上顎第3前臼歯	左		破片	1		
		ウシ	上顎第4前臼歯			右	破片	1	
		ウシ	上顎第1後臼歯			右	破片	1	
		ウシ	上顎第2後臼歯			右	破片	1	
		ウシ	上顎第3後臼歯			右	破片	1	
		ウシ	歯牙				歯根片	1	
		ウシ	歯牙				破片	5	
		ウシ?	不明				破片	多数	5.4g
	1-4	ウシ	距骨			右	破片	1	
		ウシ	踵骨			右	破片	1	
		ウシ?	四肢骨				破片	15	
		ウシ?	不明				破片	多数	50.86g
		残渣						多数	29.91g
	獣骨サンプル	ウシ?	四肢骨				破片	4	
		ウシ?	不明				破片	多数	42.65g
残渣							多数	37.22g	

注1) P:前臼歯 M:後臼歯

注2) ウシ? としたものは、他の結果や組成からみて、ウシの可能性が高いものである



- | | | | | |
|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 1. 上顎第3後臼歯 | 2. 上顎第2後臼歯 | 3. 上顎第1後臼歯 | 4. 上顎第4前臼歯 | 5. 上顎第3前臼歯 |
| 6. 上顎第2前臼歯 | 7. 下顎第3後臼歯 | 8. 下顎第2後臼歯 | 9. 下顎第1後臼歯 | 10. 下顎第4前臼歯 |
| 11. 下顎第3前臼歯 | 12. 下顎第2前臼歯 | 13. 下顎第4門歯 | 14. 下顎第3門歯 | 15. 下顎第2門歯 |
| 16. 下顎第1門歯 | 17. 頭蓋 | 18. 下顎骨 | 19. 頸椎 | 20. 第一胸椎 |
| 21. 胸椎 | 22. 最後位胸椎 | 23. 腰椎 | 24. 最後位腰椎 | 25. 仙骨 |
| 26. 第一尾椎 | 27. 尾椎 | 28. 第一肋骨 | 29. 最後位肋骨 | 30. 軟肋骨 |
| 31. 胸骨 | 32. 剣状軟骨 | 33. 肩甲骨 | 34. 上腕骨 | 35. 橈骨 |
| 36. 尺骨 | 37. 手根骨 | 38. 中手骨 | 39. 第5中手骨 | 40. 指骨(基節骨) |
| 41. 指骨(中節骨) | 42. 指骨(末節骨) | 43. 基節骨種子骨 | 44. 末節骨種子骨 | 45. 腸骨 |
| 46. 坐骨 | 47. 大腿骨 | 48. 脛骨 | 49. 膝蓋骨 | 50. 足根骨 |
| 51. 中足骨 | 52. 趾骨(基節骨) | 53. 趾骨(中節骨) | 54. 趾骨(末節骨) | |

図1. ウシ骨格各部の名称

(原図は、全身骨格・脳頭蓋が加藤・山内, 2003、下顎骨が久保・松井, 1999に加筆)

引用文献

- Angela von den Drieach, 1976, A Guide to the Measurement of Animal Bones from Archaeological Sites. Peabody Museum Bulletins 1. i-ix, 1-137.
- 加藤嘉太郎・山内 昭二, 2003, 新編 家畜比較解剖図説 上巻. 養賢堂, 315p.
- 久保 和士・松井 章, 1999, 家畜その2-ウマ・ウシ. 西本 豊弘・松井 章編, 考古学と自然科学② 考古学と動物学, 同成社, 169-208.
- 松井 章, 1997, 考古学からみた動物利用. 部落解放なら, 8, 奈良県部落解放研究所, 2-31.
- 西中川 駿・本田 道輝・松元 光春, 1991, 古代遺跡出土骨からみたわが国の牛、馬の渡来時期とその経路に関する研究. 平成2年度文部省科学研究費補助金(一般研究B)研究成果報告書, 99p.

2 放射性炭素年代 (AMS測定)

(株) 加速器分析研究所

1 測定対象試料

山口駒込 I 遺跡は、岩手県宮古市山口 2 丁目 217 ほかにも所在する。山間部南側の緩斜面で、調査区の東西に旧沢跡がある。測定対象試料は遺構内から出土した炭化物の合計 4 点である (表 1)。

試料 No. 1 が出土した竪穴建物は、出土土器から縄文時代中期前～中葉頃と考えられている。No. 2、3 が出土した土坑は縄文時代中期前～中葉頃の竪穴建物と重複し、土坑の方が古い。No. 4 が出土した墓墳からは、獣骨 (ウシと思われる) が出土している。

2 測定の意義

遺構の年代を明らかにする。

3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸 (AAA: Acid Alkali Acid) 処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常 1 mol/l (1M) の塩酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、0.001M から 1 M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1 M に達した時には「AAA」、1 M 未満の場合は「AaA」と表 1 に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO_2) を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。
- (6) グラファイトを内径 1 mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4 測定方法

加速器をベースとした ^{14}C -AMS専用装置 (NEC社製) を使用し、 ^{14}C の計数、 ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)、 ^{14}C 濃度 ($^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$) の測定を行う。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

- (1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (%) で表した値である (表 1)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ^{14}C 年代 (Libby Age: yrBP) は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期 (5568年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。 ^{14}C 年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2・3 に示した。

^{14}C 年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、 ^{14}C 年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMCが小さい (^{14}C が少ない) ほど古い年代を示し、pMCが100以上 (^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合Modernとする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2・3に示した。
- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差 ($1\sigma = 68.2\%$) あるいは2標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13データベース (Reimer et al. 2013) を用い、OxCalv4.3較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2・3、図版1・2に示した。なお、暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BP」または「cal BC/AD」という単位で表され、ここでは前者を表2、図版1に、後者を表3、図版2に示した。

6 測定結果

測定結果を表1～3、図版1・2に示す。較正年代は、No.1～4のすべてについてcal BC/ADで算出し、測定結果が縄文時代に相当するNo.1～3についてはcal BPでも算出した。以下の説明では、No.1～3をcal BP (表2、図版1)、No.4をcal BC/AD (表3、図版2) で記載した。

縄文時代の竪穴建物跡および重複する土坑から出土した試料の ^{14}C 年代は、No.1が $4200 \pm 20\text{yrBP}$ 、No.2が $4360 \pm 20\text{yrBP}$ 、No.3が $4370 \pm 20\text{yrBP}$ である。暦年較正年代 (1σ) は、No.1が $4830 \sim 4661\text{cal BP}$ 、No.2が $4960 \sim 4869\text{cal BP}$ 、No.3が $4960 \sim 4874\text{cal BP}$ の間に各々複数の範囲で示され、No.1が縄文時代中期中葉から後葉頃、No.2・3が中期中葉頃に相当する (小林編2008)。No.1が出土した竪穴建物の時期が縄文時代中期前～中葉頃とされること、およびそれより古い土坑からNo.2、3が出土していることと整合する。ウシと見られる獣骨が出土した土坑から出土した試料No.4の ^{14}C 年代は $600 \pm 20\text{yrBP}$ 、暦年較正年代 (1σ) は $1310 \sim 1396\text{cal AD}$ の間に3つの範囲で示される。試料の炭素含有率は、すべて60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

文献

- Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51 (1), 337-360
 小林達雄編 2008 総覧縄文土器, 総覧縄文土器刊行委員会, アム・プロモーション
 Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55 (4), 1869-1887
 Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19 (3), 355-363

表1 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料 形態	処理 方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-170814	No.1	5号竪穴建物 床面	炭化物	AAA	-25.07 ± 0.20	4,200 ± 20	59.31 ± 0.16
IAAA-170815	No.2	35号土坑 底面	炭化物	AAA	-27.78 ± 0.28	4,360 ± 20	58.09 ± 0.16
IAAA-170816	No.3	7号土坑 底面	炭化物	AAA	-26.06 ± 0.20	4,370 ± 20	58.04 ± 0.16
IAAA-170817	No.4	1号墓壇 埋土	炭化物	AAA	-25.51 ± 0.23	600 ± 20	92.78 ± 0.22

[IAA 登録番号 : #8634]

表2 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代 cal BP)

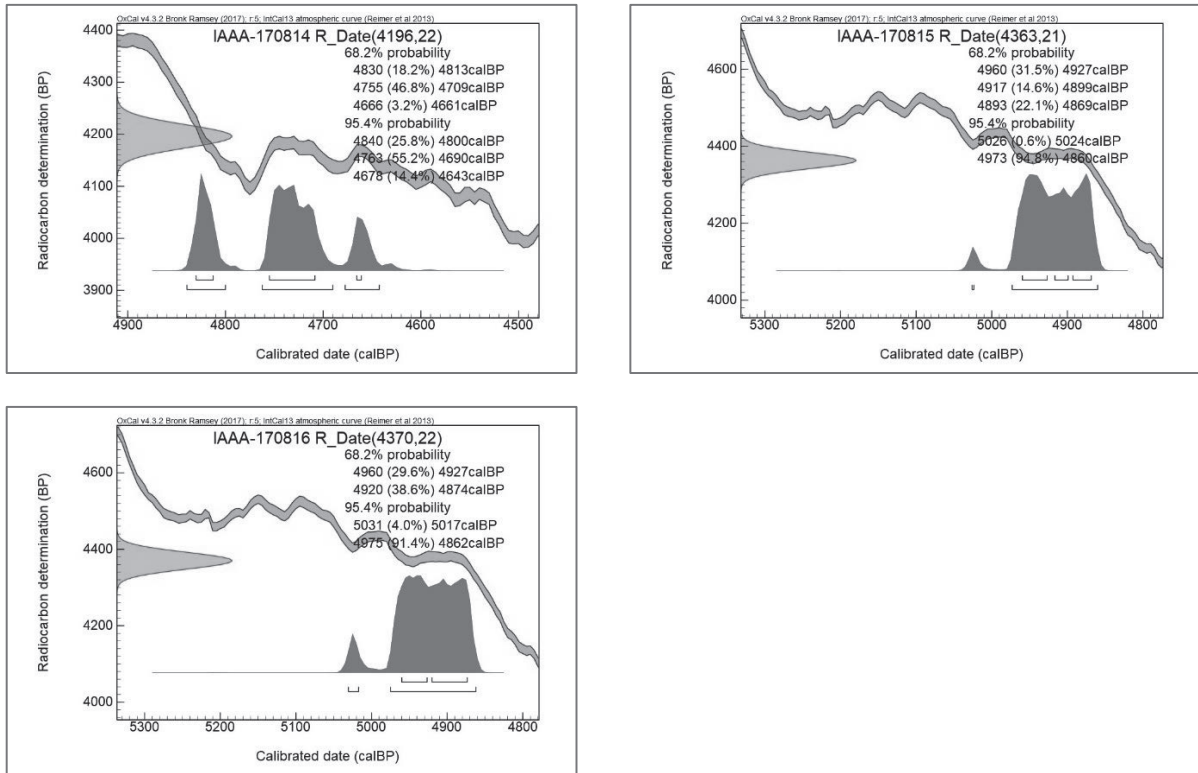
測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用(yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-170814	4,200 ± 20	59.30 ± 0.16	4,196 ± 22	4830calBP - 4813calBP (18.2%) 4755calBP - 4709calBP (46.8%) 4666calBP - 4661calBP (3.2%)	4840calBP - 4800calBP (25.8%) 4763calBP - 4690calBP (55.2%) 4678calBP - 4643calBP (14.4%)
IAAA-170815	4,410 ± 20	57.76 ± 0.15	4,363 ± 21	4960calBP - 4927calBP (31.5%) 4917calBP - 4899calBP (14.6%) 4893calBP - 4869calBP (22.1%)	5026calBP - 5024calBP (0.6%) 4973calBP - 4860calBP (94.8%)
IAAA-170816	4,390 ± 20	57.92 ± 0.16	4,370 ± 22	4960calBP - 4927calBP (29.6%) 4920calBP - 4874calBP (38.6%)	5031calBP - 5017calBP (4.0%) 4975calBP - 4862calBP (91.4%)

[参考値]

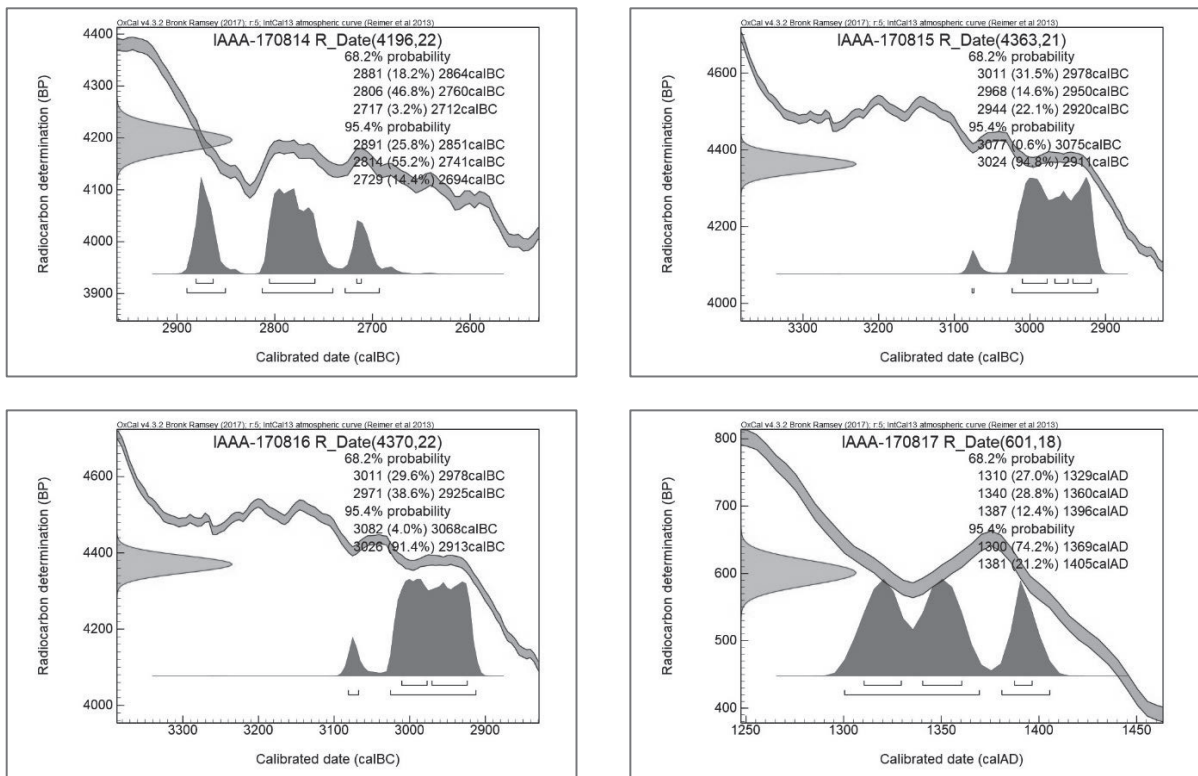
表3 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代 cal BC/AD)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用(yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-170814	4,200 ± 20	59.30 ± 0.16	4,196 ± 22	2881calBC - 2864calBC (18.2%) 2806calBC - 2760calBC (46.8%) 2717calBC - 2712calBC (3.2%)	2891calBC - 2851calBC (25.8%) 2814calBC - 2741calBC (55.2%) 2729calBC - 2694calBC (14.4%)
IAAA-170815	4,410 ± 20	57.76 ± 0.15	4,363 ± 21	3011calBC - 2978calBC (31.5%) 2968calBC - 2950calBC (14.6%) 2944calBC - 2920calBC (22.1%)	3077calBC - 3075calBC (0.6%) 3024calBC - 2911calBC (94.8%)
IAAA-170816	4,390 ± 20	57.92 ± 0.16	4,370 ± 22	3011calBC - 2978calBC (29.6%) 2971calBC - 2925calBC (38.6%)	3082calBC - 3068calBC (4.0%) 3026calBC - 2913calBC (91.4%)
IAAA-170817	610 ± 20	92.68 ± 0.21	601 ± 18	1310calAD - 1329calAD (27.0%) 1340calAD - 1360calAD (28.8%) 1387calAD - 1396calAD (12.4%)	1300calAD - 1369calAD (74.2%) 1381calAD - 1405calAD (21.2%)

[参考値]



【図版 1】暦年較正年代グラフ (cal BP、参考)



【図版 2】暦年較正年代グラフ (cal BC/AD、参考)

3 火山灰分析

株式会社 火山灰考古学研究所

1. はじめに

東北地方北部の三陸沿岸域の地層や土壌の中には、十和田、岩手、秋田駒ヶ岳、焼石、鳴子、肘折、愛島、沼沢などの東北地方の火山のほか、洞爺、浅間、榛名、御岳、三瓶、阿蘇、始良、鬼界など遠方の火山に由来するテフラ（火山碎屑物、いわゆる火山灰）が数多く認められる。とくに、後期更新世以降に降灰したそれらの多くについては、層相や年代さらに岩石記載的な特徴がテフラ・カタログ（町田・新井，1992，2003，2011）に収録されており、考古遺跡などで調査分析を行い年代や層位が明らかな指標テフラを検出することで、地形や地層の形成年代さらには考古遺物や遺構の年代などに関する情報を得られるようになっている。

宮古市山口駒込Ⅰ遺跡の発掘調査でも火山灰層が検出されたことから、発掘調査担当者により採取された試料を対象に、実験室内でテフラ分析（テフラ検出分析，テフラ組成分析，屈折率測定）を実施して、すでに年代が明らかにされている指標テフラとの同定を行うことになった。

2. 分析試料

テフラ分析の対象となった試料は、次の試料1～3の3点である。

（1）試料1

調査区西側のⅡA3tグリッドから採取された試料である。採取当時の写真を見ると、黄色細粒火山灰と灰色砂質細粒火山灰の2ユニットから構成される火山灰ブロックから採取されたものと推定される。

（2）試料2

調査区東側のⅡB5nグリッドから採取された試料である。採取当時の写真を見ると、比較的残りが良い黄色細粒火山灰層から採取されたように考えられる。

（3）試料3

調査区東側のⅡB5bグリッドから採取された試料である。採取当時の写真を見ると、やはり、比較的残りが良い黄色細粒火山灰層から採取されたように考えられる。

3. テフラ検出分析

（1）分析方法

試料1～3に含まれるテフラの量や特徴を定性的に把握するために、テフラ検出分析を実施した。分析の手順は次のとおりである。

- 1) 試料10gを秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 80℃で恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下でテフラ粒子の相対的な量や特徴を観察。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表1に示す。いずれの試料からも、比較的粗粒な軽石やスコリアは検出されなかった。試料に含まれる特徴は次のとおりで、含まれる粒子の傾向はよく似ている。

試料1

試料1には、繊維束状やスポンジ状に発泡した軽石型火山ガラスが多く含まれている。不透明鉱物（おもに磁鉄鉱）以外の重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石のほか、少量の角閃石が認められる。

試料2

試料2には、繊維束状やスポンジ状に発泡した軽石型火山ガラスが多く含まれている。不透明鉱物（おもに磁鉄鉱）以外の重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石のほか、少量の角閃石が認められる。

試料3

試料3には、繊維束状やスポンジ状に発泡した軽石型火山ガラスが多く含まれている。不透明鉱物（おもに磁鉄鉱）以外の重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石のほか、少量の角閃石が認められる。

4. テフラ組成分析（火山ガラス比分析・重鉱物組成分析）

(1) 分析試料と分析方法

試料1～3を対象に、火山ガラスの形態色調別含有率と、重鉱物や軽鉱物の含有率を合わせて求める火山ガラス比分析と、重鉱物組成分析（火山ガラス比分析と合わせてテフラ組成分析とする）を実施して、火山ガラスの色調形態別含有率を求め、重鉱物組成上の特徴を定量的に明らかにした。分析の手順は次のとおりである。

- 1) テフラ検出分析終了後の試料から、分析篩により1/4～1/8mmと1/8～1/16mmの粒子を篩別。
- 2) 偏光顕微鏡下で1/4～1/8mm粒径の250粒子を観察し、火山ガラスの色調・形態別含有率ならびに軽鉱物や重鉱物の含有率を求める。
- 3) 偏光顕微鏡下で1/4～1/8mm粒径の重鉱物250粒子を観察し、重鉱物組成を求める。

(2) 分析結果

テフラ組成分析の結果を図1に、火山ガラス比分析と重鉱物組成分析の結果を表2と表3に示す。

試料1

試料1における火山ガラス、軽鉱物、重鉱物の含有率は、順に33.2%、28.4%、6.0%で、火山ガラスの含有率が高い。この試料に含まれる火山ガラスは、含有率が高い順に、スポンジ状軽石型（15.2%）、分厚い中間型（10.8%）、繊維束状軽石型（6.8%）、無色透明バブル型（0.4%）である。不透明鉱物（おもに磁鉄鉱）をのぞく重鉱物としては、順に斜方輝石（37.2%）、単斜輝石（12.4%）、角閃石（12.0%）、黒雲母（1.2%）が認められる。

試料2

試料2における火山ガラス、軽鉱物、重鉱物の含有率は、順に16.8%、65.6%、7.2%で、軽鉱物の含有率が高い。この試料に含まれる火山ガラスは、含有率が高い順に、中間型および繊維束状軽石型（各6.8%）、スポンジ状軽石型（2.4%）、無色透明バブル型（0.8%）である。不透明鉱物（おもに磁鉄鉱）をのぞく重鉱物としては、順に斜方輝石（46.8%）、単斜輝石（16.0%）、角閃石（2.8%）が認められる。

試料3

試料3における火山ガラス、軽鉱物、重鉱物の含有率は、順に11.2%、60.0%、15.2%で、軽鉱物が多く含まれるほか、重鉱物の含有率もやや高い。不透明鉱物（おもに磁鉄鉱）をのぞく重鉱物としては、順に、斜方輝石（25.0%）、単斜輝石（14.0%）、角閃石（10.4%）、黒雲母（1.2%）が認められる。

5. 屈折率測定（火山ガラス）

（1）測定試料と測定方法

試料1～3に含まれる火山ガラスの屈折率測定を行って、指標テフラとの同定精度の向上を図った。測定対象は1/8～1/16mmの火山ガラスで、温度変化型屈折率測定法（壇原，1993）に従って測定を実施した。

（2）測定結果

屈折率の測定結果を表4に示す。この表には、宮城県北部周辺の後期更新世後半以降の代表的な指標テフラの火山ガラスの屈折率特性も合わせて示した。

試料1

試料1に含まれる火山ガラス（30粒子）の屈折率（n）は、1.510-1.514である。

試料2

試料2に含まれる火山ガラス（33粒子）の屈折率（n）は、1.510-1.514である。

試料3

試料3に含まれる火山ガラス（30粒子）の屈折率（n）も、1.510-1.514である。

6. 考 察

テフラ分析（テフラ検出分析・テフラ組成分析・屈折率測定）の結果、試料1～3に多く含まれるテフラ粒子は、無色透明の繊維束状やスポンジ状軽石型ガラスや、分厚い中間型ガラスに富み、斜方輝石や単斜輝石を多く含むいわゆる両輝石型の重鉱物の組み合わせをもつ可能性が高いことが明らかになった。これらの特徴に、現地での層相や火山ガラスの屈折率特性を合わせると、このテフラは、約6,000年前の十和田中掬テフラ（To-Cu，大池ほか，1966，早川1983，町田・新井，1992，2003，2011）に同定される。

なお、試料1や試料3では、角閃石の含有率がやや高いが、テフラ・カタログ（町田・新井，2011など）には角閃石の存在が記載されていないことから、わずかに検出された黒雲母と同様に、異質（外

来)の鉱物と考えられる。ただし、試料1では、ほかの2試料と比較して火山ガラスの含有率が高く、一見、試料の純度が高いように思われる。この理由に関して、詳細な理由は不明であるが、試料採取時の写真をみると、試料1は、ほかの試料と異なって、灰色の砂質細粒火山灰層も一緒に採取されており、試料採取対象ユニットがほかと異なるように思われる。つまり、火山ガラスの含有率の違いは、各ユニットの火山ガラスの含有率の違いに起因する可能性がある。

いずれにしても、試料の純度なども関係する可能性があることから、テフラの試料採取にあたっては、テフラの堆積構造など詳細を把握した上で、ユニットごとに高純度の試料採取を行う必要がある。

7. ま と め

宮古市山口駒込I遺跡のテフラ試料3点を対象として、テフラ分析(テフラ検出分析・火山ガラス比分析・屈折率測定)を実施した。その結果、3試料が採取されたテフラ層あるいはテフラ・ブロックは、いずれも十和田中堰テフラ(To-Cu, 約6,000年前)の可能性が高いことが明らかになった。

文献

- 新井房夫(1972)斜方輝石・角閃石の屈折率によるテフラの同定—テフロクロロジーの基礎的研究。第四紀研究, 11, p.254-269.
- 新井房夫(1993)温度一定型屈折率測定法。日本第四紀学会編「第四紀研究試料分析法2」, p.136-149.
- 壇原 徹(1993)温度変化型屈折率測定法。日本第四紀学会編「第四紀試料分析法2」, 東京大学出版会, p.149-158.
- 早川由紀夫(1983)十和田中堰テフラ層の分布, 粒度, 組成, 年代。火山, 28, p.263-273.
- 町田 洋・新井房夫(1992)「火山灰アトラス」。東京大学出版会, 276p.
- 町田 洋・新井房夫(2003)「新編火山灰アトラス」。東京大学出版会, 336p.
- 町田 洋・新井房夫(2011)「新編火山灰アトラス(第2刷)」。東京大学出版会, 336p.
- 大池昭二・中川久夫・七崎 修・松山 力・米倉伸之(1966)馬淵川中・下流沿岸の段丘と火山灰。第四紀研究, 5, p.29-35.

3 火山灰分析

表1 テフラ検出分析結果

試料(採取地点)	軽石・スコリア			火山ガラス			重鉱物 (不透明鉱物以外)
	量	色調	最大径	量	形態	色調	
試料1(IIA3tグリッド)				***	pm(fb, sp)	無色透明, 白	opx, cpx, (am)
試料2(IIB5nグリッド)				***	pm(fb, sp)	無色透明, 白	opx, cpx, (am)
試料3(IIB5bグリッド)				***	pm(fb, sp)	無色透明, 白	opx, cpx, (am)

****: とくに多い, ***: 多い, **: 中程度, *: 少ない, bw: バブル型, md: 中間型, pm: 軽石型, sc: スコリア型, sp: スポンジ状, fb: 繊維束状, ol: カンラン石, opx: 斜方輝石, cpx: 単斜輝石, am: 角閃石, bi: 黒雲母, () : 量が少ないことを示す.

表2 火山ガラス比分析結果

試料(採取地点)	火山ガラス						軽鉱物	重鉱物	その他	合計
	bw(cl)	bw(pb)	bw(br)	md	pm(sp)	pm(fb)				
試料1(IIA3tグリッド)	1	0	0	27	38	17	71	15	81	250
試料2(IIB5nグリッド)	2	0	0	17	6	17	164	18	26	250
試料3(IIB5bグリッド)	1	0	0	14	9	4	150	38	34	250

bw: バブル型, md: 中間型, pm: 軽石型, sc: スコリア型, cl: 無色透明, pb: 淡褐色, br: 褐色, sp: スポンジ状, fb: 繊維束状, 数字は粒子数.

表3 重鉱物組成分析結果

試料(採取地点)	ol	opx	cpx	am	bi	opq	その他	合計
試料1(IIA3tグリッド)	0	93	31	30	3	85	8	250
試料2(IIB5nグリッド)	0	117	40	7	0	83	3	250
試料3(IIB5bグリッド)	0	100	35	26	3	80	6	250

ol: カンラン石, opx: 斜方輝石, cpx: 単斜輝石, am: 角閃石, bi: 黒雲母, opq: 不透明鉱物(黒色で光沢をもつもの). 数字は粒子数.

表4 屈折率測定結果

地点・試料・指標テフラ	火山ガラス		文献
	屈折率(n)	測定点数	
山口駒込I遺跡・試料1(IIA3tグリッド)	1.510-1.514	30	本報告
山口駒込I遺跡・試料2(IIB5nグリッド)	1.510-1.514	33	本報告
山口駒込I遺跡・試料3(IIB5bグリッド)	1.510-1.514	30	本報告

三陸沿岸地域の指標テフラ(後期更新世以降)

十和田 a (To-a)	岩手周辺 宮城周辺	1.500-1.508 1.503-1.507	町田・新井(2011) 町田・新井(2011)
十和田 b (To-b)		1.496-1.508	町田・新井(2011)
十和田中振(To-Cu)		1.508-1.512	町田・新井(2011)
十和田南部(To-Nb)		1.512-1.517	町田・新井(2011)
秋田駒柳沢(Ak-Y)		未詳	町田・新井(2011)
肘折尾花沢(Hj-O)		1.499-1.504	町田・新井(2011)
秋田駒小岩井(Ak-K)		未詳	町田・新井(2011)
十和田八戸(To-H)		1.505-1.509	町田・新井(2011)
浅間板鼻黄色(As-YP)		1.501-1.505	町田・新井(2011)
鳴子潟沼上原(Nk-U)		1.492-1.500	町田・新井(2011)
始良Tn(AT)		1.498-1.501	町田・新井(2011)
十和田大不動(To-Of)		1.505-1.511	町田・新井(2011)
西岩手雪浦・生出(Iw-Y, Od)		1.508-1.508	町田・新井(2011)
鳴子柳沢(Nr-Y)		1.500-1.503	町田・新井(2011)
焼石山形(Yk-Y)		1.501-1.503	町田・新井(2011)
焼石村崎野(Yk-M)		1.503-1.508	町田・新井(2011)
十和田川口(Kw)		未詳	町田・新井(2011)
阿蘇4(Aso-4)		1.506-1.510	町田・新井(2011)
鳴子荷坂(Nr-N)		1.500-1.502	町田・新井(2011)
肘折北原(Hj-Kth)		1.499-1.502	町田・新井(2011)
三瓶木次(SK)		1.496-1.498	町田・新井(2011)
洞爺(Toya)		1.494-1.498	町田・新井(2011)

本報告における屈折率の測定は、温度変化型屈折率測定法(壇原, 1993)による。
テフラ・カタログ(町田・新井, 2011)の屈折率測定は、温度一定型屈折率測定法(新井, 1972, 1993)による。

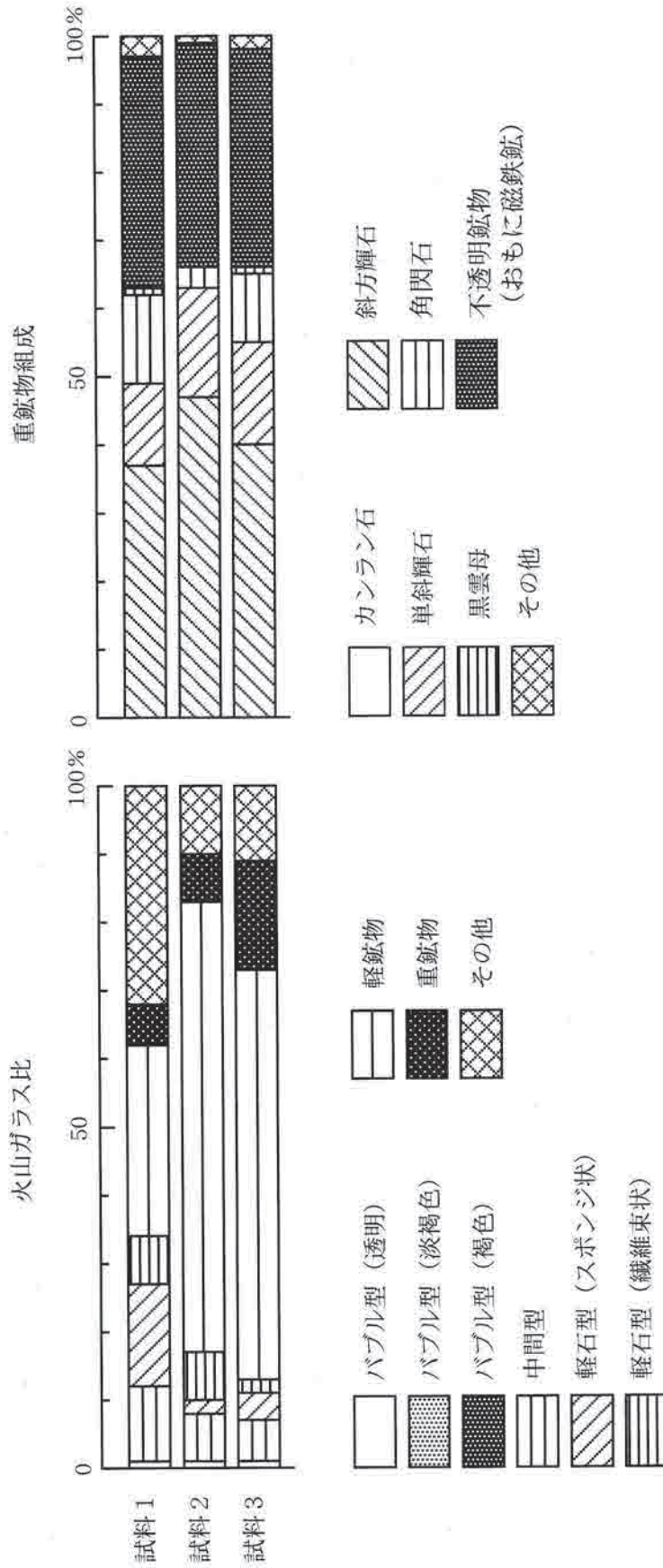
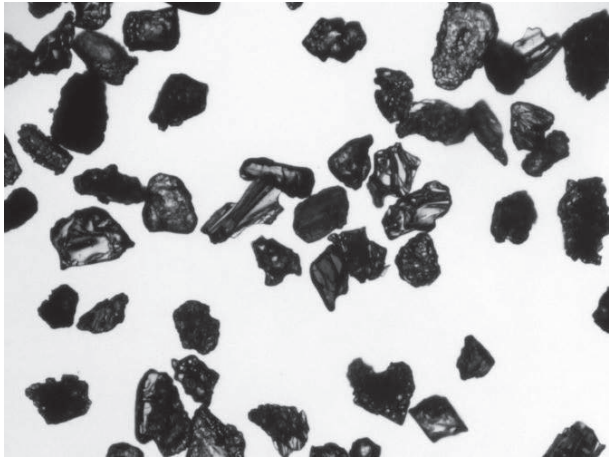


図1 山口駒込I遺跡のテフラ組成ダイヤグラム



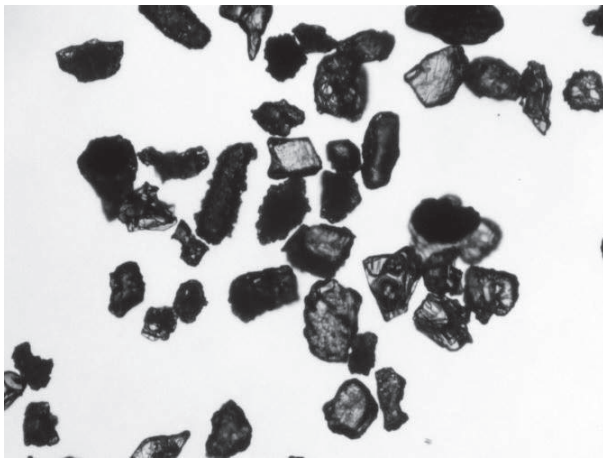
0.2mm

写真1 試料1

中央左・中央右：繊維束状軽石型ガラス.

中央上（有色鉱物）：斜方輝石.

中央下：角閃石.

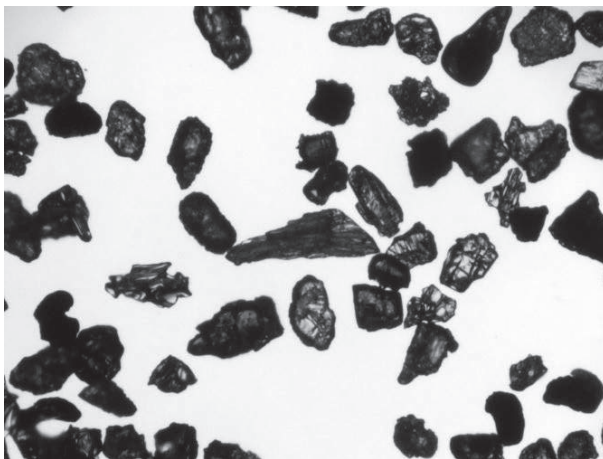


0.2mm

写真2 試料2

中央：スポンジ状軽石型ガラス

中央左（有色鉱物）：斜方輝石（ガラス附着）.



0.2mm

写真3 試料3

中央・中央左：繊維束状軽石型ガラス.

中央左・中央右下（有色鉱物）：斜方輝石.

中央左下（有色鉱物）：単斜輝石.

写 真 图 版



遺跡遠景・S→



調査区全景・上が北



調査前風景・E→



調査区近景・NW→

写真図版2 調査前風景、調査区1



調査区近景・E→



調査区東側・N→



調査区南側完掘・W→



基本土層・W→

写真図版4 調査区3、基本土層



全景・S→



埋土断面・E→



炉平面・E→



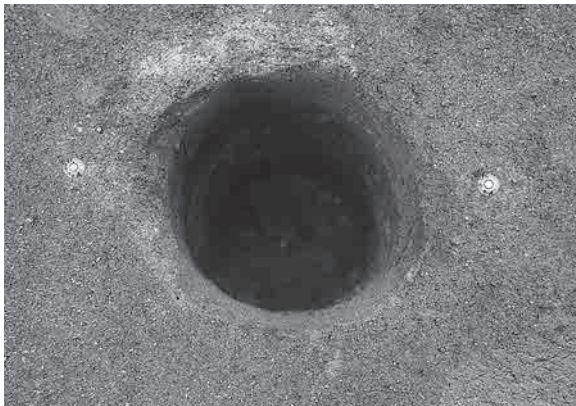
炉埋土断面・E→



炉烧成面断面・E→



炉烧成面断面・S→



P1完掘・E→



P1断面・E→



P2完掘・E→



P2断面・E→



2・5号竖穴建物全景・S→



5号竖穴建物埋土断面・N→



5号竖穴建物埋土断面・W→



焼土検出・W→



焼土断面・W→



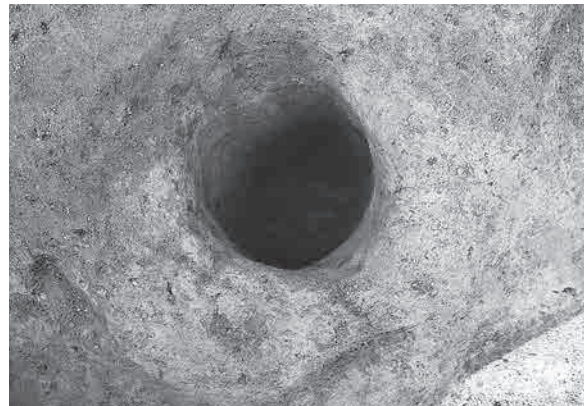
P1完掘・W→



P1断面・W→



P2断面・W→



P3完掘・SE→



P3断面・SE→



P5断面・S→



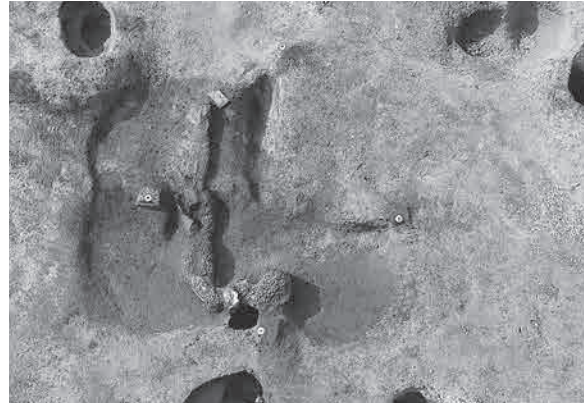
全景・SE→



埋土断面・S→



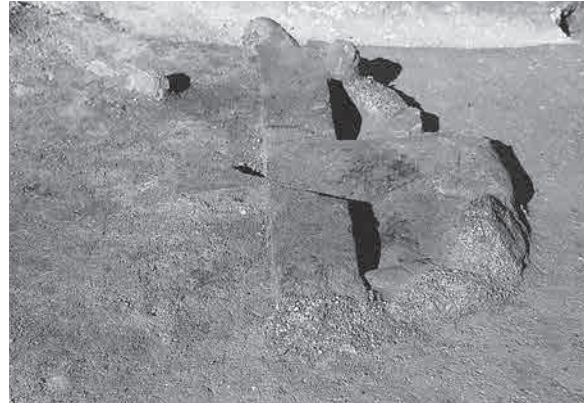
炉東側検出・S→



炉西側検出・SE→



炉埋土断面・W→



炉埋土断面・S→



炉焼成面断面・S→



炉焼成面断面'・W→



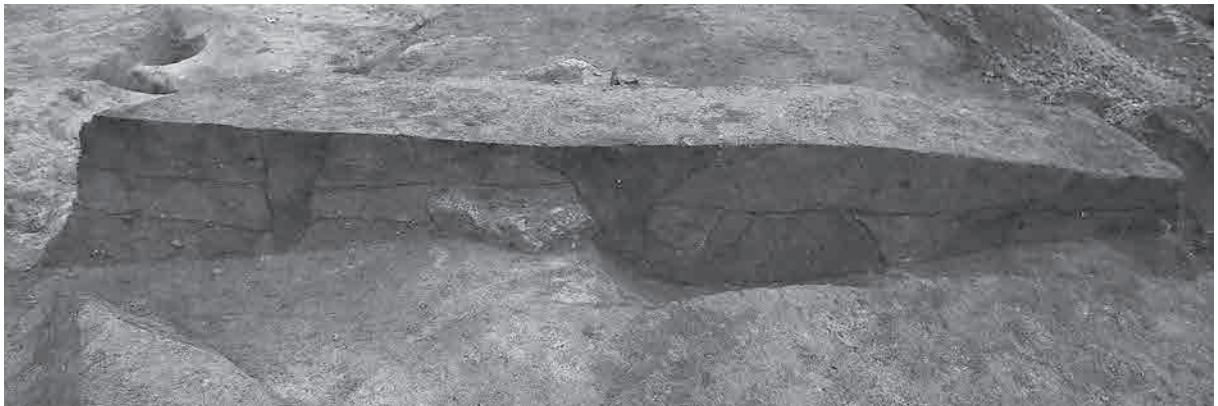
土器出土状況1・W→



土器出土状況2・E→



全景・E→



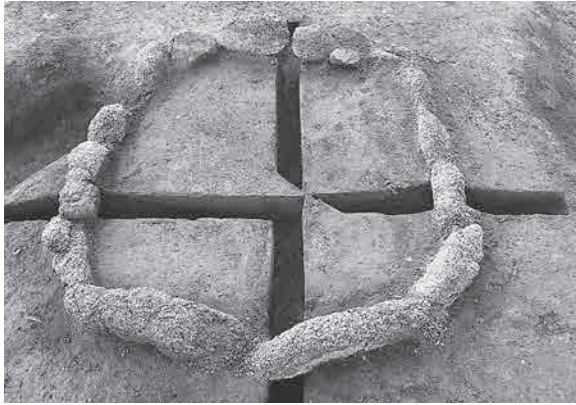
埋土断面・W→



炉全景・E→



炉断面・E→



炉焼成面断面・E→



炉焼成面断面・S→



烧土1 検出・S→



烧土1 断面・SW→



烧土2 検出・S→



烧土2 断面・S→



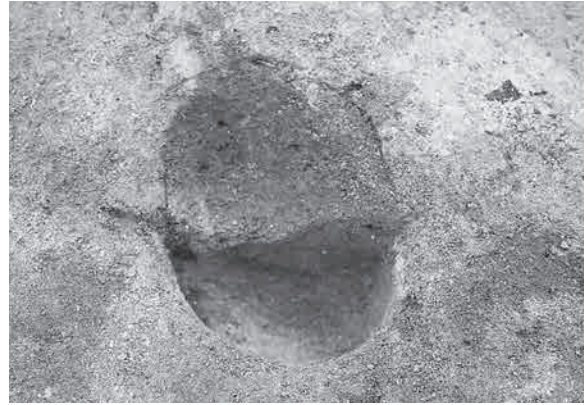
烧土3 検出・S→



烧土3 断面・S→



P1断面・S→



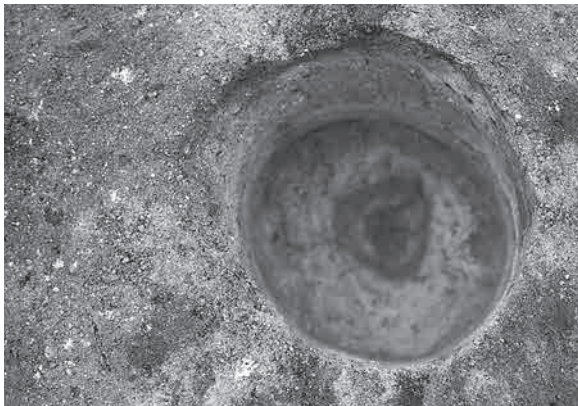
P2断面・S→



P3完掘・SE→



P3断面・SE→



P4完掘・N→



P4断面・SE→



P5完掘・S→



P5断面・S→



P7完掘・S→



P7断面・S→



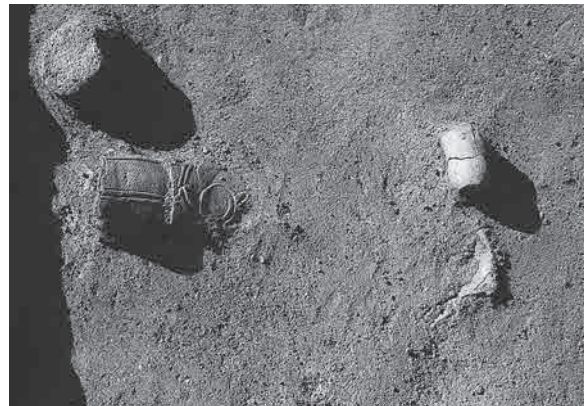
P8完掘・S→



P8~P10完掘・S→



P8・P9断面・S→



土器出土状況1・E→



土器出土状況2・N→



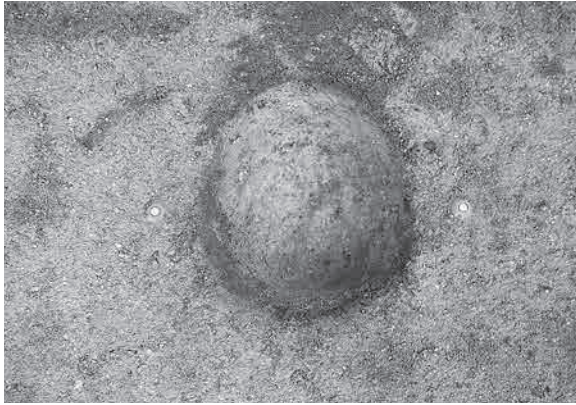
土器出土状況3・N→



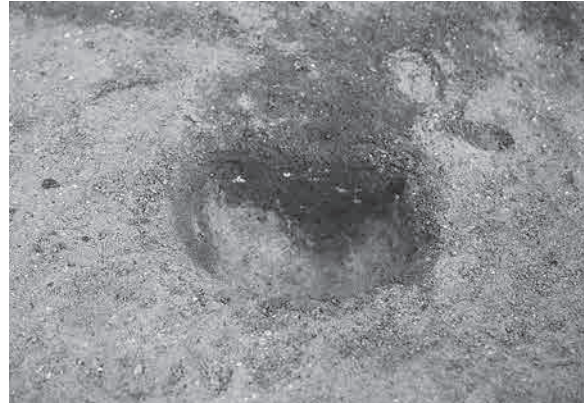
完掘・S→



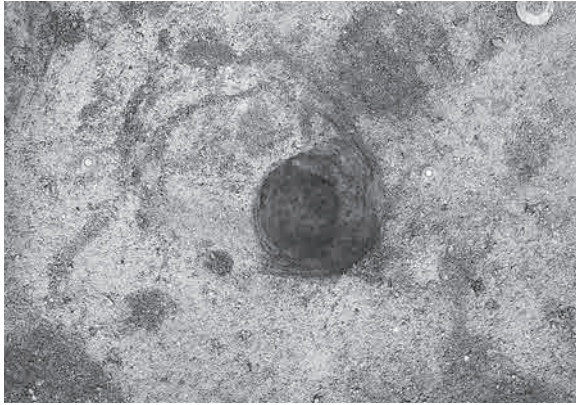
埋土断面・SW→



P1完掘・S→



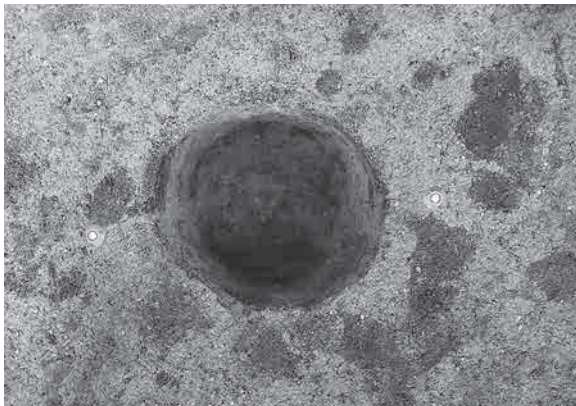
P1断面・S→



P2完掘・S→



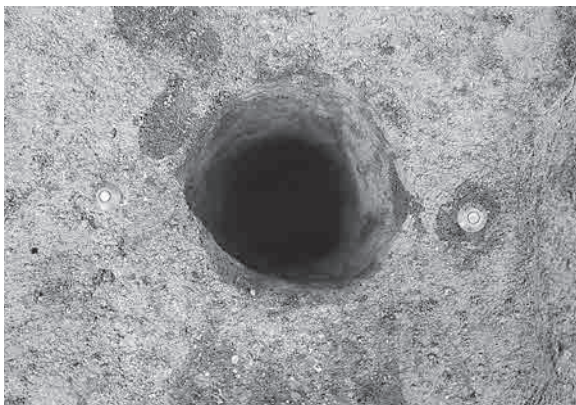
P2断面・S→



P3完掘・S→



P3断面・S→



P4完掘・S→



P4断面・S→



全景・W→



埋土断面・W→



全景・W→

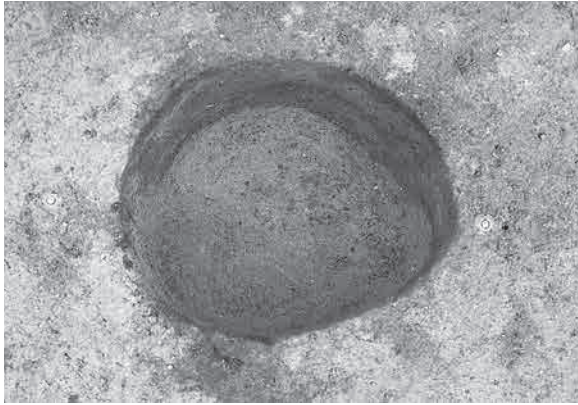


埋土断面 (A-A')・E→



埋土断面 (B-B')・E→

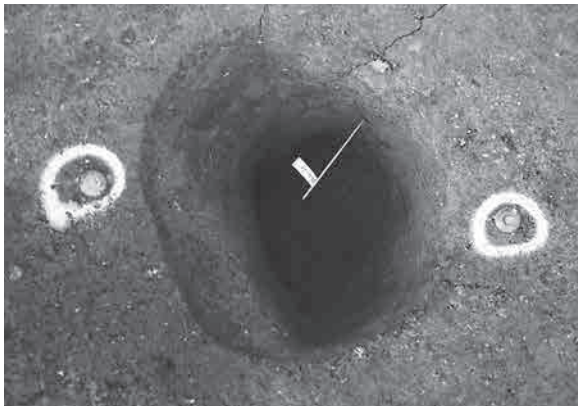
写真図版18 8号竪穴建物、9号竪穴建物1



P1完掘・S→



P1断面・S→



P3完掘・S→



P3断面・S→



P8完掘・S→



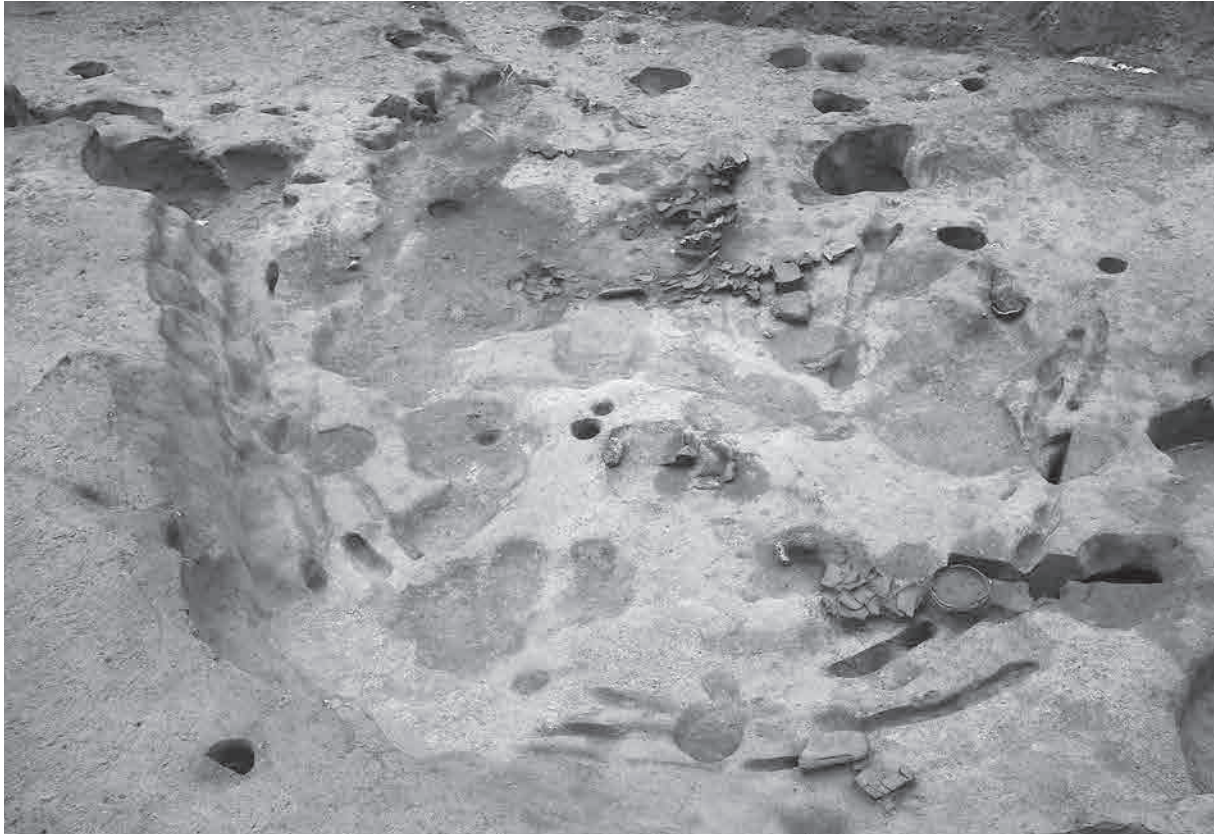
P8断面・S→



P16完掘・S→



P16断面・N→

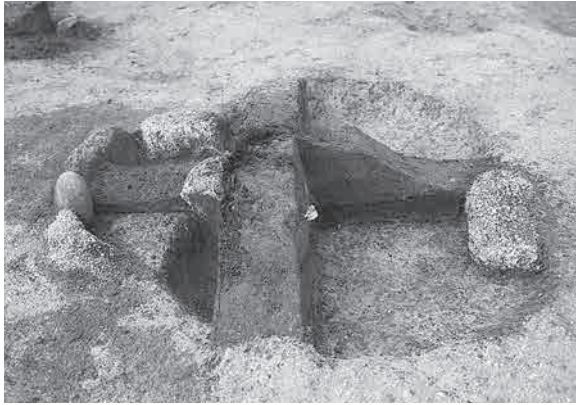


10・11号竪穴建物全景・N→

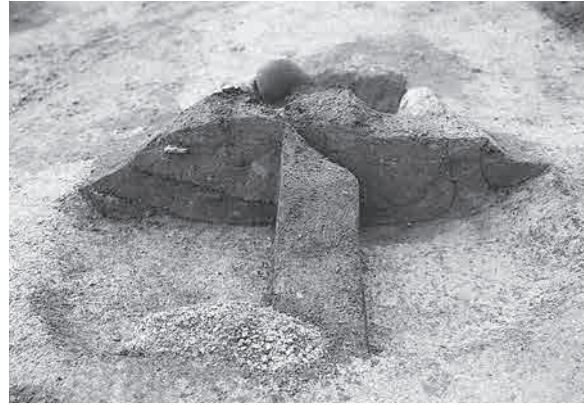


10号竪穴建物埋土断面・E→

写真図版20 10号竪穴建物1、11号竪穴建物1



炉1埋土断面・S→



炉1埋土断面・E→



炉1烧成面断面・S→



炉2全景・E→



炉2埋土断面・S→



炉2埋土断面・E→



炉2烧成面断面・S→



炉2烧成面断面・E→



10号竖穴建物内遺物出土状況①・S→



10号竖穴建物内遺物出土状況②・S→



11号竖穴建物全景・S→



11号竖穴建物埋土内集石検出状況・W→



11号竖穴建物内遺物出土状況①・E→



11号竖穴建物内遺物出土状況②・N→



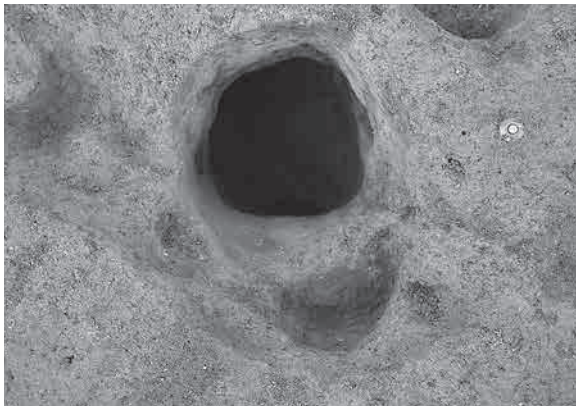
11号竖穴建物内遺物出土状況③・E→



10・11号竖穴建物精査状況・N→



全景・E→



P2完掘・S→



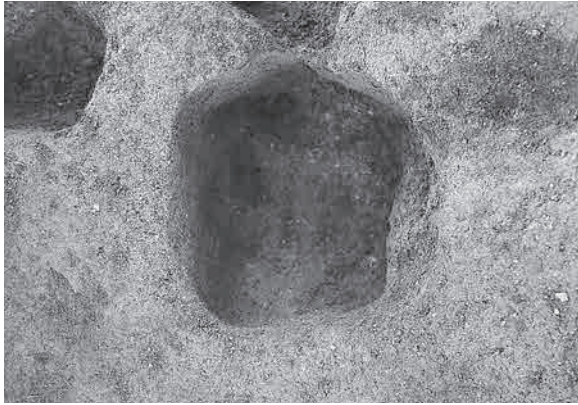
P2断面・S→



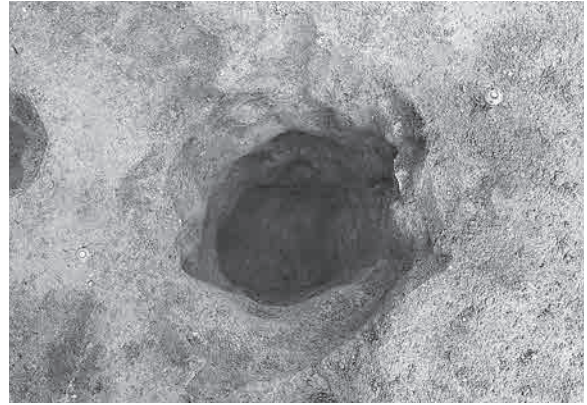
P3断面・S→



P4完掘・W→



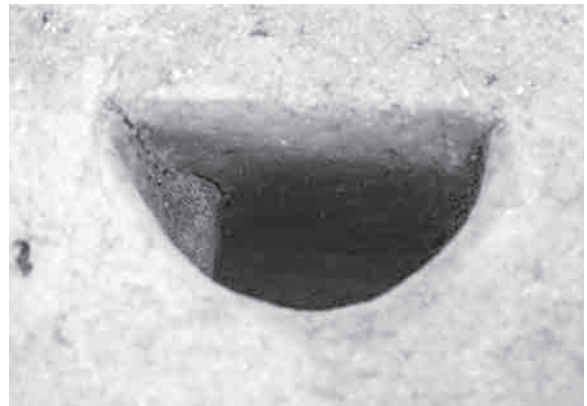
P5完掘・E→



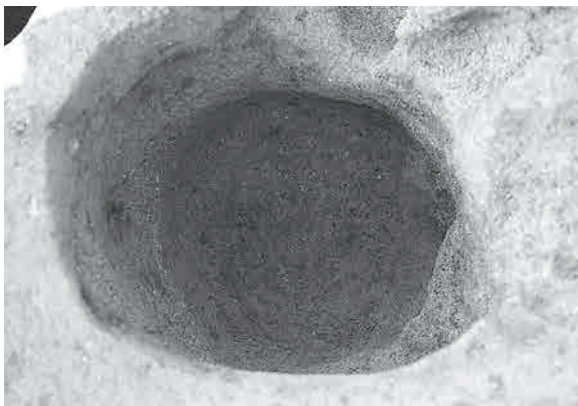
P8完掘・S→



P6完掘・W→



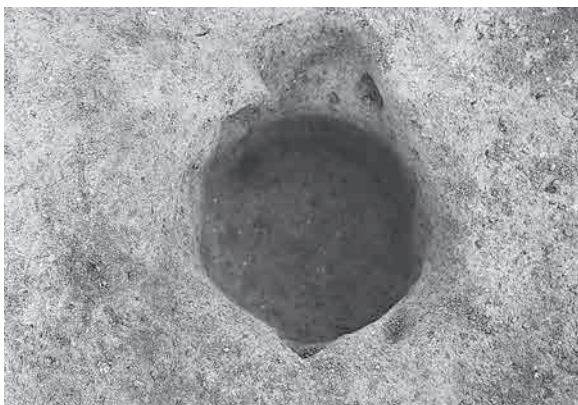
P6断面・S→



P10完掘・E→



P10断面・S→



P9完掘・W→



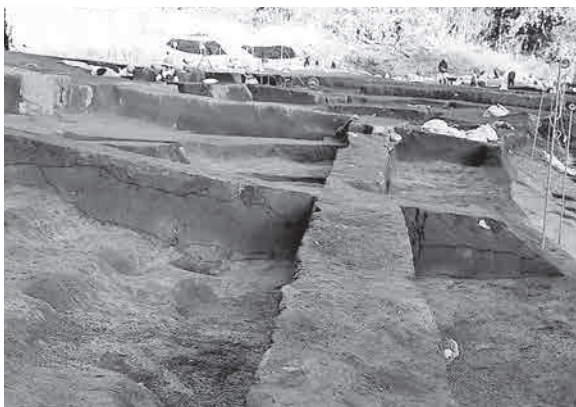
P11完掘・E→



全景・NE→



埋土断面・S→



埋土断面・W→



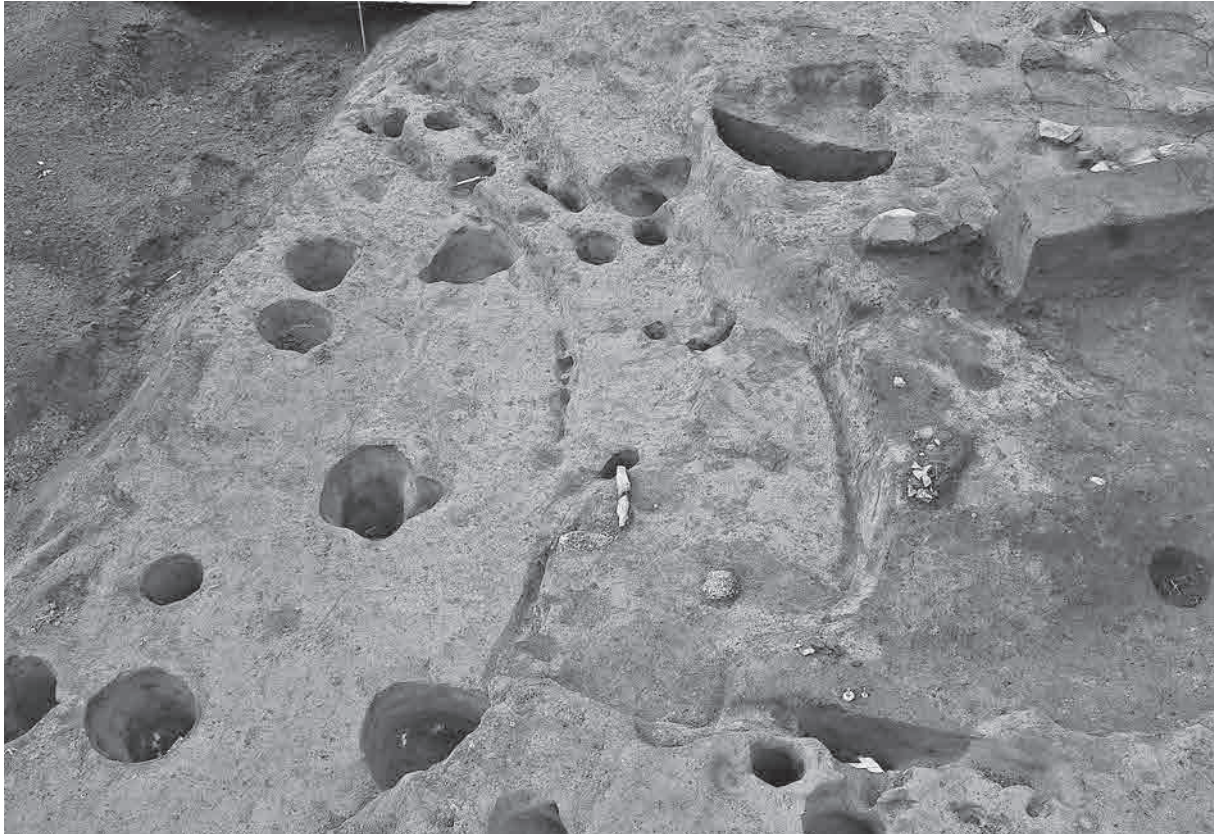
土器出土状況・SW→



全景・S→



埋土断面・W→



全景・E→



埋土断面・E→



炉全景・E→



炉埋土断面・E→



炉焼成面断面・E→



全景・W→

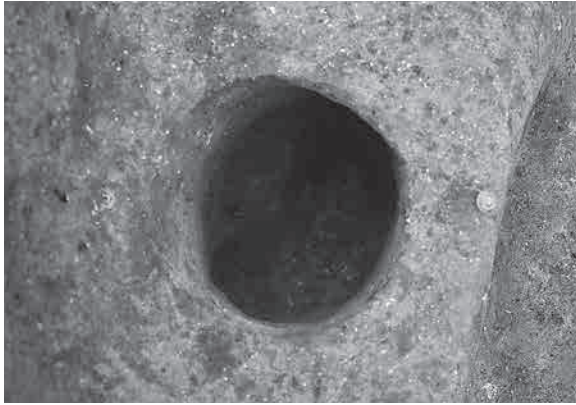


埋土断面・W→

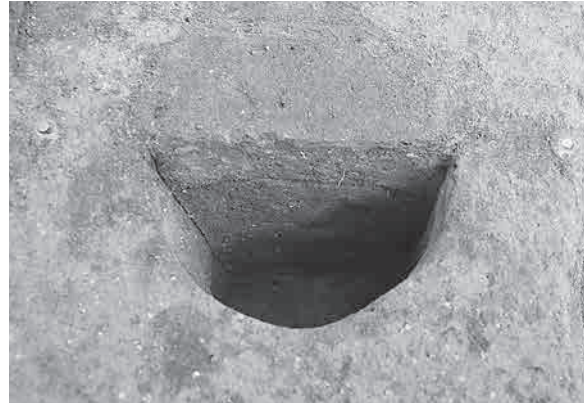


埋土断面・N→

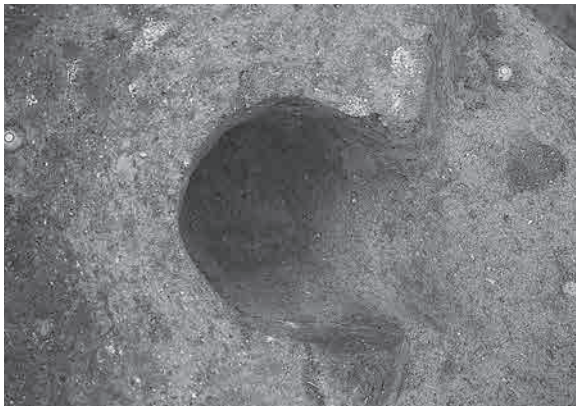
写真図版28 16号豎穴建物1、17号豎穴建物1



P1完掘・S→



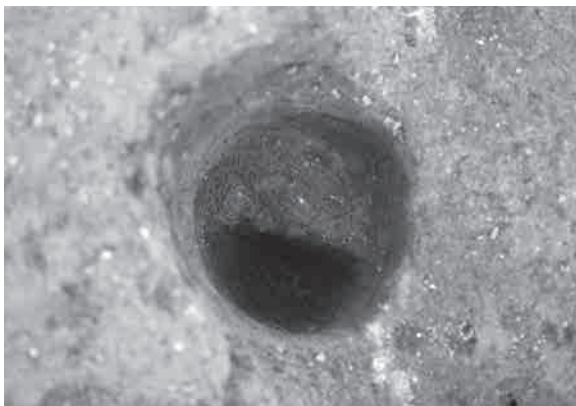
P1断面・S→



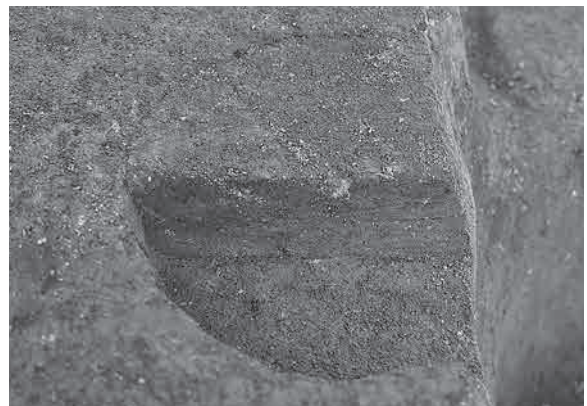
P2完掘・S→



P2断面・S→



P3断面・SW→



P4断面・S→



P5断面・E→



P6断面・N→



16号竖穴建物P7断面・S→



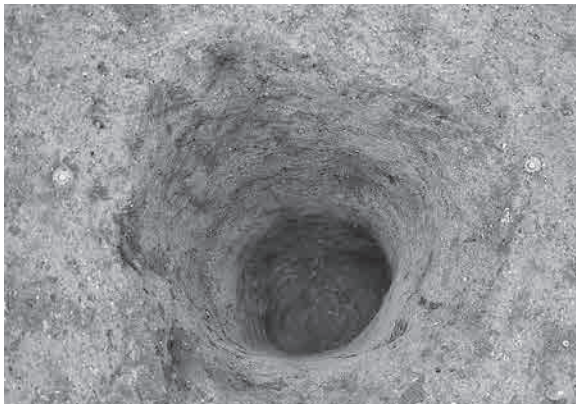
16号竖穴建物P9断面・W→



17号竖穴建物P1完掘・S→



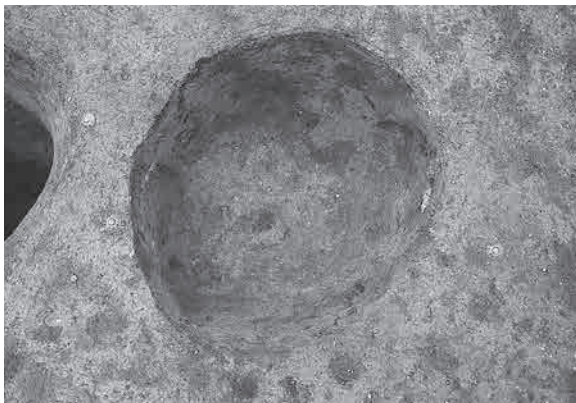
17号竖穴建物P1断面・S→



17号竖穴建物P2完掘・S→



17号竖穴建物P2断面・S→

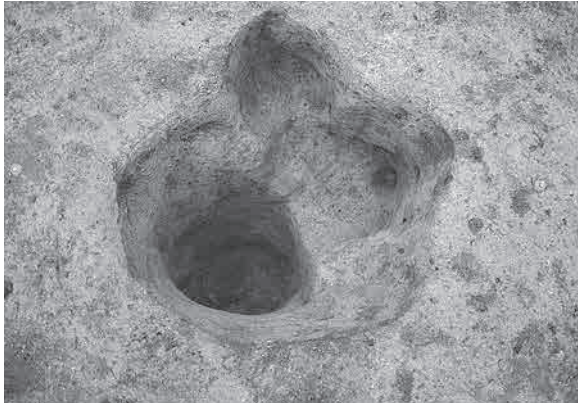


17号竖穴建物P3完掘・S→



17号竖穴建物P3断面・S→

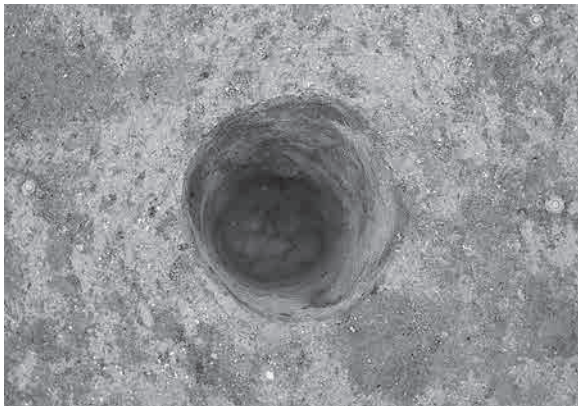
写真図版30 16号竖穴建物3、17号竖穴建物2



P4完掘・S→



P4断面・S→



P5完掘・S→



P5断面・S→



P6完掘・S→



P6断面・S→



P7完掘・S→



P7断面・S→



全景・E→



貼床断面・NE→

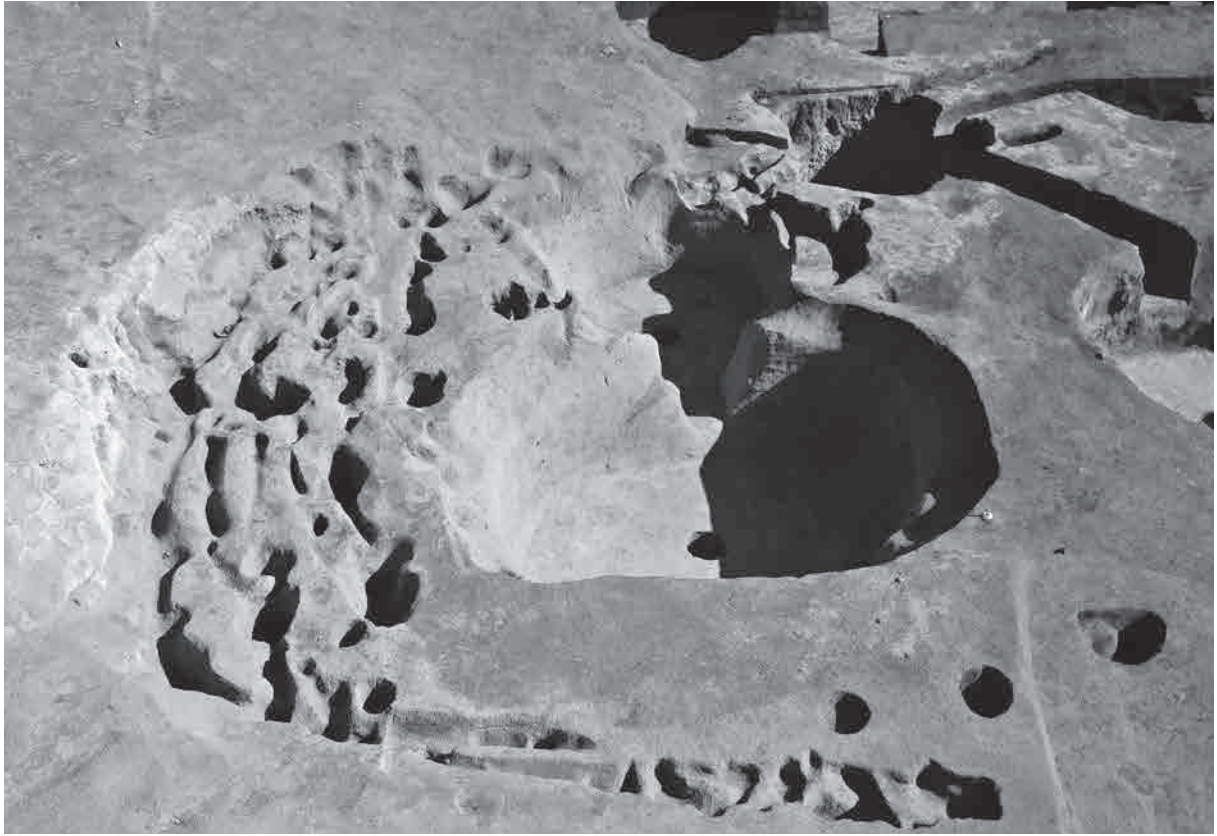


貼床北側断面・NE→



貼床下の壁溝・N→

写真図版32 18号竪穴建物



全景・W→



埋土断面・W→



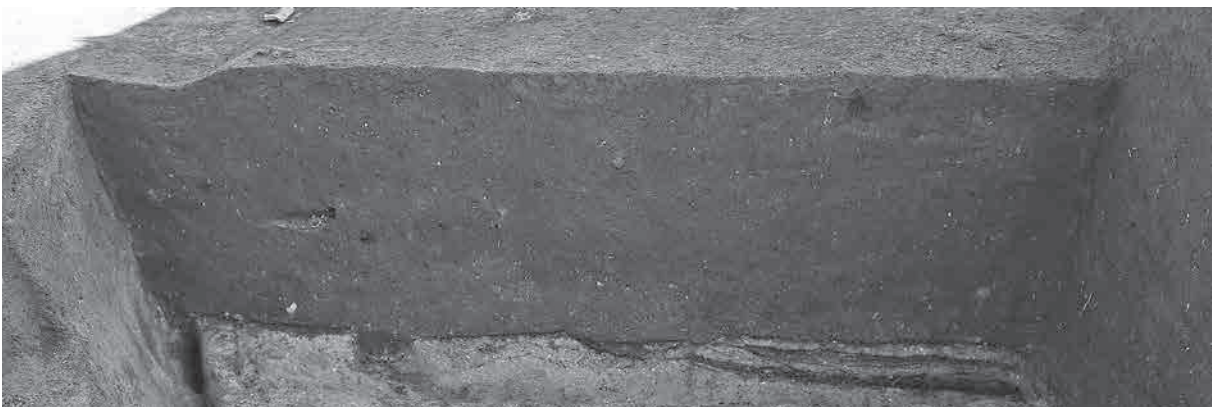
埋土断面・S→



全景・SW→



埋土断面・S→



埋土断面・W→

写真図版34 20号竪穴建物



全景・S→



埋土断面・E→



埋土断面・S→



炉全景・SE→



炉埋土断面・SW→



炉埋土断面・SE→



炉烧成面断面・NE→



炉烧成面断面・SE→



全景・SE→



埋土断面 (上面)・E→



埋土断面 (下面)・E→



埋土断面 (上面) · S →



埋土断面 (下面) · S →



炉全景 · S →



炉埋土断面 · SE →



炉烧成面断面 · SE →



炉掘方完掘 · SE →



焼土検出・S→



焼土断面・W→



P1断面・W→



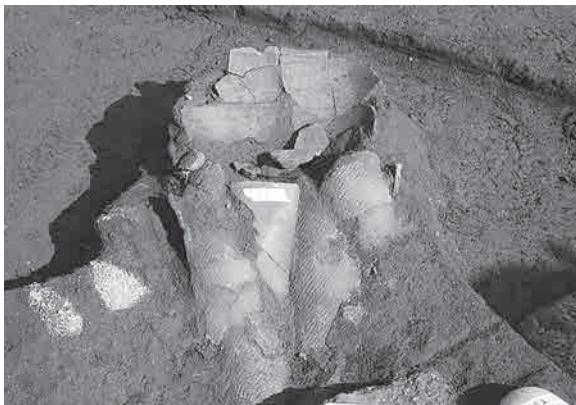
P2断面・W→



P3断面・E→



遺物出土状況1・S→



遺物出土状況2・S→



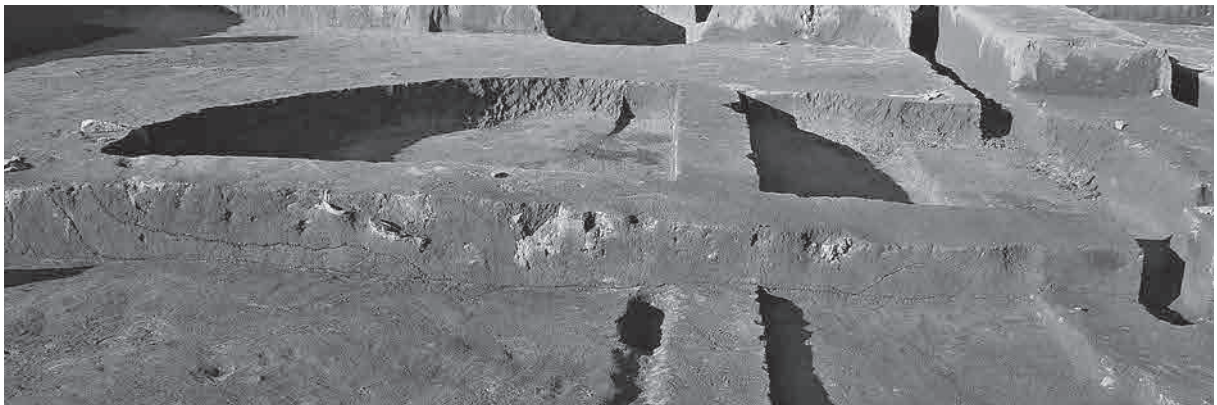
遺物出土状況3・S→



全景・SE→



埋土断面・W→



埋土断面・S→

写真図版40 23号豎穴建物1



炉埋土断面・SE→



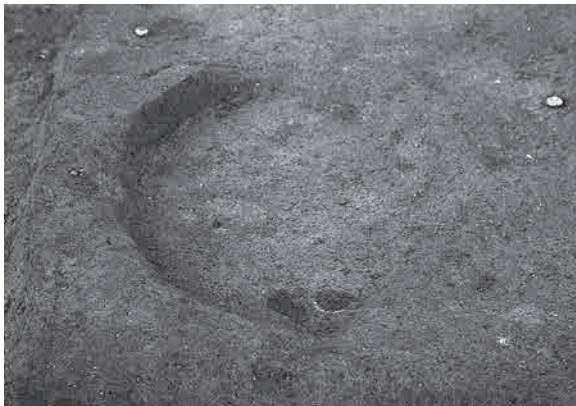
炉埋土断面・SW→



炉烧成面断面・SE→



炉烧成面断面・SW→



炉掘方完掘・S→



P1断面・E→



P2断面・NW→



P3断面・E→



P4断面・E→



P7断面・W→



P8断面・W→



P9断面・E→



P10断面・S→



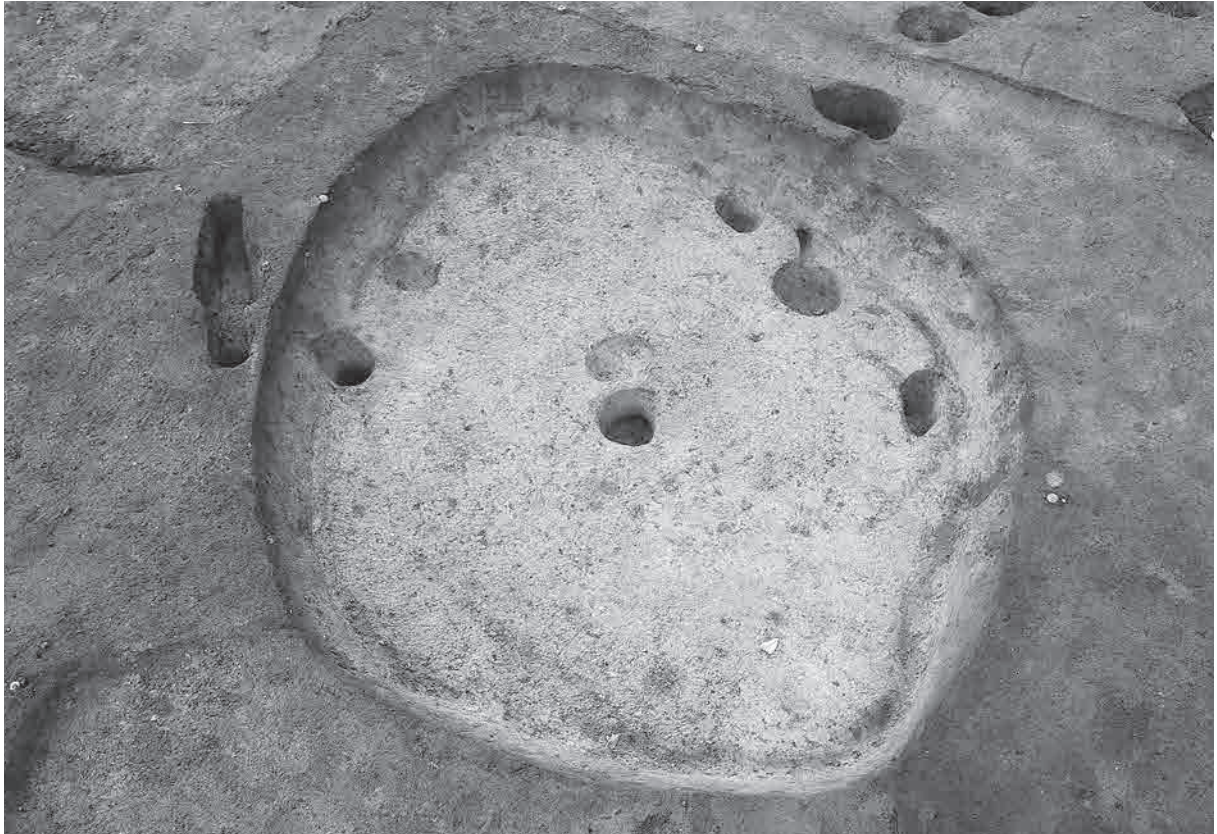
P11断面・S→



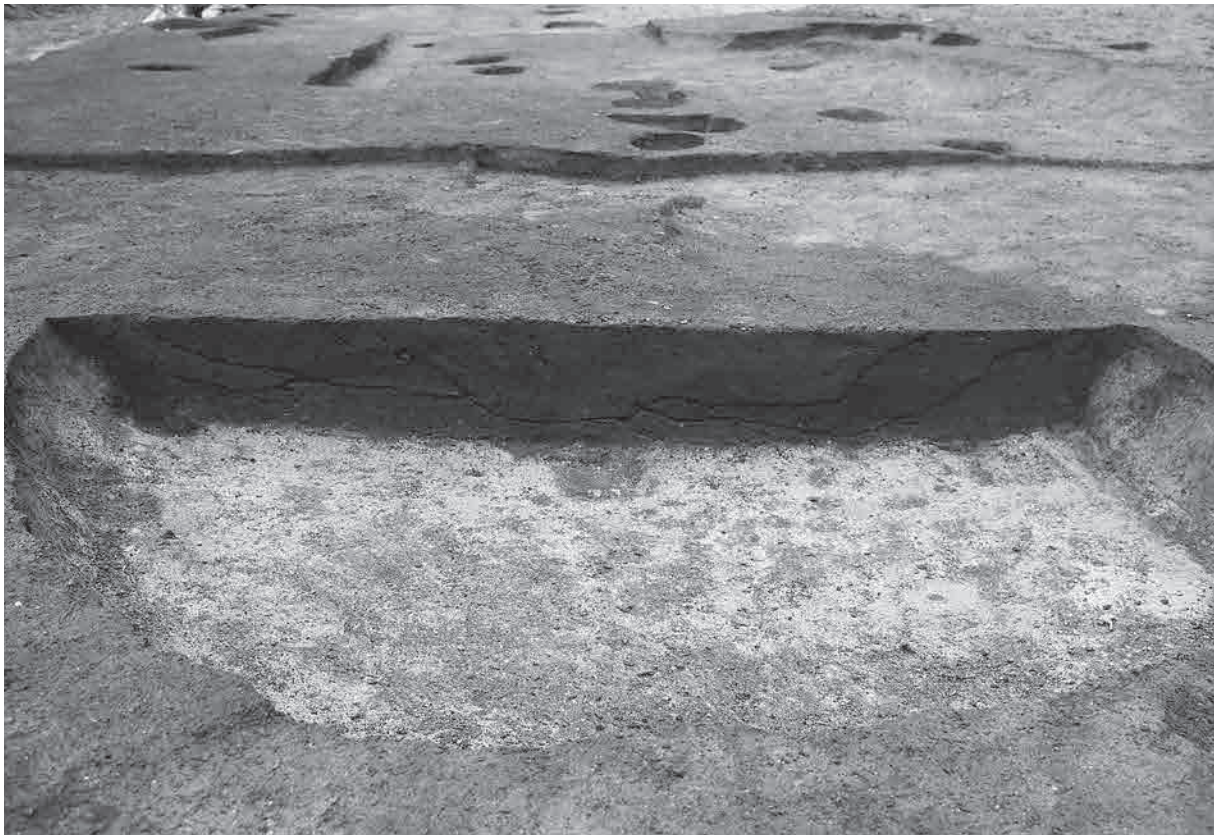
P12断面・S→



P13断面・E→



全景・NE→



埋土断面・E→



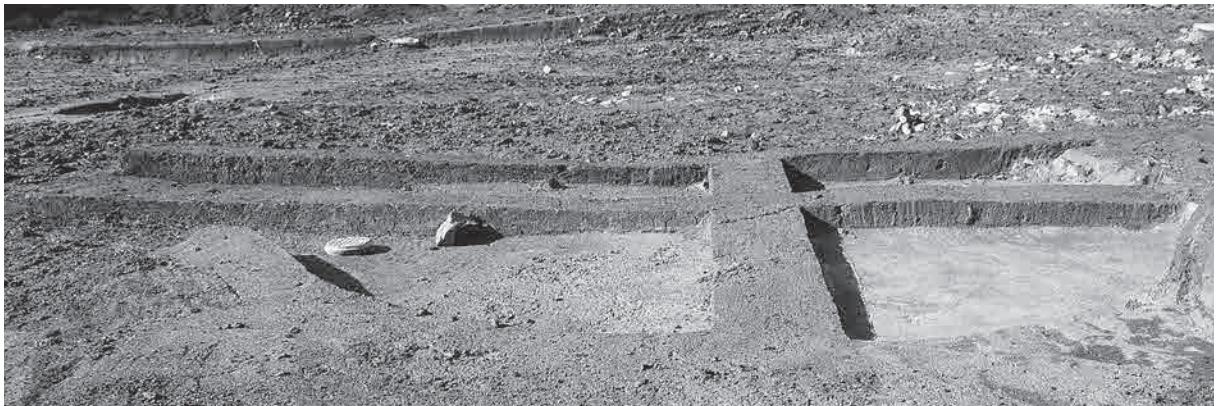
全景・S→



埋土断面・E→



全景・S→



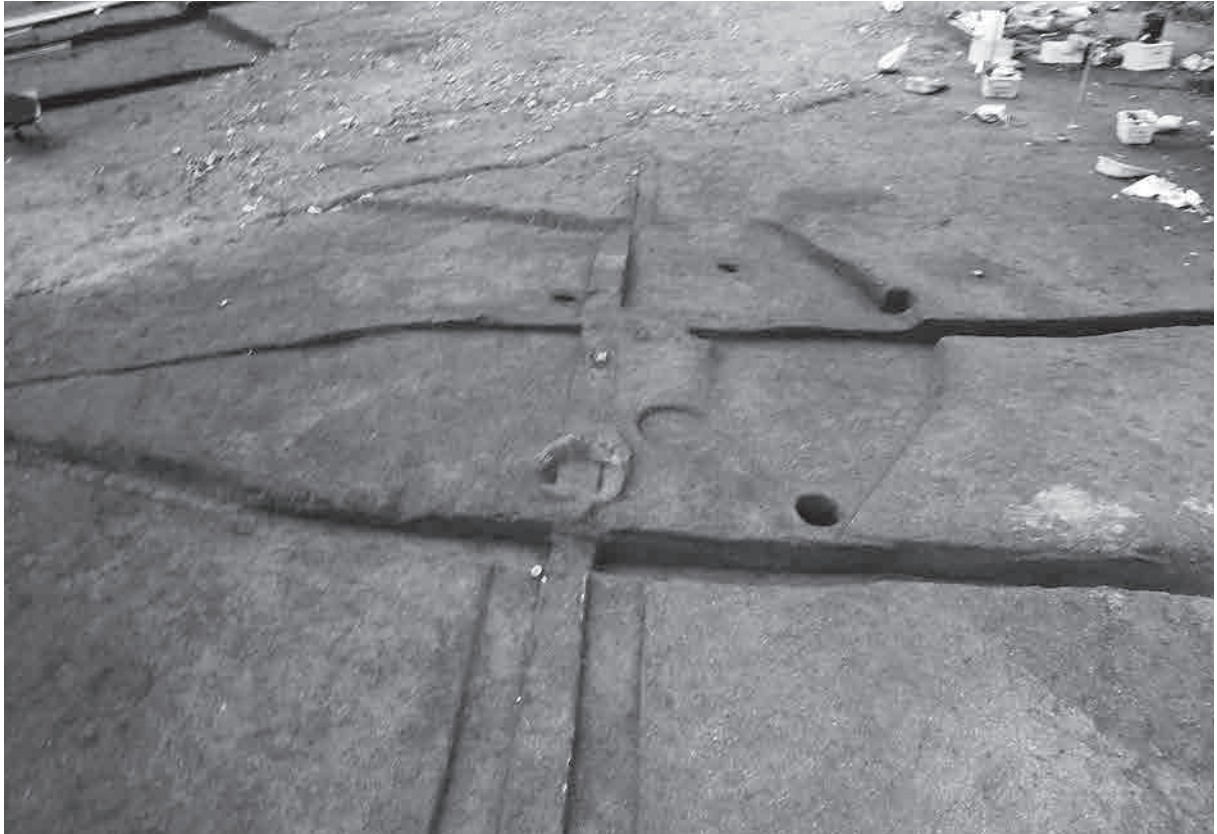
埋土断面・E→



貼床断面・E→



完掘・S→



全景・SE→



埋土断面・SE→



埋土断面・SW→



炉全景・SE→



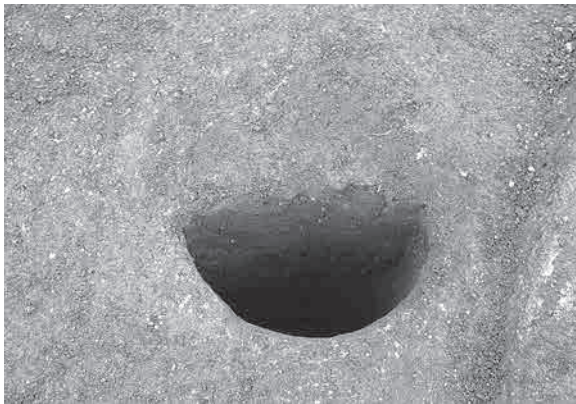
炉埋土断面・SW→



落ち込み部分断面・SE→



P1断面・S→



P2断面・NW→



P3断面・W→



P5断面・E→



土器出土状況・E→



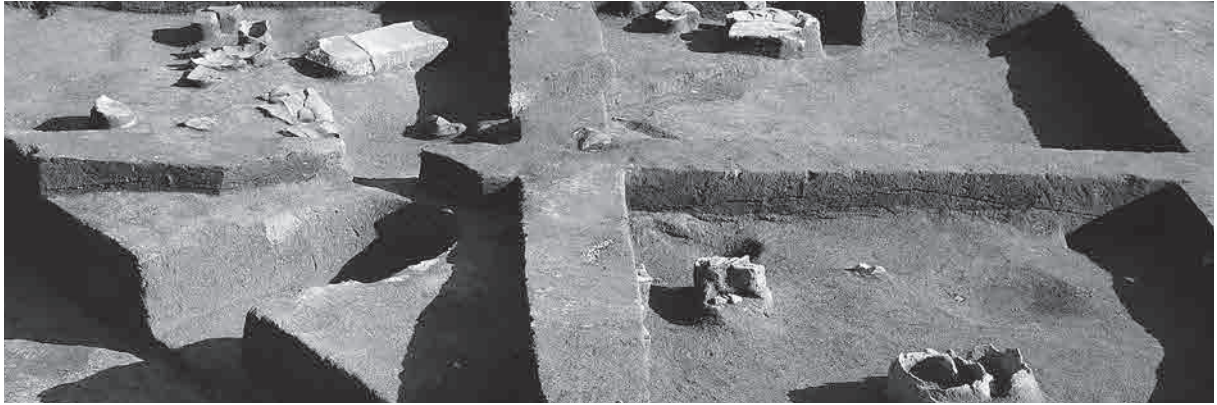
全景・SE→



埋土断面 (A-A')・W→



埋土断面 (B-B')・W→



埋土断面 (C-C') · W→



埋土断面 (D-D') · S→



炉1 埋土断面 · W→



炉1 埋土断面 · NW→



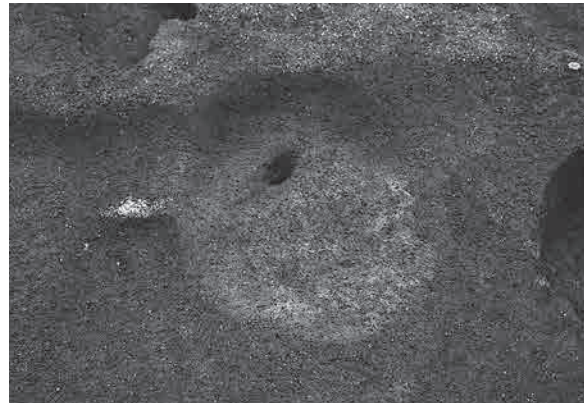
炉1 全景 · W→



炉1 焼成面断面 · W→



炉2全景・N→



炉3検出・N→



炉3断面・N→



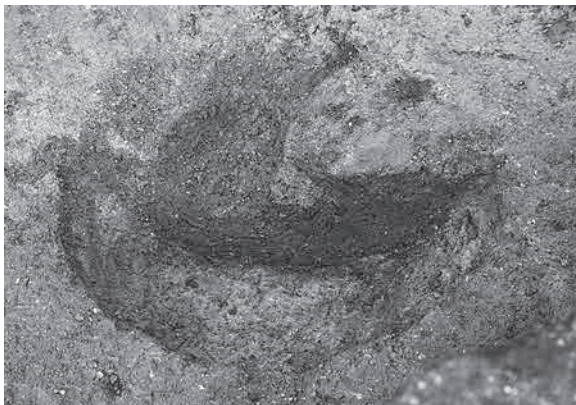
P2断面・S→



P5断面・S→



P7断面・S→



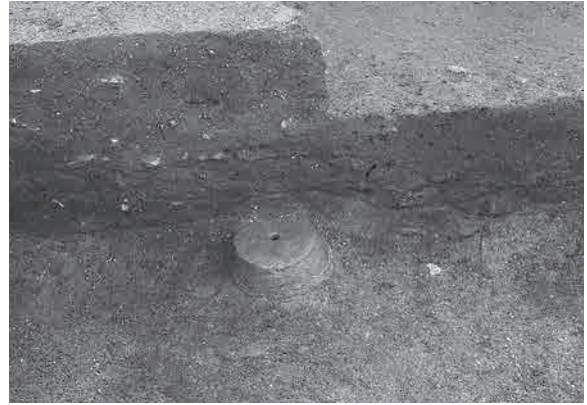
P19断面・SW→



P21断面・S→



埋甕検出1・N→



埋甕検出2・N→



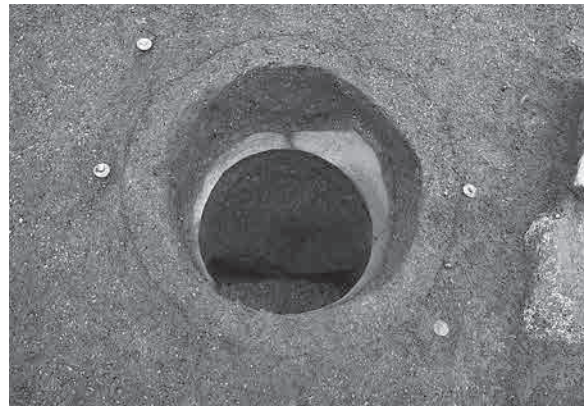
埋甕断面・N→



埋甕全景・N→



埋甕土器内埋土・N→



P20内埋設土器平面・S→



P20内埋設土器断面1・S→



P20内埋設土器断面2・S→



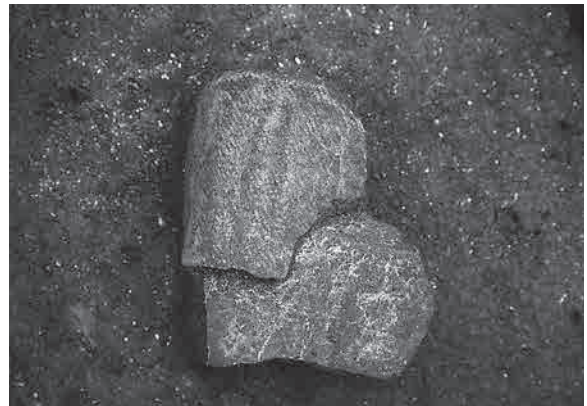
土器出土状況 1・S→



土器出土状況 2・S→



土器出土状況 3・S→



土器出土状況 4・S→



土器出土状況 5・S→



土器出土状況 6・E→



土器出土状況 7・N→



土器出土状況 8・N→



全景・NW→



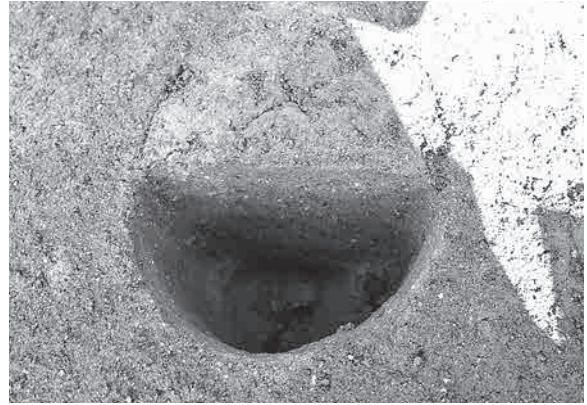
北西部近景・S→



埋土断面・E→



P1断面・S→



P2断面・S→



P3断面・S→



P8断面・E→



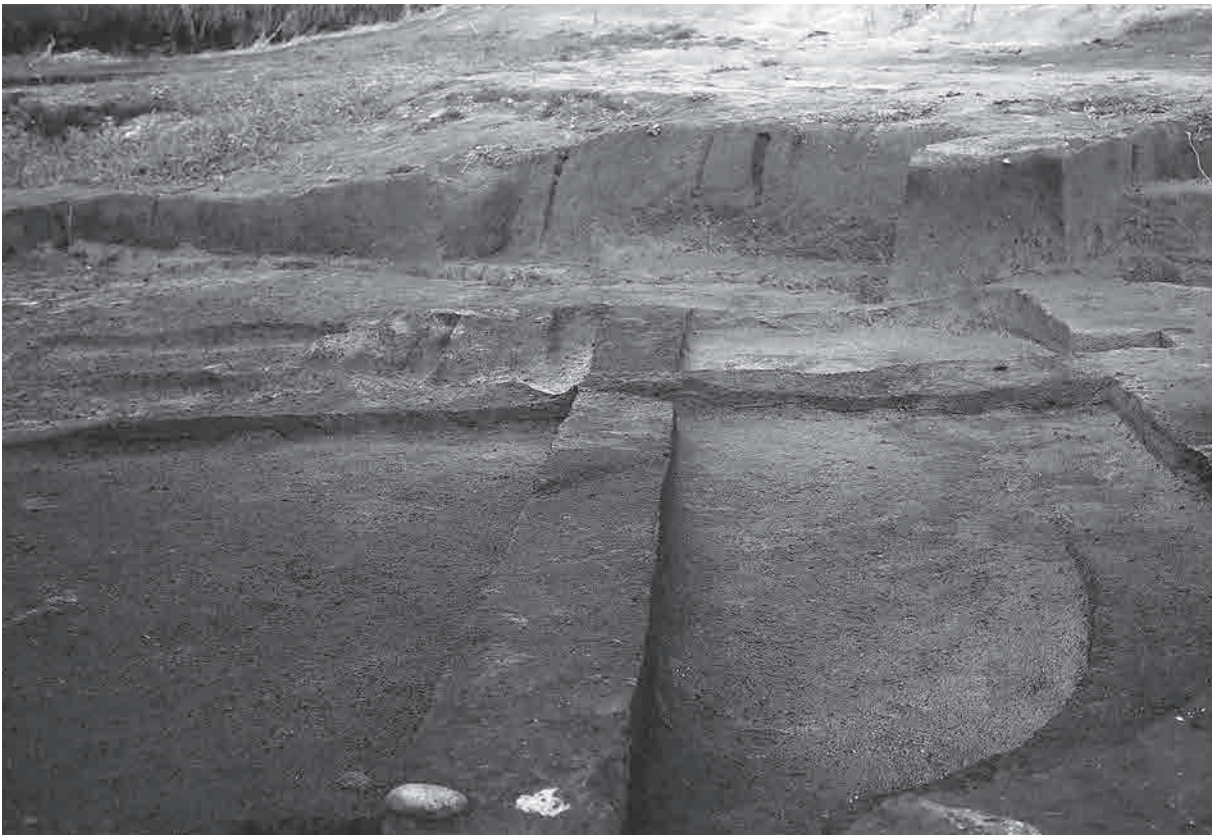
壁溝1断面・E→



壁溝2断面・E→



全景・S→



埋土断面・S→



埋土断面・W→



カマド・全景・S→



カマド燃烧部断面・W→



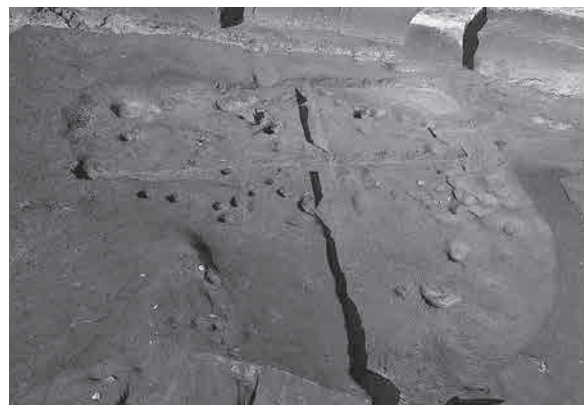
カマド燃烧部断面・S→



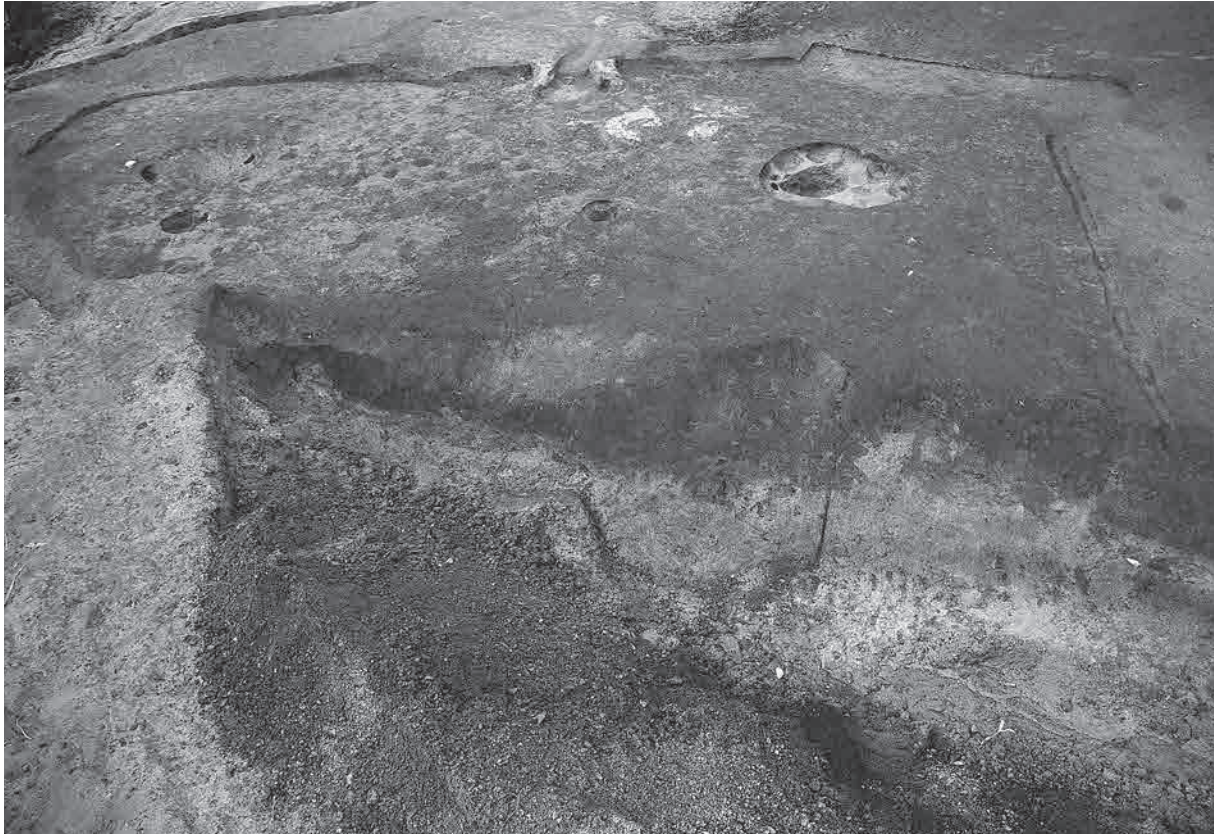
カマド袖部断面・S→



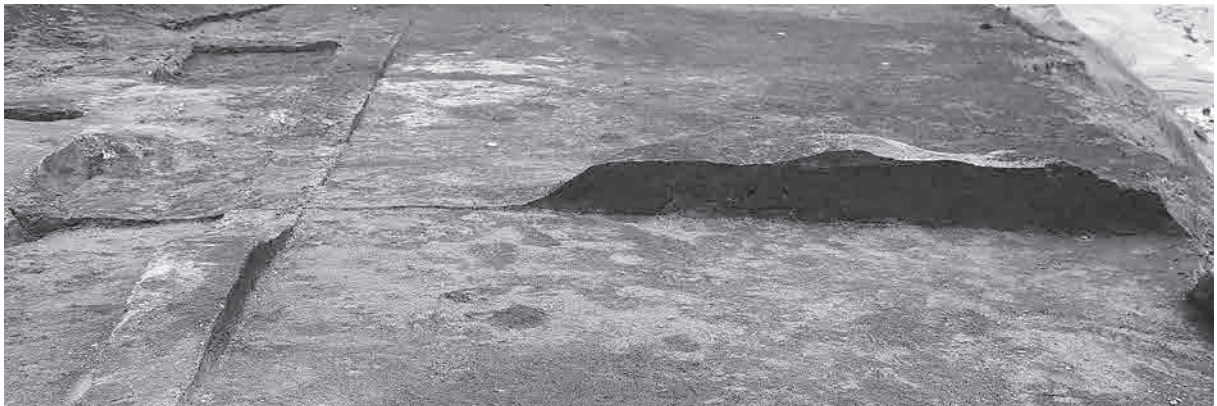
貼床断面・S→



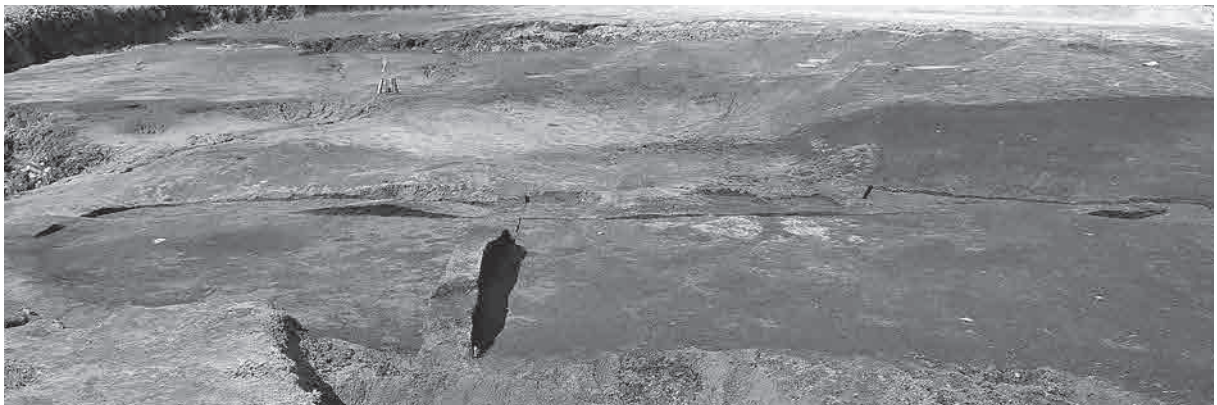
完掘・S→



全景・S→



埋土断面・W→



埋土断面・S→



カマド全景・S→



カマド煙道部・燃烧部断面・W→



カマド燃烧部断面・S→



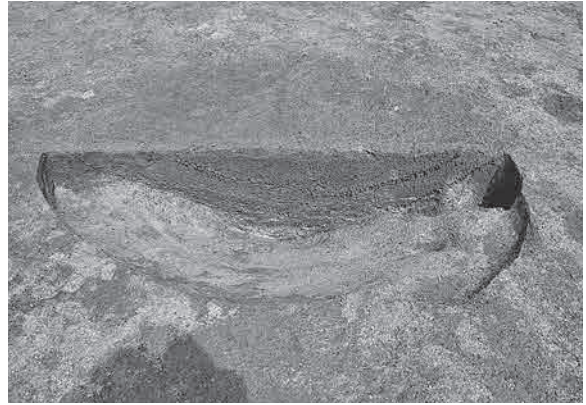
カマド烧成面断面・W→



カマド袖部・烧成面断面・S→



P1完掘・S→



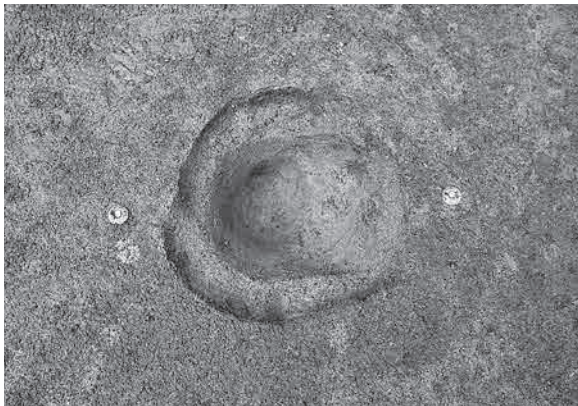
P1断面・S→



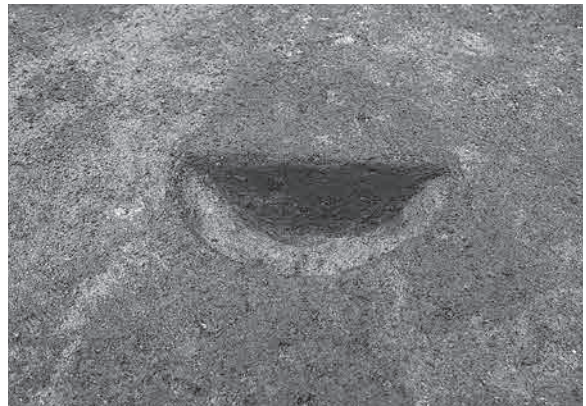
P2断面・S→



P4断面・S→



P3完掘・S→



P3断面・S→



貼床断面・W→



完掘・S→



全景・SW→



埋土断面・NE→



埋土断面・SW→

写真図版60 32号竪穴建物1



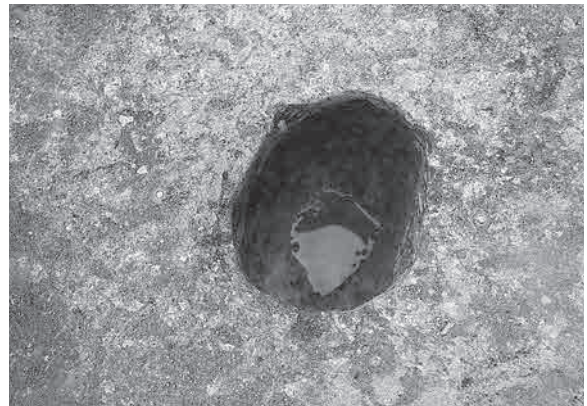
カマド平面・S→



カマド煙出部断面・E→



カマド煙道部断面・E→



カマド煙出部完掘・E→



カマド燃烧部・煙道部断面・E→



カマド燃烧部断面・S→



カマド煙道部完掘・S→



カマド烧成面断面・S→



P1断面・S→



P2断面・S→



P3断面・S→



P4断面・E→



P5断面・S→



西側壁溝断面・S→



貼床断面・E→



完掘・S→



全景・W→



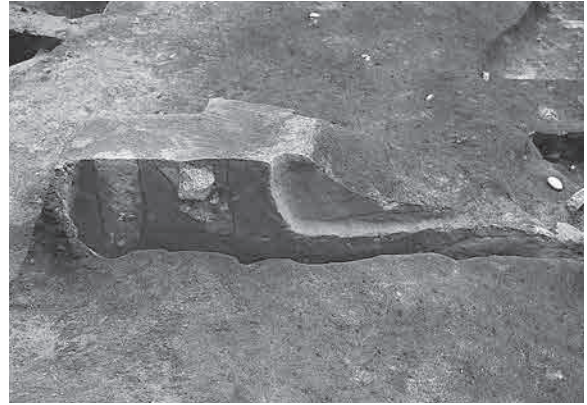
埋土断面・N→



埋土断面・W→



カマド全景・W→



カマド煙道部断面・N→



カマド燃烧部断面・W→



カマド燃烧部断面・N→



カマド燃烧部断面・N→



カマド袖部断面・W→



カマド燃烧部烧成面断面・N→



完掘・W→



全景・W→



カマド煙道部断面・N→



カマド煙道部西側断面・N→



カマド燃烧部烧成面断面・N→



カマド袖部断面・W→



35・36号竖穴建物全景・S→

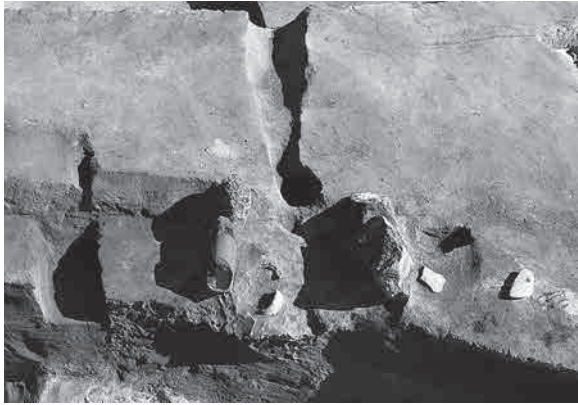


埋土断面・W→

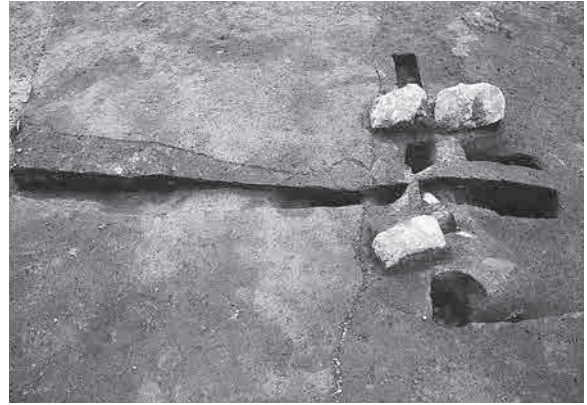


埋土断面・N→

写真図版66 35号竖穴建物1、36号竖穴建物1



カマド全景・W→



カマド煙道部・燃烧部断面・N→



カマド燃烧部断面・W→



カマド燃烧部烧成面断面・N→



カマド袖部・燃烧部断面・W→



P1断面・W→



P2断面・W→



完掘・W→



全景・S→



カマド全景・S→



カマド断面・SW→



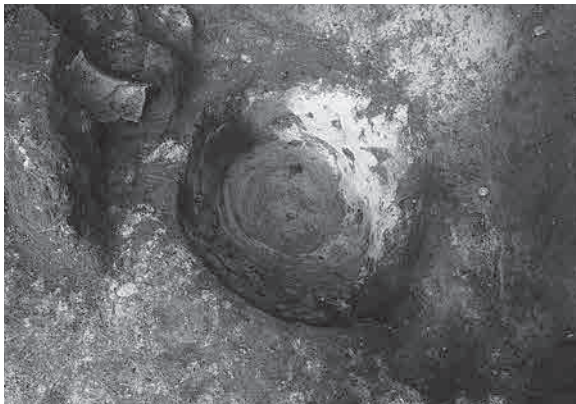
カマド煙道部完掘・SW→



カマド燃烧部烧成面断面・W→



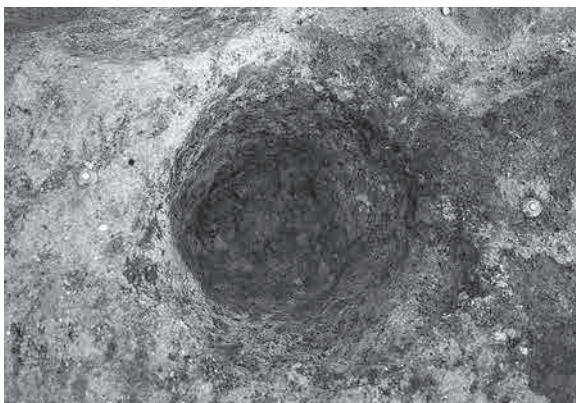
カマド袖部・燃烧部断面・S→



土坑1完掘・S→



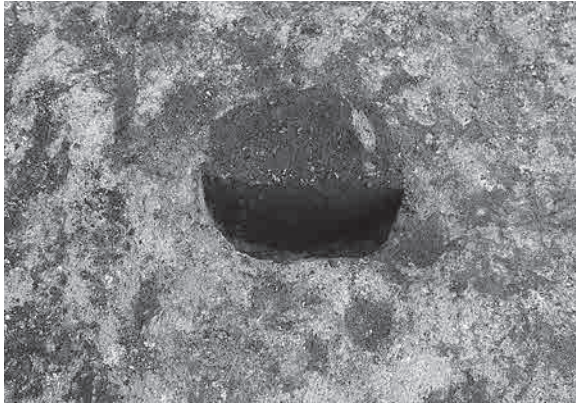
土坑1断面・S→



P1完掘・SW→



P1断面・SW→



P2断面・S→



P3断面・S→



P4断面・S→



P5断面・S→



遺物出土状況1・W→



遺物出土状況2・W→



貼床断面・W→



完掘・S→



全景・S→



P1断面・S→



P2断面・S→



P4断面・S→



P5断面・S→



全景・SW→



埋土断面・NW→



埋土断面・SW→

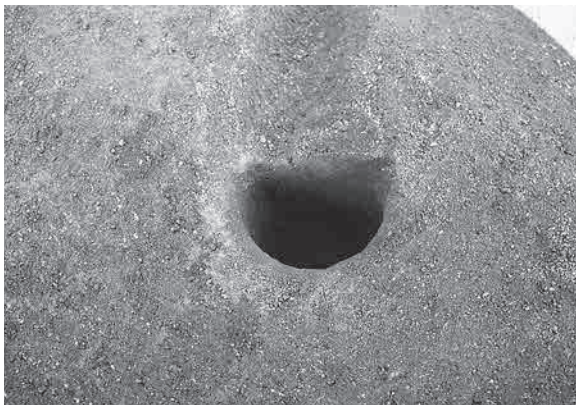
写真図版72 38号竪穴建物



全景・E→



埋土断面・S→



P1断面・S→



P6断面・E→



全景・SW→



埋土断面・NW→



埋土断面・SW→

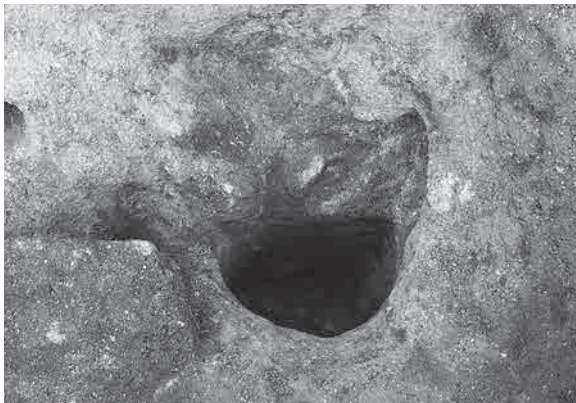
写真図版74 40号豎穴建物1



P1断面・S→



P2断面・W→



P3断面・S→



P4断面・W→



P5断面・W→



P6断面・W→



P8断面・W→



P9断面・W→



全景・S→



P1断面・S→



P2断面・S→



P3断面・S→



P4断面・S→



1号炉全景·N→



1号炉埋土断面·S→



1号炉埋土断面·W→



1号炉烧成面断面·S→



1号炉烧成面断面·W→



2号炉全景·E→



2号炉埋土断面·E→



2号炉埋土断面·S→



2号炉烧成面断面・E→



2号炉烧成面断面・S→



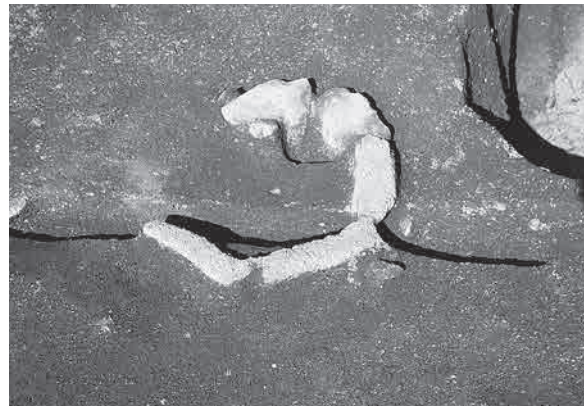
3号炉全景・W→



3号炉埋土断面・S→



3号炉埋土断面・W→



3号炉烧成面断面・S→



4号炉全景・SW→



4号炉烧成面断面・SW→

写真図版78 2～4号炉



5号炉埋土断面·E→



5号炉埋土断面·S→



5号炉烧成面断面·E→



5号炉烧成面断面·S→



6号炉全景·S→



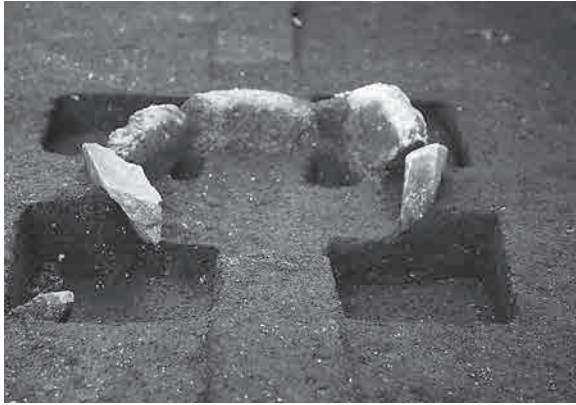
6号炉埋土断面·S→



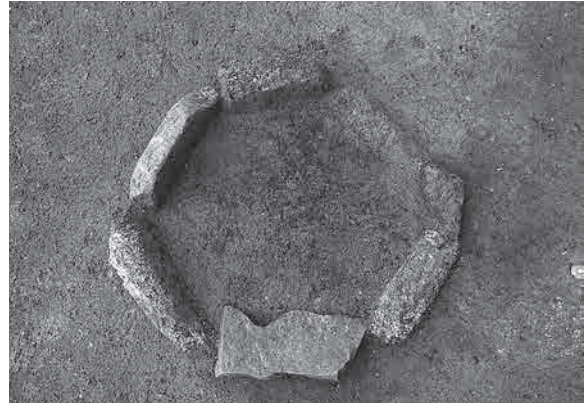
6号炉埋土断面·E→



6号炉烧成面断面·S→



6号炉烧成面断面・W→



7号炉全景・E→



7号炉埋土断面・S→



7号炉埋土断面・E→



7号炉烧成面断面・S→



7号炉烧成面断面・E→



8号炉全景・S→



8号炉埋土断面・S→



8号炉埋土断面·E→



8号炉烧成面断面·S→



8号炉烧成面断面·E→



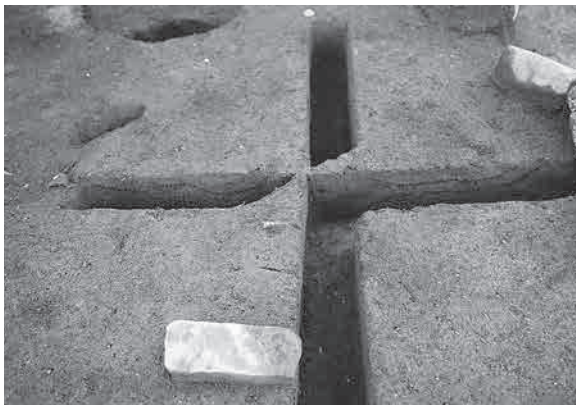
9号炉全景·E→



9号炉埋土断面·S→



9号炉埋土断面·E→



9号炉烧成面断面·S→



9号炉烧成面断面·E→



全景・S→



埋土断面・N→



埋土断面・E→



烧成面断面・N→



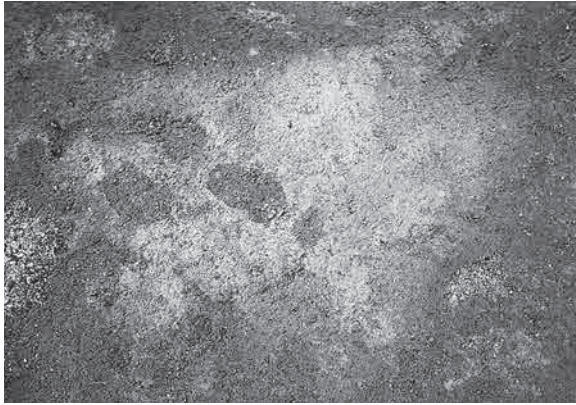
烧成面断面・E→



1号烧土検出・SW→



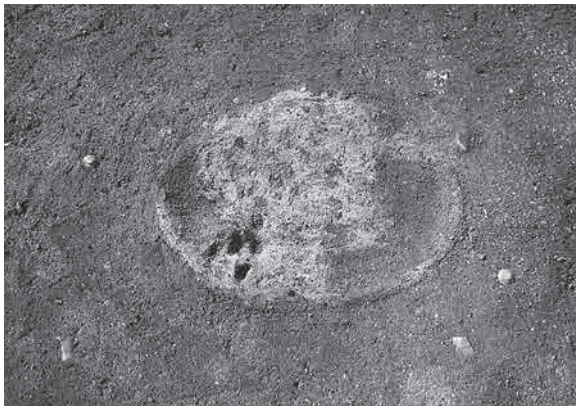
1号烧土断面・SW→



2号烧土検出・E→



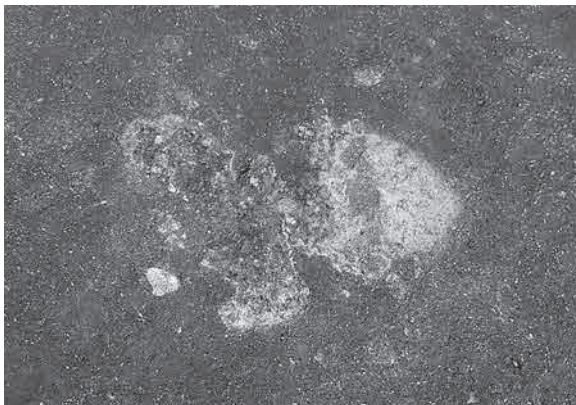
2号烧土断面・S→



3号烧土検出・E→



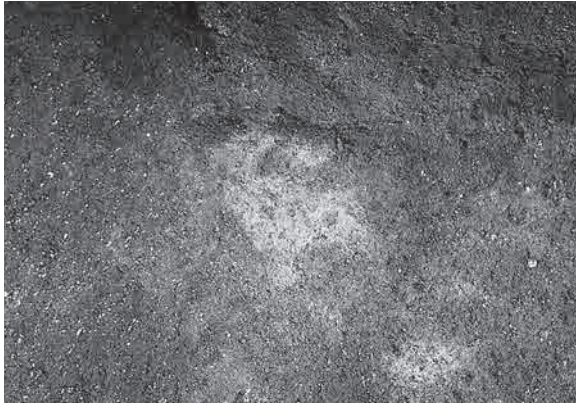
3号烧土断面・E→



4号烧土検出・S→



4号烧土断面・S→



5号焼土検出・W→



5号焼土断面・S→



6号焼土検出・S→



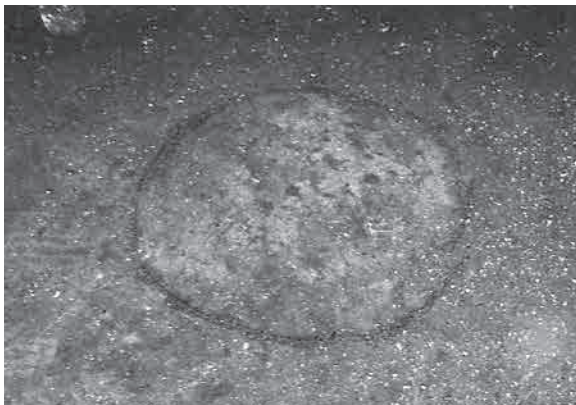
6号焼土断面・E→



7号焼土検出・W→



7号焼土断面・W→

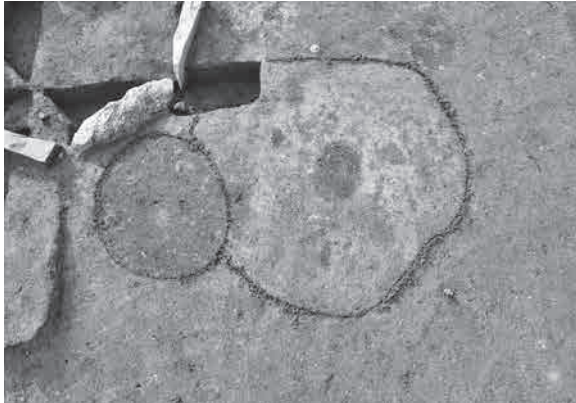


8号焼土検出・E→



8号焼土断面・E→

写真図版84 5～8号焼土



9号焼土検出・E→



9号焼土断面・E→



10号焼土検出・SW→



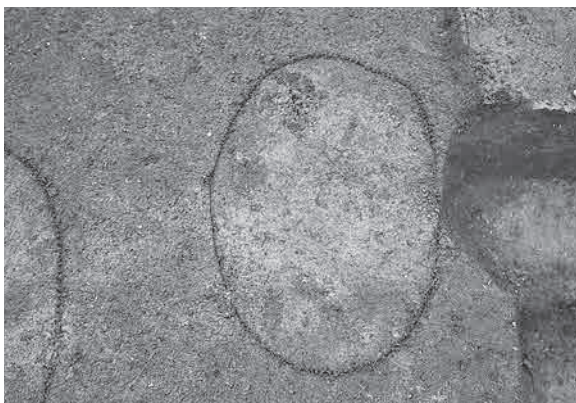
10号焼土断面・SE→



11号焼土検出・E→



11号焼土断面・S→



12号焼土検出・E→



12号焼土断面・S→



1号烧成遺構断面・S→



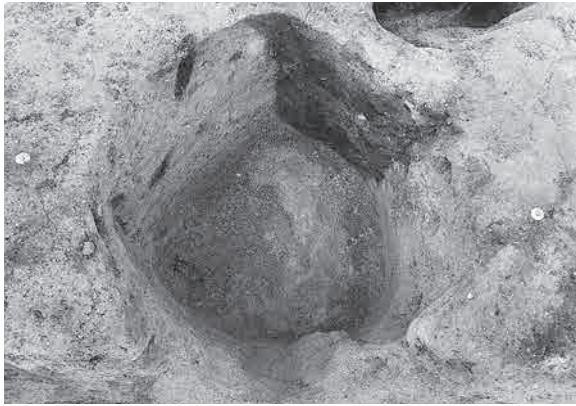
1号烧成遺構烧土断面・S→



1号土坑完掘・S→



1号土坑断面・S→



2号土坑完掘・S→



2号土坑断面・S→



3号土坑完掘・S→



3号土坑断面・S→

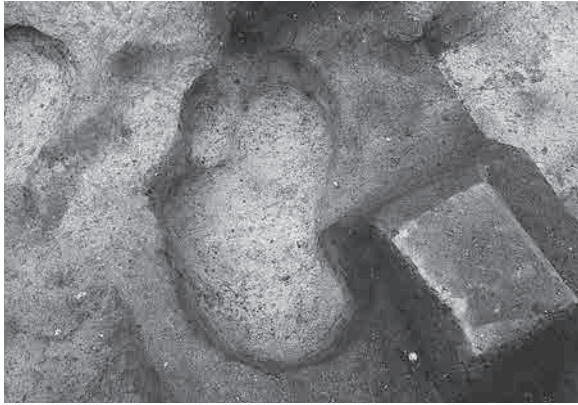
写真図版86 1号烧成遺構、1～3号土坑



4・5号土坑完掘・E→



4・5号土坑断面・N→



6号土坑完掘・S→



6号土坑断面・W→



7号土坑完掘・E→



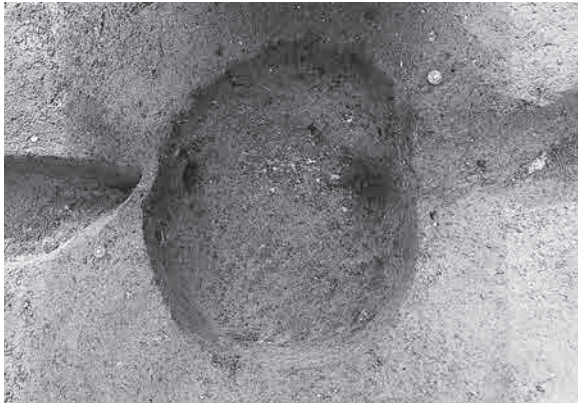
7号土坑断面・S→



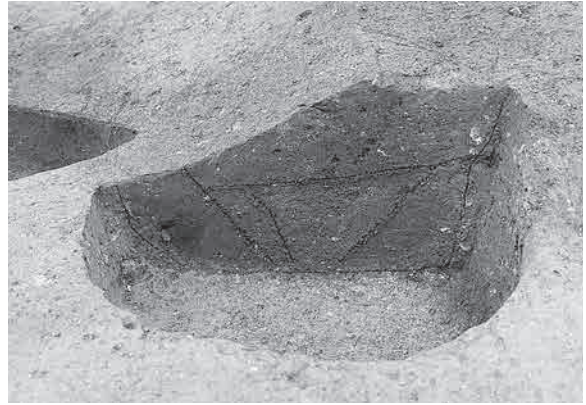
8号土坑完掘・S→



8号土坑断面・S→



9号土坑完掘・E→



9号土坑断面・E→



11号土坑完掘・S→



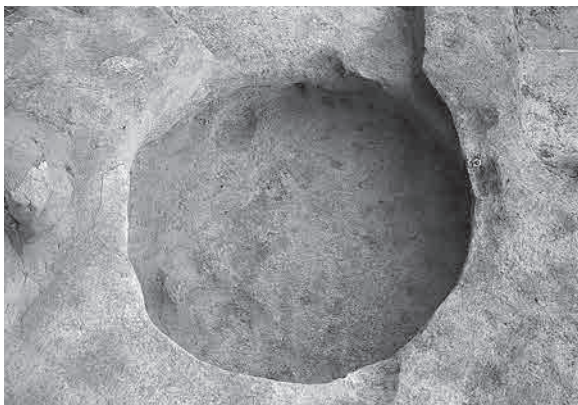
11号土坑断面・S→



12号土坑完掘・NW→



12号土坑断面・E→



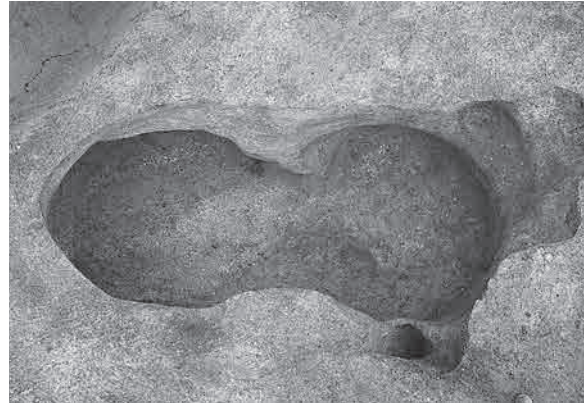
14号土坑完掘・W→



14号土坑断面・N→



10号土坑断面・W→



13号土坑完掘・SW→



13号土坑断面・SW→



13号土坑東側断面・SW→



15号土坑完掘・S→



15号土坑断面・S→



16号土坑完掘・W→



16号土坑断面・N→



17号土坑完掘・E→



17号土坑断面・E→



18号土坑完掘・NE→



18号土坑断面・W→



19号土坑完掘・SE→



19号土坑断面・SE→



20号土坑完掘・S→



20号土坑断面・S→

写真図版90 17~20号土坑



21号土坑完掘・S→



21号土坑断面・S→



22号土坑完掘・E→



22号土坑断面・NE→



23号土坑完掘・S→



23号土坑断面・S→



24号土坑完掘・S→



24号土坑断面・S→



25号土坑完掘・N→



25号土坑断面・N→



26~28号土坑断面・N→



26~28号土坑断面・NE→



26~28号土坑完掘・N→



29号土坑完掘・S→



30号土坑完掘・SE→



30号土坑断面・S→

写真図版92 25~30号土坑



31号土坑断面・NE→



36号土坑完掘・S→



32号土坑完掘・E→



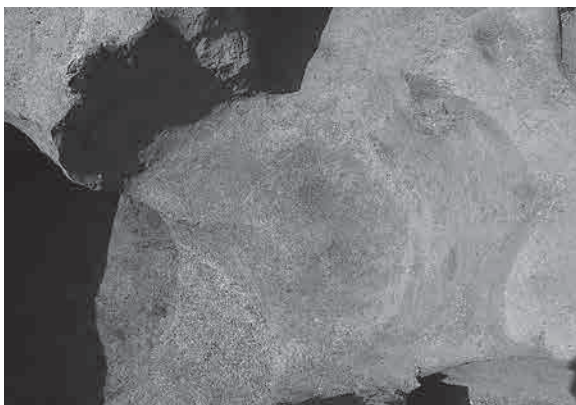
32号土坑断面・E→



33号土坑完掘・S→



33号土坑断面・NE→



34号土坑完掘・S→



34号土坑断面・NE→



35号土坑完掘・S→



35号土坑断面・S→



37号土坑完掘・NE→



37号土坑断面・SW→



38号土坑完掘・E→



38号土坑断面・E→



39号土坑完掘・W→



39号土坑断面・W→



40号土坑完掘・S→



40号土坑断面・W→



41号土坑完掘・S→



41号土坑断面・S→



42号土坑完掘・W→



42号土坑断面・W→



43号土坑完掘・S→



43号土坑断面・S→



44号土坑完掘・S→



44号土坑断面・S→



45号土坑完掘・S→



45号土坑断面・S→



46号土坑完掘・S→



46号土坑断面・S→



46・47号土坑完掘・S→



47号土坑断面・S→



48号土坑完掘・W→



48号土坑断面・SW→



49号土坑完掘・NE→



49号土坑断面・S→



50号土坑完掘・S→



50号土坑断面・S→



51号土坑完掘・S→



51号土坑断面・S→



52号土坑完掘・S→



52号土坑断面・S→



53号土坑断面・S→



53号土坑土器出土状況・S→



54号土坑完掘・W→



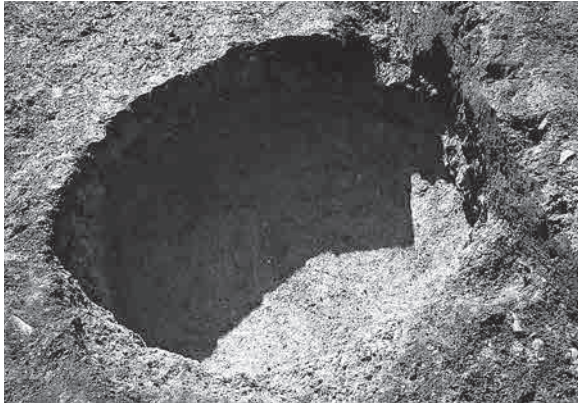
54号土坑断面・W→



55号土坑完掘・S→



55号土坑断面・S→



56号土坑完掘・NE→



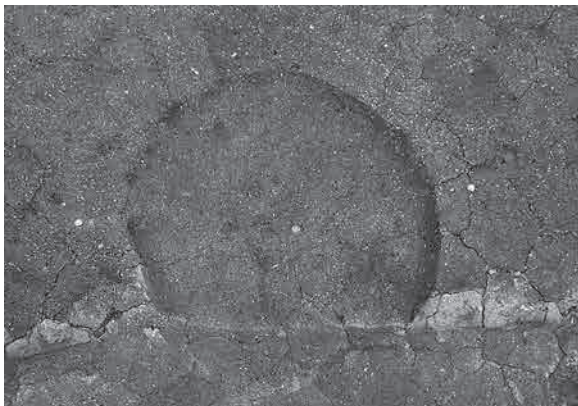
56号土坑断面・E→



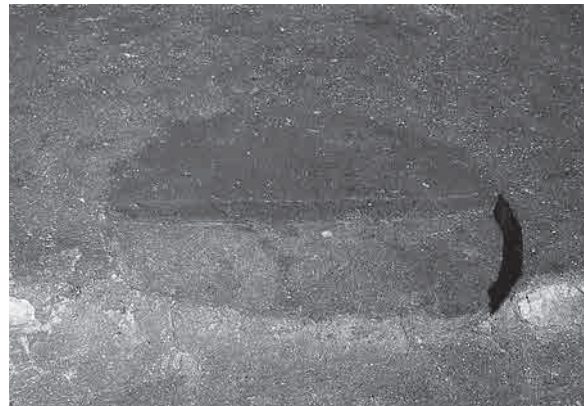
57号土坑完掘・S→



57号土坑断面・S→



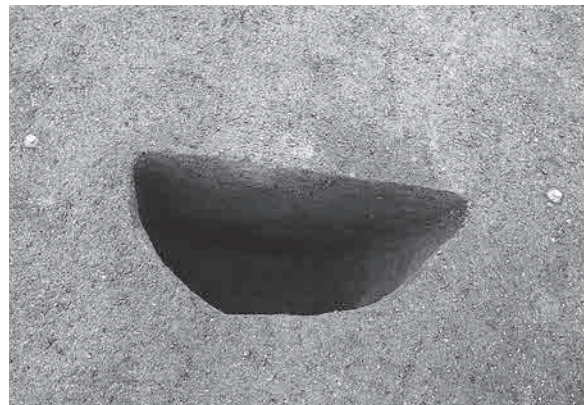
58号土坑完掘・S→



58号土坑断面・S→



59号土坑完掘・S→



59号土坑断面・SE→



60・61号土坑完掘・NW→



60・61号土坑断面・W→



60号土坑完掘・NW→



61号土坑完掘・NW→



62号土坑完掘・E→



62号土坑断面・E→



63号土坑完掘・SW→



63号土坑断面・NW→

写真図版100 60～63号土坑



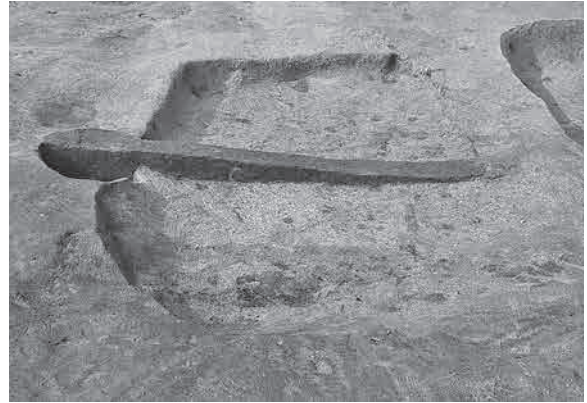
64号土坑完掘・W→



64号土坑断面・S→



65号土坑完掘・S→



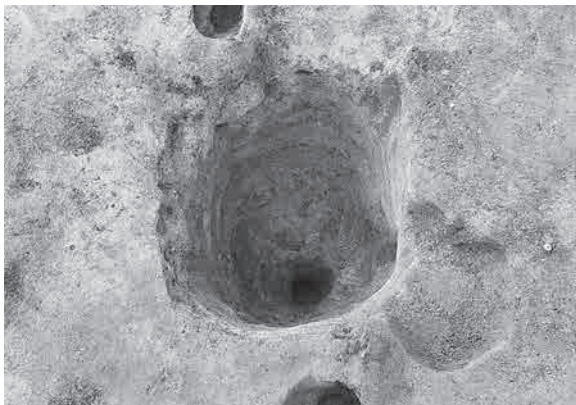
65号土坑完掘・S→



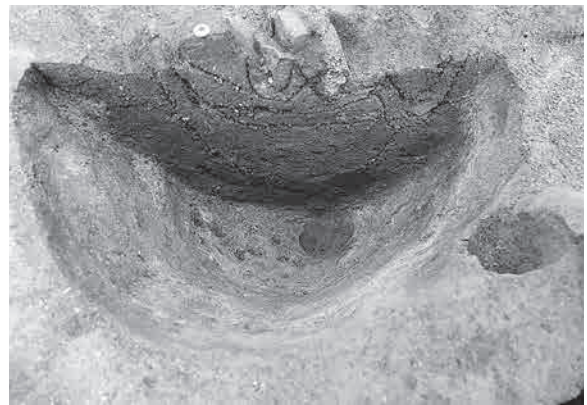
66号土坑完掘・S→



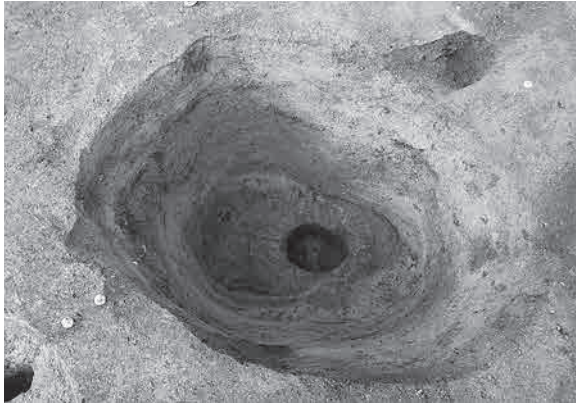
66号土坑断面・S→



1号陥し穴状遺構完掘・SE→



1号陥し穴状遺構断面・SE→



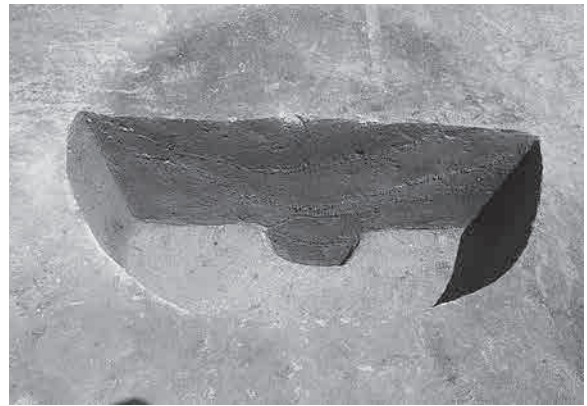
2号陥し穴状遺構完掘・S→



2号陥し穴状遺構断面・S→



3号陥し穴状遺構完掘・E→



3号陥し穴状遺構断面・S→



4号陥し穴状遺構完掘・S→



4号陥し穴状遺構断面・S→



4号陥し穴状遺構追加断面・S→



5号陥し穴状遺構完掘・S→



6号陥し穴状遺構完掘・S→



5・6号陥し穴状遺構断面・S→



7号陥し穴状遺構完掘・S→



7号陥し穴状遺構断面・S→



8号陥し穴状遺構完掘・SE→



8号陥し穴状遺構断面・SE→



9号陥し穴状遺構完掘・SE→



9号陥し穴状遺構断面・SE→



1号土器埋設遺構周辺検出・SW→



1号土器埋設遺構検出・SW→



1号土器埋設遺構平面（半裁段階）・SW→



1号土器埋設遺構断面・SW→



1号土器埋設遺構全景1・NW→



1号土器埋設遺構全景2・SE→



2号土器埋設遺構検出・E→



2号土器埋設遺構断面・E→



1号墓墳断面・S→



1号墓墳骨出土状況1・S→



1号墓墳骨出土状況2・S→



1号墓墳完掘・S→



1号溝跡完掘・S→



1号溝跡断面・S→

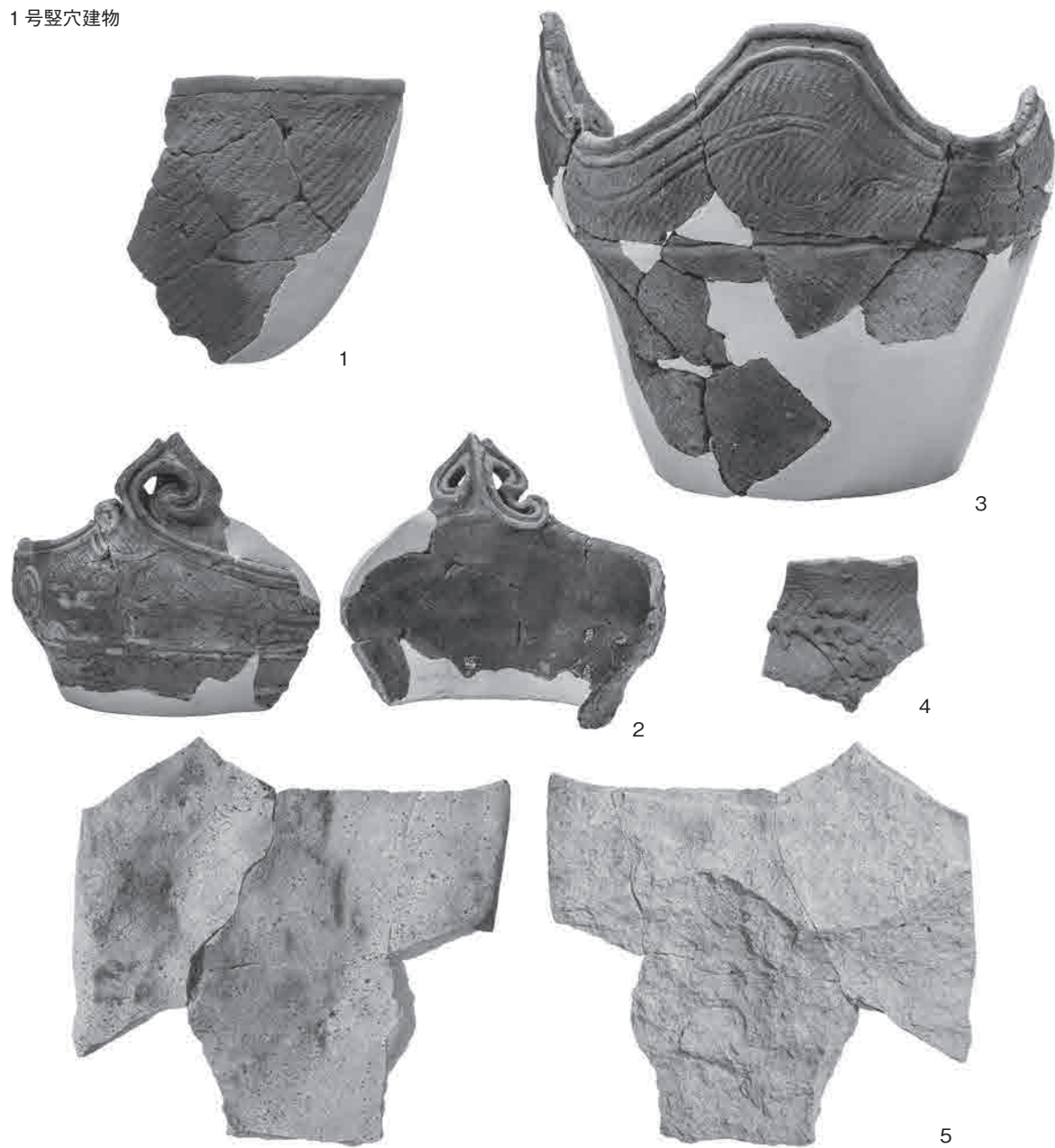


調査区東端全景・W→



作業風景・NW→

1号竖穴建物

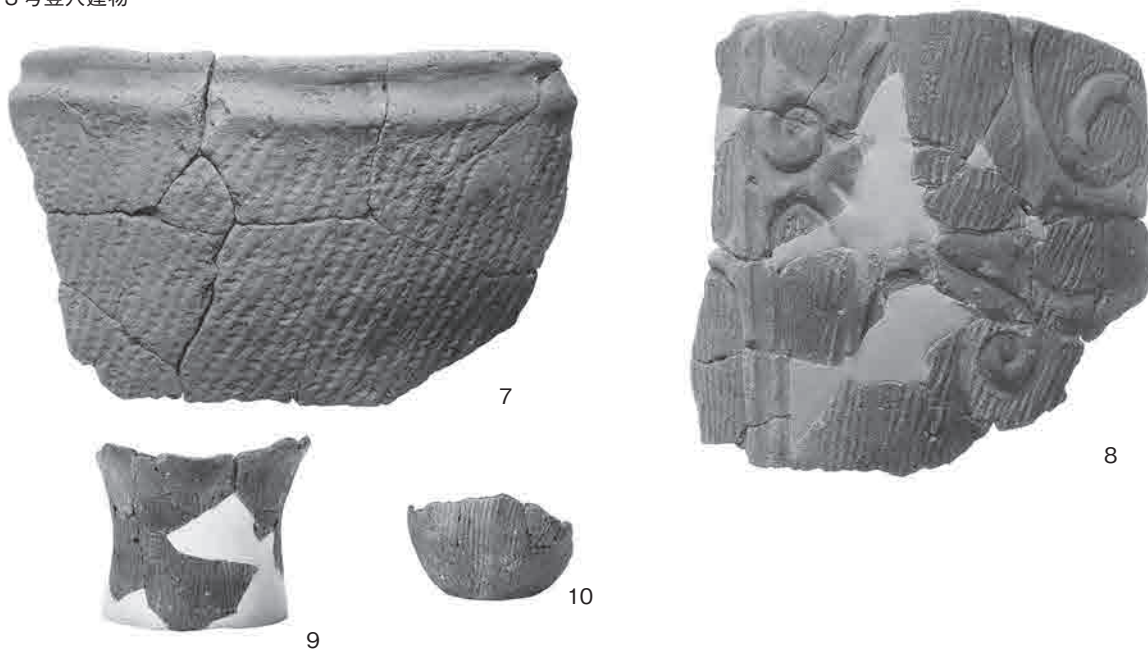


2号竖穴建物

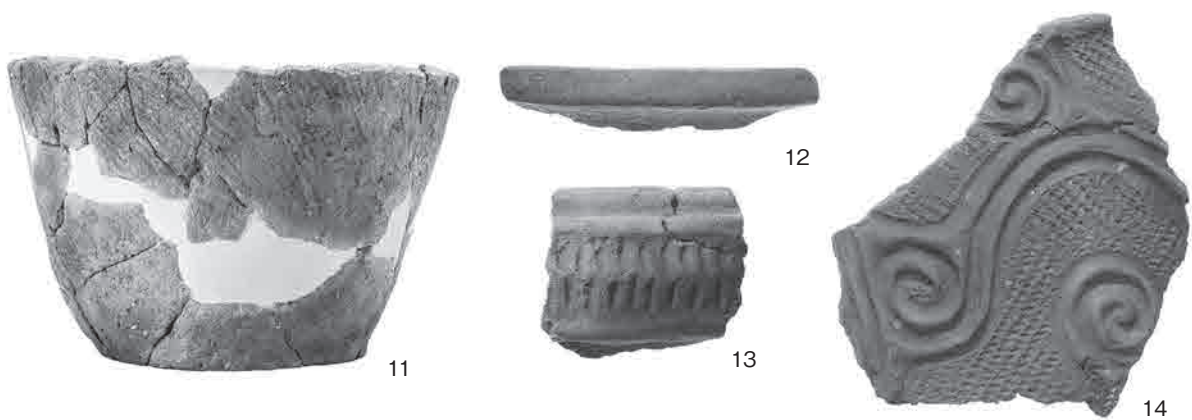


写真図版106 遺構内出土遺物 1

3号竖穴建物



4号竖穴建物



5号竖穴建物



5号竖穴建物



18



19



20



21



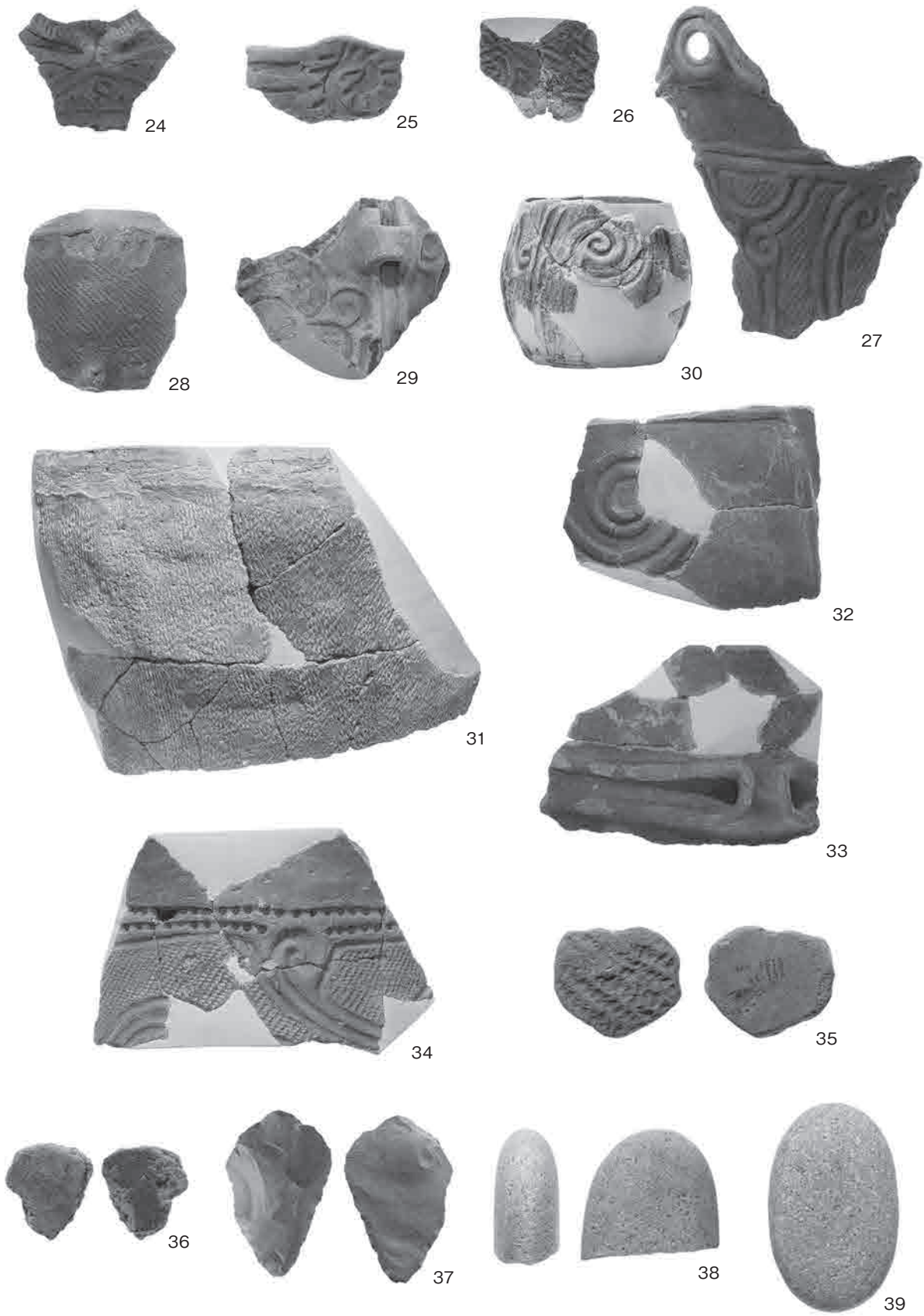
22



23

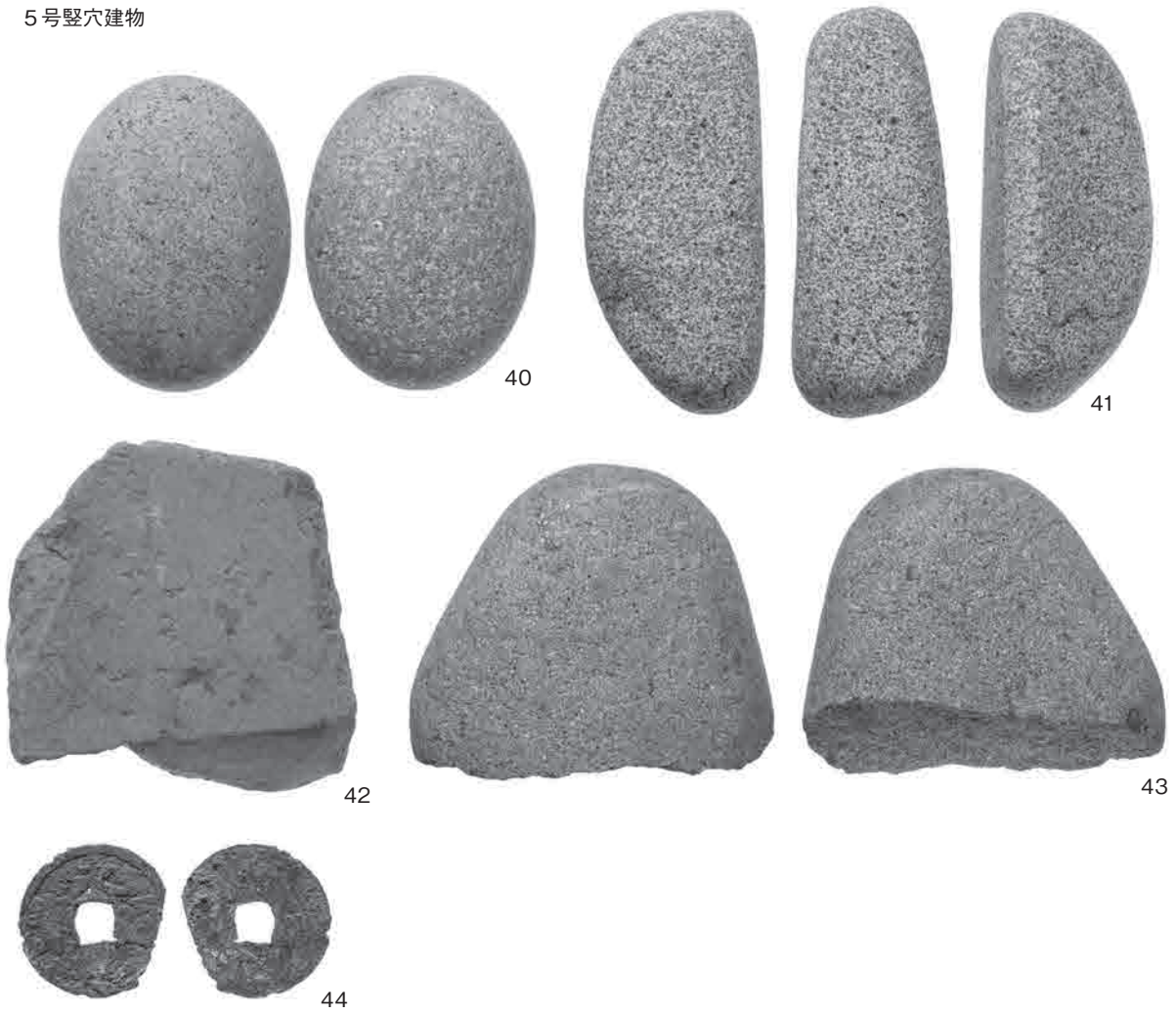
写真図版108 遺構内出土遺物3

5号竖穴建物



写真図版109 遺構内出土遺物 4

5号竖穴建物

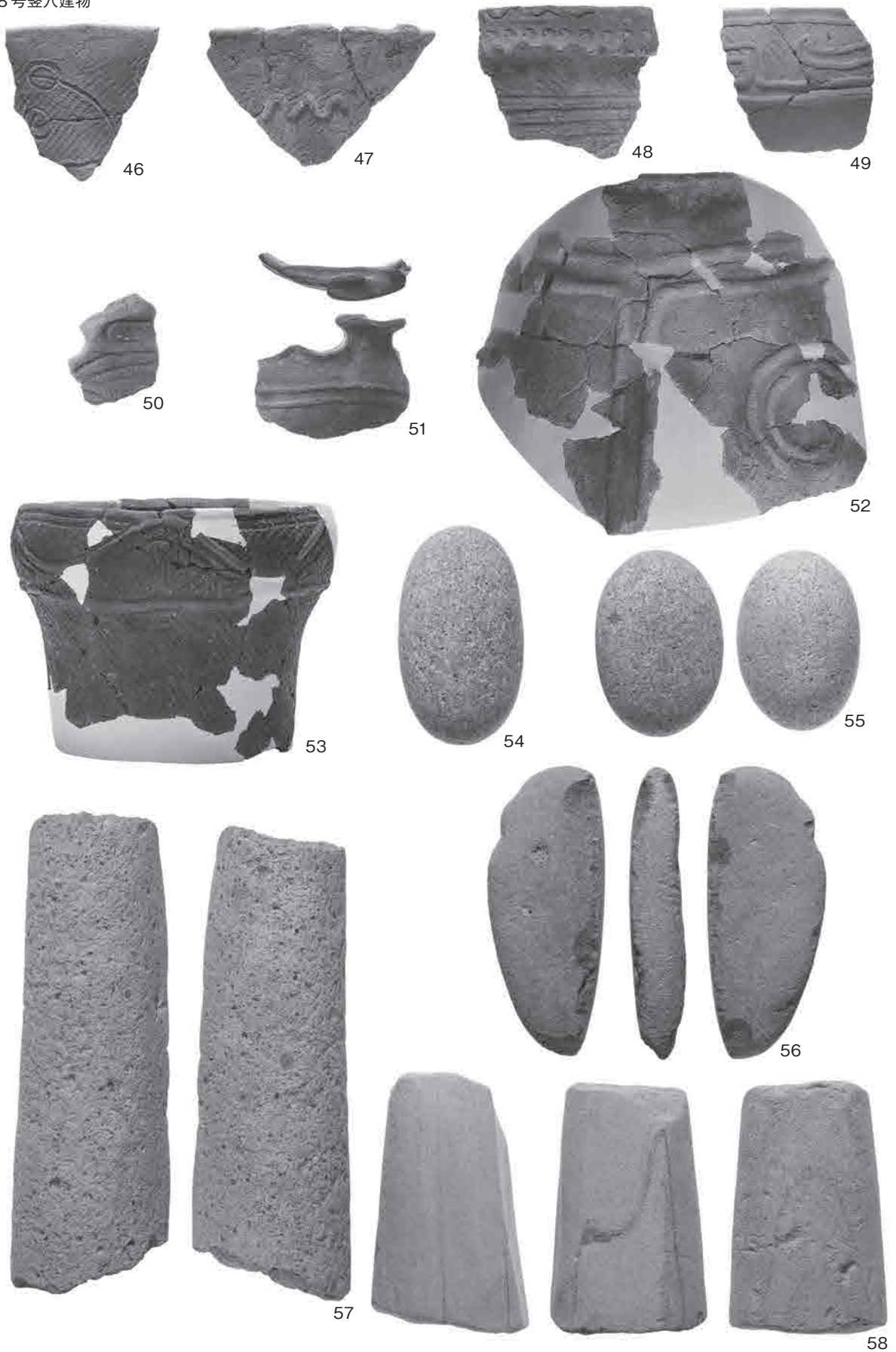


6号竖穴建物



写真図版110 遺構内出土遺物5

8号竖穴建物

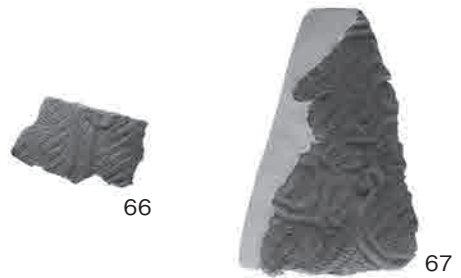


写真図版111 遺構内出土遺物6

9号豎穴建物



10号豎穴建物



写真図版112 遺構内出土遺物7

10号豎穴建物



11号豎穴建物



写真図版113 遺構内出土遺物 8



75



76

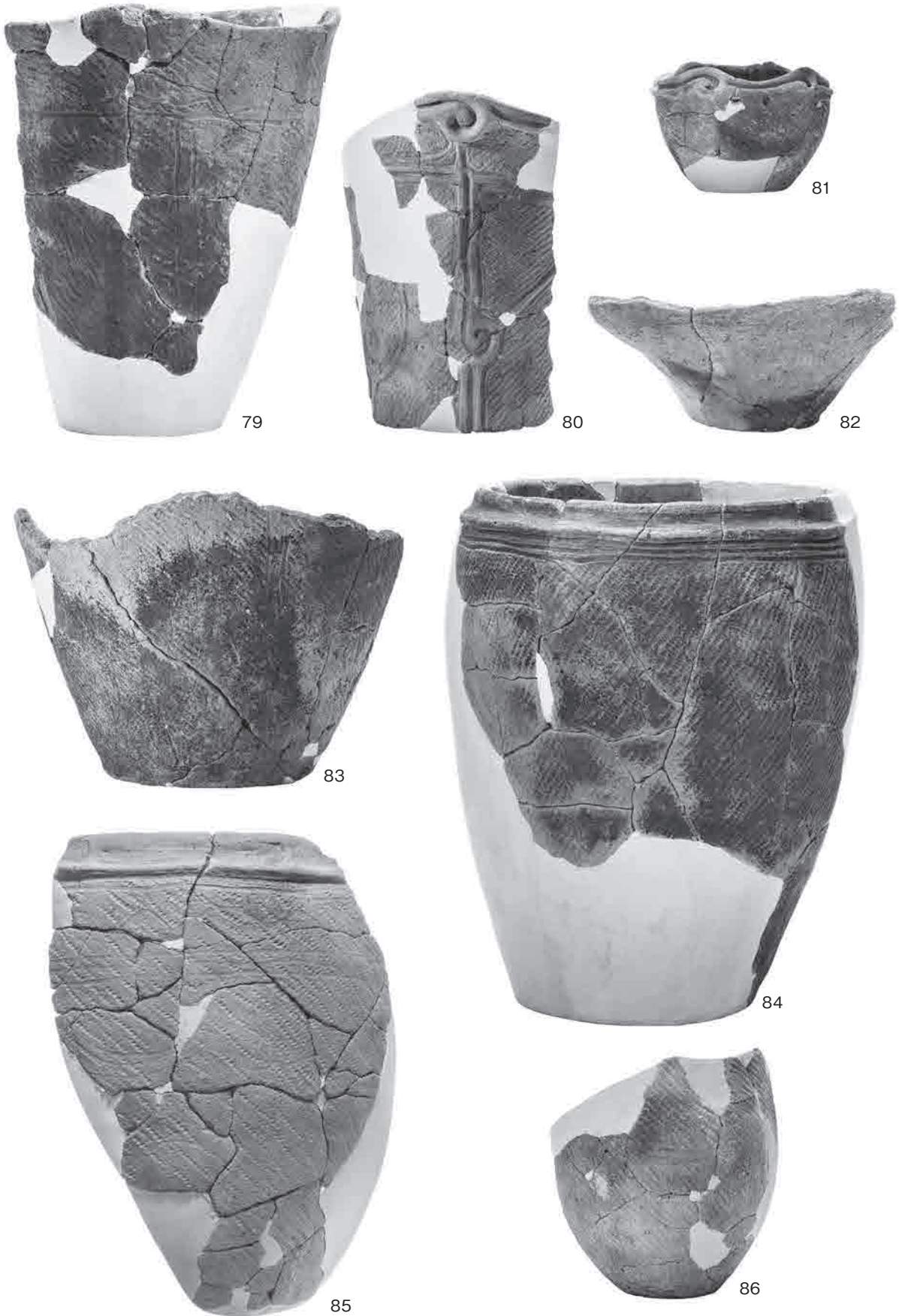


77



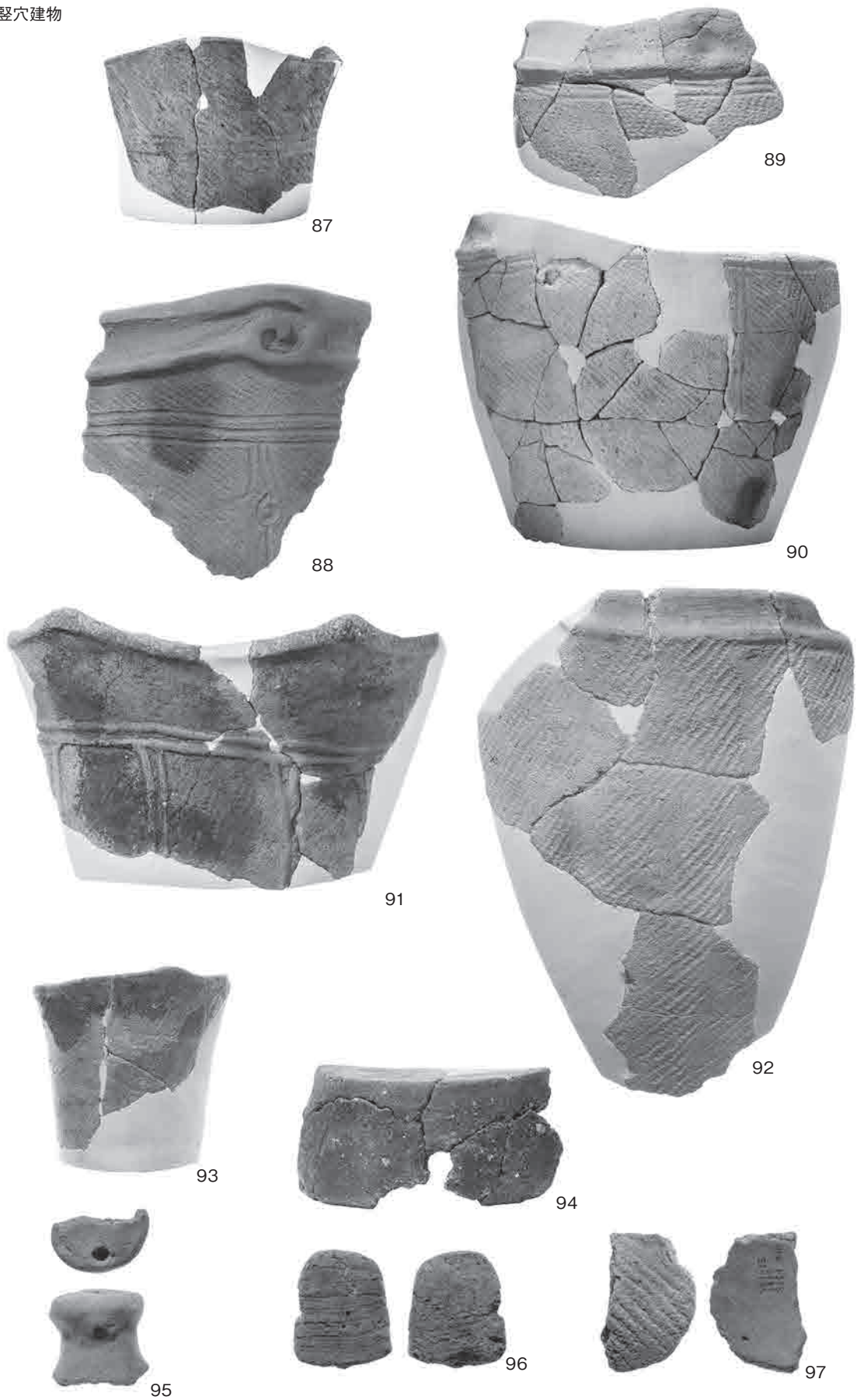
78

11号竖穴建物



写真図版115 遺構内出土遺物10

11号竖穴建物



写真図版116 遺構内出土遺物11

11号竖穴建物



98



99



100



101



102



103



104



105

12号豎穴建物



106

13号豎穴建物



107



108



109



110



111



112

写真図版118 遺構内出土遺物13

13号豎穴建物



113



114



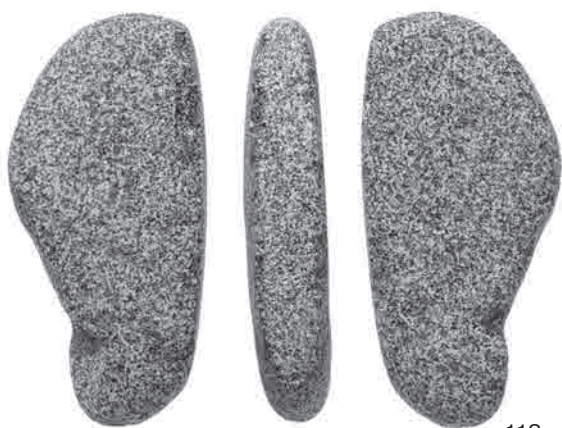
115



116



117



118



119



120

121



122

13号豎穴建物



15号豎穴建物



17号豎穴建物

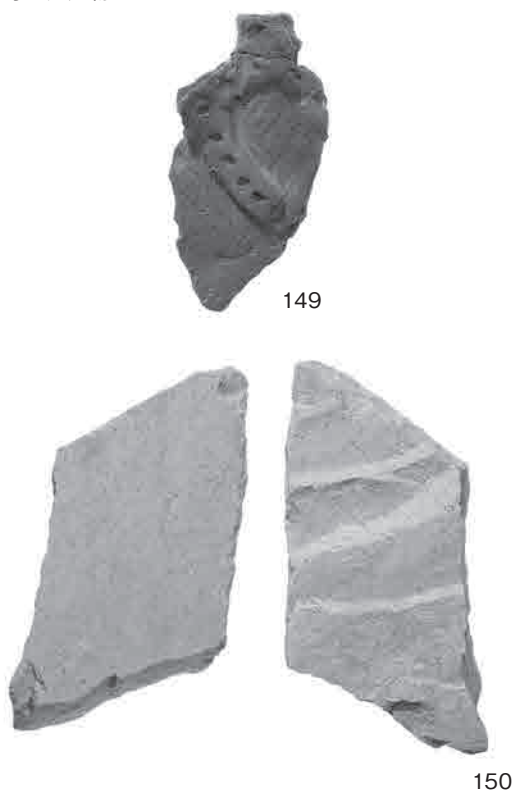


17号豎穴建物

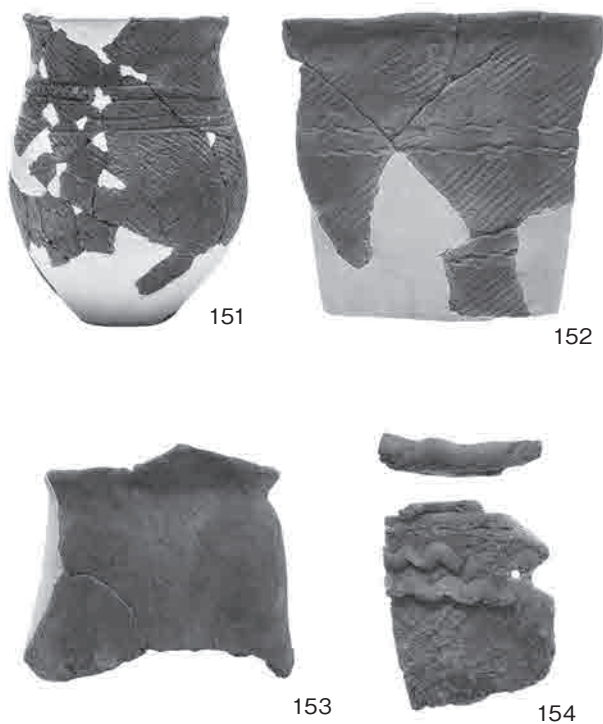


写真図版121 遺構内出土遺物16

19号豎穴建物



20号豎穴建物



21号豎穴建物



22号豎穴建物



22号竖穴建物



22号竖穴建物



165



166



167



168



169



170



171

172



173



175



174



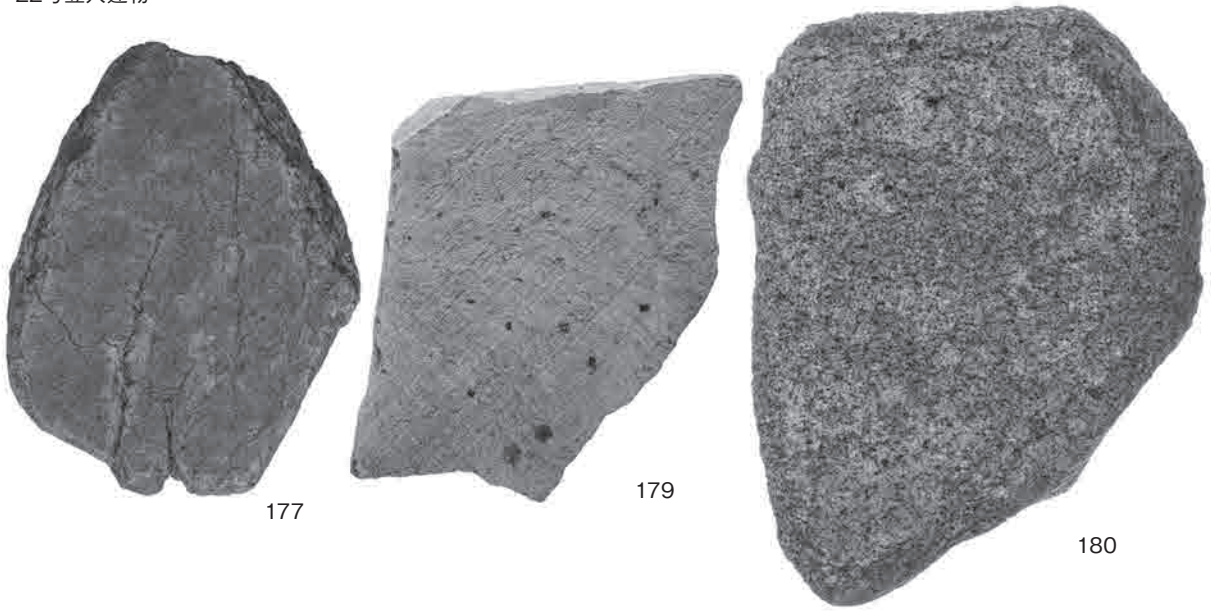
176



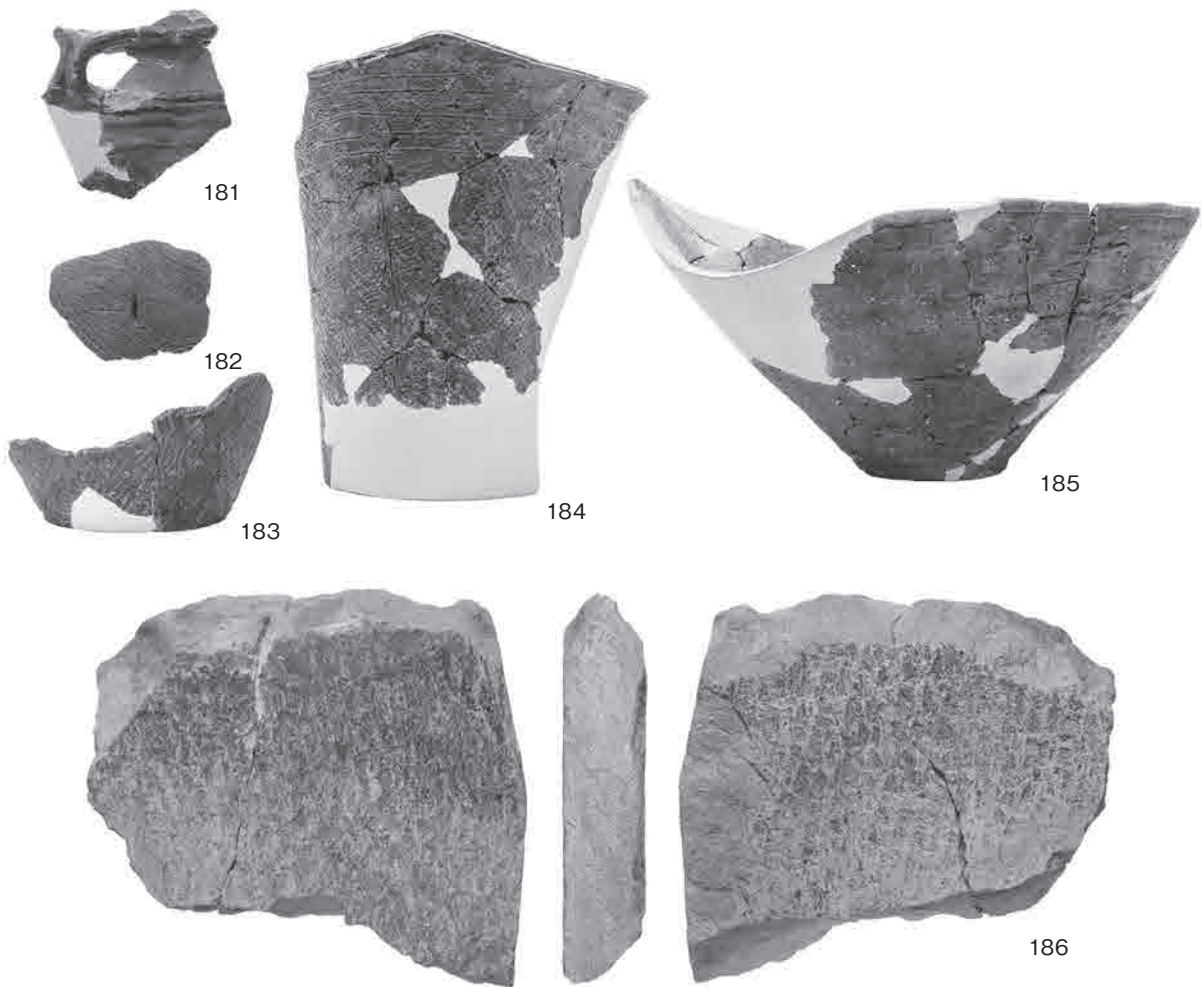
178

写真図版124 遺構内出土遺物19

22号豎穴建物



23号豎穴建物



24号竖穴建物



187

25号竖穴建物



188

189

27号竖穴建物

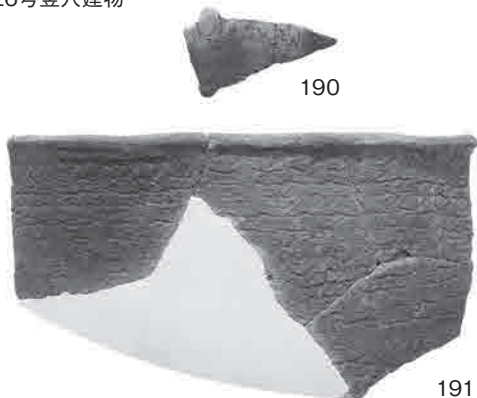


193



192

26号竖穴建物



190

191



194

28号竖穴建物



195



196



197



199

写真図版126 遺構内出土遺物21



198



201



202



203



200



204



205



206



208



207



210

28号豎穴建物



209



211



212



213



214



215

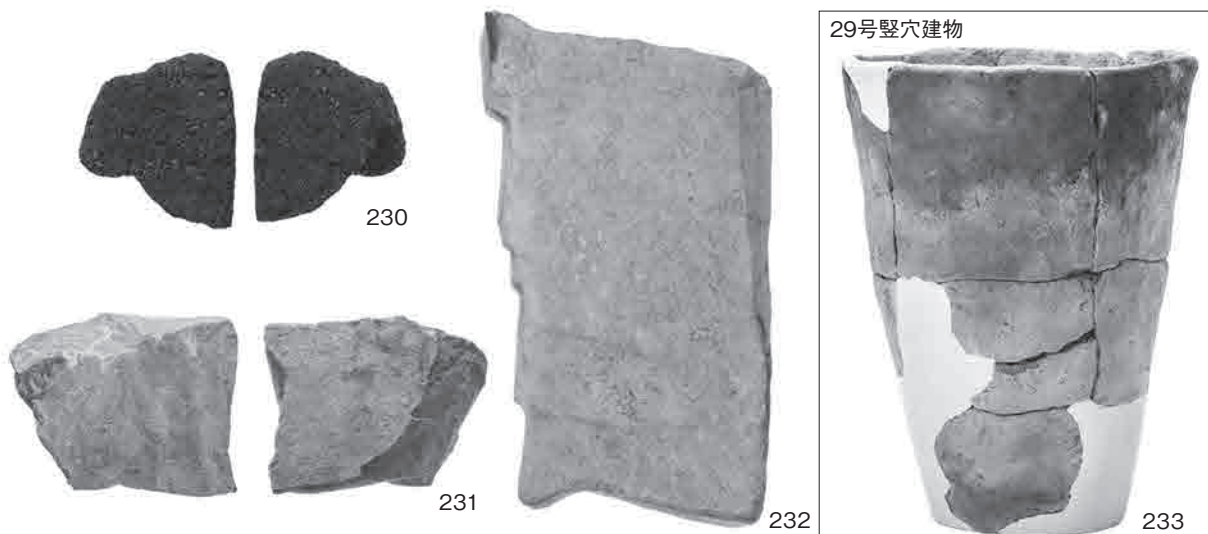


217



216

28号竖穴建物

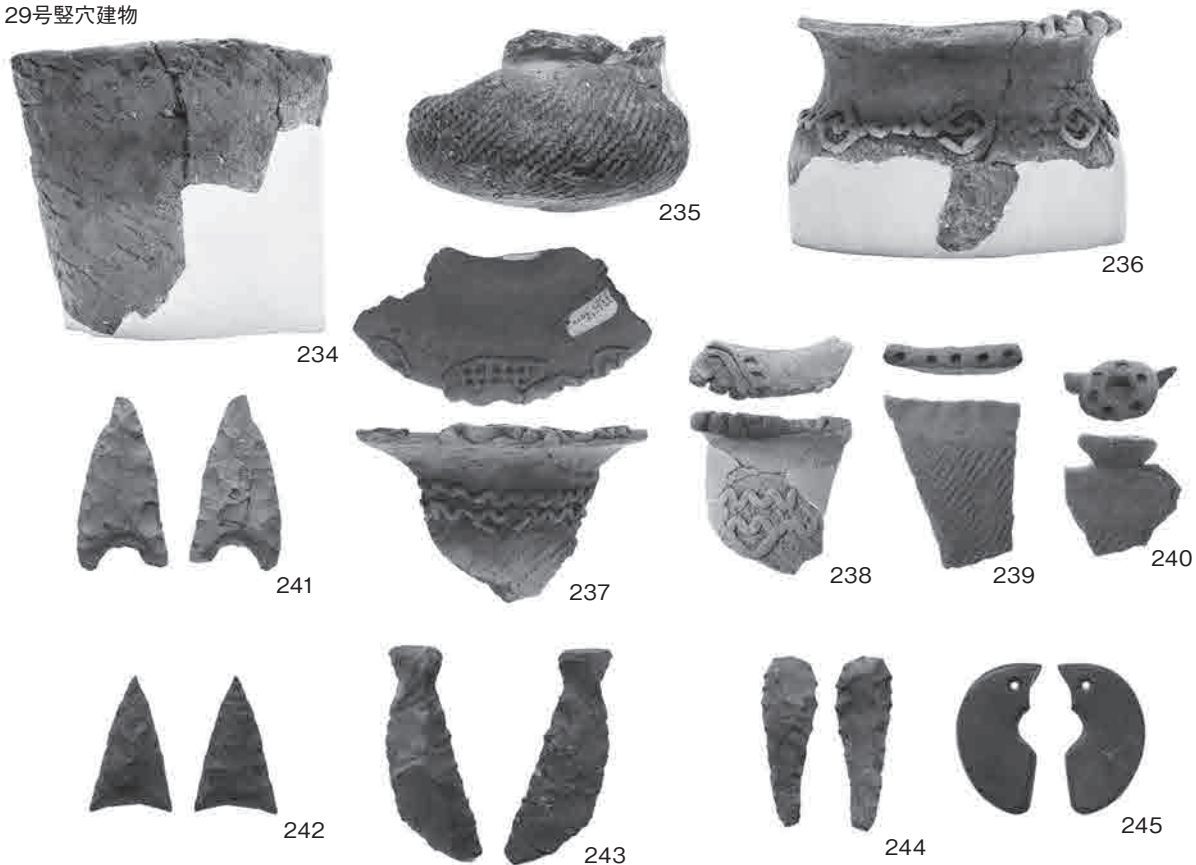


29号竖穴建物

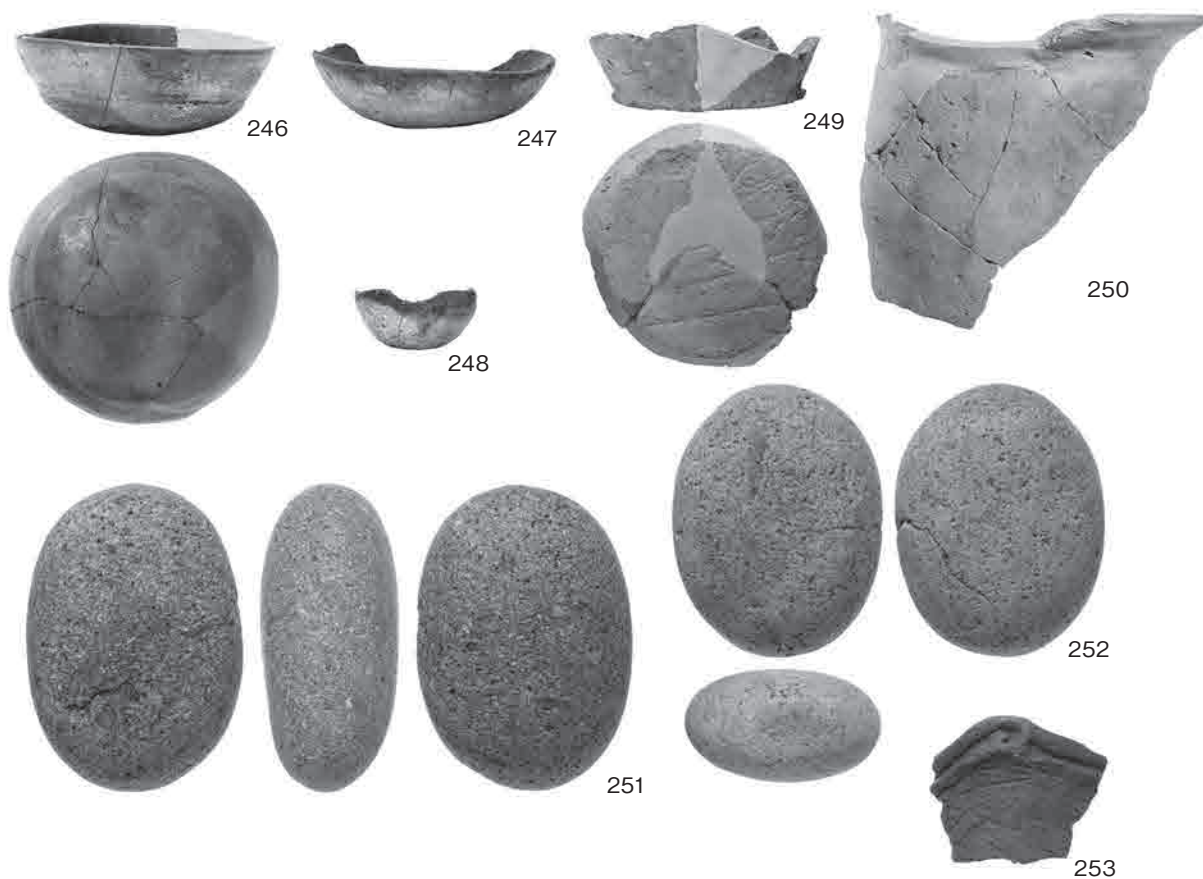


写真図版130 遺構内出土遺物25

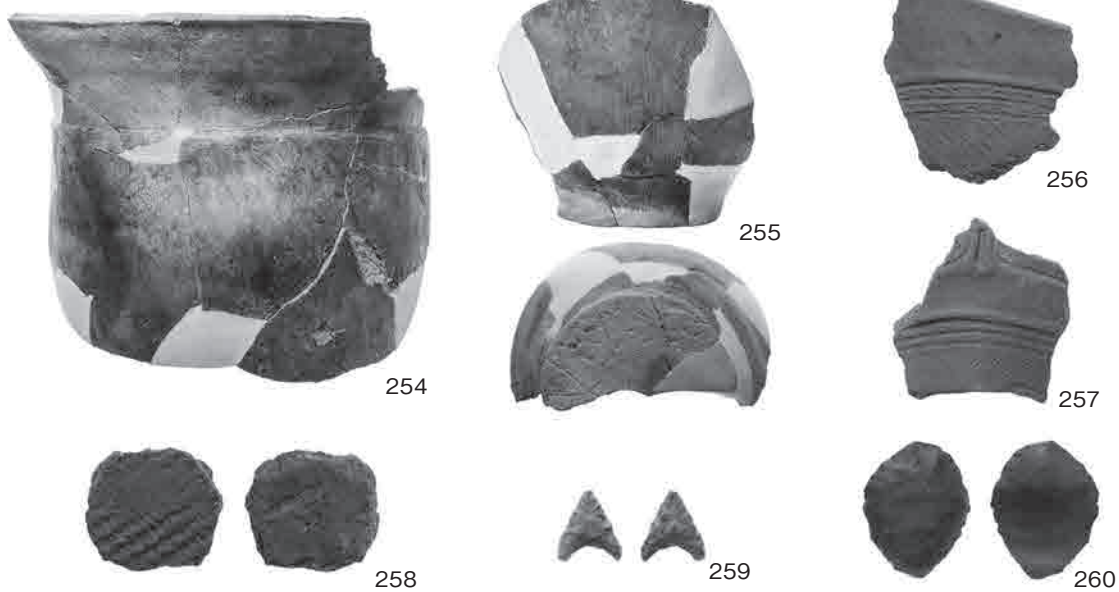
29号豎穴建物



30号豎穴建物



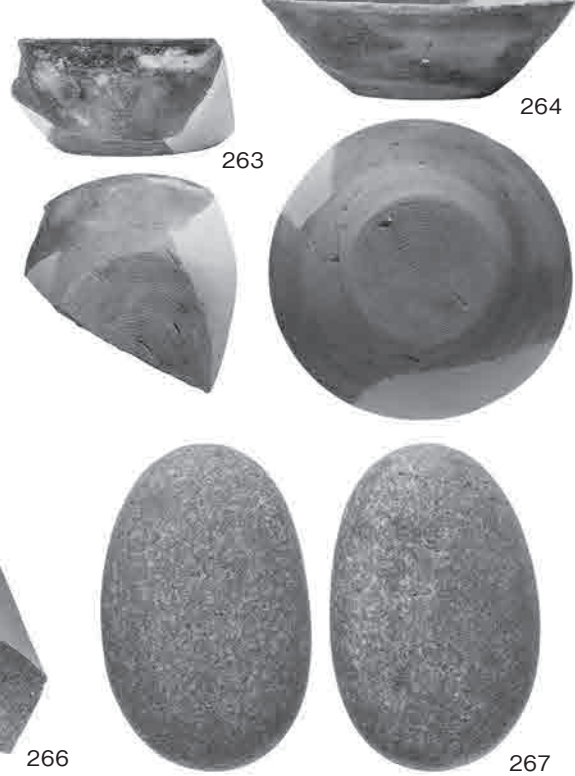
31号豎穴建物



32号豎穴建物



33号豎穴建物



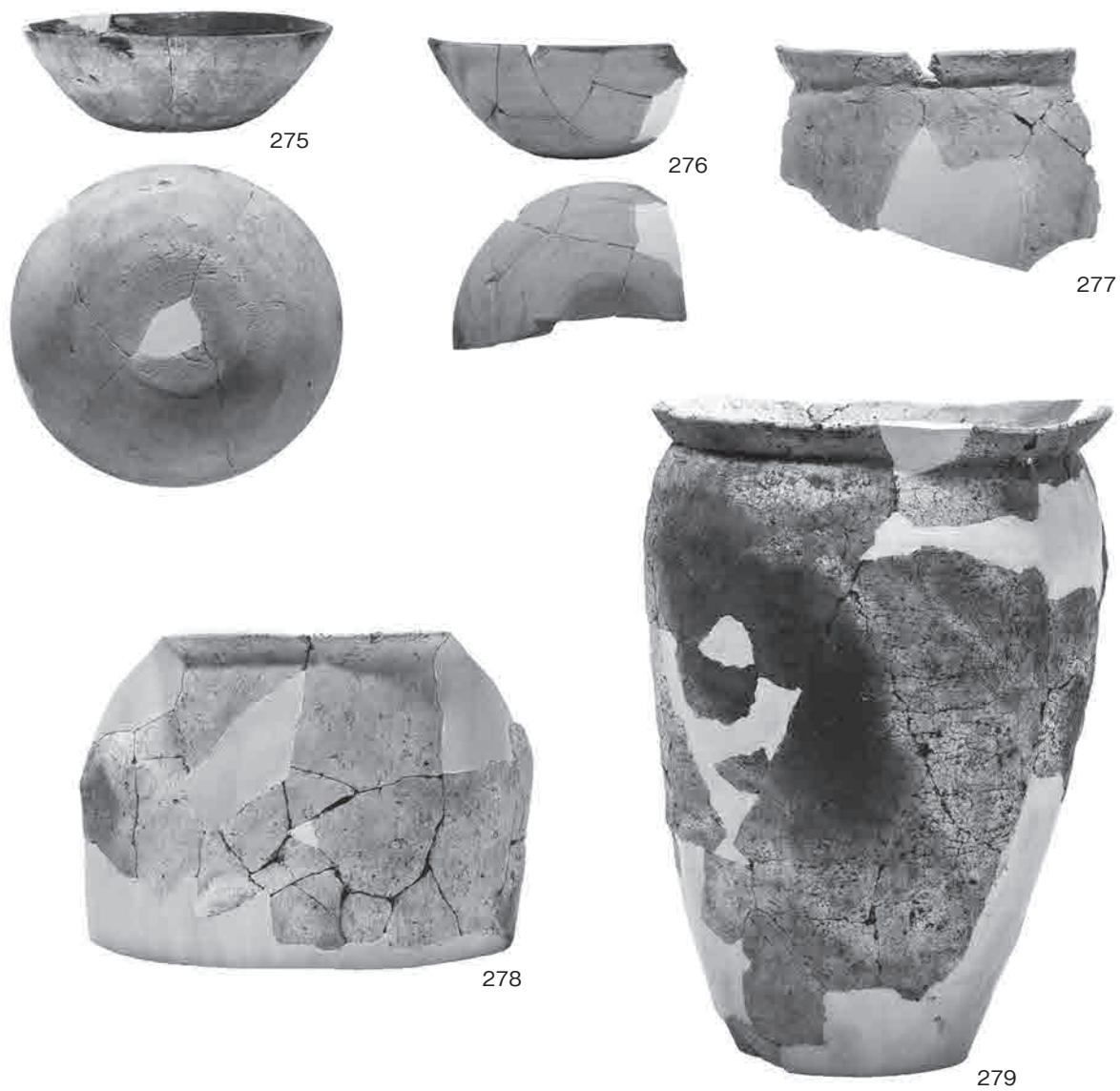
34号豎穴建物



35号豎穴建物



36号豎穴建物



36号豎穴建物



280



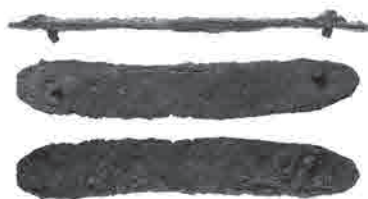
281



282



283



285



284



286



287



288



289



290



291



292

37号豎穴建物



293

写真図版134 遺構内出土遺物29

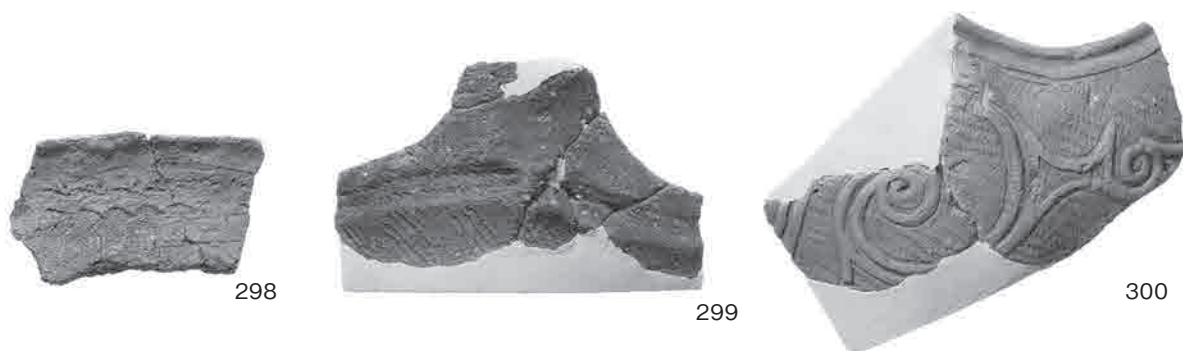
38号豎穴建物



39号豎穴建物



1号掘立柱建物跡



1号炉



10号炉



306



307

5号土坑



310



311



312

6号土坑



313

1号土坑



308



309

15号土坑



317

16号土坑



318

14号土坑



314



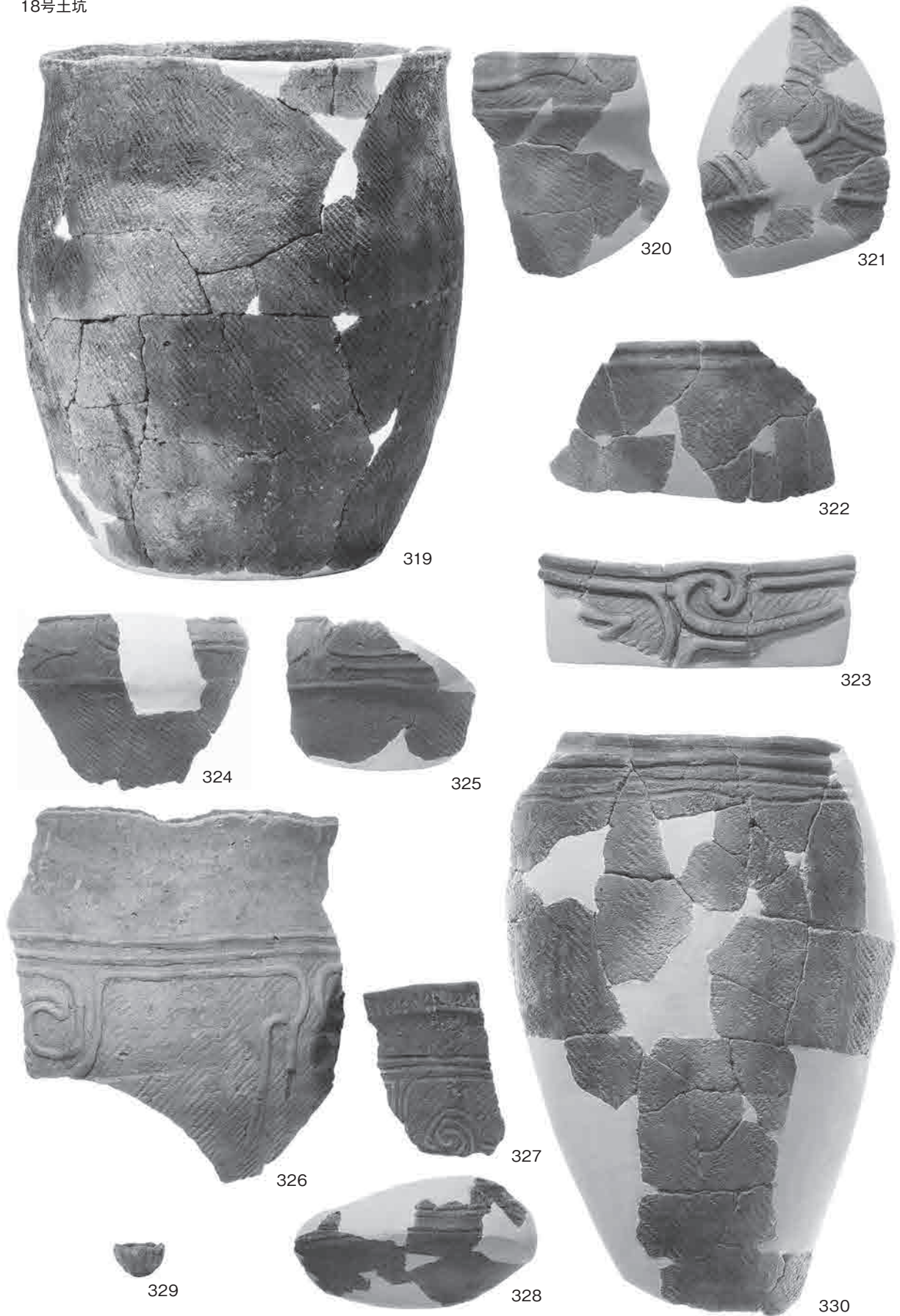
315



316

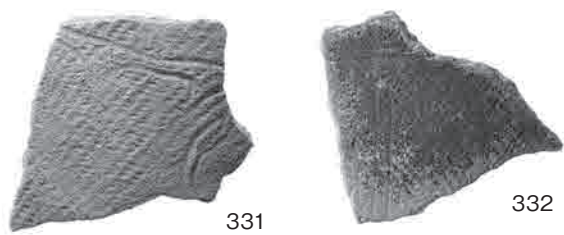


18号土坑



写真図版137 遺構内出土遺物32

22号土坑



25号土坑



26号土坑



27号土坑



写真図版138 遺構内出土遺物33

28号土坑



348



349

29号土坑



350



351

30号土坑



352

32号土坑



353



354

35号土坑



355



356



357



358

38号土坑



359

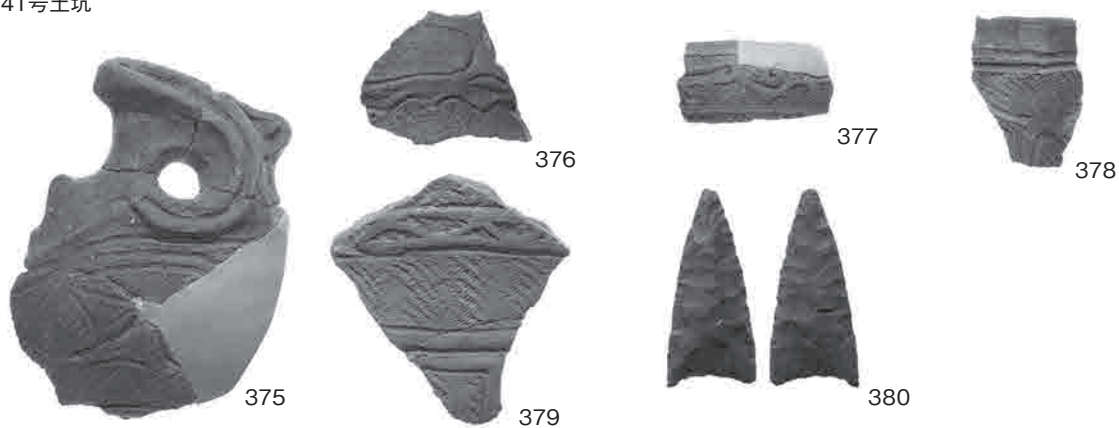
38号土坑



39号土坑

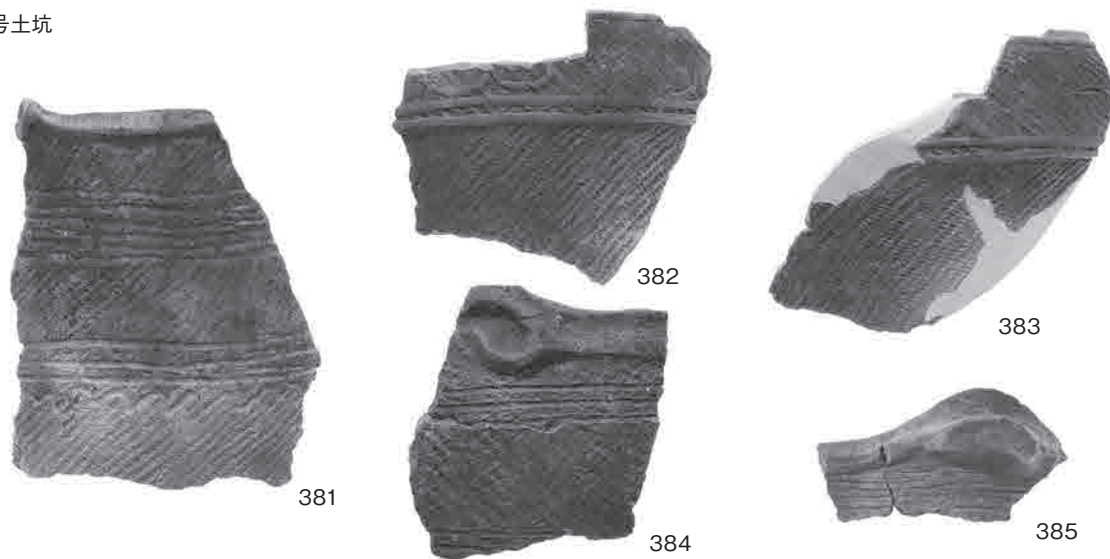


41号土坑



写真図版140 遺構内出土遺物35

42号土坑



45号土坑



46号土坑



47号土坑



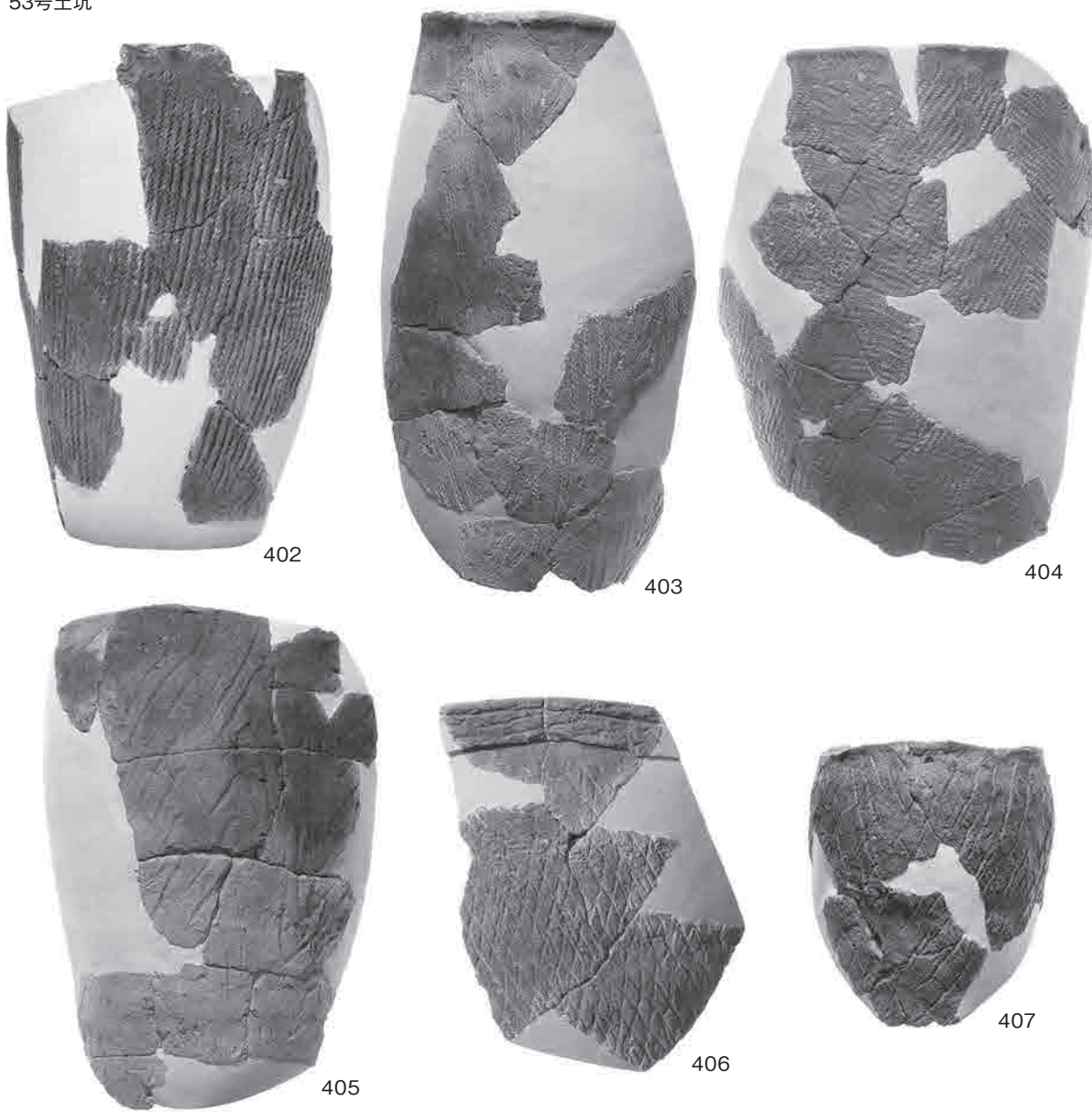
49号土坑



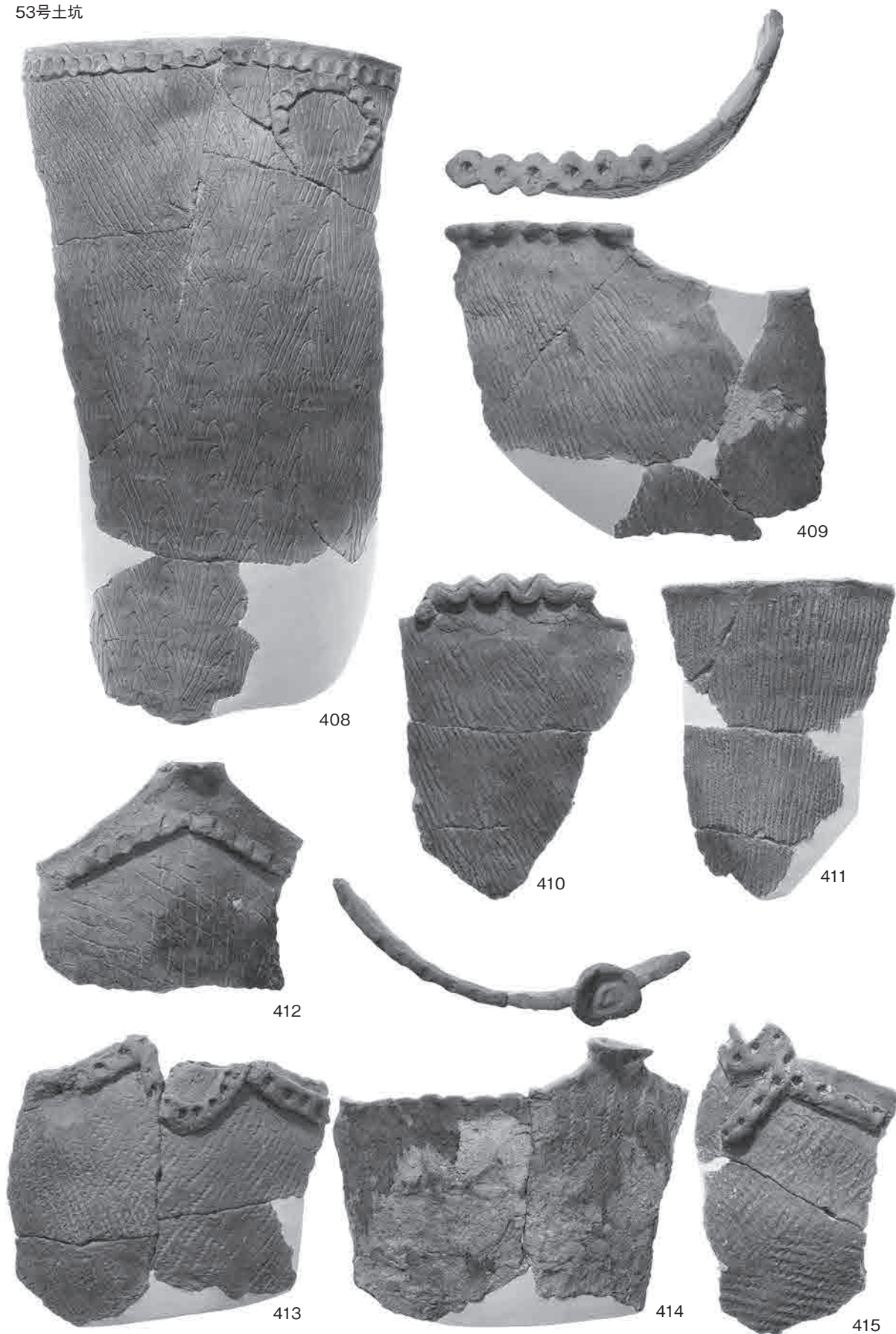
50号土坑



53号土坑



53号土坑



写真図版143 遺構内出土遺物38

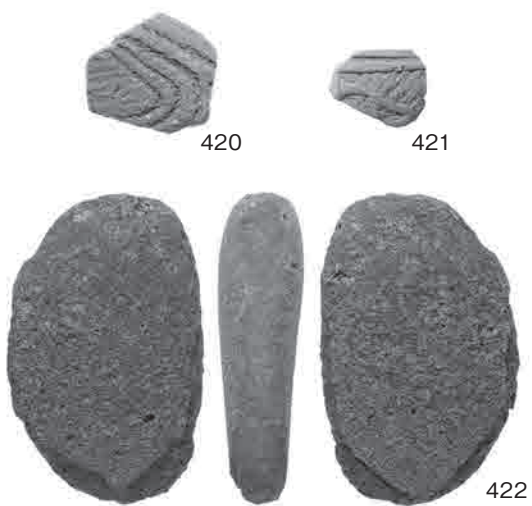
54号土坑



55号土坑



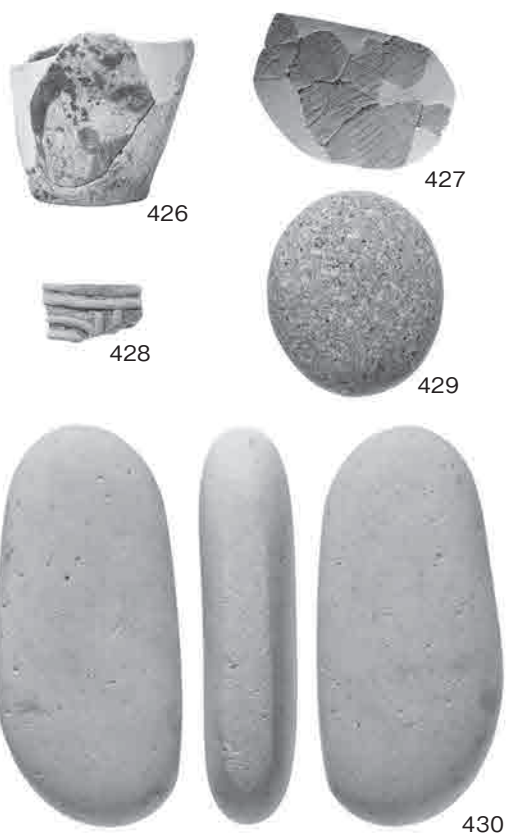
57号土坑



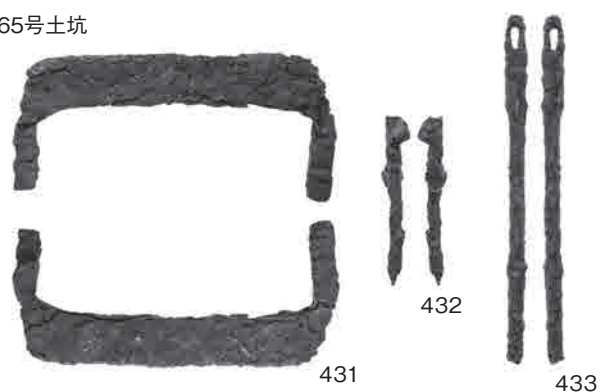
61号土坑



63号土坑

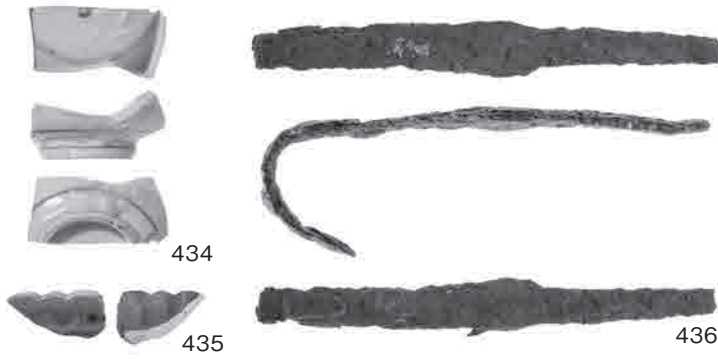


65号土坑



写真図版144 遺構内出土遺物39

66号土坑



2号陥し穴状遺構



7号陥し穴状遺構



8号陥し穴状遺構



1号土器埋設遺構



写真図版145 遺構内出土遺物40

2号土器埋設遺構



446

P12



452

P37



453

P74



455

1号墓墳



447

P54



454

P76



456

P3



448

449

P115



457

P4



450

P11



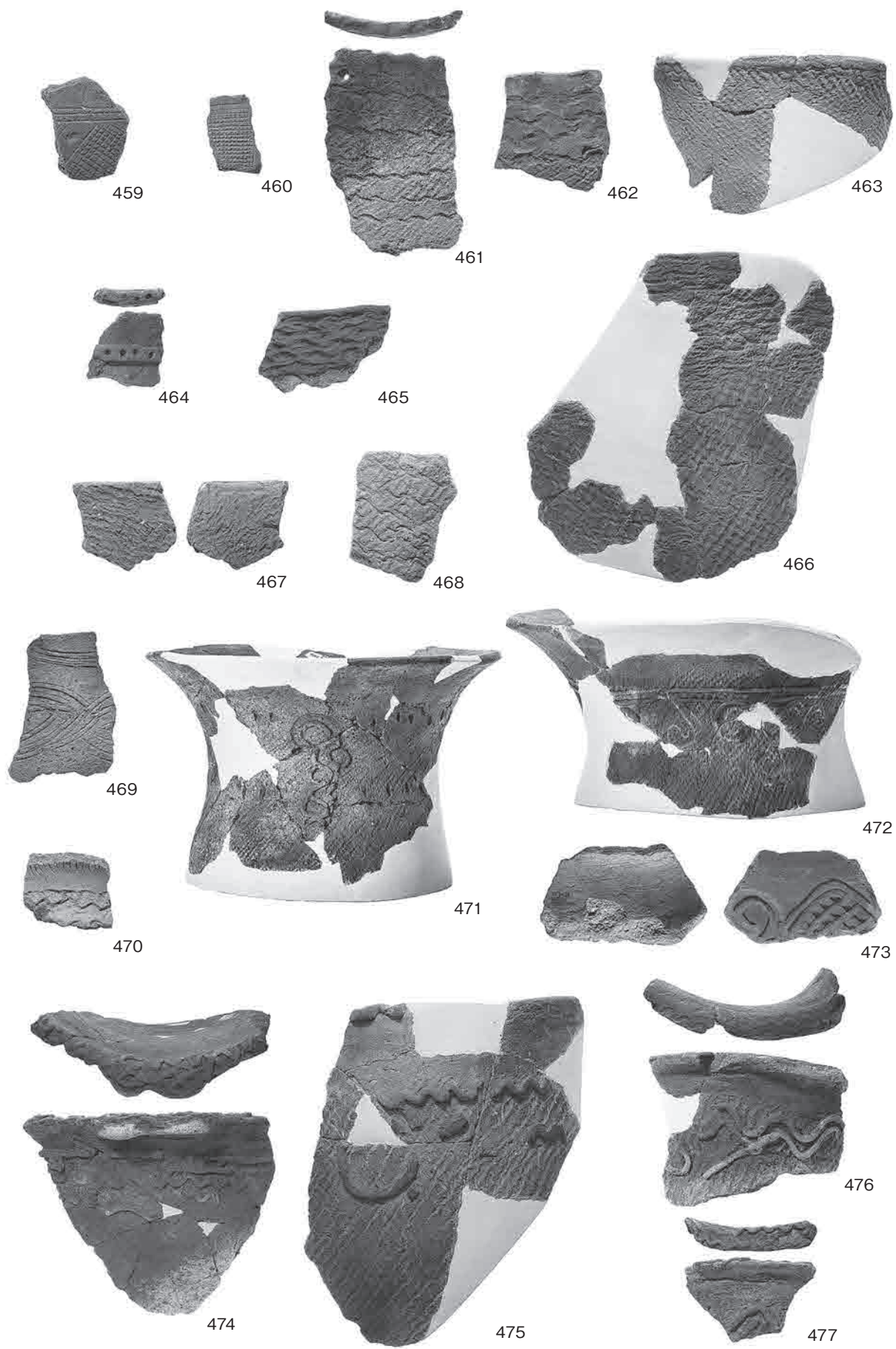
451

P129

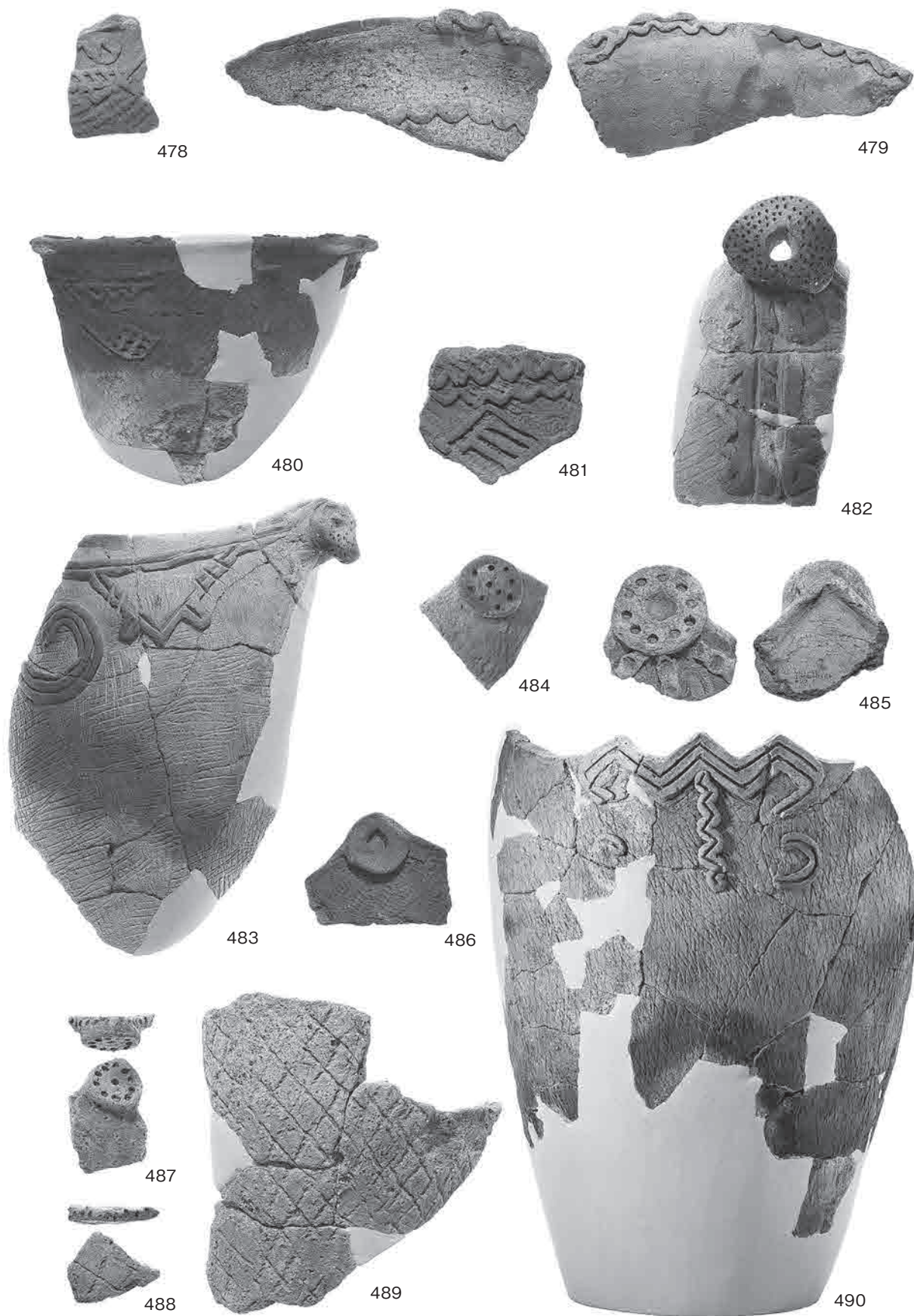


458

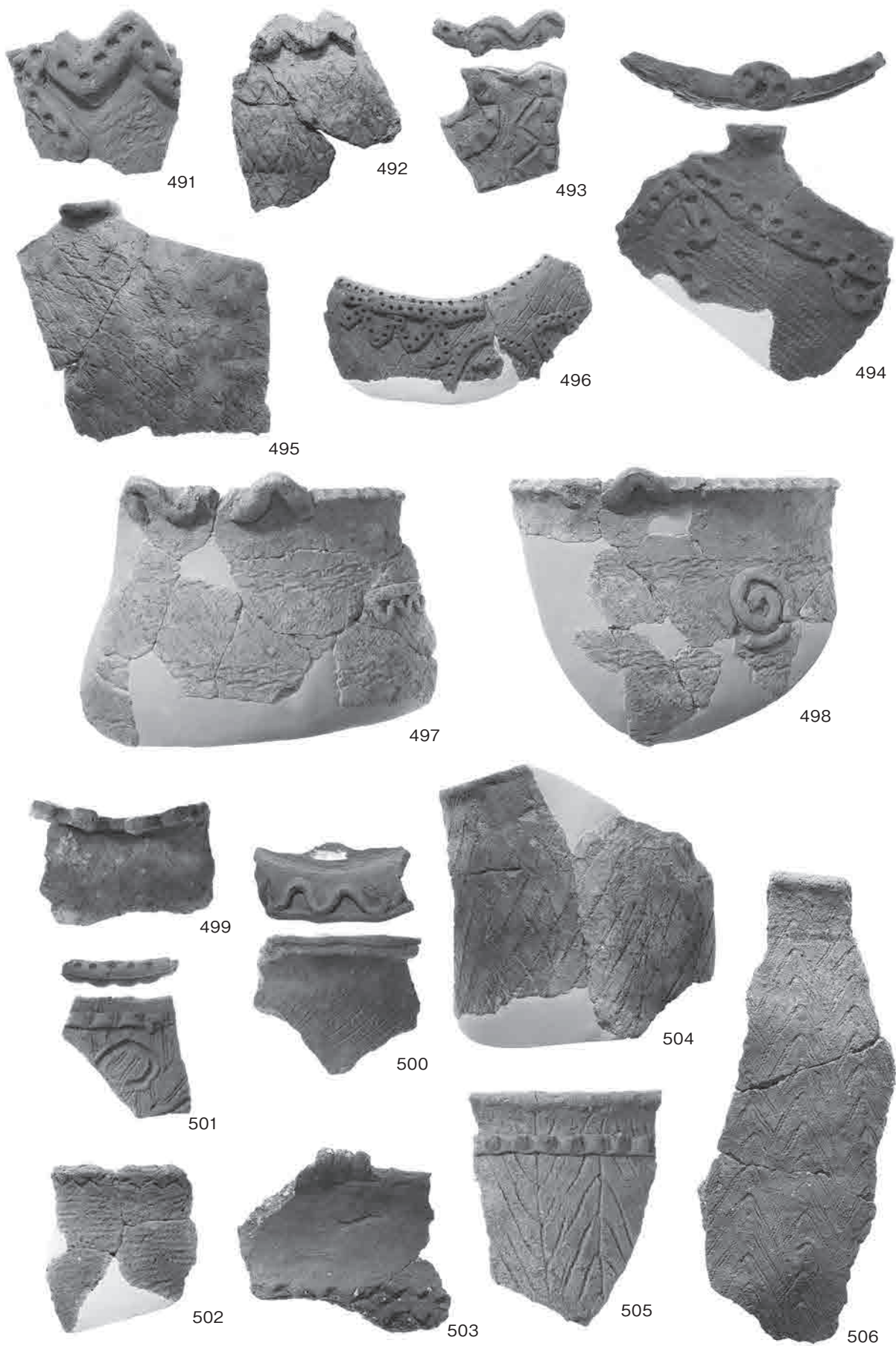
写真図版146 遺構内出土遺物41



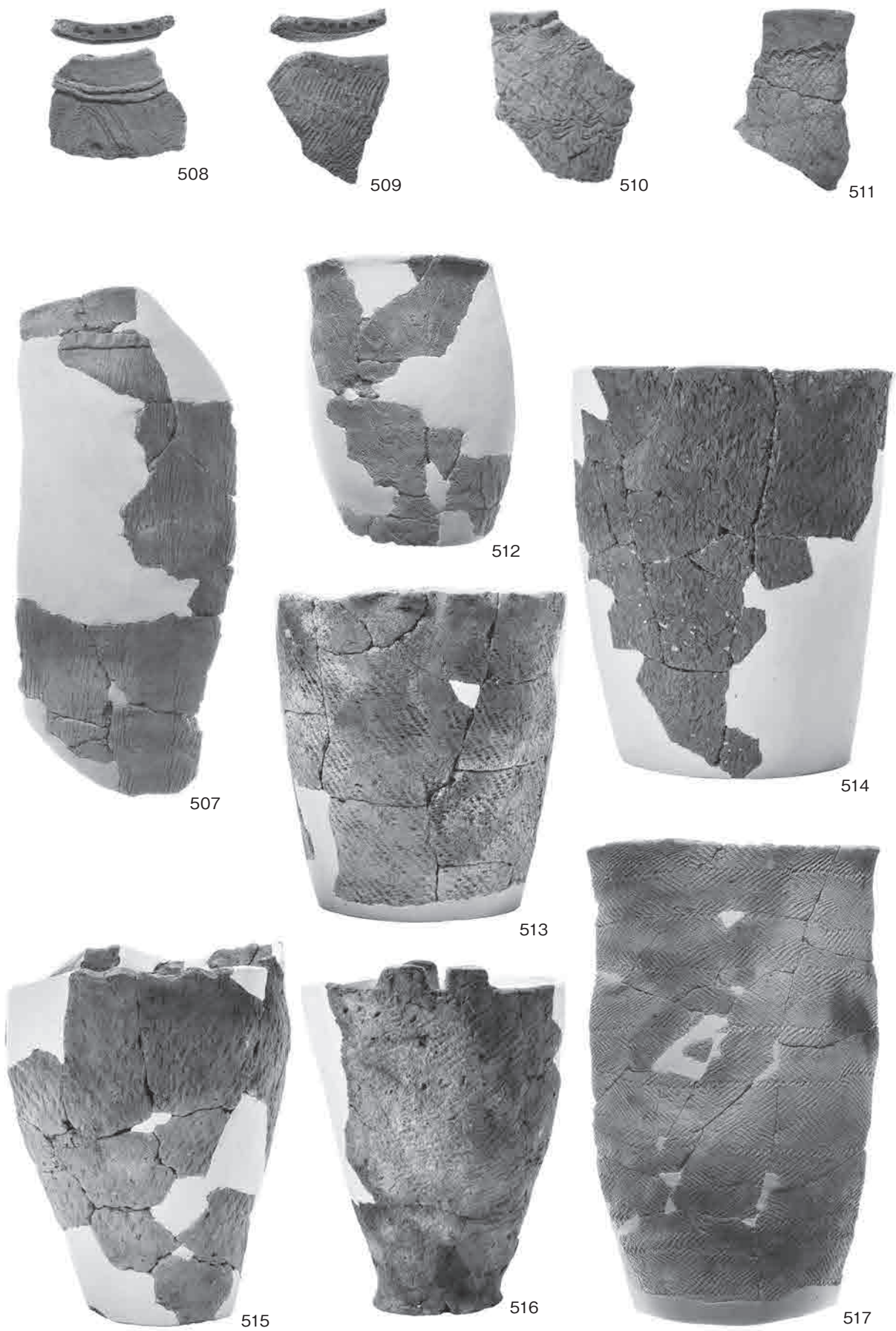
写真図版147 遺構外出土遺物 1 (縄文土器 1)



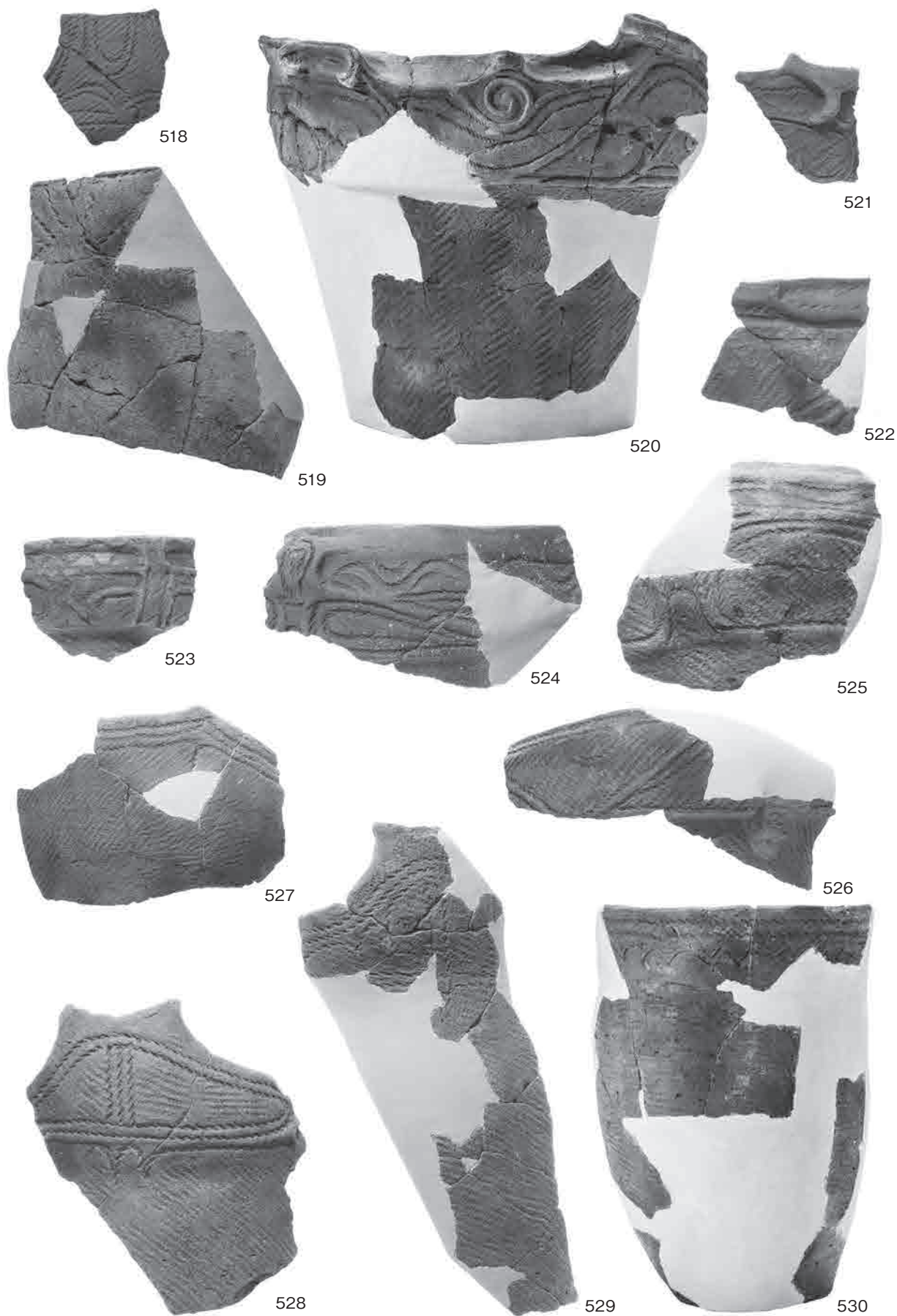
写真図版148 遺構外出土遺物2 (縄文土器2)



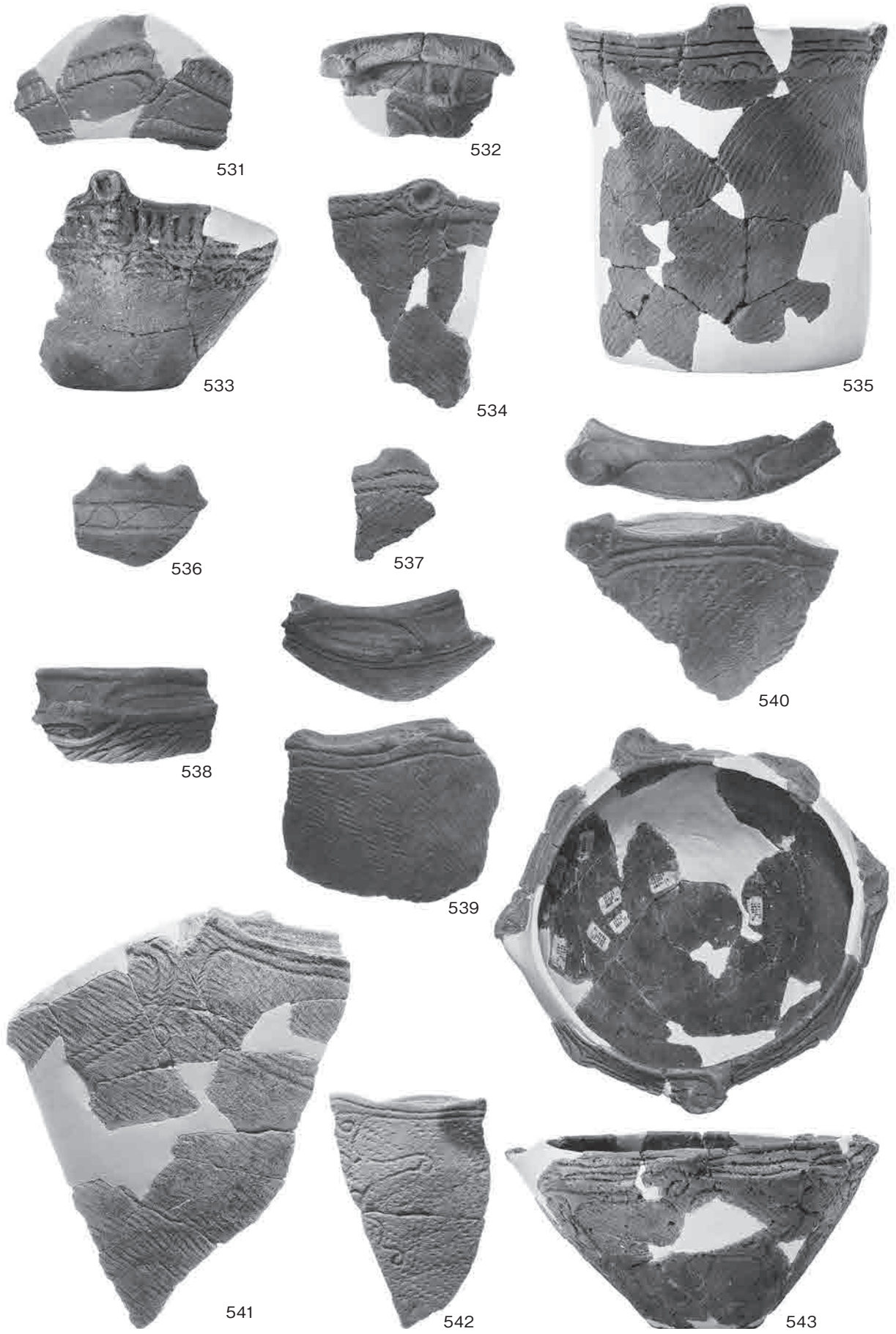
写真図版149 遺構外出土遺物3 (縄文土器3)



写真図版150 遺構外出土遺物4（縄文土器4）



写真図版151 遺構外出土遺物5（縄文土器5）



写真図版152 遺構外出土遺物6 (縄文土器6)



544



545



547



546



548



549



550



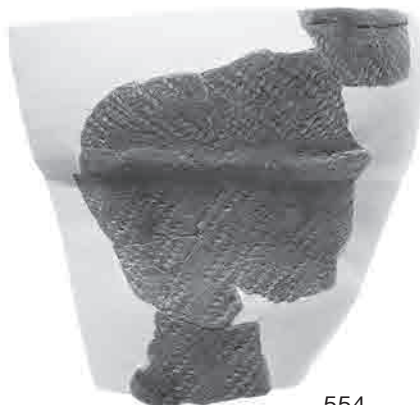
551



552

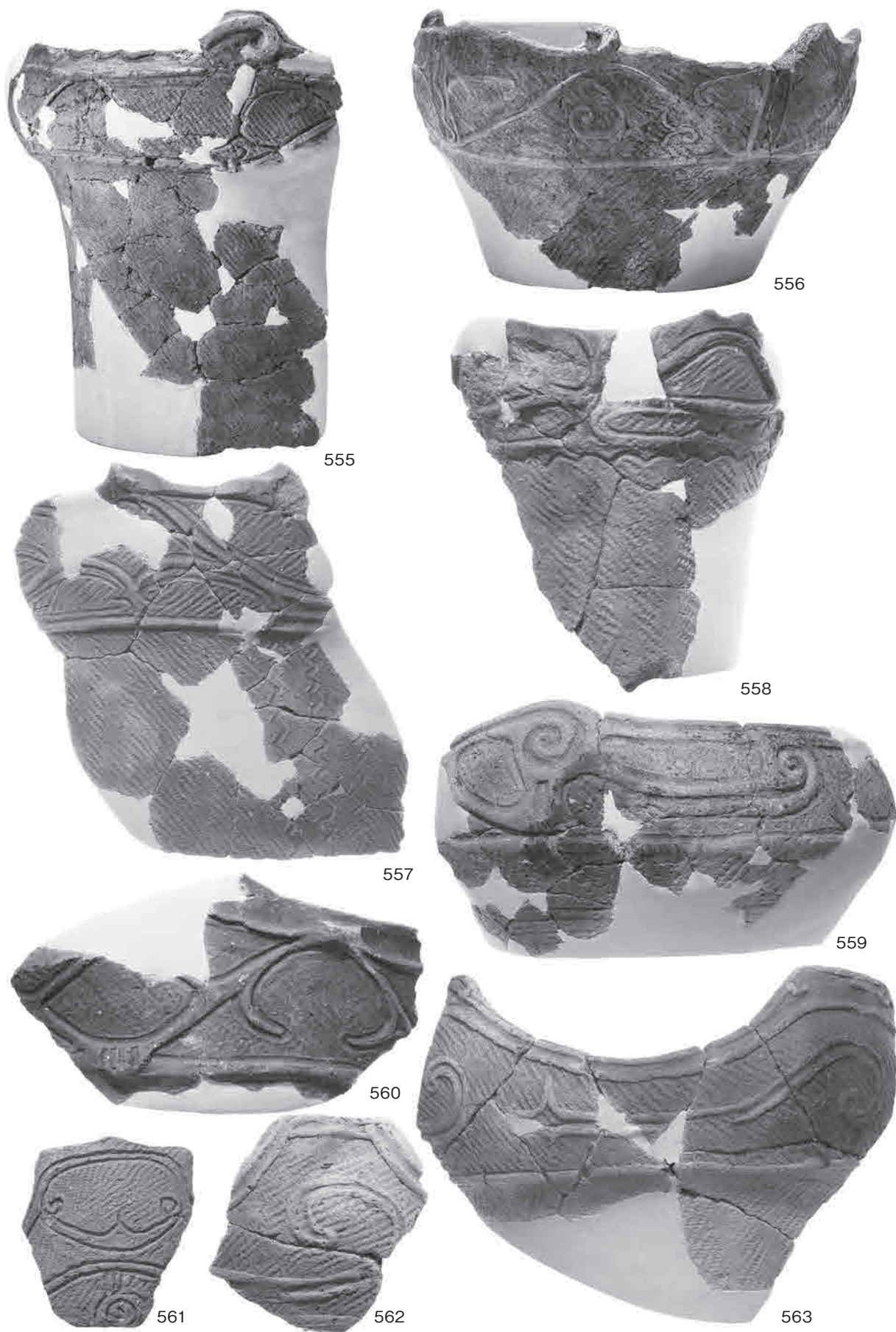


553



554

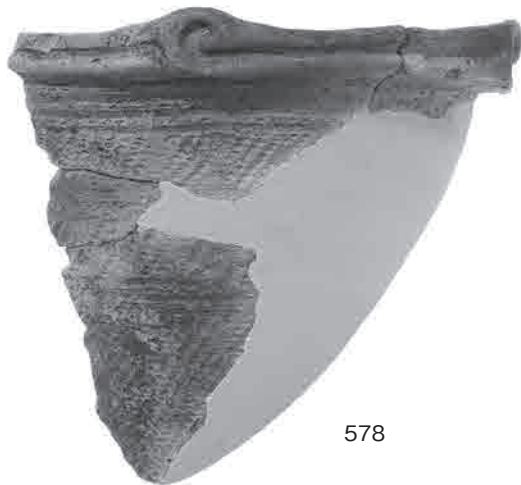
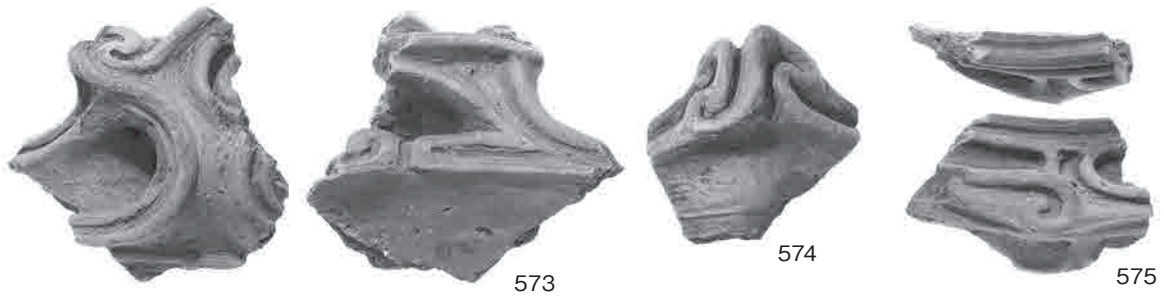
写真図版153 遺構外出土遺物7 (縄文土器7)



写真図版154 遺構外出土遺物8（縄文土器8）



写真図版155 遺構外出土遺物9 (縄文土器9)



写真図版156 遺構外出土遺物10 (縄文土器10)



580



581



582



583



587



584



586

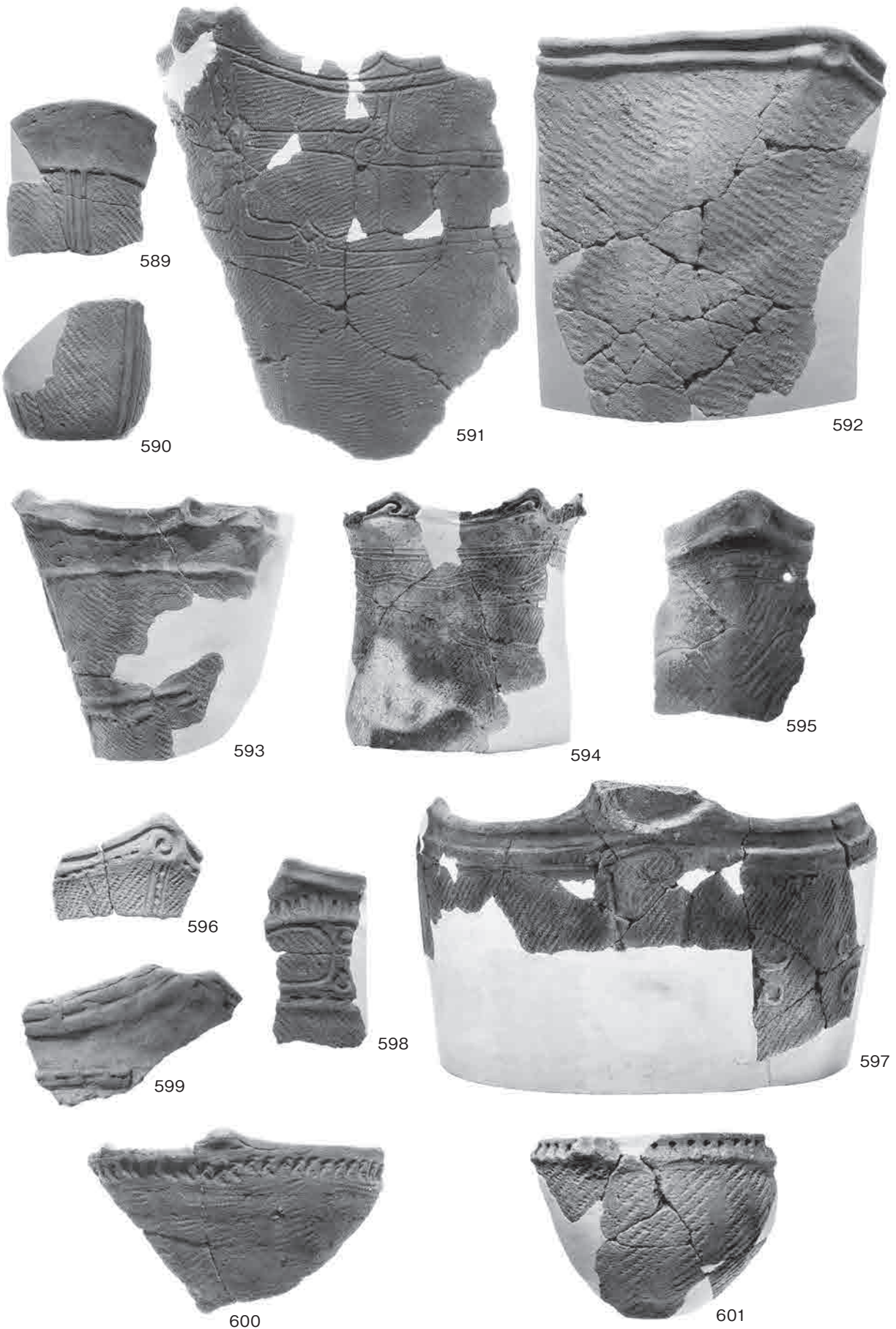


585



588

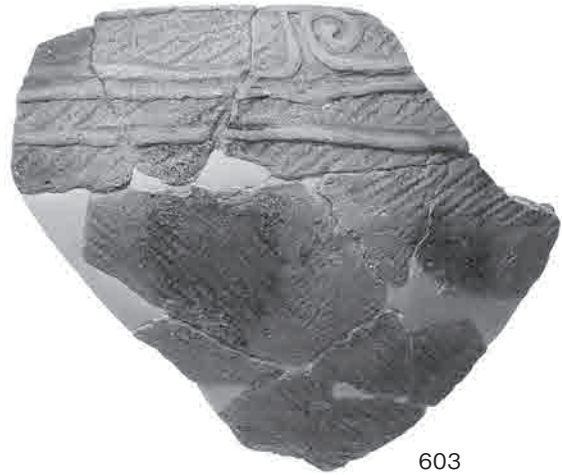
写真図版157 遺構外出土遺物11 (縄文土器11)



写真図版158 遺構外出土遺物12 (縄文土器12)



602



603



604



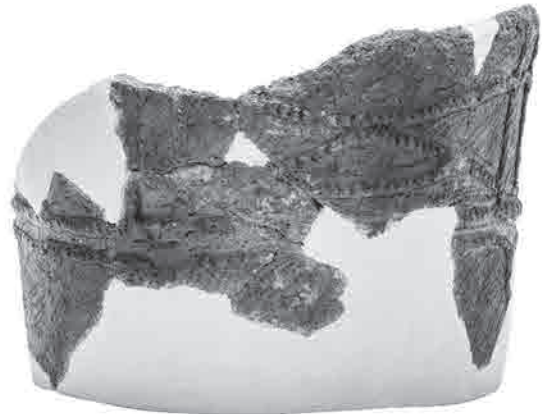
606



605



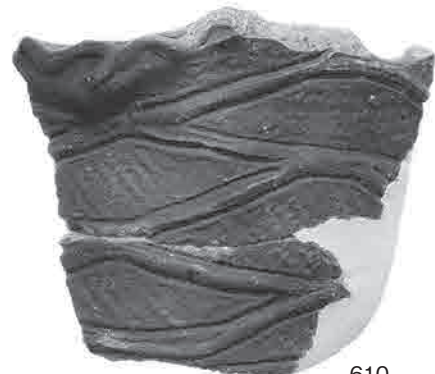
607



608



609



610

写真図版159 遺構外出土遺物13 (縄文土器13)



611



612



613



614



615



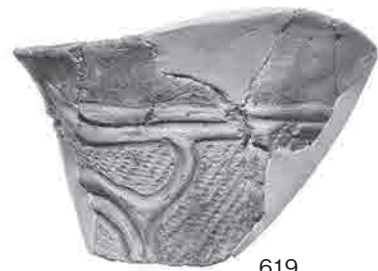
616



617



618



619

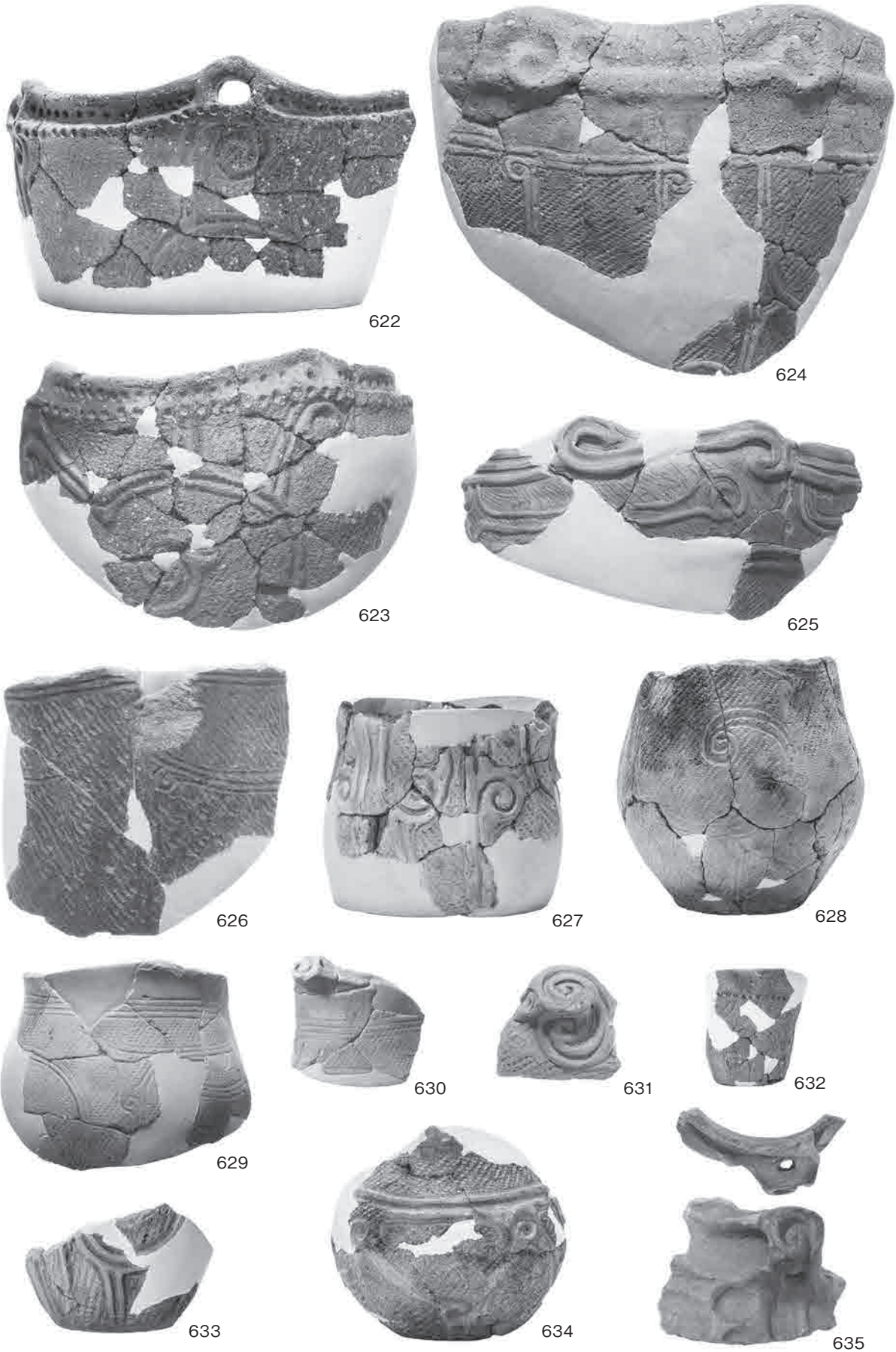


620

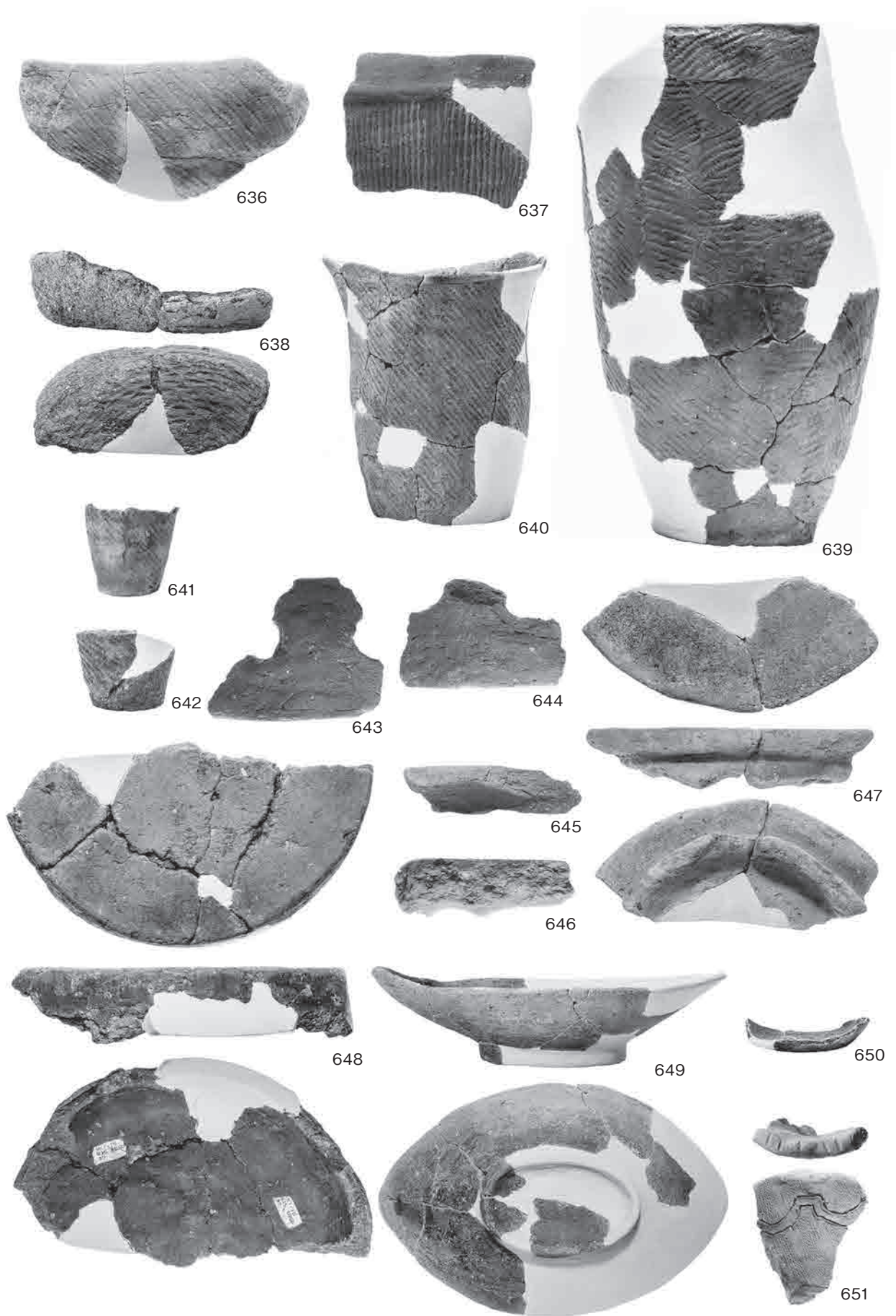


621

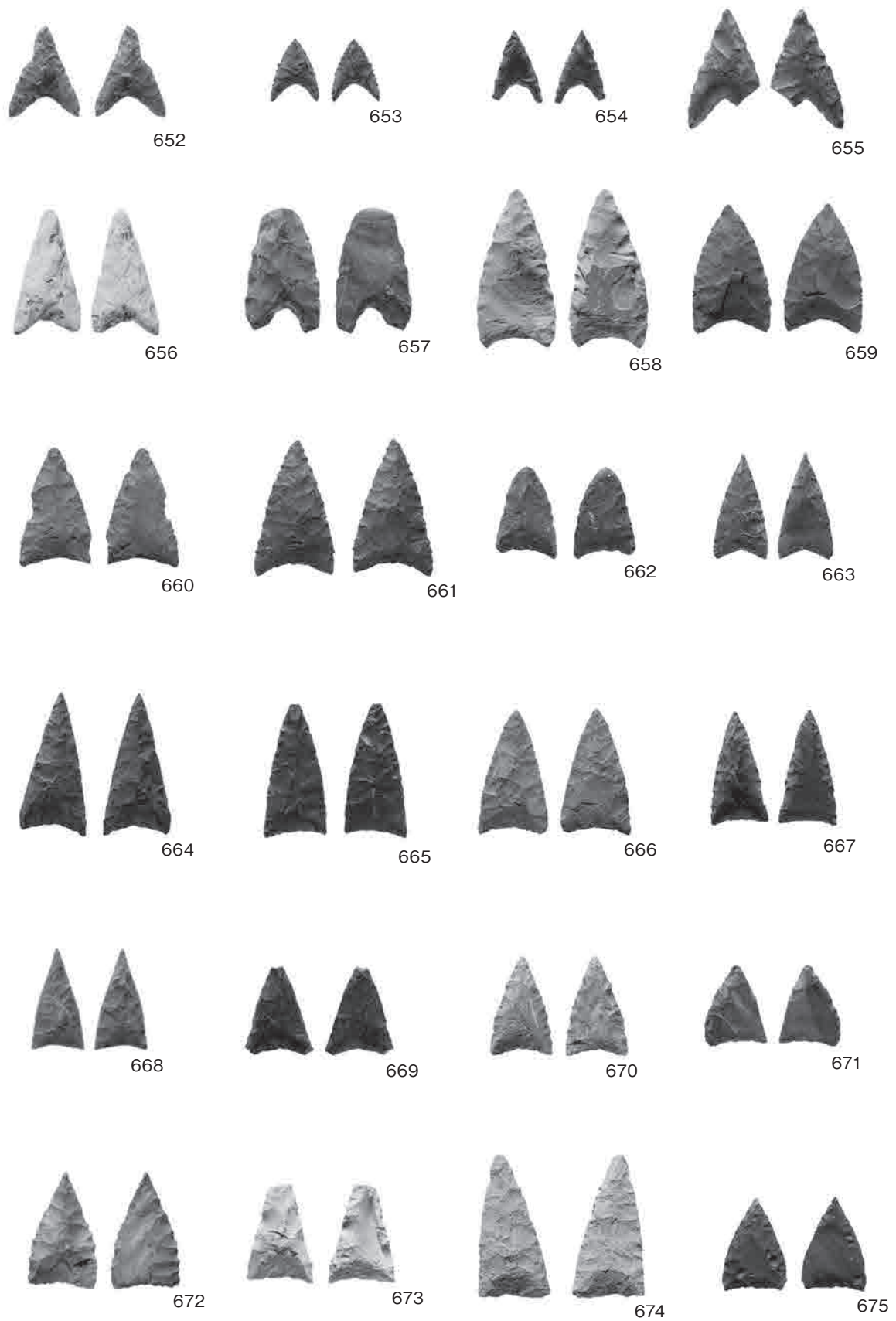
写真図版160 遺構外出土遺物14 (縄文土器14)



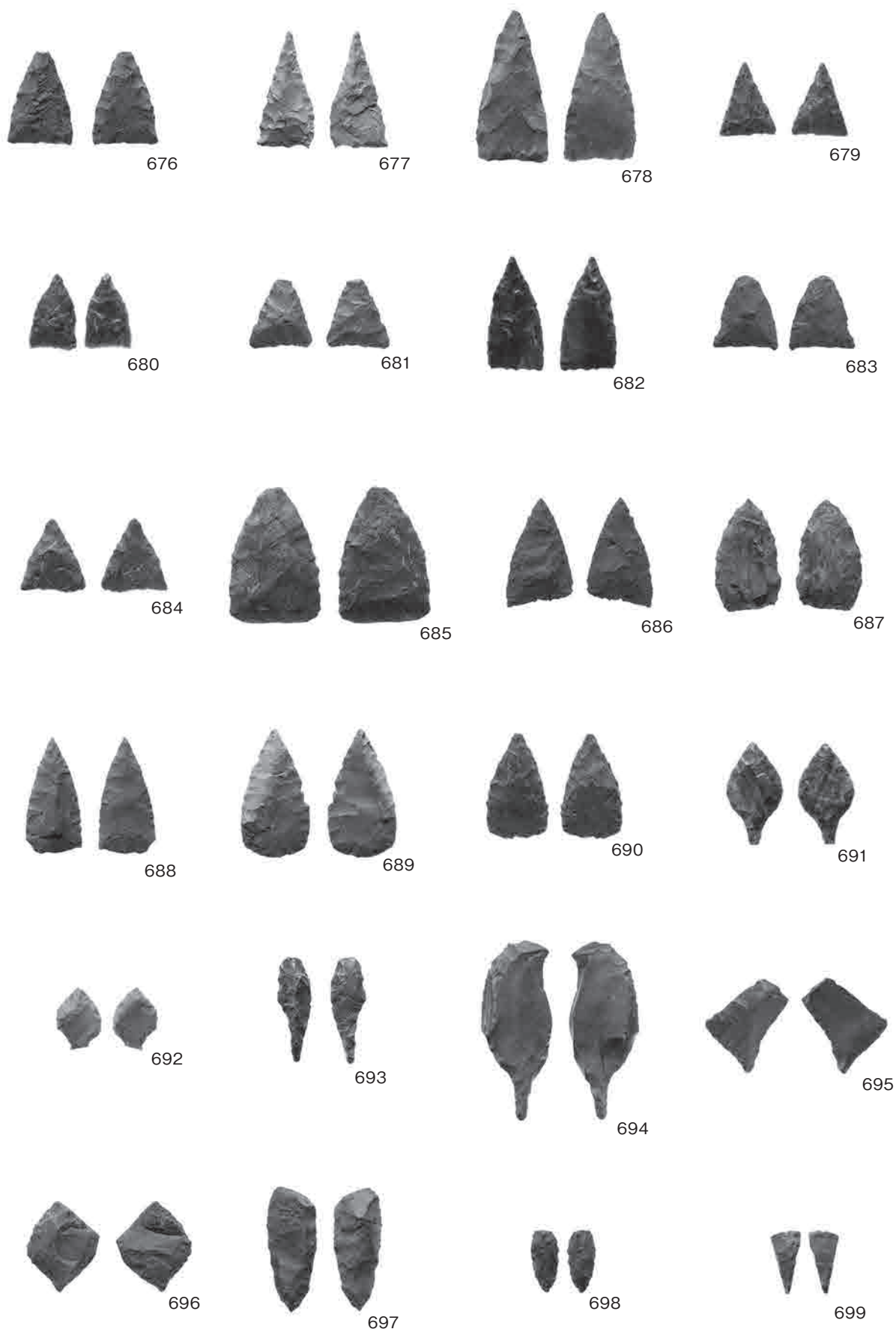
写真図版161 遺構外出土遺物15 (縄文土器15)



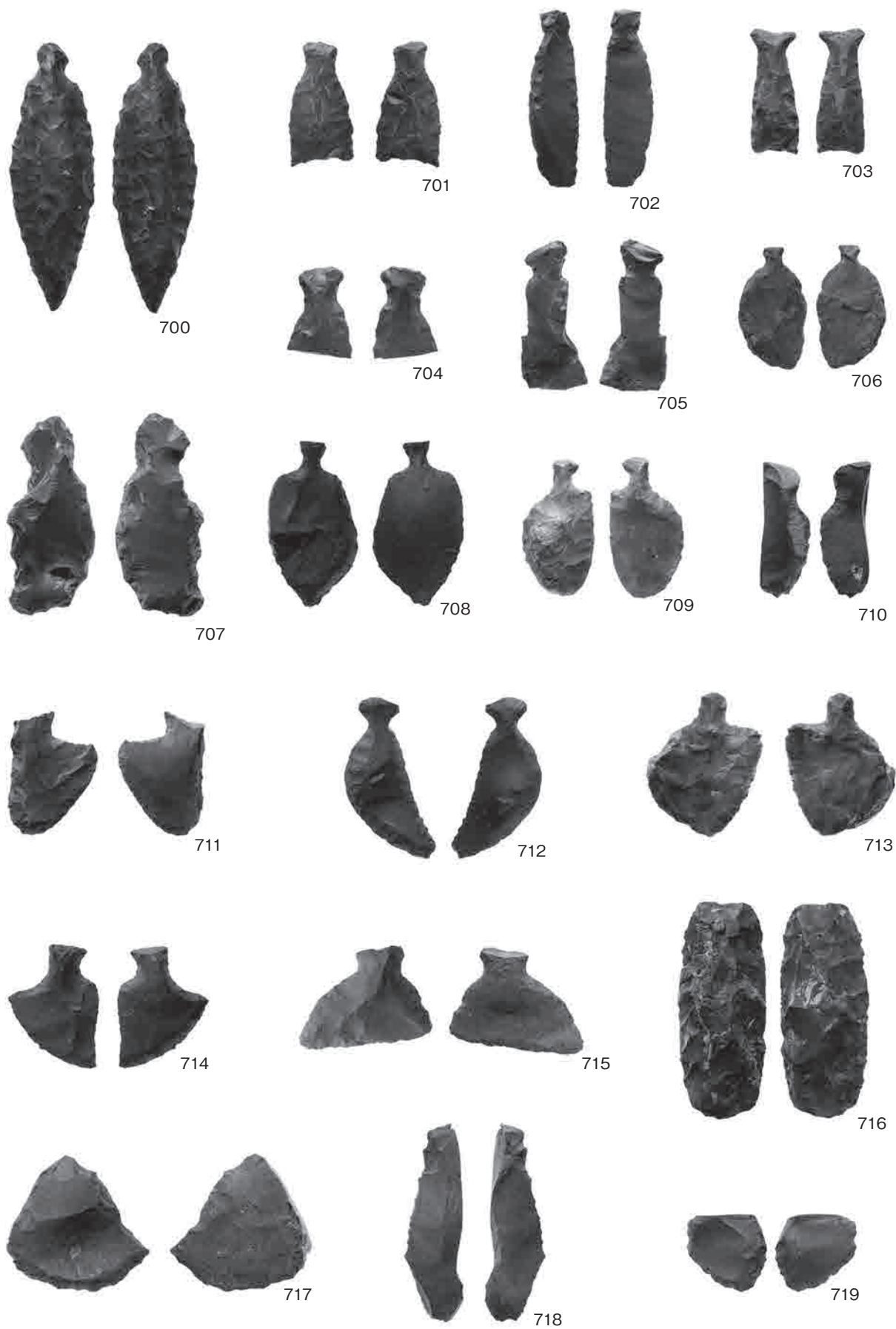
写真図版162 遺構外出土遺物16 (縄文土器16)



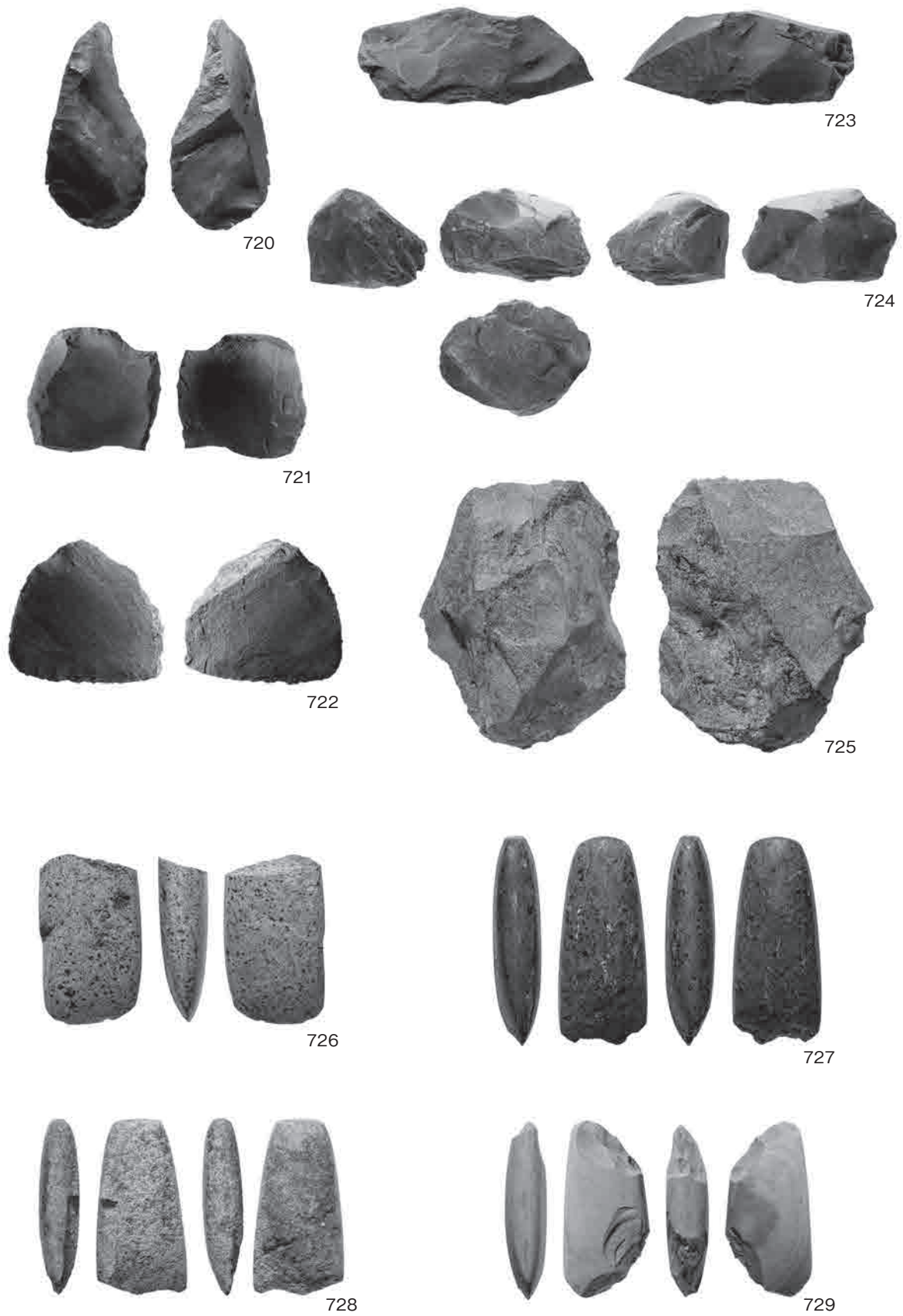
写真図版163 遺構外出土遺物17 (石器1)



写真図版164 遺構外出土遺物18 (石器2)



写真図版165 遺構外出土遺物19 (石器3)



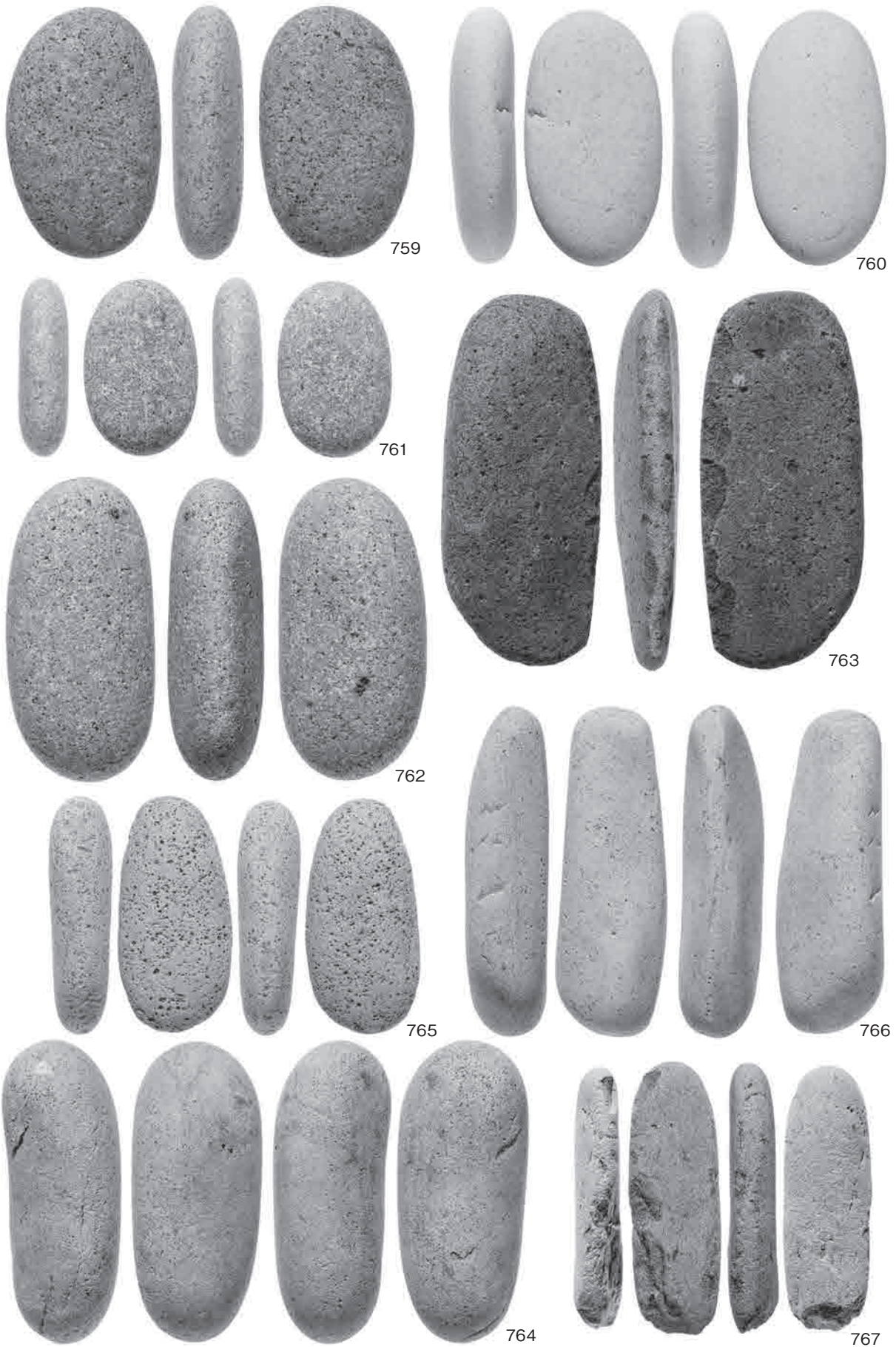
写真図版166 遺構外出土遺物20 (石器4)



写真図版167 遺構外出土遺物21 (石器5)



写真図版168 遺構外出土遺物22 (石器6)



写真図版169 遺構外出土遺物23 (石器7)



768



771



769



770



772



773



774



775



776

写真図版170 遺構外出土遺物24 (石器8)



777



778



779



780



781



782



783

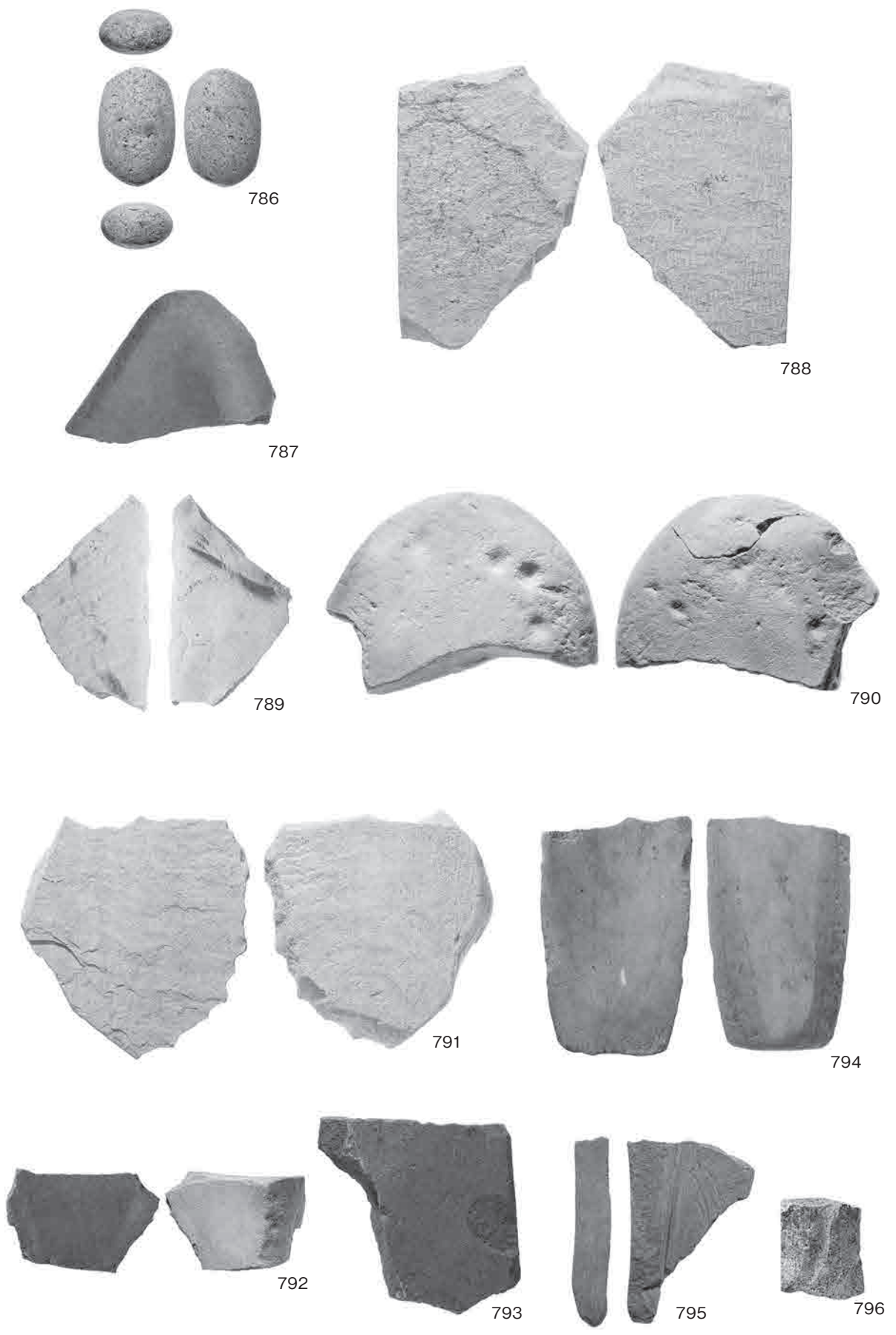


784



785

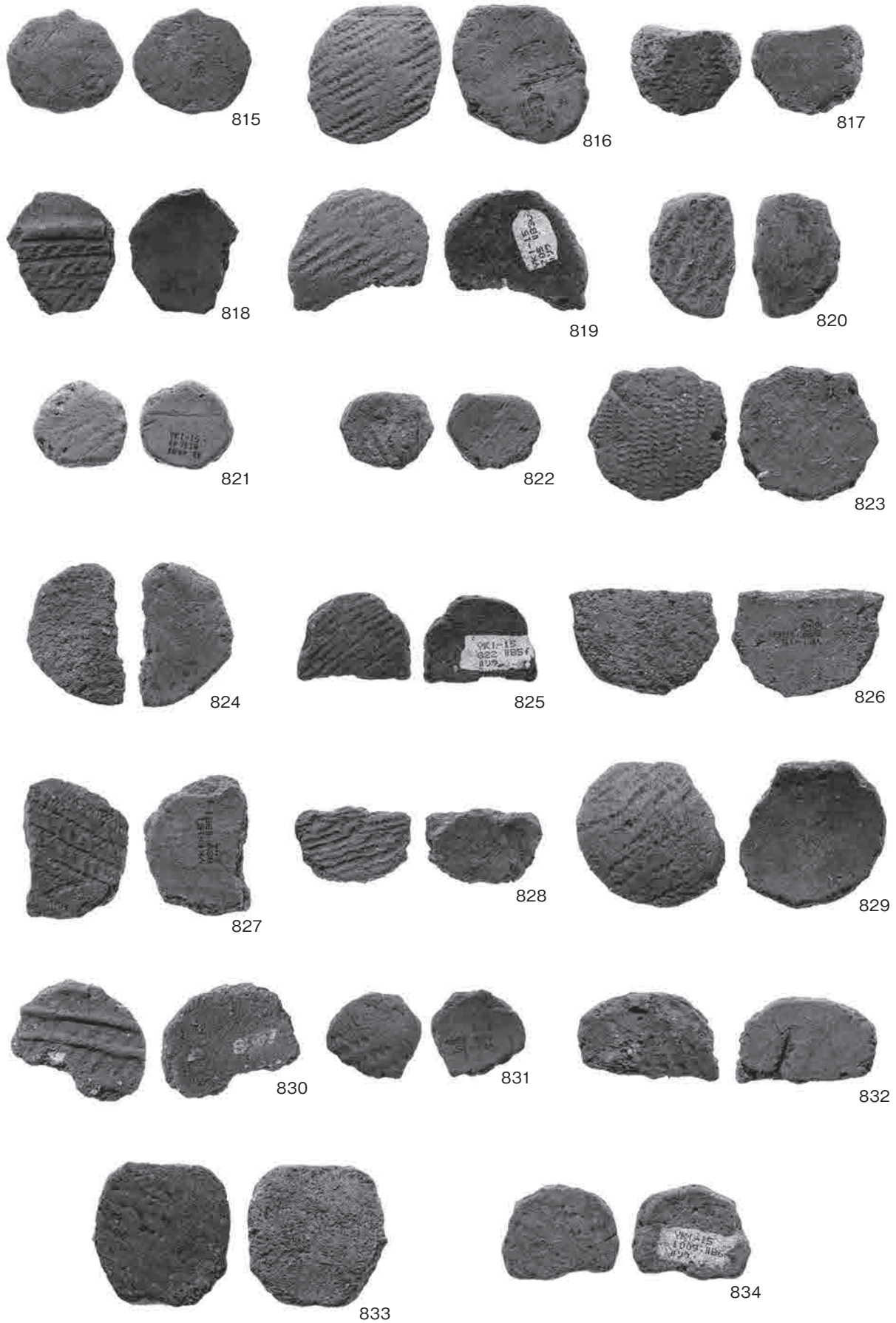
写真図版171 遺構外出土遺物25 (石器9)



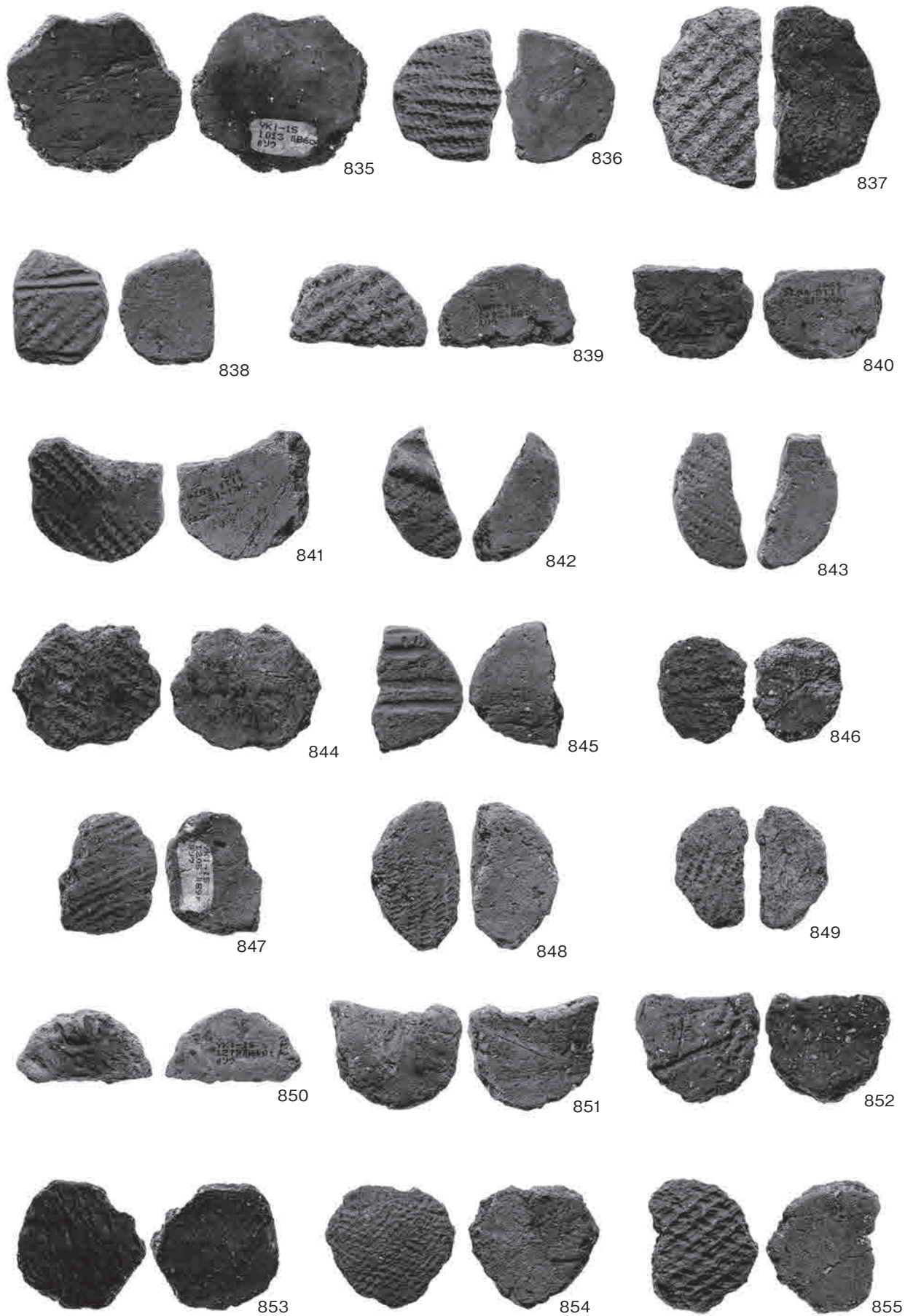
写真図版172 遺構外出土遺物26 (石器10)



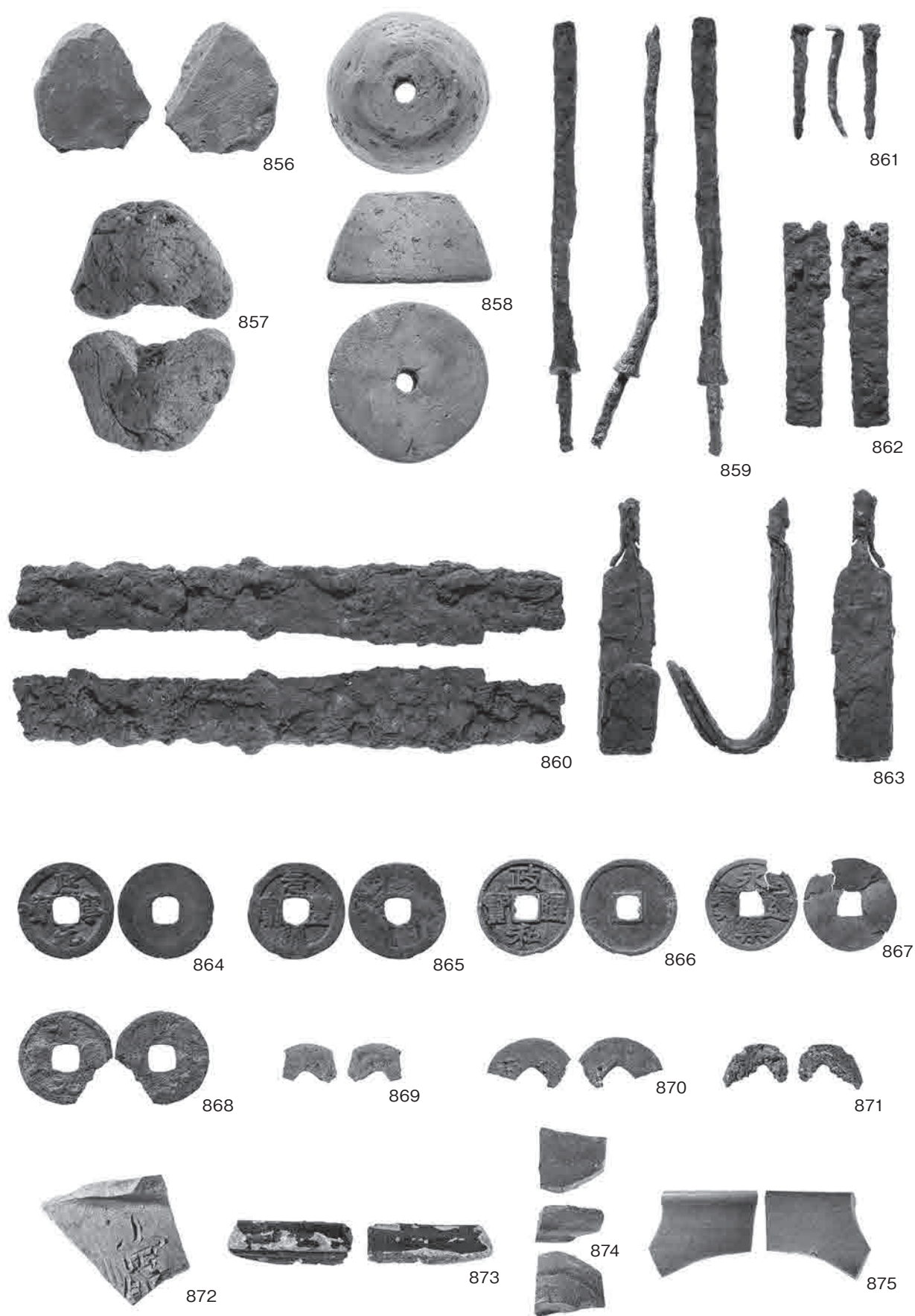
写真図版173 遺構外出土遺物27 (石器11、石製品)



写真図版174 遺構外出土遺物28 (土製品1)



写真図版175 遺構外出土遺物29 (土製品2)



写真図版176 遺構外出土遺物30 (土製品3、鉄製品、銭貨、須恵器、陶磁器)

報告書抄録

ふりがな	やまぐちこまごめいせいせきはくつちょうさほうこくしょ							
書名	山口駒込Ⅰ遺跡遺跡発掘調査報告書							
副書名	三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第696集							
編著者名	溜 浩二郎・立花雄太郎							
編集機関	(公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地 TEL 019-638-9001							
発行年月日	西暦2019年3月15日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	〇〇	〇〇			
やまぐちこまごめいせいせき 山口駒込Ⅰ遺跡	いわてけんみやこし 岩手県宮古市 やまぐちちようめ 山口2丁目 217ほか	03202	LG23-2244	39度 39分 4秒	141度 55分 53秒	2015.07.01 ～ 2015.12.11 2016.04.07 ～ 2016.05.13 2016.12.06 ～ 2016.12.16	4,009㎡	三陸沿岸道路建設事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
山口駒込Ⅰ遺跡	集落跡	縄文	竪穴建物跡 29棟 掘立柱建物跡 1棟 炬跡 10基 焼土遺構 12基 焼成遺構 1基 土坑 64基 陥し穴状遺構 9基 土器埋設遺構 2基 柱穴状土坑 165個	土器、石器、土製品、石製品		縄文時代～中世の集落跡で縄文時代は前期後葉と中期中葉、平安時代は9世紀後半～10世紀前半を主とする。中世の墓壙はウシ1個体を埋葬したもので放射性炭素年代測定から14世紀と判明した。		
		平安	竪穴建物跡 7棟 溝跡 1条	土師器、須恵器、土製紡錘車、鉄製品、銭貨				
		中世	竪穴建物跡 4棟 墓壙 1基 柱穴状土坑 3個	獣骨、青磁				
	その他	近世	土坑 2基	陶磁器				
		時期不明	柱穴状土坑 6個	鉄製品				
要約	山口駒込Ⅰ遺跡は宮古市中心部を流れる閉伊川及びその支流である山口川流域の丘陵地上に立地する。出土遺物の年代は縄文時代～近世まで幅広く見つかっている。このうち主体となるのは縄文時代前期後葉と中期中葉で、竪穴建物をはじめとする遺構が検出された。また、平安時代～中世の竪穴建物も見つかっていることから、この場所が長期にわたり断続的に生活に利用されていたことが明らかになった。							

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財発掘調査報告書第696集

山口駒込 I 遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設関連遺跡発掘調査

印 刷 平成31年 3 月 8 日

発 行 平成31年 3 月15日

編 集 (公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地
電 話 (019) 638-9001

発 行 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所
〒027-0029 岩手県宮古市藤の川4番1号
電 話 (0193) 62-1711

(公財)岩手県文化振興事業団
〒020-0023 岩手県盛岡市内丸13番1号
電 話 (019) 654-2235

印 刷 川口印刷工業株式会社
〒020-0841 岩手県盛岡市羽場10-1-2
電 話 (019) 632-2211